

平成25年度
松本大学大学院、松本大学、松本大学松商短期大学部
自己点検・評価報告書

－2013(H25).4.1～2014(H26).3.31 を振り返って－

目 次

| | |
|---|----|
| はじめに | 4 |
| 序 中期計画・中期目標の概観 | 5 |
| 第1部 平成25年度事業計画（大学委員会・理事会決定）に基づく総括的点検・評価 | 7 |
| I. 全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価 | 7 |
| II. 全学的点検・評価 | 10 |
| 1. 大学院 健康科学研究科 | 10 |
| 2. 総合経営学部 | 12 |
| 3. 人間健康学部 | 13 |
| 4. 松商短期大学部 | 20 |
| 第2部 委員会別点検・評価 | 26 |
| I. 教務委員会 | 26 |
| 1. 全学教務委員会 | 26 |
| 2. 総合経営学部 | 29 |
| 3. 人間健康学部 | 30 |
| 4. 松商短期大学部 | 33 |
| II. 学生委員会 | 36 |
| 1. 全学学生委員会 | 36 |
| 2. 総合経営学部 | 39 |
| 3. 人間健康学部 | 40 |
| 4. 松商短期大学部 | 41 |
| III. 就職委員会 | 43 |
| 1. 全学就職委員会 | 43 |

| | |
|---------------------------|-----|
| 2. 健康科学研究科 | 45 |
| 3. 総合経営学部 | 46 |
| 4. 人間健康学部 | 48 |
| 5. 松商短期大学部 | 50 |
| IV. 入試委員会 | 53 |
| 1. 全学入試委員会 | 53 |
| 2. 総合経営学部 | 58 |
| 3. 人間健康学部 | 61 |
| 4. 松商短期大学部 | 66 |
| V. 広報委員会 | 71 |
| 1. 全学広報委員会 | 71 |
| 第3部 教育・研究推進と点検評価 | 74 |
| I. 教育支援会議 | 74 |
| 1. 高大連携推進委員会 | 74 |
| 2. 教育企画推進委員会 | 81 |
| 3. 地域連携推進委員会 | 82 |
| II. 研究支援会議 | 83 |
| 1. 研究推進委員会 | 84 |
| 2. 研究誌編集委員会 | 87 |
| 3. 松本大学出版会 | 89 |
| 4. 地域総合研究センター | 91 |
| 5. 研究倫理委員会 | 93 |
| 6. 動物実験委員会・遺伝子組み換え実験安全委員会 | 96 |
| III. 自己点検・評価会議 | 96 |
| 1. 全学FD・SD委員会 | 98 |
| 2. 規程整備委員会 | 101 |
| 3. 認証評価対策委員会 | 102 |
| 4. IR推進委員会 | 103 |
| 第4部 エクステンション機構 | 105 |
| I. エクステンション機構（教育部門） | 105 |
| 1. 教職センター | 105 |
| 2. 資格取得支援センター | 110 |

| | |
|----------------------|-----|
| 3. 共通教養センター | 111 |
| (1) キャリア教育センター | 111 |
| (2) 基礎教育センター | 112 |
| 4. 情報センター | 115 |
| 5. 国際交流センター | 116 |
| 6. 地域健康支援ステーション | 119 |
| 7. 地域づくり考房『ゆめ』 | 123 |
| 8. 図書館 | 127 |
| | |
| II. エクステンション機構（管理部門） | 129 |
| 1. 健康安全センター | 130 |
| 2. 施設管理センター | 133 |
| 3. 人権会議 | 134 |
| (1) ハラスメント防止委員会 | 134 |
| (2) 人権教育委員会 | 136 |
| (3) 個人情報保護委員会 | 136 |
| 4. 危機管理会議 | 136 |
| (1) 防災対策委員会 | 137 |
| (2) 環境保全委員会 | 138 |
| | |
| 第5部 管理部門 | 141 |
| I. 総務課 | 142 |
| 1. 総務課 | 143 |
| 2. 管理課 | 147 |
| | |
| II. 学生センター | 150 |
| 1. 教務課 | 152 |
| 2. 学生課 | 156 |
| 3. 就職課 | 160 |
| | |
| III. 入試・広報室 | 169 |
| | |
| 第6部 資料 | 176 |
| 平成25年度委員会構成 | 176 |
| アンケート集計結果 | 178 |

はじめに

[内部課題を早急に克服し、外部環境への機敏な対応が求められる]

2013年度の活動について点検・評価した報告書の発行は、第三者評価を近々受審することを念頭に置いて、できれば5月末を目標にと取り組んできた。この原稿を執筆しているのも、昨年より半年も早い桜が散った頃である。

県立大学設立、長野大学の公立化の両計画など、長野県の国公私大等を包含した高等教育政策の欠如が、県内に大きな混乱をもたらしており、前年度は学園あげてそれへの対応を強いられた。さらに専門学校大原の松本進出、北陸新幹線の開通に伴う高校生の北陸地域への吸い上げ効果も、本学への影響を注視しなければならない動向である。

このような大学を取り巻く厳しい外的状況への機敏な対応に加え、これまで積み残しになっていた、本学独自の課題解決も同時に進めなければならない状況もある。特に規程整備、教育・学生生活支援システムの整備、大学運営組織の整備等、急を要する内的課題があり、これらはどこかで決断して前進させ、外的状況に対応することが求められる。

[報告書作成までのプロセス]

今年度の自己点検・評価報告書について、その発刊までの道程を振り返っておく。まず、各教職員に年間活動報告(アニュアル・レポート)を作成していただいている。今年度は退職される先生方も多く、松本を離れる前には提出するように伝えていたが、引っ越しの準備などでなかなか思うようには捗らなかった。委員会の責任者の方々はずすがに、3月中に完成させて下さった。第一部に関しては、3月と5月の理事会で方針と報告ということで承認を得なければならないという制約があり、管理職が執筆するため毎年完成は早い。

今年度は第三者評価を意識しているため、また学内改革の必要性も見えているため、出来る部分はなるべく早く片付けておこうという意識が、各委員長においても働いた可能性は有る。いずれにせよ、例年に比べて幾分速いペースで進展できていることは、教職員がやる気になれば出来るということを示している。

[第三者評価に向けて]

短期大学部においてはこれとは別に、第三者評価のフォーマットに従った報告書を作成する予定でいる。来年今頃の実施となる本番では、5月にはこの「自己点検評価書」を提出しなければいけない。そのため心に余裕のある内に、一度はひな形を作成しておこうという意図がある。学部の方も短大部に倣って、次年度は同じような方策を採るべきであろう。

2014. 4. 30

自己点検・評価会議 議長 住吉廣行

序 中期計画・中期目標の概観

1. 松本大学をめぐる状況と中期目標

(1) ACDポリシーと学生募集・就職実績

松本大学の知名度が上がってきているのに伴い、受験者層にも変化の兆しが見えてきたというのが昨年度の傾向であった。それを牽引してきたのはIRに裏付けられて対応した健康栄養学科であったと思われるが、今年度それをどこまで他学科に波及させることが出来るかが問われる。

1) 総合経営学部

昨年度は総合経営学部でのカリキュラムの小幅な改変が行われた結果、総合経営学科についてはある程度のACDポリシーが見えてきているように思える。しかし、受験者層の変化に対応すべく、もう一段の工夫が求められる。

観光ホスピタリティ学科については、カリキュラム・ポリシーについて再度の練り直しと学科全体での意思統一が必要である。こちらも受験者層の変化に対応した、的確な対応が求められ、今年度が正念場となって来るだろう。

2) 人間健康学部

なんと言っても県短四大化問題がこの学部の命運を分けるので、それへの的確な対応が先ず第一である。

健康栄養学科は当初希望し、目論んでもいた層の受験者を集めるのに成功しつつある。従って、対外的には管理栄養士国家試験の合格率を上げることが課題となる。もちろん就職先の確保は変わらず大きな課題である。

スポーツ健康学科はJTRCの事務局の本学への一部移転に伴い、健康づくりのための運動指導に対する地域社会への責任はますます増大する。ホテル、病院、福祉施設などで新しい職種を開拓しており、将来性があり、それなりの学力を伴わないと担当できない分野であることをを高校の教員にも訴えていくことが課題であろう。総合型地域スポーツクラブとの連携を実質化することも課題になる。

受験者層にも変化の兆しをもたらしたのは、健康栄養学科であったと一定評価できるのであるが、2014(平成26)年度入試結果を見ると、状況は楽観できないことが明らかになった。原因は、健康栄養学科のように4000人規模での進学希望者の減少という全国的状況を反映したものに加え、18歳人口の減少及び都市圏の大規模私学による受験生獲得競争の、より強烈的な影響などを挙げることができる。したがって、今後は、入試・広報の改革・改善は当然のことながら、例えば学部・学科規模の見直しやその新設など抜本的対策を、全学上げて検討し講じていく必要がある。

3) 松商短期大学部

今年も大原対策をどのように講じるかが大きな課題である。大学の充実した施設(図書館、体育館、運動場、『ゆめ』など)や多彩な学生行事(大学祭、体育大会、県・全国大会、学友会活動、クラブ活動)なども、専門学校にはない魅力の一つである。また学習面では、「専門性」と「教養」「社会人力」を兼ね備え、将来成長できる人財の輩出を目論んでいるなど、差別化できる内容をいかにアピール出来るかが課題となる。また、フィールド・ユニット制度の再度の的確な宣伝も、専門学校対策にはなる可能性がある。

豊富な就職実績、編入実績なども、PRのポイントとなる。

(2) 教養教育への取組

教養教育については、「共通教養センター」組織をどうするかが引き続き課題となる。

2つの方向が考えられる。①一つは昔の「教養部」のような独立した“学部”のイメージで構成する方向である。②もう一つは、学部にも所属しているが専ら教養教育に携わり、専門ゼミなども担当しない。

このとき所属学部から「共通教養センター」に派遣されている教員群で「共通教養センター」は運営されることになる。

本学の場合②のスタイルが妥当と思われるが、①②いずれの場合でも「共通教養センター」が出来た段階では、センター長の権限はかなり大きなものとしておく必要があるだろう。正規の学部・学科教育の一環をなすものであり、その外にある組織ではないので、上部機関は現在のエクステンション機構ではなく、全学教務委員会へと移すのが良いと思われる。

(3) 公務員試験・教員採用試験対策

教職についてはセンター担当教員が一人増えたこともあり、何とか現役での採用試験合格を勝ち取ることが課題となる。

2. 全学共通事項の事業計画

(1) ガバナンスの強化

1) 組織改革

これからの厳しい大学経営を考えたとき、①出来るだけ多くの教職員に大学運営の当事者意識を持ってもらいたいという思い、②民主的な運営とともに素早い判断で機動的な運営が出来るようにという思い、の二つが相俟って組織改革を実行しようとした。

2) 決議機関と執行機関

昨年度「全学協議会」「全学運営会議」「理事会・大学連絡協議会」を衣替えし、大学運営の骨格と理事会との関係強化策を打ち出した。また法人事務局長との連携強化、各委員長や課長と学長との懇談会を設けようと考えた。「全学運営会議」は日常業務の執行機関と位置付け、毎週2時間程度の会議を開き、集団的な運営システムが確立しつつある。「全学協議会」も、その位置づけが徐々に理解され、軌道に乗ってきている。日常的には既に理事会で決定されている事業計画に沿って大学運営がなされているため、「理事会・大学連絡協議会」は判断が必要とされる新局面で開催されるべきものであるが、今年度は周年事業を軸に開催された。他には、年度内での活動を振り返り、次年度の方針を決めるときに開かれるべきである。

課長との懇談会は一度開催されたが、委員長とは一対一で話し合われることがなかった。これは、日常的に課題がある毎に相談していたからという面と、県短大4年制化への対応で時間が割かれてしまったという面とがあった。

3) 全学委員会体制への移行

全学的意思決定において、各委員会の自主的な判断を尊重しようという考えから、全学委員会において決定するように委ねた。どうしても判断に困る場合にのみ、全学協議会に持ち上げて議論を重ねる方式とした。今年度は、学生処分に関して試行錯誤を重ねたが、こうした経験を踏まえこのシステムの働き具合が体感できるようになってきたと言える。

(2) 監査

業務改善と会計監査を充実させる。

第1部 平成25年度事業計画（大学委員会・理事会決定）に基づく総括的点検・評価

I. 全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価

1. 「平成25年度事業計画」における全学的課題 < P >

(1) 長野県の高等教育政策に対する無策からくる矛盾の克服

長野県立短期大学を廃止して、新しい四年制大学を創るという案が提出されている。これに対して、松本大学同窓会と連携して本学や県内他私立大学と競合するような学部・学科構成を見直すように求める署名活動を展開する。県内私学との連携を深めて、県に高等教育を担当する部署を県庁内に設置することや構成案の変更を働きかける。教育行政を担当する議員に理解を求める活動を展開する。全国の私学団体との連携を模索する。マスコミ対応に注力する。その他、外部団体と協力して県に対して見直しを求めていく。

(2) ガバナンスの強化と円滑な運営体制

前年度組織変更を行ったので、今年度はそれがどれくらい機能するかを確かめる年になる。運営する中で必要性が明らかになれば、更なる変更を考える。

(3) 全学委員会体制

昨年度委員会構成を機能毎に分類したが、担当部署がない場合には新たに委員会を設置もした。これには、各委員会が担当すべき事項がどの程度の広がりを持っているかを、明示するという意味合いがあった。もう一つの重要な意味は、各学部からの代表者の意見を踏まえて、委員会独自の裁量で決定できるシステムに変えたことである。大学全体としては決定する部署を、少数の管理者に集中させるのではなく分散し、多数の教職員が大学運営に責任を持って対応するというシステムにしようとする意図があった。どうしても決めることが出来ない場合については、全学協議会などに課題を持ち上げることとした。こうしたシステムがどのくらい機能するか見極めて、必要ならば修正を加える。

(4) 競争的資金であるCOCに申請し、採択を目指す。

本学がこれまでGPに採択される中で培ってきた地域貢献活動の集大成として、何としても申請し、採択されるべく取り組む。そのための種まきの段階（論文執筆や講演活動等、大学の精力的取組を広報する）を含め、準備活動を周到に準備する。

(5) 第三者評価を意識して、そのための準備を兼ねて活動を展開する。

短大は2年後、四大・大学院は3年後の第三者評価のための報告書作成を今から意識して、作成に必要な情報を収集するとともに、準備に取りかかる。

2. 「平成25年度事業計画」における全学的課題の実施状況 < D >

(1) 長野県の高等教育政策に対する無策からくる矛盾の克服について

署名活動（11万を超え、県の推進一辺倒の姿勢に対し、それを止める上で大きな力を持った）に止まらず、国会、県議会などの政治家に対するロビー活動や新聞などマスコミに対する働きかけを精力的に行った。信濃毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、私学教育新聞、その他教育を扱う雑誌にも論文を投稿し、全国に実情を知らせると共に県の不当性を訴えた。この結果、文部科学省などでも、この問題は周知の事実となっている。

県の無策は、先行きに困った長野大学が上田市に働きかけ公立大学化を目指す動きを誘発している。こうした動向は、県の無策振りを白日の下にさらし、マスコミのアンケート調査報道（4月上旬）でも見直しを求める声が多数を占めるに至っている。

県は推進準備のための予算は通しているが、大学問題だけで反対した議員もいたほどだ。

また、県内部からも対文部科学省を意識して、例えば総合マネジメント学部の「総合はずまい」だとか

の指摘も出ている。

これからどうするのかという質問も多いが、あくまで見直しを求める姿勢は変えない。知事から学長に会いたいという打診を何度も受けているが、見直しを約束するような3つばかりの前提条件のどれかを提案してこない限り拒否するという姿勢を貫いている。学長と会って理解を求めているというアリバイづくりに利用されるのを避けるためである。

(2) ガバナンスの強化と円滑な運営体制

学内運営については、日常的な運営に関しては全学運営委員会（内閣的）、最高決定機関としての全学協議会（国会的）という、集団的な指導部体制を採用した。集団的指導に対しては、学長個人に権限を集中させるという方向があるが、本学のような小規模大学においては、全学的合意を得る可能性が残っているため、この方向を追求すべきであろう。どうしても意見が一致しない場合に限り、学長の決裁で実行する。一年間の運営を通して、こうした方向で進むことでおおよそ良いのではないかという感触を得られた。

(3) 全学委員会体制

委員会の任務の広がりが増えたという面では、一歩前進したと言える。もう一つの「委員会に決定権を委ねる」という面では、一長一短があった。比較的単純な決定に関しては、よく実行され、少しはイズムが徹底し始めた感があった。しかし、少し面倒なことがあると未だどうしても上部組織に上げて、委員会としては責任を回避して無難に済ませようとする傾向があった。受け取る側の教職員にも未だ慣れない部分があり、そう簡単には進まないことも分かった。特に、エクステンション機構（教育部門）における共通教養センターでは、未だセンター任せにするには時期尚早であったかも知れない。簡単には決まらず、教授会との間を何度も往復することになった。

しかしどの部署の委員長も、責任を持って大学運営を考えることは、良い経験になったと思われる。

(4) 競争的資金であるCOCに申請し、採択を目指す。

文部科学省の説明文書（パワーポイント）にも、COCの例として本学の取組が2カ所で取り上げられており、巷間では本学が採択されることはもう決まっているという噂も流れる程だった。申請書を執筆した木村教授も逆にプレッシャーになったと述懐しておられた。何はともあれ無事採択され、当初目的は達成でき多額の補助金を獲得できた。後は5年間申請通りに着実に実行していくことが求められるが、地域戦略委員会（COC連絡会議）がその任務に当たる。

(5) 第三者評価を意識して、そのための準備を兼ねて活動を展開する。

評価委員になっている教員の“実践”を踏まえた立場から、現在本学に欠けている視点や気付いていないポイントについての指摘も有効に働いていると思われる。この自己点検・評価報告書に加えて、短大部では本番と同じ形式のもう一つの評価報告書を作成し、来年度のひな型を今から作っておくと意気込んでいる。

3. 「平成25年度事業計画」における全学的課題遂行の点検・評価 < C・A >

(1) 長野県の高等教育政策に対する無策からくる矛盾の克服

長野大学の動きにも着目し、地元紙でも「今が考え直すに相応しい時期だ」と社説で表明している。県に高等教育を司る部署がないことが、こうした混乱を県内にもたらすだけに止まらない。北陸新幹線開業に向けた石川・富山方面からの官・学一体となった長野県への攻勢に対応できないどころか、県では内部から総力化を崩壊させる暴挙に出ている。県内私学が一致して要求していた部署の設置が遅れ、県内を纏めて北陸からの攻勢に機敏な対応が遅れているのは、県の失政以外の何ものでもない。こうした認識が有識者の間でも広がってきている。文部科学省などへの働きかけも未だ有効だと思われる。長野大学の公立化も、結局は国の補助金を当てにして、私立大学間の競争を避け、自らの努力ではなくお

上の庇護にすぎるといふ姿勢を顕わにしたものである。こうした姿勢が、いつまでも国に受け入れられるほど国家予算に余裕があるとも思えず、行く末がどうなるのか見据える必要が有る。

更に付け加えるならば、諏訪東京理科大学が定員を割った状態で、しかも県立大学等の影響を受ける中で、いつまで経営を続けるのかも分からない状況にあるのではないか。もしもこれが戦線離脱にでもなれば、県内の高等教育全体に対する収容力や魅力が減少し、北陸や関東圏に、多様な層の高校生をこれまで以上に持ち去られる可能性も出てくる。

(2) ガバナンスの強化と円滑な運営体制

この間大学を巡る厳しい状況が現出する中で、素早い対応策を練り上げなければならないという状況になっている。こうした場合には、学長の強いリーダーシップのもとで、全学が率直な意見を出し合っ、それらを包括できる案へとまとめ上げる必要性が出ている。

大原の進出、北陸新幹線の開通、長野市の医療系大学の設立などが次年度には目白押しで、悠長に構えている時間的余裕が無い。このことが特に学長の決断を求める動きを加速する可能性が有る。腹案を持ちつつも、多くの教職員の意見を取り入れて、叡智を集めた将来計画を練り上げる必要が有る。

これまで試してきたガバナンス体制の上に立って、もっと素早い決定を断行できる新しい方向性を模索していくべきであろう。

組織体制については、委員会の括り方を教育・研究・地域貢献・大学運営の四つに整理し直した。大きな委員会の下で活動していたサブの委員会を部会として位置付け、出来るだけ大きな委員会と同時開催出来るようにすべきだという議論がなされている。余りに多い委員会では、委員の招集時間帯を設定できないなど委員会の開催自体が危ぶまれる事態を招きかねないからである。似たようなテーマは、委員会の下にある部会として少数の委員が担うという方向である。これで委員会の整理がかなり出来たと思われる。

(3) 全学委員会体制

上に述べたように、大きな委員会の守備範囲をかなり広くしようとしているので、委員会の独自裁量で決めるという側面が薄くなってしまふ可能性もある。あまりに責任が重いという意味においてである。部会で扱う内容がほぼルーチン化されてしまえば、委員会の負担もそれほど大きくはならない。その意味では、現在未だ片付いていない課題に関して大凡の方向を確定できることが、今後の全学委員会体制を占うポイントになると思われる。

また、いくつかの委員会（例えば規程整備委員会など）は、全学運営会議の諮問委員会として位置付けることも一つの方向性になる。

(4) 競争的資金であるCOCに申請し、採択を目指す。

採択されたので、これからは全国から注目を集め、そのノウハウを求めて見学・調査に訪問される大学も増えると予想される。またその前提として、本学が申請した内容を着実に実施し、立派な成果を挙げることも求められる。地域連携に関する部署を束ねて、本学ならではの力強い活動を展開したい。そのためにも事務局体制の強化も課題となる。

(5) 第三者評価を意識して、そのための準備を兼ねて活動を展開する。

アニュアル・レポートの早期提出・出版、自己点検・評価報告書の早期出版、学生版アニュアル・レポートの早期発行などが実現できることが第三者評価準備の第一歩となる。さらに、本学では未解決の課題として残っているいくつかの重要な点を、新しい体制の下で、早期に決着を見ることが必要になっている。

特に短大は、本番のひな形を作る活動にも取り組みながら、大原対策も意識した二つの課題に同時に取り組んでいくことが必要である。この意味で、来年の四月に短大部の力量が試されるということになる。

執筆担当者 自己点検・評価会議 議長 住吉廣行

II. 全学的点検・評価

1. 大学院 健康科学研究科 (修士)

(1) 事業計画書 < P・D >

2011(平成23)年4月に健康科学研究科修士課程(定員6名、収容定員12名)は栄養と運動・スポーツおよびそれらを取り巻く環境への身体の適応と、食生活や栄養・運動がもたらす影響を融合的、学術的に解明し、その成果を社会的に還元し、それらを担う専門的職業人、教育者、研究者を育成することを目的として開設され、本年3月に初めて2名の修士課程修了生(学位名:修士(健康科学))を輩出することになった。栄養とスポーツ・運動に対する地域の関心と要求に応じて、わが国でも珍しい「栄養」と「運動」を有機的に統合させた健康科学を系統的、体系的に研究し、その成果を地域住民に還元するだけではなく、地域で活動している管理栄養士や健康運動指導士などに必要とされるリカレント教育や学術的サポートの教育研究拠点としての意義も持っている。

25年度の入学予定者6名を迎え2013(平成25)年度は院生数も13名となる。今年度(2013年度)は、この2年間にわたる大学院の現況から問題となる課題をとりあげ、それを踏まえたうえで院生在学数が増員された現実から今後の方向性を捉える事業計画に取り組むべき年度となる。学生募集からみると平成25年度は教職員の努力などにより院生数は社会人入学生の増加により12名を超えることになるが、大学院教員の専門性や配属によっては、入学者が減少し今後、定員の確保が困難となることも予想される。私立大学等経常費補助金等の配当を受けるべき院生定員の維持を図る必要がある。

- 1) 健康科学研究科とその基盤となっている人間健康学部との連携や学部教育との整合性等の課題を検討する。学部教育との整合性を図るべくカリキュラムの整備を行ったが、一層の整合性を図るべくシラバスの整備と教員の効率的な適正配置を考慮する必要がある。
- 2) 院生入学者定員を満たすべく、学部学生への啓発、ホームページ等による研究科の魅力の提示等により、学内外からの入学者の開拓を推進する。学部学生だけでなく、社会人の志願者にとっても魅力ある研究科を目指して、広報や入試方法の検討を含めて、教育研究体制を充実していくことに努める。2011(平成23)年度はその成果は充分とはいえない。

また院生のみならず研究生などの募集についても未だ大学院の存在が十分に知られていないところもあり、今年度(2012年度)も昨年と同様に広報活動はもちろんのこと、教員スタッフをはじめとして大学関係者は学術集会、講演会、研修会など衆目の集まる処では健康科学研究科の名前とその存在を高める努力が必要である。

また何よりも、松本大学生とは一味違う「地域貢献というミッションを具現化する、研究成果に裏付けられた院生ならではの活動」が求められている。こうした学生を指導できる教育体制の充実も必要であろう。

- 3) 本研究科は開設して3年目になるが大学院の人的環境、たとえば教育スタッフや専任事務職員の充足面、研究室、院生学生室、情報処理室、実験研究機器などの施設整備などが未だ充分とはいえない。また来年度からは社会人院生の数がさらに増える予定でもあり夜間開講の増加に備えて今年度以上の大学院特別教育研究費を経常予算として、教育研究水準を維持・向上するための大学院の環境整備や、教育研究施設・設備の充実を更に図る必要がある。
- 4) 特に喫緊の課題は教育スタッフが現在、大学院専任教員は定年を間近にした60歳代の高齢者が多いこと、本来の栄養科学や健康科学の専門とする教員の配置が充分ではないこと、それらが院生の受け皿を狭めている一因でもある。本学にとって成長可能性が高い領域や、実験施設や研究調査、データ解析室などの整備等も踏まえたうえで具体的な採用予定数や時期等について検討を行い、早急に健康科学・栄養学を専門分野とする専任教員の充足・拡充に留意しなければならない。

以上の事業の推進にあたっては、研究科及び健康栄養学科、スポーツ健康学科の協力・共同作業が不可欠であることは多言を要さない。そのためにも、院生や事務職員も含めた教員相互間の連絡・調整をより緊密にすべく、修士論文発表会の開放・拡大化や、情報交換会の開催なども考慮すべきである。

(2) 「平成 25 年度事業計画の実施状況」を受けての点検・評価 < C・A >

健康科学研究科修士課程（定員 6 名、収容定員 12 名）は 2011（平成 23）年 4 月に開設された。本研究科は栄養と運動に対する地域の関心と要求とに応え、これらの 2 つの領域を有機的に統合させた、わが国でも珍しい大学院である。大学院が目指すところは栄養と運動ばかりではなく、健康を取り巻くそのほかのさまざまな要素がもたらす生体への影響を横断統合的に、そして科学的に解明し、「健康科学」というひとつの学問領域を確立することである。そしてそれらの成果を社会へ還元することを目的としている。具体的には研究活動の成果を社会へ発信し、そして院生を教育者、研究者、そして専門的職業人等として育成し、卒業生を通して成果を地域住民に還元する。また、地域で活動している社会人に必要とされるリカレント教育や学術的サポートの教育研究拠点として発展することも目指す。

本年 3 月に 2 回生である 8 名の修士課程修了生を輩出した。

2014（平成 26）年度の入学予定者は 8 名（4 回生）で、在学学生 5 名（3 回生）を加えて院生は計 13 名となる。大学院開設以来の入学者数は 3 名（1 回生）、7 名（2 回生）、5 名、そして 8 名と推移している。文字通り、大学院生あつての研究科の活動であるため、今年度学生募集には引き続き、広報活動等の努力を重ねていきたい。昨年度卒業生 8 名はそれぞれに希望する分野に就職でき、彼らの活躍を通して大学院の存在を広めることを期待して止まない。学生確保は私立大学等経常費補助金の配当を受けるという意味でも重要課題である。

1) カリキュラム等の整備

健康科学研究科の基盤となっている人間健康学部との連携をさらに図り、教育上の整合性等の課題を検討する。また、「健康」を多角的にとらえ、健康科学をひとつの学問領域に確立すべく他学部との連携を模索する。すなわち、カリキュラムの整備と教員の効率的な適正配置とを考慮する。このことは学生の受け皿を広めることにもつながる。

本研究科は学部とは一味違う「地域貢献というミッションを具現化する、研究成果に裏付けられた院生ならではの活動」が社会から求められている。こうした学生を指導できる教育体制の充実が必要である。

定年を迎える専任教員の後任の確保もカリキュラム整備上、課題である。

2) 入学者の確保

入学者定員を満たすべくホームページ等を通じて本大学院の魅力を提示・発信することにより、学内外から入学者の開拓を推進する。学部出身学生だけでなく、社会人の志願者にとっても魅力ある研究科を目指し、広報活動をさらに推し進め、教育研究体制を充実していくことに努める。社会人が日頃より職場で抱えている疑問点を解決・発展させていく特別研究のテーマ設定などに努める。また、2013（平成 25）年度と同様に昼夜開講の整備も含め、社会人が学びやすい環境の整備に努める。

院生のみならず研究生などの募集についても未だ本大学院の存在が周知されていないところがある。このことを意識して教員スタッフは衆目の集まる場所で「健康科学研究科」の存在を高める努力が必要であろう。

3) 施設等の整備

本研究科は開設して 4 年目となるが、大学院の人的環境 — 教育スタッフや専任事務職員の充足 — 、施設環境 — 研究室、院生学生室、情報処理室 — 、そして実験研究機器などの整備は未だ充分とはいえない。そのため教育研究水準を維持・向上を目的に大学院特別教育研究費を経常予算として上記の整備を図る必要がある。

以上の事業の推進にあたっては人間健康学部との協力と共同作業とが不可欠である。さらに「健康科学」を広くとらえ、包括的な学問領域として確立するためにも他学部との連携も欠かせない。昨年度（2013年度）と同様に修士論文発表会の開放、大学院主催の市民講座の開設、そして情報交換会の開催などを予定したい。

執筆担当者 健康科学研究科長 三村芳和

2. 総合経営学部

現在の大学に要請されるいくつかの観点からみて、総合経営学部の現状・改善計画は以下のように総括される。

①現 状：各ポリシーの明示・公表は実現している。

改善計画：特になし

②現 状：アドミッション・ポリシー（AP）の実践および達成度については、さらなる改善を目指すべきである。本学部が入学を期待する資質を持つ学生を十分に選考するだけの受験者数を確保できないことに加え、わが国経済状況の激変と、近年になって目立ってきたいわゆる受験生の地元指向による学生募集の変化に対応する必要がある。

改善計画：現在の社会状況および若者の傾向・指向に適合した教育内容を構築し、現状を踏まえた現実的な本学部の教育方針・内容を的確に発信する。そのための有効な広報手法を駆使する。

③現 状：カリキュラム・ポリシー（CP）についてはいずれの学科においても、次の10年を見据えた姿を射程に入れることが求められており、そのための措置が講じられねばならない。「何を教育するか」という学部・学科の特徴ある授業科目の配置はもとより、「どのように教育するか」の観点から検討する必要がある。

改善計画：基礎学力養成を重視する観点から、既存の授業科目を活用し、基礎学力に関わるクラスを大幅に拡充する。具体的には、授業科目としての「社会教養Ⅰ」「社会教養Ⅱ」のクラス数を増やし、専任教員が担当するかたちで基礎学力の養成と強化に取り組む。

④現 状：ディプロマ・ポリシー（DP）にかかわる成績評価の厳格化はほぼ達成されているが、当該ポリシーにかかわる事項である学生の就職状況をより好転させるための方策を検討する必要がある。

改善計画：厳しさを増す就職状況と学生の指向を念頭に、各種の資格取得対策を本格化させる。現段階では個々の教員の取り組みとして実行されている資格取得に向けた指導を、全面的に学部としての取り組みとし、主として国家資格の取得を目指した正規の授業科目として配置する。概ね5～6種類の国家資格に対応した科目をスタートさせる。

⑤現 状：松本大学発足時からの学部である総合経営学部は、開設から11年を経過した。最初の10年を第一段階と位置づけ、本学部の基礎を固めると同時に学部はもとより大学自体を軌道に乗せる、という学部開設以来の基本目標をほぼ達成したことから、第二段階にあたる次の10年を見据えた学部構築の作業が必要である。

改善計画：総合経営学部の両学科においてこれまで進めてきた作業を平成25年度から具体的な教育内容として実施する。学部学生にとって、卒業後の進路と教育内容の関係が、より明確となるカリキュラムを実施する。

（1）計画 < P >

1) 各ポリシー

事業計画に示された内容のうち、AP・DPの改善が予定されていた。APについては、可能な限り本学部に対応しい学生の入学を実現するため、受験生数を増加させることが重要との認識に立ち、学部

の教育方針・教育内容を的確に発信することが求められていた。また、DPに関わる問題として、成績評価の厳格化とともに、大学を通しての教育を評価する際の基準となり得る就職実績を、質・量両面から充実させることを目指した。CPでは、具体的に授業科目としての「社会教養Ⅰ」「社会教養Ⅱ」について、専任教員が担当するかたちでの取組が予定されていた。

2) 学部立ち上げから充実への移行（総合経営学部第2段階へ）

すでに立ち上げから12年を経過した総合経営学部として、次のステップへの以降を確実に果たすための諸方策が計画されていた。具体的には、卒業後の進路と教育内容が明確にリンクしたカリキュラムの整備と実施が求められていた。

(2) 実施と検証 < D・C >

1) 各ポリシー

学生募集をめぐることは、各教員が個別に学部としての情報を、主として高校生に対し個別に発信できる状況ではなく、最終的には入試・広報セクションに委ねざるを得ない。その意味では、可能な範囲での発信はある程度実現したと見てよいだろう。DPを就職実績と結びつけて展開しようとする計画は、単年度の成果のみで判断することは適切でないとはいえ、まずまずの結果だった。「社会教養Ⅰ」「社会教養Ⅱ」については、実際に専任教員の担当で当該授業は、順調に展開した。

2) 学部立ち上げから充実への移行（総合経営学部第2段階へ）

本学部の3つのポリシーは、入口と出口にあたるアドミッション・ディプロマ両ポリシーとCPが相互規定的な関係にある。すなわち、前者の両ポリシーは、教育の核となるCPを側面から補完する役割を果たすべきであるし、同時にそのような役割をはたしつつある。また、CP自体も、本学部設立の理念や教育方針に則り、常にA・D両ポリシーに相応しい進化を遂げることが求められている。

以上の考え方を踏まえるならば、就職と教育内容の明確化という目標は、「社会教養」をはじめとした資格関連科目が軌道に乗ったという意味で、当初の在り方としては、達成されつつあると見られる。

(3) 来年度に向けて < A >

1) 各ポリシー

AP・DPのいずれについても、もはやカリキュラムとの関連抜きで進展する状況にはない。したがって今後は、カリキュラムの調整・改善を実現する過程で、両ポリシーの完成を目指すべきだろう。CPの側から見れば、AP・DPの両ポリシーを見据え、より成果の出しやすいカリキュラムを構想する必要がある。

2) 学部立ち上げから充実への移行（総合経営学部第2段階へ）

もとより、本学部の第2ステージを構築する作業は単年度で評価されるべきではなく、今後の成果こそが重要な要素となる。平成25年度の内容を踏まえ、さらに成果につなげられるよう個々の授業の中身を充実させることが必要である。

執筆担当者 総合経営学部長 木村晴壽

3. 人間健康学部

(1) 事業計画書 < P >

2007(平成19)年4月に創設された人間健康学部は、2010(平成22)年度に完成年度を迎えた。今(2013)年度は、創設以来6年間の状況を踏まえ、さらに、長野県短期大学の4年制化及び大手専門学校の2015(平成27)年4月松本市開校予定等の動向を睨みつつ、それへの対応策を含んだ新たな方向性とあり方を模索しつつ諸事業に取り組むべき一年となる。とりわけ主要な点は、そうした外的環境への対応を全学的な中期計画の中に位置づけ、その一環として取り組むことである。また、2011年度より施行している新

カリキュラムを遅滞なく実施すると共に、その問題点等を点検し充実を図ることも主要な取組となる。

また、人間健康学部を構成する健康栄養・スポーツ健康両学科の連携によってこそ、「健康」領域各分野における特色ある研究・教育を行うことができるとの観点から、従来にも増して相互理解と協力の実を上げるべく取り組む。この点に関して言えば、一昨年4月に発足した健康科学研究科との連携についても同様である。昨年度、新たに設けられた「教育推進研究事業」の一つとして位置づけ、学部事業として展開した講演会及び報告集の発行など各種取組を、存続が承認された地域健康支援ステーションを中心に継続的かついっそう充実した形で展開する。

以上のような観点から、まず学部全体が、次に両学科がそれぞれ取り組むべき諸課題を以下に挙げる。

1) 学部全体

- ①APに関しては、十分とは言えないまでも学部創設以降受験希望者が増加してきたことから、概ね高校・受験生などに理解されつつあると判断してよいであろう。今年度は、各種資格試験合格者の着実な増加を中心に据えて、近年のいわゆる「資格志向」受験生のニーズを的確に捉え、両学科共に過去三年間の資格試験結果を踏まえつつ、より学修に意欲的な学生の確保に努める。その際、この間取り組んできた入試改革とそれに伴う受験者及び合格者の変化について分析し、その成果を反映すべく取り組む。また、長野県内は当然のことながら、県外からの受験生・学生確保を重視し、入試広報室等関係部署と連携して、そうした傾向の定着化を図るべく取り組む。
- ②CPに関しては、冒頭にも述べたとおり、新カリキュラムへの遅滞のない移行、実施こそが最大の課題である。そのためにも、学部教務委員会を中心に移行状況や問題点などについて、常時、点検していくことが必要である。また、昨年度課題として取り上げたいわゆる「教養教育」について、内容及びカリキュラムの検討、確定と共に、それを統括する組織のあり方についても、総合経営学部と連携しつつ改革に取り組む。
- ③DPの謳う教育目標の達成度に関しては、成績評価の厳格化は概ね達成されており、それは、過去三期の卒業生が、医療施設や給食関連企業、スポーツ関連企業等に就職を決めていることにも反映していると判断される。したがって、今年度もこうした動向を推進すべく積極的に取り組む。そのために、一昨年度以降、学生ニーズとの整合性を図るべく改変されたキャリア教育の実効性をさらに高めるべく、教員とキャリア職員が一致して取り組む。また、県外出身学生の就職指導について、県外からのよりいっそうの学生確保という中期的展望を踏まえ、就職課など関係部署と連絡を密にしつつ取組を進める。
- ④高大連携事業については、従来の岡谷東高校に加え、松商学園高校や飯山高校等とも連携・協力を進めるべく検討を進め、可能な部分から実施に移す。
- ⑤自治体及び企業などとの連携事業については、従来のように学部あるいは学科単位で推進するものを中心としつつも、両学科の特性を共に生かした活動に取り組む。また、実習場所の確保という観点を重視しつつ、広報的な側面についても軽視せずに進める。その際、現行の「地域健康支援ステーション」の活用を積極的に検討し可能性を探る。
- ⑥向こう5年間の退職者を想定しつつ、その後任人事について、昨年度に引き続き学部及び両学科の今後の戦略的展開等の観点から検討し、実施する。
- ⑦上述したような諸事業の運営・実施にあたって、事務組織と教員組織との間の役割分担や指示系統などが明確でないために煩瑣な問題が生じていることを踏まえ、両者がいっそう緊密に連携・協力できるよう見直し、必要に応じて改善を図る。

2) 健康栄養学科

- ①本学科に進学した学生のほとんどが専門学習を生かした就職を希望し、とりわけ管理栄養士資格取得を目指して国家試験合格を強く志望していることを踏まえ、従来にも増して4年間を通して確かな基礎学力の養成と専門知識の修得に専心すると共に、より厳格な成績評価の推進に学科全体として取り組む。

- ②一年次より、早期体験学習を含めた現場の管理栄養士業務を意識させるキャリア教育を通して、また、新入生の学力向上が見込まれることから、教授力の向上に努める。
- ③管理栄養士国家試験等の合格率アップと資格取得を奨励するため、集中講義や模擬試験によって実力の充実を図るとともに、受験に必要な学習環境や書籍などの整備を図り、さらに国家試験対策ワーキンググループによる学習支援と成績管理を行う。
- ④地域貢献事業では、食に関する地域や社会の資源を開発・開拓し、長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業をこれまで以上に積極的に推進し、スポーツ健康学科との連携を図りつつ、健康づくり・地域づくりに食の面から地域貢献の実を挙げるべく積極的に取り組む。
- ⑤学生がそれら食に関する諸事業をコーディネートする能力を高められるよう、管理栄養士現職者等との産学官協同の連携を深め、学生の課内および課外での学習を充実させる。

3) スポーツ健康学科

- ①本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努め、一人ひとりが大学4年間及び将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくための教育・研究環境の構築を促進する。
- ②一昨年(平成23)年度から新カリキュラムが実施に移されたことを踏まえ、同時に進行する旧カリキュラムの履修対象となる4年次生についても遺漏のないよう、定例の学科会議を中心に点検・確認していく。
- ③新カリキュラム構築の中で新たに設置した初年次教育の「大学入門」、2年次の「スポーツ科学入門」の両ゼミナールが、本学科教員の共通理解に基づいて展開されねばならないため、昨年度の実施状況を踏まえ内容的にも方法的にも集団的に検討し、さらに充実させていく。
- ④スポーツ推薦入試の導入及びA0入試の内容変更など今年度実施に移される新入試制度について、これを遺漏なく実施すると共に、その効果や影響などを入試課と連携して的確に把握し分析に努める。
- ⑤高大連携事業については、従来の岡谷東高校に加え、体力測定など課外活動レベルで交流の端緒を開いた松商学園高校と、教学レベルでも連携・協力を進めるべく検討し、可能な部分から実施する。地域貢献事業について、学生の自主的活動の場や地域から求められている企画力・マネジメント力といった実践力の場を提供するため、昨年度協定を結んだ長野県体育センター及び長野県総合型クラブ連絡協議会と、また、健康栄養学科とも連携して取組を進める。

(2) 「平成25年度事業計画」に対する実施状況 < D・C >

2007(平成19)年4月に創設された人間健康学部は、2010(平成22)年度に完成年度を迎えた。今年度は、創設以来6年間の状況を踏まえ、さらに、県立大学設立及び大原専門学校の2015(平成27)年4月松本市開校予定等の動向を睨みながら、それへの対応策を含んだ新たな方向性とあり方を模索しつつ諸事業に取り組んできた。とりわけ重視したのは、そうした外的環境への対応を全学的な中期目標・計画の中に位置づけ、その一環として取り組むことであった。とはいえ、構成員の中期目標・計画に対する共通認識が十分であるとは言い難い状況もあるが、その作成自体評価できることであり、日常的な諸取組もまた、基本的にはそれに則って行われていると判断される。

今年度活動の重点として、2011年度から施行されている新カリキュラムを遅滞なく実施すると共に、その問題点等を点検し充実を図ることを挙げたが、学部教務委員会を中心に両学科会議を通じて情報交換し、この一年間大きな問題もなく遂行できた。また、健康栄養・スポーツ健康両学科の連携によってこそ、「健康」領域各分野における特色ある研究・教育を行うことができるとの観点から、従来にも増して相互理解と協力の実を上げることも課題としたが、その具体的取組の一つとして、「教育推進研究

事業」に両学科共同事業を位置づけ、講演会の開催と報告集の発行を地域健康支援ステーションとも協力して展開した。

以上に加え、まず学部全体の、次に両学科それぞれが取り組んだ事業について報告する。

1) 学部全体

- ①APについては、おおむね高校・受験生に理解されつつあると判断している。それを踏まえ、今年度は、両学科共に過去三年間の資格試験結果を踏まえつつ、学習により意欲的な学生の確保に努めた。とりわけ、スポーツ健康学科では、AO入試について健康栄養学科に習い模擬授業とその理解度を判断材料とするよう改訂したが、一定の成果が得られていると思われる。また、長野県内はもちろん県外からの受験生・学生確保を重視し、入試広報室等関係部署と連携して取り組んだことによって、一定その成果が表れたと判断している。しかしながら、それが入学者に必ずしも結びついていないことが問題である。
- ②CPについては、新カリキュラムへの遅滞のない移行、実施こそが最大の課題であった。この点については、すでに述べたように、学部教務委員会を中心に移行状況や問題点などについて常時点検がなされ、両学科会議と連携して対応策が採られたこともあって、取り上げねばならないような問題は生じなかった。また、昨年度課題として取り上げたいいわゆる「教養教育」について、総合経営学部と連携しつつ改革に取り組むことを目指したが、十分な論議には至らなかった。
- ③DPの謳う教育目標の達成度に関しては、成績評価の厳格化はおおむね達成されていると判断される。今年度もこうした動向を推進すべく積極的に取り組むことを念頭に、学生ニーズとの整合性を図るべく改変されたキャリア教育について、その実効性をいっそう高めるべく教員とキャリアセンター職員が一致して取り組んできた。また、県外からのさらなる学生確保という中期的展望を踏まえて、県外出身学生の就職指導について取組を進めることを掲げたものの、いまだ十分とはいえない状況にある。
- ④高大連携事業については、従来からの岡谷東高校以外新たな連携を進めることはできなかった。なお、松商学園高校や飯山高校等とは、体力測定や課外活動レベルでの交流など、教員が個人的レベルで協力・協力の取組を進めている例も複数みられた。
- ⑤自治体及び企業などとの連携事業については、この間、学部・学科として旺盛に進めてきている。今年度については、松本市が、新たな政策の目玉と位置づけた健康産業・企業立地推進事業に関わって、農機具メーカーの(株)デリカによる四輪電動アシスト自転車の開発、作製に、スポーツ健康学科の田邊専任講師がデータ蒐集で多大な協力、役割を果たしたことが特筆される。また、11月25、26両日に行われた松本市の第3回健康首都会議では、地域健康支援ステーションが企業と協力して「健康弁当」を作成、販売に大きく貢献した。この二例は、健康に関わる商品開発の産官学三者による協力・協同例として、多くのメディアに取り上げられた。
- ⑥向こう5年間の退職者を想定しつつ、その後任人事を学部及び両学科の今後の戦略的展開等の観点から検討し実施することについては、健康栄養学科の進藤教授とスポーツ健康学科の吉田教授が該当者であったが、いずれも容易に後任が得られず、進藤教授は雇用延長、吉田教授は定年退職と同時に他大学転出となった。また、教養科目を主として担当してきた住吉教授の学長就任に伴う後任人事については、名古屋大学から木藤教授を迎えることができ、教養科目は当然のことながら健康栄養学科の専門科目の「微生物学」及び「ゼミナール」についても、また、着任後には研究科についても担当が見込まれることから、健康栄養学科のカリキュラム強化という観点から評価できる人事となった。
- ⑦上述したような諸事業の運営・実施にあたって、事務組織と教員組織との間の役割分担や指示系統などが明確でない部分が依然存在するものの、両学科長を中心とする担当事務及び教員の間での意思疎通の努力によって、大きな問題もなく円滑に進めることができた。

2) 健康栄養学科

- ①本学科に進学した学生のほとんどが専門学習を生かした就職を希望し、とりわけ管理栄養士資格取得を目指して国家試験合格を強く志望していることを踏まえ、従来にも増して4年間を通して確かな基礎学力の養成と専門知識の修得に専心すると共に、より厳格な成績評価の推進に学科全体として取り組む。それを受け、成績評価については、慎重かつ厳格に行われてきた。また、管理栄養士の国家試験合格を保證する学力と、学習成果を踏まえて卒業研究をまとめていくための探究心と学力、ならびに専門職としての応用力の習得との両立については、今後も検討を進めていかなければならないと考える。
- ②一年次より、早期体験学習を含めた現場の管理栄養士業務を意識させるキャリア教育を通して、また、新入生の学力向上が見込まれることから、教授力の向上によりいっそう努める。これについては、当初の計画にそって早期体験学習などが実施され、その評価についてもまとめられた。加えて、授業アンケート結果などを踏まえ、各教員が教授力の向上に努めた。
- ③管理栄養士国家試験等の合格率アップと資格取得を奨励するため、集中講義や模擬試験によって実力の充実を図る取組は、計画に沿って進められたが、結果は前年度を大きく下回った。それを受け、今後も受験に必要な学習環境や書籍などの整備を図り、さらに国家試験対策ワーキンググループによる学習支援と成績管理を行っていかねばならない。しかしながら、学力の向上に対する意欲が低い学生たちに対してどのような対応が可能であるかの検討は引き続き大きな課題である。
- ④地域貢献事業では、食に関する地域や社会の資源を開発・開拓し、長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業の推進に関しては、各教員が有している地域内のネットワーク、地域総合研究センター等を通じた活動がこれまで以上に展開された。また、本年度採択されたCOC事業によって経費面の支援が充実したこともあり、スポーツ健康学科との連携を図りつつ、健康づくり・地域づくりに食の面から地域貢献事業の推進が図られた。
- ⑤学生が食に関する諸事業をコーディネートする能力を高められるよう、管理栄養士現職者等との産学官協同の連携を深めることについては、各講義科目で必要に応じて管理栄養士現職者等を招聘したこと、臨地実習を通じた実習先の指導者との連携を強化したこと、学内の地域健康支援ステーションの活動を充実させたことなどを通して、学生の正課内および正課外での学習を充実させることができた。

3) スポーツ健康学科

- ①本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努め、一人ひとりが大学4年間及び将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくための教育・研究環境の構築を促進する。この点については、毎月1回開催される学科会議を中心に、学科教務委員並びに各ゼミ担当者などから適時学生の動向が報告され、問題点については一致した対応をとるべく務めてきた。
- ②一昨年(平成23)年度から新カリキュラムが実施に移されたことを踏まえ、同時に進行する旧カリキュラムの履修対象となる4年次生について僅少の単位未取得者を出さないよう務めるなど、大きな問題を生ずることなく経過している。
- ③新カリキュラム構築の中で新たに設置した初年次教育の「大学入門」、2年次の「スポーツ科学入門」の両ゼミナールについては、本学科教員の共通理解を重視し、昨年度の実施状況を踏まえ内容的にも方法的にも協力して検討しさらに充実させることができた。その成果を判断する材料の一つとして、2年次生の「スポーツ健康演習」履修を決定する際に提出させた希望調査の記載内容が、各ゼミへの調査・研究の積極性や丁寧さを窺わせたことを挙げておきたい。
- ④スポーツ推薦入試の導入及びA0入試の内容変更など今年度実施に移される新入試制度について、前者は今年度中止したが、「スポーツ特待生」をそれと同等と見なし扱うことで十分対応することができた。また、後者については、先行する健康栄養学科に習って模擬授業の受講とそれに関わるテストを実施

し、導入に際して期待した狙いを一定達成できたと判断している。多言するまでもなく、これらの改革、実施については、入試委員を通して、入試課など関連部署と適宜連絡を取りつつ実施した。

- ⑤高大連携事業については、従来からの岡谷東高校以外新たな連携を進めることはできなかった。なお、松商学園高校や飯山高校等とは、体力測定など課外活動レベルでの交流など、教員が個人的レベルで協力・協同の取組を進めている例も複数みられた。今後の課題としては、そうした取組を、教学レベルでの連携・協力にどのようにして進めていくかということであろう。
- ⑥地域貢献事業については、事業計画にも記載したように、学生の自主的活動の場や地域から求められている企画力・マネジメント力といった実践力の場を提供するものと位置づけて取り組んだ。具体的には、昨年度協定を結んだ長野県体育センター及び長野県総合型クラブ連絡協議会、健康栄養学科と連携し、COC事業の一環として講演会を開催するなどした。また、松本市が今年度政策の目玉と位置づけた健康産業・企業立地推進事業に関わって、農機具メーカーの(株)デリカによる四輪電動アシスト自転車の開発、作製にスポーツ健康学科の田邊専任講師がデータ蒐集で多大な協力、役割を果たしたことが特筆される。

(3) 「平成26年度事業計画」 < A >

創設7年目となる今年度は、新県立大学の設立及び、来年4月の大原専門学校の松本市開校等の動向を睨みつつ、それへの対策を含んだ新たな方向性とあり方を模索し諸事業に取り組むべき一年となる。とりわけ主要な点は、そうした外的環境への対応を全学的な中期目標・計画の中に位置づけ、その一環として取り組むことである。また、2011(平成23)年度より施行している新カリキュラムの完全実施を踏まえ、その問題点等を点検し遅滞なく運用することも主要な取組となる。

また、人間健康学部を構成する健康栄養・スポーツ健康両学科の連携によってこそ、「健康」領域各分野における特色ある研究・教育を行うことができるとの観点から、従来にも増して相互理解と協力の実を上げるべく取り組む。この点に関して言えば、2011(平成23)年4月に発足した健康科学研究科との連携についても同様である。

以上のような観点から、まず学部全体が、次に両学科がそれぞれ取り組むべき諸課題を以下に挙げる。

1) 学部全体

- ①APに関しては、十分とは言えないまでも、おおむね高校・受験生などに理解されつつあると判断している。ただし、2015(平成26)年度入試における健康栄養学科受験者数の大幅な減少については、その原因を、全国的な状況のみに帰することなく、一昨年度の管理栄養士国家試験合格率の低迷との関係も考慮に入れ、これに対する対策を強力で打ち出さねばならない。さらに、いわゆる「資格志向」受験生のニーズを的確に捉え、入学試験の改革・改善を通じて学習により意欲的な学生の確保に努める。その際、この間取り組んできた入試改革とそれに伴う受験者及び合格者の変化について分析し、その成果を反映すべく取り組む。また、長野県内は当然のことながら、県外からの受験生・学生確保を重視し、入試広報室等関係部署と連携して、そうした傾向の定着化を図るべく取り組む。
- ②CPに関しては、冒頭にも述べたとおり、新カリキュラムへの移行、実施こそが最大の課題である。そのためにも、学部教務委員会を中心に移行状況や問題点などについて、常時、点検していくことが必要である。また、昨年度課題として取り上げたいわゆる「教養教育」について、理念、内容及びカリキュラム等を総合経営学部と連携しつつ議論を深め、一定の方向性を見出すべく取り組む。
- ③DPの謳う教育目標の達成度に関しては、成績評価の厳格化はおおむね達成されており、それは、過去四期の卒業生が、医療施設や給食関連企業、スポーツ関連企業等に就職を決めていることにも反映していると判断される。したがって、今年度もこうした動向を推進すべく積極的に取り組む。そのために、2011(平成23)年度以降、学生ニーズとの整合性を図るべく改変されたキャリア教育の実効性をさらに高めるべく、キャリア職員と協力して取り組む。また、県外出身学生の就職指導について、県

外からのよりいっそうの学生確保という中期的展望を踏まえ、関係部署と連絡を密にしつつ取組を進める。

- ④2012(平成24)年度、新たに設けられた教育企画推進事業に位置づけ、学部として展開した講演会及び報告集の発行など各種取組を、地域健康支援ステーションを中心に継続的かついっそう充実した形で展開する。
- ⑤高大連携事業については、スポーツ健康学科が主として実施してきた従来の岡谷東高校に加え、松商学園高校や飯山高校等とも連携・協力を進めるべく検討を進め、可能な部分から実施に移す。
- ⑥自治体及び企業などとの連携事業については、両学科の特性を生かしつつ取り組む。また、実習場所の確保という観点を重視し、広報効果の側面についても軽視せずに進める。その際、現行の地域健康支援ステーションの活用を積極的に検討し可能性を探る。
- ⑦両学科共に定年退職が連続することを踏まえ、その後任人事について、今後の将来展望を十分に見据えつつ実施する。
- ⑧上述した諸事業の運営・実施にあたって、事務組織と教員組織との間の役割分担や指示系統などの明確化を進め、両者がいっそう緊密に連携・協力できるよう見直し、必要に応じて改善を図る。とりわけ、6号館事務室スタッフが、地域健康支援ステーション職員、COC事業職員、スポーツ健康学科専任助手などから構成されることを踏まえ、その職場環境の整備を進めると共に、事務分担の明確化と協力体制の構築に努める。

2) 健康栄養学科

- ①本学科に進学した学生のほとんどが専門学習を生かした就職を希望し、とりわけ管理栄養士資格取得を目指して国家試験合格を強く志望している。入試状況を踏まえた分析によれば、2014年度に4年生となる学生たちには合格率の向上も期待されることから、学科全体として4年間を通した確かな基礎学力の養成と専門知識の修得に関するより厳格な成績評価に取り組む。
- ②完成年度以降の転退職に伴う教員構成の変化を踏まえ、教授内容を見直し、CPについて再確認する。
- ③年々、新入生の学力が向上してきていたが、2014年度は全国的な動向もあり、受験生が減少し、応募状況が良好とはいえなかった。このことを踏まえ、新入生の学力や学習意欲を見極め、必要な対応策を講じていく。一年次より、早期体験学習を含めた現場の管理栄養士業務を意識させるキャリア教育を通して学習への動機づけを強化し、教員の教授力の向上にも努める。
- ④管理栄養士国家試験等の合格率アップと資格取得を奨励するため、学科教員が一体となって取り組む。具体的には、集中講義や模擬試験によって実力の充実を図ると共に、受験に必要な学習環境や書籍などの整備を図り、さらに国家試験対策ワーキンググループによる学習支援と成績管理を行う。
- ⑤COC事業の採択を受けて、これまで進めてきた長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業を充実強化し、地域貢献事業の推進を図る。また、スポーツ健康学科との連携を図りつつ、健康づくり・地域づくりに食の面から地域貢献の実を挙げるべく積極的に取り組み、他大学にはない本学・本学科の独自性を強化する。
- ⑥学生がそれら食に関する諸事業をコーディネートする能力を高められるよう、学内外の管理栄養士現職者等との連携を深め、学生の課内及び課外での学習を充実させる。

3) スポーツ健康学科

- ①本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる材を育成する」を踏まえ、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努め、一人ひとりが大学4年間及び将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくための教育・研究環境の構築を促進する。
- ②新カリキュラムで新たに設置した1年次の「大学入門」、2年次の「スポーツ科学門」の両科目について、昨年度の実施状況を踏まえ、学生の学習と教員の対応の煩雑さを考慮しつつ、内容的にも方法的にも集団的に検討しさらに充実させていく。

- ③新カリキュラムの完全実施を踏まえ、その円滑な運用に遺漏のないよう定例の学科会議を中心に点検・確認していく。併せて、学科会議で、他学部・学科に比べて例年遅れがちな就職活動状況を解消すべく指導のあり方を検討し実施する。
- ④AO入試の内容変更など昨年度より実施されている新入試制度について、これを遺漏なく実施すると共に、その効果や影響などを入試課と連携して的確に把握し分析に努める。
- ⑤日本体育協会資格・総合型クラブアシスタントマネージャー資格に関わる適応免除制度(養成講習会受講免除、試験は免除なし)が新年度入学生から適用されることに伴い、学生向け広報を的確に行う。また、2年生以上の学生には、同資格を長野県体育センターが開催する講習会で取得すべく指導し、一昨年度3人、昨年度13人であった合格者を、今年度は30人以上とするよう務める。特に、健康運動指導職を志す者には取得を強く奨励する。
- ⑥地域貢献事業について、学生の自主的活動の場や地域から求められている企画力・マネジメント力といった実践力の場を提供するため、これまでの数々の実績に加えて、2012(平成23)年度に協定を結んだ長野県体育センター及び長野県総合型クラブ連絡協議会と、また、健康栄養学科とも連携して取組を進める。
- ⑦総合型地域スポーツクラブに関する諸事業を担当してきた吉田先生の退職、転出に伴い、その新たな担当者の選任及び、事業を地域健康支援ステーションに移行すること等についても検討し、新たなあり方を検討、確定していく。執筆担当者 人間健康学部長 等々力賢治

4. 松商短期大学部

(1) 事業計画書 < P >

1) 短期大学部の現状

本学の志願者数は平成21(2009)年度の298名を最高に、平成22(2010)年度は230名と大幅に減少、その後平成23(2011)年度235名、平成24(2012)年度254名と年を追って回復し、平成25(2013)年度生についても今年2月末の時点で265名と回復基調にある。この数年、全国の私立短期大学の約7割が定員割れという厳しい状況の中ではあるが、本学は定員を確保し続けてきている。

2) 短期大学部の課題

本学の志願者数および入学者数は平成21(2010)年度以降順調に回復してきてはいるが、長野県の高校生の進学状況を見る限り、依然として専門学校進学を志向する生徒が多く、さらにここ数年は、高校生とりわけ女子高校生の四年制大学進学志向が強まる傾向にあり、本学を取り巻く状況は、非常に厳しいと言わねばならない。また、平成27(2015)年度には大手専門学校の松本駅前進出も決定しており、更にはその厳しさに拍車がかかると予想される。この厳しい状況の中で、短期大学教育の専門学校との差別化、四年制大学にはない魅力ある教育システムの構築が、本学の課題となってくる。

本学の教育システムは、過去4回に渡るGP採択によって明らかなごとく、全国的に見ても高い水準となってきている。このGPに裏付けられた本学のCPを、これまで以上に高校生やその保護者、高校教員に強くアピールし、専門学校に対する本学の優位性を強調して、本学のAPに見合う学生確保をこれまで通り目指すことになる。

3) 短期大学部の平成25年度の計画

①入学者選抜段階における施策

前年度に引き続き「特待生入学制度」および「入学金割引制度」を維持し、入学生に対する経済的支援を継続、同時に、本学進学のための経済的優位性を高校生にアピールする。

②修学意欲向上のための施策

前年度に引き続き「資格奨励金制度」および「学業成績優秀賞授与制度」を維持し、本学学生への学業に対するモチベーションの維持向上につとめ、同時に、専任教員の手による本学独自の講義テキストの開発および作成を継続し、本学学生に合わせたわかりやすい授業の展開と学生の学習意欲向上を図る。

また、平成 25(2013)年度入学生からは、入学直後にプレイスメント・テストを実施し、入学生の基礎学力の状況把握を継続して行う。

③進路支援に対する施策

前年度に引き続き、学内合同企業説明会および単独企業学内説明会の強化拡大、四年制大学への編入対策の強化を図る。また、就職試験における「集団討論」の対策講座を単位化し、同時に、県内製造業における生産拠点の海外移転傾向を加味して、業務ツールとしての英語力育成に取り組み、企業ニーズに対応した人材育成を目指す。

④地域貢献のための施策

前年度に引き続き、本学の地域貢献の一つである高大連携事業に取り組む。一つは穂高商業高校との連携を、高校生に対するキャリア教育の一環として県内の他の商業高校にも拡大する。またもう一つは、前年度漸く実施となった松商学園高校商業科との連携事業を今年度も継続し、高校・短大5カ年教育を視野に入れた連携教育プログラムの研究開発をさらに進めていく。

4) 商学科および経営情報学科の計画～ビジネス系専門学校との差別化のために～

本学のDPにそって、2013(平成 25)年度以降新たに、国際化に対応した教養としての英語教育の導入、これまでのPCに加えてiPadを活用した情報処理技術の育成と新しい教育手法の展開、に取り組む。

①国際化に対応した英語教育の推進

本学の学生を採用する企業においても英語等の語学力を重視する企業が今後ますます多くなると思われることから、これまでの本学の教育において一選択科目的扱いであった語学(英語)教育を、本学に学ぶ学生の教養としての語学教育に改革していく。これまでの「簿記とパソコン」という松商ブランドから「簿記とパソコンと英語」という新しいブランドへの変更を目指す取り組みである。これにともない、短期から長期の海外留学制度の整備、留学生受入体制の強化もあわせて行う。

②iPadを活用した新しい教育手法の展開

これまでの本学の情報教育は、情報処理技能の育成に主眼がおかれ、Excel や Word によるデータ加工技術の習得を中心として、最近では Power Point によるプレゼンテーション能力の育成にも取り組んできている。2013(平成 25)年度からは、これまでのデータ処理能力の修得を基礎とした発表力・表現力の育成をさらに進めるために、文科省「私立大学教育研究活性化設備整備事業」の採択を受けて、データや情報をより有効に使いこなせる iPad を活用した教育を充実させていく。具体的には、今年度入学生全員に一人一台 iPad を貸与し、授業内外における教員と学生との自由なコミュニケーション・ツールとして活用する。教員による資料・データ等の送信、学生による課題レポートの提出、教員によるレポートの評価・添削の返信等、教員と学生との双方向的学習環境を創出し、iPad を介して学生と教員とがこれまで以上に密度の濃い関係を築いていく。

上記の英語教育並びに iPad 活用教育は、いずれも本学と競合関係にあるビジネス系専門学校との差別化を図る観点からも重要な取り組みであり、専門学校にはない本学の魅力、優位性につながる効果が期待される。これと同時に、本学のカリキュラム・ポリシーである「学びの多様性」をさらに強化したカリキュラム改革に取り組み、資格偏重の専門学校に対して、本学のバラエティー豊かな教育をこれまで以上にアピールしていく。

(2) 「平成 25 年度事業計画」に対する実施状況 < D >

1) 入学者選抜段階における施策

前年度に引き続き入学生に対して「特待生入学制度」と「入学金割引制度」に基づく経済的支援を行った。今年度の特待生は、推薦入試段階で、経済支援一種 1 名、同二種 3 名(うち松商高校 2 名)、学業学力二種 3 名、一般入試・センター利用入試段階では、学力二種 1 名であった。また、入学金割引については推薦入試段階で、専門資格取得割引の対象者が 14 名(漢検 8、簿記 5、IT パスポート 1)、兄弟姉妹割引が 16 名、一般入試・センター利用入試段階で資格割引が 2 名(漢検 1、英検 1)、兄弟姉妹割引

が2名であった。資格割引については入学時点での申請が12名(漢検8、簿記3、英検1)あり、入学決定後から入学までの時間を有意義に過ごした証と考えられる。

2) 修学意欲向上のための施策

昨年度、就学意欲向上に大きな効果が認められた「資格奨励金制度」と「学業成績優秀賞授与制度」についても継続実施した。今年度資格奨励金は総額で2,222,870円(昨年度1,713,260円)、延べ受給者は549名(昨年度393名)となり、総額で約50万円、延べ人数で156名の増加となった。また、学業成績優秀者表彰は、前期(1・2年生)・後期(1年生)2回行い、各学年成績上位10名を表彰した。各回各学年で素点平均点95点以上と非常に高いレベルでの受賞であった。資格取得並びに学業における動機付けとしては昨年同様、十分な効果が認められた。

本学在学生の修学意欲向上のために、初年次教育のためのオリジナルテキスト「基礎ゼミナールワークブック」を改訂し活用した。また、一昨年度からの継続事業として専任教員の手による本学独自の講義テキストの開発を行い、今年度は金子能呼准教授「マーケティングの基礎 Work Book」の作成、また藤波大三郎教授「銀行論入門」の増刷を行った。オリジナルテキストは一昨年度から合わせて8冊となったが、来年度も継続し、専任教員全員(16名)によるシリーズ化を目指す。

3) 進路支援に対する施策

学内合同企業説明会および単独企業学内説明会の開催状況は、例年通りの合同説明会が3回(各回参加企業約50社)、長野県中小企業団体中央会主催の合同説明会(参加15社)が行われ、単独企業説明会は57回の開催となった。本学学生延べ参加人数は466名(昨年比100名増)であり、多くの学生が内定を得るに至った。

四年制大学への編入は、松本大学総合経営学部総合経営学科2名であった。

昨年度に締結した韓国の国立済州大学との交換留学協定に基づき、昨年2月から1年間の予定で本学2年生2名が同大学に留学していたが、両名が帰国し、うち1名は同大学3年次への編入を決めた。また、9月より1年間の予定で、同大学から3年生男子1名を受け入れ、本学のカリキュラムにそった科目履修に取り組んでいる。

就職試験における「集団討論」の対策講座については、実際にグループディスカッションを課す企業が現状では少なく、限られた学生のための講座となった。受講した学生にとっては入社試験でのこの形態の模擬実習の機会として有用であり、今後も継続すべきであると判断された。

業務ツールとしての英語力育成については、今年度「進路支援フィールド」の中に「TOEIC入門」(1年前期)、「TOEIC対策」(1年後期)をいずれも選択科目として開講し、前期は71名、後期は46名が履修した。来年度からは「松商ブランド基礎フィールド」の中に前期必修科目として「English I」、後期選択科目として「English II」「中国語 I」「ハングル I」を設置する。今年度の「TOEIC入門」および「TOEIC対策」については、入学直後に実施した英語のプレースメントテストの得点に基づくクラス分けを行った。これまでは、入学生の英語能力について十分な把握がなされていなかっただけに、このテスト、そしてそれに基づく授業によって、業務ツールとしての英語に対する学生への意識づけが効果的に行われたと思われる。また、同時に「国際コミュニケーション・フィールド」の来年度新設に向けたトライアルの実施によって、TOEIC受験者が増加し、その得点も目標としていた400点を超える学生が数名現れた。その結果、この英語力育成のきっかけともなった企業への応募についても、約20名の学生をリストアップできるまでとなった。

一昨年度から継続の「金融スペシャリスト・プログラム」については今年度、ファイナンシャルプランニング技能検定3級について14名(1年生9名、2年生5名)が総合合格を果たし、1年生7名が学科のみ、4名が実技のみの部分合格を果たした。総合合格者は昨年度から倍増し、1年生の総合合格者、部分合格者ともに金融機関への就職が大いに期待される。また、2年生2名が証券外務員試験に合格を果たしている。

4) 地域貢献のための施策

本学の地域貢献の一つである高大連携事業も穂高商業高校とは8年目を迎えて、例年通りグレードアップ型連携、チャレンジ型連携を実施した。また、松商学園高校商業科、飯田OIDE長姫高校、辰野高校ともチャレンジ講座を開催し、総勢250名を超える高校生に対応した。今年度の新たな取組みとしては、松商学園高校商業科の3年生徒1名が本学学生の日商簿記1級講座に継続的に参加し本学学生とともに11月に受験した。また、長野県商業教育研究会(会長は長野商業高校長)の依頼により、県下12の商業高校等から集まった生徒約45名の学習会「マーケティング塾」において「消費者心理～いかにお客様の心をつかむか～」 「原価計算と価格決定」の二講義を実施した。さらに、穂高商業高校からの依頼により、同校の文化祭において本学の金子ゼミナールが「おにぎりプロジェクト in 穂高商業高校」を開催、また同ゼミナールは「バレンタインスイーツ対決」においても県下商業高校の生徒とともに、商品開発・販売実践に加わった。

5) ビジネス系専門学校との差別化に向けての施策

①国際化に対応した英語教育の推進

グローバル人材育成のための「国際コミュニケーション・フィールド」の開設を来年度に控え、今年度はそのプログラムの有用性、課題を明らかにするために i) Interactive English、ii) 留学生との協働プログラム、iii) コミュニケーション能力育成講座、iv) TOEIC 集中講座、v) e-learning の5のプログラムをトライアルとして実施した。教員による積極的な声かけによって1年生15名が参加、終了後のアンケート等の結果からはプログラムの事前と事後で外国人とのコミュニケーションに抵抗がなくなったという報告が多く寄せられ、有用性は認められたと言える。しかし、今回は単位がつかなかったため、出席率が低く、特にv) はあまり機能しなかった。来年度に向けて改善を要すると思われる。

②iPadを活用した新しい教育手法の展開

昨年度の文科省特別補助金の採択を受けて、今年度入学生全員に一人一台 iPad を貸与し、授業内外における教員と学生との自由なコミュニケーション・ツールとしての活用を図った。新しい教育手法のツールとして iPad は大きな可能性を秘めてはいるもののこの1年間においては必ずしもそれを十分に引き出すには至らなかったと言わざるを得ない。システムが難解であり、学生にとっても、教員にとっても扱いづらく、ネットワーク環境の面でも不具合が散見した。しかしながら、この1年間の状況は現在、関係する教職員の懸命な努力により、すべての面で改善に向かっており、来年度は当初の予定に近い機能で活用が進むと思われる。いずれにしても、教員各自が授業で有効活用し、その有用性を学生に充分認識させていく努力を継続しなければならない。

3. 「平成25年度事業計画」の実施状況を受けての点検・評価 < C・A >

1) 短期大学の現状

平成22(2010)年度230名から2013年度269名へと年々回復基調にあった本学の志願者数は、平成26(2014)年度生が241名と3年振りの低水準となった。入学者数は商学科105名、経営情報学科103名であり、本学全体の定員ならびに商学科および経営情報学科の学科毎の定員は充足したものの、学生募集において予想以上の苦戦を強いられた感は否めない。この原因の一つは、本学志願者の大幅な減少となった高校によれば、高校からの就職者数の増加が短大志願者数の減少に繋がったということである。専門学校についても同様に、その数を減らしているということであり、専門学校によって本学の志願者が奪われるという事態には至っていないと思われる。

2) 短期大学の課題

高校卒業者の就職環境が好転した結果、本学の志願者数が減少したという状況は、景気回復により企業の雇用環境が好転した一方で、高校卒業者を抱える家庭の経済状態は依然として厳しい状況にあり、経済的な面から進学よりも就職という意志が強く働いた結果であると思われる。この点では専門学校も同様に学生募集では苦戦しているようであるが、長野県の高校生の進学状況を見る限り、依然として短大進学よりも専門学校進学を志向する生徒が多く、さらにここ数年は、高校生とりわけ女子高校生の四

年制大学進学志向が強まる傾向にあり、本学を取り巻く状況は、非常に厳しいと言わねばならない。高卒での就職状況にかかわらず、短大の志願者数を今以上に増加させていくためには、専門学校志願層を如何にして本学に取り込んでいけるかということが、依然として大きな課題となる。特に、2014(平成26)年度には、翌年度に松本駅前に開校する大手専門学校の学生募集活動がいよいよ本格化する。この厳しい状況の中で、専門学校にはない本学の教育の独自性、四年制大学にはない魅力ある教育システム、すなわち本学のカリキュラム・ポリシーを、これまで以上に高校生やその保護者、高校教員に強くアピールし、専門学校に対する本学の優位性を強調していかねばならない。

3) 入学者選抜段階および入学後の修学意欲向上のための取組み

入学者選抜段階の取組としては、「特待生入学制度」および「入学金割引制度」を維持し、入学生に対する経済的支援を継続、同時に、本学進学の経済的優位性を高校生にアピールして更なる志願者増を目指す。

入学後の修学意欲向上のための取組は、「資格奨励金制度」および「学業成績優秀賞授与制度」を維持し、本学学生の学業に対するモチベーションの維持向上につとめ、同時に、専任教員の手による本学独自の講義テキストの開発および作成を継続し、本学学生に合わせたわかりやすい授業の展開と学生の学習意欲向上を図る。また、今年度から始めた、入学直後のプレイスメント・テストを継続実施し、入学生の基礎学力のデータを収集、状況把握を行い、本学の教育活動・学生募集活動に活用する。

4) 進路支援に対する取組み

学内合同企業説明会および単独企業学内説明会の強化拡大、四年制大学への編入対策の強化を図る。また、昨年度単位化した「就職試験における集団討論」の対策講座を継続し、同時に、県内製造業生産拠点の海外移転傾向を加味して、業務ツールとしての英語力育成に取組み、企業ニーズに対応した人材育成を行う。さらに就職内定者に対しては早期離職防止対策を強化し、また「キャリア教育としての税務知識教育」に取組む。

5) 地域貢献のための取組み

本学の地域貢献の一つである高大連携事業に取り組む。9年目を向かえる穂高商業高校との連携を、高校生に対するキャリア教育の一環として県内の他の商業高校にも拡大する。また、松商学園高校商業科との連携事業を今年度も継続し、高校・短大5カ年教育を視野に入れた高短大接続教育プログラムの研究開発をさらに進めていく。

6) 商学科および経営情報学科の新しい取組み

本学のDPにそって、平成26年度から、①企業活動の国際化に対応したグローバル人材育成教育、②昨年度導入したiPadの更なる活用と携帯型パソコンの導入に取り組む。

①グローバル人材育成教育の推進

本学の学生を採用する企業においても英語等の語学力を重視する企業が今後ますます多くなると思われることから、本学における英語教育を必修化する。また、昨年度トライアルとして試行、検討を重ねてきた「国際コミュニケーション・フィールド」を立ち上げ、多文化共生社会に対応した異文化コミュニケーション能力を有するグローバル人材の育成に取り組む。具体的には、ネイティブの先生との双方向型授業(Interactive English)、留学生などの外国人が参加するプログラム(Active Learning)、そしてiPadおよび携帯型PCを活用したe-Learningなどを有機的に結びつけた授業を展開する。また、海外の大学との交換留学制度の創設に向けた研究に着手する。

②iPadの活用と携帯型PCの導入

現代社会は情報通信技術(ICT)が急速に発達し、インターネット等を通じて世界の人々は相互の結びつきを強めてきている。このようなICTを介したグローバル化の中、本学では、入学生一人ひとりにiPadを貸与し、また2年生一人ひとりには携帯型PCを貸与し、本格的なICT教育に取り組む。このICTを活用した教育では、授業前学習で講義DVDの視聴や問題演習、授業でのグループ学習やディスカッション等のアクティブ・ラーニング、そして授業後学習では従来の「メモ力育成」の取り組みな

どの双方向型授業を展開することで、学生の様々な能力、特に社会人・職業人として必要不可欠な実践的
で応用可能な能力（コンピテンス）を高める教育を展開する。

執筆担当者 松本大学松商短期大学部長 山添昌彦

第2部 委員会別点検・評価

I. 教務委員会

1. 全学教務委員会

平成25年度の全学教務委員会は、これまで総合経営学部の代表者は1名であったが、今年度からは総合経営学科、観光ホスピタリティー学科から各1名が出席することとなり、各学科からそれぞれ選出された代表者6名と、課長以下5名の教務課等職員によって構成され、定期的におよそ月1回、長期休業中を除く計9回の委員会を開催した。

総括的には平成25年度の全学教務委員会では各学部学科のカリキュラム再編およびその移行期間、ならびに認証評価時期をそれぞれ迎えていることを念頭に、確かな学士力の獲得さらには充実した教学展開を目指して活動してきた。

(1) 計画 < P >

前年度からの継続審議事項を含め、平成25年度に検討・改善を要する項目を以下のように定め、充実した教務運営を目指すこととした。

1) 大学設置基準の一部改正（文科省3/29付通知）に伴う授業の在り方

学生の学習状況を踏まえた授業展開の在り方について再検討する。

特に15回の授業コマ数の増減だけに着目するのではなく、各教員には学習内容および学習方法を見直し、“本当に学生につけたい力とは何か”を考えた学習展開を可能とする学事関連年間計画の策定。

2) 試験の在り方、特に追試験の基準の明確化

各学部・学科で追試験運用方法の統一がなされていなかったため、共通教養科目を中心に学生の指導に齟齬が生じていた問題について、各学部・学科の実態を把握した上で課題を明確にし、可能な範囲で共通化を図る。

3) 出欠管理について

欠席超過による単位不認定問題や、就職活動・就職試験・各種大会・忌引き・学校感染症等における授業の欠席の扱い方など、授業の出欠管理に関わる諸問題を整理し、学生、教員双方に明確な形で提示し、本来あるべき学生の学びの姿を出欠管理という立場からも指導していく。

4) 学生の学力(学士力)向上のための厳密で適正な成績評価方法の検討

学生の成績を示す成績評価記号について全学的な共通理解を図ることで、学生に求める学力、教員が学生に身につけさせるべき学力について、大学としてのスタンダード（松本大学標準）を明確化する。

5) メソフィアの、より一層の活用を図るための運用方法

学生ポータルにおける表示期間及びGPA表示等について検討し、学生が成績について理解できるようにし、併せて成績に関わる内容について主体的に自己管理する能力を向上させる。また、教員ポータルの閲覧内容等についても検討し、教員のより深い学生理解を促し、学生・教員双方に有意な情報取得を可能とする。

6) 共通教養センターと連携して共通教養科目の見直し

共通教養科目について全学的な視点から捉え直し、本学における共通教養とは何か、どのような力を学生につけたいのかについての検討を経た上で、共通教養科目のカリキュラムから根本的に改編する。

7) アウトキャンパス・スタディの運用の検討

地域貢献と学力との関係を見据えての学事展開を模索し、一層“意味ある学び”を構成する。

8) 履修登録の上限値の統一について

現在、両学部で上限値が異なっているので、これを統一したい。

(2) 実績・現状 < D >

1) 大学設置基準の一部改正を受け、学生の学習状況を踏まえた授業展開の在り方について

本項目は授業時数だけの単純な問題ではないことを全教員に確認した上で、専任教員に対して講義内試験に関わるアンケートを実施した。試験の実施についてはアンケート結果に基づき、◇15 コマの授業に相当する学習内容 ◇試験の厳正性などが担保できているかどうか教務委員会が判断し実施した。

また、学事関連の年間計画策定についても、教員側の科目運営のしやすさだけでなく、学生の立場から学習の効率性や適切なフィードバックによる学習成果が得られるような日程計画とした。

2) 試験の在り方、特に追試験について

各学部・学科の状況が大きく異なる部分があるため、完全に一致させることが必ずしも学生の学力の獲得や向上につながらないという判断に基づき、全学的な統一ができるかどうか今後も継続して検討することとした。そのため、当面、共通科目以外は現在の実施方法によって運用する。

なお、追試験の受験資格については不明確な面のあった現行の内規を見直し、より明確な規準を示すこととした。

3) 出欠管理について

出欠管理について各教員がそれぞれの担当科目の実態を踏まえた上で厳正に対応することを確認し、メソフィア上の出席管理システムを積極的に活用することにした。

また、欠席について学則とも照らし合わせながら、これまで通り公欠制度は設定せず、受験資格や成績等の取扱い方法は学部学科や担当教員の判断に委ねることとした。

なお、学部共通科目・共通教養科目に関しては、学生対応に齟齬が生じないよう学部教務部会や共通教養センターと連携し調整していくこととした。

4) 学生の学力(学士力)向上のために厳密で適正な成績評価方法について

各学部の成績評価方法が異なる点について、実態とその背景および今後の方向について検討した。成績表記はキャップ制度、出席管理、追再試など他の制度との関連が深いため、安易に結論づけず、当面はQ(放棄)、R(受験資格喪失)について、廃止を含め取扱い方法について各学部教務部会で継続検討することとした。

5) メソフィアのより一層の活用を図るための運用方法について

学生が常に自己の成績や学習に向かう姿勢について理解し、自己管理できるよう成績を学生ポータルに常時開示することとした。また、GPA については学生本人の GPA 推移や平均 GPA は全学共通の表示事項とし、科目区分ごと学科内平均との比較、および順位等については、慎重な取扱いが必要との観点から、表示内容や運用について、各学部教務部会で継続検討することとした。

6) 共通教養科目について(共通教養センターと連携)

共通教養科目について共通教養センターが示す共通教養教育の理念を踏まえ、本学学生が身につけるべき教養について考慮した上で、現行の開設科目の学習内容等を検討し、現実的なカリキュラム改編を検討した。なお、改編内容について教務委員会案として同センターに提案した。

7) アウトキャンパス・スタディの運用について

本学において地域貢献に関わる教育は大きな柱であることを踏まえ、地域貢献と学力との関係を再検討した。その結果、従来のアウトキャンパス・スタディのさらなる充実に加え、教養科目の中にも地域の中における学びを意図的に位置づけられるようカリキュラム改編をおこなった。

8) 履修登録の上限値の統一について

両学部 45 単位に統一した。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 制度的内容

本学は開学してわずか10年の間に学科・学部増をしてきたため、学部間の調整が十分行われてきたとは言えず、教学に関わる制度的内容について相違点が生じている。そのため、昨年度より重点的にそうした制度上の課題に対応し、可能な範囲で少しずつ共通化を図ってきた。本年度についても、

- ・試験関係（受験要件、追・再試制度）
- ・出欠管理について
- ・成績評価の表記
- ・メソフィアの活用

など、まず学部間の差異が生じている項目や内容についての確認を行い、そうした現状の背景なども踏まえた上で、課題整理ならびに検討をした。その結果、無理のない程度に学部間の調整を図ることができた。また、今年度段階で解決まで至らなかったものについても、課題の共有はできており、今後、時間をかけて整理していくことについての共通理解を図ることはできた。

2) カリキュラム（特に共通教養科目）

共通教養センターと連携し、これまでそれぞれの学部で展開していた教養科目のうち、全学的な視野から教学展開できそうな科目についての共通化を図った。また、本学の柱でもある地域貢献活動について、学生の学びに昇華できるような手だての一つとしてカリキュラムに明確に位置づけ、全学共通科目の一つとした。

3) 学習環境

学習に関する環境面での整備を図り、学生の学習の充実につなげるため、主に学生ポータルの運用について改善した。その結果についての具体的な評価はもう少し時間が必要と思われるが、成績評価についての質問が例年になく多く、学習（評価）への関心の高さを伺わせる。また同時に、教員側も学習評価について迅速な説明責任を果たすことができるように準備をしておく必要もあり、日常的な資料の整理についての働きかけを行った。

（4）次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

各学部学科が主体的に展開してきた教務運営が、この数年で明らかに変化してきた。そのため、全学教務委員会の責任や役割もこれまでとは大きく異なっており、全学的な立場から教学制度、カリキュラム編成、学習環境整備などについての検討が求められている。

来年度以降はこうした課題に対して、学部学科の「独自性」と全学的な「共通性」といった両側面からの視点を持ち、学生にとってよりよい教学展開ができるようにしなければならない。また、外部評価時期を迎えることから、これを新たな教学展開の挑戦の機会ととらえ、これまでの教務運営を根本から見直していきたい。

1) 教学制度の見直しと改善

学部間で共通化を図るべき内容と、学部の独自性を保持すべき内容をより明確にした上で、2013年度に確定できなかった◇追再試を含む試験制度◇出席規定◇評価の表示方法などに加え、◇履修上限規定◇進級条件の策定◇出席管理の厳正化など外部評価への対応も視野に入れつつ、教学制度のより一層の整備を行う。

2) 松本大学スタンダードに基づくカリキュラム編成

これまでも各学部学科では、AP、CP、DPのいわゆる3ポリシーを意識してカリキュラムを編成・展開してきた。しかし、今年度カリキュラムの見直しを進めていく過程で、全学的な3ポリシーを踏まえたカリキュラム編成が、特に共通教養科目を中心に必要であることが明らかになった。これらのことを踏まえ来年度は、大学の理念に基づく松本大学スタンダードとなる標準的学力を明確にし、学生の学力向上を図るためのカリキュラム編成を一層重視していきたい。

3) 学習環境の整備

タブレット PC を用いた WEB 会議システムの授業での積極的導入、学生用メソフィアの表示項目の整備などハード面の環境整備とともに、カリキュラムについての一層の見直しや整理、基礎教育センター、教職センター、キャリアセンター、「地域づくり考房『ゆめ』」などの学内機構との連携などのソフト面での環境整備に力を入れていくことが重要である。

執筆担当者 全学教務委員会 会長 岩間英明

2. 総合経営学部

総合経営学部の委員会は、総合経営学部教員 6 名と教務課の職員によって構成されている。原則として月 1 回定例会議を行い、これに加え必要に応じて会議を開催し、本年度は 9 回開催された。内容はカリキュラム・時間割・履修登録手続・ガイダンス・保護者説明会・卒業に関する事等、学生の勉学に関する問題を検討し、その解決を図っている。

(1) 当初の計画 < P >

本学部の教育研究上の目的は、「地域社会の総合的運営に関わる研究を推進し、それを基盤に、社会を構成する諸組織体のマネジメントに関する理解と能力を高めつつ、地域社会を総合的に捉える素養と、それに基づく総合的な経営能力を養い、もって活力ある地域社会の創造に貢献しうる人材を養成すること」である。この目的に則した教育がなされるよう調整を図ることが、本部会の使命であり計画であるが、平成 25 年度入学の 1 年生から計画されている新カリキュラムの導入と適切な運用が今年度の具体的な計画(P)となる。2 年以上の学生はこれまでのカリキュラムと卒業要件に沿って運用されるため、旧カリキュラムと新カリキュラムに分けて混同することのないよう教職員への告知、学生指導に注意を払いながら導入を実施した。

また、平成 28 年までに実施される、外部評価を考慮して全学的に行うべき、科目の整備と再点検を行った。

なお、新カリキュラムの特徴は次の 3 点である。

- ① 目指すべき国家資格等の設定及び支援科目の設定
- ② キャリア形成・就職試験対策科目等の就職支援科目の強化と充実
- ③ 総合経営学部としての教育スタンダードの確立と教育の質の充実

(2) 現状の説明 < D >

概ね計画どおり実施した。

- ① 新カリキュラムにそって、新 1 年生の科目が実施された。また、新カリキュラムへの移行期間については、担当コマの不均衡が移行期間中は生じることなどを教員に説明しながら、新カリキュラムと旧カリキュラムが混在する時間割の編成をおこなった。
- ② 昨年に引き続きメソフィアを用いた成績開示、履修登録を実施した。また、「授業回数確認のため書類として講義の出席簿を代用する」「学生の欠席状況を把握することにより成績不振学生のチェック体制を強化充実させる」などの観点から、メソフィアを用いた出席管理の導入を推進した。

(3) 点検・評価の結果 < C >

特に大きな問題はなく、良好と評価できる。

- ① 新カリキュラムについては、学科会議及び関連部門との連携をとりながら 1 年目の実施を計画通りおこなった。
- ② 教養科目について、ヒューマンベシック・コモンベシック・導入科目等の第 1 科目区分、人文科学・社会科学等の第 2 科目区分を整備した。特に大学共通の導入科目区分では、大学の理念科目・地域貢献活動への導入科目、キャリア教育への導入科目を整備した。

③メソフィアに関しては、大きな混乱はなく、良好と評価できる。また、出席管理の導入実施にも大方の教員の協力が得られた。

(4) 成果と今後の改善点 < A >

今年度の活動の重点は、新カリキュラムの導入であった。概ね計画通り進んだが、完成に至るまでには今後3年間を要する。また、今後の環境変化に応じて改善、修正されるべきものであると考える。

なお、今年度から本格的にスタートした「資格試験対策講座」について状況を述べる。総合経営学科では、「宅地建物取扱主任者（宅建）」「ファイナンシャルプランニング技能検定」「通関士」の対策講座が新カリキュラムに盛り込まれた。宅建では20名をこえる受講者があり、合格者は上位学年が占めたものの今後の成果を期待したい。また、観光ホスピタリティ学科では、「国内旅行業務取扱管理者」「総合旅行業務取扱管理者」「社会福祉士」の対策講座が対象となっているが、「国内旅行業務取扱管理者」「総合旅行業務取扱管理者」は、今年度の合格者は各5名であった。特に上位資格である「総合旅行業務取扱管理者」は、合格者が増えて成果が現れていると思われる。今後さらなる成果を期待したい。

執筆担当者 教務委員会 総合経営学部主任 林 昌孝

3. 人間健康学部

人間健康学部教務委員会は、各学科から2名、教務課職員3名の7名により構成され、およそ月1回の割合で、全10回開催された。

(1) 計画 < P >

通常の教務内容を着実に計画・実行することに加え、以下の諸点について重点的に展開していくこととした。

1) カリキュラムのスムーズかつ確実な運営

2013年度はカリキュラムの移行期が継続しており、新・旧のカリキュラムが並行した形で進んでいることから、上級学年を中心に学年進行に応じたスムーズかつ確実な教育課程を展開していく。また、学生が自身の学習状況を的確に把握できるよう学生ポータルについて検討をする。

2) 資格取得に向けた推進

管理栄養士、健康運動指導士、などの資格試験の合格率の向上や、食品衛生管理者、教員免許などの資格取得の推進を図る。

3) 学生理解に基づいた修学指導

入学前DVDや基礎教育センターが実施している基礎力テスト、各クラス・ゼミ担当者による指導などを通して、学生の教学面で適切な修学指導を行う。

4) 共通教養センター、全学教務委員会が推進する共通教養科目の見直し

これまでの他学部開放科目をさらに一歩推し進める形で共通教養科目として見直しおよび整備を進める。

5) 外部評価への準備

2015年度に予定されている認証評価に向け、これまでの教学展開についてカリキュラムならびに学生指導についての検証を行い、教務事項の点検・整備・改善を進める。

(2) 実績・現状 < D >

1) カリキュラムのスムーズかつ確実な運営

・両学科ともカリキュラム移行期に伴う科目の読替をスムーズに実施し、旧カリキュラムとの整合性、ならびに学生への不利益が生じないような履修指導をした。特に読替科目に関して再履修をしなければ

ばならない学生の科目履修や時間割作成については、本人の意向を確認しながらオリエンテーション等、機会ある度に指導の徹底を図るようにした。

- ・新旧カリキュラムの同時進行を踏まえ、上級学年の履修について各教員には科目担当、ゼミ担当のそれぞれの立場からも指導の徹底が図られるようにした。
- ・これまで学生ポータルでの成績閲覧は期間を限定していたが、学生が常に自己の成績を把握できるよう年間を通して閲覧できるようにした。
- ・履修抹消制度による学生にとって無理や無駄のない履修ができるように指導した。また、本制度の内容を考慮して、本制度を利用した学生に対する聞き取り調査や制度規程の見直しをした。
- ・教員ポータルの活用により厳格な出席管理をするようにし、学生が出席状況を正確に把握できるようにした。

2) 資格取得に向けた推進

- ・資格関連科目の履修重複が発生したため、時間割変更を行い学生の資格取得に向け便宜を図った。
- ・管理栄養士資格関連科目の担当教員から学生の学習をより深化させるため、開講時期・時限の変更が提案されたが学則変更、ならびに一部学生にとっては不利益になることが明らかになったため、現状の講義様態の範囲内で工夫することとした。なお、一連のスケジュール変更に伴い該当学生の履修抹消時期を延長した。

3) 学生理解に基づいた修学指導

- ・入学前 DVD や基礎教育センターが実施している基礎力テスト、各クラス・ゼミ担当による指導などを通して、学生に対する教学面の適切な修学指導を行うようにした。
- ・休学者ならびに退学を考え始めている学生、欠席がちな学生に対して、各クラス・ゼミ担当教員・教務課職員が、それぞれの立場から適切に連絡を取り、早期の復学や修学意欲の喚起を促すための相談活動を意図的に実施した。
- ・ゼミ・クラス担当教員が学生理解の一助となるよう教員ポータルの表示項目について、検討・整理した。

4) 共通教養センター、全学教務委員会が推進する共通教養科目の見直し

- ・教養科目の履修人数に大きな偏りがみられる現状を把握し、今後の科目配当について検討した。
- ・学生の選択の幅を持たせることができるよう教養科目の一層の拡充を検討した。
- ・共通教養センター会議、全学教務委員会の論議を受ける形で共通教養科目群について、科目区分や科目配当、担当者を検討し、教養科目に関してカリキュラムの見直しおよび整備を進めた。

5) 外部評価への準備

- ・2015年度に予定されている認証評価に向け、次年度カリキュラムについて他学部と協調しながら調整を進めた。
- ・他学部との調整の結果、履修登録の上限を現在の42単位から45単位へ変更した。また、2年生から3年生への進級条件を40単位以上に設定する案を策定し、全学教務委員会に本学部案として提案した

6) その他

- ・これまで非常勤講師が担当する科目で履修者が5名に満たない場合は閉講してきたが、専任教員の担当科目についても同様の内容として、効果的なカリキュラム編成について模索することとした。
- ・健康栄養学科のゼミナール決定方法について、学生の希望をできるだけ尊重する形を検討した。また、これまでも希望のあったスポーツ栄養分野についても、研究科の呉先生に担当してもらい健康栄養学科教員と連携しながら指導を進めていくこととした。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) カリキュラムのスムーズかつ確実な運営

- ・カリキュラム移行期に伴う履修指導をオリエンテーション等の機会、科目担当教員、ゼミ担当教員が意識的に指導した結果、問題なくスムーズな教学展開ができた。
- ・学生ポータルサイトの改善により、学生の学習に対する意識が高まったためか、欠席に関わる指導は減少傾向となった。また、成績評価に関する質疑の数も例年に比べて多くなり、担当教員が説明をするという状況も見られた。
- ・履修抹消制度を利用した学生からの聞き取り調査によれば、安易な考え方による制度利用は全くなく真剣に学習に向かう姿勢が見られたことから、2014年度からは制度規程のうちゼミ担当教員の承認については不要とすることにした。

2) 資格取得に向けた推進

- ・資格関連科目の履修重複についてはこれまでの履修状況を踏まえて、学生自身が責を負わない科目については、時間割を変更して適切に対応できた。
- ・管理栄養士試験の合格率を上げなければならない現状を踏まえ、今後の対応策をについて学科教務委員を中心に検討を進めた。
- ・2013年度の各種資格合格率は（ ）は昨年度

| | | | | |
|-----------|-------|-------|------------------|------------|
| 管理栄養士 | 66名受験 | 50名合格 | 合格率 75.8%(52.4%) | 全国平均 91.2% |
| 健康運動指導士 | 19名受験 | 10名合格 | 合格率 52.6%(62.5%) | 全国平均 49.9% |
| 健康運動実践指導者 | 27名受験 | 25名合格 | 合格率 92.6%(75.9%) | 全国平均 65.9% |

3) 学生理解に基づいた修学指導

- ・入学前DVDを依頼している業者の担当者による報告会を開催し、新入生の現状について経年変化（上級生）や他大学との比較などから解説・検討をした。そこで明らかになった内容を踏まえ、卒業までの4年間を見通した指導をしていくこととした。
- ・基礎教育センターが実施している基礎力テスト、長期休業中の課題などを積極的に取り入れるようにし、学生の実態を踏まえた指導を行うようにした。
- ・各クラス・ゼミ担当教員・教務課職員が、休学者ならびに休退学を考えている学生、また、欠席がちな学生に対して積極的に指導や支援をした結果、復学や修学意欲の喚起に一定程度の効果が見られた。
- ・ゼミ・クラス担当教員が教員ポータルサイトを利用して学生の指導に当たっている様子が見られ、ポータルサイトによる学生情報提供の効果が見られた。

4) 共通教養センター、全学教務委員会が推進する共通教養科目の見直し

- ・教養科目の履修人数に大きな偏りがみられる原因は、時間割配当、学生から見た選択肢の狭さなど考えられたため、科目区分や科目配当、担当者を検討し、教養科目に関するカリキュラムの見直しを進め、次年度にいくつかの科目変更を決定した。
- 今後、さらに全学教務委員会および共通教養センター会議と連携を取りながら進めていくことを確認した。

5) 外部評価への準備

- ・2015年度に予定されている認証評価に向け、次年度カリキュラムの課題について検討した。
- ・他学部との調整の結果、次年度から登録の上限を現在の42単位から45単位へ変更した。また、2年生から3年生への進級条件については、全学教務委員会の決定を受けた上で、多角的に検討した結果、指導目標とした。

6) その他

- ・専任教員、非常勤講師を問わず履修者が極端に少ない科目の開講をしないことによるデメリットを解消するために、科目の実情を考慮するとともに、2年連続の開講状態は回避することになった。

- ・健康栄養学科のゼミナール決定方法について、学生の希望をできるだけ尊重する形を取り入れるようにした結果、スムーズな決定ができた。また、スポーツ栄養分野についても、予定通り開講することになった。

(4) 今後の課題 < A >

1) スムーズで確実な教務運営

- ・カリキュラム改訂に伴う新旧カリキュラムの並進状況は2014年度で終了する予定であるが、担当者開講時期などの細かな手直しは今後も行われると思われるため、引き続き学生への教学指導は教務委員会が中心となって、全教員で進めていきたい。
- ・学生ポータルを活用による学生の学習環境の整備、厳格な教務運営を一層推し進める。

2) 資格取得の一層の推進

- ・本学部において、これまで資格取得目標の中心であった管理栄養士、健康運動指導士などに加え、コンピューター関連資格やTOEICなどの教養分野の資格についても積極的な取り組みを行う。
- ・公務員や教員などの資格を生かした進路指導を視野に入れ、キャリアセンター、資格取得支援センター、教職センターなどの他機関と緊密な連携を図りながら、先を見通して、学生が積極的に資格取得に取り組もうとする環境づくりに努める。

3) 学生理解の深化と適切な指導

- ・修学指導の状況について家庭が十分理解できる場を設けたり、教員ポータルを活用したりして多面的な学生理解をすすめ、家庭や教員間で連携をとりつつ、より深い学生理解と適切な修学指導を行う。

4) 共通教養科目の充実

- ・共通教養センター、全学教務委員会の検討を踏まえた上で、本学部開講科目の共通科目化の検討を進めると同時に、教員の負担を考慮しつつ、共通教養科目開講に向けた協力を仰ぐ。

5) 外部評価への準備

- ・認証評価に向けた検討の中で明らかになったAP、CP、DPのいわゆる3ポリシーについて、大学、他学部のものとの整合性を図るための形式的・内容的検討を行う。
- ・3ポリシーを踏まえた修学指導について、それぞれのポリシーの内容と実際の教学展開が合致しているのかについて再点検と改善を行う。
- ・学部共通科目である「大学入門ゼミ」について学科間に齟齬があることから、学科の実情を考慮しながら共通化を図る。
- ・教務規約やポータルなど、学部間で調整しなければならない点について、全学教務委員会の検討結果に基づき、適切な改善を図る。

6) その他

- ・学部開設から7年が経過し、カリキュラム改訂も含め、教務事項はある程度落ち着いてきていることから、今後は中長期的な展望に基づいた教学展開について検討を進めていく。
- ・COC関連事業について、学生の学びにつながるような活動は教務面から積極的にサポートを行い、COC関連事業が本学部のポリシーを達成する一助となるようにする。

執筆担当者 教務委員会 人間健康学部主任 岩間英明

4. 松商短期大学部

本年度の委員会は、商学科、経営情報学科から各2名、計4名の教員と事務局3名で構成され、会議は全11回開催された。

(1) 年度当初の予定 < P >

平成 24 年度の自己点検・評価報告書で報告されている、平成 25 年度当初の計画は以下のとおりである。

- ①カリキュラムについて：平成 25 年度に実施したカリキュラムの検証と、平成 26 年度入学生用の新カリキュラムの作成を行う。特に、平成 26 年度のカリキュラムでは、英語必修化と国際コミュニケーションフィールドの新設が予定されており、専門学校との差別化も踏まえて、慎重な議論を行う。
- ②iPad 活用方法について：入学生全員に iPad を配布するが、その活用方法や、実際に行った効果の検証と事業が終了した後も含めた今後の展開について議論する。
- ③履修取消制度について：履修登録（変更）期間内の履修取消と、変更期間後の履修放棄についてもう一度見直す。
- ④欠席の配慮について（全学教務委員会でも検討事項）：事由の存在する講義欠席について、議論を深める。
- ⑤追試験受験資格について（全学教務委員会でも検討事項）：現在の追試験の受験資格を見直すとともに、学部間の共通科目等を考慮して検討を重ねる。
- ⑥メソフィアの活用について：学習意欲の向上、授業支援、学生指導のための改良について、個人情報の保護等を考慮しながら議論を行う。
- ⑦その他：進級規定や専門ゼミのあり方について。

(2) 計画の実施・現状の説明 < D >

1) カリキュラム

平成 26 年度のカリキュラムを検討し作成した。英語の必修化に関しては、担当教員とも議論を行い、多くの非常勤講師による少人数クラスを実現する案もあったが、実現可能性の高い、各学科約 30 名×4 クラス、専任 1 名、非常勤 3 名の 4 名体制で行うことと決定した。また、国際コミュニケーションフィールドは、外国語と地域交流フィールドをベースに組み直し、詳細は、担当者を含めたワーキンググループを作り、教務委員会と連携を取りながら決定した。

2) iPad の活用方法について

iPad の活用法に関しては、総務委員会に運営委員会を設けることとなり、そこで議論されることとなった。ただし、教務委員会とも関わりが多いため、運営委員会と連携を取りながら議論を深めた。

3) 履修取消制度について

履修放棄制度に関して議論を深め、現状の制度は、明確にはなっているが、複雑となっており、また、学生側にメリットが少ない。また、学部との違いもあり、見直しの必要性が議論されたが、今年度は、現状のまま継続することとした。

4) 欠席の配慮について

1 年生に関しても、公欠という制度がないことを徹底するために、教務委員会としてルールを文書化したものを作成し、キャリアクリエイトで配布していただいた。

5) 追試験受験資格について

全学委員会での議論となったため、ここでは省略する。

6) メソフィアの活用について

学習意欲の向上のために GPA の年次変化の傾向を改善させるなどの議論を、全学教務委員会での議論としておこなっているため、ここでは省略する。

7) その他

専門ゼミの移行に関して、全学生に向けてプレゼンを行う、優先順位にプレースメントテストの結果を利用する等の変更を行なった。また、学業成績優秀賞の審査で、履修科目数の議論がなされ、次年度に向けて規定の見直しを行なった。さらに、今まで曖昧だった高大連携の単位に関して、明確なルール

を作成した。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) カリキュラム

国際コミュニケーションフィールドに関しては、ワーキンググループで、現1年次生にトライアルを実施することとなり、それを踏まえて、次年度のカリキュラムを作成した。トライアル自体は、担当者の努力もあり、成果を上げることができたが、教務委員会との連携が取れていなかった点に関しては反省したい。

2) iPadの活用方法について

教務委員会として実施した内容ではないが、全体的に低調な利用に終わってしまった。ソフトウェア的な原因もあるが、次年度に向けて、講義で利用する配布資料はできるだけデジタルデータとして配布することとした。

3) 履修取消制度について

ルールは明確になっているが、運用の意味付けも含めて、曖昧になっていることは反省したい。今後はより、明確で、学生にとってメリットが生じる形に見直す必要があると感じる。

4) 欠席の配慮について

明白なルールを作成しているが、学生や教職員の中にも、考え方に差があると感じている。より納得できる形に議論を重ねていきたい。

5) その他

学業成績優秀賞の規定を明確にする件では、教授会でも活発な議論となり、混乱を極めた。授業料の一部免除ということもあり、明確なルールを当初より決めておくべきだったと思う。

後期の履修登録確定後に、2年生の何名かが卒業要件を満たしていないことがわかった。自己責任の範囲ではあるが、教務委員会としても見逃していたということもあり、今後、再発防止に向けて、対面での指導やシステムでの防止策などを検討していくこととなった。

専門ゼミ移行の実施方法を変更し、学生、教員からアンケートによる点検を行なった。次年度に向けて、FD会議で議論した結果、概ね、次年度もこの方法で行うこととなった。基礎ゼミナールの内容については、今年度はほとんど個別のゼミとして実施されていないため、見直しを行う。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

1) カリキュラムについて

平成26年度に実施したカリキュラムの検証と、平成27年度入学生用の新カリキュラムの作成を行う。とくに、新たに設置した必修の英語と国際コミュニケーションフィールドの検証と、次年度のカリキュラムでは、専門学校との差別化という点を考慮に入れ慎重に議論を行いたい。

2) 専門ゼミのあり方について

常に議論となっているが、今後も継続審査としたい。

3) 履修放棄制度について

より明確で説明しやすい形の方法を議論し、決定していくこととする。

4) アウトキャンパススタディ Day について

今年度、教員にアンケートを実施し、自分の講義では行う必要がないが、全体として行なったほうが良いという結果であった。補講日との関連もあり、実施する・しないから再度議論を行なっていく。

5) 欠席の考慮について

本人の責任があるかどうかで欠席の取り扱いを変えた方が良いのではという議論と、サークルや就職活動など、どこまでが本人に責任があるかの議論、さらに学生や教職員の中にも捉え方に差があり、不満が常にある。それらをどう結論づけるのかは、常に議論となっているが、結論を出すことが難しく、

今後も継続審議としたい。

6) 進級規定について

1 年次の取得単位数が極端に少ないケースなどでは、進級しないほうがメリットの大きい場合もあるが、2年で卒業したい学生に不利益が生じないように、議論を重ねることとする。

7) 大学祭でのゼミ展示について

大学祭でのゼミ展示の明確な意味付けができないまま実施されており、ゼミのあり方とも合わせて議論を重ねる。

執筆担当者 教務委員会 短期大学部主任 浜崎央

II. 学生委員会

・自主活動支援

1) 組織決定のあり方について

今年度は学生の不祥事が相次いで、それへの対応が多かった年でもあった。その処理を巡って、全学的な決定と学部間の調整という古くて新しい問題も再燃した。こうした経験を踏まえて、新しくルールが形成されていくという良い手本として機能したかと思われる。全学学生委員会を、他大学に見られる全学組織である懲罰委員会に対応するものと考えたことになった。

全学に関わる内容の決定機関は全学委員会とし、そこで結論を出せない場合は全学協議会に上げ判断を仰ぐ事になるが、通常は全学委員会として決定することになっていることを確認した。各学部だけの課題については、各学部教授会が最終決定機関になるのは当然のことである。

2) 学友会活動のあり方について

学友会活動の執行部の選出やその人数についても、三学部でほぼ同様のシステムが出来てきている。その結果それぞれの学部特有の課題解決に尽力するとともに、全学共通で取り組むべき課題に関しても、意見を統一しながら実行していくというスタイルが確立しつつあると思われる。昨年度は短期大学部において、自分たちが抱えている独自課題の解決を図ろうと、前年度に引き続き学長への要求実現への交渉を求めてきた。それが採光をも考慮した、ロッカー設置へと結びついた。まさにカスタマーからパートナーへの移行を示す、画期的な一コマとなった。これが日常の学習活動にも波及することを期待している。

3) 学生の自発性・自主性の発揮

今年度、松本大学新聞（学生が発行しているという意味で「松本大学学生新聞」とでも名称変更をした方が良くように思われる）の装丁が一新された。これまでのスタイルを踏襲することが多い中で、思い切ったイメージ・チェンジが出来たことは、学生の潜在能力の高さを示すものであったように思われる。これからも節度を踏まえながらも、自らの感性も大事にした活動の展開を期待したい。

1. 全学学生委員会

平成 25 年度、全学学生委員会は各学部より選任された学部主任 3 名及び委員である教員 3 名（各学科より 1 名）、学生課長及び学生課職員 4 名によって構成され、大学および短期大学部合同で計 14 回の全学委員会（臨時を 3 回含む）を開催し議論を重ねてきた。

(1) 年間計画 < P >

学生委員会では正課教育と課外活動が大学教育の両輪であるとの認識のもと、昨年度までの積み上げをもとに、課外活動全体の活性化を図ってきた。こうした学生の活動の活性化に伴い、学生からの要望もこれまで以上に多様なものとなっており、学生委員会による課外活動への援助は重要なものと位置付けられるようになってきている。

このような事情も踏まえ、全学学生委員会では平成 25 年度の計画を以下のように立てた。

- 1) 学友会活動の支援
- 2) クラブ活動の支援および制度の整備
- 3) 不正乗車の撲滅に向けた取り組み、及び学内における盗難等への対応
- 4) その他（主に学生の生活支援）

(2) 現状の説明 < D >

1) 学友会活動の支援

本学には短期大学部、総合経営学部および人間健康学部の各学部に、学生の自治組織である3つの学友会が存在している。この各々による独自の活動に加えて、全学的な連携を取り、積極的に活動を行ってきた。今年度、全学的に取り組まれた主な行事は、以下のとおりである。

- ・3学部合同新入生歓迎会（4月6日）・・・おもにクラブ・サークルの紹介
- ・松本子どもまつり（5月3日）・・・地域の子どもに対する記念手形づくり
- ・花火大会（7月5日→12日？）・・・学内での花火大会
- ・松本ぼんぼん（8月3日）・・・湘北短大友会も招いて松本大学連として参加
- ・上高地ハイキング（8月9日）・・・体育局で企画・運営
- ・大学祭（10月19日、20日）・・・テーマは「NEXT ～New & Thanks～」
- ・焼き芋大会（12月13日）・・・短大側中庭にて実施
- ・学友会3学部合同リーダーズキャンプ（2月10日）
 - ・・・3学部学友会役員が来年度活動について議論
- ・学部・短大合同スノーボード教室・・・爺ヶ岳スキー場にて開催し、約30名が参加
- ・学友会新聞「Page. 1」の作成（6月、12月）・・・今年度から装いを冊子型に変えて出版
 ウェルカム・パーティー、まつもと子どもまつり、総合経営学部・人間健康学部合同体育大会（延べ2回）、上高地ハイキング、花火大会、松本ぼんぼん（湘北短期大学との交流会含む）、大学祭「第47回梓乃森祭」、3学部交流会、学友会主催スノーボード教室、学友会学内放送、及びフリーペーパーの発刊

以上の行事等を通し、3学部の学生間の交流が図られ連携が強化された。

2) クラブ等の活動の支援

- ・これまで本学には、クラブ等の課外活動に関する運営要綱等が存在していなかった。今年度、本委員会、及び学友会組織であるクラブ協議会が中心となり「松本大学課外活動団体運営要綱」を作成し、クラブ協議会総会においても承認され、来年度（平成26年度）より施行されることとなった。
 また、課外活動団体運営要綱が運用されるに伴い、クラブ等の部長については学長より担当される先生方に委嘱されることとなる。
- ・学生の自主的な活動であるクラブ活動における「リーダーの育成」を目的とし、例年通り、「松本大学クラブ協議会リーダーズキャンプ」を開催した。
- ・新規の同好会として、カフェ愛好会、中国語同好会、及び囲碁同好会の結成を審議・承認し、必要に応じた支援を行った。
- ・強化部・重点部の監督・コーチ等の選定・継続について必要性の検討、選考においては面接等を行った。また、学外指導者規程（内規）に基づき、学外指導者の更新を行った。
- ・強化部及び重点部の遠征に係る旅費規程について、「野球部の遠征に係る旅費規程（H14. 8. 28 事務局長及び事務長協議）」及び「強化部・重点部・強化選手補助一覧」（学生課作成）について、運用の確認と一部検討を行った。その結果、これまで野球部のみの遠征に係る旅費規程であったものを、「強化部及び重点部の遠征に係る旅費規程」として運用すること、これまで記載のなかった（強化選手補助規程には明記されている）補助金額の上限を明記すること等が確認され、全学運営会議に上程、承認された。

併せて、引率する教職員に対する、通常の出張手当に加えて特殊勤務手当等については、さまざまな事情が考えられることから全学運営会議で検討され、廃止されることとなった。

- ・スポーツ特待生の継続審査を行った。
- ・後援会に対し、海外で行われる世界大会・それに準ずる大会に学生が参加する場合の補助規程の改訂を要望し、承認を受けた。

3) 不正乗車の撲滅に向けた取り組み、及び学内における盗難等への対応

①不正乗車の撲滅に向けた取り組みについて

- ・引き続き、本委員会において学生処分の検討、及び今後の抑止策について検討を行った。
昨年度までと同様、不正乗車の撲滅に向けた大学としての姿勢を示すことを目的とし、警告文の掲示・メール配信、オリエンテーション等での呼びかけ等を行った。また、今年度よりキャンパスルールブックには、「不正乗車 撲滅」の項目を掲載し、「不正乗車が発覚した場合には学則に則り、停学等の厳しい処分が下される」ことを明記した。
- ・また、不正乗車の再発防止策の1つとして、アルピコ交通に上高地線4ヶ月定期券の販売を要望し、国土交通省から認可されたとの回答があった。なお、販売は平成26年4月1日以降となる。

②学内における盗難等への対応

- ・部活動中に本学学生の鞆がなくなり、市内の中古品取扱店に持ち込まれるという盗難事件が発生した。本件に対する対応を行った結果、最終的に、学外者2名が補導された。
- ・学内における防犯対策を講じる必要性を確認した（危機管理委員会によって防犯カメラの設置が検討され、設置されることとなった）。

4) その他

①学生の生活支援

- ・学生の修学支援に関連し、日本学生支援機構奨学金の貸与に際した面接や対応、および急激な経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度における書類審査・面接等を行った。
- ・経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度について以下の点の変更を全学協議会に上程・承認され、26年度前期分の募集より運用が開始された。（支援期間の上限は、原則2期(1年間)とされている。ただし、3期目以降の継続を希望する場合、次の条件を備えていれば、応募を認める。）
 - a. 支援対象者数の上限に達しておらず、大学が支援を継続する必要性を認めたとき。
 - b. 直近の学期におけるGPA値が原則2.0以上であること。

②6号館トレーニングルームの運用について

平日の夜間および休日（土曜日）の使用ニーズに対応するため、昨年度に引き続きトレーニングルーム管理者の田邊専任講師（人間健康学部）にもご協力いただき学生アルバイトの任用および勤務態度の指導等を行った。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 学友会活動の支援

- ・第47回梓乃森祭を中心に、活発な学友会活動が展開されており、その後方支援を行った。

2) クラブ活動の支援

新規同好会結成への支援、及びリーダーズキャンプの実施等を行い、近年、より活性化しているクラブ活動に対し支援を行った。

- ・「松本大学課外活動団体運営要綱」が施行されるに伴い、クラブ等の顧問の業務を就業上どのように位置づけるか（手当・労災への対応）、活動中に事故が起きた場合の責任の所在など課題の存在を確認することができた。

3) 不正乗車の撲滅に向けた取り組み、及び学内における盗難等への対応

- ・本学学生による不正乗車は年々減少してきてはいるものの（昨年度5件→本年度3件）、未だ撲滅には至っていない。

4) その他（主に学生の生活支援）

①喫煙アンケートについて

喫煙アンケートの結果、学内の喫煙所については「現状維持」が多数であった。しかし、喫煙マナーの問題、副流煙や臭いについての指摘も多数あったことから、本委員会としては、将来的には喫煙室の設置や全面禁煙も検討していくべきであろうとの意見に集約された。今後の検討課題である。

（4）次年度へ向けた改善・改革に向けた方策（A）

1) 学友会活動の支援

- ・これまでと同様、正課教育と課外活動が大学教育の両輪であるとの共通認識の浸透を推し進め、より多くの学生に対し学友会活動や行事への参加を促していきたい。
- ・3学部共に、学友会活動が学生の自主的で主体的な活動となりつつあり、より積極的な支援を行っていきたい。
- ・環境保全委員会、及び防災委員会からの要望を受け、「環境局（仮称）」、及び「防災局（仮称）」の設置について学友会と検討を行っていく。

2) クラブ活動の支援

- ・引き続き、クラブ設立・運営等に対し支援を行い、クラブ活動の活発化に寄与していきたい。
- ・また、リーダー研修会等の学生が成長する機会を継続して提供していきたい。
- ・今年度、「松本大学課外活動団体運営要綱」、及び「強化部及び重点部の遠征に係る旅費規程」の整備を行ったが、クラブ等の顧問の業務を就業上どのように位置づけるか（手当・労災への対応）、活動中に事故が起きた場合の責任の所在、その他の課外活動に係わる規程などの統合等、継続した検討が必要な課題も残されている。これらの課題については課外活動検討部会（仮称）を設置し、継続して検討していく必要があるだろう。

3) 不正乗車の撲滅に向けた取り組み、及び学内における盗難等への対応

- ・安易な厳罰化による効果は見込まれないことから、学生への指導（直接、掲示、及びメール等による）を徹底していく他ない。

4) その他（主に学生の生活支援）

- ・喫煙アンケートの結果を受け、将来的には喫煙室の設置や全面禁煙も検討していくが、近々においては次のような対策を講じることとした。オリエンテーション時に説明、喫煙所周辺に張り紙をするなどして喫煙マナーの向上、禁煙への啓発を行う、喫煙所のエリアを明確に指定する、健康安全センターと連携して、禁煙支援に向けた情報提供を行う。学生への指導的な観点から、教職員に対してもバス車庫付近での喫煙を無くすよう職員の朝礼等で呼びかけを行う等。
- ・引き続き、学生のために開かれた委員会として、学生生活全般を支援していく。

執筆担当者 全学学生委員会委員長 斎藤 茂

2. 総合経営学部

総合経営学部の学生委員会は、全学学生委員会の下部組織に位置づけられ、全学学生委員でもある主任1名と学部委員5名の計6名と学生課の職員によって構成されている。学部単独の会議は1回開催したのみであった。

（1）当初の計画 < P >

学部部会においては、平成25年度において以下のような計画を立てた。

1) 反社会的行為の撲滅と生じた場合の適切な対処

- 2) 学部執行会の組織強化と事業の実施
- 3) 傷害保険の加入
- 4) 学内でのマナー徹底

(2) 現状の説明 < D >

1) 反社会的行為の撲滅と適切な処分

全学委員会と関連する議案としては、観光ホスピタリティ学科1年生が大学生協で引き起こした万引き事件がある。同件の処分について全学委員会で厳正に審議し、学長の承認を得たうえで処分の決定を得た。そのうえで決定内容を本人ならびに父兄に伝えた。以降、更生のための面接を1ヶ月のあいだ数回実施し、前例処分に合わせて処分を解除した。

2) 学部執行会の組織強化と事業の実施

執行会が主催する大学祭においてアカデミックな行事として「地域貢献大賞」があるが、例年、本学部学生の参加はほとんどみられなかったが、本年度においては観光ホスピタリティ学科ゼミの参加があった。さらに、学部執行会の初の取り組みとして平成25年度卒業生向けの卒業文集が作成され、卒業証書及び学位授与式当日に配付された。

3) 傷害保険の加入

本年度から全学部生が学研災に全員加入することとなった。

4) 学内でのマナー徹底

昨年度、研究室棟（4号館）3階エレベータ前のソファを撤去し、テーブル・椅子を配すとともに、飲食の制限など学生に利用マナーの啓蒙を図った。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) については処分を受けた学生は心身的に問題のある学生で、今後、観光ホスピタリティ学科での要観察処分となった。例年みられる上高地線の不正乗車については本学部については今年度みられなかった。

2) について、「地域貢献大賞」への参加、卒業文集の作成など新しい取り組みとして評価できる。

3) 学研災への加入により、当学部学生に対しても他学部学生との同等レベルの安全環境を整えることができた。

4) マナー違反の学生に対し、その場での学部教員からの指導の徹底、必要に応じた掲示等を実施した結果、一部に不十分なところもあるものの、おおむねマナーを守った利用がみられた。

(4) 成果と今後の改善点 < A >

1) については学生への注意喚起を促しながら、引き続き、問題の発生を防ぐ。

2) については今後、より多くの参加を促進していくとともに、発表内容の充実を図っていく。

3) については継続していく。

4) については、その場その場での指導、注意喚起が必要になり、そのため学生委員会の教員のみならず、全学部教員の協力・意識の統一が必要になる。そのため学部教員の協力を得ながら、学部全体としてマナー全般の向上につとめていく。

執筆担当者 学生委員会 総合経営学部主任 兼村智也

3. 人間健康学部

平成25年度、人間健康学部学生委員会は、選任された学部主任および委員の教員3名、学生課長および学部担当の学生課職員1名によって構成され、学部単独の会議は1回のみ開催であった。

(1) 年間計画 < P >

学部部会においても、全学と同様、学友会活動やクラブ活動等の課外活動の活性化、及び、より快適な学生生活への支援を目的とし、平成 25 年度当初の計画を以下のように立てた。

- 1) 学友会活動の支援
- 2) その他（主に学生への生活支援）

(2) 現状の説明 < D >

- 1) 学友会活動の支援
 - ・人間健康学部の学友会は、執行部、学祭局、体育局、渉外局、及び報道局により構成されており、各局員が各クラスより選出されている。
 - ・人間健康学部学友会が独自に行った行事は、フレッシュマン・フェスティバル、学生大会、及び卒業文集の発刊であった。
 - ・上記に加え、他学部の学友会と協同で行ったものは、すでに、全学学生委員会で記されている。
- 2) その他（主に学生への生活支援）
 - ・交通防犯講話を実施した。
 - ・人間健康学部では 21 年度より、在学生全員が大学生協の「学生総合共済」に必ず加入することになっている。今年度も必要に応じて、加入者の確認や未加入者への呼びかけを行った。
 - ・不正乗車の問題については、今後は全学において処分等の決定を行う（部会においては事前検討をしない）。

(3) 点検・評価の結果 < C >

- 1) 学友会活動の支援
 - ・学部の枠を超えた学友会活動が活発に展開され、その支援を行った。
- 2) 学生の安全確保について
 - ・事故・防犯についての後方支援が実施できた。

(4) 次年度へ向けた改善・改革に向けた方策 < A >

- 1) 学友会活動の支援
 - ・学友会活動が学生の自主的で主体的な活動となりつつあり、より積極的な支援を行っていきたい。
- 2) その他（主に学生への生活支援）
 - ・学生の状況を把握した上で、交通防犯講話等も継続して実施していく。
 - ・本学部では、在学生全員に学生総合共済（又は同等の保険）への加入を義務づけており、来年度以降も必要に応じて加入者の確認や未加入者への呼びかけを行っていく。
 - ・学部としても、様々な機会を通じて不正乗車の撲滅に向けた取り組みを行っていく。
 - ・禁煙および喫煙マナー（歩きタバコやポイ捨て）の指導を継続して行っていく。

執筆担当者 学生委員会 人間健康学部主任 斎藤 茂

4. 松商短期大学部

平成 25 年度、短期大学部学生委員会は、選任された学部主任 1 名および委員の教員 3 名、事務局 2 名（課長、担当職員）によって構成され、短大部単独の会議は 7 回開催された。

(1) 年度当初の計画 < P >

松本大学松商短期大学部学生委員会の平成 25 年当初の計画は以下の通りであった。

- 1) 学生の自主活動の支援

- ①学友会活動の支援
- ②サークル活動の支援
- ③自分探しと他者理解のきっかけや場の提供
 - 2) 学生生活における健康・安全
 - 3) ルール・マナーの教育

(2) 現状の説明 < D >

1) 学生の自主活動の支援

①学友会活動の支援

松本大学松商短期大学部の学友会はおよそ 40 名で構成される常任委員会がリーダーとなって以下のようなイベントを行った。

a) 松商短期大学部学友会単独で行ったイベント

- ・新入生歓迎会（4 月 6 日）・・・短大生に対する新入生歓迎イベント
- ・松商短大夏の大運動会（7 月 3 日）・・・やまびこドームにおいて開催
- ・湘北短大リーダーズキャンプ参加（8 月 20 日、21 日）
 - ・・・湘北短大内：短大生 15 名（うち学部生 2 名）、教職員 3 名が参加
- ・松商短大秋のゼミ対抗戦（11 月 13 日）・・・松本市総合体育館において開催
- ・学友会常任委員改選（11 月）・・・選挙および互選により決定
- ・次期学友会リーダーズキャンプ（12 月 21 日）
 - ・・・学友会役員と次期役員が集まり、次年度活動の構想などを相談
- ・「学友」の発行（3 月）・・・教職員や学生が寄稿

b) 松本大学総合経営学部および人間健康学部学友会と共同で行ったイベント

②サークル活動の支援

平成 25 年度の短大部のサークルは以下の通りであった。

- ・バスケットボール
- ・バレーボール
- ・フットサル
- ・ファッション

なお、大学部クラブ協議会に属する団体に短期大学生が所属する場合は、その団体に対して予備費から分担金を拠出した。

本学および後援会の支援を受けて参加した大会は以下の通りである。

- ・全国私立短期大学体育大会（8 月 5-8 日）
- ・長野県私立短期大学体育大会（9 月 14 日）

前者にはバスケットボール、バレーボール、バドミントン、および、卓球のサークル員、計約 40 名が参加し、女子卓球では団体とダブルスで第三位という好成績を収めた。後者にはバスケットボール、バレーボール、および、バドミンントンのサークル員、計約 30 人が参加した。女子バレーボールが優勝、女子バドミントンと女子バスケットボールが準優勝、男子バスケットボールが第三位という好成績を収めた。

その他、初の試みとして、湘北短期大学に出向き、男子バスケットボールの交流戦を行った（12 月 14 日）。試合には負けたものの、その後、同学女子バスケットボール部員を含めた交流試合や、軽食を食べながらの懇親会も開かれた。

③自分探しと他者理解のきっかけや場の提供

学生が他者との関わりを通して、能動的、および、責任感や自覚のある活動をすることができるよう指導するため、以下のようなイベントを行った。

- ・リーダー研修会（9月19日、20日）

今年度は、1日目をうみてらす名立（新潟県上越市）、2日目をラボランド黒姫（長野県信濃町）で実施した。

- ・ウェルカムフェアでの学生スタッフ起用（3月15日）

2) 学生生活における健康・安全

学生の健康は健康安全センターが担当し、心理面では嘱託非常勤のカウンセラーもおり、さらに24時間電話対応の外部業者による健康相談も利用した。また、1年生に対しては本学保健師による禁煙講習も行った。

交通安全および防犯についての講習は入学直後のオリエンテーションの中で松本警察署から講師を派遣していただき実施した。年度末のオリエンテーションでは消費者生活センターの協力のもとネット詐欺など悪徳な商法について講習を行った。

3) ルール・マナーの教育

ルールやマナーは入学直後の1年生オリエンテーション内で「松本大学キャンパスルールブック」を用いて伝えた。また、電車の不正乗車などについては後期オリエンテーションや進級オリエンテーションの中で厳重に注意を与えた。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 学生の自主活動の支援

学友会は常任委員長を中心に各局との連絡を密にして活動した。他学部と共同して活動することが質の高い活動につながっているのかもしれない。しかしながら、短大学友会のみで活動するときにはたどたどしい雰囲気強いのもう少し教職員側の支援が必要なかもしれない。

サークル活動は大会での好成績もいくつかあり、活発な活動を反映しているのであろう。これが継続することを期待したい。

リーダー研修会は今年度も改良を目指して場所や内容を変化させた。参加しているゼミ長・副ゼミ長がリーダーシップを発揮できる場を提供できるかが以前からの問題である。ウェルカムフェアは希望者などにスタッフを任せ、新入生へのアドバイザーなどを経験できる貴重な場となっている。

2) 学生生活における健康・安全

学生の健康や安全については一定の対策ができていると思われる。今後、必要と思われるものは積極的に取り入れていきたい。

3) ルール・マナーの教育

今年度も電車の不正乗車が1件発生したのが悔やまれる。これまでの事例ではしばしば7月に発生していることから、3ヶ月の定期券が切れるタイミングが関係しているようである。そのため、そのようなタイミングで学生に注意喚起したほか、全学学生委員会としてアルピコ交通に4ヶ月定期券を作ってもらおうよう要請した。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

次年度に向けては次の項目について改善・改革を検討していく。

1) 学生の自主活動の支援

2) 学生生活における健康・安全

3) ルール・マナーの教育

執筆担当者 学生委員会 短期大学部主任 川島 均

III. 就職委員会

1. 全学就職委員会

全学就職委員会は、平成 24 年度より新設された委員会であり、平成 25 年度で 2 年目の活動となる。3 学部の就職委員会主任 3 名と委員 3 名、及び事務局 2 名（課長、職員 1 名）及び委員長で構成され、委員長には平成 24 年度に引き続き短大部就職委員の藤波が就いた。会議は 5 月と 11 月に開催した。

本委員会の目的は、各学部及び大学院研究科で共同して行う就職支援活動の調整にある。

(1) 年度当初の計画 < P >

全学就職委員会としては各部及び大学院研究科の就職支援活動についてその特色、すなわち文系 4 大、理系 4 大及び大学院、そして短大があることを勘案し、具体的な計画は各部に一任することとした。

共同で行う就職支援としては、

- 1) 7 月、12 月、2 月に行う学内合同企業説明会について、例年通り行うこととした。
- 2) キャリア・カウンセリングについてはそのあり方を検討することとなった。
- 3) 就職先の開拓として、以下の企業の開拓を目指すことは従来通りである。
 - ①メンタルケア配慮が出来ている企業、中小企業（総合経営学部）
 - ②県外企業や優良企業（人間健康学部）
 - ③地元根付いた中小企業等（短大部）
- 4) キャリアセンターの閉館時間は昨年度同様、5 月 7 日～7 月 26 日、17 時～18 時に延長した。

(2) 現状の説明 < D >

- 1) 全学が共同で行う学内合同企業説明会については、12 月が大企業中心、2 月、7 月が地域の企業中心に行うことが例年の内容となっている。これは大企業は採用計画が早期に設定され、採用活動への取組も早いこと、また、地域の企業は大企業の後に採用活動を活発化させる傾向があることを踏まえた結果となっている。
- 2) キャリア・カウンセリングについては検討の結果、実施の方法面について改善することとし、具体的にはカウンセラーの県内人材へのシフトを行うこととし、採用活動を行った。
- 3) キャリアセンターの企業開拓は課長以下の職員によって県外企業への出張等を含めた活動を行っている。
- 4) 閉館時間は予定通り実施した。

(3) 点検・評価の結果 < C >

- 1) 学内合同企業説明会については、昨年度同様に開催された。3 月、4 月に合同で行われた集団討論・集団面接対策講座については、昨年度に参加者が 25 名となったが、今年度は昨年度の参加者が少数であったことから実施を見送った。一方、今年度は業界研究会を 11 月から 12 月にかけて 7 回行った。その参加合計人数は 490 名である。
- 2) キャリア・カウンセラーについては、県内人材の採用活動を行い、19 名を採用し、県外のカウンセラー 31 名中 21 名について契約を打ち切り、10 名に契約の継続を依頼した。
- 3) キャリアセンターの企業開拓についても、少ない人員の中で相応の成果を上げており、学内の個別企業説明会は前年比 9 社減の 57 社となり、これによる内定者数も前年比 7 名減の 60 名であった。

また、企業訪問は前年比約 130 社減の 428 社で、県外は新潟県は前年比 10 社減の 20 社、山梨県は前年比 5 社減の 13 社であった。
- 4) キャリアセンターの閉館時間は、5 月 7 日から 7 月 26 日まで、17 時から 18 時に延長された。

(4) 次年度に向けた対応 < A >

全学就職委員会としては各部及び大学院研究科の就職支援活動についてその特色、すなわち文系4大、理系4大及び大学院、そして短大があることを勘案し、従来通り、具体的な計画は各部に一任することとした。

1) 共同で行う就職支援としては、6月、3月に行う学内合同企業説明会があり、これを適切に開催する。また、個別企業説明会の回数は増加を目指す。

そして、平成25年度から始めた全学合同の業界研究会は平成26年度も継続する。

2) 平成25年度に見直しを行ったキャリア・カウンセリングについてはキャリア面談と名称も変更し、県内人材に一部シフトしたカウンセラーについて学生のアンケートを中心にその状況を点検することとする。

3) 就職先の開拓としては、引き続き、キャリアセンターにおいて①メンタルケア配慮が出来る企業、中小企業（総合経営学部）、②県外企業や優良企業（人間健康学部）、③地元根付いた中小企業等（短大部）を開拓することを目指すことは従来通りである。

4) キャリアセンターの閉館時間については、平成25年度同様、5月7日から7月24日の間、18時まで延長することとする。

執筆担当者 全学就職委員長 藤波大三郎

2. 健康科学研究科

(1) 年度当初の計画・実績 < P・D >

大学院生の就職支援については、専門性を活かした仕事のできる就職先を紹介できるかという点にある。また、定員が少ないということで、どうしても個人指導にならざるを得ない点がある。専門性の高い大学院であるから、大学院生が描く将来像は、かなりしぼられてくる。したがって、彼らの希望に添える就職ができるように支援体制を整えることが急務となっている。

以上を踏まえた上で、平成25年度の支援活動は、求人企業の紹介や合同企業説明会の案内などは、学部の学生と同じように実施し、また、大学院生ではあるが、就職活動の基本的な点（履歴書の書き方、エントリーシートの添削、面接練習など）は学部生と同様の指導を実施した。その上で、研究科の教員と連携して、きめ細やかな個別支援を実施した。

平成25年度の修士修了者は、8名であったが、その内2名は社会人であったため、実際に就職活動を行った院生は6名であり、全員が就職することができた。大学の助手が1名、専門を活かした職種に就いた者は3名、営業職が1名、事務職が1名という実績であった。

(2) 点検・評価の結果 < C・A >

研究者が2名生まれたこと（大学教員、研究所研究員）は、本学にとって嬉しい結果であった。今後、研究者として就職できる院生が増えることが期待される。また、専門職（管理栄養士、運動指導士）として就職した院生もあり、院生の就職モデルの一つとなる結果であった。

一方、営業職と事務職に就いた院生は、自分の専門性を活かすことができると考えた上での就職であった。今後、このような形の就職、つまり、専門職ではないが、自分の専門性を活かせる職場を選択するケースが増えてくるのではないかと考えられる。これからは、修士修了が希望の就職先を探す鍵となる時代がくるかもしれない。

院生の就職支援のポイントとしては、1年間に修了する院生の数が10名前後と少人数であることを生かして、大学院生の個別支援を強化し、個々の希望に添った求人開拓を実施するということも考えられる。キャリアセンターと研究科教員との連絡を密にして当たれば、院生の期待に応えられる就職支援ができるのではないかと確信している。

執筆担当者 就職委員会 健康科学研究科主任 根本賢一

3. 総合経営学部

本年度は、全学就職委員会に参加する主任1名と委員1名と総合経営学科2名、観光ホスピタリティ学科3名、事務局（課長、職員2名）で構成され、会議は月1回開催し、年間11回開催した。

(1) 年度当初の計画 < P >

平成25年度就職委員会総合経営学部部会の重点課題は、「就職実績の質および量の向上に向けた改善努力」であった。

具体的な業務改善計画は、次の通り。

①自己のキャリアを考えさせる機会の拡充

「キャリア形成Ⅰ（基礎）」（2年次）、「キャリア形成Ⅱ（応用）」（3年次）、「キャリア形成Ⅲ（実践）」（4年次）などキャリア関連科目を通じて、個々の学生に自己のキャリアを考えさせる機会を拡充していく。また、これまで以上に、学生の進路決定に際して、教職員のコミットを深めていくようにする。

②キャリア関連科目の再検討／各種講座の拡充

企業の採用活動の後ろ倒しに備えて、キャリア関連科目の内容や運営方法、各種講座の実施時期などについて再検討していく。また、業種別の勉強会など、学生の興味に応じた各種講座も拡充する

③就職実績の質的向上に向けたコンセンサスの確立

「就職支援連絡会議」を通じて、学科別にどのような就職実績を達成していくべきかについての議論を深めていく。また、それに関連して、具体的な就職支援策、就職委員の各ゼミに対する関わり方など、就職実績の質的向上を実現するための手法を検討する。

④大学全体としてのサポート体制の検討

全学就職委員会はもちろん、地域連携戦略委員会など他の委員会と連携しながら、「松本大学で総合経営学部の学びを活かせるような形での就職」を実現するために、大学全体としてのサポート体制を検討していく。

(2) 現状の説明 < D >

主な業務改善の実施状況は、次の通り。

計画①に対しては、キャリア関連科目の一部において、通常の課題とは別に「出席カード」の配布～回収～返却という取り組みを導入した。同カードは、学生が授業で学んだことや感じたことを書きためていく形式となっており、授業終了後も継続的に自己のキャリアを考えるきっかけを提供するツールとなっている。またキャリア関連科目、就職合宿、各種講座などの運営に関して、これまで以上に4年生を中心とした先輩学生に積極的な関わりを持ってもらうように協力を依頼し、普段から学生同士でも自己のキャリアについて考えられるような環境を整備することを目指した。

計画②に対しては、部会内でキャリア関連科目の内容や運営方法について継続的に議論を重ねた。採用スケジュールをはじめとした外部環境の変化だけでなく、キャリアセンターの業務負荷なども勘案しながら最適な内容や運営方法を構築していく必要があり、今後も継続的に議論を進めていくこととした。また今年度は従来の金融勉強会を拡充する形で「業界研究勉強会」を計7回にわたって開催するなど、各種講座の拡充及び学生の誘導に注力した。

計画③に対しては、10月9日に総合経営学科、そして11月13日に観光ホスピタリティ学科で「就職支援連絡会議」を開催した。各学科で個々の学生の状況を共有すると同時に、地域の方々から一目置かれるような企業、学科の学びを活かせるような企業への就職実績をあげるために、どのような取り組みを進めていくべきかについて議論を重ねた。具体的には学生の各業界・企業に対する関心を高めるために、各教員がそれぞれの授業内で就職活動に資する情報をより積極的に発信していくべきなどの意見が出された。

計画④に対しては、全学就職委員会を中心に、大学全体としてのサポート体制のひとつである「キャリアカウンセリング」のあり方について見直しが進められた。他の委員会と連携については発展途上の段階であり、今後も継続的な取り組みが必要不可欠である。

(3) 点検・評価の結果 < C >

平成 25 年度には、当初の計画に沿う形で、「就職実績の質および量の向上に向けた改善努力」を進めてきた。例えば、前述した通り、キャリア関連科目、就職合宿、各種講座など多様なチャネルを通じて、「自己のキャリアを考えさせる機会の拡充」を進めてきた。こうした取り組みの効果が目に見える形で（数字で）現れてくるまでには時間がかかるが、学生自身が大学卒業後のキャリアを真摯に考えることこそ、就職実績の向上への近道と考え、今後もさまざまな創意工夫を重ねていきたいと思っている。また「業界研究勉強会」の開催に代表されるように「各種講座の拡充」は着実に前進したと思われる。学生への告知法などにも配慮した結果、前年度と比べて参加状況も大きく改善した。今後は各種講座の開催にとどまらず、講座に参加した学生のフォローなど、就職活動の円滑化に向けてより効果的な枠組みを検討していく必要があるだろう。さらに「就職実績の質的向上に向けたコンセンサスの確立」に関しては、「就職支援連絡会議」において、それぞれの教職員が何をすべきか、何ができるかを再考するきっかけを提供できたと考えている。今後は、他大学や専門学校との差別化を勘案しながら、我々がどのような就職実績を目指すべきかについて、学部・学科内で戦略的に考えていくことが重要になってくるだろう。なお、今年度は全学就職委員会において「キャリアカウンセリング」のあり方について見直しを進めてきたが、今後は他の委員会とも連携を深めながら、「大学全体としてのサポート体制の検討」を進めていくことが重要になってくるものと思われる。以上のように、次年度以降も対処すべき課題は少なくない。

なお、平成 25 年度の総合経営学部 4 年次生（卒業生）の就職状況については、93.2%となった。継続的な就職支援の結果、前年度並みの成果を納めることができた。

総合経営学部 4 年次生（卒業生）の就職率の推移

| | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 | 22 年度 | 23 年度 | 24 年度 | 25 年度 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 就職率 (%) | 93.9 | 93.3 | 89.3 | 90.0 | 92.9 | 94.5 | 93.2 |

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

次年度は、「2014 年度事業計画」における大学全体の委員会構成の見直しの中で、キャリア教育と就職支援（企業開拓）の 2 つの役割分担を明確にすることとなった。就職委員会は就職支援（企業開拓）に特化する移行期である点を踏まえ、キャリア教育の側面を教務委員会に段階的にシフトさせながら、実際に就職活動を行っている学生一人ひとりに集中し、「きめ細かな就職支援体制を構築することで就職率の大幅な向上」を目指していきたい。そのために、以下のような改善・改革に向けた方策を取っていくこととする。

- ① 2・3 年生向けの就職活動関連の諸行事について徹底的な見直しを行い、より効率の高い就職支援体制を構築していく。特に「キャリア面談」（従来のキャリアカウンセリング）については実施の有無から再検討を行っていききたい。
- ② 公務員（警察・消防・役所など）への就職試験対策を強化する。部会内に専門の担当教員を配置し、より具体的な就職支援体制を構築していく。年 10 名程度の公務員の輩出を目指していきたい。
- ③ ゼミ担当教員との密接なコミュニケーションによって 4 年生の動向をより細かく把握する。ゼミ担当教員には月末毎に「就職活動進捗状況確認シート」の提出を依頼しているが、何らかの進捗が見られた場合には、教職員及び学生の間で速やかに連絡が取れる体制を構築していく。
- ④ 大学全体の就職支援体制の構築、とりわけ学部・学科内の全教員による就職支援体制を構築していく。例えば就職活動関連の諸行事に、就職委員のみではなく、他の教員も積極的に参加するよう依

頼・誘導をしていきたい。

執筆担当者 就職委員会 総合経営学部主任 畑井治文

4. 人間健康学部

人間健康学部では、学部が完成した平成22年度より健康栄養学科・スポーツ健康学科とも毎年の就職率95%を上回る実績を残してきた。就職決定率の数的結果はともかく、本学部学生の就職活動については、これまで総じて活動スタートの鈍さをその特徴としてあげることができる。26年度より就職活動の開始時期が3月に後ろ倒しとなることから、社会動向と相まって学生にどのように影響するか注視していきたい。学部の特性として、健康栄養学科においては管理栄養士としての専門職志向が強いこと、スポーツ健康学科においては各種スポーツ大会への参加が9月末まで続くことなど、就職活動との時期的兼ね合いがネックとなり、内定獲得時期に大きく影響している。これまで、内定数のピークが10月以後にあることから、学生に向けた活動開始への動機づけや、適期をとらえ具体的行動に向けるための方策を検討する必要がある。

平成25年度は、委員として健康栄養学科3名、スポーツ健康学科2名の教員5名と事務局3名（課長、職員2名）計8で構成され、スポーツ健康学科の教授が主任を務めた。委員会は月1回のペースで11回開催された。

(1) 年度当初の計画 < P >

人間健康学部学生の特性に合わせた就職支援

入学当初より管理栄養士、健康運動指導士、教諭免許等、資格の取得をめざし専門性を生かした職種への就職を目標としている学生は、他業種・企業への関心が向きにくい。学生の初期志望や目標を尊重し、その上で多様な職種への関心を発起させるキャリア教育、支援を進める。

1) 学部・学科の専門性や学生の特性を生かしたキャリア教育の充実

学生の関心が高い専門職・公務員行政職等について、従事者からの情報を得る機会を提供する。その上で、多様な選択肢として企業研究の必要性を理解させ、自己発揮の場の拡大と可能性について模索するなど、自立的に学習する姿勢をつくる。

キャリア関連講義において専門職に就いて活躍している卒業生を迎え授業展開し、学生の就職に対する目標の明確化を図る。同時に地元就職志向の強い学生に向け、企業研究の方法や自己内省と自己アピールへの学びを具体化させていく。

2) 学生の就職先開拓と個別支援体制の充実

県外出身学生が増える傾向に合わせ、24年度より県外就職先への開拓を進めているが、県外求人開拓一つとっても、求人口数と希望学生数との調整やマッチングの難しさがある。学生の志向と求人先とのマッチングを図る意味で、キャリアセンター職員が学生一人ひとりの状況を把握することの効果は大きい。ゼミナール担任とキャリアセンター双方において、学生の動向や意識変容の情報をキャッチするとともに、教員と職員が連携を密にし、学生情報の共有を図る。これを可能にするために、就職委員はゼミナール担任とキャリアセンターとをつなぐ役割を果たす。

3) 「キャリアカウンセリング」実施の改善と検証

入学前講座から4年にわたって学生個々に実施してきた「キャリアカウンセリング」について、26年度より名称改め「キャリア相談」としたい。継続実施について、全学就職委員会において検討し、改革案を提示し、費用対効果等課題の改善策についてその検証を重ねる。

4) 就職関連情報の閲覧改善

本学部生のキャリアセンター利用促進が課題である。人間健康学部学生が7号館キャリアセンター周辺を通路とする機会が少なく、センターが身近な情報収集の場になりづらい。求人案内情報や学内企業説明会開催案内、また各種研修など重要な情報を見逃していることが考えられる。学内における学生の

行動パターンを考慮し、6号館1階フロアーに「キャリアセンター掲示板」を設置することで、情報が日常的に目に入る環境を整える。学部教員も情報を共有することで、学生の行動の促進を図ることをねらう。

(2) 実績・現状 < D >

1) 人間健康学部学生の特性に合わせた就職支援

①学部・学科の専門性や学生の特性を生かしたキャリア教育の充実

キャリア関連科目に卒業生を迎えての講義を組み込んでいる。学生時代の姿が記憶に新しい先輩(OB・OG)が社会人となって講義する姿を間近にし、学生は2年後の自分に重ね関心を持って聴講していた。また、公務員希望者が多いことを受けて迎えた行政職(市)職員による講義では、学生が抱きがちな公務員のイメージを一新する内容であり、聞き入る学生の真剣な表情がうかがえた。

②学生の就職先開拓と個別支援体制の充実

資格取得をめざし入学する学生が多い。スポーツ健康学科では、希望職種の意向基礎調査として1・2・3の学年毎に「資格取得希望調査」の実施を開始した。科目履修登録時毎に取得希望資格の変化を把握することで、学生が資格取得の絞り込みをしている現状を知ることを狙っている。初年時からの学生の意向変遷を把握するという点でキャリアセンター職員に情報を提供し活用する資料にしたい。

③キャリアカウンセリング実施改善方策への検証

学年毎に行っている個人面談、「キャリアカウンセリング」の実施について、これまで本学部生への効果が不透明であるとの教員からの指摘があった。26年度からは、カウンセリングの名称改め「キャリア相談」とすることで実施内容の不透明感を改善していくことが決定している。そこで、実施後の学生の感想から窺い知れる具体的効果をゼミナール担当教員にフィードバックして、「キャリア相談」として継続することへの理解を求めた。なお、課題とされていたキャリア相談にかかる経費軽減については、外部委託の人材確保を、徐々に県内の有資格者採用に移行を図ることで改善に向ける。

④就職関連情報の閲覧箇所改善とイベント参加の促進

7号館2階のキャリアセンターには、多くの情報とセンター職員のサポート体制が整っている。センター有効利用のためにも、まずは学生に足を運ばせることが重要な課題である。利用率が伸び悩んでいることの原因として、本学部生にとって7号館2階通路が日常的な利用箇所(通路)ではないことも一要因であろう。興味を引く情報が目に触れる状態で開示されていることは、広報手段として有効である。日常的に目に触れることのできる場として、6号館1階フロアーに「キャリアセンター情報掲示板」を設置した。メソフィアでの伝達手段のみでなく、常に目に触れて掲示されているキャリア関連情報は、その内容を学生と指導教員が共有することでも活用することができる。合わせて、得た情報について、キャリアセンターに足を運びその詳細を尋ね相談するといった相乗効果も伺えた。

(3) 点検評価の結果 < C >

キャリアセンター職員の半数が入れ替わった今年度は、特に教職員の連携を密に取り進めてきた。全学の就職支援を担当するセンター職員からは、他学部の就職活動や内定獲得状況と比較し、遅々として進まない本学部生の動向を不安視する声が寄せられた。それを受け、教員から学生への積極的な働きかけ等により「合同企業説明会」、「就職合宿」などの参加学生数は全て前年度までの実数を上回る結果となった。

学内で開催される「合同企業説明会」に対する学生の意識は、専門を生かすことのできる関連企業の参加が少ないことなどから、参加意欲につながりづらい状況であった。そこで、学生には参加目的の枠組みを変えることを提案し働きかけることを心掛けた。専門性といった点では学生の目指す職種と直結する企業の参加は数が限られる。しかし企業の人事担当者と対面する機会を得たり、幅広い職種について企業研究ができるなど、多様な企業との出会いは学生自身の仕事意識の枠組みを広げる機会となる。

学内企業説明会については、今後も学生への参加を促すとともに、参加意欲につながる企業開拓を進めたい。また「学内単独企業説明会」では、参加した学生の内定獲得につながる確率が際立って高いことから、学生には機会を逃さず参加するよう勧める。

「夏季就職合宿」、「春季就職対策集中セミナー」を実施した。参加学生の振り返りには、充実した有意義な研修であったことが記されている。履歴書の添削指導や模擬面接に加え、特に評価が高かったのは、就職活動を終えた4年生先輩の体験談と助言を得たことであった。

(4) 次年度への改善改革に向けた方策 < A >

就職活動開始時期が3月となる年度を迎える。活動開始時期が春季休暇中という学生把握の難しい期間に入る。これに対応して、年度当初より計画的に学生の自律的な行動につながる指導を進めたい。

1) 学生に対しての方策

- ①学生時代に何をしてきたか、それによって何を得たか、どのように生かすかなど、他者とは違う自分の持ち味に気づかせていく。就職活動以前に、自己を内省することを求めたい。
- ②就職活動開始までの時間を、目標を持って計画的に進める。自身の関心の幅を広げ、そして深める意識で研究を進め、希望職種への枠組みを広げていく。希望する職業の実際はどのようなものか、そこで自分はどの機能したいのか、多角的にそして深く仕事を捉えるための研究をする。

2) 就職部会の方策

- ①キャリア教育と就職指導との住み分けが検討されている。26年度についてはこれまでの形態を継続して進めるが、キャリア教育、就職指導が混在している現行のキャリアセンター及び就職部会の職務について内容を検討整理していく。

なお、他大学の就職指導の在り方や一般的な就職活動の流れを抑える意味で、これまでの学内仕様テキストに加え、市販版テキストを配布し学習を促していく。

- ②「キャリアカウンセリング」を「キャリア相談」と名称変更して継続実施する。相談員の委嘱について県内にもその人材を求め、改善を図った初年度となる。学生の声を聞き、相談プログラムの質の維持に留意して進めたい。

執筆担当者 就職委員会 人間健康学部主任 犬飼己紀子

5. 松商短期大学部

今年度は、委員長、主任1名、委員2名、事務局2名(課長、職員)の計6名で構成され、16回会議を設けて、就職指導に当たった。

(1) 年度当初の計画 < P >

急速な人口減少社会への移行、長引く厳しい経済雇用情勢、国際的な経済競争の激化、高学歴化等を背景として、未婚率の上昇や晩婚化・晩産化が進展するとともに、就職に関する企業と学生のミスマッチが生じ、非正規雇用で働く若者が増加するなど近年の雇用を取り巻く情勢は深刻化している。このような中、経済再生の司令塔として、平成24年12月に「日本経済再生本部」(本部長：内閣総理大臣)を新たに設置し、大胆な金融政策、機動的な財政政策、そして民間投資を喚起する成長戦略という「3本の矢」で経済再生を推し進めている。これにより平成25年度は、持続的な経済成長を実現し、富を生み出して経済全体の規模を拡大することで、所得と雇用の増大に繋げることが期待される。

1) 2年生の就職活動支援

2年生の就職活動支援については、平成24年度に引き続き、就職相談・面接練習機会の増加、就職委員会からのゼミ担当教員に対する積極的な情報提供、キャリアセンター職員による企業開拓、情報整理等、様々な支援を展開することとし、また、平成24年度後期より必修科目としての「キャリアクリエイトIV」を実施することとした。

2) 1年生の就職活動支援

1年生に対しては、フリーター等で満足してしまうような学生数をより減少させるため、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイトⅠ～Ⅳ」を引き続き必修科目とし、「キャリアクリエイトⅠ」で「現代社会の理解」「働くことの意味」「高等教育機関で勉強することの意味」「学ぶことの意味」「本学で学ぶことの意味」などについて考えさせる取り組みを継続して実施し、目的意識の明確化と就業意識の形成を促すことにした。そして、「就業力」と「学士力」向上の観点から「メモを取る力」の育成を企図して「出席レポート」の取り組みと携帯メモ帳『EYE』の取り組みも継続実施することとした。

3) 保護者との連携強化

平成24年度から原則として全学生の保護者に対し、就職委員会から就職活動状況を伝える書面を6月に発送することとした。そして、8月、11月には不活発な学生の保護者のみに書面を送付し、保護者と学生に就職問題に真剣に取り組むことを促すようにする。

4) 合同企業説明会

平成21年度まで実施していた就職合宿の代替措置として、12月に総合経営学部・人間健康学部とともに学内合同企業説明会を従来どおり行い、また、2月にも従来どおり集団面接講座を実施することとした。

(2) 現状の説明 < D >

1) 2年生の就職活動支援

2年生の就職活動に関しては、日本経済の再生の兆しが見られるものの、求人件数は平成24年度の月間ベースでの比較ではほぼ横ばいであり、本学の求人票を活用しての就職活動だけでなく、リクナビ、マイナビ、ハローワーク等本学の求人以外での求人を利用して就職を決める学生が増加してきている。なお、ハローワークは、平成23年9月、新卒求人情報をインターネットで誰でもがアクセス出来るように制度を改正し、学生の利用がしやすいよう環境が整備されている。

これは、(フィールド・ユニット制の導入に伴う)学生の就職希望先の多様化を反映したものであり、また、就職委員会としても近年の就職情報産業の情勢を考慮して、こうしたルートによる就職活動も学生に勧めたことによるものと思われる。しかし、このことは本学に求人を出してくれた企業に応募しない学生が増加してきていること、また定期採用を行うような大手企業ではなく中小企業への就職を希望する学生が多くなって来ていることをも意味しており、本学がこれまで多くの学生を就職させてきたような企業との関係が希薄になることが懸念される。事実、年々金融機関を受験し就職できる学生は減少しており、JR等のこれまで多数の本学学生が受験してきた企業への応募者も減少してきている。

また、このような就職希望企業・業種の多様化は、職員が行う企業開拓や求人開拓等について問題を惹起した。すなわち、従来から本学へ求人を出す企業を受験する学生が減少したことから、事情説明と次年度への求人の継続依頼が中心になるとともに、学生が就職を決める企業に対するアフター・フォローの増加、さらには新規開拓企業に学生が受験しないという問題やそもそも就職活動をしない学生、行っても低調な活動しか行わない学生に対する支援の在り方の問題の顕在化である。

さらに、従来からであるが筆記試験に通らない学生が多数おり、この傾向は、今後も続くものと予想される。そのため、入学前教育、そして1年次における基礎学力の向上、就職試験で求められる筆記試験への対応能力強化の取り組みを行っているところである。

2) 1年生の就職活動支援

1年生に対してであるが、平成25年度は従来同様に、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイトⅠ」を必修科目とし、「職業意識・就職意識の醸成」の観点から「働くことの意味」「学ぶことの意味」「本学で学ぶことの意味」「自分が生きる時代と人生」などについて考える内容の授業を行っている。また、「就業力」と「学士力」の両者を同時に高める取組として、「メモを取る力」の育成を核とした専門教育の充実を図る取組を継続した。この取組は、汎用的能力(ジェネリック・スキ

ル) 向上の観点から、従来就職指導で実施してきた「メモを取る力」の育成の取組を、専門教育や教養教育、課外活動等にも拡大させてその育成を図る取組である。これら「キャリアクリエイトⅠ」の内容の充実および必修化と「メモ力育成」の取組は、本学学生の「就業力」と「学士力」の向上に資する取組であり、目的意識を持って積極的に就職活動に取り組む態度を育成するものである。

また、必修科目として「キャリアスタンダードⅠ」を1年前期に設置し、企業が筆記試験で要求する試験への対応を行い、学生が筆記試験に失敗した挫折感から就職活動が不活発となることを防止する措置をとっている。

3) 4) は計画通り実施した。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 2年生の就職活動支援

2年生に対する支援については、就職環境がまだまだ改善していない状況ではあるが、キャリアセンターを利用する学生の数も増え始め、学生の就職希望先企業・業種の多様化に対応するよう積極的に学生に働きかけた結果、内定率において平成23年度・24年度の93.5%を上回る94.6%を達成することができた。このことは、「年度当初の計画」で触れた日本経済再生に向けた緊急経済対策の効果により雇用環境の改善の見通しがついてきたことが一部要因であると思われる。事実、日経平均株価を見ると、平成24年10月には8,900円台だった指数が、平成25年12月には16,000円台まで回復しているのである。

一方で短大生の円滑な就職活動を阻害する大きな要因として学力の低下がある。ここ数年、多様な学生の入学に加えて学力が低い学生が増加しており、従来から入学前教育を活用して『社会教養』等のテキストを配付し、入学前の段階から基礎学力向上に力を入れてきている。さらに1年次の早い時期から一般常識・基礎学力の模擬試験を行い、学生の効果測定を行っている。就職委員会としては、単に全体的に学力が低下したのではなく、基礎学力の高い学生から低い学生までの幅が広がってきていると認識しており、全体的な基礎学力の向上を期待するものの、就職活動本番までの短期間では急速な基礎学力の向上は見込めないと考えている。そこで、学生の基礎学力や人間性、就職希望や職種希望などを総合した学生一人ひとりにあった就職支援の充実を図る必要があると認識しており、基礎教育センターや教務委員会との連携を今後もさらに強化していかなければならない。

2) 1年生の就職活動支援

1年生の就職活動支援については、上記の「キャリアクリエイトⅠ」の必修化に加えて、「就業力」と「学士力」の向上の観点から「メモ力育成」を核とした「出席レポート」と携帯メモ帳『EYE』を活用した授業改善を継続実施した。この取り組みについては文部科学省の平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム【テーマA】に「メモ力育成を核とした単位制度実質化の取組」のテーマで申請し採択され、2年間の財政支援を得て「就業力」と「学士力」向上に資する同プログラムが継続して実施された。同プログラムの2年間の財政支援は終了しているが、引き続き専門講義科目において「出席レポート」を毎回課すことで授業外学習を促し、一生懸命勉強させることで専門知識の定着と汎用的能力を向上させると考えられる。就職委員会としても、出口の段階で筆記試験に通らず、面接等でも本学の専門教育や教養教育について何も語れない学生やそもそも就職活動そのものをしない学生、行っても活動が低調な学生が多くなれば、結果として本学への入学者は減り、長期的には回復不可能な事態に至ると考えている。したがって、本プログラムも専門教育を担当する教員サイドが中心となって、就職委員会と教務委員会等との連携のもとカリキュラムの大幅な改訂を伴って実施されることになったのである。本取り組みの成果については、平成24年度同様、平成25年度もその効果は持続しているものと思われる。

(4) 次年度に向けた対応 < A >

1) 動向予想

次年度は、日本経済の再生戦略の効果が表れ始め、それに合わせて雇用環境も徐々に改善していくものと予想される。しかしながら、平成26年4月より実施される暫定消費税率8%、さらに平成26年10月より消費税率10%までの引上げの影響による買い控えなどで、景気回復の失速もありうることから予断を許さない。

また、証券会社や銀行などの金融機関は4大生志向が顕著になってきており、短大生を採用しない金融機関が増加してきているという構造的な問題はそう簡単には解決しないだろう。その他にも県内の大手企業への就職を目指す学生の減少、また学力的にこれらの企業の就職筆記試験に耐えうる学生の減少等、本学学生の就職活動を取り巻く問題は山積している。

さらには、「日本再興戦略」では、「インターンシップに参加する学生の数の目標設定を行った上で、地域の大学等と産業界との調整を行う仕組みを構築し、インターンシップ、地元企業の研究、マッチングの機会の拡充を始め、キャリア教育から就職まで一貫して支援する体制を強化」し、また「インターンシップの活用の重要性等を周知し、その推進を図っていく」とされているが、短大のカリキュラム上、インターンシップを単位化していくことにはかなりの困難を伴う。しかし、従来実施しているインターンシップに工夫を加えて、多くの学生が参加できるような環境を整える必要があるだろう。

2) 1, 2年生の就職活動支援

最も重要な課題は学生の就職活動の活発化にあるのであって、学生を「求職カードを提出した形式的な就活生」とするのではなく、「就職活動を積極的に行う実質的な就活生」とすることが求められよう。事実、平成25年度では就職関係書類発行回数7回以上で未内定の学生はひとりもいないのである。つまり、本学学生で就職できない大きな要因は、その学生の不活発な就活態度にあると思われる。学生の就職モチベーションをいかに高く維持するかが喫緊の課題である。そのために、平成24年度からキャリアスタンダードⅠに導入したクラス制を引き続き実施し、SPI試験、一般常識・基礎学力試験にきめ細かい対応が出来る講義形態とする。これによって筆記試験で挫折し、就職活動から撤退する学生の減少を目指している。また、2年後期のキャリアクリエイトⅣにより就職内定者教育を強化することとしつつ、就職活動が遅い未内定学生に対しても卒業間際まで就職支援が行えるようにしたが、この成果も着実に表れているため、平成26年度も継続していく予定である。なお、本学学生の中には集団面接、集団討論で埋没してしまう者が多いと思われ、その対策として従来同様に集団面接と集団討論の面接練習を行うこととした。これによって就職活動の不安を軽減することを目指している。

執筆担当者 就職委員会 短期大学部主任 長島正浩

IV. 入試委員会

本年度は、全学入試委員長の下、総合経営学部8名、人間健康学部5名、短期大学部4名の計18名の教員と事務局4名（室長、職員3名）で構成され、全学入試委員会にて全体的に話し合った。全学入試委員会の会議数は7回、その他総合経営学部独自で会議が3回開催された。また、入試判定会議は総合経営学部6回、人間健康学部6回、短期大学部7回開催された。

1. 全学入試委員会

全学入試委員会は、各学部・学科の代表委員計6名および入試広報室の職員により構成され、2013年度は総合経営学科代表が委員長の職を担っている。2012年度より全学委員会の機能が強化され、各学部・各学科に限定された事案であっても、全学的見地から全学入試委員会の了承を得ることとなっている。さらに2012年度より、これまでの入試関連業務に加えて学生募集業務が移管された。結果として全学入試委員会の役割は、大きく以下の3点に集約できる。

1) 学生募集関連業務

松本大学への受験者の増加を目的に、主体的な役割を担っている。大きく、a) オープンキャンパスに代表される高校生を対象にした大学内での説明会の運営、b) 大学外で実施される高校生を対象にした説

明会への参加、c)高等学校内での説明会への参加や高等学校への訪問、d)大学総合パンフレットに代表される、学生募集用各種媒体の作成、確認と発行、に区分できる。

2) 入学試験関連

入試問題の作成ならびにその確認、さらには入試当日における試験の円滑かつ失敗なく遂行する役割を担っている。また各入試制度をチェックし、必要に応じて制度の新設・変更を実施する。

3) 全学的なコントロールと調整

上記①②に関連し、各学部・各学科からの提案を審議し、承認する。またその提案が全学的に影響を及ぼすことが想定される場合には、各学部・各学科、さらには全学協議会との調整を担当する。

(1) 年度当初の計画 < P >

2013年度(2014年度学生募集)は下記項目の達成を目標とした。

1) 学外での学生募集への関与とその選別

例年どおり、より効果的に松本大学を認知してもらい、多くの高校生に関心を抱いてもらえるよう、全学をあげて学生募集説明会を主催、または外部の説明会に参加する。2014年度学生募集についてもPRの最適な方法を模索するとともに、これらに積極的に関与していく。

ただしこれまでの活動では、「なるべく多くの学生募集説明会に参加する」という傾向があった。もちろん、多くの説明会に参加するのであればそれだけ多くの高校生と接触する機会が増えるため、学生募集には一定の効果を上げるものと考えられるが、他方で昨今の大学経営を考えた場合、コストパフォーマンスも考慮する必要がある。そこで2014年度学生募集では前年度に引き続き、学外での学生募集活動に費用対効果という視点を取り入れ、効果が薄いと考えられた説明会への参加を見送ることとする。

2) オープンキャンパスの充実

学生募集における中心業務の一つにオープンキャンパスがある。これまでも毎年、その充実を図ってきたが、2014年度学生募集においても引き続き、各学部入試委員会と連携の上その内容や時間配分等の充実に努めていきたい。

また大学間や専門学校との競争の激化から、効果的・効率的なオープンキャンパスの開催についても、議論を深める。

3) WEB キャリア図鑑の充実

2013年度より、大学ホームページ内で公開しているWEB キャリア図鑑だが、まだ紹介されている学生数が少ない。そこでこのWEB キャリア図鑑の充実を図る。

4) 円滑かつ失敗のない入学試験の実施

入学試験におけるトラブルは絶対にあってはならない。そこで入試委員会各学部会と連携した上で、これまで以上に教員間、または教員と職員間のコミュニケーションを密にしてトラブルを防ぐとともに、入試問題のチェック体制を整える必要がある。具体的には全学入試委員会が入試問題チェックを担当する教員を決定し、当該者に手当を支給することで、責任を明確にするとともに、「きちんとチェックする」という雰囲気醸成したい。これにより入試問題におけるミスを防ぎたい。

5) 入学試験制度の新設と見直し

入試委員会各学部会に入試試験制度に関わる要望を提出してもらい、必要であれば新設・制度変更を検討・承認したい。

6) 入学試験検定料の見直し

昨年度より継続審議になっていたセンター試験利用入試の検定料ならびに推薦入試・A0 入試合格者を対象とした学力特待生選抜試験の検定料について、2013年度も引き続き審議する。

7) 強化部・重点部の学生推薦方法の変更

野球部、女子ソフトボール部、陸上部、サッカー部の強化部・重点部から学生の推薦に関し、混乱を招く状況も目立ち始めた。そこで新たな制度について議論する必要がある。

8) 編入学生募集の強化

2013 年度学生募集については、1 年次入学生の募集は定員を満たしたものの、他方でここ数年にわたり、編入学生の募集は不調である。そこで 2014 年度学生募集より、何らかの対策を考える必要がある。

9) 入試問題作成方法の改革と新指導要領への対応

文部科学省からの要請や認証評価との関連から、入学試験問題の作成に関し、一部変更を実施する必要がある。そのための議論を早急に行う必要がある。

10) 高校生向け授業公開の新設

学生募集の観点から、オープンキャンパスという特別な場だけではなく、「普通の大学」を見せる必要がある。そのためのツールとして、授業公開日を設定し、当該日に限定して当大学学生が実際に参加している講義を公開したい。そのための様々なルールの整備が急務である。

11) 受験時の志願および決済方法の改変

受験の志願、ならびにその際の検定料の決済方法について、さらなる多様化を進める必要がある。

12) 入学試験検定料ならびに入学金等の減免

何らかの理由により、入学試験検定料や入学金、学費の免除等が必要な受験生に対し、その免除等を可能にする全学的な制度を引き続き議論、拡充していく。

(2) 現状の説明 < D >

1) 学外での学生募集への関与とその選別

参加数については十分な回数であったと考える。ただし、残念ながら着席学生数が少ない説明会等が少なからず見られた。

2) オープンキャンパスの充実

オープンキャンパスはさらに充実したと考える。ただし、タイムスケジュールにやや問題があった。これは遠方から来学する高校生等への配慮の結果、オープンキャンパス開始時刻を 30 分遅らせたために生じた結果である。議論の結果、2014 年度学生募集より開始時刻を元に戻す（昨年度より 30 分早める）こととした。

また新潟県からの志願者が増加していることを鑑み、新潟駅からの送迎バスを新たに新設することとした。

3) WEB キャリア図鑑の充実

議論の結果、2014 年 3 月卒業生を対象に、掲載学生数を増加させることとなった。ただし議論を終えたのが 2013 年末だったため、全学のゼミ担当者に連絡の上、ゼミ担当教員が推薦できると判断した学生に関して写真と寄稿を募った。

4) 円滑かつ失敗のない入学試験の実施

事前準備の徹底と複数によるチェックを実施したが、全学で実施される一般入試問題に誤記のミスが発生した。解答や正誤に影響はないものの、反省すべき点である。これ以外に目立ったトラブルは見られなかった。

5) 入学試験制度の新設と見直し

各学部・学科の意見を参照した上、人間健康学部スポーツ健康学科の編入試験の回数を、これまでの 3 回から 2 回に減らすこととした。2015 年度学生募集から適用されることとなった。

また同じく人間健康学部スポーツ健康学科より申請のあったスポーツ推薦入試（スポーツにおいて顕著なる実績を持つ学生を対象にした推薦入試制度）については当面実施しないこととなった。

6) 入学試験検定料の見直し

継続審議になっていたセンター試験利用入試の検定料の値上げについて議論し、2014 年度学生募集より、検定料を値上げすることとなった。

併せて、推薦入試・A0 入試合格者を対象とした学力特待生選抜試験の検定料についても、これまでは

無料で受験することができたが、2014年度入学生より、検定料を徴収することとなった。

7) 強化部・重点部の学生推薦方法の変更

野球部、女子ソフトボール部、陸上部、サッカー部の強化部・重点部から学生の推薦については、すべて全学入試委員会に申請し、その後全学入試委員会が各学部・学科と調整を行うよう、手続きを改めた。申請は3回の期限を定め、また申請のタイミングによって受験できる入試区分をあらかじめ定めることとした。

併せて申請は必ず各強化部・重点部の部長が行うこととし、2013年度中に各部長を対象にした説明会を実施した。以上は2014年度学生募集より適用されている。

8) 編入学生募集の強化

議論の結果、短期大学部と長年にわたり連携している湘北短期大学に対し編入学試験における指定校推薦枠を、2014年度学生募集から付与することとした。

9) 入試問題作成方法の改革と新指導要領への対応

入試問題作題における当大学の関与を明確にするため、2015年度学生募集から、入試委員会の下に入試問題作題検討部会を設置することとなった。この部会では教科・科目ごとに本学教員を配置し、その教員が主体的に作題者に対して指示・要望を出すことになる。なお各担当者については2014年度初めに決定することとなった。

また2015年度学生募集から、その志願者は新しい指導要領に基づき教育を受けた学生となる。すなわち2015年度学生募集に関わる入試では、新指導要領と旧指導要領の学生が混在することとなる。調査の結果、大きく問題となるのは数学と理科(生物・化学)であった。そこでこれら教科の出題内容に関して、入試委員会で議論し、その方向性を決定した。

10) 高校生向け授業公開の新設

議論の結果、2014年7月と10月の計2回、授業公開を実施することとなった。またこの件に関しては全学教務委員会と連携しながら計画を進めることとなった。

11) 受験時の志願および決済方法の改変

まず出願に関してはネット出願について議論したが、これについては継続審議となった。また入学試験の検定料の決済方法としてクレジットカードを用いることが検討され、議論の結果、2015年度学生募集から導入されることとなった。

12) 入学試験検定料ならび入学金等の減免

従来からの学力特待生制度、経済的理由による特待生制度に加え、現在、時限的に東日本大震災の被災者に対する減免措置が全学で、また沖縄県の高校出身者に対する減免措置が総合経営学部において実施されている。議論の結果、これらの減免措置は2015年度学生募集においても継続することとした。また沖縄出身者に対する減免措置は、総合経営学部についてはこれまで通り実施することとし、また他学部については継続審議として2014年度に持ち越すこととなった。

なお2014年4月より、総合経営学科に1名、スポーツ健康学科に1名の計2名が、東日本大震災の被災者に対する減免措置を利用して入学する予定となっている。同制度の利用者はこの2名が初めてである。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 学外での学生募集への関与とその選別

参加数については十分な回数であったが、着席学生数が少ない説明会等が少なからずある。これが一過性のものなのか、それとも恒常的なものなのかを吟味した上で、次年度に反映させる必要がある。場合によってはさらなる学生募集説明会の選別が必要となろう。

2) オープンキャンパスの充実

オープンキャンパス参加者数は増加しており、一定の評価を与えることができる。これも各学部・各

学科が主体的に改善を行った証であろう。他方で参加者が相対的に少ない時期もあった。さらには2015年度学生募集では、近隣の専門学校との競争が激化するため、オープンキャンパスの開催時期について見直す必要がある。

3) WEB キャリア図鑑の充実

各学部・各学科ならびに各ゼミ担当者の協力により、卒業生からの予想を超える寄稿を得ることができた。ただしデータを検証すると、出身校や就職企業、さらには学部・学科にバラツキが見られた。次年度以降はこのムラを解消しつつ、併せてさらに多くのデータを集めることが必要である。

4) 円滑かつ失敗のない入学試験の実施

一般入試問題に誤記のミスの原因を調べると、確認をきちんと行っていないという単純ミスであった。確認者本人の気の緩みもあるが、今後は確認の際のポイントの明記など、試験問題確認作業をマニュアル化していく試みが必要である。なお志願者数、受験者数、合格者数、入学者数については、第2部松本大学のI学事報告ならびに第3部松本大学松商短期大学のI学事報告を参照されたい。

5) 入学試験制度の新設と見直し

スポーツ健康学科の編入試験の回数を2015年度学生募集より2回に減じるが、試験実施は今後のため、現段階では評価できない。ただし志願者はそもそも少ないため、志願者の増減に大きな影響を与えるとは考えていない。

6) 入学試験検定料の見直し

まずセンター利用入試の検定料の値上げについては、志願者数を見る限り影響はなかったと言える。すなわち、値上げにも関わらず、志願者は前年を上回る結果となった。

また特待生試験の検定料徴収だが、そもそもの理由は軽い気持ちで受験し、他の受験生の迷惑となかなかねない学生を排除することにあつた。この点から見ると、2014年度入試における特待生試験は非常にスムーズに運営されており、検定料徴収は良い影響を生み出したと考えられる。

7) 強化部・重点部の学生推薦方法の変更

各強化部・重点部から学生名簿が提出されるため、入試委員会としては非常にコントロールが行いやすくなった。同時に入試直前の推薦がなくなったため、入学許可者判定がスムーズに進むようになった。他方でこの手続きが煩雑であるためか、推薦を受ける学生数が減少した。この点については、各強化部・重点部の部長を交えた議論が必要であろう。

8) 編入学生募集の強化

2014年度より湘北短期大学に対して指定校推薦枠を付与したが、残念ながら志願者はいなかった。また編入希望者数も総合経営学科では前年を上回ったものの、他の学科では前年以下、もしくは志願者がいない状況であり、この点についても改善が必要である。

9) 入試問題作成方法の改革と新指導要領への対応

2015年度学生募集より入試問題の作成方法を変更するが、2013年度内では具体的な取り組みは行っていない。次年度の取り組みを注視したい。

また新指導要領への対応だが、化学・生物・数学の出題範囲について、それぞれ専門の教員に対して検討を依頼し、その答申を得た上で出題範囲を決定した。併せてこの情報をホームページ上で公開した。この出題範囲の適否については次年度の状況を注視したい。

10) 高校生向け授業公開の新設

2014年7月と10月に高校生向けの授業公開日を設定することとなったが、これに関して具体的な取り組みは2013年度中には実施していない。次年度における緊急の課題であろう。

11) 受験時の志願および決済方法の改変

ネット出願については引き続き情報収集を行う。また必要に応じて職員をセミナー等へ派遣する。クレジットカード決済については2015年度入試より実施のため、2013年度中に具体的な取り組みは行っていない。ただし出願・決済ともにその方法の多様化を進めることは、学生募集において有利な手法で

あると考えている。

12) 入学試験検定料ならびの入学金等の減免

東日本大震災の被災者に対する減免措置、ならびに沖縄県の高校出身者に対する減免措置については継続審議となっており、2014年6月までには意思決定がされる予定である。大学の社会的責任や学生募集上の観点から、どちらの減免措置も全学的に実施すべきと考えている。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

1) 学外での学生募集業務の選別

引き続き、学生募集説明会の選別を、コストパフォーマンスという観点から検討する。ただし学部・学科によって募集範囲が異なるため、全学的見地を維持しつつも、各学部・学科の特性に配慮した柔軟な選別を実施したい。あまりにもコストパフォーマンス第一主義になることは避けるべきであろう。

2) オープンキャンパスの充実

引き続き、オープンキャンパスの充実を行う必要がある。オープンキャンパスにはややマンネリ感も生じつつあるため、斬新なアイデアを取り込むようにしたい。

3) 認証評価に向けた入学試験の変革

2016年度に受審予定の認証評価（外部評価）に向けて、アドミッションポリシーとの関連から以下の点を改善する必要がある。第一に、推薦入試等で利用される面接試験の質問内容の改善である。現在の質問は合理的ではあるものの、アドミッションポリシーとの関連という観点から見ると曖昧さが残る。面接試験において、アドミッションポリシーとの関連が明確化できるような質問を用意する必要がある。第二に、一般入試等の筆記試験における出題内容の改善である。こちらについても現在の出題内容とアドミッションポリシーとの関係が不明瞭であるため、アドミッションポリシーに準じた出題内容を、入試委員会ならびに入試問題検討部会を中心に、主体的に考えていく必要がある。

4) 円滑かつ失敗のない入学試験の実施

まず問題チェックの手順について、マニュアルを作成する。これにより単純ミスの防止については防止できる可能性が高まるであろう。また従来通りの2人体制のチェックも継続するが、より慎重に実施するよう、教員への指示を行うと同時に、より一層のマニュアル化を進めていく予定である。同時に学外の出題者に対しては、今年度のミスの詳細を伝え、問題作成段階からミスを防ぐ必要もある。

5) 学費減免制度についての議論

学力特待制度、経済的理由による特待制度、東日本大震災被災者支援制度、沖縄出身者支援制度等の学費減免制度の拡充ならびに他の制度の新設を検討していきたい。

6) 松商学園高等学校との連携の強化

松本大学と同じ学校法人に属する松商学園高等学校との連携を強化し、同校からのより一層の志願者獲得に向けて取り組む必要がある。まずは試験的に、同校と松本大学による連携授業について検討していく予定である。

執筆担当者 全学入試委員長 上野隆幸

2. 総合経営学部

総合経営学部の入試委員会は、教員7名と入試広報室の職員により構成されている。会議は通常は2～3ヶ月に一回程度、また入学試験実施期間中は頻繁に開催される。なお2012年度より学生募集業務が入試委員会の業務に付加された。そのため、入試委員会総合経営学部会の役割は、大きく以下の2点に集約できる。

1) 学生募集関連業務

総合経営学部受験者の増加を目的に、主体的な役割を担う。大別すると、a)オープンキャンパスに代表される高校生を対象にした大学内での説明会の運営、b)大学外で実施される高校生を対象にした説明

会への参加、c)高等学校内での説明会への参加や高等学校への訪問、d)大学総合パンフレットに代表される、学生募集用各種媒体の作成、確認と発行、となる。

2) 入学試験関連

入試問題の作成ならびにその確認、さらには入試当日における試験の円滑かつ失敗のない遂行という役割を担っている。また入試結果に基づいた上で、総合経営学部受験生の合否判定においても判定会議の素案作成等の重要な役割を担う。またさらに総合経営学部における各入学試験をチェックし、必要に応じて制度の変更を実施する。

(1) 年度当初の計画 < P >

2013年度(2014年度学生募集)では下記項目の達成を目標とした。

1) 系列校からの進学者の増加

系列校である松商学園からの進学者の増加は、学生募集という観点からは非常に有意義であり、また質の高い学生を多く獲得できるといったメリットがある。他方で人間健康学部の創設以降、総合経営学部への松商学園からの進学者はやや低迷しているといえる。そこで松商学園との連携をより一層強め、同校からの進学者の増加に努めたい。

2) オープンキャンパスの充実

学生募集における中心業務の一つにオープンキャンパスがある。これまでも毎年、その充実を図ってきたが、2014年度学生募集においても、引き続き全学入試委員会と連携の上、その内容や時間配分等の充実に努めていきたい。

3) 総合経営学部のイメージの明確化

総合経営学部に入学者の多くは、「松本大学でこれを学びたい」という考えを持っておらず、他方で「地元の大学だから」といった理由で入学するケースが多々見られる。これには多くの原因があるものの、その一つに総合経営学部、そして総合経営学科と観光ホスピタリティ学科のイメージが明確化していないことがあげられる。そこで総合経営学部と各学科のイメージを明確化することを考えたい。

4) 総合経営学科の新しいカリキュラムのアピール

総合経営学部総合経営学科のカリキュラムが2013年4月より変更となった。その中核は「生活マネジメント」という分野を取り入れたことであろう。これはこれまで以上に女子学生の入学者を増加させたいという狙いもその背景にある。そこでこの生活マネジメントも含めた総合経営学科の新しいカリキュラムを、引き続き高校生に強くアピールしていくことに努めたい。

5) 指定校推薦枠の見直し

引き続き、指定校推薦枠・基準の見直しを行う予定である。学生募集の状況にもよるが、必要であれば指定校推薦入試の評定基準の引き上げや人数枠の縮小もタブー視せずに取り組みたい。

6) 入学試験における教科・科目の変更

引き続き、入試教科・科目の変更を検討する予定である。受験者数を勘案しながら、不要な教科・科目は廃止し、他方で受験者数増加が見込まれる教科・科目については新設するなど、大胆に取り組んでいきたい。

(2) 現状の説明 < D >

1) 系列校からの進学者の増加

系列校である松商学園からの進学者を増加させるべく、全学入試委員会とともに松商学園との連携を強化した。松商学園が実施する大学説明会への参加はもちろんのこと、当大学単独で松商学園の教員や生徒への説明会を実施する、また進路担当者として密に連絡を取り合うなどを試みた。

2) オープンキャンパスの充実

各学科で実施されるミニ講義や体験講座の内容やそのタイトルについて議論した。その結果、内容のみではなくタイトルも含め、ミニ講義や体験講座について大きな改善を実施した。

3) 総合経営学部のイメージの明確化

総合経営学部のイメージの明確化は、言い換えれば総合経営学部が何を「売り」にするかという点である。しかもその中で両学科の共通性と差異をそれぞれ明確にする必要がある。この点を考慮しつつ、入試広報室の職員の協力も得て、総合経営学部の売りに関する議論を行った。その結果、「地域で生活し、地域で働き、地域に貢献し、そして地域とともに成長する」というキーワードが生まれ、またこの目標を、昨年度と同様に総合経営学科は個人の視点から、観光ホスピタリティ学科は社会の視点から学ぶということをアピールすることとなった。

4) 総合経営学科の新しいカリキュラムのアピール

オープンキャンパスにおける学科説明ならびに学外での各種説明会において、昨年度と同様に女子学生を主ターゲットとして生活マネジメントをアピールした。

5) 指定校推薦枠の見直し

指定校推薦枠の見直しの必要性を確認すべく、審議を実施した。その結果、高等学校をランク別（5ランク）に分類し、ランクごとに評定値基準を付与することとなった。これにより高等学校のランク等の実情と大きく乖離する部分も見られた指定校推薦枠ならびに基準値が、例外なく実情とリンクした矛盾のないものに変更された。なお、この指定校推薦枠・基準等は 2014 年度学生募集から適用されている。

6) 入学試験における教科・科目の変更

前年度に入学試験における教科・科目の変更を実施したため、2014 年度学生募集においては変更を実施しなかった。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 系列校からの進学者の増加

系列校である松商学園からの進学者数を見ると、2014 年度学生募集では総合経営学科において大きな改善がみられ、前年度の 12 名から 20 名へと志願者が急増した。この志願者数は過去最高の人数である。他方で観光ホスピタリティ学科においても前年度を上回る志願者がみられたものの、その数は低調である。総合経営学科はこの水準を維持しつつ、いかに観光ホスピタリティ学科への進学者を増加させるかについて、次年度以降対策を講ずる必要がある。

2) オープンキャンパスの充実

改善の結果、高校生に対するわかりやすさという点では非常に効果的であったと考える。事実、オープンキャンパスにおける動員数が増加しており、これはより魅力的なミニ講義や体験講座をアピールできたことが大きいと考えている。

3) 総合経営学部のイメージの明確化

昨年度よりもイメージを明確化した学部・学科紹介が実施できたと考えている。しかしまだ曖昧さも残るため、より高校生に受け入れられやすいイメージの明確化が必要であろう。

4) 総合経営学科の新しいカリキュラムのアピール

昨年度にも増して新しいカリキュラムのアピールを行い、この点では評価できる。ただし残念ながら 2014 年度入試における女子学生の志願者数は減少している。次年度以降も新しいカリキュラムの魅力について、さらに積極的なアピールが必要であろう。

5) 指定校推薦枠の見直し

指定校推薦に関わる新しい人数枠・基準値は、概ね枠数の絞り込みと評定基準値の引き上げを実施した。そのため指定校推薦入試の志願者が減少することが懸念されたが、2014 年度入試においては昨年度を上回る志願者がみられた。すなわち、指定校推薦入試の人数枠・基準値の変更は学生募集に対して悪影響を及ぼすことがなかったと判断している。他方で人数枠の減少、または基準値の引き上げの対象となった高等学校からは、クレームとまではいかないものの、不満の声も耳にすることがあった。その大

きな理由は高等学校への連絡の時期が遅いことにあるようである。指定校推薦入試に関して変更を行う場合は、早い段階から当該高等学校へ非公式であっても情報を伝えておくべきと反省している。

6) 入学試験における教科・科目の変更

入学試験における教科・科目の変更を実施しなかったことによる問題・課題は生じていない。ただし近年、地理の受験者が大きく減じている。他方で観光ホスピタリティ学科では地理の教員免許状の取得が可能である。このような事情を十分に考慮しながら、地理の扱いについて中期的なスパンで検討する必要がある。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

1) 系列校からの進学者の増加

観光ホスピタリティ学科への進学者を増加させるべく、松商学園とのより緊密な連携を模索する。さらに教員・高校生に対する説明会の場でも、観光ホスピタリティ学科の魅力をいっそう PR する。

2) オープンキャンパスの充実

次年度も引き続き、各学科の特徴(3要素)を訴求できる内容の講義・講座を提案すべく、議論していく。同時にキャッチコピーにあたる見出しについても再検討を実施する。さらに講義・講座を各学科で考案するのではなく、入試委員会総合経営学協会が主導する形で新たなプログラムを提案していく。

3) 総合経営学部のイメージの明確化

引き続き高校生に対して訴求していく。そのためには各説明会においていきなり各学科の説明を行うのではなく、まず学部の説明、次に総合経営学科と観光ホスピタリティ学科の共通点と違いについて説明した後、各学科の詳細説明となるよう、説明の方法にも変更を加える。

4) 総合経営学科の新しいカリキュラムの PR

引き続き高校生に対して訴求していく。ただし今以上に有効な訴求方法が見当たらないため、入試委員会総合経営学協会にて、その方法を検討する。

5) 指定校推薦枠の見直し

2014年度学生募集の結果、ならびに2015年度学生募集の進捗状況等を鑑み、必要に応じて見直しを図る。とりわけ松本大学総合経営学部を取り巻く環境は激変しているため、柔軟な対応ができるよう、あらかじめ体制を整える必要がある。

6) 入学試験における教科・科目の変更

入学試験における地理の扱いについて、学部・学科内で議論を進める予定である。

執筆担当者 入試委員会 総合経営学部主任 上野隆幸

3. 人間健康学部

平成25年4月、健康栄養学科には92名、スポーツ健康学科には102名が入学した。健康栄養学科では3期生の管理栄養士国家試験の合格率が52.4%（全国管理栄養士養成課程平均合格率82.7%）、スポーツ健康学科では健康運動指導士の合格率は62.5%であった（合格者：15名/24名、全国平均合格率：53.1%）。大学を取り巻く社会環境としては、平成27年度には大原専門学校松本校が開校され、平成30年度には長野県立大学の開校が予想される。受験に関しては、昨年度よりも18才人口が減少している。しかし、文部科学省の学習指導要領の改正でいわゆる「ゆとり教育」が見直されて、特に理科や数学では科目内容の大幅な改訂が行われた。したがって、今年度の受験生は浪人すると不利になるので、多少レベルを落とすとしても、現役で合格を目指すといわれている。一方、河合塾の受験生統計から、食物・栄養系の志望者が全国で約4千人減少していることが示され、健康栄養学科では受験生の減少が危惧された。平成25年度は、こういった状況を見極めながら、入学者数に気をつけながら、より質の高い学生を獲得するために活動した。

(1) 年度当初の目標 < P >

- 1) 入試区分及び高等学校の評定値と入学後の成績・異動状況等を分析し、指定校枠の選別と評定値の設定を行う。
- 2) 年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく。
- 3) A0 入試改革 (スポーツ健康学科)。
- 4) スポーツ推薦入試の導入 (スポーツ健康学科)。
- 5) 推薦入試改革。
- 6) 入学後のミスマッチを起こさないように、高等学校の先生に、本学部として求める人材像及び必要履修科目を説明する。
- 7) 編入学受験者の増加を目指す。
- 8) キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する。
- 9) その他

(2) 目標に対する実施状況 < D >

- 1) 入試区分及び高等学校の評定値と入学後の成績・異動状況等を分析し、指定校枠の選別と評定値の設定を行う。

健康栄養学科では、1～3 期生の管理栄養士国家試験合格結果を基に、合格者の本学入試区分・出身高等学校での評定値・本学の管理栄養士必修科目での GPA、就職決定時期、全国模擬試験での偏差値等に関する詳細な分析を行った。また、スポーツ健康学科においても、これまでの全入学者の GPA 値や異動 (退学者・休学者) に関する分析を同様にを行った。その分析結果に基づいて、推薦入試の指定校枠・指定校評定値の見直しおよび公募推薦での評定値を変更した。また、指定校枠・評定値については、各学科会議での確認と相前後して、入試広報室との議論を通して作成した最終案を教授会に上程し、承認・決定された。

また、入試広報室には、高等学校別に指定校取り消しや評定値や人数の変更などについて細かく説明を行ってもらうこととした。

- 2) 年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく。

両学科会議において、本年度入試の方針について議論した。健康栄養学科では、2 年連続で定員の 110 % を超えないようにするため、年内入試の推薦入学と A0 入試による入学者を減少させて、年明けの一般入試とセンター入試で入学者数を調整する方向が確認された。基本的には、年内 40～43 名、全体で 80～88 名をめざすことが確認された。また、スポーツ健康学科では、休退学者や成績下位者が多い A0 入試・推薦前期入試による入学者数を減少させることが確認された。最終的に年内 65 名、全体で 99 名程度の学生をめざすことが確認された。また、強化部・重点部の特待生以外は、合否判定は原則入学試験成績によるものとし、学生データをもとに算出された統計学的解析結果は、合格ボーダーライン前後で参照されることがあると確認された。一方で、良い成績が期待される学生は数にこだわらず合格させることも確認された。

- 3) A0 入試改革 (スポーツ健康学科)。

A0 入試説明会において、両学科とも A0 入試が推薦入試を受ける基準に到達していない人のための受験形態であるというのは間違いであり、かなり高いレベルが要求されることを説明した。

特に、スポーツ健康学科においては、今年度の A0 入試では、①模擬授業を設け、その受講態度および理解度を評定する、②面接を行う、③アドミッションポリシー別に (健康づくり、スポーツビジネス、教職、部活動) 小論文を出題する、というように大幅に内容を変更した。

- 4) スポーツ推薦入試の導入 (スポーツ健康学科)。

スポーツ健康学科では、今年度は独立したスポーツ推薦入試制度を導入せず、A0 入試の中で取り扱うこととした。そのために、予め強化部・重点部などの指導者・教員・入試広報室との間で会

議を持ち、要望のある学生について、どの入試形態で受験させるかについて情報を共有することとした。

5) 推薦入試改革。

健康栄養学科では、指定校枠数をさらに減少させるとともに、推薦入試の受験資格の評定値を 3.4 から 3.6 に引き上げた。スポーツ健康学科では、同評定値を 3.1 から 3.2 に上げた。

6) 入学後のミスマッチを起こさないように、高等学校の先生に、本学部として求める人材像及び必要履修科目を説明する。編入学受験者の増加を目指す。

高等学校で化学や生物を履修していないため、良い資質を持ちながらも入学後の勉学についていけなくなるケースもある。そこで、高等学校入学時、あるいは入学後の可能な限り早い時期に、健康栄養学科は理系であることを強調してもらい、進学を希望する学生には、必ず化学や生物を履修しておくことを学生に説明してもらえるように依頼した。

また、進学説明会でも、県内の高等学校の先生方にも、同様に入学者の動向について説明し、高等学校のうちからどういうことに気をつけて大学入学に向かうべきかを説明した。

7) 編入学受験者の増加を目指す。

編入学入試は、両学科とも受験者はなかった。

8) キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する。

キャンパス見学会や出前講義及び模擬授業の回数は表の通りである。

◆キャンパス見学会

| 回数 (全6回) | 第一回 | 第二回 | 第三回 | 第四回 | 第五回 | 第六回 |
|----------|-------|-------|------|-------|------|-------|
| 日程 | 6月22日 | 7月20日 | 8月4日 | 8月18日 | 9月7日 | 10月5日 |

◆出前講義及び模擬授業等の回数 平成25年度 (人間健康学部)

| 模擬講義・ 出前講義 | 学校見学に於ける 講義 | キャンパス見学 会ミニ講義 | キャンパス見学 会体験講座 | 高大連携の模擬講 義 |
|---------------|----------------|------------------|------------------|---------------|
| 45 講座 | 5 講座 | 14 講座 | 10 講座 | 14 講座 |

9) その他

スポーツ健康学科に、国土館大学からの転入希望学生が1名いた。志願者は、昨年度4月に同科に入学したが、希望教員免許の取得を目指して同年度末に退学し、国土館大学へと転出した学生であった。転入学試験に関わる規定がなかったため、議論の上、手順は編入学試験に準じることとした。すなわち、あらかじめ大学のシラバスと成績証明書を提出してもらい、教務委員会の方から、各科目担当の先生方に単位の読み替えを依頼してもらった。その結果を受け、入試委員が個別事前面談を行い、希望の資格により入学から卒業までに必要な年数の説明を行った上で、本人から確認書をとった。9月に面接を中心とした転入学試験を実施し、2年次後期へ転入した。

(3) 点検・評価の結果 (目標の達成状況) < C >

1) 基本的考え方の各学科での共有化

両学科とも、年度当初の学科会議で、大枠を了承してもらったおかげで、円滑に入試業務を進行することが出来た。

2) 入試区分及び成績と入学後の成績動向等の分析とより効果的な選抜について

健康栄養学科においては全国的な食品・栄養系の受験者数減少の中で、入試はかなり苦戦し、定員を大幅に割りこんでしまった。昨年と同様にキャンパス見学会の参加者数が減少したが、昨年とは異なり入学志願者の実数も減少した。特に、推薦入試の受験者数が減少したことと、一般・センター入試の歩

留まりが過去最悪となった。全国の栄養系の地方大学では受験者数の減少が見られたが、都会の大きな大学では見られなかったため、全国的な受験生の減少を受けて都会の大学が多くの合格を出したため、歩留まりが低下したと思われる。

内容は、指定校推薦による入学者数が14名、公募推薦が10名、A0入試が8名、一般入試が17名、センター入試が15名で、合計64名の入学者となった。1・2期生以来で入学者数が定員を割り込んだ。一方、3年連続で推薦入試による入学者数が定員の50%以下に抑えられた。

スポーツ健康学科では、キャンパス見学会の参加者は微増ながらも入試志願者の実数は増加した。また、指定校推薦による入学者数が40名、公募推薦が18名、A0Ⅰ期入試10名、A0Ⅱ期入試が5名、一般入試が21名、センター入試が10名で、合計104名の入学者となり定員を大幅に上回った。また、スポーツ健康学科においても、特に、一般入試とセンター入試において、入学者の出身高等学校のレベルが上昇したため、プラン通りに成績の良い学生は合格させるという方針にくわえて、健康栄養学科の入学者数減に対応するために学部全体としての定員(160名)を割らないようにするため、入学者数を増加させた。

3) A0入試改革(スポーツ健康学科)

健康栄養学科は11名のエントリーがあり、うち9名が二次選考にすすみ、8名が合格入学した。エントリーは昨年の14名よりも3名減少したが、本学科が受験を期待している高等学校からの受験生が多かったため、A0入試の学科理念に沿った高いレベルでの選抜ができた。

スポーツ健康学科では、A0Ⅰ期では36名の、A0Ⅱ期では17名のエントリーがあった。それぞれ、昨年度に比して、6名の増加と2名の減少であり、全体として4名増加した。

A0Ⅰ期では29名が、A0Ⅱ期では16名が二次選抜に進んだ。このうち、A0Ⅰ期に不合格でA0Ⅱ期もエントリーをした再チャレンジ者は8名で、全員が二次選抜に進んだ。また、A0Ⅰ期の一次選抜不合格者の2名の再エントリーがあったが両名ともに二次選抜に進んだ。最終的にA0Ⅰ期では10名の、A0Ⅱ期では5名の合格者を出し、全員が入学した。受験要項に掲載した定員15名に対して15名の入学者があり、学科設置以来はじめて要項通りの入試ができた。

今年度は、両学科とも社会人A0入試には応募がなかった。

4) スポーツ推薦入試の導入(スポーツ健康学科)。

A0Ⅰ期入試で強化部から1名、重点部から2名、A0Ⅱ期入試で強化部から1名のスポーツ特待枠の入学者がいた。また、指定校推薦で強化部から5名、推薦前期で強化部から3名、重点部から1名のスポーツ特待枠の入学者がいた。全体として、特待1種2名(いずれも強化部)、特待2種6名(強化部4名重点部2名)、特待3種5名(強化部4名重点部1名)であった。

5) 推薦入試改革。

健康栄養学科では、推薦入試受験者数が減少したため、推薦入試の評価基準を引き上げた影響があったかもしれないが、全国的な受験者数の減少もあるため、一概に結論することはできない。一方、スポーツ健康学科では推薦入試の評価基準を引き上げた影響は皆無であったといえよう。

6) 求める人材像及び必要履修科目の説明について

入学後のミスマッチを起さないように、高等学校の先生に、本学部として求める人材像及び必要履修科目を説明する。編入学受験者の増加を目指す。

松商学園高等学校や県内の高等学校の進路指導の先生に対する説明会を行った。説明会で、両学科が求めている学生像は十分に伝わったと思われる。健康栄養学科の指定校推薦枠を外した高等学校の先生には個別に事情を詳しく説明した。

7) 編入学受験者の増加のために

次年度以降、指定校枠を設定するかどうかを今後の検討課題とした。

8) キャンパス見学会や出前授業の効果的な運営

表に示したように、2013年度のキャンパス見学会参加者は、前年度と比較して健康栄養学科は約50

名の減少が、スポーツ健康学科はほぼ同数であった。このうち、リピーター数も約 20 名ずつ増加した。高校生からの注目度が増している結果だと思われる。したがって、広報活動が効果的に機能していると思われる。

表. キャンパス見学会参加者数

| | 2013年度 | | | | 2012年度 | | | |
|------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 全学年 | | 3年生のみ | | 全学年 | | 3年生のみ | |
| | 素数 | リピーター | 素数 | リピーター | 素数 | リピーター | 素数 | リピーター |
| 栄養 | 179 | 41 | 107 | 37 | 224 | 59 | 168 | 58 |
| スポーツ | 209 | 58 | 154 | 54 | 208 | 66 | 169 | 58 |
| 合計 | 388 | 99 | 261 | 91 | 432 | 125 | 337 | 116 |

9) その他

以前に健康栄養学科で転入試験を行った経験もあり、突然であったにもかかわらず、スポーツ健康学科での転入希望学生への転入試験の実施は円滑かつ妥当であったと思われる。次年度、スポーツ健康学科の編入試験は3回から2回に減らすこととなった。

(4) 次年度に向けて < A >

- 健康栄養学科では、2年連続で定員を割らないことが第1目標である。しかし、以前のように定員確保をめざすあまり基礎学力が足りない学生を入学させるのは、将来の国家試験の合格率に影響するため、決して良い選択とはいえない。全国的に人気の高かった栄養系も受験生数増減の隔年周期に入ったと思われる。事実、指定校の県内高等学校にまわっている職員からも、今年希望者はいないが、来年はいるという話が複数入っている。したがって、今年と基準を変更することなく、次年度入試を行うべきである。それでも、定員を確保できないということになれば、本学を取り巻く環境に鑑み、管理栄養士養成課程の定員数を減らすなど、学部として抜本的な学科再編などの議論も行わなければならない。
- スポーツ健康学科では、今年度入試が非常にうまくいったため、次年度も同様の方向で行うべきである。強化部・重点部を中心にスポーツの能力による入試を事前にうまく振り分けられることで、A0入試は本来のA0入試とする方向でよいと思われる。推薦入試も今後の動向も踏まえながら、受験資格の評定値3.2からさらに上げる方向で議論する。
- 次年度受験者では新指導要領にもとづくため、「理科」の入試問題作成者には、学科側から指定した範囲で問題を作成してもらうことを依頼した。
- 次年度の大原学園開校の対応として、キャンパス見学会全体の回数に変更はないが、10月開催を取りやめ、5月に移動することとした。
- 高校生の大学選びとしてキャンパス見学会だけではなく、ふだんの授業や学生生活をみるという流れになりつつある。それに対応するため、試行措置として、暦の上では休日であるが本学では授業が開講されている月曜日講義について、7月と10月にオープン講義デーとして行うこととなった。

<委員会業務内容等について>

予備合否判定会議：

- 入学試験の合否について、学部長・学科長を交えて事前に「予備合否判定会議」で検討し、原案を作成することにより、教授会判定会議における審議に役立てた。

主な学務内容：

- 学部・学科教育理念・教育目標の入試要項への記入及び説明による、進路指導教員や受験生への本学

の教育理念等の明確な提示と工夫

- ・入試関係書類の誤記載防止への協力体制
- ・入学生選抜のための分析
- ・指定校及び指定校評定値の見直しについて
- ・編転入試験に伴う作問委員会への作問依頼
- ・編転入学試験受験者の査定と伝達
- ・編入における指定校の検討及び実施
- ・入試実施ごとの教員担当業務についての割り振りと依頼
- ・入試問題作成・校正・採点についての依頼
- ・入試当日の責任業務
- ・入学試験の実施・評価・可否判定会議までの進行
- ・次年度入試関連業務の検討事項の抽出
- ・キャンパス見学会・出前講義・進路説明会の担当教員についての割り振りと依頼
- ・キャンパス見学会での学科説明会の内容検討

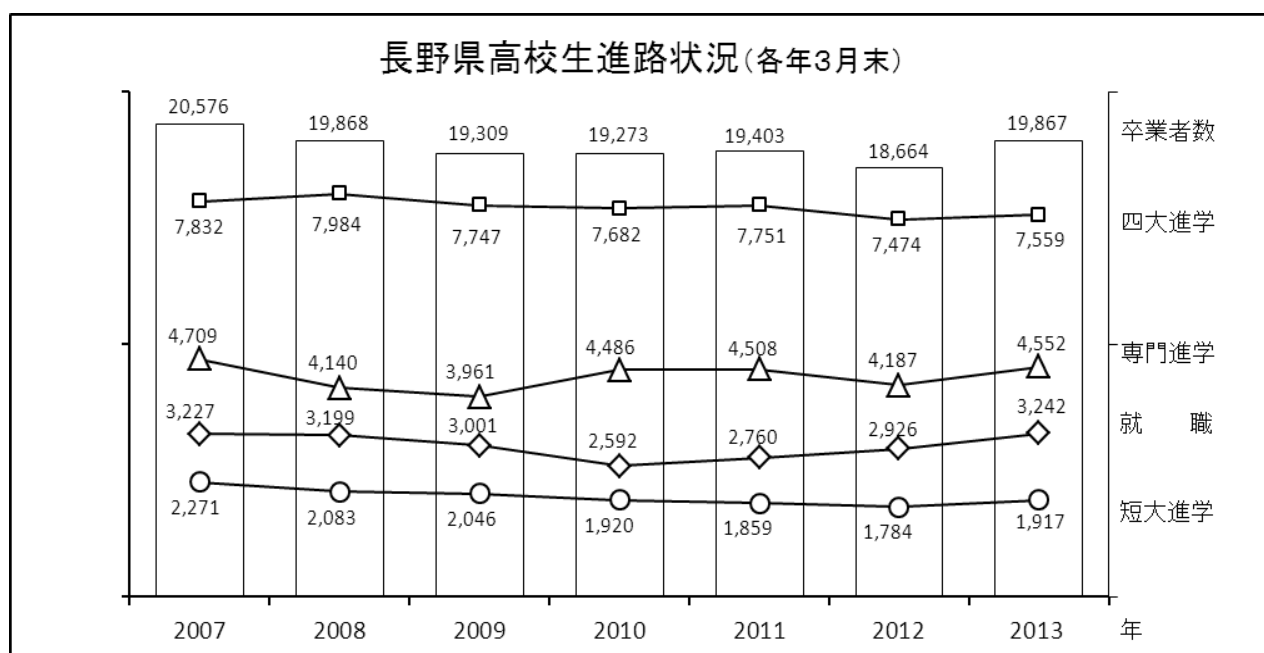
執筆担当者 入試委員会 人間健康学部主任 山田一哉

4. 松商短期大学部

(1) 平成 25 年度当初の計画 < P >

短期大学部入試委員会の平成 25 年度当初の目標は、入学志願者 250 人・入学定員 200 人の確保であった。

文部科学省学校基本調査によれば、平成 19(2007)年から平成 25(2013)年までの長野県高校卒業者の進路別人数は、以下の通りである(各年 3 月末)。県内高校卒業者は 2008 年以降、2 万人を割り込み 2012 年には 1 万 8 千人台にまで減少したが、2013 年には 5 年前の水準にまで持ち直した。卒業生数のほぼ等しい 2008 年と 2013 年を比較してみると、四年制大学進学者の 425 人の減少、短大進学者の 166 人の減少に対して、専門学校進学者は 412 人の増加、就職者は 43 人の増加となり、この 5 年間の長野県の進学状況は、大学・短大進学者よりも専門学校進学者の増加が顕著となっている。



2012年と比較した2013年の特徴は、卒業生の1,203人の増加を受けて、四年制大学進学者が85人、短期大学進学者が133人、専門学校進学者が365人、就職者が316人といずれも増加しており、専門学校進学者と就職者の増加が目立つ。卒業生に対する進学先の割合で見ると、四年制大学が昨年度の約40%から38%へとやや下降しているものの、短期大学が約9.6%、専門学校が22.9%、就職が16.3%と、いずれもこの3年間で1%未満の増減に留まっている。

本学の志願者数は、平成22(2010)年度の225人(入学者200人)という危機的な状況から、一昨年度、志願者254人(入学者213人)と若干の回復を見せ、昨年度は、松商学園高校3年生徒数の大幅な減少にもかかわらず、志願者269人(入学者232人)を達成することができた。しかしながら、県内高校生の進学状況を見る限り、依然として就職や専門学校進学を志向する生徒が多く、さらにここ数年は、高校生とりわけ女子高校生の四年制大学進学志向が強まる傾向にあり、本学を取り巻く状況は、依然として非常に厳しいと言わねばならない。また、平成27年度には大手専門学校の松本進出も決定しており、更にその厳しさに拍車がかかると予想される。

この厳しい状況の中で、昨年度と同様、本学での多様な資格取得、コミュニケーション能力育成教育をPRし、同時に社会人基礎力を前提とした就職実績、専門教育に基づく四年制大学編入実績をPRすることによって、専門学校に対する本学の優位性を高校生に認識してもらい、また、経済的な支援の面でも昨年度と同様に、本学独自の学費免除制度、入学金割引制度、入学金免除制度、就学支援制度を強くアピールして志願者増につなげていかなければならない。昨年度と同様、長野県内各地域を中心に、新潟県、山梨県も視野に入れての学生募集活動が重要になる。

(2) 平成25年度(平成26年度入試)の実績～現状の説明～ < D >

1) 松商短大部入学志願状況

今年度を含む過去3年の入試区分別志願者数は次表の通りである。

| 入試区分 | | 特待生 | 推薦 | 一般 | | センター・留学 | | AO | | 計 | | |
|------------------|--------|------|----|----|-----|---------|----|------|----|-----|----|-------------|
| 25年度 (26年3月末) | 商&経営情報 | 経済支援 | 8 | 指定 | 136 | A | 12 | センター | 14 | I期 | 7 | |
| | | 学業学力 | 17 | 一般 | 35 | B | 0 | | | II期 | 8 | |
| | | | | 自己 | 4 | C | 0 | 留学 | 0 | 社会人 | 0 | |
| | 計 | | 25 | | 175 | | 12 | | 14 | | 15 | 241 (入学208) |
| 24年度 (25年3月末) | 商&経営情報 | 経済支援 | 15 | 指定 | 128 | A | 18 | センター | 20 | I期 | 15 | |
| | | 学業学力 | 10 | 一般 | 44 | B | 0 | | | II期 | 12 | |
| | | | | 自己 | 6 | C | 1 | 留学 | 0 | 社会人 | 0 | |
| | 計 | | 25 | | 178 | | 19 | | 20 | | 27 | 269 (入学232) |
| 23年度 (24年3月末) | 商&経営情報 | 経済支援 | 13 | 指定 | 103 | A | 8 | センター | 19 | I期 | 12 | |
| | | 学業学力 | 16 | 一般 | 58 | B | 2 | | | II期 | 6 | |
| | | | | 自己 | 8 | C | 3 | 留学 | 3 | 社会人 | 3 | |
| | 計 | | 29 | | 169 | | 13 | | 22 | | 21 | 254 (入学213) |

今年度の志願者数は昨年度から28人減の241人となり、年度当初の目標250人には届かなかった。入試区分ごとの増減は表の通りであるが、一般A入試、AO入試での志願者減少が目立つ。

2) 本年度入学試験区分別状況

入試区分毎の志願者・合格者・入学者数を過去3年で比較してみると以下のとおりである。

昨年度に比べ、年内実施の試験において志願者数は15人の減少となった。志願者数が増加したのは学業学力特待生入試と指定校推薦入試のみであり、他の入試はすべて減少となった。経済支援と学業学力を合わせた特待生入試全体では、昨年度同数の志願者となったが、AO入試での12人、前期・後期の一般・自己推薦入試で計11人の減、あわせて23人の減少に対して、指定校推薦入試が8人の増加であった。

ということである。一昨年度新設の社会人AO入試については今年度も志願が無く、この入試の今後の広報が課題となる。年内入学者は193人となり、入学定員には7人届かなかった。

| 25年度 試験日 | 入試区分 | 志願者数 | | | 合格者数 | | | 入学者数 | | |
|-------------|---------------------|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|
| | | 25年 | 24年 | 23年 | 25年 | 24年 | 23年 | 25年 | 24年 | 23年 |
| 11月2日 | 特待生(経済支援) (学業学力) | 8 | 15 | 13 | 2 | 3 | 4 | 3 | 3 | 4 |
| | | 17 | 10 | 16 | 3 | 2 | 4 | 2 | 2 | 4 |
| 11月17日 | 推薦前期(指定) (一般) | 136 | 128 | 103 | 136 | 128 | 103 | 134 | 128 | 103 |
| | | 32 | 39 | 50 | 32 | 38 | 48 | 32 | 37 | 48 |
| 12月7日 | 推薦後期(一般) (自己) | 3 | 5 | 8 | 3 | 5 | 8 | 3 | 5 | 8 |
| | | 4 | 6 | 8 | 4 | 6 | 8 | 4 | 6 | 8 |
| 12月7日 | 留学生 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 9月21日 | AO I期 社会人AO I期 | 7 | 15 | 12 | 7 | 15 | 12 | 7 | 15 | 12 |
| | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | 0 | 0 |
| 11月21日 | AO II期 社会人AO II期 | 8 | 12 | 6 | 8 | 12 | 6 | 8 | 12 | 6 |
| | | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 | — | 0 | 3 |
| 年内計 | | 215 | 230 | 221 | 195 | 209 | 198 | 193 | 208 | 198 |
| 2月1日 | 一般A | 12 | 18 | 8 | 11 | 17 | 7 | 6 | 15 | 3 |
| 3月7日 | 一般B | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| — | (留学生) | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 3月20日 | 一般C | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 | 3 |
| 2月 | センター I期 | 11 | 16 | 16 | 10 | 15 | 13 | 6 | 7 | 6 |
| 3月 | センター II期 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 |
| 3月 | センター III期 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 2月22日 | 留学生 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 年明け計 | | 26 | 39 | 33 | 24 | 35 | 26 | 15 | 24 | 15 |
| 総計 | | 241 | 269 | 254 | 219 | 244 | 224 | 208 | 232 | 213 |

年明けの入試に関しては、一般B・C入試において志願者が無く、また留学生入試にも志願が無かった。一般A入試で志願者6人、入学者9人の減少となり、センター利用入試では志願者5人減に対して入学者1人増となった。年明けの全入試で入学者9人の減少、年明けの入試における入学者は計15人となった。

3) 志願者・入学者の出身地区別状況

過去3年間の志願者・入学者の出身高校地区別一覧は次のとおりである。

| 地区 | 25年 | | | 24年 | | | 23年 | | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 学校数 | 志願者 | 入学者 | 学校数 | 志願者 | 入学者 | 学校数 | 志願者 | 入学者 |
| 中信 | 19 | 142 | 122 | 23 | 166 | 141 | 19 | 141 | 117 |
| 南信 | 15 | 41 | 36 | 16 | 52 | 44 | 17 | 52 | 43 |
| 北信 | 13 | 31 | 27 | 12 | 34 | 31 | 12 | 27 | 24 |
| 東信 | 8 | 17 | 14 | 6 | 10 | 10 | 8 | 11 | 10 |
| 計 | 55 | 231 | 199 | 57 | 262 | 226 | 56 | 231 | 194 |
| 県外 | 9 | 10 | 9 | 5 | 7 | 6 | 9 | 18 | 14 |
| 計 | 64 | 241 | 208 | 62 | 269 | 232 | 65 | 249 | 208 |
| 留学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 5 | 5 |
| 計 | 64 | 241 | 208 | 62 | 269 | 232 | 67 | 254 | 213 |

県内外を合わせて志願実績のあった学校数は64校で昨年度から2校の増加となった。県内では中信地区で4校、南信で1校の減、北信で1校、東信で2校、県外で4校の増となった。志願者数では中信地区で24人、南信で11人、北信で3人の減少、東信で7人、県外で3人の増加となっている。入学者数では、中信地区で19人、南信で8人、北信で4人の減少、東信で4人、県外で3人の増加となった。

志願者に対する入学者の割合は、中信で86%(昨年85%)、南信で88%(昨年85%)、北信で87%(昨年91%)、東信で82%(昨年100%)であり、県内計では、昨年と同じ86%、県外を加えた全体でも昨年と同じ86%となった。

4) 入学者の出身高校別状況

過去3年で本学への入学実績が5名以上であった高校は次表の通りである。

今年度、本学に志願者のあった学校数は64校、昨年度は62校、一昨年度は65校(留学生を除く)であったが、入学実績5名以上で比較してみると、今年度が11校121人、昨年度が18校172人、一昨年度が11校123人であり、一昨年度とほぼ同じ状況となった。入学者5名以上では昨年度より7校減、入学者で51名の減少となり、年度ごとの入学者数に対する割合は、今年度が58%、昨年度74.1%、一昨年度57.7%となった。入学者数の上位3校の合計は今年度61人(29%)、昨年度66人(28%)、一昨年度69名(32%)となり、上位10校では今年度116人(56%)、昨年度126名(54%)、一昨年度118名(55%)となる。昨年度と比べて今年度は、入学者5人以上の高校の減少が、全体の入学者の減少に繋がったと見ることができる。

| 26年度入学(25年) | | |
|-------------|---------|-----|
| ① | 松商学園 | 31 |
| ② | 豊科 | 17 |
| ③ | 穂高商業 | 13 |
| ④ | 田川 | 12 |
| ⑤ | 松本美須ヶヶ丘 | 11 |
| ⑥ | 長野商業 | 9 |
| ⑦ | 塩尻志学館 | 7 |
| ⑧ | 下諏訪向陽 | 6 |
| ⑨ | 岡谷東 | 5 |
| | 松本第一 | 5 |
| | 辰野 | 5 |
| 計 | | 121 |

| 25年度入学(24年) | | |
|-------------|----------|-----|
| ① | 穂高商業 | 26 |
| ② | 松商学園 | 22 |
| ③ | 豊科 | 18 |
| ④ | 田川 | 13 |
| ⑤ | 梓川高校 | 9 |
| ⑥ | 塩尻志学館 | 8 |
| | 大町北 | 8 |
| | 須坂東 | 8 |
| ⑨ | 辰野 | 7 |
| | 諏訪実業 | 7 |
| | 長野南 | 7 |
| | 東京都市大学塩尻 | 7 |
| | 松本筑摩 | 6 |
| ⑬ | 赤穂 | 6 |
| | 松本蟻ヶ崎 | 5 |
| ⑮ | 松本美須ヶヶ丘 | 5 |
| | 上田東 | 5 |
| | 松代 | 5 |
| 計 | | 172 |

| 24年度入学(23年) | | |
|-------------|-------|-----|
| ① | 松商高校 | 36 |
| ② | 穂高商業 | 23 |
| ③ | 田川高校 | 10 |
| | 長野南高 | 10 |
| ⑤ | 諏訪実業 | 9 |
| ⑥ | 筑摩高校 | 7 |
| ⑦ | 梓川高校 | 6 |
| | 下諏訪向陽 | 6 |
| | 北杜高校 | 6 |
| ⑩ | 大町北高 | 5 |
| | 飯田長姫 | 5 |
| 計 | | 123 |

上位校の顔ぶれは、昨年度2位の松商が9名増やして31人となり第1位、昨年度1位の穂高商業が13人減らして3位となり、昨年度とほぼ同数を維持した豊科高校、田川高校が2位と4位を占めた。また、昨年度から6人増え11人となった松本美須ヶヶ丘高校が5位、昨年度から5人増え9人となった長野商業高校が6位となり、初のベスト10入りを果たした。8位の下諏訪向陽高校は、昨年度1人であったが、今年度6人となり、一昨年度の水準まで回復した。その一方で、穂高商業高校をはじめとして大幅に入学者を減らした高校も散見する。例年ベスト10常連校であった梓川高校は今年度0、長野南高

校は今年度1人、大町北高校は4人、都市大塩尻高校は1人となった。穂高商業高校の進路指導教員によると、今年度は就職希望の生徒が多く、これまでの短大志望が相当数就職に流れたということである。本学の高校別入学状況を見る限り、ある一定レベルの高校においてこの傾向が強く現れたと見ることができる。アベノミクスにより企業の経営状況が回復、求人意欲が高まり、就職環境が好転する一方で、家庭の経済状況は依然として厳しく、進学よりも就職という意識が強くと推測される。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 松商短大部入学志願状況

年度当初の目標であった志願者250人、入学者200人は、入学者が208人と何とか目標に届いたものの、志願者は241人となり、平成21・22年度以来4年振りの厳しい状況となった。この間、長野県内高校生の短大進学者数と本学入学者数との関係は以下の表の通りである。県内高校生が短大進学先として本学を選ぶ割合は、平成21・22年当時に比べれば、若干ではあるが増加しており、県内高校生にとって本学は、進学先としての一定

| | 25年 | 24年 | 23年 | 22年 | 21年 |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 県内高校生の短大進学者数(人) | 1,756 | 1,917 | 1,784 | 1,859 | 1,920 |
| 県内高校生の本学入学者数(人) | 199 | 226 | 194 | 189 | 200 |
| 県内高校生の本学入学割合 | 11.3% | 11.8% | 10.9% | 10.2% | 10.4% |

の評価を得ていることがわかる。したがって、今年度の本学志願者数の減少は、県内高校生の短大進学者数の減少

に現れているように、県内高校生の短大に対する進学志向の逡減によるものと考えられる。

2) 本年度入学試験区分別状況

入試別に見てみると、年内実施の入試では指定校推薦入試の比重がこの3年間でますます高まる傾向にあり、それにともない一般推薦・自己推薦入試が志願者を減らす傾向にある。AO入試についても昨年度から12人の減少、一昨年度からも3人の減少となっている。この状況から、高校において本学の指定校基準を満たす成績を修めた生徒の本学志願が徐々に増える傾向にあり、その一方で、指定校基準に満たない成績の生徒の志願が減る傾向にあると推察される。特待生入試では、経済支援と学業学力の間で増減があったものの、合計では昨年と同数の志願があった。受験倍率は経済支援特待が4倍、学業学力特待が5.7倍となった。

年明けの入試では、一般B・C入試は志願者が無く、センター利用入試も含めた志願者数は過去3年間で最低となった。年明けの入試全体での合格者に対する入学者の割合いわゆる歩留は、62.5%であり、昨年度の68.5%からやや落ちている。特に一般A入試の歩留54.5%は昨年度の88.2%から大幅な低減となった。それに対して、センター利用入試は、13人の合格者のうち9人が入学し、昨年度の47%に比べて69.2%という高い歩留となった。

一昨年度から始めた高校時代の専門資格の取得状況に応じた入学金割引制度、本学への兄弟姉妹入学者についての入学金割引制度の利用状況は、推薦入試段階で専門資格取得割引の対象者が14名、兄弟姉妹免除が16名、一般入試段階(センター試験利用含む)で資格割引が2名、兄弟姉妹割引が2名であった。また資格割引の4月入学時申請が12人あり、入試合格時点から入学までの学習目標としての効果が大きく、高校から短大への教育接続の面でも良い傾向であると言える。

3) 志願者・入学者の出身地区別状況

志願者・入学者の出身地区を見てみると、県内では中信・南信・北信地区が減少し、東信地区で増加、県外については若干の増加となった。志願者、入学者ともに中・南信地区での減少が大きく、同地区における学生募集の苦戦が裏付けられた結果となった。なお、今年度入学者のあった県外校は、新潟県で高田商業(2)、柏崎総合(1)、新潟産業大付属高校(1)、新井高校(1)、分水高校(1)、山梨県で北杜高校(1)、日川高校(1)、広島県的美鈴が丘高校(1)であった。長野県内の短大進学者数が逡減傾向にある中、新潟、山梨といった近隣県の高校に対する学生募集活動は、今後益々重要になると思われる。

4) 入学者の出身高校別状況

入学者の出身高校を見ると、昨年度から生徒数を回復させた松商高校が2年振りに30人の大台を突破し、豊科・田川・志学館といった常連校も堅調であった。また、松本美須ヶ丘や長野商業は大きく入学者を増やし、松本蟻ヶ崎校高校(昨年度5人、今年度4人)ともども本学にとっては今後更に入学者を増やしていきたい上位レベル校である。その一方で、中信地区での学生募集活動の苦戦を強いたのが、穂高商業、梓川高校、大町北高校、都市大塩尻高校であり、この4校で昨年度から32人の入学者減となった。これらの高校においては既に見たとおり、生徒が進学よりも就職に進路を求めたと見ることができる。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

1) 厳しい状況への対応

志願者241名、入学者208名という今年度実績は、本学昨年度までの回復基調を覆す危機的状況の再来となってしまった。次年度以降も、本学を取り巻く状況は、決して予断を許さない。

県内高校生の進学状況を見る限り、中堅クラス以上の高校生の四年制大学進学志向の上昇、中堅クラス以下の高校生の就職・専門学校志向の増大が予測され、本学は依然として厳しい状況に晒されている。しかも、大手専門学校の松本駅前校の平成27年度4月開校にともなう募集活動が次年度いよいよ本格化し、本学にとってここ数年で最も厳しい状況での学生募集活動となると予想される。

2) アピールポイント

この厳しい状況の中で、次年度は高校卒業あるいは専門学校卒業での就職に比べた本学の就職実績の優位性を高校生にアピールし、高卒就職志願層および専門学校志願層を本学志願に取り込んでいく。特にiPadやモバイルPCを活用した最新の教育手法、外国語を基礎とした異文化コミュニケーション能力育成教育など、ビジネス系の専門学校と本学の教育内容の違いを鮮明に打ち出し、専門学校にはない本学独自の「学びの多様性・専門性」を具現する教育システム「フィールド・ユニット制」とそれに基づく質の高い就職の実現をこれまで以上に強力にPRし、志願者増に結びつけていく。また、経済的な支援の面でもこれまでと同様に、本学独自の学費免除制度、入学金割引制度、就学支援制度を強くアピールして志願者増につなげていかなければならない。昨年度と同様、長野県内各地域を中心に、新潟県、山梨県も視野に入れての学生募集活動も重要になる。

ビジネス系であるならば、専門学校よりも松商短大という点を強力にアピールしながら、来年度も入学志願者250名・入学定員200名の確保を目指す。

執筆担当者 入試委員会 短期大学部委員 山添昌彦

V. 広報委員会

本年度は、全学広報委員長の下、健康科学研究科1名、総合経営学部2名、人間健康学部3名、短期大学部4名の計11名の教員と事務局5名(室長、職員4名)で構成され、委員会を5回開催した。

1. 全学広報委員会

全学広報委員会は、2012(平成24)年度に、従来の全学入試・広報委員会から大学広報部門を分離・独立させるかたちで発足した。全学広報委員会の役割は、主として公式ウェブサイトの運営管理と学報『蒼穹』の編集発行を通じた大学広報の充実である。事務局は、全学広報委員会の発足を機に、従来の入試広報室から総務課に移管されたが、2013(平成25)年度には大学広報体制強化の観点から再び入試広報室に戻された。

(1) 年度当初の計画 < P >

2013(平成25)年度は、「情報収集活動及び情報発信活動を強化し、広く大学をPRしていく」との基本方針のもとに、①公式ウェブサイトをリニューアルして充実を図るとともに、②学報『蒼穹』を広く

大学をPRするためのツールとして利用できるような広報誌に衣替えする。

(2) 実施した活動の概要 < D >

1) 公式ウェブサイトの運営管理：リニューアルの実施

従来の公式ウェブサイト（HP）が古くなり不具合も起きていたので、リニューアル（新規に公式ウェブサイトを構築）を実施し、業者選定の見直しによる制作費用削減、コンテンツ整理などによるユーザビリティの改善、地域貢献コンテンツ作成などによる内容の充実、容量拡充などのサーバーの改善、より洗練されたデザインの採用、コンテンツの取捨選択・整理などを図った。

2) 学報『蒼穹』の編集発行：活動報告から広報誌への衣替え

学報『蒼穹』を大学の活動報告にとどまらず、「本学の特色ある取り組み」を広く一般に伝えるための広報誌として活用するため、2013年6月号（111号）から、カラー印刷、横書きへと体裁を一新して読みやすくするとともに、巻頭特集を新設するなど内容の充実も図った。巻頭特集としては、『地域の中核大学（COC）をめざして 松本大学中期目標・計画策定』（2013年6月号）を皮切りに、『新県立大学を考える』『平成25年度文部科学省「知（地）の拠点整備事業 大学COC事業に採択』（いずれも9月号）、『大学院健康科学研究科が目指すもの』（12月号）、『短期大学の新たな挑戦』（2014年3月号）を取り上げた。

また、編集会議を兼ねた全学広報委員会を定期的に行い、情報収集・編集体制を強化した。

3) その他

情報収集活動及び情報発信活動の強化を図る観点から、次のような変更を実施した。

①大学広報に有効な行事のHP掲載・取材・プレスリリース依頼窓口の一元化

②マスコミ取材、テレビ番組企画等の広報活動情報については、大学広報の整合性を図る観点から、できる限り事前に広報委員会に情報提供してもらうよう各委員・部署に依頼した。

教育研究者総覧については、業務効率化の観点から冊子作成を取りやめ、公式ウェブサイト（HP）の教員紹介データを更新した。

大学のビジュアル・アイデンティティ（V.I.）マニュアル策定について、ベーシックデザインを4パターンとするなど検討を進めた。

ソーシャルメディア（各種SNS、電子掲示板、ブログ、個々のWEBサイトなど）を利用したコミュニケーション活動が円滑に行われるように、本学の教職員・学生を対象とした「ソーシャルメディア利用ポリシー」を策定した。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 公式ウェブサイトの運営管理

公式ウェブサイトのリニューアルによって、制作費・保守管理費の削減、利便性の向上、内容の充実化等が図られた。

2) 学報『蒼穹』の編集発行

学報『蒼穹』の体裁一新・内容充実が奏功し、「本学の特色ある取り組みをわかりやすく伝える広報誌」に向けた改善が図られた。一方、制作費はカラー印刷化にもかかわらず、制作業者の変更もあって削減が図られた。

また、編集会議を兼ねた全学広報委員会を定期的に行うことによって、情報収集・編集体制の強化が図られた。

3) その他

本学関係者すべてに適用される「ソーシャルメディア利用ポリシー」を策定することによって、ソーシャルメディアを利用したコミュニケーション活動の円滑化が図られた。

また、大学広報にも役立つような、外部からの講演依頼などに関して、受付窓口と全学広報委員会と

の連携が必ずしも十分ではない事例が見受けられたので、大学広報充実化の観点から改善を図るのが望ましい。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

1) 公式ウェブサイトの運営管理

今後も、利用者の要望等を踏まえ、公式ウェブサイトの利便性の向上、内容の充実化等を図る。

2) 広報誌・学報『蒼穹』の編集発行

今後も、「本学の特色ある取り組みをわかりやすく伝える広報誌」になるよう、さらなる改善に努める。

3) その他

大学広報充実化の観点から、外部からの講演依頼などの窓口となる地域総合研究センターと全学広報委員会との連携を強化するための体制を整備する。

執筆担当者 全学広報委員長 太田 勉

第3部 教育・研究支援

I. 教育支援会議

当会議は、山添議長の下、各学科長で構成されており、本学の教育に対する事業推進を支援するための組織であり、下部組織として高大連携推進委員会、教育企画推進委員会、地域連携戦略委員会の3委員会を擁し、本学の特色ある教育事業に対して組織的な支援を行っている。高大連携推進委員会は、連携校を中心に高校に対する大学の人的・物的教育資源の提供という役割を果たすと同時に、高校教育と大学教育の接続という面からも非常に重要な取組を行っている。また同様に地域連携戦略委員会も、今年度の文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(COC)に採択された通り、大学を「地(知)の拠点」とした社会貢献の役割を担いつつ、本学の地域人教育の充実・発展のために活発な活動を展開している。いずれも、地域貢献という本学の使命を遂行しながら、本学の教育改革に繋がる貴重な活動となっている。また、教育企画推進委員会は、本学各学科のカリキュラムポリシー実現・充実に意図した教育企画の推進に取り組んでいる。学部あるいは学科単位での新規教育企画の提案・予算化・実践を通して本学の教育の更なるレベルアップを図っている。

1. 高大連携推進委員会

本年度は、総合経営学部2名、人間健康学部2名、短期大学部3名の教員7名と事務局（管理課長、職員1名）の9名で構成されている。

(1) 平成25年度当初の計画 < P >

高大連携事業は本学の地域貢献事業の一つであり、同時に本学の学生募集にも繋がる重要な取組みであり、この観点から例年、連携協定校を如何に増やしていくかが大きな課題となっている。

これまでに本学が連携協定を結んでいる高等学校は、松商学園高校、飯田 OIDE 長姫高校、丸子修学館高校、エクセラン高校、岡谷東高校、穂高商業高校の5校であり、今年度は、この連携校を中心として、それ以外にも辰野高校、梓川高校および県内の商業高校との事業を計画し、連携校の更なる増加に向けて取り組む。

(2) 平成25年度の実績～現状の説明～ < D >

1) 総合経営学部の取組

総合経営学部では例年、観光ホスピタリティ学科が中心となって高大連携への取組を積極的に展開している。今年度は以下のとおりの取組を行った。

① デパートゆにっと・マーケティング塾

〈第1期 平成13年5月～9月〉

マーケティング塾として合計5回、実習販売としてながの東急にてデパートサミット3日間実施。参加人数は、高校生12校から40名、教員20名

〈第2期 平成13年10月～3月（継続中）〉

マーケティング塾として合計5回実施。参加人数は高校生13校から60名、教員20名

〈スイーツ対決 平成14年2月8・9日〉

2日間にわたり、飯田長姫OIDE高校、穂高商業高校、丸子修学館高校、長野商業高校と観光白戸ゼミ、短大金子ゼミが参加してスイーツの商品開発と販売を行なった。事前の準備として3回に亘り商品発表会等を行った。

② 高大連携チャレンジ

〈2013年夏〉

短期大学部と合同で7月29～31日に飯田長姫OIDE高校と辰野高校から延べ約200名が参加して実施された。具体的な内容は〈資料1〉のとおりである。

(2014年春)

3月26日にコミュニティ・ビジネスをテーマに観光ホスピタリティ学科の5名の教員が対応して、辰野高校と飯田OIDE長姫高校から43名が参加した。具体的な内容は〈資料2〉のとおりである。

③ 地域人教育

飯田市と、飯田長姫OIDE高校、本学の3者で平成24年度に地域人教育の推進に向けての連携協定を締結。1年次から3年次まで様々なプログラムで地域人教育を実践した。3年間で200時間のプログラムを大学と飯田市が協力して実施するものである。本年度はじめて協定締結前の試行期間で1年次から地域人教育を受けた卒業生が本学に入学し7年間一貫教育の一步を踏み出した。本年度は、総合経営学部より述べ6名の教員が高校にて講義を行なったほか飯田市内におけるフィールドワークを本学教員が指導した。

④ 穂高商業高校の文化祭の支援

短大部との高大連携に加えて、25年度に大学生と高校生が一緒に取組んだ地域での活動の成果を生かして文化祭と一緒に企画を行なった。観光ホスピタリティ学科の3ゼミと短大部の1ゼミが3年生の4クラスをそれぞれ担当し、高校生と大学生が本学教員の指導の下文化祭の企画を準備し実施した。高校生や教員、文化祭に来場した地域の住民から大変評価を受け、来年度も継続して実施したい旨高校側から依頼を受けている。

⑤ 梓川高校と地域の連携教育への支援

梓川高校による地元波田地区との連携に関して、観光ホスピタリティ学科として支援を行なった。本学からは3年前より福祉の科目について教員を講師として派遣している他、学校評議員会にも委員を派遣しているが、高校から地域と連携する支援を求められたことがきっかけである。昨年度より、松本市教育委員会及び長野県総合教育センターと連携して梓川高校の生徒が地域の活動に取り組むきっかけづくりを行なった。具体的には高校生と大学生が地域に関して関係者と話し合うワークショップの開催等を通じて地域と高校のネットワークづくりを支援した。

2) 人間健康学部スポーツ健康学科の取組

長野県岡谷東高等学校との連携が6年目を迎え、これまでの事業内容の安定的な継続及び発展できるよう実施した。例年通り、同校健康スポーツコースの1年生および2年生各40名を受入れ、大学見学、模擬講義を実施し、大学講義・キャンパスライフを体験させた。また、本学の教職課程履修者(保健体育・養護教諭)の2・3・4年生が、同校の保健授業、授業分析、保健室運営を参観した。日程・内容は〈資料3〉のとおりである。なお、例年実施している体育授業参観(保健体育教諭希望学生)については、担当者の多忙及び先方との日程調整が不調に終わったため、今年度は実施を見合わせた。また、2011年度より本事業担当者相互の連携を密にすることを目的に、高大連携推進事業担当者連絡会議を実施しているが、今年度は3回実施した。連絡会議の実施日及び議題等の内容は〈資料4〉のとおりである。

3) 松商短期大学部の取組

例年通り穂高商業高校との連携を中心に、松商学園高校商業科、および総合経営学部観光ホスピタリティ学科との共催で、飯田OIDE長姫高校、辰野高校との連携事業に取り組んだ。

① 大学授業チャレンジ型連携

高校の夏休み・春休みを利用して、本学において大学の経済・ビジネス系等の専門科目を受講しながら、学食利用、教室移動等の具体的なキャンパスライフを高校生に体験してもらうことを内容とした連携であり、今年度は、(i)7月16日～18日の3日間で松商学園高校商業科生徒約100名を、(ii)7月29日～7月31日の3日間で、穂高商業高校106名、飯田OIDE長姫高校商業科64名、辰野高校商業科25名を、(iii)3月4日～6日に穂高商業高校の生徒106名を受け入れた。開講科目・時間割は〈資料1〉のとおりである。

②高校授業グレードアップ型連携

穂高商業高校において既に日本商工会議所簿記検定 2 級を取得したか、それと同程度の実力があると認められる生徒を対象に、本学教員が同校に週 1 回出向いて日商 1 級の「商業簿記・会計学」「工業簿記・原価計算」を講義することを内容とした連携であり、毎週月曜日の 2・3 時限目(10 時 20 分～12 時 10 分)に全 23 回実施した(本学担当は長島・山添)。参加生徒は各回 14 名であった。講義日程・内容は〈資料 5〉のとおりである。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 総合経営学部観光ホスピタリティ学科の取組

観光ホスピタリティ学科においては、①「地域の若者を地域で育てて地域に返す」という理念のもと、高校と連携して地域の担い手を育てること、②高校生と大学生と一緒に学び、活動することで新しい価値や学びを生み出すこと、③若者が始めた取り組みが地域に定着する主体として高校が地域の中核になることを理念としつつ、本学の学生募集にも一定の効果をあげることにも重視しつつ取り組んだ。また、①具体的なテーマや課題を切り口にして実践的な取り組みから始める、②高校生と大学生に加えてそれを支える地域の人々にも参画してもらう、③協定など形にとらわれずに、実践を積み重ねる中で信頼関係を築くことを大切にしてより教育的な効果をあげることができるような取り組みを行なった。

高校の教員等からの評価としてはおおむね好評であり、信頼関係を築ききっかけともなり、さらに学生募集にも効果があったと考えられる。特に他大学の取り組みが学生募集にあまりにも偏り、それ以外の部分で高校にメリットがみられない傾向があることから、本学の取り組みは高く評価され、結果として学生募集にも大きな成果をもたらしたと考えられる。ただし、協定を締結している高校の中でも連携が停滞しているところもあり、今後の課題である。

2) 人間健康学部スポーツ健康学科の取組

昨年度末、岡谷東高校校長、高大連携推進担当者及び養護教諭が共に異動となった。そのため今年度の高大連携推進事業では新規事業を行うのではなく、昨年度のものを継続することをベースにしながら実施した。

これまでも課題になっていた高校生の受講態度については、年々改善する傾向であった。高校側も事前指導を行っている成果であり、併せて本学科教員も高校生向けの模擬講義内容(教授方法も含む)で展開した効果だと思われる。本学科教員が模擬講義の質を高めること(FD 推進)を意識しながら、講義展開した結果である。次年度以降も継続させたい。

また、本学で学ぶ、保健体育教師や養護教諭を目指す教職課程履修学生にとって、この連携による高校教育現場における実際の保健授業の見学および授業分析は、非常に有意義な体験となり現場から学ぶ貴重な機会となった。参加学生たちは、将来自らが教壇に立つ具体的なイメージが持てたようである。

3) 松商短期大学の取組

穂高商業高校との大学授業チャレンジ型連携および高校授業グレードアップ型連携については、本年度で 8 年目となり、この間若干の科目担当者変更があったものの、年中行事として定着してきている。

今年度夏のチャレンジ型は、昨年度と同様に、穂高商業高校生徒に加えて飯田 OIDE 長姫高校、辰野高校生徒も加えた総合経営学部観光ホスピタリティ学科との共同開催という形態での実施となり、参加生徒数は 3 校合わせて 195 名の過去最大人数となった。昨年連携協定を結んだ松商学園高校についても昨年度と同様に、同校の夏休み直前の三者面談日の午後 3 日間を活用して、同校商業科 1 年生から 3 年生までの各生徒が受講希望の科目に自由に出席する形態での実施となった。

参加高校生の終了アンケートの回答によると、チャレンジ型に対する評価は良好である。特に各科目の内容に非常に興味を持ち、プロジェクター等の利用による学習環境の良さに驚きながらも満足していることが視られる。また、ほとんどの学生が学生食堂の味・値段にとっても満足し、学食利用や教室移動を

通して大学生生活に対する具体的なイメージが持てたと記している。中には、進学への意欲が増した、本学への進学意欲が高まったという感想も少なからずあった。

グレードアップ型連携については、毎週月曜日の午前中、穂高商業高校の2・3時限目の授業として実施されており、高校側で単位認定が行われている。内容は日商簿記検定1級レベルの会計学と意思決定会計であり、高校生にとっては、やや難しさを感じる内容であることが終了アンケートから読み取れる。実際、参加生徒からは、受け身の姿勢が強く感じられ、次年度に向けて内容面での見直しが課題であると思われる。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

今年度実施した連携事業については、次年度も継続する計画である。高大連携事業はこれまでの経験から、オープンキャンパスや出前講義とは異なる意味で、高校生にとっての大学生生活の具体的なイメージ化に非常に効果のある取組みであることは明らかであり、キャリア教育、高大接続教育の面からも今後ますます重要な取組みとなる。また、観光ホスピタリティ学科の意図する地域教育・地域人教育の観点も今後更に推進していかなければならない。

人間健康学部では、今年度の取組から次年度に向け、以下のような課題が挙げられる。

- ①双方が行き来するバス使用(回数)について現在、松本大学が4回、岡谷東高校が2回である。今後、生徒もしくは学生を引率する学校がバス手配及び使用について検討が必要である。その際、財政面やバス使用状況等を鑑み、可能な範囲で検討を進めていく。
- ②今年度、体育授業参観を開催することができなかった。これは担当者の多忙及び日程調整がつかないためである。保健体育科教員希望学生には、貴重な体育授業参観の機会である。来年度は、体育授業参観が実現するよう、早めに日程調整を行う。
- ③保健室経営参観について、独立して開催できることを検討する必要がある。現在、養護教諭はより専門的な技量が問われている。教育実習前に保健室経営参観の実施は、学生にとっても貴重な機会となり得る。併せて、岡谷東高校で行われるスポーツ関連行事について、本学養護教諭希望学生が、岡谷東高校養護教諭のサポート及び実習の機会として、行事参加も考えられる。岡谷東高校養護教諭と今まで以上の連携を密にし、可能であれば保健室経営参観の単独開催等できるよう検討を進める。
- ④授業改善の立場から、岡谷東高校生への模擬講義において、より質を高める方法の検討が求められる。専門的な内容を高校生に興味・関心を引くような講義展開が求められる。

本学との高大連携推進事業を通じて、高校生が更にスポーツや健康に関する学習意欲を高め、進路選択の一助や高校生活における学びの意識を高める機会になるよう、本事業を進めていきたい。

今後、県立短大の四年制化、長野大学の公立化、競合専門学校の松本進出等、学生募集の観点からも本学を取り巻く状況が厳しさを増すことは明らかである。これまで着実な成果をあげてきている高大連携事業を継続し、さらに多くの高校との連携事業を実現していくことが、本学にとっての重点課題であることは言を俟たない。特に、松商学園高校とは、本学の全学部全学科を挙げての定期的、安定的な連携事業の展開が必然となる。

(資料1)

松商学園高校商業科チャレンジ講座2013

| | | 3時限 13:40~14:40 | 4時限 14:50~15:50 |
|-------|-----|---|--|
| 7月16日 | (火) | 進路講話(中村 入試広報室長)128教室 1年生 18名 | ブライダル入門(小澤)121教室 1年生22名 2年生26名 3年生7名 計47名 |
| | | 経営分析(山添)125教室 1年生7名 2年生11名 3年生7名 計25名 | |
| 7月17日 | (水) | マーケティング①(金子)221教室 1年生7名 2年生22名 3年生13名 計42名 | 医療事務(浜崎)331教室 1年生1名 2年生9名 3年生8名 計18名 |
| 7月18日 | (木) | 経営学入門(飯塚)121教室 1年生16名 2年生46名 3年生15名 計77名 | マーケティング②(金子)221教室 1年生16名 2年生21名 3年生10名 計50名 |

大学授業チャレンジ型連携(2013年夏) 講義時間割

穂高商業高校:3日間とも106名 飯田OIDE長姫高校・辰野高校:29日(長姫44名・辰野17名) 30日(44・25名) 31日(64・21名)

| | 1時限 9:40~10:40 | 2時限 10:50~11:50 | 3時限 13:00~14:00 | 4時限 14:10~15:10 |
|------------------|---|---|---|---|
| 7月29日(月) 167名 | キャリアクリエイト①(糸井) 515教室 穂商106名 経営分析①(山添) 525教室 長姫・辰野61名 | 経営分析①(山添) 525教室 穂商106名 キャリアクリエイト①(糸井) 521教室 長姫・辰野61名 | 経営学入門①(飯塚) 121教室 全167名 | 銀行論①(藤波) 121教室 全167名 |
| 7月30日(火) 175名 | マーケティング①(金子) 125教室(定員90) 穂商63名 辰野25名 計88名 | 銀行論②(藤波) 126教室 穂商63名 辰野25名 | パソコン演習①(浜崎) 332教室:穂商59名 Excel経営分析①(山添) 322教室:穂商47名 | Excel経営分析①(山添) 332教室:穂商59名 パソコン演習①(浜崎) 322教室:穂商47名 |
| | 銀行論②(藤波) 126教室(定員90) 穂商43名 長姫44名 計87名 | マーケティング①(金子) 125教室 穂商43名 長姫44名 | 観光まちづくり~5つのポイント~ (山根) 521教室 長姫・辰野69名 ※13:00~13:55 | 商業と法律 (増尾) 521教室 長姫・辰野69名 ※14:05~15:00 |
| 7月31日(水) 188名 | 経営学入門②(飯塚) 121教室 穂商103名 地域活性化と経営戦略 ~競争と共生の視点から~ (畑井) 525教室 長姫・辰野85名 | 会計学入門①(長島) 121教室 穂商103名 商店街をどう元気にするか ~買物による地域活性化~ (白戸) 525教室 長姫・辰野85名 | 経済学入門①(糸井) 513教室 穂商102名 グループディスカッション ~高校生とまちづくり~ (各教員) 521教室 長姫・辰野85名 | マーケティング②(金子) 524教室 穂商102名 |

7月29日(月)9時20~40分 開講式 515教室

大学授業チャレンジ型連携(2014春) 講義時間割

穂高商業高校106名参加

| | 1時限 9:40~10:40 | 2時限 10:50~11:50 | 3時限 13:00~14:00 | 4時限 14:10~15:10 |
|---------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------|---|
| 3月4日(火) | 経営分析②(山添) 121教室 | 銀行論③(藤波) 121教室 | マーケティング③(金子) 524教室 | 経済学入門②(糸井) 514教室 |
| 3月5日(水) | パソコン演習②(浜崎) 332教室:59名 | Excel経営分析②(山添) 332教室:59名 | マーケティング④(金子) 515教室 | 実業高校からの 進学・就職を考える (中村入試広報室長) 524教室 |
| | Excel経営分析②(山添) 322教室:47名 | パソコン演習②(浜崎) 322教室:47名 | | |
| 3月6日(木) | 銀行論④(藤波) 121教室 | 会計学入門②(長島) 232教室 | キャリアクリエイト②(糸井) 514教室 | 閉講式 514教室(14:10~14:40) |

〈資料2〉

観光ホスピタリティ学科・高大連携講義(2014春) 講義時間割
 高校生が地域で活躍するために～高校生が取り組むコミュニティ・ビジネスの可能性

飯田OIDE長姫高校商業科33名 辰野高校商業科10名

| | 1時限 9:40～10:40 | 2時限 10:50～11:50 | 3時限 13:00～14:00 | 4時限 14:10～15:10 |
|----------|----------------------------------|----------------------------|---|----------------------------|
| 3月25日(火) | コミュニティ・ビジネスとは 白戸 515教室 | 地域資源とは 白戸他 515教室 | 高校生とコミュニティ・ビジネス グループディスカッション 各教員 511・521教室 | グループ発表 閉講式 515教室 |

9時30分より開講式とオリエンテーションをおこないます。昼食は各自学食や売店にてお取りください。

〈資料3〉 平成25年度 岡谷東高等学校及び松本大学連携推進事業

| No. | 月日 | 曜 | 期日 | 教室 | 担当 | 場所 | 対象 | 事業内容 | | |
|-----|----------|---|-------------|-------------|-------|-----------|-------|-----------------|---------------------------------|--|
| 1 | 7月2日 | 火 | 9:00 | 岡谷東高校出発 | | | 松本大学 | 岡谷東高校 1年生 | 大学見学 学科説明 模擬講義 キャンパスライフ体験 | |
| | | | 9:30 | 松本大学着 | | | | | | |
| | | | 9:40～9:55 | オリエンテーション | 643 | 大窄 | | | | |
| | | | 10:00～11:00 | 1時限 | 643 | 江原 | | | | |
| | | | 11:10～12:10 | 2時限 | 643 | 中島弘 | | | | |
| | | | 12:10～13:00 | 昼食 | カフェテリ | 大窄 | | | | |
| | | | 13:00～14:00 | 3時限 | 643 | 等々力 | | | | |
| | | | 14:10 | 松本大学発 | | 大窄 | | | | |
| | | | 14:40 | 岡谷東高校着 | | | | | | |
| 2 | 7月3日(水) | 水 | 9:00 | 岡谷東高校出発 | | | 松本大学 | 岡谷東高校 2年生 | 大学での体験授業・講義 | |
| | | | 9:30 | 松本大学着 | | | | | | |
| | | | 9:40～9:55 | オリエンテーション | 531 | 大窄 | | | | |
| | | | 10:00～11:00 | 1時限 | 531 | 犬飼 | | | | |
| | | | 11:10～12:10 | 2時限 | 531 | 齊藤 | | | | |
| | | | 12:10～13:00 | 昼食 | フォレスト | 大窄 | | | | |
| | | | 13:00～14:00 | 3時限 | 531 | 大窄 | | | | |
| | | | 14:10 | 松本大学発 | | 大窄 | | | | |
| | | | 14:40 | 岡谷東高校着 | | | | | | |
| 3 | 9月12日(木) | | 9:00 | 岡谷東高校出発 | | | 松本大学 | 岡谷東高校 2年生 | 健康を保持増進させるような運動方法の基礎理論等を学ぶ。 | |
| | | | 9:30 | 松本大学着 | | | | | | |
| | | | 9:40～9:55 | オリエンテーション | | 大窄 | | | | |
| | | | 10:00～11:00 | 1時限 | トレ室 | 根本 | | | | |
| | | | 11:10～12:10 | 2時限 | 1体 | 田邊 | | | | |
| | | | 12:10～13:00 | 昼食 | フォレスト | 大窄 | | | | |
| | | | 13:00～14:00 | 3時限 | 643 | 三村 | | | | |
| | | | 14:10 | 松本大学発 | | 大窄 | | | | |
| | | | 14:40 | 岡谷東高校着 | | | | | | |
| 4 | 12月5日 | | 9:00 | 岡谷東高校出発 | | | 松本大学 | 岡谷東高校 1年生 | 大学見学 模擬講義 キャンパスライフ体験 | |
| | | | 9:30 | 松本大学着 | | | | | | |
| | | | 9:40～9:55 | オリエンテーション | 643 | 岩間 | | | | |
| | | | 10:00～11:00 | 1時限 | 643 | 岩間 | | | | |
| | | | 11:10～12:10 | 2時限 | 643 | 呉 | | | | |
| | | | 12:10～13:00 | 昼食 | フォレスト | 呉 | | | | |
| | | | 13:00～14:00 | 3時限 | 643 | 中島節 | | | | |
| | | | 14:10 | 松本大学発 | | 大窄 | | | | |
| | | | 14:40 | 岡谷東高校着 | | | | | | |
| 6 | 2月12日(水) | | 11:30 | 松本大学発 | | 中島節 大窄 | 岡谷東高校 | 保健体育、養護教諭履修の3年生 | 高校の保健授業見学、授業分析及び反省会、保健室経営参観 | |
| | | | 12:00 | 岡谷東高校着 | | | | | | |
| | | | 12:30～13:20 | 4時間目 | | | | | | |
| | | | 13:30～13:50 | 5時間目(質疑応答) | | | | | | |
| | | | 13:50～14:20 | 体:講和、養:経営参観 | | | | | | |
| | | | 14:40 | 岡谷東高校発 | | | | | | |
| | | | 15:10 | 松本大学着 | | | | | | |

〈資料4〉 高大連携推進事業担当者連絡会議

| | 実施日 | 実施場所 | 会議時間 | 参加者 | 議論内容 |
|---|-------|-------|-----------------|--|--|
| 1 | 4月19日 | 岡谷東高校 | 11:20 ～12:30 | 本郷校長、 関島教諭、 小松養護教諭、 大窄 | <ul style="list-style-type: none"> ・校長先生、担当者及び養護教諭との顔合わせ及び松本大学担当者との顔合わせ。 ・現在までの高大連携推進事業推移の説明及び今年度実施計画について。 |
| 2 | 9月13日 | 岡谷東高校 | 17:00 ～18:00 | 関島教諭 小松養護教諭 保健体育科教諭 中島節 大窄 | <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携推進事業における双方のバス使用(回数)について。 ・保健授業参観実施について(保健体育科教諭希望学生及び養護教諭希望学生)。 ・保健室経営参観実施について(養護教諭希望学生)。 |
| 3 | 2月12日 | 岡谷東高校 | 14:50 ～15:50 | 関島教諭 保健体育科教諭 大窄 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、高大連携推進事業のまとめ。 ・高大連携推進事業における双方のバス使用回数について。 ・高大連携推進事業における双方の実施回数及び調整について。 ・次年度、体育授業参観、保健授業参観及び保健室経営参観実施について。 ・その他 |

〈資料5〉

高校授業グレードアップ型連携2013 講義日程(穂高商業高校)

| 回 | 日程 | 科目 | テーマ | 担当 |
|----|--------|------------|-------------------------------|----|
| 1 | 4月15日 | 商業簿記・会計学① | 帳簿記入、試算表/企業会計原則、一般原則 | 長島 |
| 2 | 4月22日 | 商業簿記・会計学② | 現金預金/企業会計原則、損益計算書原則 | |
| 3 | 5月20日 | 工業簿記・原価計算① | 意思決定会計総論～ディズニーランドへ行く～ | 山添 |
| 4 | 5月27日 | 工業簿記・原価計算② | 意思決定のための利益計算方式～焼きそば屋台の利益計算～ | |
| 5 | 6月3日 | 商業簿記・会計学③ | 貸倒引当金/企業会計原則、貸借対照表原則 | 長島 |
| 6 | 6月10日 | 商業簿記・会計学④ | 有価証券/金融商品に関する会計基準 | |
| 7 | 6月17日 | 工業簿記・原価計算③ | 業務執行的意思決定会計(1)～特別注文がきたらどうする?～ | 山添 |
| 8 | 6月24日 | 工業簿記・原価計算④ | 業務執行的意思決定会計(2)～部品を作るか、買うか?～ | |
| 9 | 7月1日 | 商業簿記・会計学⑤ | 一般商品売買/金融商品に関する会計基準 | 長島 |
| 10 | 7月8日 | 商業簿記・会計学⑥ | 特殊商品売買①/棚卸資産の評価に会計基準 | |
| 11 | 8月26日 | 工業簿記・原価計算⑤ | 業務執行的意思決定会計(3)～最適セールスマックス～ | 山添 |
| 12 | 9月2日 | 工業簿記・原価計算⑥ | 業務執行的意思決定会計(4)～リニア・プログラミング～ | |
| 13 | 9月9日 | 工業簿記・原価計算⑦ | 構造的意味決定会計(1)～正味現在価値の計算～ | 長島 |
| 14 | 9月30日 | 商業簿記・会計学⑦ | 特殊商品売買②/棚卸資産の評価に会計基準 | |
| 15 | 10月7日 | 商業簿記・会計学⑧ | 請負工事/工事契約に関する会計基準 | 山添 |
| 16 | 10月28日 | 工業簿記・原価計算⑧ | 構造的意味決定会計(2)～設備投資の意思決定モデル～ | |
| 17 | 11月11日 | 工業簿記・原価計算⑨ | 構造的意味決定会計(3)～法人税の支払いを考慮する～ | 長島 |
| 18 | 11月18日 | 商業簿記・会計学⑨ | リース取引/リース取引に関する会計基準 | |
| 19 | 11月25日 | 商業簿記・会計学⑩ | 減価償却計算/固定資産の減損、資産除去債務 | 山添 |
| 20 | 12月2日 | 商業簿記・会計学⑪ | 自己株式/自己株式及び準備金の額の減少 | |
| 21 | 12月9日 | 工業簿記・原価計算⑩ | 構造的意味決定会計(4)～設備の自動化～ | 山添 |
| 22 | 12月16日 | 工業簿記・原価計算⑪ | 構造的意味決定会計(5)～取替投資～ | |
| 23 | 1月20日 | 工業簿記・原価計算⑫ | 構造的意味決定会計(6)～リースか、購入か?～ | |

(10:20～12:10)

執筆担当者 高大連携推進委員長 山添昌彦

2. 教育企画推進委員会

本委員会は平成 23 年度に設置された委員会で、研究科長、各学科長、事務局（管理課長、教務課長、職員 1 名）計 11 名で構成され、その目的は「学科等組織を単位とするカリキュラムポリシーを実現するために必要な教育的企画を提案し、予算化し、実践すること」（平成 23 年度『自己点検・評価報告書』、111 ページ参照）である。また、本年度から大学院も参加することになったが、本年度は、計画等はなかった。

（1）当初の計画 < P・D >

1) 総合経営学部

本年度は、観光ホスピタリティ学科が主体となって実施された活動が、本教育企画推進予算の対象となっている。名称は、「『バリアフリー』を主題にした実践的教育プログラムの実施と成果の活用」であり、本事業は「福祉施設・大学・地域住民の交流活動を通じた福祉的課題の発見と実践」「農業従事者・大学・地域住民の交流活動を通じた地域資源の再構築に関する調査」「松本市におけるバリアフリー状況の調査と実践的活動を通じた課題の発見」の 3 つを柱としていた。この事業は、同学部でこれまで各教員が展開してきた実践的な教育活動を学科の教育活動として一体的に捉え、相互に連携させて展開させ、オムニバス形式の講義や、論文集の作成に結びつける計画であった。そして、このような本事業を通して、地域社会に対して本学の教育手法や学科の認知度を高めることを意図していた。

2) 人間健康学部

本年度は、健康栄養学科で「特別講演会」の実施、スポーツ健康学科で「（パネルディスカッションを含む）講演会」の実施が計画されていた。前者は、各分野で業績のある方々の講演を通して、学生の学びへの意欲や実践活動への意欲の向上を図ることを目的としていた。また、後者についても、スポーツ・ビジネス界をリードする方々の講演を通して、学生の学習・研究意欲の向上や大学生としての在り方について考える機会を与えることを目的としていた。

3) 松商短期大学部

本年度は、従来の①オリジナルテキスト作成、②アウトキャンパス・スタディに加えて、平成 26 年度開設予定の「国際コミュニケーション・フィールド」のトライアルとして、③グローバルコミュニケーション、④サイバーキャンパスの二つの事業を追加した。①は本学の学生に合ったテキストを使用することにより、教育効果をより高めることを目的としており、②は座学による知識を実践で理解・認識させることを目的としている。また、③は短大教育においてもグローバル人材育成を図る観点からトライアルとして実施された事業であり、④は今後ビジネスの現場で活用され、教育手法を大きく変えられとされている情報端末を使って、教育手法の改善を視野に実施した事業である。

（2）評価 < C >

1) 総合経営学部

本学部の『バリアフリー』を主題にした実践的教育プログラムの実施と成果の活用」事業は、平成 24 年度『自己点検評価・報告書』に記載された「今年度の活動との連続性を意識しつつも、学科の全教員がなんらかの形で関与・参画できるようなテーマ設定やプロジェクトの仕組みと、実行する教員の意識づくりが必要である」との検証を踏まえて実施された事業であり、この意味では一定の効果があったと考えられる。

2) 人間健康学部

本学部では両学科とも「講演会」の実施を計画していたが、当該事業は松本大学が採択された C O C 事業として実施されたため、本委員会の管轄ではなくなった。したがって、評価は差し控える。

3) 松商短期大学部

①の事業については、前年度の学生アンケートの結果から有効性が検証されている。また、②については、実施が1週間ではなく1日になったことから実施する授業が減少してきており、縮小傾向にある。教育効果は高いものの現状では実施が難しい状況にあり、次年度以降も引き続き何らかの改善が求められる。③については、平成26年度開設予定の「国際コミュニケーション・フィールド」で実施される新たな教育手法をトライアルで実施したが、学生アンケート等での評価は高く、TOEIC試験でも目標の400点以上の学生が数名いた。また、④については、ソフトの不具合等があり今年度はその改善に努めたが、iPad-miniを活用するようになり、簿記などの授業においてもその教育効果が検証されてきている。これら③と④の事業の教育効果については、平成25年度「学内研究発表会」で報告され、平成26年度以降『地域総合研究』等で各担当者から発表される予定である。

(3) 次年度の事業計画 < A >

1) 大学院

現状では計画なし。

2) 総合経営学部

本学部では、「地域企業の海外事業活動にかかる現地フィールドスタディ」事業を実施する。本事業では、総合経営学部の学生が中国等のアジアに進出している邦人企業を訪問調査等するとともにその成果を公表する。そして、本事業は、地域企業が求めるグローバル人材の育成も視野に入れて実施される。

3) 人間健康学部

平成26年度も引き続いて、前年同様の目的で「講演会」を両学科で実施する。学外者も参加できる公開講演会はCOC事業として実施されるため、学生のみを対象とした講演会を本委員会の企画とする。

4) 松商短期大学部

平成26年度も「オリジナルテキスト作成」「アウトキャンパス・スタディ」「サイバーキャンパス」を引き続き実施し、これらの取り組みの定着を図る。

執筆担当者 教育企画推進委員長 糸井重夫

3. 地域連携推進委員会

平成25年度の文部科学省「地(知)の拠点整備事業」で本学の取組が採択され、組織換えが行われた。活動としては、25年度は事業実施初年度でもあり、補助対象となったのは後半の活動だった。そのため、本学のCOC活動を統括する役割を担う地域連携戦略委員会の活動も後半に限定され、これまでの活動を十分に拡充しきれたとは言い難い。それらについては、次年度からの本格的な活動実施に委ねざるを得ない。

(1) 事業計画 < P >

平成25年度のCOC事業として採択された本学の計画は、教育・研究・社会貢献のすべてに関わる、それ以前の実践の延長線上にある。したがって、これまでの実績を基礎に、さらに発展・拡充させる計画が多い。ここでの点検・評価も、大学全体として従来活動をどの程度拡充させることができたか否かに絞り、地域連携戦略会議が包括する、地域総合研究センター・地域づくり考房「ゆめ」・地域健康支援ステーション・高大連携推進委員会・地域PR委員会・防災対策委員会については、それぞれの点検・評価に譲ることとする。

今回のCOC事業の申請に際し本学がカテゴリーに分けて把握・精査することとした、「ひとづくり」「まちづくり」「健康づくり」の3つの分野ともに、わずか半年の活動としては、全体として計画通りに進捗したと評価してよいだろう。それは、申請書に記載した財政支出がほぼ計画に沿って実行された点からも明らかである。また、次年度の計画も、本年度の実践を踏まえて、十分に実現可能な内容となっており、申請書に記載したとおりに、粛々と展開することとなるだろう。

わずか半年の活動ではあったが、次年度に向けての課題は、本学の地域連携活動を量的に拡充することはもとより、質的にいかに充実させるかである。特に、高等教育機関に相応しい地域連携活動を念頭に置いた計画と実行が求められるのは当然のことと言える。

全学的に地域連携活動を統括する機関としての地域連携戦略委員会については、計画通り、月1回のペースで連絡会議を開催し、関係諸機関相互の活動に関する理解が深まった。また、それぞれの部署・委員会が本学のCOC活動に関する全体像を把握することにも、十分に役立った。今後もこれまでどおり、連絡を密にし、相互理解を深める場として活用してゆくこととなる。

学外者により構成される外部評価委員会を組織し、学外の評価体制も、計画通りに整えた。本学の強い要請を受け、地域課題の精査・検討を当該委員会の使命に加えたこともあり、すでに本年度から活動を開始した当該委員会では、活発な議論が繰り広げられた。本年度の議論をもとに次年度には、当該地域が総力をあげて取り組むべき課題を厳選する予定である。本学のCOC事業がテーマとする、「地域社会の再生に向けて地域に散在する力のベクトルを揃え、地域の力を結集して課題解決の態勢に入る」状態に着々と接近していると見てよいだろう。

執筆担当者 地域連携推進委員長 木村晴壽

II. 研究支援会議

研究活動は教員の大学における四本柱の任務（教育・研究・地域貢献・大学運営）の一つである。中教審のいわゆる「将来像」答申では、大学の役割を自ら規定して、それを生かした特色ある大学運営を行うようにという趣旨が展開されている。本学は地方にある大学として、①日々の教育を通じた「地域の発展に貢献する人材育成」や②地域社会の知の拠点として「知的資源の提供」などが求められていると考えている。こうした役割に照らしてみても、個々の教員が日々の研究活動によって、それらの任務を遂行できるように能力の向上を図っておくことは重要であると考え、研究活動も奨励している。

1) 外部資金の確保

「研究活動推進委員会」を中心として、科研費をはじめとして外部からの資金を確保するように努力することを求めている。というのも、本学が研究活動を奨励するために資金援助をしているが、その原資は学生が納める授業料などである。研究成果は直接あるいは間接的に学生の受講する講義に反映はするが、なかなか学生には理解し難い面も多い。そのため、まずは外部にその資金源を求める努力を行い、それが実らなかった場合に幾分かの支援をしようとするからである。科研費への応募がまだまだ少ないので、これを増加させる努力が必要である。

2) 委託研究の受入

現在教員が持っている専門的能力が評価されて、外部から研究を委託される場合も増えてきている。本学が学生の教育を中心とした大学ではあるが、こうした委託研究や委託事業も「生きた教材」として専門教育の現場に生かせる可能性も大いにある。研究資金獲得以外にも、このような視点も考慮して受け入れられていると思われる。その窓口は「地域総合研究センター」であるが、教員個人のエフォート率なども考慮して、研究・地域貢献活動以外の活動（教育・大学運営）に支障を来さないことなどを確認しようとしている。

3) 各種学内助成金への対応

今年度は助成金の査定の仕方にメスを入れ、大幅な減額や要望事項を付帯するなど、学生の授業料を研究に回すという視点から、無駄のない有効な利用を心掛けるように意識改革も行おうとした。一定の効果が上がってきているが、今後さらに厳しい目で査定を行えるようにしたい。特に「個人研究費との関係」やこれまでの助成に対して「成果の公表がなされているかどうか」なども重要な判断材料としたい。

過去の申請実績を考慮して、大学院、学部・学科、短大部など最初に割り振られる基金の額を変更している。またこれまで同様に、各学部で学部長・学科長で一次査定を行い、研究推進委員会で最終査定を行うというスタイルは踏襲したい。

研究誌の編集に関しては、論文としての体裁を中心とした“査読”システムを設けることとし、論文集の質の向上を目指そうと考えている。このことが、科研費の採択率の向上にも資する可能性があると思っている。

今年度は、研究に関連する次の各委員会を束ねて活動した。実質的内容は、各委員会のP D C Aに沿った報告に詳しいのでそちらに譲るが、ここでは全体的な進捗状況について概観しておく。

研究推進については、研究費支援の在り方について、これまで明確ではないが暗に問題とされていたテーマを俎上に挙げ、内部監査室の指摘も考慮に入れた新しい方式を提言できた。ある程度ルーチン化されたと思わせるので、後はこれに沿ってマイナー・チェンジを施せば良いところまで到達した。

研究誌の編集についても、論文の質を上げる、研究倫理を強く意識する等の視点から、やはりこれまで問題視されながらもなかなか改善に繋がっていなかった課題を解決出来た。ここでも骨格に関しては、ある程度のルーティン化が出来たので、今後は修正を加えることで改良できると考えられる。

出版会でも、きちんと受付、採否の判断、出版の手続きをとって刊行するスタイルが定着した。誰もが出版を申し込める気風が整って来たと思える。残るは、刊行した書籍の販売、関係者への配布などの事務管理である。

地域総合研究センターは、研究誌の発行の他、本学教員の地域と連携した研究・事業活動の窓口としての業務をこなすことにあった。後者に関して、未だ個人的に対応してしまう教員がいるので、更に徹底する必要性があり、これが今後の課題でもある。

研究倫理委員会は、医学、生物学的な研究内容を倫理規定に照らし合わせて、その可否を判定することを主な目的としていたが、記述上の問題など研究一般に生ずる倫理上の問題も扱う委員会へと認識を改め、規程の変更にも踏み込んだ。全教員に倫理規定に基づいて、各種研究費の使用を含め研究を進めることへの同意を取り付けることにもなった。動物実験や遺伝子組み換えの特別な課題に対する委員会を含め、ほぼ研究倫理の分野では、大きな課題を残すことなく処理できた。

全体として、もやもやとしていた課題をほぼ全て合意の上解決し、後はより実態にあった修正を施せば良いという地点まで到達できた。この意味で、今期の研究支援会議は大いに成果を挙げたと言えよう。

執筆担当者 研究支援会議 議長 住吉廣行

1. 研究推進委員会

本委員会は、昨年度に引き続き、学長、大学院研究科長、総合経営学部学部長・両学科長、人間健康学部学部長・両学科長、松商短期大学部学部長・両学科長をメンバーとし、大学院健康科学研究科山田教授を委員長として委員会を運営した。会議は6回開催された。

(1) 年度当初の目標 < P >

1) 学内競争的研究費の効率的運用に向けた改革を行う。

・昨年度からの議論を踏まえ、学内の競争的研究費の改革のポイントを下記のように抽出した。

- ①研究の振興が、学生へのよりよい教育へ繋がるとの考えを全体で共有する。
- ②学科別に分けていた予算配分を大学全体に統一する。
- ③個人研究費と競争的研究費の使用についての考え方を明確にし、全教員に周知徹底する。
- ④学内競争的研究費自体は学生の授業料が原資であり、申請すれば一定の金額が付くという認識があるとすれば是正する。
- ⑤ゼミや教育実践活動については、当該研究費ではなく、教育企画推進委員会の予算とする。
- ⑥研究費の区分の定義を明確にする必要がある。

- ⑦期限内に報告がない、あるいは、研究成果が見えない場合はゼロ査定とする。
 - ⑧研究費取得後の成果を後追いしていく。より厳密に過去の研究業績に応じて研究費の配分を行う。
 - ⑨旅費や謝金の使用のルールをより明確にし、使用後に証明書の提出ができない場合には個人負担を前提とする。
 - ⑩研究内容に変更があった場合は、委員会に報告するとともに即座に研究費の執行を停止する。
 - ⑪助成を得た研究内容について、第2回松本大学教員研究発表会で発表することを義務づける。
 - ⑫研究発表会で発表しない場合や報告書の提出が遅れた場合は、次年度研究費を減額する。
- これらの諸課題を今年度中に解決し、新しい基準を設けることを目標とする。
- 2) 「公的研究費の適正使用」について、全教員に周知徹底する。
 - ・研究費使用に関しての最低限のルールを設け、周知徹底することを目的にする。
 - 3) 文部科学省の科学研究費を含めた学外研究費の積極的獲得を目指す。
 - 4) その他

(2) 目標の実施状況 < D >

- 1) 学内競争的研究費の効率的運用に向けた改革を行う。
 - ・諸課題の解決策について委員会で議論を重ね、変更点について「学内研究費に関わる確認事項(案)」を作成した。すべての教員に原案を配付し、概ね1ヶ月の周知期間を持ち、原案に対する意見やコメントを受け付ける機会を設けた。それらの意見やコメントをもとに委員会で議論・修正を行い、修正点を再度全教員に周知し、「学内研究費に関わる確認事項」として3学部教授会で確認された。主要な変更点は、下記の通りである。
- ①教員の研究や活動には、原則個人研究費を使用することとし、個人研究費でまかなえない部分を学内競争的研究費に申請することとする。
- ②個人研究費・競争的研究費に関わらず、研究成果はできる限り査読付き雑誌への投稿を目指すこと。
- ③学内競争的研究費の区分を、学術研究助成費（広く学術的な課題の解決に関する研究）・地域総合研究助成費（「地域」の課題解決を中心とした研究）・教育推進研究助成費（教育推進に関わる研究）と定義する。
- ④各法規を遵守した研究を対象とする（必要に応じて、学内の研究倫理委員会・動物実験委員会・遺伝子組み換え実験安全委員会等に研究実施の承認を受けること）。
- ⑤ゼミ活動や地域での実践的活動などのうち、教育的要素が多い取り組みは本研究費ではなく、教育企画推進委員会・教務課などの他の予算に申請する。
- ⑥文部科学省科学研究費などの公的資金へ申請した者を有申請資格者とする（但し、年齢制限により申請できない者を除く）。科研費申請者が科研費と異なる内容の研究を申請する場合、当該研究内容について民間財団を含めた外部資金への申請を必要とする。
- ⑦研究者あたり1課題のみの申請とする。
- ⑧助成を受けた研究内容について当該年度3月上旬の松本大学教員研究発表会での発表と4月末までの報告書の提出、成果が得られた場合は速やかに刊行物の提出を義務付ける。怠った場合は、次年度申請できないこととする。
- ⑨第2段審査で過去5年間の成果を判断に加える。
- ⑩審査は、研究推進委員会により適正かつ公平に行う。学部学科を超えて、専門分野に近い委員が審査を行う。
- ⑪パソコンの購入は、研究科長・学部長・学科長に承認を受けること。デジカメは原則として情報センターのものを使用すること。
- ⑫発表を伴わない学会参加や編集委員会・理事会への参加は個人研究費扱いとする。国外学会旅費は、個人研究費・学内競争的研究費とも本人が発表する場合のみ認められる。学内競争的研究費の学会旅

費は、当該研究内容の発表の場合にのみ認められる。宿泊費は終了後1週間以内に、出張報告書の提出と同時に内容証明（領収書など）を事務局に提示し、出張報告書に検収印を受けること（提示できない場合、自己負担とする）。

⑬謝金を出す場合は、原則銀行振り込みを活用する。

⑭研究発表会では到達したところまでの内容を発表すること。また、発表時に、どのように予算を支出したかも発表すること。

- ・昨年度と同様、申請書の内容に関わる第1段審査を研究推進委員会のメンバーが行った。審査結果を受けて住吉学長と山田委員長が第2段審査と助成金額案の作成を行い、委員会において修正後承認された。
- ・学内競争的研究費の採択者と希望者を対象として、平成26年3月11日と12日に第2回松本大学教員研究発表会を開催し、教育企画からの2演題を含めて34件の発表を行った。昨年度の反省を踏まえ、研究発表会を「自然科学系」と「人文・社会科学系」に分けて開催し、セッションごとに座長をおき、質疑応答の時間を確保した。

2) 「公的研究費の適正使用」について、全教員に周知徹底する。

- ・4月の合同教授会で、全教員から署名付き確認書の提出を受けた。
- ・「松本大学及び松本大学松商短期大学部における公的研究費の管理・監査のガイドライン」を新任教員に配付し、その内容を確認した旨を示す確認書に署名・提出を受けた。
- ・新任教員に向けて、委員長による「公的研究費の適切な運用について」の講演会を平成25年7月31日に開催した。

3) 文部科学省の科学研究費を含めた学外研究費の積極的獲得を目指す。

- ・「公的研究費の適切な運用について」の講演会時にあわせて、希望教員に対して「科研費の申請及び採択に向けて」という題で科研費申請書の書き方についての説明会を行った。
- ・文部科学省の科学研究費に新規で2件採択された。
- ・私学事業団の学術研究振興資金公募（1大学につき1件）に申請し採択された。
- ・大学研究費100万円以上、短大60万円以上の大学間の共同研究に対して補助される私学事業団経常費特別補助（大学間連携等による共同研究）に大学として1件採択された。
- ・民間財団の研究費に3件が採択された。
- ・地域や企業からの外部委託もしくは連携協定による研究や調査については23件（新規6、継続17）であった。これら締結先の内訳は農水省1、厚生労働省1、松本市など地方行政8、商工会や観光協会等10、企業、大学等3であった。

（3）点検・評価の結果（目標の達成状況） < C >

1) 学内競争的研究費の効率的運用に向けた改革を行う。

- ・平成26年度学内競争的研究費に対して、14件（総額9,862千円）の申請があった。当初予算1,300万円の枠内に収まったが、内容の審査と予算額の精査を行った。
- ・研究内容を定義し、ゼミ活動等の取り組みについては別予算で申請することとしたため、申請者が前年より大幅減少し14件になったと思われる。
- ・申請書を改訂したことで、経費請求の根拠がずいぶん明確になったが、特に旅費や謝金等の算出根拠や共同研究者がある場合の先方の負担額が明確でないため、次年度に向けて申請書をさらに改訂した。
- ・審査の結果を委員会からのコメント付きで申請者にフィードバックした。今後、外部を含めた研究費申請書の書き方の向上に役立つと期待される。
- ・研究発表会は、昨年度よりも充実した内容になった。

2) 「公的研究費の適正使用」について、全教員に周知徹底する。

- ・説明会で、不適切な利用とはどういうケースかについて教員への周知を図るとともに、本学のガイドラインを読んで、その内容を確認したとの確認書を新任教員から提出を受けることができた。次年度は個別の例を挙げて説明会を行うとより分かり易いと思われる。
 - ・業者からの納品の際に事務局による検収制度は今年度も適切に機能したため、定着したといえる。
- 3) 文部科学省の科学研究費を含めた学外研究費の積極的獲得を目指す。
- ・平成 25 年度文部科学省科学研究費の継続分は大学院健康科学研究科 2 件、総合経営学部 1 件、人間健康学部 1 件であった。新規採択は総合経営学部 1 件、人間健康学部 1 件で、採択率はそれぞれ、11.1%と 7.1%となった。大学全体では 6.9%であった。昨年度と比べて、大学院健康科学研究科 2 件減、総合経営学部 1 件増、人間健康学部 1 件減となり、いっそうの獲得率向上が望まれた。
 - ・科研費獲得のために 7 月 31 日に行った説明会は、教員の参加者は 8 名、職員の参加者は 6 名であった。参加できなかった教員には、当日の資料を配付した。
 - ・平成 26 年度文部科学省科学研究費の申請件数は、大学院健康科学研究科 3 件、総合経営学部 3 件、人間健康学部 9 件、短期大学部 1 件の計 16 件となった。前年度 29 件に比して 13 件の減少となった。
 - ・高校生を対象に開催した本学山田研究室「ひらめき☆ときめきサイエンス」教室の活動が独立行政法人日本学術振興会より平成 25 年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞として表彰を受けた。

(4) 次年度に向けて <A>

- 1) 「公的研究費の適正使用」について、全教員に周知徹底する。
- ・旅費の検収について、宿泊証明の提示を徹底する。
 - ・「松本大学及び松本大学松商短期大学部における公的研究費の管理・監査のガイドライン」を遵守する旨を確認する確認書を毎年 4 月 1 日付けで全教員から署名・提出を受ける。
 - ・個人研究費の支出について、チェック体制を確立するかどうか議論する。
- 2) 文部科学省の科学研究費を含めた学外研究費の積極的獲得を目指す。
- ・本学の文部科学省科学研究費の申請率・採択率は、他大学と比して依然として低い。そこで、引き続き、申請を促すとともに採択率の向上も目指す必要がある。
 - ・科研費申請者を増やすために、年度当初から教授会等で科研費申請を促す。
 - ・引き続き、「科研費の申請及び採択に向けて」の説明会を開催する。
 - ・引き続き、文部省科学研究費に加えて学外の研究費の募集状況も可能な限り全教員に配信する。
- 3) その他
- ・負担金が教員の立て替え払いとなっており、まとめて請求されることが多く、月ごとの支払いとなっていないため、監査室から厳しく指摘を受けている。したがって、関連書類（請求書や金額の根拠）と振り込み用紙を会計担当へ提出し、事務局で手続きする方向にする。振り込み料金も研究費（負担金）より支出する。
 - ・研究発表会をより充実したものにしていくための方策を考える。
 - ・発表会や学内で行われる研究会等のために、委員会としてレーザーポインターを 2 台購入する。
 - ・研究発表会での研究費支出の開示の方法も統一すべきかどうかを議論する。
 - ・研究発表会の開催と日時について、より早く院生・学生への周知を行い、参加を促す。

執筆担当者 研究推進委員長 山田一哉

2. 研究誌編集委員会

今年度新設された研究誌編集委員会は、学長、大学院研究科長、総合経営学部学部長・両学科長、人間健康学部学部長・両学科長、松商短期大学部学部長・両学科長の委員に加えて、学長指名で大学院健康科学研究科山田を委員長として運営した。事務には管理課があたった。会議は 5 回開催された。

(1) 年度当初の目標 < P >

- 1) 「松本大学研究紀要」や「地域総合研究」の論文の質を担保するために、適切な方策を施す。
 - ・「松本大学研究紀要」も「地域総合研究」も『機関リポジトリ』に登録されているため、インターネットで検索すれば、創刊号からの掲載文が世界中の人の目に入る状態になっている。したがって、本学としても、本学教員の研究・教育活動の成果を世界に発信するこれらの研究誌の質を常に高いレベルで維持するために、適切な方策を施すこととする。そのために、現行の「松本大学研究紀要」・「地域総合研究」の内容をこの考えに沿った形に変更する。
- 2) 「松本大学研究紀要」の発刊業務について、図書委員会から移管する。

(2) 目標の実施状況 < D >

- 1) 「松本大学研究紀要」や「地域総合研究」の論文の質を担保するために、適切な方策を施す。
 - ・はじめに現在の研究誌の問題点を抽出し、その改善策について委員会で議論を重ね、変更点について原案を作成した。すべての教員に原案を配付し、概ね1ヶ月の周知期間を持ち、原案に対する意見やコメントを受け付ける機会を設けた。それらの意見やコメントをもとに委員会で議論・修正を行い、修正点を再度全教員に周知した。主要な変更点は、下記の通りである。
- ①両研究誌の位置づけを明確にし、投稿原稿の分類を「論文」「研究ノート」「教育実践報告」の3分野から「総説」「原著論文」「研究ノート」「調査・事例報告」「教育実践報告」「資料」「その他」の7分野に拡大し、それぞれの分類について定義した。
- ②著者の範囲や匿名審査員2名による形式査読の内容と流れも明確にした。
- ③原稿の体裁を整えるために執筆要項を作成した。
- ④「松本大学研究紀要」を2段組にすることにし、「地域総合研究」と同じA4版に変更した。
- ⑤著者には別刷30部に加えて、PDFファイルを配付することにした。
- ⑥著者用の執筆意向調査書、執筆概要、表紙のひな形ファイルを作成した。
- ⑦査読者用の形式査読内容通知書のひな形ファイルを作成した。査読の内容について記載した「査読の手順・流れについて」のファイルを作成した。
 - ・「松本大学研究紀要執筆規程」は存在するが、「地域総合研究」に関する規程が存在しないことが明らかになった。そこで、前述の修正原案をもとに、新たに「松本大学研究紀要」と「地域総合研究」を統合する形で「松本大学研究誌規程」を作成した。
- 2) 「松本大学研究紀要」の発刊業務について、図書委員会から移管する。
 - ・当初図書委員会に計上されていた予算を研究誌編集委員会に移管し、管理課が管理することとした。

(3) 点検・評価の結果(目標の達成状況) < C >

- 1) 「松本大学研究紀要」や「地域総合研究」の論文の質を担保するために、適切な方策を施す。
 - ・委員会と全教員の間で、複数回、研究誌に対する考え方・今後の方針を共有できたため、論文の質を担保できる方向に向かっていると思われる。
 - ・教授会において、投稿原稿については形式査読を行う旨をアナウンスし、「地域総合研究」は部分的に新ルールに則りながら形式査読を行い、「松本大学研究紀要」では実際に新ルールに則って形式査読を行うことができた。
 - ・3学部の教授会および理事会において「松本大学研究誌規程」の承認と既存の「松本大学研究紀要執筆規程」の廃止を行うことができた。
 - ・「松本大学研究紀要」の刊行過程で印刷業者と綿密に打ち合わせを行い、A4版で印刷する際の詳細な条件を決定し、執筆要項に反映させることができた。
 - ・執筆要項を全教員に配付することができた。
 - ・「地域総合研究」は地域総合研究センターから300部を刊行した。

- ・「松本大学研究紀要」は 650 部を刊行した。
- 2) 「松本大学研究紀要」の発刊業務について、図書委員会から移管する。
- ・予算の移管も順調に行うことができ、「松本大学研究紀要」は A4 版、2 段組印刷で 650 部を刊行した。

(4) 次年度に向けて < D >

- ・「松本大学研究誌」「地域総合研究」両誌についての原稿募集から締め切り、刊行までのスケジュールを予め教員に知らせておき、原稿の準備を進めてもらうのが妥当だと思われる。
- ・次年度以降、「地域総合研究」も研究誌編集委員会で受付・形式査読を行い、研究誌編集委員会から刊行することにする。
- ・今回の改革で、気がつかなかった点や指摘事項があれば、さらに委員会で検討して、研究誌をより良いものにしていく必要がある。

執筆担当者 研究誌編集委員長 山田一哉

3. 松本大学出版会

今年度は、昨年度に引き続き、総合経営学部長、人間健康学部長、松商短期大学部長をメンバーとし、事務局は総務課長と職員1名で構成された。短期大学部長を委員長として運営し3冊の書籍を出版した。

(1) 年度当初の計画 ・本年度の活動状況 < P・D >

1) 出版予定と結果

①出版希望者の募集

出版希望者の中より1件選定し25年度中に書籍を出版する予定で募集をかけたが、出版希望は2件だけであった。会議で審議した結果、2件とも出版することとなった。

| | | | |
|-----------------------------|------------|--------------|-------|
| 『「売買と貸借」の諸相』 | 松原健二・長島正浩著 | 2013.12.9 発刊 | 500 冊 |
| 『アクセシブル・ツーリズム ガイドブック in 釜山』 | 尻無浜博幸監修 | 2014.3.20 発刊 | 500 冊 |

②松本大学の歩みの書籍化

大学創立10周年・短期大学部創立60周年の記念事業として、松本大学の歩みを書籍として出版し、松本大学方式の真価を問う機会とする予定であったが、県立短大の4年制化問題により執筆予定者が多忙を極め、今年度は見送ることとなった。

③松本大学周年事業として実施した記念講座(8回)の書籍化

| | | | |
|--|----------------------------|---------------|-------|
| 『松本大学創立10周年・松本大学松商短期大学部60周年記念講座 21世紀の長野県を展望する』 | 松本大学・松本大学松商短期大学部周年事業実行委員会編 | 2013.12.20 発刊 | 500 冊 |
|--|----------------------------|---------------|-------|

④松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト活動の書籍化

プロジェクトの活動内容を書籍として出版するための準備を進めるという予定通り、平成24年度の活動を報告書としてまとめて、『地域総合研究第14号 Part 1』に掲載した。

2) 広報活動

【継続して実施している活動】

前年度より引き続き①～⑥の活動を実施する予定でスタートした。

- ①既存の書籍の販売に力を注ぐ。(学生の協力も得て実施する)
- ②本が出版されたら、新聞各社に記事として取り上げてもらえる広報活動をおこなう。
- ③広報活動のできる出版社で書籍を作成することも検討する。
- ④講演会・研修会・学会・授業等、教員にも販売協力を引き続きお願いする。
- ⑤松商サポート・松本大学生協へ販売協力を依頼する。

⑥DVDの販売に関しては、健康指導の研修会や講演会を実施する際は、必ず販売員を同伴する。

①～⑥までの活動を実施したが、思うに任せない状況であった。上記以外に、松本大学のホームページ上の松本大学出版会の情報を更新した。

【新規に実施した活動】

①松本大学出版会の出版目録を2014年度として更新し、配布した。

②平成24年度に増刷した『公民館で地域がよみがえる』について、長野県出版協会の『信州の本』に紹介を載せて、広報を図った。

3) 検討事項（継続）

①松本大学創立10周年を契機に、松本大学出版会の業務内容の検討をおこなうことはできなかった。

②在庫が少なくなった書籍の再版について、検討をする機会を設けることができなかった。

4) 事務処理のマニュアル化を行う予定であったが、着手することができなかった。

(2) 点検評価 < C >

1) 出版書籍について

①書籍出版

今年度は三冊の書籍を出版できたことは、成果であった。特に、公開講座をまとめた書籍は、本学の特徴が出ており、広報活動に効果的であると考えられるので、高校へ配布することも視野に入れて活用していただけるよう、広報委員会に働きかける。

また、研究書では採算をとることは難しいが、大学として研究書を出版することは必要である点について経営陣が一定の理解を示すようになってきた。今後とも、研究書は本学の広報活動の一環との考え方が根付くよう説明する努力を行って行きたい。

②増刷検討書籍について

引き続き在庫が少なくなっている以下の書籍（4点）の再版あるいは増刷を検討する必要がある。検討する際のポイントとして、広報効果がある書籍か否かが問われる。

中野和朗著『続・幸せづくりの人づくり』・糸井重夫編著『日本経済の変容と人材』・山根宏文編著『地域と美術』・今井朗子編『女性企業家に学ぶ』

2) 広報活動

- ・あらゆる機会（講演会、シンポジウム、学会等）を捉えて、書籍やDVDを販売するよう努めたが、売上は伸びなかった。
- ・販売方法について、検討の結果、アマゾンへ店舗を開設する予定で進んでいる。アマゾンの開設については、宣伝効果を一番に考えている。
- ・本来、出版会で作成する書籍は、先生方の研究成果を広く世に問うための手段であり、必ずしも売り上げに結び付く物ばかりではない点を、機会あるごとに説明して理事・監事等の理解を求めていく。
- ・本学の行ってきた教育指導・学生指導は松本大学方式として、教育機関関係者に認められつつある。そこで、本学の教育活動・学生指導を広く世に問うためにも、松本大学方式を書籍として紹介する必要がある。学長への執筆依頼を検討する。

3) 事務処理のマニュアル化

誰が事務処理を担当しても問題が生じないように、マニュアル化が必要と考えて本年度の計画に入れておいたが、着手できなかった。来年度こそは、マニュアル化を進める必要がある。

4) 検討事項

現在在庫として抱えている書籍についての有効利用を検討したい。従来からの提案のように、本学の広報活動の一環として、関係機関や来訪者に提供することを学内に周知し、有効利用していただくことを学内関係各位に提案したい。

(3) 来年度の事業計画 < A >

1) 出版予定

- ①出版希望者を募り、希望者の中より1件選定し26年度中に書籍を出版する。
- ②COCの活動の一環として実施した公開講座を書籍としてまとめる。
雪のために中止になった2回分をどうするか、検討する必要がある。
- ③大学創立10周年・短期大学部創立60周年の記念事業として、松本大学の歩みを書籍として出版する。
- ④松本大学東日本大震災災害プロジェクトの活動を書籍として出版するための準備を進める。当面は、平成25年度の活動を報告書としてまとめる作業をしていただく。

2) 広報活動

- ・年度当初計画していた①～⑥の活動を地道に実施する。
- ・アマゾンへ店舗を開く。

3) 事務処理のマニュアル化に着手する。

4) 検討事項 (継続)

- ①松本大学創立10周年を契機に、松本出版会の業務内容の検討(継続)。
- ②在庫が少なくなった書籍について、再版するか否かの検討を検討をおこなう。

執筆担当者 松本大学出版会運営委員長 山添昌彦

4. 地域総合研究センター

今年度のセンター運営委員会構成は、委員長：住吉、健康科学研究科：山田、総合経営学部：増尾、人間健康学部：中島(節)、短大部：飯塚、事務局：柴田・松田・小穴、会計担当は腰原の9名であった。また、センターの研究員は本学の全専任教員であり、昨年に引き続き、外部研究員として中野和朗、建石繁明の2名が認められた。

(1) 年度当初の計画 < P >

平成25年度の活動計画は次の通りであった。

- ①地域総合研究第14号の発行、但し形式査読を研究誌編集委員会に依頼する。
また、Part I, IIの2部形式を踏襲し、II部はアニュアル・レポートとする。
- ②外部団体等から大学宛に持ち込まれる、新規・継続を含めた委託事業(研究、共同事業、調査など)の受付窓口となる。運営委員会において、適任者を決めてお願いし、その活動のサポートを行う。
また、個人宛の委託事業の場合でも当センターがその受付窓口となり、財政管理等の実務を担当し、報告書作成などの支援も行う。
- ③松本市と連携して実施する観光ホスピタリティ・カレッジにおいて、企画立案を含めてその運営に主体的に取り組む。
- ④講演会、シンポジウム、フォーラム等のバックアップ(特に、チラシ作成、報告集の作成など)
- ⑤東日本大震災災害支援プロジェクトのバックアップ
- ⑥その他

(2) 活動状況 < D >

本年度の活動計画に沿った活動を実施することが出来た。

1) ①について。

地域総合研究誌14号の発行は、少し予定が遅れたが、論文4編・研究ノート2編、調査・事例報告1編の計7編の研究活動の成果が報告された。第2部の報告書の部では、教育事例として『大学は美味しい!!』フェアに関する報告、加えて東日本大震災災害支援プロジェクトのボランティア活動報告の2編が掲載された。

例年のように、本誌の Part II はアニュアル・レポートになっており、Part I から遅れて発行されている。ちなみに、Part II の管轄は自己点検・評価会議である。

2) ②について

今年度新規には、安曇野市商工会から2種類の調査研究の依頼があった。一つは廣田先生、もう一つは寄藤先生が引き受け、それぞれ要望に添った報告書が廣田先生の場合は2013.12と2014.3、寄藤先生の場合は2014.3に完成している。

6次産業化については、何故か（唯一考えられるのは、農水省の“科研費”の様相があったため）研究推進委員会の管轄下に置かれた。会計担当が文科省の科研費担当者と同じ職員になっていることから推察される。

3) ③について

観光ホスピタリティ学科の山根教授と小穴さんとが、松本市と連携しながら成功させ、次年度にも継続させている。

4) ④に関して

COCに採択されたため、教職員の地域貢献活動として実施される企画（例えば公開講座の開催など）に対しては、本センターがバックアップするだけではなく、後に報告集を作成する段になって、その編集に携わることになった。

5) ⑤について

プロジェクトの活動を側面から支援することに徹した。学生の派遣などにもなう事務処理も数多く、心のカウンセラーや学習支援活動等に対して文部科学省から補助金が出ているが、その会計処理や報告書の作成にも積極的に関与した。

6) ⑥について

シリーズもののテーマを設定した公開講座は、本センターも関与して開催されたが、多くの公開講義や単独の公開講座は、大学院、学部・学科などが教育企画として催すケースが増えている。しかし、こうした場合でも報告集の作成等を任される場合も多い。

(3) 点検・評価 < C >

1) ①について

本研究誌がカバーする内容を地域に係わる研究に限定した結果、投稿論文数が減少したのではないかと思われる。しかし、研究誌の特徴を出す意味で一つの考え方ではないかと思っている。数については、次年度の動向も見て判断したいが、地域貢献・地域連携で世に知られている本学なので、将来この分野での研究成果がアップすることを期待したい。編集委員会の助けを借りて、形式査読が行われた結果、読み易さを含めて論文の質的向上は図られたのではないか。

2) ②について

安曇野市商工会からの申し出を受けるか否かについては、大学としてそれを受け入れるパワーがあるかどうかを判断する必要がある。パワーは学問的な側面もあるが、教員の時間的な余裕の状況、研究等のテーマが妥当なものであるか等総合的な判断が求められる。

今回は事務職員の独断が先行した結果、むげに断ることが出来なくなり、大学としてどう責任を果たすかという問題になってしまった。幸い、当センターの骨折りで引き受け手が名乗り出てくれたから良かったものの、これを契機として今後は運営委員会が認めなければ受け入れないこととするというルールが創られた。

3) ③について

当センターの運営委員会の組織と言うよりもむしろ、山根、小穴のこれまでの経験を生かした奮闘で、松本市と共催の企画を成功させた。組織として対応すべきであるが、これまでの実績に頼ってしまい、松本市という組織的バックアップはあるものの優れて個人的な取組になってしまっており、継続性とい

う視点で見たときには問題が残る。

4) ④について

公開講座が糸井教授の主導によって無事開催することが出来たが、組織性という点からは、後景に退いた単なるバックアップに止まってしまった感がある。本学のマンパワーを考えると、ある特定の人物にウエイトがかかってしまうのは仕方が無い面はあるが、次の担当者を運営委員会で推せるようになっていることが重要であろう。

5) ⑤について

プロジェクトが臨床心理士という専門職を要するため、古林、中山の両先生（これまでの経緯から特に古林）に負担がかかるのは、相手との関係でも仕方がないところである。学習支援については、プロジェクト・リーダーの尻無浜先生を中心に学生を組織して活動を行った。また教育委員会や小学校管理職との対応については、地元出身の木村先生が当たっている。こうした活動が3年間継続した事による信頼感は、他の団体にはない本学に特徴的なものとなっている。しかし、当初予定していた計画が相手方の都合や、本学教職員の個人的な都合も重なって、一部実行不可能になってしまった。そのため文部科学省に対する返金も発生した。また文部科学省からの支援金が使えない、大街道小学校生の松本への呼び寄せ事業については、財源の確保が問題になる。

(4) 今後の課題・改善点 < A >

地域総合研究誌については、次年度の投稿状況を見て内容についての選別をどうするかを判断したい。研究誌編集委員会の形式査読に意味があったと判断できるので、これは継続したい。

地域から教員の誰かを特定せず大学に対して調査・研究依頼があった場合、受け付け窓口は地域総合研究センターとなっている。そこで受入可能性を判断するのは運営委員会であることを徹底させる。また、個人を指名しての依頼であっても、地域総合研究センターの窓口を通し、透明な財政管理等を実施させるようにする。これは研究倫理の視点からも重要な手続きであるとの認識が必要だ。

観光ホスピタリティ・カレッジや公開講座等、なるべく組織的な取組となるような運営形態を模索する必要がある。それが確立するまでは、少なくともセンター運営会議による事務的なバックアップの体制は維持・充実させるべきであろう。

執筆担当者 地域総合研究センター運営委員長 住吉廣行

5. 研究倫理委員会

本年度は、三村教授を委員長として、健康科学研究科1名、総合経営学部1名、人間健康学部1名、短期大学部1名、計5名と外部からの委員2名とで構成された。

(1) 役割と活動 < P・D >

当委員会は本学において研究・教育をおこなう者が主としてヒトを対象とした生物系、医学系の研究を実施する際に、当該研究が科学的、倫理的、法的小および社会的観点から適正に遂行されるための要件を満たしているかを審議することがおもな役割である。具体的には研究を遂行するにあたり、研究実施者より申請のあった研究計画について、上記を踏まえて審査する。

なお、当委員会は研究計画申請案件を審査するばかりでなく、その守備範囲を研究全般に関わる倫理について対象とすることが全学的に確認された(H25/12/27)。すなわち、「研究の倫理に係わる基本的事項に関すること」および「その他研究の倫理に関すること」も含めて審査する。それにともない内規の整備・改正が全学的になされた。

本委員会では審査する際の指針はつぎの6指針に則った。

1. 「臨床研究に関する倫理指針」
2. 「疫学研究に関する倫理指針」

3. 「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」
4. 「栄養改善に関する研究の倫理指針」
5. 「ヘルシンキ宣言」
6. その他：日本社会学会「倫理綱領・倫理綱領にもとづく研究指針」

平成 25 年度に当委員会へ研究倫理申請のあった審査案件は以下のとおり 11 件であった（以下、受理番号（提出日）、代表研究者名、研究題目、研究期間、承認番号）。また、審査実施日はつぎのとおりである：平成 25 年 5 月 11 日（案件(1)、(2)）、平成 25 年 7 月 24 日（案件(3)～(5)）、平成 25 年 10 月 24 日（案件(6)～(10)）、平成 25 年 11 月 1 日（案件(11)）。

- 1) 第 13-01 ①号(H25/3/22)、沖嶋直子、遺伝子型を考慮に入れた減量指導法の確立、承認日～H30/3/31、43
- 2) 第13-01 ②号（H25/3/22）、沖嶋直子、GPR120(R270H)の機能解析 - この一塩基多型と脂質摂取量が肥満に及ぼす影響について -、承認日～H30/3/31、44
- 3) 第13-02号(H25/5/13)、福島智子、イタリアにおける看取りに関する聞き取り調査、H25/8/21～H25/9/24、45
- 4) 第 13-03 号（H25/5/10）、呉泰雄、ジュニア期の食意識が成長期の女子新体操選手の骨組織に及ぼす影響、H25/5/10～H26/3/31、46
- 5) 第 13-04 号（H25/5/10）、呉泰雄、スポーツをする高校生の食生活の特性ならびに QOL との関連、H25/5/10～H26/3/31、47
- 6) 第 13-05 号（H25/10/7）、中島節子、保健だよりに関する実態調査、承認日～H26/3/31、48
- 7) 第 13-06 号（H25/10/8）、百武愛子、人格特性が食嗜好および食事パターンに与える影響、
H25/11/1～H26/3/31、49
- 8) 第 13-7 号（H25/10/10）、小西香苗、食生活・生活習慣と心理・精神的要因Ⅲ、
H25/11/10～H26/3/31、50
- 9) 第13-08号（H25/10/21）、三村芳和、歩行運動中の骨格筋損傷、H25/10/28～H26/12/31、51
- 10) 第13-09号（H25/10/21）、三村芳和、消化器手術後の深部筋量による健康関連QOLへの影響、
H25/9/1～H26/12/31、52
- 11) 研究計画の変更および追加（H25/11/1）、沖嶋直子：GPR120（R270H）の機能解析-この一塩基多型と脂質摂取量が肥満に及ぼす影響について-

（2）点検と審議、および来年度に向けて < C・A >

上記審査対象案件11件に対する当委員会の意見および申請者からの回答要旨はつぎのとおりである。

案件(1)

学生より同意を得る際に自由意思を尊重できる環境を配慮すべき点を当委員会より指摘。ほかに書類の体裁および文言の修正を要求。委員会からの質問に対する回答を2013年6月12日に得て、同6月15日に承認。

案件(2)

本研究の問題点は、対象者は松本大学学生およびその母や祖母となっているが、既に実施済みの、それらの対象者を含む別の多施設共同研究での結果が出ており、その結果を本研究で再び使用することについてであった。すなわち、個人情報取り扱い方、研究参加のICの取り方、および倫理性が問題となった。最終的に以前の、別の研究参加者は本研究の対象から除外することとなり（2013年6月12日）、これを受けて2014年6月15日に承認。

案件(3)

本申請にとくに倫理的な問題はなく、他施設との共同研究における研究代表者の位置付けを明確にするように修正し、2014年7月29日に承認。

案件(4)

当委員会の指摘箇所は次の通り：①被験者の選定から同意を得るまでの過程、②対象者の抽出方法、③本研究の重要性および被験者の参加が必要不可欠である理由を明確にすること、④そのほか書類上の不備な点を修正すること、⑤「ジュニア期」の意味について、委員会と申請者とのやりとりの末、同8月8日に承認。

案件(5)

問題点としては、本研究の申請書類に別の研究の内容が記載されており（以下の諸点）、新しく記述することを指導：①「研究計画書」— 研究の意義・目的；②「研究計画書」— 研究方法；③「研究計画書」— 研究参加により被験者にもたらされうる利益；④「研究に関する被験者の方への説明文書」研究により期待される利益。これらを修正のうえ、同8月8日に承認。

案件(6)

対象者の選定方法について当委員会より以下の質問をした。長野県内に勤務する養護教諭のなかで研究会に出席し、「同意を得た100名」もしくは「同意を得るために質問紙を配布する100名」をどのようにセレクションして被験者とするのか。これに対し申請者より、集団法にて質問票の回収をもって同意する旨の回答を2013年10月28日に得た。同10月29日に承認。

案件(7)

当委員会からの質問はつぎの3点：①母集団の松本大学人間健康学部の学生750名から任意に同意する者670名（協力率90%）を見込んでいるが、協力率90%の妥当性について。②学生らへの研究内容の説明、参加の有無の意思決定がどのような状況でおこなわれるか。そして③除外基準：基準の適応は学生の自己申告に依るのか。

申請者からの回答要旨はつぎのとおり（2013年11月11日）：①これまでの実績から90%という協力率を見込んだ；②集合法で対象者に調査票の記入をおこなってもらい、すなわち、一般の講義および実習後に調査の説明を口頭でおこない、同意を得たのちに調査票に記入してもらい。③除外基準は自己申告による。当委員会ではこれらの回答を「了」とし、同11月23日に承認。

案件(8)

当委員会が関心を寄せた点はつぎの4点：①対象者の協力率90%という高い見込みをつけている妥当性について；②学生らへの研究内容の説明、参加の有無の意思決定がどのような状況でおこなわれるか；③案件(7)とは独立した研究であるのか；④「精神疾患、妊娠中、食事指導を受けている者」の除外をどのようにおこなうのか。

申請者からの回答要旨はつぎのとおり：①、②、④については上記案件(7)と同様の回答。③については、案件(7)とは独立した研究で、調査票の基本情報などの一部だけを共有。

②についての当委員会の見解は、将来的には対象者が学生である場合、授業とはフリーに研究参加の自由意思が表明できる環境、また研究参加の有無が他者に分からないようにする配慮が必要であろうことの検討をしていく。委員会の質問に対する回答を2013年10月31日および11月23日に得て、同11月23日に承認。

案件(9)

当委員会の指摘点はつぎのとおり：①対象者の選定法と同意の過程とが明確でない。②申請書提出時期が研究開始予定日とあまりにも近接している。申請者より、①については具体的に時系列に研究参加のボランティアの募集から同意を得るまでの過程の説明あり。②に対しては、本申請の承認まで研究を凍結することなどの回答を得（2013年10月26日）、同10月29日に承認。

案件(10)

①研究を実施する社会人大学院生と申請者（大学院指導教員）との役割分担が不明である（研究実施先の長野市民病院で既に倫理申請は承認されている）。②本申請提出時点で、すでに長野市民病院では研究がスタートしている。明確な説明が必要。

①については、社会人大学院生の場合に今後も起こり得る問題であり、今回、当委員会ではそれを明確にした。すなわち、担当教員の指導のもとに大学院生が当該職場で研究をおこなう以上は職場での倫理審査をパスしていても当大学における当委員会の審査が必要である。有害事象が発生したときにどう対処するかについては「職場」と「当大学」との間で明確な取り決めも必要である。②については本申請の承認をまって研究をスタートさせることとした。委員会の質問に対する回答を2013年10月26日に得て、同10月29日に承認

案件(11)の変更点

①追加：対象者から採血をおこなう（血漿レプチンおよびGLP-1値を測定）。②変更：「有害事象は生じ得ないため、特別な補償はない」→「有害事象が生じた場合、研究責任者が医療費を補償する」

本申請は最終的に2014/3/3に申請者より「変更申請の取り消し」の申し出があり、申請を抹消した。

ほかの案件

教員総覧の業績欄に、その記事の内容を閲覧することができないとの指摘を読者から受け、当委員会で調査した。最終的に、発刊元の記載に誤りがあることが判明。当該著者には原稿発表誌の別冊（に相当する）記事を提出してもらおうと同時に①業績は正しく記載すること、②「研究業績」は読者がアクセスできる、すなわち公の機関で閲覧できる程度の業績を掲載することを指導した（2014/12/5および同12/9に委員会開催）。

この案件がきっかけとなって本委員会の役割を全学的に再考し、「研究の倫理に係わる基本的事項に関すること」および「その他研究の倫理に関すること」についても当委員会の守備範囲であることが確認された。

問題および課題としては、①発車間際の「駆け込み的」研究申請、またすでに研究をスタートさせている「乗車済み」申請に対する対応。原則は研究倫理審査をパスするまでは研究遂行は凍結としたい。②当委員会は迅速性が求められており、これに対してはメール会議を多用したい。③研究業績を公表する際、どの発刊誌をもって「業績」とみなすかについて。これまで個人の常識に委ねていたが、その常識のレベルはさまざまであり、さりとてそれを定型化する作業も価値あることなのか検討を続けたい。

執筆担当者 研究倫理委員長 三村芳和

6. 動物実験委員会・遺伝子組み換え実験安全委員会

両委員会は、申請がある時のみ開催される委員会である。平成25年度は、申請者がいなかったため、両委員会はひらかれなかった。尚、例年実施されている動物慰霊祭は、5月22日（水）に敷地内に設けられている動物供養塔にて実施した。

執筆担当者 動物実験委員会・遺伝子組み換え実験安全委員会 委員長 三村芳和

Ⅲ. 自己点検・評価会議

この会議は、その下に①FD・SD委員会、②規程整備委員会、③認証評価対策委員会、④IR推進委員会の4つの委員会があり、全体として大学の実情を的確に把握しその改善策を考える基礎を整えることが任務となっている。学長、研究科長、各学部長・学科長、4委員長（教務、学生、就職、入試）、事務局3名（総務課長、管理課長、職員）で構成され、議長は学長である。各委員会については、各々に報告しているので、そちらを参照していただきたい。ここでは、まず全体を概観しておくが、次に自己点検・評価活動に関する部分について、PDCAサイクルに従って点検・評価する。

[会議全体の概観]

この会議は、その下にある全ての委員会の活動を合わせて、大学運営の今後を展望するための基盤をなすものと考えられる。本会議には、それらの委員会が円滑に運営されていることを把握することが求められている。

①FD・SDでは、授業改善や職員の学生対応を含む職務改善を目指すための委員会である。これを教

職員の技術改革に止まらず意識改革にまで高めることが目標になっている。

- ②規程は職場でのあらゆるルールを示すものであるが、古いバージョンのまま据え置かれているケースが見受けられ、不完全な場合もあるのでその整備が待たれている。整備に係わるのは、大学全体の様相を理解しており、実情を踏まえた上で合理的な判断を下せる人でなければいけない。ルールの改善だけに急がれる課題である。
- ③第三者評価を受ける時期が近づいて来ている。これに備えて今から周到な準備をしておく必要がある。評価項目や評価活動の実情を把握し、本学の不備な点や改善すべき事項に素早く気づき、対応の準備に当たるのが認証評価対策委員会である。
- ④本学が所持するデータから情報を引き出し、多様なテーマに対する実情を数値的に把握するだけでなく、改善策に対する課題を提起するのもこの委員会の役目である。データを常時管理しているのが職員であるため、IRを進めるには教職協働がどうしても必要になってくる。「教職協働」と「科学的な処方に基づく改善策の提起」という2つの意味で、大学改革の新しい方向性を示していると言える。

[自己点検・評価活動]

①アニュアル・レポート

2012年度の新しい組織体制の下で、2011年度の活動を報告するという状況になっていたため、執筆担当者に若干の混乱が見られたこと、担当者の体調不良も重なって発行時期(11月)が例年(10月)に比べ遅れてしまった。例年より早く発行(7月)するという方針に比べると、大幅な後退とも言える。

しかしながら、2012年度の間総括に基づいて2013年度の予算を立案するというプロセスを採ったため、2012年度のアニュアル・レポートの作成は以前よりも半歩は進んだ状況を創り出していると言える。従って次年度は7月の発行をどうしても実現したい。

②学生版アニュアル・レポートの作成

アニュアル・レポートと同様に、担当者の体調不良による遅れ、アニュアル・レポート発行の遅延の影響で、学生版も例年よりも遅い発行となってしまった。このレポートの活用に関しての評価が未だ出来ていないので、こうした方面からの調査も今後必要になってくる。

③自己点検・評価報告書の発行

2012年度の新しい組織体制に衣替えする前に、その前身としての組織変更もあった。2011年度の活動報告は、その前身の体制に基づいてのPDCAサイクルであったので、若干の戸惑いも見受けられた。その結果発行がやはりずれ込んでしまった。しかし、エビデンスに基づいた点検・評価になったと思える。

新しい組織体制の下で、報告書も新しい構成になるであろうが、それを克服して7月の発行を目指したい。

(1) 年度当初の事業計画 < P >

①自己点検・評価報告書を作成する

②アニュアル・レポートを作成し、地域総合研究誌のPart IIとして発行する

③学生版アニュアル・レポートを、教務・学生・就職課などと協力して作成する

これらの報告書作成を通して、本学の実情を全教職員が共有し、本学の改善の方向性を考える際の前提条件を整える。

さて、これら3つの報告書・レポートを、期日を気にしてなるべく早い時期に作成する。順序としては、先ず②のアニュアル・レポートである。これは報告書①のPDCAサイクルの、Dの部分を作成することに対応する。早期作成の手立てとして2段階に分けているが、先ず4月～12月までの活動の成果を年明けに提出し、1～3月分を4月の中旬までに提出する。教職員個人と一部のセンターの一年間の活動実績が纏められ、整理されているが、本当は5月には発行したいと考えている。次は①の自己点検・評価報告書の作成である。< P >は年度当初に設定されているので、アニュアル・レポートで< D >が

作成されていれば、後はそれを評価し、改善すべき点をまとめるだけになっている。これらは、委員会やセンターの日常業務でもあるので、②の1ヶ月後位には①を発行できるであろう。③は、学生個々人の活動を把握する必要があるため、かなり大掛かりな調査活動を伴う。従って夏休み明けに発行できれば良いと思われる。特に②は、朝日、読売、日経、文部科学省など各種アンケート調査への回答には欠かせないものであり、完成前の段階のデータに基づいて回答している。回答に必要な部分は出揃っているので、例年困ることはない。

活動実績というデータなので、各教職員はその活動を実施する前或いは直後に入力するくせを付けてしまえば、データ提出の要請があった時点で直ちに提出への対応が出来るはずである。この3冊の報告書の持つ重要な意味を理解して貰うことができれば、こうした早期発行の目標は自ずと達成できると思われる。

(2) 活動実績 < D >

3つの報告書は、年度内に発行することは出来たが、大幅な遅れが出ている。②の発行が11月まで遅れ込み、①は12月、③は3月といった具合である。余り遅いとそれに基づいた改善策を打つのが遅れて仕舞うという弊害が出る可能性がある。また、書かれた内容を全教職員が共通に理解・把握しているという状況を創り出すことにも成功していないように思われる。職員の間で、他部署が何を行っているかわからない等というお粗末な状況があることが、それを象徴している。即ち、これからの学園の将来を考える上で、この報告書が持つ重要な意味が、未だ十分に理解されていないということでもある。

(3) 点検・評価 < C・A >

報告書のデータの精度は年を重ねる毎に上がってきていると思われる。編集に携わる教職員の慣れも影響しているようである。例年提出が遅れる教員は決まっており、その教員が自覚さえすればこの業務は大きく進捗すると思われる。自覚を促すことが課題である。研究費の査定に反映させるなど、重要性を理解してもらうための工夫を凝らすことも考えた方が良いのかも知れない。

また自己点検・評価報告書に書かれた内容は、全教職員が読むだけで済ませるのでは不十分である。大学全体や各部署がどのような問題意識を持ち、どのような方向性を持って対応しようとしているのか、焦眉の課題は何なのかなど、自分の担当部署のみならず全体の動きを的確に把握しておく必要がある。その意味では、報告書を専任の教職員に配布するに止めることなくパワーポイントなどにまとめ、1時間程度の説明会を2度程開催しても良いのではないか。この説明会には嘱託や派遣の教職員も同席して貰うのが良いだろう。

執筆担当者 自己点検・評価会議 議長 住吉廣行

1. 全学FD・SD委員会

大学の教育力を高める目的で、文部科学省が「FDの義務化」を開始してから六年目となる。教育力を高めるためにはSD（職員の職務内容改善）との連動が不可欠であるということから、FD（教員の授業改善）とSDを連動するという考え方が定着し、両者の統合・一体化によって活動を強化することとなり、昨年本学でも委員会の名称が「全学FD・SD委員会」に改められた。

FD・SD委員会では、昨年に引き続き「教職協働の強化」を重点目標に掲げ、主要項目ごとのワーキンググループによる検討や草案作り、中間アンケート、授業アンケート等を活用した教育改革、またFD・SD研修会による教職員の意識改革やスキルアップ等を図った。教員・職員が教育力向上の両輪となり、学生が主役の大学作りを目指した。

委員会は健康科学研究科1名、総合経営学部2名、人間健康学部3名、短期大学部2名、事務局2名（管理課長、教務課長）の10名で構成され、会議は年間5回開催された。

①学生による授業評価アンケート報告書「わかりやすい授業を目指して」の発行

アンケート項目を厳選し、前後期ともアンケート実施科目を教員一人当たり2科目に絞った。どの2科目にするかは、教員の判断に任せたが、教員自身が二つの異なるタイプの授業（例えば専門科目と教養系科目あるいは必修科目と選択科目等）を担当している可能性があるためである。

②職員のスキル向上策

職員ポートフォリオの作成を継続したが、これは教員が研究・教育・地域貢献・大学運営の四本柱について、アニュアル・レポートに詳細に報告することに対応していると考えられる。そのために必要とされる研修会の実施や学びを推進するための資金的支援策も講じたが、どれくらい利用されたかも点検されなくてはならない。

(1) 年度当初の計画 < P >

1) 授業アンケート

より良い授業を実現するため、「中間アンケート」（中間期）と「授業アンケート」（後半期）を実施する。

・中間アンケート

授業改善に活用できるような、中間アンケートの「雛形」（講義系と演習・実習系の2種類）を委員会で作成し、本年度（2013年度）より活用できるようにする。なお、中間アンケート実施において、雛形を使用するかしないかは、担当教員の任意とする。

本アンケートは、前期・後期の各々の中間地点に実施する。大学年間予定表に明示し、また実施前には「中間アンケート実施のお願い」文書を全教員に配布し、実施の徹底を図る。学生から寄せられた意見のうち、より良い授業の実現に資すると担当教員が判断したものを後半の講義に取り入れるよう教員に依頼する。

・授業アンケート

準備として、実施科目の選定（確認）を行う。1教員2科目で、必修科目から1科目、選択科目から1科目を基本とする。学科や教員の実情を勘案して、決定する。授業アンケート実施の依頼文書を、専任教員・非常勤教員に配布し徹底を図る。

アンケート実施期間はテスト期間を含む1ヶ月間（前期7月、後期1月）を確保するとともに、集計作業の迅速化・円滑化を図る。また実施直前にはメールによる一斉送信等を行うなど、実施の徹底を図る。

2) 授業参観

気楽に授業参観ができる雰囲気づくりを目指すとともに、授業参観のあり方を各学部の特長も念頭において再検討する。

3) 卒業アンケート

卒業アンケート及び短大部在学者アンケートについては、平成23年度中に総務課から移管されたため、当委員会の視点でアンケート内容を点検し、所要の見直しを図ったうえで実施する。

4) FD・SD研修会

教職協働の強化を念頭において、教職員双方を対象としたテーマでFD・SD研修会を開催する。

(2) 実施した活動の概要 < D >

1) 授業アンケート

・中間アンケート

事前に、「平成25年度中間アンケート実施のお願い」文書を全教員に配布した。

各期の中間地点である6月（6/3～6/28）と11月（11/1～11/29）に実施した。

・授業アンケート

授業アンケートを、テスト期間を含む1ヶ月間（前期7/8～8/7、後期1/13～2/6）に実施した。

授業アンケートの質問項目については、大筋、前年度との比較に利用するなどの観点から従来と同内容（2010年度に改訂）とした。また、2013年度より、中間アンケートに関する質問項目*を1つ追加した。

*「授業をよりよくするために実施された中間アンケート調査など、寄せられた要望について、その後の授業で反映されていきましたか」という項目を盛り込んだ。

2) 授業参観

昨年度より、授業参観のあり方を各学部の特性も念頭において再検討したが、実施には至らなかった。

3) 卒業アンケート

卒業アンケート及び短大部在学者アンケートについては、前年度に質問項目等の見直しを行っているので、本年度も引き続き同内容で実施した。

4) FD・SD研修会

「教職協働の強化」をテーマに掲げ、FD・SD研修会を下記のとおり3回にわたって開催した（研修会の概要を『蒼穹』2013年9月号・12月号に掲載）。

①2013年8月30日（金）「学校生活とメンタルヘルス」（本学カウンセラー 小田切 なをみ氏、本学健康安全センター 保健師 脇本澄子氏）

・統合失調症という病態（小田切氏）と事例紹介（脇本氏）をして頂き、学生たちと接する教職員にとって大変に参考になった。精神疾患もまた「早期発見・早期治療」が重要という視点から、学生の動向については、教職員が連携を密にしていくことが重要である。

②2013年9月26日（木）「積極的情報公開が大学変革を進める」（聖学院大学 広報局長 山下 研一氏）・中小規模大学における、「大学全入時代」と生き抜くための取り組みについて、ご講演頂いた。県内大学・短期大学からの参加も得て、活気あふれる研修会となった。

③2013年10月25日（金）「学校教育と著作権」（放送大学 ICT活用・遠隔教育センター 尾崎 史郎氏）・教育に関わる著作権や著作権契約の内容について研修した。講演後には具体的な質問が相次ぐなど、教職員の関心の高さが窺われた。

このほか、山形大学教育開発連携支援センターが主催する平成25年度 山形大学教員研修会「第15回基盤教育ワークショップ」（2013年9月3日に同大白川キャンパス基盤教育1号館で開催）に、本学から委員の松原健二短大部主任が参加した。

「FDの義務化」大学教育の質の向上、教員の評価方法（基準）などについて考えさせる有意義なセミナーであり、継続的な参加が望まれる。

（3）点検・評価の結果 < C >

1) 授業アンケート

授業アンケート集計作業の事務フローを点検し、実施日程管理表を作成・活用することにより、集計作業の効率化・迅速化を図ることができた。もともと、各教員に依頼したコメントの提出期限が守られなかった学部もあったため、教授会等の場を通じて各教員に協力を促す必要があると感じた。また今年度より、授業改善に活用できるような中間アンケートの「雛型」（講義系と演習・実習系の2種類）を委員会で作成・実施できたことは評価に値する。

2) 授業参観

気軽に授業参観し合える雰囲気づくりを目指した取り組みを始めて4年目であるが、授業参観のあり方を各学部の特性も念頭において再検討したが、授業参観を有効活用するには至らなかった。

3) 卒業アンケート

前年度のアンケート結果の取りまとめ作業が担当者の業務多忙などから遅れたので、集計・分析作業の外部委託などによる取りまとめ作業の迅速化を検討する必要がある。

4) FD・SD研修会

本年度の重点目標である「教職協働の強化」を意識し、話題性のある研修会を企画した。研修参加者の評価は概ね好評で、総体的に実りある研修会とすることができた。

*次年度の研修会に関する要望：本年の研修会では、「統合失調症」に関する講演を聴いたので、それ以外の精神疾患についての研修会を聞きたい、精神科医の話を知りたい、といったものがあった。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

1) 授業アンケート

中間アンケート「雛型」の活用（使用するかどうかは担当教員の任意）により、授業アンケートを教員・学生双方がさらに授業改善に役立てていくことが望まれる。そのためにも、半期毎に作成している授業アンケート報告書である『わかりやすい授業を目指して』を各教員が一読し、授業改善に活用してもらえよう啓発していく必要があるように思われる。

2) 授業参観

授業のウデを上げるには「授業参観によって感動を得たら試行錯誤を繰り返す」ことが有効とされている。授業参観を有効活用していくためには、授業をする人のクリニックが目的ではなく、見学者が自分の授業改善に役立てるのが狙いであることを共通認識としていく必要があるように思われる。

3) 卒業アンケート

卒業アンケートの取りまとめ作業を迅速化し、アンケート結果を学生指導・対応に有効活用することが望まれる。

4) FD・SD 研修会

教育の現場が多様化している状況を考えると、「教職協働の強化」は、重要な課題である。教員と職員が連動する大切さを、様々な機会を通じて学んでいく必要を感じる。そういった意味で、FD・SD 研修会は適している場であると考えているので、時宜にかなったテーマでFD・SD 研修会を継続的に企画・開催することが望まれる。

執筆担当者 全学FD・SD委員長 高木勝広

2. 規程整備委員会

今年度の委員会メンバーは、委員長：木村、総合経営：矢崎・畑井、人間健康：高木・斉藤、短大部：川島・飯塚、事務：小倉・柴田・臼井・西澤 の11名であった。

(1) 年度当初の計画 < P >

この10年間にかなりのスピードで飛躍してきた本学であるが、規程に関しては特に大学設立を契機に全面的な見直しを行った。その後人間健康学部や大学院も設立されているが、規程の方は全体の整合性という面で不備が目立つようになってきている。そこでこれらを整備することが本規程整備委員会の今年度の任務といえる。

(2) 実施状況 < D >

委員会を開催し、いくつかの事項については合意を得つつあったが、それを事務的に処理する面で弱点があり、全教職員に整合性ある案を提示するに至らなかった。また人事面における規程の整備が重要課題になる状況も出てきたため、当委員会を離れて議論しなければならないケースもあった。

当初予定していたレベルにまでは整備が追いつかなかったが、コンピュータ上で全ての規程を開示することができるようにはなった。

(3) 点検・評価と改善への提言 < C・A >

今年度の委員会を開催してみて、規程の幹の部分（特に人事に係わる部分）に関しては、全体が見通せる教職員を中心にして整備するのが良いと思われる。また各委員会やセンターが、運営を任されていることによってはじめて気付く、改善すべき内容については、先ず各部署に立案を任せ、次にそれを規程整備委員会で他の規程との首尾一貫性を検討し、最後に全学協議会とその後の理事会に上程する方式が良いのではないかと考えている。

各部署を担当する人員を擁した多数からなる委員会とはせず、任務を分担させる方が目的遂行には適していると思える。これらを考慮して、次年度には規程整備委員会の委員の指名を考えれば良いのではないかと。

執筆担当者 規程整備委員長 木村晴壽

3. 認証評価対策委員会

認証評価対策委員会は、各学部の代表委員計3名および事務職員により構成され、2013年度は総合経営学部代表が委員長の職を担っている。その業務は第一に外部認証評価団体である公益財団法人日本高等教育評価機構（以下、評価機構と記す）による評価を受審する際の準備や対策を主体的に行うこと、第二に評価機構の活動に対して評価員として参加し、他大学の受審を経験することで受審に際しての情報やノウハウを収集することである。なお、総合経営学部と人間健康学部は2016年度に評価機構の審査を、また短期大学部は2015年度に公益財団法人短期大学基準協会の審査を、それぞれ受審する予定となっている。

(1) 年度当初の計画 < P >

2013年度は下記項目の達成を目標とした。

1) 情報の収集

2012年度より認証評価の基準が大幅に変更された。そこで変更点に関する情報を収集し、かつ前回の認証評価との相違点を明らかにする。併せて認証評価対策委員がその内容を熟知する。

2) 自己点検評価および資料等の確認

上記1)に関連し、変更による自己点検評価の体裁やその内容のあり方、また必要となる資料等を明確にする。同時に必要に応じて関係各部署にその情報を提供し、認証評価受審の準備を整える。

3) 評価員としての活動

評価機構からの要請があった場合には、認証評価対策委員の中から評価員を選出し、他大学・他短期大学の認証評価を行う。

(2) 現状の説明 < D >

1) 情報の収集

委員は認証評価団体の主催するセミナーに参加し、評価基準の変更点についてレクチャーを受けた。また下記3)のとおり、委員長は評価員として評価機構の要請に基づき、他大学の認証評価を担当し、情報やノウハウを収集した。

2) 自己点検評価および資料等の整理・確認

上記1)で得られた情報を基に、当大学での自己点検評価における問題点や、今後の認証評価受審に際して必要な資料やエビデンスについて整理した。

3) 評価員としての活動

今年度は委員長が評価機構の要請に基づき、評価員として他大学の認証評価を担当した。また新たに人間健康学部の委員が評価員候補者として、評価機構に登録された。次年度以降、評価員として活動する可能性が高い。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 情報の収集

前年度に引き続き、今年度も基準の変更点をさらに深く把握できた。とりわけ委員長が評価員として他大学の認証評価を担当したことは、評価基準や評価項目の詳細な情報を得ることにつながり、非常に有意義な経験であった。

他方で情報が委員長個人に留まり、認証評価対策委員のすべてと情報の共有が図られていないという問題もある。

2) 自己点検評価および資料等の確認

対照表の作成や必要資料等の確認は実施したが、各部署との連携となると不十分である。実際に書類を整え、また資料を準備するのは各部署となるため、早急に認証評価委員会から全学に対し、情報発信ならびに準備要請を行う必要がある。

3) 評価員としての活動

既述のとおり、委員長が評価機構の要請に基づき、他大学の認証評価を担当した。これにより、非常に有益な情報を収集することができた。また他の委員も評価員候補者に登録されており、今後も評価機構からの要請があった場合には、この2名が積極的に関与していく。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

1) 情報の収集

引き続き、基準も含めた認証評価全体に対する知識を深める必要がある。その際、実際の生きた情報を得る必要があるため、積極的に評価員として活動するとともに、可能ならば今年度に受審した、または来年度に受審予定の大学との情報交換の場を設けたい。

2) 自己点検評価および資料等の確認

引き続き、来年度も自己点検評価の体裁やその内容、また必要となる資料等を明確にしていく。

3) 情報の共有

認証評価対策委員会が持つ情報を可能な限り、学内の各学部、各学科、そして各事務部門に伝達し、情報の共有を図る。

4) 評価員としての活動

認証評価団体からの要請があった場合には、引き続き積極的にこれに応ずる。

執筆担当者 認証評価準備部長 上野隆博

4. IR推進委員会

IR推進委員会は総合経営学部教員1名、人間健康学部2名、短期大学部1名、事務局5名（課長、職員4名）で構成され、短期大学部の教員が委員長を務めた。委員会としては、データの管理と整理・整頓を一つの課題としているが、もう一方では中退予防、カリキュラム・ポリシーの評価指標開発、カリキュラム・マップ導入への意識付けなど、教育組織自体を点検・評価するための道具立ての開発を進めている。また、入試広報活動においても、入学生の高校時代までの成績、入学後のGPA、資格取得状況等を詳細に分析し、入学試験についての判断基準の提供に大きな役割を果たしている。これはアドミッション・ポリシーの見直しにもつながっている。

(1) 年度当初の予定 < P >

平成24年度に実施予定であった計画を、委員会を開催しながら実施をしていくこととする。第三者評価も間近に近づいており、組織的にIR活動を行う必要性が増しているため、確実に実施できるようにしたい。

(2) 計画の実施・現状の説明 < D >

残念ながら、今年度も全学的な委員会としての活動は行うことができなかった。各学部や委員会、部署等の中で必要に応じて、IRの活動は行われていたと思うが、大学全体の視点では実施することができず、委員長の責任は大きく十分に反省をしたい。

(3) 点検・評価の結果 < C >

IR活動を行う上で、現在大きな問題があるというよりも、より効率的に様々な運営を行う上での客観的なデータ作成が目的の一つになっているため、残念ながら動きが遅くなり、積極的な活動ができなかった。前述したように様々なデータの検証は、各部署で行われていると感じているが、より効率的に行うためにメソフィアを始めとするシステムの有効な使い方や改善も視野に入れていきたい。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

大学・短期大学部とも第三者評価も間近に近づいており、組織的にIR活動を行う必要性が増しているため、大学全体としての運営方針や活動の実施に取り組みたい。そのため委員会を定期的開催し、そのためにどのようなデータを集め分析するか、IRの基本的内容を決めていきたい。

執筆担当者 IR推進委員会長 浜崎央

第4部 エクステンション機構

I. エクステンション機構（教育部門）

1. 教職センター

本年度の運営委員会は、センター長と各学部の学科長および教務主任と機構長、事務局2名により構成され、委員会は6回開催された。特筆すべきことは、過年度生ではあるものの5名の公立中・高校教員試験合格者が初めて出たことである。これは、教職センター所属教員及び教職科目担当教員の日常的な努力の賜であるが、併せて、ここ数年のセンター機能拡充の成果の表れであると評価できよう。関連して、昨年度の川島教授採用に続き、今年度で退職する小林・佐久両教授の後任人事を行い、向こう数年間の4名による人的体制が確立できた。

したがって、来年度以降、現役学生の試験合格者輩出が具体的な課題となつてこよう。今年度から始まった明星大学との連携による小学校の免許取得や学習室への人的配置などによって、その実を挙げるべくより積極的な活動展開を期待したい。

(1) 本年度の活動方針 < P >

本年度の教職センターの重点活動として年度当初に掲げた活動方針は、下記の4活動である。

- 1) 組織整備及び「円滑な引き継ぎ」を行うための教職センター関係人事
- 2) 平成25年度後期新規開設の必修授業「教職実践演習」の開設
- 3) 「小学校教諭免許取得支援プログラム」の開設
- 4) 東日本被災児童学習支援ボランティア活動に対する積極的協力

1) 組織整備及び「円滑な引き継ぎ」を行うための教職センター関係人事

①教職センター専任教員後任人事

平成25年5月29日の全学協議会において、教職センター「教育学（教育史）」分野後任人事を行うことが承認され、教職センター運営委員会に設置された人事選考委員会で採用候補者として選考された、現東京純心女子大学准教授藤枝充子氏を平成26年4月1日付で教職センター専任准教授として採用することとなった。

②教職センター嘱託専任教員後任人事

平成25年10月23日の全学協議会において、教職センター嘱託専任教員後任人事を行うことが承認され、教職センター運営委員会に設置された人事選考委員会で採用候補者として選考された、元長野県松本蟻ヶ崎高等学校長小松茂美氏を平成26年4月1日付で教職センター嘱託専任教授として採用することとなった。

この上記二つの人事により、教職センターの組織的整備が進み「円滑なセンター業務の引き継ぎ」に向けて概ねその態勢を整えることができた。

2) 「教職実践演習」の開設

平成25年度後期から新たに教職課程履修4年次生必修科目「教職実践演習」が開設された。総合経営学部（高校の地歴・公民、商業、情報、福祉及び中学校社会の免許取得対象）、スポーツ健康学科（中・高の保健体育及び保健免許取得者対象）、スポーツ健康学科（養護教諭免許取得者対象）及び健康栄養学科（栄養教諭免許取得者対象）の4グループに分け、共通内容部分は4グループ合同で実施し、各免許教科独自の内容に関しては4グループに分かれて実施した。また、全受講生に対して個人面談を実施し、個別指導を行った。

「教職実践演習」授業に関しては、平成21年4月の教員免許法施行規則の改正により平成22年度入学生からこれまでの「総合演習」に代わり、新設の「教職実践演習」が必修となった。それ以降、本年度前期まで4年半の長期にわたり、教科指導法担当、教科担当の先生方から成る教職科目担当代表者会議で、主としてこの授業の準備をしてきた。その成果が実り、大きな混乱もなく概ね内容の充実した「教職実践演習」授業となった。なお、この授業の具体的な実施内容については、教職センター開設以来継続して刊行してきている『松本大学教職センター 授業実践報告シリーズ 10』として平成26年3月に刊行するので参照されたい。

3) 「小学校教諭免許取得支援プログラム」の開設

平成24年12月14日付で明星大学と教育業務提携協定を締結した「小学校教諭二種免許取得支援プログラム」が、平成25年4月から開設された。この支援プログラムは、履修する2年次生、総合経営学部1名、人間健康学部6名、計7名でスタートした。

この支援プログラム履修学生の学習進行状況は、開設前に関係者が危惧していたように必ずしも順調に進んでおらず、そのため後期から岩間・征矢野の支援プログラム担当教員が、提出レポート作成指導の時間を特別に設け指導に当たってきた。平成26年度からは、小学校2種免許取得者を対象とした「教職実践特講演習X」という科目を新設し、こうした支援プログラム履修学生のレポート作成指導に力を注ぐことになった。

なお、本年度1年次生のこの小学校教諭二種免許取得支援プログラムの履修申込者は、総合経営学部3名、スポーツ健康学部12名、計15名となり、量的な面では順調なすべり出しとなった。

4) 東日本被災児童学習支援ボランティア活動に対する積極的協力

東日本災害支援プロジェクト事業の一環として、昨年度より開始した東日本被災地児童の学習支援ボランティア活動への教職課程履修学生の参加を促すため、平成25年4月当初の教職課程ガイダンス、及び教職課程ボランティア関係科目ガイダンスを実施した際に、東日本被災地児童の学習支援ボランティア活動について紹介し、活動への参加を勧めた。また、この東日本へのボランティアを希望する学生には、教職選択必修科目「地域教育活動」（2単位）又は「学校支援ボランティア活動」（2単位）の単位として認定するという形で昨年度に引き続き積極的に協力した。

(2) 本年度の活動内容と評価 < D・C >

1) 本年度の教職課程履修状況及び教職への就職状況

本年度の教職課程履修状況は下記のとおりである。

| 学部 | 学科 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 大学院 | 合計 |
|--------|-------------|----|----|----|----|-----|-----|
| 総合経営学部 | 総合経営学科 | 8 | 9 | 4 | 2 | | 23 |
| | 観光ホスピタリティ学科 | 7 | 9 | 12 | 4 | | 32 |
| 人間健康学部 | スポーツ健康学科 | 44 | 38 | 42 | 30 | | 154 |
| | 健康栄養学科 | 12 | 11 | 27 | 11 | | 61 |
| 大学院 | 健康科学研究科 | | | | | 3 | 3 |
| 合計 | | 71 | 67 | 85 | 47 | 3 | 273 |

(平成25年10月1日 現在)

本年度の1年次生の新規申込者は71名で昨年度より9名増加し、教職課程履修者全体では前年度より12名増の270名である。

本年度の教員採用選考受験状況は、地歴1名、保健体育が8名、養護教諭1名、栄養教諭（長野県の学校栄養職員を含む）が2名、計12名の学生が、県内外の公立学校の採用試験を受験した。本年度も現役生の合格者は出なかったが、卒業生の中から長野県高校（保健体育）2名、中学校（保健体育）1名、宮城県中・高（保健体育）1名、千葉県小学校1名、計5名が本学で初めて公立学校教員採用選考に合格した。

教職への就職状況は、松本第一高校で常勤講師をしていた平成23年度卒業生が、同校の情報の正規教員として採用される予定であり、同じく23年度卒業生で本学の学部において教職課程を履修し、本学大学院で栄養教諭専修免許状を取得する院生が、大阪大谷大学薬学部助教への採用が決定している。なお、在学生の臨時採用教員希望者が15名前後（学校栄養職員を含む）いるが、昨年度同様、希望者全員が臨時採用教員の職に就けるよう最大限の支援をしていきたい。

2) 教職センターの基盤整備

教職センター組織の整備の主な事項としては、1) 教職センター「教育学（教育史）」分野教員後任人事を行ったこと、2) 教職センター嘱託専任教員後任人事を行ったこと、3) 小学校教諭二種免許状取得支援プログラムが発足し、「小学校教諭二種免許状取得支援プログラム会議」を設置し、その会議が初めて開催されたことである。

3) 教職カリキュラムの整備と教育水準の維持・向上

平成24年5月、中央教育審議会教員の資質向上特別部会から『教職生活全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上策について（審議のまとめ）』が出されたが、その中で教員養成カリキュラムの当面の改善策として、「学校ボランティア、学校支援地域本部等での活動など、教育実習以外にも一定期間学校現場等での体験機会の充実を図る。」と提言されている。

これまで本学での教職カリキュラムの見直し及び整備もこうした方向で進められてきており、本年度も、教師としての実践的指導力を身につけさせるために、昨年度同様に「教育実践特講」授業において、長野県道德教育学会茅野大会の公開授業並びに長野県美須ヶ丘高校の授業参観を行った。なお、平成26年度からは本学教職課程のボランティア関係科目の中の「社会活動」の代わりに「地域学校教育活動」を新設し、既設の「地域教育活動」、「学校支援ボランティア活動」を加えた3科目の中から1科目を選択必修科目とした。この変更は、松本市教育委員会から「放課後学習支援」、「部活動支援」、「中間教室学習支援」のボランティア活動を本学の教職課程のカリキュラムの中に組み入れてほしいとの要望に応えたもので、今後の本学教職課程と松本市教育委員会との連携協力関係の一層の強化に向かって一歩踏み出すことになった。

教職関係授業の学生及び授業担当者の授業評価の実施については、これまで通り、前・後期ごとに担当教員が授業評価を実施するとともに、受講学生には「教職履修カルテ」（学生記入）を記入させた。

4) 教育実習指導・支援体制の整備

①個別面談と体育実技研修会の実施

教育実習生に対する支援活動の一環として、昨年度から始めた教育実習を行う予定の3年次生69名全員に対する個別面談を、平成25年12月16日から平成26年1月16日の間に本年度も継続して実施した。また、来年度の保健体育で教育実習をする学生を対象に、関係教員とも連携を図り、実習時の実技指導力の向上のために体育実技研修会を春季休暇中に開く予定である。

②教育実習生所属ゼミ教員への事前アンケート調査の実施

教育実習生所属ゼミ教員への事前アンケート調査を今年度も実施し、教育実習生の事前の情報収集に努めた結果、本年度も昨年に引き続き、実習を途中放棄する学生がでなかった。

5) 教職を主たる進路とする学生への支援活動の充実・強化

教員を主たる進路とする学生向けの「教職特講演習」Ⅰ～Ⅶの授業の他に、昨年まで教員採用試験を受験する予定の学生を対象として非常勤講師に依頼して開設してきた小論文指導を、本年度は、教職センター教員が前期に「教職特講演習Ⅷ」として正規の授業時間内で開設するとともに、体育実技の教員採用選考体育実技対策として、平成25年度に「教職特講演習Ⅸ（学校体育実技指導の基礎）」を開設した。

6) 教職課程履修学生へのカリキュラム等のガイダンスの実施

教職課程履修学生の教職授業の履修を支援するために、下記のようにカリキュラムガイダンスを実施した。

- 2年次生 4月12日(金)に、教職カリキュラムガイダンス実施
3年次生 4月11日(木)に、教育実習ガイダンスⅠ及び教職ガイダンス実施
4年次生 4月11日(木)に、教育実習ガイダンスⅡ及び教職ガイダンス実施

7) 学生に対する教職課程履修に関する相談支援活動の充実

本年度の教職相談支援室の活動は、小林(輝)、石井、川島、佐久、征矢野の5名の教員が担当し、教職相談支援室に来談等に訪れた学生数は、総計でのべ290名(昨年度より31名増)であった。来談内容は、教員免許状の取得や取得免許教科、教育実習、就職・進路、教職授業、ボランティア活動等に関する件であった。

なお、教職課程履修者の履修相談支援活動をより一層充実することにより、教職課程履修者の中途放棄防止に努めた。

8) 学内諸機関との連携協力活動の推進

本学入試広報室等との連携協力(松本美須々ヶ丘高校生徒来校時の模擬授業、本学広報関係パンフ作成の際の積極的な協力)、地域づくり考房「ゆめ」とのボランティア活動関係での連携協力を努めた。

なお、本年度松本大学学報「蒼穹」掲載記事は下記の通りである。

「蒼穹」 2013. 6. VOL. 111 「盛況であった平成25年度の『卒友会』」

「蒼穹」 2013. 12. VOL. 113 「公立学校教員採用選考に初めて5名合格！」

9) 地域社会・学校との連携協力関係の推進

地域の社会・学校との連携協力関係を推進するため、①松本市教育委員会主催で平成25年12月27、28日に実施された第6回信州まつもと子どもキャンプに6名の学生がボランティアとして参加、②松本市立高綱中学校との間で本年度から「ボランティアによる学習会実施について(試行)」活動を5名の学生が参加し活動を開始、③新たに松本養護学校を本学指定のボランティア活動の受け入れ校とし、本年度は3名の学生が同校のボランティア活動に参加、④その他、県内では上諏訪中学校や長野市内の社会福祉施設等へのボランティア活動に参加した。

10) 『松本大学教職センター 授業実践報告シリーズ 10』の刊行

平成17年度より『松本大学教職センター 授業実践報告シリーズ』として、毎年教職授業の実践報告を教職センターより刊行し、現在、9号まで刊行している。

本年度も引き続き『松本大学教職センター 授業実践報告シリーズ 10』として『熟議方式を活用した「教職実践演習」授業とその課題』(仮題)を平成26年3月に刊行する予定である。

11) 「教職に就いている松本大学出身者の会(卒友会)」の開催

本学において教員免許状を取得し、教育関係機関に勤務している卒業生の会「卒友会」は、新卒者の支援と卒業生相互の交流を目的として2011(平成23)年に結成され、本年度の会員数は45名に達した。平成25年4月27日(土)にホテルモンターニュ松本で第3回卒友会を開催した。卒業生22名、在学生1名、大学関係者8名、計31名の参加者があり、新卒者の近況報告や昼食会での情報交換が和やかに行われた。

また、本年は、公立学校教員採用選考において初めて5名の卒業生が合格したことから、これら5名の合格者の祝賀会と来年度捲土重来を期す卒業生の激励会を兼ねて、平成25年12月7日(土)に、ホテルモンターニュ松本で第4回卒友会を開催した。合格者の体験発表、その後の昼食会での情報交換を通して大変有意義な会となった。この会には、卒業生13名、在学生2名、大学関係者9名、計24名の参加者があった。

12) 総合経営学部の教職課程履修者の増加対策について

「地理歴史」、「公民」、「福祉」、「情報」、「商業」等の免許教科取得学生の一定数確保のための方策について引き続き検討をしてきた。本年度から情報科指導法担当の室谷教授が新規開設「教育指導入門」という総合経営学科、観光ホスピタリティ学科、両学科共通の導入科目を担当し、総合経営学部で教職課程を履修している2年次生を指導する授業を後期に開設した。

今後必要に応じて前期にも開設を要望していく予定である。この新規科目の開設により、総合経営学部の教職課程履修者の中途辞退者の減少と教職課程履修者の増加につながることを期待される。

13) 全国私立大学教職課程研究連絡協議会等主催の諸活動への参加

本年度は、下記の大会等に参加し、現在、私立大学の教職課程が直面している諸課題について情報収集に努めた。

- | | |
|-----------------------|--|
| 平成 25 年 5 月 11 日 | 関東地区私立大学職課程研究連絡協議会大会 於 帝京平成大学（中野キャンパス） 川島教授参加 |
| 平成 25 年 5 月 25 日～26 日 | 全国私立大学教職課程研究連絡協議会大会 於 愛知大学（名古屋キャンパス） 石井教授・田嶋主事参加 |
| 平成 25 年 11 月 30 日 | 全国私立大学教職課程研究連絡協議会研究交流集会 於 関西大学（千里山キャンパス） 小林（輝）教授参加 |
| 平成 25 年 12 月 14 日 | 関東地区私立大学職課程研究連絡協議会研究懇話会 於 帝京平成大学（中野キャンパス） 小林（輝）教授参加 |

(3) 総括 < A >

以上みてきたように、本年度の教職センターの年度当初に掲げた活動方針は、概ね達成することができた。

本年度の教職センター活動を振り返ると、第一に、本学卒業生から公立学校教員採用選考において初めて合格者がでたこと、しかも長野県高校保健体育2名、中学校保健体育1名、宮城県中・高1名、千葉県小学校1名と、一挙に5名の合格者が出たことである。現在、私立学校の正規教員としては7名の卒業生が活躍しているが、公立学校の正規教員がいなかっただけに、本年度合格者が出たことにより、ようやく本学教職課程も一人前の教職課程として認知され、今後の本学教職課程発展の基礎を築くことができたといえることができる。第二に、小林輝行教授及び佐久信雄教授の後任人事が行われ、教職センターの組織的整備が進み、教職センター業務の円滑な引き継ぎに向けての態勢が概ね整ったこと、第三に、明星大学との教育業務提携による小学校教諭二種免許状取得支援プログラムが、本年度から開設され新たにスタートしたこと、第四に、本年度後期に「教職実践演習」授業が初めて開設され、特段の支障がなく円滑に実施できたこと、第五に、昨年度新たに14名の卒業生が教職の世界に入り、教職に就いている本学卒業生が総計45名に達し、現在、教職の臨時採用講師等を希望している在学生在が15名前後いることから、平成26年4月には、教職に就いている本学卒業生は、優に50名を超えることが、確実な情勢になったこと等が本年度の顕著な事項であった。

今後の本学の教職センターが当面する主要な課題を展望すると、①平成24年4月の中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会基本制度ワーキンググループ報告において「教職センター等の全学的な体制整備の構築」の必要性が提言され、その提言に基づき、現在文部科学省も全国の教職課程を持つ大学に全学横断の教職センター的な独立組織の設置・整備を指導していることに鑑み、本学教職センターの全学的組織としてのより一層の組織的整備と拡充、②平成17年度に設置された本学教職課程は、平成26年度に開設10周年を迎え、本学において教員免許状を取得した本学卒業生が教員免許状更新講習受講の時期になる。これに伴い本学における教員免許状更新講習開催の検討及び開催に備えての教育内容・方法分野専攻の専任教員の整備の必要性、③本年度初めてキャリアセンターと教職課程履修学生の就職問題に関して懇談会を開き、児童養護施設等の学校教育以外の職場で教員免許状を活用している職場の求人情報の調査・提供を依頼したが、こうしたキャリアセンターとの継続的協議、④「教職実践演習」新設に伴い作成が義務づけられた「教職履修カルテ」について、教員、学生の双方にとって有益な教職履修カルテの作成とその活用に関する継続的研究、⑤教職希望を強くもつ学生の増加に伴うより一層の支援体制の整備充実、⑥現役生の公立学校教員採用選考における合格者を出すこと及び教員就職率のより

一層の向上、⑦「地理歴史」、「公民」、「福祉」、「情報」、「商業」等の免許教科取得学生の一定数確保のための方策の継続的検討、等が今後の主要な検討課題である。

執筆担当者 教職センター長 小林輝行

2. 資格取得支援センター

①公務員試験・教員採用試験対策

大原学園の進出を睨んで、特に短大部や総合経営学部ではその対策に余念がない。その一つに公務員対策があるが、業者委託も含めて対策講座を開講できる見通しが立つかどうかを見るためのアンケート調査を行った。信州大が現在 200 名規模で実施されているようだが、松本大学の場合は一次調査では反応が鈍く、一応 40 名程度であった。これが金額が明示されてくると一挙に減る可能性があるため、現在の状況で外部に依頼して講座を開くという結論は得難い。

②資格取得支援センター

来年度から実施される「公務員試験対策講座」担当部署になることを受け、これまでの資格取得の業務内容及び奨励金について実態を把握すると共に、その削減に取り組んだ。なお、「公務員試験対策講座」の受講希望者は、年度末に行った説明会に 50 名を超える学生の参加があったことから一定の数が予想される。したがって、早期に、担当体制を構築することが求められよう。

公務員試験については、正課内に科目を配置している総合経営学部に対して人間健康学部と短期大学部は対策が採れていないため、エクステンション機構を中心に、公務員試験に実績のある(株)東京リーガルマインド(LEC)と交渉を進め、来年度より、大学からも一定補助する 3 年生対象の「公務員試験対策講座」を正課外に設置することとなった。今年度末に行った説明会には 50 名を超える学生の参加があり、関心の高さが裏付けられたが、次年度はそれを的確に捉え実績をいかに上げるかが問われることになる。

1) 当初の計画 < P >

資格取得支援センターは、エクステンション機構（教育部門）の下部に位置している。

昨年度は、学部学科によって資格取得に関する管理の窓口や方法が違っている等の不具合があったためにデータの取りまとめに手間を要していた。そこで教務課内に資格の受験・合格情報が入るよう一部業務改善を行った。その点はうまく運用されるが、今年度は更に全学教務委員会と連動して、データとして収集すべき資格の精査と確認をおこなって内容の充実を図って行く計画とした。

なお、構成員は、各学部担当者（教務委員会担当者と兼務）3名、教務課・情報センターの職員である。

2) 現状の説明 < D >

計画どおり実施できた。また、総合経営学部の新カリキュラムの導入に伴って、新たな資格について、データ収集の開始と報奨金等の資格取得支援の内容をセンター構成員間で確認しながら実施した。

なお、資格取得における新規奨励金（総合経営学部の資格試験対策科目に対応した資格の奨励金）については、本学後援会に依頼をして承諾を得た。

また、期中には全学協議会より「奨励金の総額についての見直しと対象となる資格の見直しについて検討する」との依頼を受けて、その対応を協議した。結論としては、計画どおり進めることとなったが、予算超過の危惧がある場合の対応についても整備した。

なお、資格取得等のデータは、学生版アニュアルレポートに報告される。

3) 点検・評価の結果 < C >

資格取得に関するデータの収集と報告については、計画通り行われた。

4) 成果と今後の改善点 < A >

データの一括整備と管理については、よりの確な情報収集と内容によっては対応が必要されるため今後も業務効率のための改善活動が欠かせない。

また、今年度の期中に行われた奨励金の予算管理に関する問題も今後発生する可能性があるので、その都度、迅速、適切な対応できる体制が必要と思われる。

執筆担当者 資格取得支援センター運営部長 林 昌孝

3. 共通教養センター

1) 共通教養センターの立ち上げ < P >

今年度は、構成メンバーを学部の各学科より1名、教務課長、機構長の6名として、エクステンション機構（教育部門）の管轄下において、その立ち上げへの準備活動を行った。

これをどのような組織編成と人員構成で行うかについて、合意形成を図ることが今後の課題となろう。組織的には、①学部に並列した昔の教養部形式をとるのか、②学部に配属された教員が共通教養センターに派遣され、派遣された教員でセンター機能を回していくのかが考えられよう。大学運営と切り離されず、専門教育との関連を強くしておくとなると、②の形式の方が勝っているかも知れない。いずれの場合でも、担当者を決めることが必要だが、専門ゼミを持つか持たないかが基準になるであろう。

センターだよりは、事務担当が変わるが、三人の連携で何とか継続させていきたい。

2) 実施状況と検証 < D・C >

今年度は、事業計画に沿って組織編成及び人員構成について議論を深めることが大きな課題となっていたが、センター会議では、それに先立って教養教育の理念及びカリキュラムのなどの検討が必要であるとの認識で一致し、前後16回にわたって会議が開催された。

その中で、本学における「共通教養教育の理念・目的」及び「目指すべきもの(到達目標)」の会議案が作成され、さらに、共通教養のイメージ(図)及び科目配置などについても議論が及んだものの、それらに対する総合経営学部教授会との意思疎通を十分に行うことができないままに議論は頓挫している。また、キャリア教育とリメディアル教育についても、糸井・福島両委員長に出席を要請し、現状とあり方等について報告いただき論議の俎上に載せてきたものの、具体的な成果を得るには至らなかった。

以上のように、今年度のセンター活動は具体的な成果を上げることができないまま推移したが、次回の認証評価に向けて教養科目の共通化を図るという課題については、全学教務委員会の委員長並びに主任の出席を得て合同会議を持ち、延べ8科目の共通化を図ることができた。また、COC事業の一環として来年度からの設置が求められていた地域課題に特化した科目についても、同じく合同会議における検討を経て、「地域課題研究」(一年次、通年、1単位、テーマ制、2014年度は「買い物弱者問題」(白戸教授)を設置することとなった。

3) 次年度へ向けて < A >

センターにおける議論内容が学部教授会に適切に伝わらなかったことを踏まえ、次年度には改善策を講ずる必要がある。

執筆担当者 共通教養センター運営部会 部長 等々力賢治

(1) キャリア教育センター

本運営委員会は、従来「キャリアセンター」で実施されていた就職活動支援業務とキャリア教育を分離し、前者を「キャリアセンター」(以前の就職課・委員会)の業務、後者を本「キャリア教育センター」の業務とする「平成24年度各種委員会構成」に従って平成24年度に設置された委員会である。現

状では、両業務を依然として「キャリアセンター」が実施しているが、平成 26 年度以降、キャリア教育と就職活動支援を区別し、学部によるキャリア教育と現キャリアセンター（将来は就職課に名称変更予定）による就職活動支援の棲み分けが確立するのに伴って、キャリア教育センターの業務や役割についても検討されることになる。

1) 年度当初の計画 < P >

平成 25 年度は、各学部で実施されているキャリア教育と就職支援の実態を把握するため、キャリアセンターの職員による整理を行うことを予定していた。また、他大学の組織や取り組み内容について訪問・視察を実施し、本学独自のキャリア教育プログラムについて検討することを計画していた。さらに、今年度は、学内でのキャリア教育に対する共通理解を深めることを目標とした。

2) 実施状況 < D >

平成 25 年度は、職員の人事異動等により、各職員はキャリアセンターの仕事を覚えることが最重要の課題となったため、各学部の実態整理は事実上できなかった。しかしながら、キャリアセンター内のキャリア教育に対する見解の統一を図ることを目的に、糸井がキャリア教育に関するプレゼンテーションを実施した。

3) 点検・評価結果 < C >

平成 25 年度は、キャリア教育センター運営委員会委員の教員が糸井のみであり、上記のように事務側も人事異動等で当初の計画の実施が困難であった。したがって、キャリアセンター内の意識の統一に関して、上記のように、糸井のプレゼンテーションしか事実上実施できなかった。

4) 次年度に向けて < A >

平成 26 年度は、キャリア教育センター運営委員会に各学部から教員が参加することになったので、各学部で実施されているキャリア教育と就職活動支援の整理が可能になることが期待される。また、そのことを通して、課題となっている職員のキャリア教育への参加について議論することが可能になろう。また、平成 26 年度は、このような棲み分けに加えて、他大学での取り組み等を参考にキャリア教育の充実と就職支援活動の強化、職員と教員の役割分担等の明確化が期待される。

執筆担当者 キャリアセンター運営部長 糸井重夫

(2) 基礎教育センター

今年度の基礎教育センターでの業務は、センター運営委員長：福島（智）、センター教員：福島（紀）、日野谷、センター事務：鈴木の 4 名で担当し、10 月から新たに英語の中田が加わった。

さらに、センター運営委員は小林（俊）・清水（総合経営）、尻無浜（観光）、田邊（人間健康）、矢野口・長島（短大部）で構成された。

平成 24 年度（2012 年度）の自己点検・評価報告書で指摘されているアクションプランに基づいて、PDCA サイクルに沿って、平成 25 年度（2013 年度）の点検・評価を行う。

1) 本年度の課題 < P >

1) 基礎教育センター会議を通じて確認されている本年度の課題は以下の通りである。

- ①「10 分間学習」の得点力のアップ
- ②1・2 年生一般常識業者テストの実施と基礎学力向上の取り組み
- ③キャリアセンターと連携した就職筆記試験対策
- ④本学での数学検定試験、漢字検定試験の継続と対策講座の強化

2) 基礎教育センターの活動状況 < D >

- ①「10分間学習」は、総合経営学部、人間健康学部1年次前期の「地域社会と大学教育」の授業で解答と解説を実施。短大部1年も、基礎ゼミにて前期5回の「10分間学習」を実施。
- ②今年度の一般常識業者テストは、2学部4学科の1・2年生全員に一律のテストを実施することができ、学部、学科の学力傾向を同一基準で見ることができた。
- ③については、昨年に引き続き、短大部1年生前期キャリアスタンダードⅠの15時間、および後期のキャリアスタンダードⅡの7時間を、基礎教育センターによる一般教養授業とし、単位化された。2年生のキャリア・クリエイトⅡおよびⅢで、就職対策模擬試験を全員に実施し、自己採点と解説を行った。
②は、本学で数学検定試験が実施され、受験者は3級1人、準2級2人（一次合格）、2級2人であった。また漢字検定試験も順調に開催することができ、2級受験者の拡大など、上位級への受験者数が増加する傾向にある。

3) 25年度の活動に対する評価 < C >

①就職試験対策に向けた取り組み

a) キャリアセンターとの連携

- ・短大部のキャリアスタンダードⅠの一般教養コースを基礎教育センターが担当して2年目となる。実務教育出版社の問題集をテキストとして使用し、国語・数学・英語・社会・一般常識の5科目を担当した。
- ・短大部後期のキャリアスタンダードⅡは、英語の中田先生が加わって、国語・社会、英語、数学の3人の担当が30分ずつの授業を行った。
- ・人間健康学部キャリアデザインⅠでは、授業内20分を11回で、後期作成分の10分間学習の実施と解説、および実務教育出版社の就職試験対策一般教養試験の解説授業を行った。
- ・総合経営学部・人間健康学部3年生は、キャリアセンターで行ったSPI試験の成績返却の際に、問題解説を行った。

b) 就職活動報告書の活用

キャリアセンターに寄せられる就職活動報告書は、短大と四大の記入様式が異なり、集められるデータが偏っていたことから、報告書の様式を再検討していただき、データ収集の効率化を図ることとなった。

- *公務員試験の対策に関する問い合わせは今年度も複数あったが、概して相談に来る時期が遅く、基礎的な科目の指導では時間が十分でなかったと考えられる事例が多かったように感じられる。利用者の中で自治体行政職に採用が決まった学生の場合、センターへは2年夏休み頃からセンターに通い学習を継続していた事例があり、この時期からの公務員試験対策への意識付けを、より広範な学生に行えるようになることが試験結果を左右するものと思われる。今後は、外部委託による公務員講座の導入により、短大2年生と大学3年生の学習指導がなされることとなるが、その前段としての基礎学力の向上に、センターとしてどのように取り組むことができるか、課題となろう。
- *基礎学力の向上への取り組みは、就職試験を目標とすることが動機付けとしては受け入れられやすいが、短大生に比較して四大大生では1・2年次の目標としては実感が伴わず、四大1・2年生のセンター利用の機会を今後どのように設けていくかについて、基礎学力向上と合わせ就職試験対策の一環としての面からも検討する必要がある。

②連続的な課題の提供と学生との接点

a) 「10分間学習」の定着

総合経営学部・人間健康学部の「地域社会と大学教育」で実施する「10分間学習」で、基礎教育センターの学生に対する関心を高める効果がある。「10分間学習」では、平均点が8~9点になるように出

題しており、二桁得点を目標として学生が取り組む姿が見られた。

b) 講座開設

- ・「朝の学習講座」は実施内容についての関心が高まったためか、参加者の数は増加している。ただし、殆どはオリエンテーションで声かけをした1年生が多く、昨年継続的に参加していた学生も学年が変わると参加しなくなり、年次を越えた継続的な学習とはなっていないようである。

1時限目の開始前に、9:00~9:30までの時間を利用した「朝の学習講座」は、前期・後期を通して、継続した。

月曜 福嶋 語学

火曜 日野谷 基礎数学

水曜 日野谷 SPI 数学

木曜 福嶋 社会科・時事問題

- ＊オリエンテーションで基礎教育センターの時間を頂いたことで、初回の朝学習には32名の学生が参加した。興味を持つ学生は少なくないが、学力差の大きい学生達への一斉指導は困難である。その後は少人数ではあるが最後まで継続して、皆勤する学生も現れた。

- ・数学検定用講座、漢字検定用講座の開設

数学検定は11月の試験日に一本化して受験者を集め、対策講座を実施した。授業の都合などで、時間を指定して学生を集めることができず、五月雨式で教えることとなったため、今後は効率化の方策を検討する必要がある。

c) スポーツ健康学科「一般教養基礎問題」の実施

基礎教育センター運営委員の田邊先生にご担当頂き、実施計画等の集約をしていただいた。「一般教養基礎問題」として10問分を実施しているが、基本問題でありながら半分以下の正答率の学生もあり、内容や作問の方法にさらに工夫が必要と考えられる。

d) 長期休みの課題

「入学前学習用問題集」は、人間健康学部を除いて配布しているが、学生の提出率も好調である。「夏期課題問題集」については、1年生は9割近い提出率となる学科もあるが、学部学科によって提出率に大きな差があり、また2年生以上では配布はするものの、殆ど提出されない学部もあり、センター運営委員会の中では実施の意味や必要があるのか、といった声も上がっている。

- ＊今後も長期休みで出題した課題を、「10分間学習」で確認するなど、出題内容を関連させて、それぞれが積み重ねとなるような出題を試みたい。

③検定への取り組み

- ・数学検定(数検)は、受験回数を年1回としたものの、人数の確保が困難な状況ではある。他の検定と重なり、希望がありながら受験が不可能な学生が見受けられたため、今後検定の開催日を考慮する必要がある。
- ・漢字検定は、11月の受験者が最も多く、30名以上の受験があったが、2月の受験は開催条件を満たすにはぎりぎりの10名の申し込みとなってしまった。時期によって申し込み人数にばらつきが生じる可能性があるため、事前の声かけを欠かさぬよう気をつける必要がある。

④基礎教育センターの取り組み全般

- ・キャリアセンターとの連携により、一般教養的知識を授業形式で解説する機会が増えている。
- ・秋に行った一般常識業者試験は今年で3回目となるが、学生の学力推移を計るのが難しい問題構成となっており、同一の試験を次年度も行うことが有効かどうかを含め、再検討が必要となっている。実施業者を見直すとともに、春と秋とで基礎学力測定用問題と一般教養・一般知識測定用問題のように、出題傾向の違うテストを実施してみてもどうかという意見もセンター会議の中では出されている。
- ・後期から英語の中田先生が加わったことで、TOEICや英検の受験を希望する学生が来室するようになった。

- ・公務員試験対策として、H26 年度から一般教養の講座が外部委託となる。本年度基礎教育センターに来室して公務員試験を目指していた学生達の動向を見ると、長期的養成が必要な一般知能系の学力の不足については、外部委託の講座を受講する以前に数的処理能力、読解力等について時間をかけて養成する必要が感じられる。また、一般教養部分では、高校段階での未履修科目も試験対象には含まれており、学生の持っている教養の範囲が、試験対象に比して狭隘なものであることが実感される。こうした知識は、社会人として身につけるべき社会教養にもつながるものであり、公務員試験だけでなく企業の一般教養試験にも必要な知識でもある。基礎教育センターでは、こうした教養科目については 10 分間学習と長期休みの課題の実施によって若干の関わりを有しているが、学生全般の学力向上への貢献は全く微々たるものである。公務員試験、一般教養試験対策にもつながる基礎力アップを図ること、学生の一般的学力不足に対する効果的な対策を、改めて検討する必要がある。

4) 次年度に向けた課題 < A >

基礎教育センター会議を通じて確認されている次年度への課題は以下の通りである。

- ①「10 分間学習」の内容の充実
- ②1・2 年生一般常識業者テストの実施時期・回数の検討と業者選定
- ③キャリアセンターと連携した就職筆記試験対策
- ④低学年段階での基礎学力作りへの取り組み
- ⑤本学での数学検定試験、漢字検定試験の継続と対策講座の強化

執筆担当者 基礎教育センター運営部会 部長 福島智子

4. 情報センター

本年度の情報センター運営委員会は総合経営学部 3 名、人間健康学部 2 名、短期大学部 2 名、教員 7 名と事務局 3 名計 10 名で、昨年に引き続き、浜崎が委員長となった。

(1) 年度当初の予定 < P >

情報センターでは、通常業務として「研究・教育の支援（パソコン教室（ハード・ソフト）整備、コンピュータ関連科目整備、学生向けオリエンテーション実施、学生アシスタント手配、資格管理）」、「情報機器の維持・管理（教職員パソコン、貸出ノートパソコン等、ネットワーク、サーバ類等）」、および学内外に対して「講習会の実施」等を行っている。その中でも、平成 25 年度当初に計画された情報センターの新規事業は以下のとおりである。

- 1) 学術研究・教育の支援
 - ①パソコン教室の整備（321,332 のパソコンリプレース、ソフトウェアのバージョンアップ）
 - ②情報機器の拡充（旧型の貸出用のノートパソコン、デジカメ、デジタルビデオ）
 - ③短大教員用モバイル端末の購入
 - ④教育環境整備（CALL、講義収録、LMS システム）の検討
 - ⑤Web メール環境構築（検討・実施）
- 2) 情報機器の維持・管理
 - ①教職員パソコン定期購入、研究室プリンタ購入
 - ②学務管理システムの拡充
 - ③自動発券機のカスタマイズ
 - ④備品管理システム構築
 - ⑤Ridoc システムのリプレース
- 3) その他
 - ①情報ポリシーの見直し

②資格対策について検討、実施

(2) 計画の実施・現状の説明 < D >

多くの通常事業および新規事業は、計画通り実施された。当初予算より変更されたもの等について、以下に記述しておく。

- ・ 1) ①PC 教室のリプレースに関して、入札によりかなりの予算縮小となった。
- ・ 1) ④教育環境に関しては、あまり議論を進めることができなかった。
- ・ 1) ⑤Webメール環境構築に関しては、議論を進め、学生のメールはすべてWebメールに変更した。
- ・ 2) ⑤Ridoc のリプレースを行い、職員だけでなく、今まで積極的に行なってこなかった教員にも告知をし、利用していくこととなった。

メールサーバーの不具合によりメールが受信できなかったケースがあり、補正予算によりサーバーの入れ替えを行なった。

(3) 点検・評価の結果 < C >

平成 25 年度は、これまであまり委員会を開催すること無く様々な事項を決定していた反省から、定期的に委員会を開催し、議論を深めながら、業務を遂行できた点は評価したい。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

平成 26 年度は以下の新規事業を予定しており、予算申請を行っている。しかし、情報機器の変化は激しく、学生や教職員から求められるものも、立場の違いによって様々である。そのため、いずれの事業においても、委員会で再度検討し、必要なか必要でないのかをきちんと議論してから実施することとする。また、実行した事業の評価も、ある立場からの主観で判断することなく、客観的な評価活動を実施することとする。

1) 学術研究・教育の支援

- ①パソコン教室の整備 (211,212 のパソコンリプレース、ソフトウェアのバージョンアップ)
- ②教職員パソコン定期購入、研究室プリンタ購入
- ③その他

2) 情報機器の維持・管理

- ①サーバ機器クラウド化の対応
- ②ネットワーク整備
- ③学生用ロケーションプリンター入れ替え
- ④学務管理システムのカスタマイズ

執筆担当者 情報センター運営委員長 浜崎 央

5. 国際交流センター

本年度の国際交流センター運営委員会は、各学科から 1 名ずつ選出された委員と事務職員 1 名、計 7 名で構成され、観光ホスピタリティ学科の白戸が委員長となった。

松本大学国際交流センターの主な役割は、国際交流活動支援と留学生支援を柱としている。支援体制として、専任職員 1 名が大学内外での日常生活の相談など留学生支援等の業務にあたり、その他各学部から 2 名の教員が国際交流センター運営委員として学内の国際交流活動に関わっている。

(1) 計画 < P >

1) 海外大学との連携

- ①韓国 東新大学

- ・交換留学生の受入
- ・現地におけるバリアフリー調査（観光ホスピタリティ学科）
- ・交換留学生の派遣の検討・準備
- ②韓国 済州大学
 - ・交換留学生の派遣（短期大学部）
 - ・交換留学生の受入（短期大学部）
- ③チェコ共和国 パルドゥビツェ大学
 - ・交換留学生の派遣（観光ホスピタリティ学科学芸員課程）
 - ・研究者の招聘
- ④交換留学受け入れ体制の検討・準備
 - 2) 留学生の支援
 - ①日本語スピーチコンテストへの参加支援
 - ②修学・生活等に関わる相談への対応
 - ③留学生対象の研修旅行
 - 3) 国際交流の推進
 - ①湘北短期大学等英語スピーチコンテストへの学生の参加支援
 - ②海外からの学校見学等の受け入れ（高校・大学等）
 - 4) 今後の国際交流の在り方及び体制に関する検討

(2) 活動内容 < D >

1) 済州大学との交換留学生の派遣・受入

本年度は、韓国済州大学校と締結した交換留学等についての協定を踏まえて国際交流センターでは、短大部が先行し、2013年2月に短期大学部の学生が2名を1年間の予定で留学生の派遣を行ない、大学については体制の整備として規程等の整備を行なった。一方、2013年度後期から交換留学生1名を短大部で1年間の予定で受け入れた。

2) 東新大学からの交換留学生の受入および共同事業

昨年度に引き続き、韓国東新大学からの交換留学生の受入を開始し、4月より4名の学生を1年間、観光ホスピタリティ学科において受け入れた。昨年から引き続いて、観光ホスピタリティ学科の教員・学生が済州島において第2回バリアフリー調査を2013年5月に東新大学と共同で実施し、2014年3月に「アクセシブル・ツーリズム ガイドブック in 釜山」（松本大学・東新大学校共同調査班制作）としてその成果をとりまとめ、松本大学出版会から出版した。

3) その他の大学等への学生派遣

本年度も昨年度に引き続き、新たにチェコ共和国パルドゥビツェ大学へ観光ホスピタリティ学科学芸員課程の学生を9月から半期の予定で派遣した。主として遺跡修復に関する専門教育を受け、2月に帰国した。また、8月にはオーストラリアの国立ニューカッスル大学が開講する短期語学研修へ短大部2名、学部生7名計9名の学生を派遣した。

4) 留学生の受入および支援

留学生は2013年4月現在で11名が在籍している。内訳は、大学7名（うち東新大学からの交換留学生4名）、短期大学部4名である。なお後期より短大部に新たに済州大学からの交換留学生1名を受け入れた。

留学生に対しては、4月に新入留学生オリエンテーション、留学生顔合わせ会、交換留学生ガイダンス等を行ない、学業、生活、進路などに亘って、他の委員会とも連携しつつ、相談や指導などの支援を行なった。また、私費外国人留学生学習奨励費や各種奨学金の紹介や申請等への支援を行なうとともに、本学の私費外国人留学生授業料減免申請に関し面接等によって審査を行なった。

また、毎年実施している「留学生・外国籍学生日本文化を知る旅」については、12月に、三重県伊勢市において1泊2日の日程で実施した。

5) スピーチコンテスト等

本年度も数多くのスピーチコンテストに本学から学生及び留学生が参加し、数多くの入賞を果たした。留学生による日本語スピーチコンテストでは、本学留学生が、7月の「第23回国連軍縮会議 in 松本」関連イベント「軍縮・平和・国際交流に関わる留学生日本語スピーチコンテスト」に1名参加し準優勝したほか、11月の松本東ロータリークラブ主催日本語スピーチコンテストに1名が参加した。また、湘北短期大学第15回英語スピーチコンテストにおいて本学の日本人学生が参加した。さらに、12月には松本ワイズメンズクラブ主催の日本語懸賞論文コンテストで2名が佳作を受賞した。

6) 国際交流

本年度も引き続き、国際交流活動として、台湾中山工商高校（5月）、フィジー南太平洋大学（7月）、チェコリトミッシュ市長訪問団（10月）、マレーシア学生訪日教育旅行訪問団（2月）など、海外からの訪問を受け入れた。

7) 研究交流

本年度新たな取組みとして、提携しているチェコ・パルドゥビツェ大学より2名の研究者を本学に受け入れ研究交流を行なった。学芸員課程に関わる教員が主としてコーディネートし、7月16日より31日までの16日間にわたり、本学をはじめ、奈良県や福井県などに滞在し、主として古文書の修復やその素材である和紙等について関係する施設にて専門的な研修を行なった。

8) 規程の整備

交換留学生の受入・派遣、研究者の受入などが本格化したことを受けて、本年度はそれらにかかわる規定の整備を行なった。整備された規程は、「松本大学 海外からの研究者、大学等教員の研修受け入れに関する規程」、「松本大学 学生の留学に関する規程」、「松本大学 留学生の受け入れに関する規程」、「松本大学松商短期大学部 海外からの研究者、大学等教員の研修受け入れに関する規程」、「松本大学松商短期大学部 学生の留学に関する規程」、「松本大学松商短期大学部 留学生の受け入れに関する規程」である。

(3) 点検と評価 < C >

1) 海外大学との連携

海外大学との連携については、計画に沿って概ね順調に取り組むことができた。特に本年度の大きな成果として、交換留学生の受入・派遣、研究者の受入に関する規程等の整備が行われ、今後の国際交流活動の基盤整備が図られたことがあげることができる。

本年度は、済州大学校からの初の交換留学生の派遣・受入、チェコバルトビチュ大学への学生の派遣と研究員の受入など、国際交流活動支援および留学生支援が円滑に進められた。東新大学からの留学生の受入については、昨年度は生活習慣や文化の相違などもあって様々なトラブルもあったが、本年度は4名全員が交換留学期間を修了し、留学生本人および東新大学からは一定の成果があったとの評価を受けている。また、本年度は東新大学とのバリアフリー調査が本学学生と東新大学学生が協働で、昨年度に引き続き実施され、その成果が出版物となった。さらに、バルトビチュ大学から研究者を初めて受け入れるなど専門領域における交流が深化した。

一方で、留学生の受け入れについては学部間での温度差があり、全学での統一的な方針を打ち出す必要がある。さらに、本年度課題として掲げられたアメリカに向けての海外研修の取組みは進展がみられなかった。

2) 留学生の支援

例年継続されているスピーチコンテストへの参加等の支援については、本年度も本学から入賞者を出すなど一定の成果が得られている。

3) 国際交流の推進

国際交流の推進については、いくつかの進展がみられた。昨年度、学習旅行を推進する長野県の方針のもと、海外から長野県を訪れる高校生や大学生の受入依頼が増加し、大学としての負担が増大したことを踏まえ、本年度は無理のない受け入れを行なった。一方で、今後の国際交流の在り方及び体制に関する検討については具体的な取組みには至っていない。

(4) 今後の国際交流活動について < A >

国際交流センターの活動がここ数年、質的にも量的にも拡大していることを踏まえれば、大学としての国際交流のあり方について長期的なビジョンを検討する必要がある。特に学生の派遣や受け入れについて、過去本学として明確なビジョンに基づいて行ってきたというよりは、むしろ各学部・学科における個々の大学等との交流が発展した経緯があり、全学的かつ体系的に進められたとは言い難い。それぞれの取り組みは一定の成果をあげているが、今後に向けては、大学全体として海外の大学等との交流は、その方向性を明確にする必要がある。さらに、済州大学については、本年度短大部のみでの交換留学生の受け入れを行なったが、15年度以降について大学としてどう対処するかを明確にし、受け入れる場合には早急に単位認定等の検討を行なうなど環境整備が必要である。

昨年度にも課題として指摘されたが、留学生に対する学習と就職の支援の充実は依然として重要な課題である。本学における留学生への学習面の支援は各学部にて任せている現状があり、大学としての支援システムは未整備である。例えば日本語教育についても学生の能力向上に著しく結びついておらず、他の講義において言葉が障害となって学習効果が上がらないなどの問題がある。これまで少数の比較的語学力の高い留学生の受け入れを行ってきた経緯があり、大きな問題として顕在化してこなかったが、交換留学生の増加などに伴って早急の対応が必要となろう。

また就職面についてもゼミ担当教員や就職担当部署と国際交流センターとの間の情報交換も十分でなかったことから今後は連携の強化が必要になる。

執筆担当者 国際交流センター運営委員長 白戸洋

6. 地域健康支援ステーション

本年度の運営委員会は、人間健康学部の両学科長と事務局2名で構成され、健康栄養学科長が委員長を務めた。

(1) 平成 25 (2013) 年度当初の事業計画 < P >

栄養や運動を中心とした健康づくり等のための地域連携と学生教育をつなぐ役割を担い、学生や教職員が地域社会で専門的な知識やスキルを活かして行う活動をマネジメントする。また、地域づくり考房「ゆめ」とともに本学の学生の諸活動を通じた地域貢献の窓口としての役割を果たす。

なお、平成 25 年 9 月以降は、本学が採択された文部科学省「地（知）の拠点整備事業（以下、大学COC事業）」の一環としての活動も担っている。

地域健康支援ステーションの H25 (2013) 年度の事業計画は、以下の通りである。

- 1) 指導事業 ①栄養健康教育 ②栄養指導 ③調理実習
- 2) 啓発事業 メニュー開発
- 3) 広報事業
- 4) 卒業フォローアップ事業

(2) 事業報告 < D >

地域健康支援ステーションは、文部科学省の平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム【テーマA】「食の課題解決に向けた質の高い学士の育成～地域の食に関する課題解決～

の意欲と実践的能力を有する食の専門家の育成～」の採択を受け、人間健康学部健康栄養学科内に設置され、平成22年4月から本格的に活動を開始した。平成23年度のGP事業終了を受け、今24年度からは本学の特徴ある取り組みとして独自に運営していくこととなり、スポーツ健康学科も含めた人間健康学部全体の地域活動と学内教育をつなぐ窓口として活動するようになった。平成25年度もこれを引き次いで活動を行った。

平成25年9月の大学COC事業選定後には、従来の管理栄養士スタッフに加えて、健康運動指導士スタッフを任用し、上記<P>1)指導事業の④として「運動指導・レクリエーション等」を加え、この分野の活動の充実を図った。

1) 指導事業

地域からの依頼を受け、個別指導・集団指導・講演・セミナー・スポーツ栄養サポートなどを行う活動。主として指導教員と専任の管理栄養士スタッフ・健康運動指導士スタッフが指導を行い、学生はその補助等を行った。

【栄養指導分野】

①栄養健康教育

指導教員または管理栄養士スタッフが行った活動は、以下の3件であった。

「『楽市楽座』健康トークショーの講師」（依頼元：松本山雅FC）

「『食と運動で健康を！』講座講師」（依頼元：筑北村商工会）

「高齢者向け栄養健康セミナー講師」（依頼元：麻績村社会福祉協議会）

学生と連携し行った活動は、以下の10件であった。

「食育SATシステムによる食事診断」（依頼元：公益財団法人長野県看護協会）

「松本深志高校野球部・剣道部栄養サポート」（依頼元：松本深志高校野球部・剣道部）

「須坂高校野球部栄養サポート」（依頼元：須坂高校野球部）

「諏訪清陵高校野球部栄養サポート」（依頼元：諏訪清陵高校野球部）

「長野吉田高校野球班栄養サポート」（依頼元：長野吉田高校野球班）

「上田高校野球班栄養サポート」（依頼元：上田高校野球班）

「有線放送番組の企画と出演」（依頼元：更北有線放送）

「青年層健康教育の講師」（依頼元：中部電力株式会社）

「林業初任者研修の講師」（依頼元：財団法人林業労働財団）

「イベントにおける栄養指導」（依頼元：須坂市体育協会）

「栄養講座」（依頼元：御代田町保健補導員会）

②栄養指導

「本学学生健診における個別栄養指導」（依頼元：健康安全センター）

なお、依頼を受けたものの実施できなかったもの（理由：2月8日の記録的な大雪による交通網マヒ）として、諏訪保健福祉事務所から依頼があった「食育SATシステムによる食事診断」がある。

【運動指導分野】

①運動実践指導・レクリエーション等

指導教員または健康運動指導士スタッフが行った活動は、以下の10件であった。

「健康教室の講師」（依頼元：塩尻市吉田公民館）

「レクリエーションと運動不足解消の軽運動」（依頼元：朝日村）

「高齢者健康体操の講師」（依頼元：塩尻市社会福祉協議会）

「運動教室の講師」（依頼元：塩尻市大門七番町区）

「認知症予防講座の講師」（依頼元：塩尻市本山区）

「健康づくりとレクリエーション」（依頼元：しあわせ信州・朝日）

「認知症予防講座の講師」（依頼元：朝日村）

- 「レクリエーション」（依頼元：就労支援事業所そよ風の家）
- 「3 学年親子レクリエーション」（依頼元：芝沢小学校PTA）
- 「『食と運動で健康を！』講座講師」（依頼元：筑北村商工会）

学生と連携し行った活動は、以下の2件であった。

- 「有線放送番組の企画と出演」（依頼元：更北有線放送）
- 「体力測定」（依頼元：御代田町保健補導員会）
- 「子どもの生活習慣改善事業『親子あそびランド』支援」（依頼元：松本市）

2) 啓発事業

地域からの依頼を受け、指導用の資料作成・指導媒体（教材）の開発・メニュー考案・栄養表示などを行い、それらを通して幅広い栄養教育を行う活動。指導教員と管理栄養士スタッフがコーディネートし、学生が主体となって活動した。

①メニュー提案

以下の7件の活動を行った。

- 「松本山雅スタジアム『食』第4期メニュー開発」（依頼元：松本山雅FC）
- 「阿南町じゃがいも加工食品開発とレシピ提案」（依頼元：阿南町）
- 「障がい者就労施設弁当メニュー提案」（依頼元：お寄り家びーんず）
- 「メニューの栄養価計算」（依頼元：上高地食堂）
- 「ぶどうスイーツコンテスト」（依頼元：長野県松本地方事務所）
- 「食育の日に係るぶどう配布」（依頼元：長野県松本地方事務所）
- 「健康弁当メニューの提案」（依頼元：松本市健康産業推進研究会）

3) 広報事業

管理栄養士や健康運動指導士の存在や役割について広報することをめざして実施した活動として、以下の3件を行った。

- ①ホームページブログ記事の更新
- ②学報「蒼穹」の原稿執筆
- ③パンフレット作成

4) 卒後フォローアップ事業

卒業した学生を中心に最新の健康知識の習得やキャリアアップをめざし、「高橋千恵美氏講演～アスリートから管理栄養士をめざして～」(人間健康学部教育企画推進委員会事業特別講演と併催)を実施した。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 指導事業

①栄養健康教育

指導教員または管理栄養士スタッフが行った活動では、本学教職員の専門的知識等を多様なライフステージの地域住民に還元することができた。

学生と連携して行った活動のうち、管理栄養士に同行して現場に赴いた活動においては、事前学習も含め、学生は栄養健康教育におけるプロセス（P：企画→D：実施→C：評価→A：改善）を実践的に学ぶことができた。専門職が有している知識やスキルを学ぶだけではなく、学内で既習の内容を実際の教育現場で活用することで自身の専門知識の不足を知り、更に深く学び直すことにつながった。また、学外に出て地域の人々と接する中で、地域課題を肌で感じ、言葉づかいや態度等を学び、就職活動や就職後の就業にも活かされる経験となった。さらに学生が関与することで講座に活気が生まれ受講者からも好評であった。

管理栄養士との同行以外でも、昨年度同様3年次授業である「栄養教育実習」において教育現場を想定しながら栄養健康教育の内容を企画立案するという活動も行った。「青年層健康教育」、「林業初任者研修」、「シニア健康講座」を題材として、実際に栄養教育を行った管理栄養士スタッフからのフィードバックを受け、より深く学ぶ機会とすることができた。

②栄養指導

本学学生の健康診断の事後指導を管理栄養士スタッフが受け持った。学生同士の個人情報保護順守の観点から本活動に学生の関与はないが、自身が健康診断を受ける中で事後に栄養指導があることを体験し、身体アセスメント値（身長・体重・血圧等）と食生活の関連性を学ぶことの動機づけになった。

栄養指導分野の活動に関わった学生はのべ361名で、これらの学生たちは、今までの学習成果を実践場面で発揮することができた。

③運動指導・レクリエーション等

健康運動指導士スタッフが行った活動では、専門的な指導を多様な形態の講座として実施し、様々なライフステージの地域住民に還元することができ、COC事業としての成果を上げることができた。

運動実践指導分野の活動に関わった学生は、健康運動指導士スタッフ着任後の半年間でのべ69名となり、これらの学生たちは、学習の成果を現場で応用する技術を学ぶことができた。

2) 啓発事業

①メニュー開発

指導教員と管理栄養士スタッフがコーディネートし、学生が主体となって活動した。アイデアを提案するものから、本人が実際に試作調理するもの、飲食業者に採択され商品化されるもの等、幅広い活動を展開することができた。特に、飲食業者に採択され商品化されたものは、松本山雅フットボールクラブのスタジアム飲食物として14品であり、その売り上げを始め話題の提供等大いに地域に貢献することができた。コンテストでの入賞もあり、本件の活動はマスメディアにも取り上げられ、広報につながった。

啓発事業に関わった学生はのべ141名で、今までの学習成果を活かす活動として成果に結びついた。

3) 広報事業

ホームページや携帯サイトへの活動記事を、15回掲載した。訪問人数はのべ4,053人であり、多数の人に本ステーションの活動を紹介することができた。学報「蒼穹」への原稿執筆は年4回行い、多くの読者に広報を行うことができた。

4) 卒後フォローアップ事業

在学時に登録した卒業生に対し、キャリアアップや専門知識習得をめざし、COC講演会・人間健康学部教育企画推進委員会事業特別講演と併催で行った。しかし、卒業生の参加は得られなかった。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

前半は、本学独自の取り組みとして、大学の予算で実施していたが、COC事業として実施するものについては、予算の確保がしやすくなったことから、次年度も活動を充実させていきたい。次第に当ステーションの認知度が上がってきているが、次年度は多様な広報を行うことも検討したい。

なお、本年度は健康運動指導士を採用し、運動面での活動が充実したが、管理栄養士スタッフの転出に伴い、新たに管理栄養士を採用しなければならないことが緊急の課題である。

スタッフの複数年雇用などを検討し、優秀な人材を得て、本ステーション事業の一層の推進を図る必要がある。学部教員との連携についても検討を重ねていく必要がある。

1) 指導事業

新しく管理栄養士スタッフの補充を行った上で、得意分野を中心として新たな事業の受託をめざし、COC事業としての充実をめざす。また、学生教育の視点についても新たな方法を検討し、できる限り学

生のうちに専門職としての仕事を疑似体験できるよう地域からの受託をめざす。運動指導・レクリエーションについては、学生と共同した活動の充実を図る。

2) 啓発事業

メニュー提案は専門知識の学習がまだ十分ではない低学年でも行いやすい活動であるため、一定数の受託をめざす。

3) 広報事業

活動報告を記事としてまとめ、積極的にホームページや学報等に掲載し、学内外に広報していく。

4) 卒後フォローアップ事業

卒業生が参加しやすい設定を検討し、卒業生にとって有益となる事業（研修会等）を企画し、卒業後のネットワーク構築につなげていく。

執筆担当者 地域支援ステーション運営委員長 廣田直子

7. 地域づくり考房『ゆめ』

本年度の運営委員会は学部・短大部の各学科より教員1名ずつ、事務局2名（教務課長、職員）計8名で運営した。委員長は短期大学の廣瀬が担当した。

「地域社会との学生コーディネート機関」、「学生の活動を側面から支援する」といった本来の機能を点検評価し、継続的に高めていく。それは、学生が地域実践と関わることで大学における学びの意義を見出し主体的に学ぶ姿勢へと変化し、その学びを専門ゼミや専門教育で地域実践に生かしていくサイクルの構築を目指している。しかし最近、専門ゼミナール、専門教育などとの棲み分けに課題を残していることから、学内における役割の明確化が求められている。

地域づくりコーディネーター養成講座については、地域からの参加については一定の評価を得ているが、学生の参加は少なく魅力あるプログラム・到達目標の構築が求められている。

(1) 25年度当初の事業計画 < P >

地域づくり考房『ゆめ』の平成25年度当初の計画は以下のとおりである。

- 1) 学生の地域活動促進事業
- 2) 学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業
- 3) 考房『ゆめ』自主事業
- 4) センター組織の整備事業
- 5) 広報啓発事業

(2) 24年度事業報告 < D >

1) 学生の地域活動促進事業

新入生の考房『ゆめ』への活動促進を図るため、各学部の新入生オリエンテーションにおけるガイダンスや学生スタッフによる説明会「ゆめカフェ」を4月に行った。また、5月には、学部講義「地域社会と大学教育」にて地域社会活動の意義と役割および地域活動紹介を行い、学生の地域活動への参加促進を図った。

今年度の考房『ゆめ』への年間受入れ件数は1,154件、そのうち学生の年間参加件数は68件あり、参加学生の延べ人数は837人となった。

2) 学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業

地域からの依頼事業への参加は35件あり、学生・地域両者への相談・支援を行った。

①学生の自主企画

学生の自主企画による活動は、学生チャレンジ奨励制度対象プロジェクトが7チーム、対象外プロジェクトが4チーム稼働した。

②地域からの依頼による活動

行政や企業、自治会、NPO、施設等からの依頼を受けて学生がプロジェクトを組み実施したイベントや学生自ら企画したイベントは5件あり、このうち、1サークルの社会貢献活動もあり、それぞれの自主性・主体性を重んじた活動支援を随時行った。

③地域とのパートナーシップ事業

年間5プロジェクトが稼働し、地域に出て地域の課題を知り、その解決のきっかけとなる取組が実施された。10月～11月の「松本市モビリティ事業」は本学学生に加え信州大学の学生や松本市交通政策課、NPO法人などと協働で行い、地域住民が公共交通に触れる機会を創造し、今後の利用拡大に繋がる活動となった。

④地域イベント時の活動発表

第2回学都松本フォーラム（9月）、新村文化祭（11月）に学生プロジェクトのパネル展示や活動報告を行った。

3) 考房『ゆめ』自主事業

①25年度学生チャレンジ奨励制度と企画書作成指導

25年度の地域づくり学生チャレンジ奨励制度審査会は、継続的事業については3月（前年度）に行い、1年生などが加わることができる新規事業については、9月に計画したが、応募がなく、本年度は継続プロジェクトのみとなった。

プロジェクトについては、個別指導を随時行い活動の指導を行い、また、随所で会計指導・報告書作成指導や支援を行うことで、奨励金の適切な運用を管理しつつ自主事業の支援を行った。また、3月19日には、学生チャレンジ奨励制度の活動報告会を実施した。さらに、同日次年度の学生チャレンジ奨励制度の審査を行い、6プロジェクトが認定された。

②コーディネーター養成講座

24年12月からの継続事業として、第3期松本大学地域づくりコーディネーター養成講座を実施し、実践講座・審査会を行なった。講座開始時は12名の受講者であったが、最終審査まで残った6名が認定された。第3期より導入された、実践活動における「準認定」により、学生の準認定者が輩出された。

しかし、学生に魅力あるコーディネーター養成講座への改善に課題を残していることから、本年度は募集について一時停止した。検討の結果、本学独自の認定資格だけでなく、他機関などで認定している資格との連動を模索することとなった。

4) センター組織の整備事業

相談・支援体制は、専任の教員1名、職員3名（内2名パート）、学生スタッフ6名、取材班（ゆめ撮影隊11名、ゆめ通信編集委員8名）19名を配置し、学生の活動支援の強化を図った。教職員によるコーディネートとして、学生及び地域ニーズへの相談・支援、活動への調査・発掘、活動に関する情報の収集・整理と提供、活動紹介及び連絡・調整・資源の発掘・開発及び支援ニーズの把握等を行い、学生が地域活動をスムーズに展開できるよう支援した。

①学生スタッフの配置

学生スタッフを配置してから5年目となった。今年度の学生スタッフは、継続メンバーであったため活動運営がスムーズに進行し、研修・交流会では主体的に会を企画運営することができ、各プロジェクト同士の横の連携もでき、プロジェクト活動は活発に展開することができた。会議は年23回行われ、学生スタッフ各自がしっかり役割を担い学生の活動支援に向け積極的に行動した。

②研修会・交流会の開催

25年度の研修会や交流会は、学内外さまざまな分野で行われた。教職員が関わりながら研修会形式で各プロジェクトの学生の質向上や地域や関連団体とのコーディネートを行った。学生が中心となつてすすめていくプロジェクトは、地域や関係団体とのトラブルも多いため研修形式をとりながら指導を行っている。

学生スタッフによる考房『ゆめ』全プロジェクトメンバー研修会（前期後期）は学生企画で実施された。ここでは、各プロジェクトが活動の振り返りと今後の活動に向けて話し合いを行うとともに、連携を図る情報交換や交流会が行われた。その他、本学主催で行われた「地域フォーラム（3月）」では、地域活動講演会の後行った学生企画・運営の「ワールド・カフェ」では、松本大学地域づくりコーディネーター認定者の協力により、学生ファシリテーターによる進行もスムーズに展開することができ、参加者全員が地域づくりのテーマについて議論が深められた。

「全国まちづくりカレッジ in 東京（10月）」には、学生10名が参加した。また、新入生に向けた学生による学生のための情報誌「Vole re!!」制作では、当初から関わってきたリーダーを中心に、新一年生メンバーも積極的に取り組み、地域との関係も深まり、充実した内容となった。

③視察の受入

文部科学省のCOCに採択されたことや実践活動の発表により、大学や調査機関などからの視察依頼があり、多くの教職員・学生が訪れた。7大学・9組織を受け入れたが、対応できない大学もあった。

5) 広報啓発事業

学内外に向け、ウェブサイト（ゆめHP）・学生ブログによる情報発信やゆめ通信による広報紙発行、蒼穹への活動記事掲載を行った。また、昨年度(株)アルピコの好意で設置していただいた北新松本大学駅前の掲示板を活用し学生や地域の駅利用者への情報発信を行った。新聞社各社にも記事として学生の活動が取り上げられた。月刊イクジイにも活動が紹介された。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 学生の地域活動促進事業

新入生の入学時のオリエンテーション、ゆめカフェ、講義「大学教育と地域社会」、ゆめ掲示板等による情報提供により、学生の地域活動への参加に繋がった。

その際、学生の興味関心だけではなく、教育的な視点をもって、学生たちの創造性・自主性・主体性を重視した活動となるよう取り組んだ。また、学生に地域人としての生き方を学ぶ機会を提供し、学生の想いと地域の想いを対等につなげ、地域と協働・共創した活動に向け、総合的に支援した。

このことで、学生は実践的な学習を通して「積極的に取り組む自主性」「企画を立案する発想力」「視野の拡大と異文化対応力」「実体験に基づく社会認識力」「やり遂げる持続力」「困難やアクシデントを克服する忍耐力」「様々な他者との協調性」等が育まれた。学生は地域に学び、地域は学生のパワーや感性を得る、両者の相乗効果のなかで地域が元気になり、大学の社会貢献を推進する力となった。地域から寄せられる期待や信頼は学生の自信に繋がった。

2) 学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業

昨年の課題であった「学生プロジェクトの活動内容が地域へ視野を広めることができず、自己満足の活動に陥りやすい状況」については、学生の成長が見られ、地域の実態を知り活動につなげるための地域連携活動が展開された。さらに、地域課題を中心に各プロジェクト間の連携が生まれ、新たな活動ステージへと発展した。学生は、経験を重ね関係機関を通じて地域のニーズを知り、自らの活動につなげることができるようになってきている。

3) 考房『ゆめ』自主事業

25年度地域づくり学生チャレンジ奨励制度は、24年度からの継続及び在学生の新規事業の募集を3月に行い、追加募集として1年生の企画も含めて9月に追加募集を行った。しかし、3月の募集は7件あったが、9月の追加募集は0件であった。新入生はまず、既存のプロジェクト等への参加をするため、地域との関わり方や、自主企画の難しさを知る機会となったためと考えられる。未熟な自主企画活動のエントリーは解消されたと考えられる。しかし、応募がないまま9月の募集を継続するかについては、制度を改正したばかりであり今後検証を図りたい。

第3期松本大学地域づくりコーディネーター養成講座は、3期目を迎え地域で活躍できる人材育成プログラムに仕上がってきている。社会人の認定者は、地域で活躍すると共に本学学生と協働事業も展開され本学と地域とのネットワークが形成されつつある。しかし、まだ、学生の参加は少なく、学生にとって魅力ある講座ではないと思われるため、他機関などで認定している資格との連動を検討する必要がある。

4) センター組織の整備事業

学生スタッフが配置されて5年目を迎え、学生を中心とした組織体制は、一定の成果をあげている。学生の主体的な企画運営及びプロジェクト同士の横の連携が生まれた。

5) 広報啓発事業

積極的な情報発信は、地域社会に対して「ゆめ」の活動や本学の教育・学生支援活動への理解が深まり、学生と地域住民との円滑な連携を促す効果となった。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

地域社会の創造と発展に寄与する人材を育成するために、考房『ゆめ』を拠点に、施設・人材の両面で拡充をはかり、支援体制の一層の充実・発展を目指して事業展開していく。

1) 学生の地域活動促進事業

- ・学生の地域活動の原点となる開設以来の地域受け入れ票については、学生の参加状況や活動内容の再確認を行い、学生のスムーズな地域活動への受け入れ体制を整えることに役立つように改良していく。

2) 学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業

- ・先駆的・開拓的課題への対応として、学生および地域からのニーズによる新プロジェクトの開発・創出・促進を図っていく。また、継続事業の支援も強化していく。
- ・新たな地域からの産学官民協働事業の依頼もあり、また、地域づくりコーディネーター養成講座認定者からの協働事業の依頼も想定される。活動をスムーズにするためにも事前の打ち合わせを十分行い、地域活性化に向けた活動へ学生を導き、指導できるよう、きめ細かい対応を行う予定である。また、地域との連携をより一層図っていくことで、学生による地域活動の支援をさらに充実・改善していく。

3) 考房『ゆめ』自主事業

- ・地域づくり学生チャレンジ奨励制度は、3月と9月年の2回の募集とする。既存プロジェクトは年度当初から事業展開をすすめる、未熟な自主企画についてはじっくりと時間をかけて企画から支援を展開していく。
- ・松本大学認定地域づくりコーディネーターは、学生に魅力ある養成講座とすべく、他機関などで認定している資格との連動を検討していく。

4) センター組織の整備事業

- ・各プロジェクトの適正な事業推進を図るため、全プロジェクト対象に年度初めに年間計画書の作成とプレゼンテーションの機会を設ける。また、中間および年度末に活動振り返りと引き継ぎ及びリーダー研修を実施することで、地域に求められる人材育成を目指す。
- ・「全国まちづくりカレッジ」等の他大学や他地域の活動に参加し、交流研修を通じ、学生の主体性形成に向けた資質向上を図る。
- ・プロジェクトの横の連携を発展させると共に学生主体の活動支援を展開していく。

5) 広報啓発事業

- ・ホームページやブログ、掲示板での的確・迅速な情報発信を進める。また、活動の動画配信等学生の視点からの情報発信を進めていく。

執筆担当者 地域づくり考房『ゆめ』運営委員長 廣瀬 豊

8. 図書館

図書館運営委員会は、学部・短期大学の各学科より教員1名ずつ、事務職員1名の計7名で構成され、短期大学部篠原が昨年に続き委員長となった。

(1) 年度当初の方針 < P >

2013年度は、「中期的な図書館計画の策定」「情報提供の強化」「図書館施設・設備の見直し」の3つの方針のもとに運営を進めた。

1) 中期的な図書館計画を策定する

学部の完成年度も過ぎて、図書館としての課題も明らかになってきた。書庫の不備も発覚した。本学図書館の在り方を確認し、中長期的な視点から図書館運営を見直す必要がある。2013年度は、そのための足場づくりの年とする。本年度に引き続いて運営基盤をしっかりとさせる取り組みを行うとともに、計画策定のための研究調査を行う。

2) 情報提供を強化する

大学図書館のサービス対象である学生、教員、職員に対し、図書館資料だけでなく、情報についても積極的に提供を行い、役に立つ図書館である実感をもってもらう必要がある。利用案内を含めたデータベース講習会など図書館利用教育も積極的に実施する。また、7号棟、6号棟での広報活動を継続的に行う。

3) 図書館施設・設備の見直しを行う

利用者がより安心して図書館を利用できるように、より利用し易くなるように、必要な図書館施設や設備の見直しを行う。本年度明らかになった課題、書庫のカビ対策や盗難への対処や、学生証等のICカード対応については必要な対策を講じる。また、長年の懸案事項である学生の利用増のために、館内設備やサイン等案内の見直しをする。

(2) 現状の説明 < D >

年度当初は、比較的順調に推移した。しかし、カビ問題に端を発する業務量の増加、職員体制の問題、利用の伸び悩みと、課題の多い年になった。

1) 書庫のカビ対策

除染費用を軽減するため、書庫内の資料の見直しを行った。衛生上の問題があるので書庫内には正規職員しか立ち入らないようにする必要があること、少人数では除籍の判断が難しいことから、全書架の写真撮影を行った後、不用と判断できるものを除籍対象として別置した。除籍手続きが煩雑なため、今年度は除籍扱いにはできなかった。

除染作業は業者に委託し、2月に終了した。その後、空調のため換気扇が設置された。

2) 職員体制

年度当初は比較的順調に推移したが、8月に夜間及び土曜対応の職員が退職、その後補充した職員も1ヵ月で退職したため人員の確保に困ることになった。その後は大学院生と学部生のアルバイトで対処したが、仕事量の面で他の職員に大きな負担をかけた。年度末には職員の休職もあり、開館時間や開館日の短縮を余儀なくされた。

なお、学外利用者に問題とみられる行為があったため、開館中は原則2人の職員体制をとることとして男子学生のアルバイトを導入した。

3) 図書館の利用実態

今年度の学生1人あたりの貸出数は、わずかながら前年度を下回った。貸出数は2007年度以降少しずつ増加しており、今年度は更なる利用増を目指していた。このような結果になり残念だった。

なお、ビデオ・DVDの視聴者数、および入館者数は昨年度より増加したが、その前の2011年度には及ばなかった。

【 利用統計 】 2013 (平成 25) 年度
 図書(雑誌)貸出冊数・AV 資料閲覧点数 (図書：冊, AV 資料：点)

| | 所 属 | 図 書 | 合 計 | AV 閲 覧 | 合 計 |
|------|-----------|------------|------------|--------|-------|
| 短大 | 商学科 | 800(24) | 1,496(45) | 641 | 1,178 |
| | 経営情報学科 | 696(21) | | 537 | |
| 総合経営 | 総合経営学科 | 692(50) | 2,086(125) | 705 | 1,454 |
| | 観光ホスピタリティ | 1,394(75) | | 749 | |
| 人間健康 | 健康栄養学科 | 2,306(39) | 3,111(74) | 262 | 1,028 |
| | スポーツ健康学科 | 805(35) | | 766 | |
| | 健康科学研究科 | 60(5) | 60(5) | 3 | 3 |
| | 教職員 | 976(125) | 976(125) | 11 | 11 |
| | 計 | 7,729(374) | 7,729(374) | 3,674 | 3,674 |

学生 1 人あたり貸出数

| 年 度 | 学生数 5/1 現在(人) | 貸 出 数 (冊) | 1 人当り貸出数 (冊) |
|-------|------------------|--------------|-----------------|
| 23 年度 | 1,982 | 6,189 | 3.12 |
| 24 年度 | 1,929 | 6,929 | 3.59 |
| 25 年度 | 1,943 | 6,753 | 3.48 |

入館者数 (延べ人数) (人)

| | 23 年度 | 24 年度 | 25 年度 |
|-------|--------|--------|--------|
| 学内利用者 | 92,116 | 87,992 | 90,710 |
| 学 外 者 | 347 | 421 | 199 |

(3) 実践に対する点検 < C >

1) 中期的な図書館計画の策定

- ①すぐに対処しなければいけない課題が重なったため、中期的な計画策定の準備にとりくむことができなかった。しかし、問題が多いからこそ中期的な視点をもつ意義があるともいえる。現状を十分に把握して問題点を明らかにしたうえで図書館のあるべき姿を考え、将来的な構想に取り組む必要がある。
- ②規程類の整備にとりかかった。今年度は、除籍基準の成案をみた。引き続き、規程類の整備を行う。

2) 情報提供の強化

次のようなことを行った。全般的には、情報提供する余地はまだある。

- ①シラバスに掲載されている参考文献の収集は例年どおり行った。講義やレポートに関する資料については、貸出の多いものやレファレンスで対応した主題の資料について意識して収集するよう心掛けた。
- ②卒論を書く時期に関係資料を別置した。
- ③新着図書案内は、毎月発行し、6号館、7号館にも掲示するようにした。
- ④テレビ放映や映画で上映された作品は、原作の図書と一緒に展示するようにした。
- ⑤11月を読書月間として各種企画を行った。

3) 図書館施設・設備の見直し学内・学外の人や機関への協力要請、および連携 (継続)

- ①毎月、職員と図書館運営委員が組になって館内点検を実施した。図書館運営委員が加わることで普段見逃しがちな点の指摘があり、意義があった。
- ②書庫のカビ除染で書庫内の空気は格段によくなった。さらに換気扇がつけられたことで、しばらくの間の利用は可能となった。ただ、書庫の施設は保存に適していないため、将来的には保存に適した施設を建設する必要がある。
- ③今年度、幸いなことに盗難はなかった。図書館入館退館の確認については、次年度学内で設置予定の監視カメラで対処することになる。
- ④ICカードへの対応はできなかった。館内案内・サインの見直しについては、多少取り組んだが、館内全体に広げることはできなかった。

(4) 次年度に向けて < A >

今年度の反省をふまえ、柱として次の3点を設定した。

- ①運営基盤、運営体制の見直し
- ②図書館サービスの点検
- ③中期的な図書館計画の策定

①の運営基盤、②の図書館サービスは、2009年から2012年まで年度計画に入れて取り組んできた目標である。2013年度の立案の際には、開館時間の延長や職員増、学生1人あたりの貸出数が3倍になったことなど、一定程度進歩はあったと判断して計画から外した。しかし、今年度のような課題が生じると、まだまだ不十分だったことがわかる。原点に戻って現状把握に努め、将来構想につなげたい。

執筆担当者 図書館運営委員長 篠原由美子

II. エクステンション機構（管理部門）

管理面に関する分野は、今年度からエクステンション機構（管理部門）に統括された。エクステンション機構の管理部門に属する各委員会は今年度、必要に応じて委員会が開かれた。

(1) 人権会議

ハラスメント防止委員会は講師を招いての定期的な研修会も行われ、啓発活動も進んでいる。また、ハラスメントの関する規程も従来のものから全面改定し整備された。

個人情報委員会については具体的な活動はなかったが、各部署での個人情報保護への意識は深まりつつある。

1) ハラスメント防止委員会

新しくパンフレットを作成するとともに、各種ハラスメントの実態を認識するために研修会を開催している。多くの教職員が参加しており、概ね好評を博しているようである。

外部の機関や弁護士にも相談に乗ってもらえるような体制を整えているが、少なくともこの一年間は具体的なトラブルは報告されていない。

2) 人権教育委員会

松本市との連携のもとに活動する委員会であり、人権についての啓発活動等本学においてもハラスメント防止や個人情報保護などの視点から取り組んでいる。

3) 個人情報保護委員会

学生の写真や名前などを勝手にブログに載せないように注意を喚起したり、学生版アニュアル・レポートにも番号を振って保管責任者を明確にするなど、慎重な対応を心掛けている。これからも、学生の同意を取り付けることに留意して、慎重な取扱いを心掛ける。

(2) 危機管理会議

危機管理委員会は防災委員会と環境保全委員会が一体となって定期的な避難訓練や新村地区の防災訓練への参加など活動が活発化している。また、COC事業の一環として防災教育や防災士講習などの計画も進みつつあり、本学の防災教育機能の充実が期待される。

環境関係では、26年度太陽光発電設備設置工事に鑑み、環境保全の観点から学内の点検を実施した。全体としては活動が定着し、各委員会が積極的に運営を図っていると言える。

1) 防災対策委員会

大規模な震災や火災等に備えた訓練を実施するとともに、機器類の定期点検や咄嗟の時に使用できるような技術の講習を心掛けたい。また、地域の青年とも交流を深め地域防災にも貢献できるような体制づくりを長期的には考える必要があるだろう。

2) 環境保全委員会

昨年は環境レビューをしていただいて、松本大学の実態を客観的に把握する第一歩を踏み出せたと思う。これを今後どの様に具体化していけるかが鍵となるが、まずは広報誌「ECOの風」を作成し、意識変革から始め電気料金の節約やリサイクルへの協力など、実利を挙げる活動にも踏み出す必要があるだろう。

(3) 施設管理センター

土日など、大学が休日である場合には外部に、施設設備を貸し出している。これを管理するのが当センターの役割である。

1. 健康安全センター

センター長を中心に学生・教職員の健康問題や、健康の維持・促進に組織的に取り組んできた。古林康江カウンセラーに代わり、小田切カウンセラーが就任し、新しい体制が整った。運営委員会は、総合経営学部2名、人間健康学部2名、短期大学部2名の教員6名、学生課長と保健師の計8名で構成され、委員長は昨年に続き、三村である。

(1) 年度当初の計画 < P >

今年度は、昨年度から継続して学生・教職員個々の健康問題に迅速に対応していく他、

- ①松本大学健康手帖の活用
 - ②心肺蘇生法の普及
 - ③健康教育の充実
- を掲げ、取り組んできた。

(2) 今年度の活動実績 < D >

1) 学生の健康管理

- ・外傷や体調不良、心身の健康相談などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談して、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。
- ・健康安全センター実務者以外の教職員と連携し、心身の健康状況に問題を抱える学生に関する相談に対応し、ケアカンファレンス、保護者面談への同席などを実施した。
- ・医療機関に通院中の学生については、本人の希望に応じて保健師が医療機関を訪問し、学生生活や卒業後の進路等についてカンファレンスを実施した。
- ・週2回、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士がカウンセリングを実施した。
- ・学生定期健康診断を実施した。今年度の受診率は学生全体で約98%と、健康診断が定着していることが示唆された。再検査の指導、精密検査の指導、心身の健康問題に関する保健指導、また健康栄養学科教員の協力も得て、希望する学生に対して栄養指導を実施した。

- ・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、感染予防のためのワクチン接種について保健指導を実施した。
- ・体育大会、キャンパス見学会、入学試験などに伴い、それぞれの管轄部署からの依頼を受け、救護対応を実施した。
- ・学生センター連絡会に参加し、学生に関する情報共有と、対応についての検討を実施した。

2) 教職員の健康管理

- ・外傷や体調不良、心身の健康問題などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談し、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。
 - ・教職員定期健康診断・教職員胃検診を実施し、精密検査・治療の必要な教職員に対する事後指導、生活改善が必要と認められる教職員に対する保健指導を、個別のリーフレットを作成して実施した。
- 人間ドック受診者は、受診医療機関での保健指導を受けているが、個別に希望する教職員に対して、保健指導を実施した。
- ・教職員の健康状況に応じて、医療機関を訪問し、職務内容等に関するカンファレンスを実施した。
 - ・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、ワクチン接種について保健指導を実施した。

3) 学生への健康教育

総合経営学部、人間健康学部健康栄養学科、短期大学部、クラブ協議会からの依頼に基づき、「禁煙について」「クラブ活動中の応急手当について」「新しい創傷ケアについて」「実習・実験中に起こるケガへの応急手当について」「学校感染症について」に関する健康教育を実施した。

4) 心肺蘇生法の普及

- ・総合経営学部両学科、人間健康学部健康栄養学科、クラブ協議会からの依頼に基づき、AEDの使用方法を含む心肺蘇生講習会を実施した。
- ・松本市内の中学校からの依頼に基づき、中学2年生の保健体育の授業の一環として、AEDの使用方法を含む心肺蘇生講習会を実施した。

5) 感染症発生への対応

- ・健康診断協力医療機関と連携し、強化部（硬式野球部・ソフトボール部）の寮生と、希望する教職員に対し、インフルエンザ予防接種を実施した。
- ・厚生労働省、長野県健康福祉部の指示のもと、出席停止期間を決定し、学生および教職員への周知を図った。
- ・インフルエンザ発症の連絡を受けた場合、ゼミ担当や部・サークル活動の責任者への報告、濃厚接触者に対し感染予防のための保健指導を実施した。

6) 学生寮での食中毒発生への対応

硬式野球部学生寮「松球寮」でのノロウイルスによる食中毒発生に伴い、

- ・寮内での症状の確認
- ・罹患学生のケア、医療機関搬送
- ・保健所への通報、連絡
- ・寮内・学内の消毒の実施
- ・手洗い等衛生指導
- ・寮食の停止と停止期間中の食事の手配（学生課と連携）
- ・硬式野球部の活動停止、および寮生の登校自粛の指示
- ・保健所による衛生指導に基づき、学生寮の食事提供と衛生管理の見直しを実施した。

7) 外部相談機関との連携

(株)ティーパック社と提携し、学生・教職員の心身の健康問題に関する電話相談サービスを実施した。

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 学生の健康管理

学生定期健康診断時に、受診学生全員に保健師(外部委託保健師を含む)の事後指導を実施している。集合健診であるため、個別の対応を要するものについては、後日健康安全センターへの来室を促し、フォローアップに努めている。健康診断で精密検査が必要と診断され、医療機関を受診した学生の中には、治療を要することが判明した学生もおり、早期発見・早期治療への足がかりとなっている。

また精神面に関しては、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士のカウンセリングを実施している。健康安全センター保健師がカウンセリング受付を実施し、面談時の情報を連絡したり、カウンセラーのフォロー状況を適宜検討しケアに当たっている。

すでに医療にてフォローアップされている学生については、カウンセラーは学生の状況を判断し、カウンセリングによって症状の悪化が助長されると判断する場合は、実施を見合わせることも想定している。必要に応じ医師の助言を受け対応している。思春期・青年期における特有の悩みや、家庭・友人関係の悩みなど、表出できない学生の存在も考えられるため、そのスクリーニングについて学生相談員と連携する必要がある。

2) 教職員の健康管理

教職員健康診断の受診(人間ドックを含む)の受診ははまだ 100%に至っていない。多忙であることや、人間ドック施設の混雑等も原因と考えられるが、未受診者への受診勧奨を保健師が実施しているのみであるため、管理責任者と連携の上、受診率の向上を図る必要がある。

また、受診後のフォローアップに関しても、充分とは言えない状況である。外部の支援機関とも連携し、異常の早期治療につなげていくことが重要である。

3) 学生への健康教育

「創傷ケア」「学校感染症」などについては、日進月歩で方法や方針が変化している。一人暮らしの学生も多いが、正確な知識を得る機会が少ないため、自己流のケアで悪化させるケースもある。健康教育を実施してからは、健康安全センター来室時にも、応急手当を実施してから相談に来るケースも増えてきており、今後も継続して新しい情報の収集の提供に努めていく。

4) 心肺蘇生法の普及

総合経営学部(総合経営学科・観光ホスピタリティ学科)1年生全員、人間健康学部(健康栄養学科)3年生全員、部活動・サークル活動の代表者を対象に心肺蘇生法講習会を実施した。

また今年度初めて、松本市内の中学校からの依頼に基づき、中学2年生の保健体育の授業の一環として、心肺蘇生の出張講習会を実施した。参加した中学生からは、「自分には関係ないと思っていたけれど、やってみたら難しいことではなく、気持ちの問題だと思った」「心肺蘇生ができる人が1人でも多く増えたらいいと思う」などの感想が聞かれ、広く、継続的に実施していく必要性が示唆された。

5) その他

今年度初めて、SD・FD研修の一環として、健康安全センターの保健師および臨床心理士が教職員向けに「大学生のメンタルケア」についての講義を実施した。悩みや不安があっても健康安全センターに自ら来室できる学生ばかりではないため、今後も教職員と協力して学生の精神的ケアに当たる必要がある。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

今年度と同様、学生・教職員それぞれの健康問題に対して迅速に、また的確に対応していくために、さらに組織的な運営を目指していく。

1) 学生・教職員健康診断のフォローアップ体制の充実

健康診断の受診率を上げるだけでなく、精密検査や治療が必要となった際に個別のフォローアップ

プができるよう、連絡体制などの充実を図る。

2) 心肺蘇生法の普及

引き続き学生への講習を実施していく。ゼミや部・サークルなど特性に応じた講習ができるよう、さらに工夫していく。

教職員に対して各学部・課と連携して、100%の普及をめざし、一度受講した教職員に対するフォローアップ講習をスタートさせる。また、地域住民への講習も引き続き実施していく。

3) 健康教育の充実

学生や教職員が健康を維持・増進させられるよう、ウェブサイトも活用し「健康安全センター通信」の発行などを継続して啓蒙活動を実施していく。

4) 学生相談員との連携の強化

学生センターにおいて、学生からのさまざまな相談に対応する学生相談員が設置されている。健康安全センターとの連携を強化し、そこでスクリーニングされた学生のフォローアップを実施するとともに、健康上の問題を抱える学生を抽出できるよう学生相談員への啓蒙活動を実施していく。

執筆担当 健康安全センター運営委員長 三村芳和

2. 施設管理センター

このセンターの運営委員会は、大学事務局長と各学部長で構成されている。

(1) 計画 < P >

本学の施設は平成14年度の松本大学開学以来、学科増や学部増、大学院設置に伴い飛躍的に拡大してきた。また、スポーツ施設についても総合グラウンド、多目的グラウンド、野球場、テニスコート、体育館2棟、屋内練習場、ピッチング練習場、弓道場など拡充してきた。

しかし、旧松商学園短期大学時代に建設された1号館から3号館及び図書館については老朽化した箇所や省エネ及びバリアフリーの観点からみると改修が必要になっていた。

また、平成26年4月の消費税アップを見据えて、大型工事などは中期計画の前倒しで進めることも必要と考え理事会の了解を得て、次の工事を計画した。

- ① 1号館～3号館にエレベータを設置
- ② 1号館～3号館、図書館のエアコンの省エネ器具への変更
- ③ 1号館～3号館の蛍光灯の省エネ器具への変更

(2) 実施と評価 < D・C >

まず、1号館～3号館にはエレベータがなく、車イスや足の悪い学生の上下移動に不便を来していたので、3号館に1階から4階のラウンジまでのエレベータを設置した。このエレベータ工事は文部科学省のバリアフリー補助金対象事業とした。

次に、1号館～3号館、図書館のエアコンは旧式のもので、機能も冷房のみで消費電力も多く、使用されている冷却ガスは現在は使用禁止のものでもあったため、全て省エネ式のエアコン（冷暖房機能）に変更した。これにより従来1号館から3号館、図書館ではどこか1室でも使用するためには冬季にはボイラーを炊いて全館暖める必要があったが、これからは使用する部屋のみエアコンで対応可能となり、省エネ化された。

また、1号館～3号館の蛍光灯は建設当時のままのもので、器具が古くまた蛍光灯では消費電力もかさむこともあり、全面的にLED器具に取り替えた。

1号館～3号館の外壁は以前から順次塗り替えを行い終わっているが、内壁は汚れたままになっていたため、全面的に塗り替え、教室や廊下が明るい雰囲気になった。

この他に、クラブ活動の活発化に伴い部室不足が続いていたが、今年度第1体育館部室棟の南に2階建て4部屋の部室を新築した。更に第1体育館の放送設備が10年以上経ち、不具合と音の反響で聞き

にくいこともあり、全面的に入れ替え、更にステージ上の講演者の顔が天井照明の光がうまく届かないため、フットライトを2基設置し、講演者の顔が聴衆によく見えるようにした。

本学の施設は常にオープンになっており、外部から誰でも自由に入れる状態にあるが、最近外部者による靴の盗難などが発生したり、夜間の施設前に無人となる場所があったりするため、防犯カメラを全館の要所に75台据え付けた。これらにより従来に比べ本学の防犯体制が一段と充実することができた。

このように25年度は学生のキャンパスにおける住環境の充実が進み、快適性が高められた。

(3) 来年度に向けて < A >

今後は省エネ対策として太陽光発電設備の設置や総合グラウンドや野球場の夜間照明設備の設置、第二体育館の建て替えなどが大きな施設拡充の事業となる。

執筆担当者 大学事務局長 小倉宗彦

3. 人権会議

大学における人権委員会として、これまでハラスメントに関わる問題・課題に多くの時間を割いてきた。定例会議を進める中では、委員全員が対人関係における言動の発信、受信間での捉え方の相違に気づかされ、人権問題に関する意識の再確認をすることとなった。社会における人々の多様な価値観、生き方、学び方が保障される現代、異質を受け留めそして向き合う力が求められている。最終学府としての学び舎において全学をあげて豊かに学びあう権利を保障する環境を構築したい。

(1) ハラスメント防止委員会

学内のハラスメント防止の根底には、人権教育がある。昨年度に続き25年度もハラスメント委員会は小委員会による防止啓発のため活動を主軸に進めた。

1) 年度当初の計画 < P >

- ①ハラスメント小委員会を月例で開催し、ハラスメント防止の初期対応に向けた情報共有の機会とする。
- ②全学教職員対象のハラスメント防止啓発研修を実施する。委員は学外研修に参加し、他大学の実情を抑え人権教育についての意識を高める。
- ③相談員に求められる「受け手」として必要なスキル研修を開催する。
- ④ハラスメント防止に向け、防止啓発の諸活動を計画実行する。

2) 現状の説明 < D >

- ①全11回の小委員会を開催した。委員会開催の都度、問題ごとに対応が異なるハラスメント相談は、相談員としてのスキルを磨く必要性とともに学内規程の整備を求める声が高い。ハラスメント防止委員会としてのスタンスや、相談員としての職務を明確にすることを目的として、「ハラスメント防止に関する規程」の整備・施行が必要として規程案の見直しに着手した。
- ②25年度は4件のハラスメント相談を受けた。昨年度の相談件数0件に対しては、教職員から「委員会が機能していないのでは」と疑問の声が上がっていた。相談窓口を広く開示することが問題の早期対応に重要である。パンフレットの配布やポスター告知に加え、教授会での委員会会議報告などでハラスメント防止への意識付けを図った。
- ③ハラスメント防止研修は、大阪大学研究科教授 牟田和恵氏を迎え「先生、その言動はハラスメントです！」をテーマに講演形式で開催した。聴講した教職員は50名、終了後に実施したアンケート結果をまとめ、教授会・職員会で全員に配布し、アンケート結果から見えた「参加者個々の研修の受け止め方の違い」を共有する機会とした。

- ④昨年に続き6月には、外部アドバイザー高野尾三穂弁護士を講師に迎え、相談員及び相談窓口となる職員等に向け相談時の対応について受け手のスキル研修を開催した。
- ⑤「ハラスメント防止啓発標語」を募集し、10月の大学祭「梓乃森祭」を発表の場として自由投票で優秀賞を決定した。『圧力は上から押すと横に出る』総合経営学部3年生（作）を優秀作品として、賞状と記念品を授与した。
- ⑥大学ホームページのハラスメント防止・相談案内ページについて全面的な見直しを行った。

3) 点検評価の結果 < C >

- ①「ハラスメントを受けている」との相談4件について、その受け手対応は3人の相談員が当たった。すべての相談について、初期対応（1～2回）の相談で区切りを迎えることができた。相談受け入れについては、相談者本人の希望で対応する相談員2名を指名することとなっている。したがって、今年度の4件の相談に対しては総数で8名の受け手が対応することとなる。しかし実質3人の委員で4件の相談対応にあたる結果となった。経験年数、年齢差、所属部署等の関係で相談員を選び指名するケースが多く、その結果特定の相談員に負担が偏る。この点は今後の課題であろう。まずは防止啓発に心掛け、問題が日常の人間関係内で解決され、相談件数が少なく抑えられる環境づくりを目指したい。
- ②現行の規程集には「セクシャルハラスメント防止に関する規則」が掲げられている。この規則は実際の問題発生時の対応と齟齬があり、委員（相談員）の職務が不明確であることから、「ハラスメント防止に関する規程」（案）を作成し、26年度4月施行を目標に、規程整備委員に上申をした。規程集の作成にあたったことで、委員全員がハラスメント相談員としてのスキルの必要性を感じ、その重責を理解することにつながった。
- ③教職員向けハラスメント防止啓発研修は今期で3回目となる。参加者のアンケートをまとめ、感想が見える化させたことは、講義内容の受け取り方の違いを知らせるうえで効果的であった。次年度以降、研修の形式を検討しさらに効果的な研修として継続する。②で記載した「ハラスメント防止に関する規程」案には、『研修への参加は大学構成員の責務である』ことを掲げた。意味ある、効果的な研修の持ち方を探っていきたい。
- ④相談員のためのスキル研修として、高野尾弁護士をお迎えし実施した。ロールプレイ形式で進めた研修内容は、その対応の難しさと相談員としての自己コントロールのむずかしさを学ぶ機会となった。今年度の相談の内1件は、相談者の申し出により外部アドバイザーである高野尾弁護士にも相談員として同席をいただいた。
- ⑤学生へのハラスメント防止啓発については、学生の受け取り方を確かめ実施することに配慮したい。「梓乃森祭」での企画、学内啓発ポスターの掲示など環境づくりで緩やかな効果を期待したい。何気なくとっている自分の言動に意識を向けさせる。目に触れ・感じて・気づかせるなどで防止啓発活動を展開していく。

4) 次年度への改善改革に向けた方策 < A >

- ①26年度はハラスメント防止部会の部会員半数が入れ変わる。定期部会の開催で、規程（案）について読み合わせ理解するとともに、相談対応についてその流れと相談対応のスキルを学びあい共有していく。
- ②相談受付の窓口となっている電話の所在を、健康安全センターから適当な部署に移動開設を要望する。
- ③大学規程集にある「ハラスメントの防止対策に係るガイドライン」の読み合わせをし、現状との整合性を確認する。
- ④大学教職員向け研修について、講師・内容を検討する。ハラスメント防止部会員の学外研修への参加を働きかける。

執筆担当 ハラスメント防止委員会委員長 犬飼己紀子

(2) 人権教育委員会

今期は活動がなかった。

(3) 個人情報保護会議

本会議は、学部、短期大学部の学部長、学科長と総務課長・管理課長からなり、議長はスポーツ健康学科長が務めた。

1) 年度当初の計画 < P >

大学及び短期大学部における個人情報の適正な取扱いを行うために、適宜会議を開催するとともに、検討事項が生じたときには問題解決に向けた適切な対応行う。

2) 実施・実行 < D >

会議を2回開催し、以下の課題について検討した。

①教員の個人情報の広報等での使用について

第1回会議では、委員から、学生の個人情報の扱いについてはこれまで周知されてきたが、教員の個人情報の取り扱いについてのおおまかな指針を示す必要性が指摘された。委員長が本学「個人情報保護規程」を踏まえて素案をつくり、メールで配信し検討することとした。第2回会議で検討した結果、上記職務遂行ないし職務遂行に準ずる場合に係る教職員の広報紙掲載のケースについては、「松本大学個人情報保護規程」6条1項4号に該当すると解されるところ、「松本大学個人情報保護に関する細則」10条10号では、教職員等の個人情報の提供の場合に「必ず掲載に際して本人の同意を得ること」と規定されている。しかし、同細則規定は、すべてのケースについて当てはまるものとは解されず、誤解を避けるため、規定の表記等を検討する（職務遂行ないし職務遂行に準ずる場合の除外明記：「必要かつ相当の理由」の存在する場合は同意不要の旨を明示等）こととした。今後、改正作業に入ることとなった。

②事務職員の個人情報保護の意識啓発について

委員から、教員でさえ知らない情報（病歴等）を事務職員が知っており、その情報が、学内の公共スペースにおいて個人名を含めた形で会話されるケースがある、との報告がなされ、このことについて検討した。職員会議において、事務職員の意識向上を図ることを求めることとした。

3) 点検・評価 < C >

個人情報の取り扱いについては、国家法の趣旨を踏まえて学内の諸規定を踏まえる必要がある。また、学生のみならず、教職員の個人情報の取り扱いについても、慎重に扱わなければならない。

4) 処置・改善 < A >

上記教員の個人情報の広報等での使用については、今後、改正作業を行っていく。

執筆担当 個人情報保護委員長 吉田勝光

4. 危機管理会議

危機管理会議の下には、防災委員会及び環境保全委員会が設置されている。しかし、危機管理に関する業務の範囲は、これにとどまることなく、学生生活上での危機管理なども存在する。そこで、本報告では、上記両委員会については、委員会ごとに自己点検・評価報告を行い、これらに含まれないもの（ただし、ハラスメント防止委員会が担当するものは除く）については、「3 その他」として、別個に自己点検・評価報告を行うこととした。以上は昨年度までと変わらない。

(1) 防災委員会

本委員会は、室谷心を委員長に、呉泰雄、川島均、木下貴博、4名の教員と職員5名（防火監理者の資格を有する）で構成されている。

1) 活動方針 < P >

本年度事業計画では、昨年に引き続き「大規模災害に対応可能な防災体制の構築」を最終目標とし、具体的な活動として下記の項目を挙げた。

避難訓練の実施日程および内容の検討

- ①備蓄品整備の検討（総務課と協議の上進める）
- ②組織体制の検討
- ③地域連携の検討（学生課と協議の上地域連携の可能性を検討する）
- ④災害対策マニュアルの検討と必要に応じた改定（関連部署と連携の上で進める）
- ⑤他大学や各省庁の動向の調査

2) 活動内容 < D >

- ①6月4日(火)（2限から昼休み）に本学防災訓練を実施した。5号館を対象とし、総合経営学部1年生約200名を524教室から多目的グラウンドへ避難させた。中央階段及びエレベーターを封鎖、非常階段をつかった経路を利用した。授業担当教員の理解と協力の下、多目的グラウンドに集合の後、安否確認の点呼を取った。また学生による消火器取扱いの訓練もおこなった。
- ②秋の新村地区総合防災訓練に合わせて、松本市からの委託品も含めた備品・備蓄品の現状確認を行った。
- ③特に活動していない。
- ④11月6日(水)に行われた福祉施設「山望苑」避難訓練に参加協力した。総合経営学部矢崎久准教授及び福祉を学ぶ学生たちにボランティアとして協力してもらい、担架で2階から運び降ろされる役などを演じ避難訓練に参加した。11月24日(日)松本大学で行われた「新村地区総合防災訓練」に参加協力した。本学からは総勢37名（学生20、教職員17）が参加し、第一体育館での避難所開設訓練や給食訓練を行った。
- ⑤昨年度携帯用の災害対策マニュアルを作成し、2013年度ガイダンスで学生課から全学生に配布した。台風や大雨などの天変地異の際に、休校の決定を行う系統的な判断システムを整備するため、他大学の例を調べた。

3) 結果と評価 < C・A >

- ①本学防災訓練は毎年行っている訓練であるが、今年は特に5号館教室棟を対象と、総合経営学部の協力のもと、学部1年生200人全員を避難させた。5号館大教室から多目的グラウンドまでの大人数での避難は初めての試みであり、階段での渋滞など、安全確保のための多くの発見があった。これらの知見を今後の災害対策マニュアルの改訂の際に反映させていく必要がある。今回実施した時間帯は、総合経営学部1年生基礎ゼミ合同授業の時間で警察による防犯及び薬物犯罪防止指導の時間を分けてもらって防災訓練を行った。同様の企画であればどの学部でも実現可能であり、今後大人数での避難訓練を学部持ち回りで実施していくことが考えられる。一方で、警察の持ち時間を分けてもらった企画であったため、時間が十分ではなく、消火器の訓練や消火栓の利用、防災関連教育などの時間は取れなかった。
- ②備品・備蓄品のリストアップは昨年度からの懸案であったが、下掲④で新村地区総合防災訓練の際に本学へ避難予定の地域住民からの要望もあり、今回改めて系統的な調査を行った。これにより備蓄品の賞味（利用）期限の確認、備品の存在確認等を行うことができた。今後、備蓄規模の妥当性の検討

も含めて、補充、入れ替えを行い適切な備蓄の維持を行っていく必要がある。また、学生を対象とした備蓄を避難住民に対して開放するルールも改めて整備する必要があるであろう。

- ③本学災害対策マニュアルの精読・改訂と合わせて、防災体制の整備も行う必要がある、本年度は現存の地震対応マニュアルを委員に再配布するだけで終わり、それ以上の活動はできなかった。今後、マニュアルやシステムを実情に合わせて改良していく必要がある。次年度の優先課題としたい。
- ④近隣施設や住民との共同を意識した、地区防災への取り組みは、本学の地域貢献の一つとして強く望まれることである。福祉施設の山望苑は学園グラウンドに隣接した施設であり、学園の総合グラウンドが施設の避難場所となっており、また、本学卒業生が職員として就職している本学隣人である。今回（11月6日（水））は総合経営学部で福祉を学ぶ学生がボランティアとして参加し、担架で運ばれる役や消火器利用の訓練などを行った。また、学園総合グラウンドが山望苑の避難場所となっていることから、避難訓練時の利用や、階段の整備、グラウンド入口の鍵の扱いについての検討がなされた。福祉施設と大学との共同での防災体制として理想的な形を探りながら、今後も訓練に協力していく必要があるであろう。

松本大学は第一体育館と5号館で収容人員1030人の避難所として松本市から指定を受けている。今回新村地区の総合防災訓練（11月24日（日））は、地区住民が松本大学第一体育館での避難所開設訓練を行ったものである。本学としては、今回の防災訓練の計画初期段階から防災委員長が新村地区の防災アドバイザーとして会議に参加し地区の実行委員との意思疎通に努めた。当日は総勢37名（学生20、教職員17）が本学からボランティアとして参加した。また、本学防災関連備品の試験利用や、住民に対する大学内防災関連施設の見学ツアーもおこなった。松本市指定避難所という意味では大学は大家（土地・建物提供者）であるが、学期中に地震が起これば2000人の学生がキャンパス内に存在し、1000人の避難住民と共存していく必要がある。地域と大学の適切な協力関係を見出していくためにも、今回のような地道な訓練への積極的な参加協力を続けていくことが重要である。今後“合同”の防災訓練実施の可能性を探る必要がある。

次年度（9月1日：全国防災の日）には、本学を会場として松本市の防災訓練が、消防関係、自衛隊等を取り込む形で実施される予定である。これについても学生をどのように関与させ、防災を学ぶ機会とするかの検討が必要である。

携帯用の災害対策マニュアルに関しては、全学生への配布という“第一段階”は終わったが、学生は携帯しているようには見えない。今後、このマニュアルを携帯するような指導や、マニュアルに記載されている災害ダイヤル利用の練習など、このマニュアルを実際に利用していくような指導の工夫が切望される。

- ⑤台風や大雨などの悪天候時に大学を休校にする判断のための指揮・決定プロセスを明確にすることを目指して、他大学での例などの資料を集め検討を行った。本学での具体的なプロセスの確定は次年度の課題である。

執筆担当者 防災対策委員長 室谷 心

（2）環境保全委員会

本委員会は、昨年につづき中澤を委員長に教員2名（杉山、篠原）と管理課長と学生課長で構成されている。

1) 当初計画 < P >

昨年度に引き続き、省エネと学生の環境活動支援の2分野にテーマを集中し、年2回ニュースレターを定期的に発行、ホームページの解説等による情報提供を通じて、学内にて環境データおよび環境活動の「見える化」を行うこととした。同時にエネルギー消費状況や環境保全システム等について、学内調査を引き続き行う計画を立てた。

2) 現状の説明 < D >

- ①ニュースレターを6月に予定したが発行できず、12月には予定通り発行し、省エネ及び環境配慮にかかる情報を、全学生、および教職員に提供した。
- ②エネルギー需要の高い夏季・冬季においては、教職員・学生と連携し、エアコンの適正な設定温度を目安として各リモコンに貼付し、利用状況の改善に努めた。
- ③学生による環境活動団体「エコナビ」を支援すると同時に、共同して活動を行った。また、学生組織である学友会等との連携で、学生活動を活発にできないか検討している。
- ④蓄積したデータを環境情報として学内の教職員が利用するLANに開示した。大学の環境に関する設備や使用方法について、折に触れて解説、提案した。
- ⑤中部電力等、外部機関からのエネルギー利用のアセスメントを受けた。

3) 点検・評価の結果 < C >

- ①学内のエネルギー構造、消費データを収集し、講義等で学生に紹介できるデータ量の蓄積となり、2学部で講義に取り入れた。今後も収集・検証を続ける必要がある。
- ②学生生活の支援や体制づくりは概ね予定通りにできた。
- ③ニュースレターの発行は、前期については予定通りにできなかった。委員の繁忙期と省エネ啓発時期が重なるため、ニュースレター作業の分業化が課題である。
- ④環境活動の「見える化」については、エネルギー消費ピーク時に必要と思われる対策を最低限は打ち出すことができた。ほか、廃棄物対策など学生からの声もあるため、エネルギー消費だけにとどまらない活動へ展開していく必要がある。

4) 改善・改革に向けた方策 < A >

エネルギー利用についてより詳細のデータが収集でき、効果的な省エネの根拠が徐々に明確になりつつある。データの集計は年度をまたぐことが多く、計測結果の効果的な公表のタイミングが難しい。学生に対して環境関連の講義を行うことは効果的であったため、学部の都合を鑑みながら徐々に広めたい。学生の活動支援については学友会と連携するなど課題を共有しながら協働したい。今後は災害時の対応も含む、自然エネルギーやエネルギー利用、公共施設としての地域の役割を踏まえ、視点を広げた活動を目指したい。

新たな対策として、太陽光発電の設備を検討する。4、5、7号館のに備え付ける予定である。

なお、サッカー場について、松商学園高校から、夜間照明の設備について強い要望がある。硬式野球部からは、野球場への設備についても希望がある。近隣の農業従事者の方々の意向（収穫量の減、品質悪化等）を無視することはできないが、検討を進めていく。

執筆担当者 環境保全委員長 中澤 朋代

(3) その他（学生生活における危機管理）

ここでは、学生生活にかかる危機管理が中心となる。

1) 年度当初の計画 < P >

学生生活を送る上で、学生らに対して危険が生じるおそれの状況を把握することとした。

2) 現状の説明 < D >

一昨年度実施した、学生の身に起こる可能性のある危険を把握するための「『ヒヤリ』『ハッと』アンケート」を踏まえて、更に危険の防止に努めた。今年度は、かつてない大雪に見舞われたことから、校内での落雪、転倒事故等の防止に尽力した。

校地内における盗難、不法侵入等、学生等の安全・安心を確保するために防犯カメラの設置について検討を行った。設置についての全学的合意を受け、本会議での議論を踏まえ、業者ら立会いによる設置場所の可否の吟味等、慎重に検討を行い、最低限必要な75箇所の設置となった。

3) 点検・評価の結果 < C >

特に事故と言える危険は発生しなかった。

懸案であった防犯カメラの設置について、全学的合意のもと、実施できることとなったことは、校地内の防犯上、大きな前進といえる。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

例年に同じく、学生生活上の危険の実態把握に努め、危険を除去できるように対処法を検討する。新たな事故発生の危険の正確な把握に努める。

防犯カメラの設置については、今後の運用状況（特に設置場所の適・不適、運用規程の可否等）を注視する必要がある。また、防犯カメラ運用規程制定については、次年度4月からの施行を目指すべく、尽力することとなった。

学校敷地外での学生の事故を防止する観点からも、一斉休校に関する取り扱いを他の関係部署と連携しつつ、適正な処置をとりたい。

さらに大学でもその策定が求められている学校安全計画の策定を準備することとする。

執筆担当者 危機管理会議 議長 吉田勝光

第5部 管理部門

(1) 事務部門充実の課題 < P >

1) 情報管理について

一般的に誰もが情報を簡単に入手できるようにしておきたいと思うであろうが、個人情報の保護の視点も十分に考慮する必要がある。実際にデータを必要とし、利用して大学を良くできる人はそれほど多くはない。本当に必要な人だけが閲覧できる

2) 人事を含む組織強化について

[人事考課導入の研究]

高等教育を取り巻く厳しい環境の中で、大学が生き残っていくには教職員が共通の目標に向い、如何に力を発揮するかに掛かっている。

そのためには教職員の個々の力が十分に発揮されているかの客観的評価が必要となるため教職員の人事考課導入の研究を進めていく。

[事務局組織の見直し]

事務局組織が多極化してきているが、組織の見直しや整理をはかり、事務職員が情報共有をし全体の業務を把握できる体制を目指す。

3) 大学広報について

24年度周年事業として長野市に於いて開催した公開講座は本学の教育研究内容を一般の方々に周知してもらった効果があった。特に中信以外の地域に於いては本学の存在感が薄いため、その効果は大きかった。そこで、これを機会に更に他の地域でも公開講座を開催し、本学の存在感を高める。

4) 財務関係について

志願者数は横ばい状態が続いているが、少子化や県立大学の設置、大手専門学校の松本進出など、本学を取り巻く環境が少子化に加え更に厳しくなることや補助金の圧縮による収入減が見込まれ、これに対する支出の抑制を進め、中期計画に沿った予算のスリム化を始める。人件費や経費の抑制、老朽施設の改修なども中期的展望に沿って具体的な方策を進める。更に施設拡充や施設・設備の維持のための引当金、退職引当金の増強を図り、経営基盤の強化を図っていく。

5) 施設設備充実

平成26年度より消費税の値上がりを見越し、中期計画で予定している大型工事関係を前倒して実施する。

具体的には、以下のとおりである。

- ・ 1号館～3号館の蛍光灯のLED化
- ・ 1号館～図書館のエアコンの入れ替え
- ・ 2号館へのエレベータ設置
- ・ 1号館～3号館の内壁の塗り替え

更に、電気料の値上げなどを見越し、太陽光発電などの計画を進める。

(2) 実施・検証・今後の課題 < D・C・A >

1) 新県立大学問題

平成25年度は県立大学問題が大きく持ち上がり、この対応に時間を取られる結果となった。殊に「新県立大学基本構想の見直しを求める会」が署名活動を行い、この活動への支援業務が大きく時間を割く結果となった。しかし、これにより県民から11万8千人にもなる署名が集まり、県知事と県議会議長に陳情と請願を行い、県民の世論を大きく動かした。また、これらの活動により事務職員の一体感も高まったものと考えられる。

2) 競争的補助金の獲得

今年度はCOC補助金をはじめとした文部科学省の競争的補助金への申請が全て採択されたことが光る。これらの申請には学長より担当者の割り振りがあり、教員と事務職員とが連携して、構想から書類作成、自治体や業者などとの対外的交渉を進めた。

また、日本私立学校振興・共済事業団の「未来経営戦略推進経費」補助金では事務職員の能力向上のための計画が採択され、これを基に今後SD研修や資格取得への対応が大きく前進するものと予想される。更に平成22年度採択された短期大学部における「未来経営戦略推進経費」補助金も3年経った中間面接審査があり、高い評価を得て継続採択となった。これら申請業務に携わることにより、事務職員の意識が高まる効果を生んでいる。

3) 人事異動

25年度の専任事務職員の人事は新規採用が1名、学園内他校からの異動が1名であり、転出はなかった。大学内では課長が4名、事務職員が2名部署異動を行い新たな体制を敷いたが、特に課長職の大幅な異動は初めてであり、新しい部署でそれぞれが新しい風を吹き込んでくれることが期待される。

4) SD活動

昨今、事務職員の能力が大学運営を大きく左右するという認識がひろまり、それに関する研究会や講演などが数多く催されている。

本学については従来から3分間スピーチ、職員会議、SD研修、資格取得、学外研修など進めてきたが、25年度は資格取得の点では成果がみられなかった。しかし、「未来経営戦略推進経費」の獲得によってSD活動がシステムティックに進められる見通しがつき、3分間スピーチに於いても自由課題だったものを今年度は「学生」「地域」の2テーマで統一したスピーチが出来、記録された。

5) 規程の見直し、整備

今年度も規程の見直しや新規の規程整備が行われた。従前からの課題であった電子化も学内のウェブ上に全て既存の規程が掲載され、学内関係者がいつでも閲覧できる体制をとった。しかし、規程間の整合性などの調整はまだ進んでおらず今後の課題となっている。

6) 部署間の情報共有・IRの推進

学内の情報については、職員会議、朝礼、学生センター会議などを通じて共有を図っており、比較的共有化は進んだ。しかし、必要性の有無など情報の整理や系統化など組織的取り組みが遅れており、IR部門に脆弱性があると言える。

7) 財務関係

25年度の財務関係の特徴は、収入面では前述のとおり、競争的補助金獲得が大きく収入増に影響したこと、学生数も定員を上回り、順調に学費収入が確保できたこと。支出面では競争的補助金に掛かる経費、設備の支出増と、消費税増前の大型工事の前倒し実施による支出増である。

また、施設充実のための引当金も例年どおり、5千万円を当てた。

これらを含め大学、短大を合わせた資金収支面では1億円以上の収入増が達成でき、消費収支面においても収入超過となった。

執筆担当者 大学事務局長 小倉宗彦

I. 総務課

まずは大前提として、何よりも日常の基本業務を適正に遂行することに努める必要がある。組織として総務課・管理課に分掌された業務の意味や、その役割を常に念頭に置くことで、個々の仕事の意義を考えなければならない。その意味で、総務課・管理課の事務処理の基本事項を再点検し、大学の全体的な動き、各委員会・会議の動き、教員の諸活動の実際について理解したうえで、各業務の意味を思料し段取りを工夫することを常とし、一人ひとりが配慮の行き届いた実務の遂行に心がけることが肝要である。

さらに、加速度的に進む我が国の高等教育政策、刻々と変化する本学を取り巻く環境等に深い関心を持ち、現代の大学運営に必要な知識を獲得するための努力をしなければならない。また、高等教育に関する法規・省令や各種答申等を熟読し、本学の現状や将来計画に置き換えて、自分のこととして引き寄せて考えることが大切である。

1. 総務課（総務・会計）

（1）基本計画 < P >

- 1) サーバー上のデータおよび紙ベースの保存書類の整理・整頓
 - ①サーバー上のデータの整理・整頓を進める。
 - ②各種保存書類、各種台帳等の再整理をする。
- 2) 定例会議・各種委員会への対応
 - ①各教授会開催に向けた正確な資料準備と適正な管理に努める。
 - ②各種委員会における事務担当者の役割の再認識と的確な対応に努める。
- 3) 適正な会計処理の遂行と予算管理
 - ①日常会計の証憑書類の適正な整備に努める。
 - ②物品購入納品時の第三者による検品の徹底を進める。
 - ③適正な予算執行に努め、無駄を省くことに努める。
 - ④ランニングコストの節約に努める。
- 4) 規程の整備
 - ①現行規程集の電子化（学内 web システムに掲示）を進める。
 - ②新旧規程の整理を進める。
 - ③改廃規程の管理をサーバー上で一元化する。
 - ④規程整備委員会の方針を受け、未整備の規程整備に向けた資料を整理する。
- 5) 競争的補助金の獲得
 - ①文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団の各種補助金に係る情報収集に努める。
 - ②上記の競争的補助金の獲得に向けて、教員と職員の協力体制により申請業務を進めていく。
- 6) 教育研究施設設備および環境の整備
 - ①老朽化が目立つ施設設備の補修、修繕等に、施設管理センター運営委員会と連携して取組む。
 - ②学内のバリアフリー化を段階的に進める。
 - ③外構の整備および美化に取組む。
- 7) 情報公表
 - ①広報委員会と連携した公式ホームページでの情報公表の充実を図る。
 - ②公表している情報の見せ方の工夫を広報担当者と連携し進める。
 - ③文科省が進める「大学ポートレート構想」に参加していく。
- 8) 各種調査・アンケートへの対応
 - ①学校法人としての基本データを的確に整備する。
 - ②公的調査に対する適正な対応に努める。
 - ③民間機関の調査・アンケートに適正に対応する。
 - ④回答した調査・アンケートの整理・整頓に努める
- 9) 後援会の運営
 - ①役員会・総会の円滑な運営を進める。
 - ②予算に基づく、効果的な学生活動の支援を進める。

（2）実際の取組み < D >

1) サーバー上のデータおよび紙ベースの保存書類の整理・整頓

- ①サーバー上に分散している各種データの保管様式の定型化に着手した。課員が共有することを前提としたフォルダ名称の設定、関連フォルダの統合、個人ファイルとの区別等を念頭に置き整理・整頓を進めた。
- ②会議関係、人事関係の内部資料の点検を進めた。未整備のものについて、随時その整理を進めることとした。各種台帳等を点検し、不備な点の追補を進めた。

2) 定例会議・各種委員会への対応

- ①各教授会開催に向けた事前配布資料の準備の定型化をさらに進めた。総務課共有サーバー上で共有し、複数の課員が対応できるようにし、チェック機能を働かせ正確な資料準備を進めることができるような体制の構築を進めた。
- ②各種委員会における事務担当者の役割のうち、的確な資料と正確な記録は大きなウェイトを占めるため、各種資料および書類の点検に努めた。総務課として機械的に書類を整えるだけでなく、担当者は各委員長との連絡、報告、相談を励行するよう努めた。その過程の中で、新たな気づきも生まれ、業務の質も高まることを期待した。

3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ①日常会計の証憑書類について、特に物品購入の会計書類として、見積書・納品書・請求書の三点セットを整えることを全員で推進した。取引業務の公正性を担保するために、総務課員による検品の徹底を進めた。
- ②工事等については、軽微なものも含め業者に対して工事完了報告書等の確実な提出を求め、工事の万が一の瑕疵に対応できる体制とした。
- ③予算の執行に際しては、可能な限り安価な支出とするために、業者との交渉に努めた。
- ④光熱水費をはじめランニングコストは上昇傾向にある。電燈の消灯、空調機の設定温度の調節等、環境保全委員会と連動した取組みも行った。

4) 規程の整備

- ①現行規程集の電子化を進め、第一段階を終え、学内 Web システム (Ridoc) への掲示を完了した。
- ②総務共有サーバー上で新旧規程の整理を終え、最新の規程集をデータで整備し、正確に管理できる形を整えた。
- ③規程の改廃においては、年度ごとに廃止規程および改正規程を管理する必要があるため、経緯が分かるようにサーバー上のフォルダを整備し一元化した。
- ④規程整備委員会の方針を受け、未整備の規程整備に向けた資料を取りそろえた。改正された規程、新たに制定された規程を Web 上で更新、公開した。

5) 競争的補助金の獲得

- ①文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団 (私学事業団) の各種補助金に係る情報を収集し学内に周知した。文科省「地 (知) の拠点整備事業」、私学事業団「私立大学等改革総合支援事業」 (①私立大学経常費補助金 ②私立大学等教育研究活性化設備整備事業 ③私立大学等教育研究設備整備費補助) 等である。
- ②上記の競争的補助金の獲得に向けて、教員と職員の協力体制により申請業務を進め、最終的に次の補助金を獲得することができた。

- ・「地 (知) の拠点整備事業 (COC)」 : 64,831 千円
- ・私立大学等教育研究活性化設備整備事業 : 19,826 千円 (大学タイプ 1)
8,659 千円 (大学タイプ 2)
9,187 千円 (短大タイプ 1)
4,513 千円 (短大タイプ 2)
- ・私立大学等教育研究設備整備費補助 : 19,734 千円 (エレベーター設置)

・未来経営戦略推進経費 : 6,000 千円 (大学職員育成)
合計 : 132,750 千円

6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ①1・2・3号館の空調機入れ替え工事、塗装塗り替え工事、2号館のブラインド取り替え工事、5号館の床貼り替え工事を実施した。
- ②学内バリアフリー化工事の一環として、3号館にエレベーターを設置した。
- ③6号館前のインターロッキングの補修工事、5号館東側1階通路雨返し部分のカラー舗装工事を実施した。

7) 情報公表

- ①学校教育法施行規則に基づく、大学の教育情報の公表義務のある9項目に加え、私学事業団が努力義務としているすべての項目を公表した。これは経常費補助金の増額に反映されるものである。
- ②広報委員会および大学広報担当者と連携し、公表している情報の見せ方の工夫(図表による表示)に着手した。
- ③平成26年度から文科省が本格的に進める予定の「大学ポートレート構想」への参加の意思表示をし、今後、積極的に情報公表を推進する姿勢を示した。

8) 各種調査・アンケートへの対応

- ①文科省、私学事業団の公的調査にスムーズに対応できるよう、総務課で取扱う基礎データの効率的な整理に着手した。
- ②公的調査および民間機関の調査・アンケート調査の確実な保存に努めた。

9) 後援会

- ①年度始め、年度末の役員会・総会の円滑な運営に努めた。後援会による学生活動に対する支援は本学にとって大きな役割を果たしている。
- ②後援会の趣旨に則し、学生活動の振興・教育活動の振興のための支援を受けてきた。

(3) 取組みに対する点検 < C >

1) サーバー上のデータおよび紙ベースの保存書類の整理・整頓

- ①サーバー上に分散している各種データの保存形式を定型化することで、定型的な書類およびデータの共有を進めることができたが、担当者には分からない部分をさらに減らしていく必要がある。
- ②書庫の整理・整頓、鍵の整理整頓が不十分である。各種台帳等を点検し、不備な点の追補は完了した。

2) 定例会議・各種委員会への対応

- ①各教授会開催に向けた事前配布資料の準備の定型化し、正確な資料準備を進めることができた。
- ②各委員長への連絡、事前相談について、さらに意識して励行する必要がある。ともすると、個人の思い込みによる単なる作業に陥りがちな面があるため、事柄に応じた慎重な対応が望まれる。

3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ①見積書・納品書・請求書の三点セットを整えることについては、かなり徹底することができ、不備は極めて減少した。
- ②総務課員挙げての実質的な検品の体制をある程度確立することができた。
- ③軽微な工事に関する工事完了報告書も確実に保存する体制を整えた。
- ④コスト意識をもって予算の執行にあたることを課内で徹底した。特に消耗品の節約に努めたが、さらに無駄を省く努力を継続する。
- ⑤光熱水費のうち、特に電気料金について節約に努める必要がある。月額約300万円を支出している。

4) 規程の整備

- ①規程集の電子化を終え、学内Webシステム(Ridoc)への掲示の流れを構築した。
- ②規程のデータ管理について、サーバー上のフォルダを整備し一元化した。

- ③今後は各規程間の整合性の点検が必要である。
- ④規程、内規、規則・基準等の区分を再確認し、それぞれの取扱いについて周知し明確にしていく必要がある。

5) 競争的補助金の獲得

- ①文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団の各種補助金額は過去最高額になった。
私学事業団「私立大学等改革総合支援事業」における補助金交付基準は、大学改革の取組状況に応じて傾斜配分する特別補助金の割合が高くなる傾向にあり、実質的には競争的補助金に近い形に変化してきている。平成25年度の補助金額を押し上げたのは、各学部学科、各委員会を中心とした大学改革のはっきりした足跡があつてこそその結果である。
- ②国の補助金制度の最新情報を正確に把握する必要がある。申請できる環境にありながら、情報不足のため見過ごしているものがないか、常に継続的に点検する必要がある。

6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ①平成25年度においては、予算に基づく各種施設設備工事を計画的に遂行してきた。施工管理の面においても、日常の教育活動に対する影響を最小限に抑えつつ順調に進めることができた。
- ②老朽化した短期大学の施設設備の継続的なメンテナンスが必要である。また、大学開学後10年を経過したため、4号館、5号館等のこまめな点検と修繕にも意を配し、建物および施設設備の保全に努める時期を迎えている。

7) 情報公表

- ①公式ホームページがリニューアルを受け、COC関連の情報発信のために新たな窓口を設定したことは、本学の理念に基づく教育実践をさらに広く周知するものとなった。
- ②公式ホームページの情報公表におけるデータの見せ方をさらに分かりやすくする必要がある。
- ③平成26年度からスタートする「大学ポートレート構想」を念頭に置いた取組みが大事である。
- ④公式ホームページ上に、新たに研究倫理、動物実験、遺伝子組換え実験に関する情報を公開した。関連法令に準拠した取組みである。

8) 各種調査・アンケートへの対応

- ①公的調査および民間機関の調査・アンケートに対する基礎データは整理できているが、時間のロスをなくし、効率よく対応できるようにするために、データ整理の条件設定を明確にする必要がある。
- ②自己点検・評価室で統括、編集する自己点検・評価報告書に付随する「エビデンス集」で殆どのものをカバーできる。各種調査・アンケートは当該年度の5月1日現在に基準を置くため、学校基本調査、学校基礎調査等と並行して進めることが理想である。

9) 後援会

- ①予算に基づく支出の結果、施設拡充準備金として特別会計への繰り入れを進めることができた。
- ②資格取得支援センターと連携し、資格取得および検定試験合格に対する支援の在り方について、継続的に検討を進める必要がある。

(4) 今後の取組みに向けて < A >

- 1) 電子データおよび紙ベースの保存書類の整理・整頓（仕事の効率を上げるために）
 - ①サーバー上のデータの整理および共通化をさらに進めると共に、不必要なデータの削除を進める。
 - ②書庫・書棚の整理・整頓、鍵類の分かりやすい管理方法を進める。
- 2) 定例会議・各種委員会への対応
 - ①各教授会開催に向けた事前配布資料の準備の定型化をさらに進め、正確な資料準備に努める。
 - ②各委員長への担当職員からのきめ細かな連絡、相談に心がける。
 - ③教授会資料の削減について、各委員会の意向を尊重しながら検討する。
- 3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ①コスト意識をもって予算の執行にあたる。
- ②消耗品の節約に継続的努める。
- ③環境保全部会と連携しながら、光熱水費の節約に努める。
- 4) 規程の整備
 - ①各規程間の整合性の点検を進める。
 - ②規程、内規、規則・基準等の取扱いについて明確化する。
- 5) 競争的補助金の獲得
 - ①補助金に関する広範で正確な情報収集に努める。
 - ②学内分掌を念頭に置き、教員と職員の連携を拡大し、新たな補助金申請を模索する。
- 6) 教育研究施設設備および環境の整備
 - ①エコ・キャンパス化の一環として太陽光発電設備工事（平成 26 年度予算化・文科省補助金申請）を円滑に進める。
 - ②昨年から担当委員会と事務局で検討を重ねてきた動物飼育室の改修工事（平成 26 年度予算化・文科省補助金申請）を円滑に進める。
 - ③2号館階段教室（231番）の電動スクリーンの突然の落下があった。事故に繋がらなかったことは幸いであった。施工時の安易な取付方法に原因があったことが判明し、急遽、補修工事を行った。全館のスクリーン、プロジェクターの取付状況の総点検の結果、落下の危険性があるものが4台あり、これらについても、至急補修工事を実施する。
 - ④平成 26 年度の夏季休業中に全建物の法定点検（3年に1回）を実施する。
- 7) 情報公表
 - ①公式ホームページの情報公表におけるデータの見せ方をさらに工夫する。
 - ②私学事業団が学校基礎調査と関連づけて進める「大学ポートレート」について、広報委員会、広報担当者と連携して取り組む。
- 8) 各種調査・アンケートへの対応
 - ①各データについて、明確な条件設定ごとに整理する。
 - ②認証評価（第三者評価）の受審に向けて、審査項目の具体的内容とリンクする各種データの数値を確認しながら、整合性のとれたデータおよび資料の整備を進める。
- 9) 後援会
 - ①後援会の予算規模に照らし、学生生活活動支援費の支出基準の見直しを継続的に進める。
 - ②資格取得および検定試験に対する奨励金の在り方について、資格取得支援センターの検討も踏まえつつ、全体の支出バランス等を勘案し、大学として後援会に提案していく。

ここに掲げた項目以外にも、総務課の分掌範囲はさらに細部に亘り、検討を要する事項も多々ある。今後、検討を進めなければならない本来のエクステンション機能の在り方（現行組織の妥当性）もそのひとつである。総務課業務の一環である外部への会場貸し出し収入が本学における資産運用収入の大部分を占め、相応の収益を上げている現状も大切に考えたい。会場貸出の管理は別として、エクステンションは機能的には、公開講座（現在は一部COO事業で取り扱っている。）や検定試験（学内外者対象）、資格取得対策講座の運営等を推進するものとして、別に運営することも選択肢としてあるように思える。

執筆担当者 総務課長 柴田 幸一

2. 管理課

大学現場における研究や教育成果についての達成度や研究成果を生み出す際の関連法遵守とその情報公開、知的財産権の管理などに文科省のみならずステークホルダーからの関心が高まっている。学生の授業料を原資にまかなわれる研究費や公的資金や補助金の有効かつ適正な運用をはかる事が松本大学に

一層求められている。こうした取組を教職協働により松本大学らしさを内外にアピールし、これまで以上の教育研究水準の質向上に貢献するべく管理課としての事務局機構を検証して高めていく必要がある。

また嘱託、派遣、専任という雇用形態の特性をふまえつつ松本大学内の事務局力量を向上させるためのFD・SD、作業や職場環境の改善、メンタルヘルスへの配慮など外部専門機関と連携をはかる事も重要になっている。

具体的に担当している委員会は、教育支援会議の下にある高大連携推進委員会、教育企画推進委員会、研究支援会議の下にある研究推進委員会、研究誌編集委員会、自己点検評価会議の下にあるFD・SD委員会、人権会議の下にあるハラスメント防止委員会、危機管理会議の下にある環境保全委員会である。

(1) 平成 25 年度の課題 < P >

- 1) 「学内競争的研究費」「個人研究費」の計画執行をはかるとともに2回目となる「教員研究発表会」の充実を事務局として担う。
- 2) 私学事業団特別補助金の獲得ならびに外部資金の採択増をはかるとともに科学研究費獲得を目指す研究者の研究や教育分野との原則一致に配慮してよりスムーズな成果があがるような支援に取り組む。
6次産業化補助金（農水省、安曇野市商工会）、域学連携事業（生坂村、総務省）など文部科学省所管ではない補助金や財団法人などの外部資金についても現状で該当するプログラムがないか、部署間での情報共有を図り、研究教育や地域貢献の成果をあげるためのサポートを行う。
- 3) 事務局職員の能力開発を推進して、教職協働の実行、事務局内の連携を強化する。
- 4) コンプライアンス重視の労務管理及び職場環境の改善
- 5) その他の取組

(2) 平成 25 年度の実践とまとめ < D・C >

- 1) 「学内競争的研究費」執行基準改訂にあたり、申請資格（外部資金への申請者）や査定基準が本格適用された。事務局では、科学研究費申請を基軸にしながら、各種財団や法人による公募情報を一斉メールにて周知をはかった。
第2回目となる「教育研究発表会」は3月11日、12日に実施され34本の研究発表が行われた。事務局では、抄録集の編集と発表時間管理などの運営を担当した。
- 2) 私学事業団特別補助は平成25年度実績が101,651千円（大学51,931千円、短期大学部49,720千円）と1億円を超えた。この増額分は新規項目の私立大学改革総合支援事業の採択分（タイプ1「教育の質的転換」、タイプ2「地域特色型教育」）、未来経営戦略経費「持続的な大学改革を支える職員育成に係る取組」の採択分が寄与している。
生坂村が受託した総務省域学連携事業を本学が全面的にバックアップした。担当教員5名が担当する事業分野は農業体験、野外での遊び、インターバルストレッチ、体力調査、通学合宿、郷土の先達顕彰の紙芝居作成と多岐にわたっており、活動が順調に進むよう調整事務を行った。
- 3) 事務局職員の能力開発を推進して、教職協働の実行、事務局内の連携の強化を図る。
専任職員については、FD・SD委員会、ハラスメント防止委員会主催の学内研修への参加を義務付けた結果、のべ101名の事務職員が下記の学内研修を受講した。

| 区分 | テーマ | 参加 | 日時 | 講師 |
|-------|-----------|----|-------|----------------|
| FD・SD | メンタルヘルス | 25 | 8月30日 | 小田切なおみ 脇本澄子 |
| FD・SD | 情報公開と大学改革 | 23 | 9月26日 | 山下研一（聖学院大） |

| | | | | |
|--------|----------------------|----|--------|-------------|
| FD・SD | 学校教育と著作権 | 17 | 10月25日 | 尾崎 史郎（放送大学） |
| ハラスメント | 講演会 | 20 | 2月13日 | 牟田和恵（大阪大） |
| ハラスメント | 相談員研修 | 8 | 6月26日 | 高野尾三穂（弁護士） |
| SD | 多様化する職場におけるコミュニケーション | 8 | 3月13日 | 鈴木有香（麗澤大） |

4) コンプライアンス重視の労務管理と職場環境改善

専任職員については時間外労働の削減、休日出勤に伴う振替日取得を年度初めに制度の説明を文書で行った。

嘱託職員対象に5月7日に労働時間の管理と時間外労働の取扱いについて事務局長が全員を対象に説明会を実施した。

ストレスや長時間のパソコン作業などから慢性疲労やストレス性の疾病を誘発するリスクがあるためその対策が求められる。労災や通勤途中の事故に関しては25年度の届出と発生はなかったものの通勤やアウトキャンパス時の接触事故は報告されており、事故防止の注意喚起が求められる。

5) その他の取組

①古本募金

東日本大震災復興支援のための活動資金を目的にして平成25年度より開始した。

古本を買取会社へ送付し、買取金額を松本大学への寄付金とする仕組みで全国14大学が参加（平成25年6月末時点）、長野県では県図書館協会、1企業と松本大学が活動中。

古本回収BOX設置場所は学内3か所（4号館1階事務局、図書館、考房ゆめ）でホームページから依頼書をダウンロードして直接古本を着払いで送本も可能である。

業務提携契約 株式会社バリューブックス

平成25年度実績 1,353冊 寄付金額 81,075円

バリューブックス社の物流倉庫が上田市にあるため、古本の学内陳列販売が可能となり、ものづくりフェア、大学祭において実施。

保護者や卒業生への浸透、後援会や同窓会との連携を今後はかかっていく。

②松本広域ものづくりフェア

松本大学を会場に4回目の開催となり、会期中（7月13日、14日）は14,523名が参加した。

松本大学関係は約1,000名の参加、利用を記録した。（ ）内は担当ゼミ

キッズプログラミング（矢野口、室谷）40

産学連携コーナー（田中（正）、小林）250

野菜マジック（廣田）20（保護者は別）

古本市（有志 協力図書館）500

フードコート（矢内）300

（2）平成26年度の課題 < A >

1) 外部資金の獲得に向けて

①私学事業団、文科省をはじめとして他省庁や財団の公募情報をRidocで系統的に案内を継続する。

②教員の研究成果についても、学会発表や受賞などをHP等で発信し、更なる資金や委託業務の獲得につなげる。

③大学への間接経費の効果的な執行について事務局内でたたき台を検討する。

2) 知的財産権の保護

研究室の研究成果による特許や製品化にあたっての商標登録、ライセンス化について研究推進委員会の意思を反映させて、関係機関や企業との折衝をすすめる。

3) 教職協働につながるFD・SDの発展

平成25年度に行われた「反転授業の先進地視察(近畿大学付属高校)」のような教職協働の事例を学内で共有する。

学生の学修時間確保やアクティブラーニングを促す教育コンテンツの開発に取り組んでいる先進的な教育機関を教員と職員がチームを組んで視察する活動を継続する。

4) 働きやすい職場づくり

有休消化の推進、労災や交通災害などの防止活動、メンタルヘルス向上につながる学内での連携など職場や現場に即したシフトや業務の把握に基づき、ワークライフバランスやライフステージに即した職場環境の整備に必要な協力体制を構築する。

執筆担当者 管理課長 白井健司

II. 学生センター

2012年の大幅な人事異動により、各部署の職員の構成は次の通りとなった。

【教務課】専任職員：丸山(勝)課長 上條主事、山本主事、田島主事、宮坂主事

嘱託職員：新井寛子、土屋和代、小林志保

【学生課】専任職員：丸山(正)課長、田中係長、松澤主事、関主事

嘱託職員：鈴木佳代

【キャリアセンター】

専任職員：清水課長、中村係長、白澤主任、片庭主事

嘱託職員：田中紀夫、飯沼悦子、今井徳英

【国際交流センター】専任職員：小池係長

2011年度から、大学全体の様々な業務を経験することで、総合職(ゼネラルマネージャー)としての人材の育成を目的とした課長、若手、中堅職員の定期的、計画的な人事異動が強力に推進されており、学生センター内の構成員も大きく変化した。

2012年度に於いては、学生センター内の各課の中核となる、若手、中堅職員の異動が行われ、本年度については、事務局複数部署の課長職人事が大胆に行われた。このことで、学生センターのみならず、事務局全体の職員構成が大きく変化し、事務局の人事にとっては、一つの節目の年となった。業務内容が多岐にわたるため、嘱託職員のキャリアに頼るところも大きく、継続的に業務を遂行するには、中長期的な人事計画が重要となっている。

また、本学では、開学以来、教職協働による大学運営を重視している。教員とともに大学の発展に寄与する人材となるべく、大学職員としての専門性と幅広い教養を身に着けるための研修が定期的に行われている。

(1) 学生センター連絡会・相談員の役割の再点検 < P・D >

1) 学生センター連絡会

2010年12月に立ち上げられた学生センター連絡会(学生課・教務課・キャリアセンター・国際交流センター・情報センター・健康安全センター・基礎教育センター・図書館の職員で構成)は、学生の抱える様々な問題や悩みに対し、対処療法ではなく、事前に問題を把握し、深刻な事態になる前に学内における学生情報を共有し、各部署およびゼミナール教員との連携により解決方法を見出すことを目的に設置され、休学者の復学促進や退学者の抑制に一定の効果を上げてきている。さらに、復学相談日を設け積極的に休学者に関与する機会を持ち、復学者の増加につなげている。休学が継続し、退学へとつな

がるケースも多く、長期にわたる学生のケアにいかに関わっていくか、次にあげる学生情報を切り口として対応している。

①授業の出席状況と欠席理由の把握

②悩みを持つ学生の気軽な相談窓口の設置

③生活習慣が過度に乱れている学生の把握と改善に向けたアドバイス

また、連絡会の構成員については見直しを行い、直接窓口対応を行う職員を中心に業務や役職に関わらず参加できるよう柔軟な体制へと変更されている。

2) 学生相談員

上記学生情報の②、③の対応策として、2012年6月より、学生がいつでも相談できる学生相談員の配置を行っている。専任のカウンセラーに相談するまでもないような悩みを、気軽に相談できるよう、カウンセラーの有資格者を中心にカウンター業務と並行して行っている。担当者は、下記のとおりである学生相談員：白澤係長（キャリアセンター・グループリーダー）、伊藤主事（情報センター）、山本主事（教務課）、松澤主事（学生課）、

相談員のサポート役：丸山（正）学生課長、田中学生係長

3) 授業料免除制度

休学・退学する学生の中には、経済的な理由によるものが少なくない、学内の制度として2009年より「経済状況悪化に伴う修学困難な学生への支援制度」を設け、家計を支えている方の失職、破産、事故、病気、もしくは死亡等により、入学後、修学が困難となった学生に対し、授業料の半額を免除している。応募できる条件を、年々緩和し、受付期間を過ぎても、家計が急変し修学が困難となった時点で臨時に申請を受け付けることとしている。今後も勉学を継続したい強い意志を持つ学生の申請者は、前期後期合わせて13名である。

また、奨学金需給者も急増しており、全学生の約41%にあたる802名が、学費や生活費に奨学金を充てている。これは本学だけの事象ではなく全国的に増加の傾向となっている。経済的困窮に陥った場合、アルバイトに時間を取られ、生活のリズムを狂わせてしまう学生も見受けられるが、社会の経済状況の悪化に起因する部分が多いため、あまり立ち入った関わり方はできないが、日頃の学生の様子を注視し、できる範囲でアドバイスを行っていききたい。特に、年々増加する一人暮らしの学生に対しては、大学や、社会とのかかわりが希薄にならないよう、他大学で行っているような、朝食サービスや、できるだけ、学内に居心地の良い居場所を提供できるよう検討していききたい。

（2）学生センター連絡会・相談員の役割の再点検 < C・A >

1) 学生センター連絡会議

学生センター連絡会は、月に1度の開催で、毎回10名程度の職員が参加している。各部署から持ち寄せられた情報を共有しながら、休学者・退学者が少しでも減少するよう、対策について議論を重ねている。各部署の考え方にやや温度差はあるものの、連絡会の意義（原点）を忘れずに今後も継続して行きたい。現在は業務の合間の自主参加型を取っているが、繁忙期には出席ができない部署もあり、連絡会を、業務の一環と明確に位置付け、参加しやすいようにすることも再度検討していききたい。

また、学生の情報を得る手段として、学務システム（メソフィア）なども利用しているが、データの集計や、統計をいかに効果的に取り出せるかといった、システム改善の提案も多く出され、事務局全体の業務改善に大きく貢献している。学生ポートフォリオの作成など生きた情報を素早く取り出せる方法をさらに追及していき、IR推進に役立てたい。

2) 学生相談員

学生相談員は、学生の日常的な悩みを幅広く受けつけることを目的として設置されたが、2013年度、相談員をターゲットに窓口に来た学生は0人であった。学生の悩みは、日常会話の中に見え隠れしており、

相談員は窓口での対応で、その会話の中に感じた悩みに対しアドバイスを行うケースがほとんどである。このことは、逆に、窓口対応の職員全員が相談員として機能していることを意味している。

学生課の発行するキャンパスガイドには、学生相談員を紹介する記事はあるものの、まだまだ周知されていないのが実情である。しかし、相談内容が深く深刻なものであった場合、カウンター越しに相談を受けるのには限界があり、健康安全センターへ紹介することになる。相談窓口として、健康安全センターと専門のカウンセラーが週に2日間常駐している中で、どこまで深く学生の悩みに応じるのか、棲み分けを明確にするための基準は何なのかの判断も非常に難しい問題である。相談員の設置を継続し、さらに効果を上げるため、この二つの問題を明確にし、その手法の見直しを行っていききたい。

執筆担当者 学生センター長 松尾淳彦

1. 教務課

本年度の教務課は、課長の下、総合経営学部、人間健康学部、松商短期大学部の各担当が、専任職員1名と嘱託あるいは派遣職員1名の各2名体制あたり、その他に教職関係と資格取得者の管理を専任職員1名、派遣職員1名の2名が担当し、合計9名で学生のサポートにあたった。尚、その他に1名の専任職員が産休中である。

(1) 2013年度の基本計画 < P >

2012年度の自己点検・評価を踏まえ、2013年度の取り組みを以下に掲げた。

1) 教養教育の充実に向けた取り組み

本学としての教養教育の在り方について、共通教養センターと全学教務委員会の連携により具体的な検討に入る。

2) 学生の語学力向上の検討

上記1)とも関連するが、本学学生の語学力向上について、各学部教務委員会と連携し、語学科目の検討を行う。

3) 総合経営学部の新カリキュラム導入に対応した支援

2013年度入学生より総合経営学部総合経営学科のカリキュラムが大幅に変更された。変更に伴い国家資格等に対応した科目が拡充され、履修人数の確保と受験支援体制を整える。また、既存の資格関連科目の受講者を増やす。

4) 教務に関する諸規程・諸規則の見直し

2015(平成27)年度に短大部は短期大学基準協会による第三者評価を、2016(平成28)年度に学部は日本高等教育評価機構の第三者評価が予定されている。教務委員会と連携し、他大学の事例等を情報収集し、認証評価を念頭に置き、整備の必要な規程や運用の洗い出しを行う。

5) 学年歴・年間予定の検討

「大学設置基準及び短期大学設置基準の一部を改正する省令(平成25年文部科学省令第13号)」(平成25年4月1日施行)による多様な授業期間の設定や就職・採用活動開始時期の変更等により、今後、学年歴に関わる変更が生じる。そのため、本学として相応しい年間予定の検討を行う。

6) 休学者・退学者の抑制

タブレットパソコンを活用した出欠管理システムの運用を継続し、学生の授業への出席状況を教務課でも迅速に把握する。ゼミナール担当者及び学生連絡会と連携し、継続的に休学者・退学者の抑制に取り組む。

7) 大学院健康科学研究科の学生募集の取り組み

2013年度の在籍数は、2年生が8名、1年生が5名となる。そのため、2014年3月修了予定生が8名となるため、補助金交付の必須条件である10名以上の在籍を充足するためには、2014年度入学生を5名以上確保する必要がある。大学院研究科委員会および入試広報室と連携し、入学定員の充足、補助金

交付の必須条件である 10 名以上の在籍に取り組む。

8) 小学校教諭免許取得支援プログラムの開設

明星大学と教育業務提携協定を結んだ「小学校教諭二種免許状取得支援プログラム」が 2013 年 4 月より開設される。教職センターと連携し、順調に進むよう取り組む

9) 公務員試験対策講座（正課外科目）の導入に向けた検討

エクステンション機構と連携し、2014 年度からの導入に向けて検討を行う。

(2) 課題に対する取組 < D >

1) 教養教育の充実に向けた取り組み

共通教養教育を実質化すべく、共通教養センター会議を 15 回、共通教養センター・全学教務委員会合同会議を 2 回開催し、鋭意論議、検討を重ねた。結果、8 科目について学部共通化を図り、2014 年度のカリキュラムに反映することになった。また、COC 事業の一環として、地域課題に特化した科目も設置するに至った。

2) 学生の語学力向上の検討

大学においては、学生の語学力向上と受験の推進を目的として、大学部共通科目の「TOEIC I（入門）」については、2014（平成 26）年度より（株）イー・トゥー・ゼットへ非常勤講師の派遣を依頼した。短大部においては、グローバル社会に対応できる人材の育成を目的に、グローバルコミュニケーション能力の習得に力を入れるため、2014 年（平成 26）年度カリキュラムにおいて、科目の統合、廃止、新規科目の配置をし、フィールドの再構築を行った。

3) 総合経営学部の新カリキュラム導入に対応した支援

新入生オリエンテーションにおいて、資格に関する詳細な説明および対応する講義の説明を入念に行った。検定を主催する協会に問い合わせ、団体割引および本学での試験実施の検討も行った。

4) 教務に関する諸規程・諸規則の見直し

全学教務委員会と連携し、大学における履修登録上限、進級条件、出席管理の厳格化等について検討を行い、下記の教務規程の変更等がなされ、平成 26 年度 4 月より実施することとなった。

- ・履修登録上限の変更：年 45 単位（集中講義・資格専門科目を除く）。
- ・卒業見込み証明書の発行条件の変更：3 年後期 82 単位、4 年前期 102 単位
- ・再試制度は変更しない（現状維持）
- ・進級条件は設けない（目安による指導）
- ・講義回数確保のため、出席管理を徹底する
- ・共通科目の欠席回数による受験資格運用は担当教員に一任
- ・履修抹消制度の導入（総合経営学部）
- ・追試験の対象事由及び期間、必要書類≪平成 25 年度前期より適用、短期大学部も適用≫

5) 学年歴・年間予定の検討

全学教務委員会と連携し、検討が行われた。設置基準の変更を受けて、講義内試験の実施が議論され、専任教員を対象にアンケートが取られた。15 回目の講義にて試験を実施する場合は、学習時間が 30 時間以上確保されていること及び 1 回分の講義について説明責任が果たせることが最低限必要であることとした。また、2015（平成 27）年度卒業・修了予定者（現在の大学 3 年生等）から就職・採用活動開始時期が変更になることに伴い、前期試験を 7 月中、後期試験を 1 月中に終了させることとした。

6) 休学者・退学者の抑制

2012 年度に試験的に導入したタブレットパソコンを活用した出欠管理システムを本格的に活用し、タブレットパソコンの台数をさらに増やした。大人数の講義においてもきめ細かい学生の出欠状況の管理が行え、休学者・退学者の抑制に一役を担っている。

7) 大学院健康科学研究科の学生募集の取り組み

大学院研究科委員会主導のもと、ゼミナール担当教員への協力要請を行い、学生募集説明会を下表の通りに4回開催した。

| 日時 | 内容・対象 | 参加者 |
|-----------------------|-----------------------|-------------------------|
| 7月18日(木) 5時限 533教室 | 第1回学生募集説明会(学部生向け) | 4名(健康栄養学科1名、スポーツ健康学科3名) |
| 8月18日(日) キャンパス見学会 | 第1回学生募集説明会(社会人向け) | 1名 |
| 11月19日(火) 5時限 | 第2回学生募集説明会(学部生・社会人向け) | 3名(健康栄養学科3年生3名) |
| 11月23日(土) 入試相談会 | 第2回学生募集説明会(社会人向け) | なし |

8) 小学校教諭免許取得支援プログラムの開設

プログラム履修生は7名(総合経営学部1名、人間健康学部6名)となった。学習の進行状況が必ずしも順調には進んでいなかったが、教員による提出レポート作成指導の時間を特別に設け指導に当たった。

9) 公務員試験対策講座の導入に向けた検討

委託予定会社(㈱東京リーガルマインド)との数回にわたる打ち合わせを実施し、検討結果を全学協議会に諮り、審議の結果、2014年度から導入することになった。1月最終週と3月のオリエンテーションにて募集説明会を開催し、希望者を募った。

講座概要は、下記の通り。

- ・講座内容：一般教養講座(全50回)
- ・対象：学部新3年生
- ・受講期間：平成26年4月より平成27年5月
- ・開講時限：水曜5時限(16:50~18:20)
- ・受講料：50,000円
- ・その他：短大新1年生は、後期から受講。(但し、受講意欲が強い場合は、面談の上、前期からの受講可否を決定する)

(3) 課題に対する点検 < C >

1) 教養教育の充実にに向けた取り組み

教養科目における「導入科目」の区分を、本学の理念科目を「大学共通」、学部の理念科目を「学部共通」とし、大学及び学部の共通教養教育を科目に反映した。また、外国語系科目の配置を見直し及び整理し、より分かり易い科目名称に変更し、学生が教育体系を理解し易くした。

2) 学生の語学力向上の検討

大学共通科目「TOEIC I (入門)」の今年度履修者は32名(総合経営学科5名、観光ホスピタリティ学科11名、健康栄養学科7名、スポーツ健康学科9名)であった。次年度は、履修者を増やすとともにTOEICの受験に繋げたい。短大部では、次年度は、「English1」を松商ブランド基礎フィールドに配置し必修化し、また、「外国語と地域交流」フィールドを「国際コミュニケーションフィールド」に改変したことによる履修者の状況を点検していく。

3) 総合経営学部の新カリキュラム導入に対応した支援

オリエンテーションでの告知が行き届き、すべての科目において講義を実施することができた。特に、

観光ホスピタリティ学科の国内旅行取扱管理者試験の受験者数は44名で過去最高であった。総合経営学科の資格関連科目は複数の資格に対応しており、1年次においてどの資格にチャレンジするかを迷う学生も多数いた。

4) 教務に関する諸規程・諸規則の見直し

大学設置基準、学校教育法施行規則および本学学則の規定する学務事項の内容に照らし、整合性を以って学内規程は制定されている。学生に対する所謂「教育的配慮」は時と場合によっては大切であるが、他の学生との公平性を欠くことは高等教育には相応しくない。規程は厳格に適用すること、関連規程に規定されていない事柄については、学生に不利益にならないことを配慮することを基本とし、教務課が一時的な感情に流されるような窓口対応を行ってはならない。その意味で、まず判断基準となる既存の規程の正確な理解が必要である。その上で、必要に応じて見直しを進めることが望ましい。

5) 学年歴・年間予定の検討

講義週間15週と試験日を確保しつつ、前期試験を7月中、後期試験を1月中に終了させるために、下記祝日にも講義を実施することになった。

4/28 (開学記念日)、4/29 (昭和の日)、7/21 (海の日)、9/23 (秋分の日)、10/13 (体育の日)、11/3 (文化の日)、11/24 (勤労感謝の日の振替休日)

また、従来3日間で実施していた新入生オリエンテーションを、入学前教育もあるため、2日間で実施出来るよう内容を見直して短縮化を図り、4/7 (月) から第1週目の講義が始まるようにした。

6) 休学者・退学者の抑制

タブレットパソコンを活用した出席管理システムは、順調に運用できている。授業の欠席者を速やかにチェックすることから、学生生活に悩んでいる学生の把握に役立っている。教員間および、ゼミナール担当者と教務課の間で学生情報を共有し、早期に個別相談の機会を設ける等のきめの細かな対応が大切である。

7) 大学院健康科学研究科の学生募集の取り組み

2014年度の学生募集においては、前期入試(9月21日)で3名、後期入試(2月2日)で4名が入学に至った。前期入試後の時点において、2014年度の在籍数10名確保の見込みが付き難い状況であったが、ゼミナール担当教員、入試広報室と連携し、学部生だけでなく社会人の募集にも力を入れ、結果として後期入試で5名が受験し4名が入学に至った。2014年度の在籍数は12名となった。

8) 小学校教諭免許取得支援プログラムの開設

2014年度からは、小学校2種免許状取得者を対象に新規科目「教職実践特講演習X」を設置し、学生のレポート作成指導に力を注ぐことになった。

9) 公務員試験対策講座の導入に向けた検討

学生間に一定の希望や要望があり、これに応えるべく何らかの施策の必要性があること、大原簿記専門学校への対応策などの理由により、講座導入に至った。しかし、受講希望者はどの位いるか、講座内容は相応しいか、受講料は適正かなど、不確定要素が多く、手探り状況での企画立案であった。公務員試験は、出題範囲が広範囲にわたり、また、試験区分により専門科目の学習も必要なるため、よりきめの細かい対策を行うには、更なる検討が必要となる。

(4) 課題に対する改善 < A >

1) 教養教育の充実に向けた取り組み

2014年度は、2013年度に教養科目の共通化に向けて、今後さらに検討を要する科目として挙げられた幾つかの科目の検討を、共通教養センター運営部会が中心となって進め、本学における教養教育の在り方を再確認し、教務委員会と連携し、配置科目の見直し整備を進める。教養科目の再編成にあたっては、(a)本学の理念に係る科目、(b)地域貢献に係る科目、(c)社会の汎用的知識・技能に係る科目、(d)各学部の特色を活かした科目を配置した上で、全体として「人間形成」に資するものとなることを基本とし

ている。

2) 学生の語学力向上の検討

2014（平成26）年度は、大学においては、前期科目の「TOEIC I（入門）」に新たな非常勤講師の採用となった。TOEICの受験推進及び受験対策を考えるには、前期だけでなく、後期科目についても同様の対応をするかどうか検討を重ねていく。また、短大部においては、「国際コミュニケーション」フィールドの履修状況を点検し、さらなる改善を検討する。

3) 総合経営学部の新カリキュラム導入に対応した支援

総合経営学科の科目においては2年次以降も継続して他の資格にチャレンジできるよう履修計画の指導を行う必要がある。観光ホスピタリティ学科の国内旅行取扱管理者および総合旅行業務取扱管理者については、一度不合格であった学生に対して、次年度も継続してチャレンジするようフォローする必要がある。また、資格取得に有効である講義日程を検討していきたい。

4) 教務に関する諸規程・諸規則の見直し

全学教務委員会と連携し、履修登録上限、卒業見込み証明書の発行条件等を見直した。進級条件の設置、再試験について今後引き続き検討していく。

5) 学年歴・年間予定の検討

祝日の開講は、出来る限り少なく留めたい。年間予定の策定には様々な課題があるが、より望ましい年間予定を策定できるよう努めたい。

6) 休学者・退学者の抑制

休学者・退学者の抑制のために、(a)学生の出席管理と欠席者に対するフォロー、(b)復学相談日の設定、(c)学生連絡会での学生情報の共有、(d)学生相談員の配置等の取り組みを継続的に行っていくことが重要であると感じている。大学における平成25年度年間の退学者数は34名であり、平成24年度の53名から19名減少した。短期大学部においては、平成25年度年間の退学者数は11名、平成24年度の15から4名減少した。退学率は大学が2.3%（34名/1476名）、短期大学部が2.5%（11/447名）であった。今後退学理由の内訳を探求するなど、さらに多面的な取組により、大学の退学率を2%以下に抑えるために、継続的に努力したい。

7) 大学院健康科学研究科の学生募集の取り組み

2014年度の入学生は最終的に7名であった。内訳は、健康栄養学科からの進学者1名、スポーツ健康学科からの進学者4名、社会人2名であった。長野県内に学際的な健康科学分野を探究する大学院は本学以外にはない。本研究科の定員を確保し、さらに発展させていく上で、社会人入学者は重要な意味を持つ。研究心溢れる社会人学生の要望に応えるための指導体制をさらに整備していく必要がある。

8) 小学校教諭免許取得支援プログラムの開設

2014年度の履修者は、15名（総合経営学部3名、人間健康学部12名）である。学習の進行が順調に進むよう支援をしていきたい。

9) 公務員試験対策講座の導入に向けた検討

2014年度は、資格取得支援センター運営部会の主管となるため、情報センターが事務担当となる。学生のニーズ、大学の意図等、様々な観点から検討を行い、効果的な講座になるよう企画することが必要である。

執筆担当者 教務課長 丸山勝弘

2. 学生課

本学は「教育・研究を通じた地域社会への貢献を目標としている」ことを掲げ、社会で行われる実際の事業に学生を関わらせることで、地域の人たちとの繋がりを持てるよう学生への支援を常に心がけている。また学部別の担当を配置しながら、奨学金事務、学友会活動を中心とした共通の企画、全学行事の事務を遂行した。

(1) 年間計画 < P >

1) 学生の指導に関する事項

- ・学内での生活全般
- ・危機管理対応（事故・事件の対応）
- ・病気、怪我、体調不良等の相談、対応（健康安全センターとの連絡）
- ・日常生活マナー指導（喫煙、駐車違反、不正乗車、アルバイト情報の提供、掲示物等）
- ・松本警察署生活安全課との連携

2) 学生証、通学証明書、J R学割証の発行に関する事項

- ・松本電鉄上高地線通学定期の4か月定期券の設置要望

3) 学生の課外活動に関する事項

- ・学友会、クラブ協議会、サークル連合への支援
- ・強化部、重点部、強化指定選手への大会手続及び支援
- ・寮生活の指導・健康状況、会計状況、生活状況相談
- ・松本子どもまつり、松本ぼんぼん参加申請、企画、引率等
- ・全国私立短期大学体育大会への参加申込、宿泊手配、引率
- ・長野県私立短期大学体育大会への参加申込、引率
- ・学部及び短期大学部の体育大会への協力、支援
- ・各種リーダー研修会への助言、支援
- ・新村地区情報交換会（新村音楽祭・新村地区運動会への支援）
- ・松本大学地域懇話会（新村地区長会長・市議との会議）
- ・各種発刊物への企画アドバイス
- ・湘北短期大学との交流会

4) 学友会会則の見直し等

学友会活動を始めとした課外活動に広がりを持たせ、多くの学生の参加を促し、それらの活動の成果を利用できる仕組みづくりを行う。

5) 大学祭をよりアカデミックさを強調しながら成功させるための支援を行う。

6) 修学支援に関する事項

- ・「経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度」
- ・「日本学生支援機構の奨学金」
- ・「松本大学同窓会奨学金」
- ・その他

7) 障がいをもつ学生への支援

(2) 活動内容 < D・C >

基調 教職協働へのアプローチ

1) 学生生活の広がりに対応した支援業務

①修学支援（奨学金、緊急支援制度他）

全学生の4割にあたる802名（院生含む）が日本学生支援機構奨学金の貸与を受けており、親元の経済事情を反映した相談が日常的に増加している。返還誓約書の早期提出など事務取扱いが煩雑となる一方で、奨学金の月額変更や緊急、応急貸与の個別相談にきめ細かく対応するべく課員の業務水準をあげるための研鑽につとめた。（下表参照）

| | 5 / 1 現在学生数 | | | 奨学金受給学生数・比率 | | |
|------|-------------|--------|--------|----------------|----------------|----------------|
| | 2011 年 | 2012 年 | 2013 年 | 2011 年 | 2012 年 | 2013 年 |
| 総合経営 | 813 人 | 761 人 | 718 人 | 279 人 34.3% | 284 人 37.3% | 283 人 39.4% |
| 人間健康 | 748 人 | 744 人 | 758 人 | 342 人 45.7% | 340 人 45.7% | 348 人 45.9% |
| 大学院 | 3 人 | 10 人 | 13 人 | 2 人 66.6% | 4 人 40% | 4 人 30.8% |
| 短期大学 | 413 人 | 409 人 | 447 人 | 150 人 36.3% | 153 人 37.4% | 167 人 37.4% |
| 合 計 | 1977 人 | 1924 人 | 1936 人 | 773 人 39.1% | 781 人 40.6% | 802 人 41.4% |

また「経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度」として、学費半額免除の制度を継続した（前期・後期）。親元の経済急変の背景となる事案が多様化しており、審査委員会として審査基準と手順を改善した。

学部のみになるが、スポーツ特待生制度の学力基準（GPA 目標値：2.0 GPA 基準値；1.0 以上）を設け、条件を明確にして継続している。

②生活支援（マナー、社会人基礎力）

全学学生委員、学生課、学友会役員、クラブ協議会及びサークル連合会により、たばこの吸い殻、ごみ拾い、体育館（第1・第2）及び部室棟周辺の清掃を実施した。

新生には交通安全や防犯、IT 犯罪対処の予防について松本警察署の協力で講話を実施し、一定の抑止効果を見せている。また薬物依存への警告を行うための同署生活安全課の支援を得た。

車通学の学生による違法駐車に対し近隣から苦情が寄せられ、警備員による大学周辺の巡回や悪質なケースへのタイヤロックなど強化に努め、その結果、効果が出たと思われる。一方で学生駐車場ゲートの不具合等にとりパーキングユニットの交換をしたが、パーキング機器の摩耗が激しいため、業者とのメンテナンス契約を締結した。（年3回）

また不正乗車禁止の呼びかけを行い、犯罪を防ぐために警察との連携を密にした。

③コミュニティ形成としての居場所づくり

学生たちが仲間づくりや共同行動を通じて成長をはかり、社会性を身に付ける重要性が大学教育で強調される以前から松本大学では学友会やサークルを通じた人づくりを重視している。

総合グラウンドは学校法人松商学園との共有グラウンドのため、高校と大学から運営委員を選出し、授業優先の原則のもと本学サークルと高校部活動のすみわけをはかった。7号館1階のコモンルームは多目的空間として勉強、語らい、発表、食事など平日はほぼ満席となりニーズの高さを示している。

④危機管理

学生たちが安心、安全に学生生活をおくるために事故防止や事故に対し健康安全センターとの連携で対応をはかった。しかし残念なことに、硬式野球部松球寮から食中毒が発生し、大勢の寮生に多大な迷惑をかけてしまった。

2) 学友会のサポート

体育祭、大学祭といった学友会主催のイベントで、担当する学生たちがいかに主体性をもって企画運営に携わることができるかを意識しながらアドバイスなどを行った。その結果、学生たちが達成感を味わい、自信を所有することにつながった。

それぞれの学友会間の連携を意識して、学友会会則の改訂を行い、基本的な総則や組織、役職の統一

化をはかった。また、学部の学友会は役員改正の選挙を実施するなど、学友会活動の発展に努めた。

3) クラブ協議会、リーダーズキャンプ

総経・人間の学友会が協力して組織したクラブ協議会は代表の学生により、年間計画や予算作りの指針をクラブ代表にはかり、各クラブ内における活動レベルを引き上げた。

同時にリーダーズキャンプは短大方式を参考に、クラブ協議会リーダーズキャンプ(9月)、3学部合同リーダーズキャンプ(2月)と行われ、相互交流と研鑽の機会となりつつある。学生課はこれらの円滑な運営のサポートを行った。

4) 大学祭の成功

梓乃森祭は年々規模の拡大と参加者の増加がみられる。今回のテーマは「NEXT~New×Thanks」を設定した。「昨年節目の年を迎え、今年は新たな希望と地域の方々への感謝の気持ちを込めたテーマを設定した。」また決して忘れてはならない、東日本大震災や栄村の震災の被災者の支援に関しては、高等教育コンソーシアム信州学生支援部会の加盟大学の各大学祭で募金を行い、本学では独自に東日本大震災の被災地にある大街道小学校にバザーでの収益金を寄付した。

全学学生委員会では、①松本大学の教育や研究実践のアピール、②学生の更なる参加と教職員との協力を意識した大学祭とするべく、4月より準備を行い、一日限りのレストランを2年ぶりに復活した。また松本理容美容専門学校とのコラボレーションによる「松コレファッションショー」など、好評であった。今回で第4回目となる地域貢献大賞には最多となる3学部から12グループが参加し、日ごろの学習成果を発表した。審査員には、学外より新村公民館長、EPSON労働組合執行委員長、後援会役員に加わっていただき、「地域の問題に真摯に取り組む学生と大学の姿」へ賞賛が寄せられた。

7号館コモンルームには、サークルポスター展示、ゼミナールの実践発表と展示スペースを設けてアカデミックさと日頃の学生の活動をアピールした盛大な大学祭となり大いに成功を収めた。

5) 障がいをもつ学生への取組

本学には心身になんらかの障がいをもつ学生が在籍している。学生委員会は、健康安全センターと密に連携を取り、学生生活に支障の無いよう支援をしたい。

6) 松大ブログ、発行物

大学ホームページに主要サークルのブログコーナーを開設したが、全体的に使用頻度が低い。また、「大学新聞」は年2回発行、表紙も斬新なアイディにより一新され、教職員からも好評を得た。今年度新たに総合経営学部の卒業文集が発行された。

毎年全学生に配布する「CAMPUS GUIDE2013」の内容を見直し、学友会・サークル紹介ページを別冊子(名称:Start)版で発行した。3学部の学生編集スタッフを中心となり、行事の紹介やサークルの魅力を伝えるために学生の生の声や写真を取り入れるなど読みやすくなっている。

こうした取組を行うために学生課では、学生たち自身のやる気やアイデアを引き出すため行事のふりかえりや編集スタッフ同士のチームワークを通じて達成感が得られるよう配慮を行った。

(3) 次年度への課題 < A >

更なる現場事業の強化へ

- 1) 3学部の学友会活動のベクトルを合わせ、協力できるところは協力し、独自に行うところは別に行い、自治を確立するといったメリハリを考慮した活動を支援する。
- 2) 学部・クラブ協議会と短期大学部・サークル連合会の組織を融合し、スムーズな運営体制を確立する。またクラブ活動がより活発化するために支援する。
- 3) 大学祭・体育大会等のイベントが、より学生主体で行えるような仕組みを引き続き構築する。
- 4) 高等教育コンソーシアム信州学生支援部会の加盟大学とのネットワークを広げ、各大学祭の情報交換の場を設け、学生の交流ができるよう支援する。
- 5) 平成26年度、本学主管となる長野県私立短期大学体育大会を成功させる。

6) 学生生活の基盤を支える

- ①学生のほぼ4割にあたる奨学金貸与学生へのスムーズな手続きとともに、親身になった相談活動を行う。
また、日本学生支援機構以外の奨学金にも注目し、広く学生に紹介できるよう情報収集に努める。
- ②一人暮らし、悩みをもった学生、サークル・学友会のリーダーなど学生たちの抱える問題解決の支援を教員や健康安全センターなど部署同士の連携で行う。また障がいをもつ学生への有償サポートスタッフ制度の運用を通じて、まずはバリアフリーである大学づくりを継続する。
- ③学生と教職員同士の信頼、学部を越えた学生同士の交流などの本学が持つ強みを最大限に発揮する課外活動の展開。
- ④強化部、重点部、個人強化選手の役割と結果を出すサポートを行う。
- ⑤健康的で快適なキャンパスライフを送るために、一人ひとりが高いモラルをもってマナー向上に取り組むために、ルールブックを作成する。また悪質なルール防止に向け、ペナルティを科すことを明記する。
- ⑥硬式野球部松球寮の食事に関しては、専門業者と委託契約を結び、衛生管理を徹底したい。
- ⑦ソフトボール部の寮に関して、寮生の生活環境を考え、早急に移転を検討したい。
- ⑧留学生の良きパートナーとなり、慣れない異国での生活のアドバイスをを行う。

7) 東日本大震災、長野県北部地震への対応

高等教育コンソーシアム信州学生支援部会の加盟大学と合同企画。各大学の大学祭実行委員会が中心となって、募金箱の設置及びバザー等の売上金の全額を寄付した。

8) 学生課職員の標準化

どの学生に対しても公平なサービスを提供するために、打合せの頻度を多くするなど職員の情報共有に努める。今後、配置転換があっても、スムーズな運営ができるよう、マニュアルを作成し、円滑に事務を引き継げるようにする。

学生にとって最も身近な「社会人」として、ときには社会の厳しさを指導することも私たち職員の責務と考え、学生対応を行い、学生を育てるといった視点を所有する。

執筆担当者 学生課長 丸山正樹

3. 就職課

本年度は、課長1名、専任職員3名、嘱託職員4名計8名で就職指導及びキャリア教育に当たった。

(1) 2013 (平成25) 年度当初の計画 < P >

1) 総合経営学部

学生の就業意識の醸成と就職支援のため、3年生科目「キャリア形成Ⅱ」を21年度より必修化している。22年度までは前期・後期の講義のうち、半分を全員対象、残り半分を希望者対象として実施していたが、23年度から通年で必修とした。今年度は、自己分析、志望動機作成など、課員や委員が受け持ち、小クラスで実施する機会を増やし、講義への集中力を高め、学生の就職意識向上に努める。また、2年生必修科目「キャリア形成Ⅰ」では、自己理解や社会に目を向けるなど講義を7回行い、残りは学部教員による筆記試験対策「職業指導」を行う。

| 科目名 | 開講時期 | 必・選 | 「狙い・目的」と特徴 |
|---------|------|-----|--|
| キャリア形成Ⅰ | 2年後期 | 必修 | 自己理解・社会に目を向ける (7回) 筆記試験対策、就職指導 (8回) |
| キャリア形成Ⅱ | 3年通年 | 必修 | 自己分析・志望動機・業界研究・面接 学科別 |

2) 人間健康学部

21年度より3年生前期の「就職支援ガイダンス」を正課外科目ではあるが全員が受講出来るよう時間割に組み入れ実施した。後期に選択科目として「キャリアカウンセリング基礎Ⅱ」にて就職支援の講義を行っていたが、今年度は、前期に「キャリアカウンセリング基礎Ⅱ」（必修）、後期に「就職支援ガイダンス」（正課外）とし、早い時期からの就業意識の醸成のため、前期に選択科目を配置する。また、講義への集中力向上のため、学科別に小クラスで実施する。2年生後期の必修科目「キャリアカウンセリング基礎Ⅰ」も、学科別に実施する。社会で活躍されている社会人から話を聞く機会を増やし、学科での学びと社会とのつながりを学ぶ。講義の後半の回は、非常勤講師による自己分析、基礎教育センターによる筆記試験対策を行う。

| 科目名 | 開講時期 | 必・選 | 「狙い・目的」と特徴 |
|----------------|------|-----|--|
| キャリアカウンセリング基礎Ⅰ | 2年後期 | 必修 | 学科での学びと社会との関わり（前半） 自己分析（非常勤）、筆記試験対策（基教センター） |
| キャリアカウンセリング基礎Ⅱ | 3年前期 | 必修 | 早期からの就業意識の醸成 学科別小クラス |
| 就職支援ガイダンス | 3年後期 | 課外 | |

3) 短期大学部

今年度も1年生後期必修科目「キャリア・クリエイトⅡ」、「キャリア・スタンダードⅡ」を学科別2クラスで実施する。講義時間を昼休みを挟んだ2時限、3時限に設定することで集中力の向上を図る。「キャリア・スタンダードⅡ」では、基礎教育センターと連携して「一般教養講座」を行い、基礎学力向上を図る。また、2年生前期必修科目「キャリア・クリエイトⅢ」は、2月より前倒しで5回実施する。6月と7月の講義では、月末の講義は全員対象とし、それ以外は、進路未決定者を対象とし、求人情報の提供などを計画。2年生後期「キャリア・クリエイトⅣ」を昨年度より必修科目とし、社会人を目前としマナーや心構えや、社会保険に対する知識の習得など最低限必要なスキルを身につける講義を計画する。

| 科目名 | 開講時期 | 必・選 | 「狙い・目的」と特徴 |
|--------------|------|-----|--|
| キャリア・クリエイトⅠ | 1年前期 | 必修 | 現代社会の理解、本学で学ぶことの意味、働くことの意味、 高等教育機関で勉強する意味 |
| キャリア・クリエイトⅡ | 1年後期 | 必修 | 学科別 |
| キャリア・クリエイトⅢ | 2年前期 | 必修 | 2月～ 進路未決定者のみの回有 |
| キャリア・クリエイトⅣ | 2年後期 | 必修 | 社会人としての心構え、社会保険 |
| キャリア・スタンダードⅠ | 3年前期 | 必修 | |
| キャリア・スタンダードⅡ | 3年後期 | 必修 | 基礎学力向上 学科別 |

4) 共通

①キャリアカウンセリング

入学前の本学の学びについての目標設定から、出口である進路・就職決定までを一貫したキャリア支援を計画する。対象は全学生とし、学年毎テーマを持たせ年1回カウンセリングを実施する。

②求人情報説明会

昼休みを利用し、「今週の求人情報」（13時～13時30分）の詳細説明を計画

③学内「合同企業説明会」
年3回実施（次表参照）

| 開催月 | 対象学生 |
|-----|---------------------|
| 7月 | 院2年生、学部4年生、短大2年生 |
| 12月 | 院1年生、学部3年生、短大1年生 |
| 2月 | 院新2年生、学部新4年生、短大新2年生 |

学外「合同企業説明会」への支援

県外開催（東京ビックサイト他）の合同企業説明会へのバス運行支援（大学部3年対象）

④学内「単独企業説明会」

企業による会社概要ならびに求人情報説明会を開催する。

⑤集団面接・グループディスカッション対策

面接試験の初期段階で行われる集団面接・グループディスカッション対策を計画する。

⑥夏季合宿、春季就職対策集中セミナー、インターンシップ

<夏季合宿>

就職活動年度を迎える大学部3年対象に、夏季休業期間に1泊2日の合宿を3回計画する。

<春季就職対策集中セミナー>

就職活動開始後の春季休業期間を利用し、大学部3年対象に1日コースのセミナーを2回計画する。

<インターンシップ>

各学部、下記の通りインターンシップを計画する。

| 対象学部 | 学年 | 実施期間 |
|-------|-----|-----------------|
| 大学部 | 2年生 | 春季休業期間（2月～3月） |
| | 3年生 | 夏季休業期間（8月～9月） |
| 短期大学部 | 1年生 | 後期講義期間（11月～翌1月） |

⑦業界研究勉強会

就職解禁月に照準を合わせた、業界研究会を開催する。

⑧保護者対象就職説明会

大学部3年生ならびに短大部1年生の保護者を対象とした、説明会を開催する。

（2）現状の説明 < D >

1) 総合経営学部

「キャリア形成Ⅰ」では、大学卒業後、社会の一員としてそれぞれのキャリアを積み上げていく際に土台となる基本的な考え方を学び、「キャリア形成Ⅱ」では、大学卒業後の自分のキャリアを主体的に考え、それを実現していくための手法を実践的に学んでいくことを目的に講義を行った。また、講義への集中力向上のため、出来る範囲で学科別の小クラスで実施した。

2) 人間健康学部

3年生の講義において、今年度は前期に「キャリアカウンセリング基礎Ⅱ」（必修）、後期に「就職支援ガイダンス」（選択）とし、早い時期からの就業意識醸成のため、前期は必須とし実施した。また、講義へ

の集中力向上のため、出来るだけ学科別のクラスで実施した。「就職支援ガイダンス」は、選択科目としたが「全員が受講すべき科目であること」の意識付けをし、全員の出席を促した。

3) 短期大学部

講義中の集中力を高めるために、1年生後期「キャリア・クリエイトⅡ」及び「キャリア・スタンダードⅡ」を学科別2クラスにて実施した。講義時間は、昼休みを挟んだ2時限、3時限に設定し、集中力の向上を図った。2年生後期「キャリア・クリエイトⅣ」を昨年度より必修科目とし、社会人を目前としたマナーや心構え、社会保険に対する知識の習得、求人情報の提供などを行った。

4) 共通

① キャリアカウンセリング

全学年、下記日程にて実施した。

| 実施日 | 対象 | テーマ |
|------------------------------------|---------------------------|--|
| H25/7/27, 28 | 短期大学部2年進路未決定者 | 進路未決定者について、個々の課題の明確化と解決策の検討、相談対応 |
| H25/10/5, 6 | 学部4年進路未決定者 | |
| H25/10/12, 13, 26 | 総合経営学部2年 | 大学生活1年半の振り返りと将来の進路を意識し、学生生活を充実させるための意識づけ |
| H25/10/26, 27, 11/3 | 人間健康学部2年生 | |
| H25/11/9, 10, 23 | 総合経営学部3年 | 現実的な就職活動スタートに向けての意識づけ |
| H25/11/24, 30, 12/1 | 人間健康学部3年 | と、疑問解消 |
| H25/1/11, 25, 26 | 短期大学部1年 | 「自己理解」の明確化と、進路選択に向けての意識づけ |
| H25/2/23, 3/1, 2, 8, 9, 28, 29, 30 | 入学予定者〈第1クール〉、入学予定者〈第2クール〉 | 大学生活に向けての期待や前向きな目的意識の醸成ならびに入学者一人ひとりの状況把握 |

※今年度の2月開催の入学予定者カウンセリングについては、大雪のため当初の日程を大幅に変更しての実施となった。

② 求人情報説明会

学生の就職支援の一環として、4/11より毎週木曜の昼休みを利用して求人情報の説明会を開催した。本学に頂いた求人票、ハローワークの求人、就職情報サイトの求人を一覧に纏め、「今週の求人情報」として配布した。この情報はゼミ担当教員にもメール配信し、求人情報の共有化を図った。

③ 学内「合同企業説明会」

今年度も卒業年度（大学部4年生、短大部2年生）の学生向けに1回、就職解禁月に合わせて、大学部3年および短大部1年生向け説明会を12月と2月に開催し、計3回実施した。なお、7/12は、「2013まつもと広域ものづくりフェア」の一企画として、松本商工会議所、塩尻商工会議所、安曇野市商工会との連携開催となった。

| 日程 | 参加企業数 | 参加学生数 |
|----------|--------------|---------------------------------|
| 7/12 (金) | 企業 46 社、相談 4 | 学生 192 名 (総経 41、人間 44、短大 106) |
| 12/5 (木) | 企業 52 社、相談 1 | 学生 495 名 (総経 131、人間 151、短大 213) |
| 2/21 (金) | 企業 54 社 | 学生 280 名 (総経 71、人間 79、短大 169) |

学外「合同企業説明会」

・12/15（日）：東京ビックサイト（マイナビ主催）（参加42名）

④単独企業説明会

求人企業と学生をマッチングさせることを目的に、企業人事担当者に来学頂き、学内での単独企業説明会を開催した。今年度は計56回開催し、計延べ539名が参加し60名が内定に至った。

⑤集団面接、グループディスカッション対策

本学の学生は、集団面接等の試験において全体の中に埋没してしまう傾向があることを背景に、また初期段階で実施されることが多いことから、その対策として2月下旬より、集団面接対策、グループディスカッション対策を行った。採用試験のピークである4～5月頃まで実施した。

⑥夏季合宿、春季就職対策集中セミナー、インターンシップ

＜夏季合宿＞

就職解禁に向けて大学部3年生対象に、夏季休業期間に1泊2日の合宿を計3回実施した。

| 対象学部（日程） | 総経 | 観光 | 栄養 | スポーツ | 計 |
|-----------------|-----|-----|-----|------|------|
| 人間健康学部（9/9,10） | | | 23名 | 19名 | 42名 |
| 総合経営学部（9/12,13） | 19名 | 35名 | | | 54名 |
| 両学部コース（9/17,18） | 9名 | 1名 | 26名 | 2名 | 38名 |
| 合計 | 28名 | 36名 | 49名 | 21名 | 134名 |

＜春季就職対策集中セミナー＞

就職解禁から数ヶ月が過ぎ、春季休業期間に入る前に大学部3年生を対象に、1日コースの集中セミナーを実施した。

| 対象学部 | 総経 | 観光 | 栄養 | スポーツ | 計 |
|-------------|-----|----|-----|------|-----|
| 人間健康学部（2/6） | | | 11名 | 14名 | 25名 |
| 総合経営学部（2/7） | 14名 | 8名 | | | 22名 |

＜インターンシップ＞

就業体験を通じ自らの仕事やキャリアについて考え、今後の学生生活における目的意識を明確にすることを目的に、学部は夏・春休み、短大は秋季に実施した。

| 対象学部 | 総経 | 観光 | 栄養 | スポ | 商 | 経情 | 計 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|-----|
| 春季（大学部2年） | 3名 | 4名 | 4名 | 2名 | | | 13名 |
| 夏季（大学部3年） | 2名 | 4名 | 5名 | 3名 | | | 14名 |
| 秋季（短大部1年） | | | | | 9名 | 9名 | 18名 |
| 合計 | 5名 | 8名 | 9名 | 5名 | 9名 | 9名 | 45名 |

⑦業界研究勉強会

昨年度までは、金融業界についてのみ勉強会を実施していたが、今年度は下記の業界および職種について勉強会を実施した。

| 日 程 | 内 容 | 参加人数 |
|-----------------|------------|-------|
| 11/26 (火) 5 時限目 | 金融業界 | 99 名 |
| 12/ 3 (火) 5 時限目 | 職種研究会 | 122 名 |
| 12/10 (火) 5 時限目 | 製造業界 | 48 名 |
| | 広告・出版・印刷業界 | 43 名 |
| 12/17 (火) 5 時限目 | 卸・小売業界 | 85 名 |
| 12/18 (水) 5 時限目 | 観光・ホテル業界 | 58 名 |
| 12/20 (金) 5 時限目 | 建築・住宅業界 | 35 名 |
| 計 | | 490 名 |

⑧保護者対象就職説明会

次期就職活動年度を迎える学年の保護者向けに、各学部とも下記の通り説明会を実施した。

| 日 程 | 対象保護者 | 参加人数 |
|-----------------|----------------------|-------|
| 6/ 1 (土) 13 時～ | 大学部 3 年生 (全体説明、個別面談) | 130 名 |
| 11/30 (土) 13 時～ | 短大部 1 年生 (全体説明、個別面談) | 160 名 |

⑨キャリアセンター運営の講義等

| 学部 | 1 年前期 | 1 年後期 | 2 年前期 | 2 年後期 |
|------|-----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 短期大学 | キャリアクリエイトⅠ (必) キャリアスタンダードⅠ (必) | キャリアクリエイトⅡ (必) キャリアスタンダードⅡ (必) | キャリアクリエイトⅢ (必) 求人情報説明会 単独企業説明会 | キャリアクリエイトⅣ (必) 求人情報説明会 単独企業説明会 |

| 学部 | 1 年前期 | 2 年後期 | 3 年前期 | 3 年後期 | 4 年後期 |
|------|-----------|---------------|-------------------------|--------------------------------|--------------------|
| 総合経営 | キャリアガイダンス | キャリア形成Ⅰ (必) | キャリア形成Ⅱ (必) 夏:就職合宿 | キャリア形成Ⅱ (必) 春:就職対策集中セミナー | 求人情報説明会 単独企業説明会 |
| 人間健康 | キャリアガイダンス | キャリアデザインⅠ (必) | キャリアデザインⅡ (必) 夏:就職合宿 | 就職支援ガイダンス(正課外) 春:就職対策集中セミナー | 求人情報説明会 単独企業説明会 |

(3) 点検・評価の結果 < C >

1) 総合経営学部

平成 25 年度は、内定数の伸び率が好調であったものの、後半伸びなかった。3 年生科目「キャリア形成Ⅱ」(必修)では、就職活動の基本として身につけるべき内容(自己分析、業界・職種研究、志望動機、面接対策など)を行い、就職解禁に向けての準備をしている。しかし、全体講義だけでは就職解禁までの

モチベーションを維持することは難しいため、各種対策への参加を促したことで、前年度より多くの学生を参加させることが出来た。

就職活動学年については、月1回ゼミ担当教員から活動状況について情報提供され、キャリアセンター職員と共有されたため、未活動者や個々へのサポートに繋がった。

2) 人間健康学部

平成25年度は、前期の内定数は伸びなかったものの、後期に頑張りをみせて、結果、昨年度以上の内定率であった。毎年明後2~3月に駆け込み内定が多いため、学部の実情に留意しつつも、求人が多く出される前期への活動を促す工夫が必要であったと推察される。

就職活動学年については、学生の活動状況把握が困難なため、0時限目に未内定ならびに未活動者を集め情報収集をするなど、個々へのサポートに繋がった。

3) 短期大学部

大学に比べて求人数が少ないなか、昨年以上の内定率であった。1年後期から2年前後期、必修でキャリア講義が開催されているため、実際の就職活動時期に講義を通してマナー、試験対策、企業情報を提供できることが、内定率を引き上げている要因であると考えられる。

また、各週に実施される就職委員会を通して、学生の活動状況を把握できたことも個々へのサポートに繋がった。

4) 共通

①キャリアカウンセリング

入学前から卒業年度まで、学生全員対象（卒業年度の内定者は除く）とし年1回実施しているが、学年が上がるにつれ参加率が低下する傾向が見られる。キャリアカウンセリングは、単に就職に結びつけることも必要であるが、毎年自己を振り返る良い機会となるため、また、休退学を未然に防ぐためにも積極的な参加を促していきたい。

②求人情報説明会

「求人情報説明会」を定期的（毎週木曜日昼休み）に開催することによって、情報提供の習慣化を図った。また、求人を一覧に纏めゼミ担当教員にメール配信することで、求人情報の共有化を図り、ゼミ担当教員と連携して学生支援を行った。

③合同企業説明会

7月開催の合同企業説明会は、「まつもと広域ものづくりフェア」の一企画として、松本商工会議所、塩尻商工会議所、安曇野市商工会と産学連携で開催した。参加企業数は毎回約50社と多く参加して頂けるようになった。

就職解禁月開催の12月は、通常講義日であったため健康栄養学科所属の学生は、講義中心となるため滞在時間が1時間程度となり、多くの企業ブースを回ることが出来なかった。2月開催の説明会は春季休業期間中ということもあり、参加学生数が減少してしまうことが課題である。

④単独企業説明会

平成24年度は66回の説明会を実施し、67名が内定に至った。今年度は10回少ない56回の開催となったが、60名内定することが出来た。企業を学校に呼び込むことで本学学生が採用に至る可能性が高くなり、また学生としては学校で開催されるため企業へ直接行くよりも参加し易い側面があり、求人企業と学生のマッチングに効果があったと思われる。

⑤集団面接・グループディスカッション対策

希望制での面接対策練習は、単に練習機会の提供だけでなく、就職活動積極層の把握や今後の支援にも繋がり、活動意欲層の取り込みが図られた。

⑥夏季合宿、春季就職対策集中セミナー、インターンシップ

就業体験の機会を提供することで、学生にとっては社会や仕事を知る良い機会となった。また、大学と企業との連携、企業が本学学生を知る機会にもなった。学生が様々な業種・職種での実施希望が増えているため、受入企業の開拓が急務となっており今後の課題である。

⑦業界研究勉強会

昨年度までは、金融業界についてのみ勉強会を実施していたが、今年度は金融業界を含め6業界ならびに職種勉強会を計7回実施した。就職解禁月の直前から解禁月にかけて、講師はキャリアセンター職員を中心に、5時限目を利用し実施した。

⑧保護者対象就職説明会

近年、大学部においては、後援会総会と同一日程で実施しており、多数の保護者の参加を呼び掛ける良い機会となっていると推察できる。保護者説明会は、昨年度までは全体会ならびに個別相談会であったが、今年度からは個別相談会の待ち時間を有効に利用するために、マツナビ協力のもと施設見学を組み入れて実施した。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

1) 総合経営学部

経済環境が向上しているものの、地方まで浸透するには時間が掛かるため、地方大学の就職環境は予断を許さない状況であることは変わらない。4年生においては、就職ガイダンス等就職活動を支援するプログラムが極端に少ないため、就職活動が停滞しないよう一層ゼミ担当教員と連携し定期的な状況の確認・支援を行っていくことが課題である。

2) 人間健康学部

平成26年度は5期生の就職活動年度となる。管理栄養士や健康運動指導士といった求人は非常に狭き門であるため、求人開拓などを積極的に行い支援する。学科特性はあるものの、有資格者向けの求人に限らず、幅広い業界に目を向けた就職活動も考慮する必要性を発信していきたい。

また、総合経営学部同様、4年生においては、就職ガイダンス等就職活動を支援するプログラムが極端に少ないため、就職活動が停滞しないよう一層ゼミ担当教員と連携し定期的な状況の確認・支援を行っていくことが課題である。

3) 短期大学部

学生の将来や就職に対する意識、また希望就職先の多様化に伴い、様々なニーズを持つ学生がさらに増えている。それらの学生に対して、早期から「働く」ことへの意識を高め、「個」への対応の充実や、ゼミ担当教員との連携を通じて、学生の更なる意識改革と学生支援の充実を図っていく必要がある。また、様々な業界・職種への企業開拓も進めていきたい。

4) 共通

①キャリアカウンセリング

学生の参加を促すためには、今までの土・日曜日の開催だけではなく、参加しやすい日程(例.長期休業期間中の通常日、通常講義日の空き時間他)を工夫することも必要である。

来季の長期休業期間中の開催については、通常日の設定で実施することを計画した。

また、来年度は「キャリアカウンセリング」から「キャリア面談」と名称を変更するとともに、県外カウンセラーから県内在住者の面談員へシフトをすることで、県内の事情を良く理解した対応が可能となり、出口へ繋げることを期待する。

②求人情報説明会

本学への求人件数は、ここ数年伸びているにも関わらず、学生への求人情報提供ベースが紙であるため、希望条件での検索が容易ではなく、見落とししている求人も多いと推察できる。

また、情報流出を防ぐことや、学生をキャリアセンターに誘導する意味において、紙ベースでの提供となっていた情報提供を、併せてネットワーク（Webでの検索）でも可能とする対応を検討したい。

③合同企業説明会

次年度は、就職解禁が12月1日から3月1日へ後倒しとなるため、合同企業説明会については1回目開催を3月とし、2回目以降の開催月ならびに実施回数については、平成26年度に検討する。

県外開催（主に首都圏）の合同企業説明会への参加は、都市部の学生の行動を目の当たりにするすることで、本学の学生が刺激になることを期待し、早めの活動を促すためにも、次年度以降も計画したい。

④単独企業説明会

求人企業と学生をマッチングさせることを目的に、企業人事担当者に来学頂き、学内での単独企業説明会を開催している。ここ数年は、単独企業説明会を開催し60～70名の学生が内定に結びついている。就職希望者の15%程度ではあるものの学生が内定に至っているため、来年度も継続して実施する。

⑤集団面接・グループディスカッション対策

集団面接については、同一志望業種の学生のみを対象として実施することや、また試験の初期段階で実施する企業が多いことから、就職解禁前に対策することを検討する。

また、卒業年度生への対策を実施してはいるものの、参加状況が振るわないため、リスタート講座などの対策講座を検討する。

⑥夏季合宿、春季就職対策集中セミナー、インターンシップ

夏季合宿は年3回実施していたが、次年度は就職解禁が後倒しになることを考慮し、2回に縮小することとし、その分を年末年始（冬季休業期間）で対応するよう改善案を考える。

インターンシップは、学生の希望する企業を優先して依頼をしているものの、受入企業の開拓に苦慮しているため、今後はインターンシップ受入企業リストから選択する方式に一部変更する必要がある。

さらに、インターンシップについては、文部科学省からの通達では、教育的視点に立った低学年次からの実施や、単位化が必須になる方向性が出されているため、大幅な見直しが求められると推察される。

⑦業界研究勉強会

昨年度までは、金融業界のみの研究会であったが、今年度は6業界および職種研究会と拡充し計7回実施したことで、約500名余りの学生が参加した。これは、業界別に具体的な説明をしたものであり、就職活動をスムーズに進めるためにも必要であったと推察されるため、次年度も検討する。

また、講師は本学教員ならびにキャリアセンター職員が担当したが、企業担当者に来校頂くことも併せて検討したい。

⑧保護者対象就職説明会

説明会の開催時期については賛否があるものの、就職解禁月までに実施することは不変である。例年、大学は5月下旬、短大部は11月下旬の開催となるものの、次年度の解禁月は3月1日となるため、今まで通りの開催予定で実施することが望ましいと判断する。

説明会においては、参加する保護者に対しての内容を再検討することが望ましいと考えており、来期は、就職支援内容に加え保護者としてのサポートについての内容を充分加味したい。

キャリアセンター 就職課長 清水康司

Ⅲ. 入試・広報室

【組織と会議】

入試広報室は今年度から入試及び学生募集に関わる全般と大学広報業務全般を担当することとなった。つまり入試委員会と広報委員会の両委員会を担当する事務部門となった。入試広報室の人員構成は入試広報室長他、専任職員（男子）3名、嘱託職員（女子）1名、派遣職員（女子）1名の6名体制で活動した。

1. 入試広報

1) 職員の任務分担

入試業務及び学生募集及び募集広報において①専任職員は学生募集活動全般にわたり高校訪問、説明会参加、キャンパス見学会の企画・運営及びキャンパス見学受け入れにおいて主体となって活動。また入試業務全般に関わった。②派遣職員は主に広告媒体デザイン及びパンフレット（大学総合案内、松商短大ナビゲーション他）や大学広報誌「蒼穹」編集及び制作、オープンキャンパス等のサインなどの制作業務を主に担当した。③嘱託職員は各種営業補助業務（各種ツールの準備）、高校生個人情報データの整理、入試事務処理等の学内業務を主として行った。

2) 厳しい入試環境

地元志向が強まったとはいえ学生募集環境は相変わらず厳しい状況である。来年4月大原学園松本校の開学も将来予定されており事前営業戦略として中信及び南信エリアの本学への志願者が多い中堅校（豊科高校、塩尻志学館高校、田川高校等）に対する攻勢は脅威である。また中間レベル高校生の専門学校志向は高く、松商短期大学部の対象とほぼ重なるために厳しい募集環境である。

（1）25年度入学試験を受けての課題 < P >

1) 各学部での課題

今年度の学生募集及び入試についての課題は次の諸点にあった。①総合経営学部の両学科については学びの特長や資格取得についての特長を明確にし、オープンキャンパス等で志願者の母集団を増加させること。②人間健康学部健康栄養学科については推薦入試、A0入試での入学者を減らし、一般入試やセンター試験での入学者を増やすこと。スポーツ健康学科も同様に予防医療分野、健康づくり分野での人材育成のため、志願者のレベルアップを図ること。③松商短期大学部においては「多彩な学びのフィールド」「取得可能な資格や検定の豊富さ」「短大ならではの社会人基礎力育成」をアピールするほか、高大連携や商業高校、農業高校に対する優遇制度を設けること。

2) 入試区分と入試回数

入試業務においては昨年度と同様、総合経営学部、人間健康学部、松商短期大学部ともに入試区分及び入試回数に変更はなかった。しかし人間健康学部においては合格基準の一部見直しを行い、公募推薦入試の基準評定値を健康栄養学科評定値3.6、スポーツ健康学科3.2とする。健康栄養学科は指定校数や評定値を一部見直す。スポーツ健康学科のA0入試において基礎学力や学ぶ意欲を観るために健康栄養学科と同様に模擬授業を課す。

3) 高校生への広報活動

高校での説明会、会場形式の相談会等は、唯一高校生個人との直接対話ができる好機であり、精査して参加した。また、高校へ出向いての出前講義、学内へ高校生を招くオープンキャンパスにも力を注ぐ。

（2）重点を置いた活動とその結果 < D >

大学開設12年、人間健康学部は7年目を迎え知名度も県内を始め隣接県にも認知され、進学情報誌やWeb媒体を通じた資料請求も含め12,000件（人数約8,900人）を超えた。しかし、昨年と同様のオープ

ンキャンパスの動員は累計数で1,805人(前年度1,963人)、92%にとどまった。特に健康栄養学科希望者の参加累計数が329人から160人と半減したのが大きく響いた。

キャンパス見学会は6月～10月まで計6回(内1回は松商短大一日体験入学)実施、入試相談会は10月、11月、1月と計3回(4日間)実施した。今期は高校教員対象の学生募集説明会を6月2回(長野会場、松本会場)にし、山梨県、新潟県上越地区の高等学校にも案内した。今期は山梨県下1校含め参加高校数は37校40名(前年度は春期、秋期の3日間、2会場で42校、55名)であった。高等学校での説明会にも積極的に参加。高校訪問は長野県下を中心に山梨県、新潟県は積極的に訪問した。特に山梨県、新潟県の高等学校や各会場での説明会・相談会にも積極的に参加した。石川県、富山県、静岡県、群馬県の説明会にも数は少ないが参加した。また、今期は初めて沖縄県の会場説明会に参加した。進学情報誌、進学情報Web媒体による学生募集も効果的なものを使用し、オープンキャンパスのシャトルバスも運行先を増やしたが思ったように集客できなかった。特に健康栄養学科希望の生徒数が半減となり、志願者減にもつながった。予備校や他大学から栄養系希望者が全国的に減少したとの情報もあった。本学の場合は長野県短期大学の4年制化、新県立大学の管理栄養士養成課程設置予定という影響もあったのか、また隔年変動で谷間に入ったのか志願者も推薦入試段階から減少し結果的には100人の志願者減となった。

1) 進学説明会・相談会(進学ガイダンス)

一般会場(ホテル等)での業者主催説明会は長野県を中心に山梨県、新潟県、静岡県、群馬県等にも参加した。その数は118回、延べ793名(※名簿が入手できた人数)の高校生と面談した。昨年比16回減らしたが面談した人数は363名減となり業者主催会場形式の高校生動員数もかなり減っており、説明会の多さに高校生も嫌気がさしている状況がうかがわれる。

2) 高校での説明会

業者主催及び高等学校主催合わせて149回の説明会(系統別、個別相談、模擬面接等)に参加し、延べ2,434名(※名簿が入手できた人数、接触した数は更に多い)の高校生と面談した。模擬面接については、重点高校以外はなるべく減らした。これでも昨年比微減でしかなかった。

3) 高校での出前授業・模擬講義(業者主催、高等学校主催)

高校での出前授業は年間79回、長野県内中心であるが新潟県、山梨県でも実施した。高大連携による模擬講義は61回、オープンキャンパス(ミニ講義、体験講座含む)や大学見学における模擬講義は58回となる。高校での出前講座、模擬授業は積極的に受けるよう出前講座及び研究者総覧のパンフレット(合本)を県内中心に一部県外各高校にも配布した。ただし制作数量が少ない割には費用が掛かるため次年度に向け効率化を図り、ホームページ上で見られるようにしたい。

4) オープンキャンパス

オープンキャンパスは学生募集において極めて有効なイベントである。今年オープンキャンパス6回(内8月18日開催は松商短大一日体験入学と高校1、2年対象見学会)、春のオープンキャンパス(平成25年3月20日実施)を1回実施した。参加高校生の累計は1,805名(昨年度1,963名)、前年比-8%減。高校3年生の実数は794名(前年985名)、前年比-20%の減少であった。

総合経営学科の参加者累計は278人(前年264人)、3年生素数は129人(前年141人)、観光ホスピタリティ学科164人(前年202人)、3年生素数は90人(前年103人)、健康栄養学科の参加者累計は299人(前年400人)、3年生素数は107人(前年185人)、スポーツ健康学科累計は350人(前年351人)、3年生素数は153人(前年195人)であった。松商短大の参加者累計は509人(前年604人)、3年生素数は253人(前年292人)という数字であった。

5) M@tsu.navi(マツナビ)の育成及び研修

学生募集に関わる広報活動(オープンキャンパス、高校生及び保護者の大学見学他)を支援する学生自治組織(M@tsu.navi)(マツナビ)に改組して今期で9年目を迎えた。今期も新生が多数の参加申し込みがあり、入試広報室とマツナビ役員とで面接をし、志望理由を確認したうえで参加登録した。登録

した学生には高校生、保護者、高校教員に十分対応できるよう知識、説明能力、マナー、コミュニケーション能力を身に付けさせるために年間を通じて9回の研修会・勉強会を実施した。オープンキャンパス事前研修等も都度実施した。12月、1月のEQ講座及び研修、2月の研修等は恒例化しており効果がみられる。学生は他学部、他学科の内容を理解することやコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力育成には大いに役立っている。マツナビでの活躍が就職活動にも好影響を与えている。また、オープンキャンパスでマツナビに接触した高校生が活動をしたくて志願したというくらい学生募集にも効果的である。今後も学生の自治活動組織として入試広報室のサポートの元、年間計画立案、研修等の全てを、リーダーを中心に学生が主体で実施する。尚活動や研修に関わる予算は後援会から出ている。

①「2014年度版短大ナビゲーション（サブパンフレット）」の制作

大学案内（総合パンフレット）を補佐する冊子。短期大学希望者に学生生活を学生目線で編集した内容とした。総合パンフレットでは表現できない点にフォーカスし、17フィールドと資格や検定との関連性、各ゼミを分かりやすく紹介するなど高校生には理解しやすいとの評判である。

②「松本大学・松商短大 学費インフォメーション（チラシ）」の制作

経済的に厳しい環境であり、高校生の保護者や高校生、高等学校教員も学費免除制度には関心が高いため本学の学費免除制度、松本大学の学力特待生制度、松商短大の特待生制度（特待生：学力、学力推薦、経済支援推薦）の他、入学金免除制度（①有資格者優遇制度、②兄弟姉妹優遇制度）のチラシを制作し、高校生や保護者、高等学校に配布した。また、強化部、重点部及びそれに準じた個人競技者対象の特待生含み、特待生28名（Ⅰ種、Ⅱ種、Ⅲ種学力特待及びスポーツ特待含む、松商特待を除く、また被災者支援対策で授業料の半額減免2名も含まれる。）。短期大学経済支援特待2名、学力特待4名、有資格者優遇者16名（内、3名は特待生と重複）、兄弟姉妹優遇者18名が対象となり入学した。

6) 平成26年度入試結果

今期の学生募集活動結果、志願者・入学者数は別表のとおりである。総合経営学科の入学者数は定員の1.13倍、観光ホスピタリティ学科1.07倍、健康栄養学科0.81倍、スポーツ健康学科1.30倍、松商短期大学部は1.04倍となり健康栄養学科は定員に満たなかった。総合経営学部両学科の志願者は地元志向傾向もあって昨年とほぼ同数であった。総合経営学部両学科は志願者も昨年比若干名の増加、しかし人間健康学部は志願者を減らした。特に健康栄養学科は昨年比100人減、約40%の減少であった。特に推薦入試での減少は大きかった。全国的に栄養系志望者の減少と本学の健康栄養学科が入りにくくなったというイメージとが重なったことが志願者減の要因と考えられる。また、期待した一般入試、センター入試でも志願者を減らした。特に上位校で「入学を望むレベルの高校」からの志願者が減ったことが目に付く。一般入試、センター入試での合格者の歩留まりも3割前後であった。松商短期大学の志願者は昨年比10%の減、同様に入学者も10%の減となった。中信地区の常連校からの志願者が半減したのが大きい。経済的影響で就職希望者が増加したのではないかと考えられる。

①総合経営学科

今年も、地元志向が強いのか昨年より若干ではあるが志願者が増えた。推薦入試、A0入試での志願者はほぼ横ばいであったが、一般入試A、センター利用Ⅰ期入試でのそれぞれ増加し入学者も若干ではあるが増加した。国立大（信州大学）の滑り止めとして考える中堅から上の高校生が増えたと考えられる。推薦入試、A0入試での入学者は80%を超えた。

②観光ホスピタリティ学科

例年通りの志願者で、学科に特徴となるものがないのか、うまく伝わらないのか推薦入試もA0入試も増加しない。一般入試、センター利用入試も若干志願者を減らした。全体で10人志願者減は入学者の10人減につながった。定員は確保できたが希望するような志願者増加にはまだ程遠い状況である。

③健康栄養学科

今期は15人の定員割れという結果に終わった。指定校推薦での減少、特に推薦前期では14人の志願者ということで昨年比30%にとどまった。また推薦後期も昨年比20%まで落ち込んだ。一般入試、セン

ター利用入試でも昨年比 20%強の減少であった。推薦入試、A0 入試で計画通りの入学者が確保できなかったのが大きい。一般入試、センター利用入試での出願も少なく定員割れにつながった。しかし、国家試験を考えると一定の学力レベル確保は求められる。昨年は栄養系に人気が集まり競争率が上がったこともあってか栄養系が避けられたということや県外の大学で評定値を下げての推薦入試合格者を増やしたことも影響したか、本学の昨年の国家資格合格率の低さも影響したとも考えられる。次年度に向けて推薦入試基準の見直しや指定校推薦の枠数の見直しなども必要である。

④スポーツ健康学科

志願者は対前年比若干減少した。各入試区分も大きな変動はなかった。女子の志願者数 82 名と全志願者の 42%を占めるようになった。また、中堅から上の高校からの志願者が 3 割程度までに上がってきている。更に今後は予防医療（健康づくり）分野の人材が求められることや公立学校の教員を目指す高校生の志願者を増やしていく必要がある。

⑤松商短期大学部

短大志願者は昨年比 30 人ほどが減少した。定員は何とか確保できたものの厳しい状況である。特に本学の短大部常連校 2 校からの志願者が減ったことが大きい（昨年：33 が今年：14）。経済的に厳しく進学をあきらめ就職に進路変更した高校生が多いということも影響している。また、相変わらず幼児教育、保育系希望者や専門学校希望者が多いことも影響している。

（3）評価検討 < C >

1) オープンキャンパスへの集客数について

今年は前年に比べ 3 年生のオープンキャンパスが減り、特に健康栄養学科では累計で 100 人、3 年生素数では 80 人近い減少であった。地元志向が強くなったと言われたが健康栄養学科については全くそのような感じはしなかった。志願者も前年比 100 人の減少を裏付ける格好になった。松商短大についても同様で松商短大希望の累計も 100 人の減、3 年生の素数も約 40 人の減少であった。健康栄養学科については全国的な栄養離れという傾向の表れか、新国立大学問題の影響なのか、それとも昨年度の国家試験の合格率の低さが影響したのか、特にこれという理由が見つからない。ただ全体的に高校生の集客数が減少傾向にある。日程の問題なのか、回数の問題なのか、来期は日曜日開催を検討する。

2) 学部学科毎のオープンキャンパス参加者数と入試の志願者数

オープンキャンパスでの参加者数は総合経営学科で昨年とほぼ同数であったが、観光ホスピタリティ学科は微減、志願者は両学科とも微増となった。地元志向が高くなった影響も考えられる。人間健康学部の健康栄養学科はオープンキャンパス参加者昨年比約 100 人の減となったがスポーツ健康学科はほぼ同数、志願者で健康栄養学科は昨年比 100 人減、スポーツ健康学科も微減となった。健康栄養学科にお

| 学部・学科 | | 2015 年度入学試験 | | |
|------------|-------------|-------------|-----|------------|
| | | 志願者 | 合格者 | 入学者 |
| 総合経営学部 | 総合経営学科 | | | 20 |
| | 観光ホスピタリティ学科 | | | 16 |
| | 小計 | | | 36 |
| 人間健康学部 | 健康栄養学科 | | | 8 |
| | スポーツ健康学科 | | | 16 |
| | 小計 | | | 24 |
| 松商短期大学部 | 商学科 | | | 20 |
| | 経営情報学科 | | | 20 |
| | 小計 | | | 40 |
| 合 計 | | | | 100 |

いては様々な影響が考えられるが、昨年の志願倍率による隔年減少が全国的に広がったという見方も大手予備校では分析している。本学においては管理栄養士国家資格の合格率の低さが影響したか、県立大学問題の影響等複数の要因が考えられる。

(4) 今後の課題 < A >

来年の募集に向けて全学を通して志願者増の施策をする必要がある。

1) 総合経営学部について

総合経営学部両学科についても同様に学科の特長を明確に打ち出す必要や学科を超えた魅力ある施策をとる必要がある。両学科とも推薦入試、AO入試により予定通りの人数を確保することが先ずは重要である。特に観光については資格や検定など特に女子高校生に訴えるようなカリキュラムを出していくことが望まれる。新年度からは公務員対策講座も始まるので地域政策と絡め、役所関係への就職などをアピールすることも考えられる。総合経営学科は信州大学の併願校としての位置づけまで持ち上げる必要がある。これも地域で公務員として就職が可能である。また地域の企業への就職率をアピールする。オープンキャンパスや説明会でこまめに伝えていくことが必要。

総合経営学部で編入学生はあったものの、人間健康学部はゼロという状況であり、今後各短期大学等に募集活動及び広報活動を積極的に行う必要がある。編入学指定校推薦入試についても学部・学科によって検討する必要がある。健康栄養学科の編入学試験は難しいものの栄養系の短期大学からの編入学志願者を増やしたい。

2) 人間健康学部について

特に健康栄養学科においては入学者 65 名ということで定員割れをしており、入学者の学力レベルを上げることも必要であるが、先ずは多くの志願者を増やすことが第一である。そこで、指定校推薦入試や AO 入試での受験生を増やすための施策が必要である。また国家試験合格率を上げることも重要なポイントである。

スポーツ健康学科も落ち着いた感はあるが更に健康づくり分野、教育分野での卒業生の活躍等を強く打ち出し、質量ともにレベルアップすることが必要である。松商短期大学においてはより具体的な学生募集の施策（高大連携等）を実行する必要性に迫られている。また、今まで以上に専修学校（専門学校）との差別化、資格・検定にプラス社会人基礎力など社会人として必要な能力の開発ができることをアピールすることが重要、また就職先等で差別化が必要である。

人間健康学部の健康栄養学科については定員割れをしたこともあり推薦入試、AO入試で定員の半数近くまでを確保することを目標に推薦基準の見直しが必要である。指定校推薦対象校、指定校推薦評定値基準、公募推薦評定値基準の見直しも一部必要がある。また選択肢に管理栄養士国家試験合格率が影響していることもあり、国家試験合格率を上げる努力も必要である。また本学が育成する“使える管理栄養士”養成をアピールすることも必要である。

3) 松商短期大学部について

松商短大は翌年に大原学園松本校が開校となり、更に厳しい状況が予想されるので松商短大の常連校の志願者を早期から囲い込む必要がある。そのためにも 17 フィールドや多彩な学びと資格取得、好調な就職率、2 年間で学べる経済的メリットを再度アピールする必要がある。

松商短期大学は重要な一年になる。大手専修学校が松本駅前に開校するため中信地域を始め諏訪岡谷地域や伊那方面の高等学校に攻勢をかけている。専修学校との差別化、専門学校では体験・経験できない学びが短期大学にはあることを具体的にアピールすることが必要。特に就職においては何が重要であるかを高校生に伝えていくことで志願者を増やす。オープンキャンパスの時期や回数も見直しをする。多彩な資格や検定も取得可能なことを伝えたい。学生生活の充実した 2 年間もアピールしたい。更には早期からの囲い込み目的で高大連携を特に商業高校とは進める。

4) 編入学への取組

編入学については積極的なPR活動ができなかった。総合経営学部で合計4名、人間健康学部は無かった。人間健康学部については積極的な募集活動が求められる。また総合経営学部においても松商短大からの編入学希望者の積極的な募集とシステムを構築することが必要である。

5) 全体を通して

全体を通して、長野県立大学や長野大学の公立化計画や北陸新幹線の金沢延伸、長野保健医療大学新設等本学の学生募集を取り巻く環境はさらに厳しくなる一方である。確実に定員確保のベースを作る必要がある。同学園である松商学園高等学校との連携を強化し、各学部学科でベースとなる母集団を確保することを目的に出前授業、模擬授業等を開講したい。また確保目標値を設定する。

2. 大学広報

今期から大学広報と入試広報と分け、それぞれ全学広報委員会、全学入試委員会が置かれた。

大学広報では主に大学広報誌『蒼穹』の編集発行、大学公式ホームページの運用管理、大学の様々な情報の媒体へのプレスリリースを担当した。また、大学教職員や学生たちのソーシャルメディアの運用規則（ソーシャルメディア利用ポリシー）の構築を公表し法令・倫理の遵守に努めた。

(1) 広報の活動方針とその実施について < P・D >

1) 広報誌「蒼穹」

今まで大学の記録簿的な扱いであった「蒼穹」を純粋に大学広報誌として位置付けた。配布先は大学関係者及び大学を取り巻く外部の幅広い層に配布した。見やすく、読みやすくするため体裁もA4版、オールカラー刷り、横書きとする。

今年度「蒼穹」の発行は年4回（6月、9月、12月、3月）であり、各号3,000部の発行となった（今までは2,700部）。戦略的に広報するため毎回巻頭特集を組み特色ある取り組みや地域社会から評価されている取り組みや研究活動等を積極的に紹介するようにした。アウトキャンパス・スタディや地域づくり考房『ゆめ』の取り組み、地域健康ステーションの活動、News&Topics、リレーコラム、インフォメーションなどで構成した。（アウトキャンパス・スタディやリレーコラムは各学科のローテーションで担当する。）各号ともタイムリーな内容を主に構成し、各部署の協力を得て記事を掲載できた。

2) 大学ホームページとその運用に関して

大学公式サイト（ホームページ）の再構築に着手した。まず、①発信情報の体系化、ホームページ閲覧者が求める情報を検知しやすく、情報の内容でジャンル分けをし、それぞれを格納・発信するためにコンテンツ化した。過去3年分のデータも同様に分類し再構築した。多角的な閲覧にも対応できるようにした。（CMSシステムの活用）。②基幹システムの入替え、情報の体系化と将来的運用の安定性を確保するため基幹システムの変更と再構築を行った。③運用のための諸契約の見直し、年々容量が増大化する公式サイトを安定かつ快適な閲覧に耐えうるものにするためすべての契約を見直した。④大学の特色を表現、「元気な大学、楽しい大学」から松本大学の特色をはっきり打ち出すことで他大学との差別化を図った。「地域連携活動」「アウトキャンパス・スタディレポート」「COC事業ポータルサイト」「イベント・公開講座」「WEBキャリア図鑑」などで30程度の更新コンテンツで本学の特色を打ち出した。⑤受験生や保護者を意識したコンテンツの展開と充実、公式ホームページのコアターゲットは受験生（高校生）であるため、10代の高校生が理解できるような見やすい運用を心掛けた。さらに「入試情報サイト」ではユーザーニーズを踏まえ、スマホやタブレットでの閲覧ができるよう対応した、LIENやFaceBookなどSNSを積極的に取り入れた。現在本学LINEのユーザーは約半年間で800名を超えた。⑥ブランドイメージとアカデミックイメージの構築、システムだけでなく大学らしさ、松本大学らしさを表現するため業者を選定し、ビジュアルデザインにもこだわりブランドイメージ構築に力を入れた。

3) 長野県私立短期大学協会による短大広報のポスターについて

本学の意見が大いに参考にされ、魅力的なポスターが作成できた。これが県内私立短大の学生募集に

繋がった

(2) 広報活動の成果と今後 < C・A >

1) 広報誌「蒼穹」

リニューアルした広報誌が大学からの情報発信としての機能を発揮できるようにと考え、特に高校にはこれまで校長宛だけに送付していたが、進路指導室にも拡張しようと考えている。この効果が図れるのも、今しばらくの時間が必要と思われる。

2) 大学ホームページとその運用に関して

大学ホームページについては、委託業者オリジナルシステムを廃止、CMS を採用することで、拡張性や柔軟性、またセキュリティや安定性も向上した。これにより大学の公式ホームページ、未だ一部ではあるが運用が業者に依存せずできるようになった。

設置サーバーやネットワーク仕様を見直した。同時にサイト周辺の全情報を入試広報室で一元管理できることにつながり、定期的な仕様検討や変更が可能となった。

他大学からも見やすく、細かいところに配慮された良いホームページだと賞賛されるケースも増えてきている。今後このように改善されたホームページを学生募集につなげていく必要がある。

3) 長野県私立短期大学協会による短大広報のポスターについて

このポスターが県内私立短大の学生募集にどの程度繋がったかについては、十分には評価できないが、体育大会と広報が協働で実施されている目に見える活動となっている。

執筆担当者 入試広報室長 中村文重

第6部 資料

I. 平成25年度委員会構成

【理事会組織】

| 上位組織名 | 組織名 | 全学委員長名 | 健康科学研究科 | 総合経営学部(委員) |
|-------|--------------|----------|---------|------------|
| | 1 常任理事会 | 学長 | | |
| | 2 理事会 | 学長・(副学長) | | |
| | 3 大学委員会 | 学長・(副学長) | | |
| | 4 理事・大学連絡協議会 | 学長・(副学長) | 研究科長 | 学部長 |

【大学組織】

| 上位組織名 | 組織名 | 全学委員長名 | 健康科学研究科 | 総合経営学部(委員) |
|----------------------|----------------------|-----------|---------|--|
| 全学運営委員会 | 1 全学運営会議(執行機関=内閣的) | 議長(学長) | 研究科長 | 学部長 |
| 全学協議会 | 2 全学協議会(決定機関=国会的) | 議長(木村) | 研究科長 | *学部長・学科長 |
| 学 長 住 吉 | 3 教務委員会(全学) | 岩間 | | #林・尻無浜/田中浩・葛西 大石・佐藤(哲) |
| | 4 学生委員会(全学) | 斉藤 | | #兼村・益山/小林俊・矢崎 眞次・寄藤 |
| 健康科学研究科長 三 村 | 5 入試委員会(全学) | 上野 | | *#上野・増尾/田中(浩)・矢崎・成 大石・佐藤(哲)・(太田)・(白戸) |
| | 6 広報委員会(全学) | 太田◇ | 江原 | *#太田・葛西・山根 |
| 総合経営学部長 木 村 | 7 就職委員会(全学) | 藤波◇ | 根本 | #畑井・矢崎/成・清水・八木 佐藤(哲)・寄藤 |
| 総合経営学科長 太 田 | 8 教育支援会議 | 議長(山添) | | 学科長 |
| 観光文化・リテラ学科長 白 戸 | 9 高大連携推進委員会 | 山添◆ | | #尻無浜・兼村 |
| | 10 教育企画推進委員会 | 糸井◇ | | #太田・白戸 |
| 人間健康学部長 等々力 | 11 地域連携戦略委員会 | 木村◆ | | 就職委員会主任・広報委員会 委員長・教務委員会主任 |
| 健康栄養学科長 廣 田 | 12 研究支援会議 | 議長(住吉) | | |
| スポーツ健康学科長 吉 田 | 13 研究推進委員会 | 山田 | 研究科長 | 学部長・学科長 |
| | 14 研究誌編集委員会 | 山田 | 山田 | 学部長・学科長 |
| 松商短期大学部長 山 添 | 15 松本大学出版会 | 山添◆ | | 学部長 |
| 商学科長 糸 井 | 16 地域総合研究センター運営委員会 | 住吉◆ | 山田 | 増尾 |
| 経営情報学科長 藤 波 | 17 研究倫理委員会 | 三村◆ | 江原 | 葛西 |
| | 18 動物実験委員会 | 三村◆ | 呉 | — |
| 事務局長 小 倉 | 19 遺伝子組換え実験安全委員会 | 三村◆ | 山田 | — |
| 学生センター長 松 尾 | 20 自己点検・評価会議 | 議長(住吉) | 研究科長 | 学部長・学科長・4委員長 |
| | 21 F D・S D委員会(全学) | 高木 | 江原 | #成・眞次 |
| | 22 規程整備委員会 | 木村◆ | | #矢崎・畑井 |
| | 23 認証評価対策委員会 | 上野 | | *#上野 |
| | 24 I R推進委員会 | 浜崎 | | 上野 |
| | 25 センター入試委員会 | 松原 | | 田中(正)・益山 |
| エクステンション機構 (教育部門) | 26 エクステンション機構(教育部門) | 機構長(等々力◆) | | 学部長・学科長 |
| | 27 教職センター運営委員会 | 小林輝 | | 学科長・教務主任 |
| | 28 資格取得支援センター | 林 | | *#林 |
| | 29 共通教養センター | 等々力◆ | | #大石・田中(正) |
| | 30 キャリア教育センター運営委員会 | 糸井◇ | | |
| | 31 基礎教育センター運営委員会 | 福島(智) | | #小林(俊)・尻無浜・清水 |
| | 32 情報センター運営委員会 | 浜崎 | | #室谷・畑井・小林(俊) |
| | 33 国際交流センター運営委員会 | 白戸◇ | | *#白戸・小林(俊) |
| | 34 地域健康支援ステーション運営委員会 | 廣田◇ | | — |
| | 35 地域づくり考房「ゆめ」運営委員会 | 廣瀬 | | #佐藤(哲)・林 |
| | 36 図書館運営委員会 | 図書館長(篠原) | | 山根・小林(俊) |
| エクステンション機構 (管理部門) | 37 エクステンション機構(管理部門) | 機構長(小倉◆) | | 学部長・学科長 |
| | 38 健康安全センター運営委員会 | 三村 | | #矢崎・中澤 |
| | 39 施設管理センター運営委員会 | 小倉◆ | | 学部長 |
| | 40 人権会議 | 議長(犬飼) | | 学部長・学科長 |
| | 41 ハラスメント防止委員会 | 犬飼 | 研究科長 | 清水・眞次・八木/ 学部長・学科長 |
| | 42 人権教育委員会 | (全学)学生委員長 | | 学生委員会主任 |
| | 43 個人情報保護委員会 | 吉田◇ | | 学部長・学科長 |
| | 44 危機管理委員会 | 議長(吉田◇) | | 学部長・学科長 |
| | 45 防災対策委員会 | 室谷 | | *#室谷 |
| | 46 環境保全委員会 | 中澤 | | *#中澤 |

◆：全学運営会議メンバー ◇：学科長 *：全学代表 #：学部主任 /以降：学部内委員

| 人間健康学部（委員） | 短期大学部（委員） | 事務局（担当）など |
|------------|-----------|-----------|
| | | 事務局長 |
| | | 事務局長 |
| | | 事務局長 |
| 学部長 | 学部長 | 事務局長 |

| 人間健康学部（委員） | 短期大学部（委員） | 所管部署：担当者 アンダーライン：実務者 |
|-----------------------------|---------------|-----------------------------------|
| 学部長 | 学部長 | 事務局長/書記:柴田 |
| 学部長・学科長 | 学部長・学科長 | 事務局長・柴田/書記:松尾 |
| *#岩間・小西/藤岡・呉 | #浜崎・矢野口/山添・藤波 | 教務課（丸山(勝)・上條・宮坂・山本） |
| *#斉藤・矢内/沖嶋・中島(弘) | #川島・篠原/長島・廣瀬 | 学生課（丸山(正)・田中・松澤・関） |
| #山田・大窄/高木・成瀬・田邊 | #金子・山添/糸井・浜崎 | 入試広報室(中村・赤羽・松島・滝澤) |
| #江原・伊藤/福島(智)・中島(弘) | #金子・糸井/山添・浜崎 | 入試広報室(中村・赤羽・松島・滝澤・(柄山)) |
| #犬飼・矢内/杉山・石原・根本 | #長島・*藤波/飯塚・木下 | キャリアセンター(清水・中村・白澤・片庭) |
| 学科長 | 学科長 | |
| #大窄・等々力 | *#山添/飯塚・金子 | 管理課：白井・中田 |
| 学科長 | *#糸井・藤波 | 管理課：白井・丸山(勝)・中田 |
| 就職委員会主任 教務委員会主任 | 就職委員長・(福島(明)) | 清水・田嶋 |
| | | |
| 学部長・学科長 | 学部長・学科長 | 管理課：白井・中田 |
| 学部長・学科長 | 学部長・学科長 | 管理課：白井・松田 |
| 学部長 | *#学部長 | 総務課：柴田・松田 |
| 中島(節) | 飯塚 | 総務課：柴田・松田 |
| 福島(智)・江原 | 糸井 | 総務課：柴田・中村(礼)・(筒井) |
| 高木・沖嶋・呉 | 川島 | 総務課：柴田・中村(礼)・(筒井) |
| 江原・山田・沖嶋 | — | 総務課：柴田・中村(礼)・(筒井) |
| 学部長・学科長 | 学部長・学科長 | 総務課：柴田・白井・松田 |
| *#高木・伊藤・江原 | #松原/中村(純) | 管理課・教務課：白井・丸山(勝) |
| 高木・斉藤 | 川島・飯塚 | 総務課：事務局長・柴田・白井・西澤 |
| 呉 | 浜崎/学部長・学科長 | 事務局長・柴田 |
| 学科長 | *#浜崎 | 柴田・山本・松尾・伊藤・片庭 |
| 石原・大窄 | *#松原・矢野口 | 松尾・赤羽・伊藤・滝澤 |
| *#学部長・学科長 | 学部長・学科長 | 事務局長・柴田・丸山(勝) |
| 学科長・教務主任 等々力(機構長) | — | 教務課：中牧・田嶋・(小野) |
| 岩間 | — | 教務課・情報センター：中牧・田嶋・(小野)・松尾・(柏原) |
| 進藤・大窄 | — | 丸山(勝) |
| | *#糸井 | 教務課・キャリアセンター：丸山(勝)・清水・中村(高)・白澤・片庭 |
| *#福島(智)・田邊 | 矢野口・長島 | 教務課：丸山(勝)・(鈴木) |
| 成瀬・大窄 | *#浜崎・木下 | 情報センター：松尾・伊藤・(柏原) |
| #藤岡・江原 | 藤波・中村(純) | 国際交流センター：小池 |
| *#廣田・吉田 | — | 総務課：石渕・(筒井) |
| 廣田・中島(節) | 廣瀬・(福島(明)) | 教務課：丸山(勝)・(大石) |
| 杉山・田邊 | *#篠原・糸井 | 図書館：田巻・(神田)・(松島)・(小林) |
| 学部長・学科長 | 学部長・学科長 | |
| 江原 | 川島・廣瀬 | 健康安全センター：脇本・丸山(正)・小田切・事務局長 |
| 学部長 | 学部長 | 総務課：柴田・(腰原) |
| 学部長・学科長 | 学部長・学科長 | |
| 伊藤・福島(智)・中島(節) / 学部長・学科長 | 金子・川島/学部長・学科長 | 白井 |
| 学生委員会主任 | 学生委員会主任 | 学生課：丸山(正)・田中 |
| 学部長・*#学科長 | 学部長 | 松尾・伊藤・(柏原)・丸山(勝)・白井 |
| 学部長・*#学科長 | 学部長・学科長 | 総務課：柴田・白井 |
| 呉 | 川島・木下 | 柴田・丸山(正)・清水・白澤・中村(礼) |
| 杉山 | 篠原 | 白井・丸山(正) |

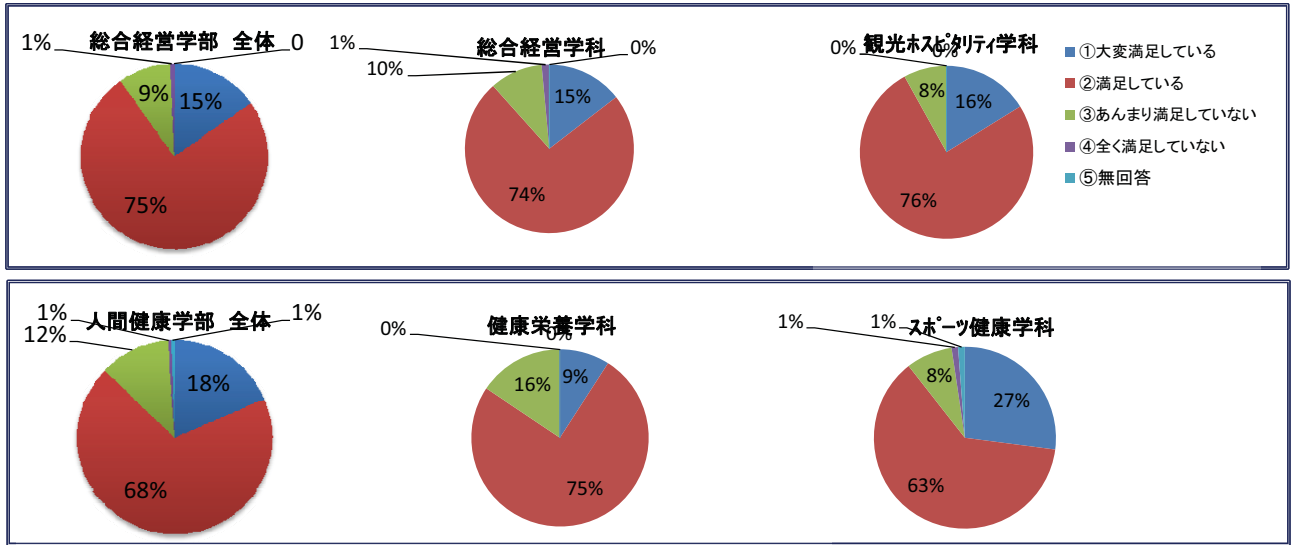
平成25年4月24日版

質問1. 所属について

| | 総合経営学部 | | | | | | 合計 | 人間健康学部 | | | | | | 合計 |
|--------|--------|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|--------|-----|-----|--------|------|-----|-----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| 卒業予定者数 | 54 | 20 | 74 | 39 | 33 | 72 | 146 | 3 | 76 | 79 | 64 | 24 | 88 | 167 |
| 回収数 | 51 | 18 | 69 | 33 | 29 | 62 | 131 | 3 | 74 | 77 | 61 | 24 | 85 | 162 |
| 回収率 | 94% | 90% | 93% | 85% | 88% | 86% | 90% | 100% | 97% | 97% | 95% | 100% | 97% | 97% |

質問2. あなたは所属学部の教育に満足していますか。

| | 総合経営学部 | | | | | | 合計 | 人間健康学部 | | | | | | 合計 |
|--------------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|--------|----|----|-----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 8 | 2 | 10 | 4 | 6 | 10 | 20 | 0 | 7 | 7 | 16 | 7 | 23 | 30 |
| ②満足している | 38 | 13 | 51 | 24 | 23 | 47 | 98 | 2 | 56 | 58 | 37 | 16 | 53 | 111 |
| ③あんまり満足していない | 4 | 3 | 7 | 5 | 0 | 5 | 12 | 1 | 11 | 12 | 7 | 0 | 7 | 19 |
| ④全く満足していない | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| ⑤無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 |



【理由等】

総合経営学科

先生方の授業内容がとても分かりやすい。
 経営の基礎をまなべた。
 講義等は充実していたと思う。
 自分の進みたい道を見つけることができたから。
 社会に出てからの使える知識を身につけることができた。
 必要な知識を得られた。
 とても良い勉強ができた。
 普通だから。
 社会へ出て使える知識を学べた。
 社会に出てから必要なスキルを身に付けることができました。
 単位を取ることが大変だったが、いい勉強になった。
 経営について幅広く学ぶことができました。
 学びたいことを学べた。
 さほど目立たずひっそりと活動しているのが自分に合っていたと思います。
 高校が商業科だったので、自分の興味ある分野を学べたから。
 学びたいことを学べたので。
 就職活動の際、学んだ知識を活かして会話を広げることができたため。
 授業レベルがあまりに低いため
 経営についてはもちろん、その他の幅広い分野において学ことができたから
 親身な先生方がいる。
 経営学に関する全般の知識の蓄積が出来たと思います。
 経済についてより深く学ぶことができ、今後に活かせると感じたから。
 将来に役立つ事を学ぶことが出来たのか今になって疑問に思ったので。
 なにも利点がない。
 自分の学びたいことが学べてよかったです。
 多くを学べた。
 ほど良い教育
 資格の勉強をすることができ、検定に合格したりしたから。
 様々なカリキュラムがあり、いいと思います。
 観光の学生と一緒に嫌な授業があった。
 各自が好きなように勉強すればいいというスタンスが自分に合っていました。
 他学部より社会に出て役立つ知識だったと思う。
 総合経営学部で良かったと思っています。
 先生の教え方がうまいから。
 総合経営学部の先生方は皆とても親切に教えてくれたので、満足しています。

観光ホスピタリティ学科

楽しかったから。
 地域に貢献していて良いと思います。
 経営についてたくさん学べました。
 社会に貢献していて好きだ。
 主に福祉科目を履修していたが、多くの先生方にお世話になり、とても良い先生方と出会えたと感じる。
 観光ではあまり経営のことを学ぶことができなかった。
 多種多様な分野が学べ、教養が深められた。
 経営について学べて良かった。
 幅広い分野について学べるから。
 幅広い教育を受けられたので進路(就職活動)で役立ちました。
 自分の学びたいことを学び、学内だけでなく学外(アウトキャンパス)を充実していて満足です。
 経営について多くのことを学びました。就職後も使える知識だと思います。
 自分のゼミの先生以外の先生も親身になって助けてくれた。
 楽しく学べた。
 アウトキャンパスやフィールドワークができるから。
 経営などの基本的なことを学べたと思います。
 先生方も熱心に指導してくださったから。
 基本的にはどの分野にも応用できる講義が多かったと思います。
 地域に密着した講義もあり、いろいろなことを学ことができました。
 講義等を除いても数々のよい先生達にすてきな人生も勉強をさせて頂いた。
 経済やワードなどパソコンについて学べた。
 ホスピタリティについて、コミュニケーションについて学べた。この先の人間関係にも役に立つと思う。
 さまざまな分野について学べたから。
 良い先生方に恵まれ良かった。
 たくさんの種類の科目があり、社会にでて役立ちそうなことを学べた。
 他分野の講義を受けることができたから。
 この大学に来て、松本大学に所属したからこそできる体験をたくさん味わえたので。
 資格対策がたすかった。
 国内旅行業務などの資格もとれるから。
 地域の方々と触れ合えたから。
 目当ての資格を取得できた。
 総合経営学部では経営の勉強だけでなく、経営以外の知識も学べたので良かったと思います。
 分かりにくい授業もありますが、分かりやすい授業があった。
 人と接するのが好きで、講義の中でマナーやホスピタリティなどを学べて自分の為になった。
 もっと分かりやすく科目や単位設定をした方がよい。
 おもしろかったが観光を学んだのか疑問。
 学校の授業でしかいけないとこにいけたりしてたのしかったです。
 内容の濃い勉強ができたと思います。
 まちづくりが学べるから。
 観光学についてまなべた。

健康栄養学科

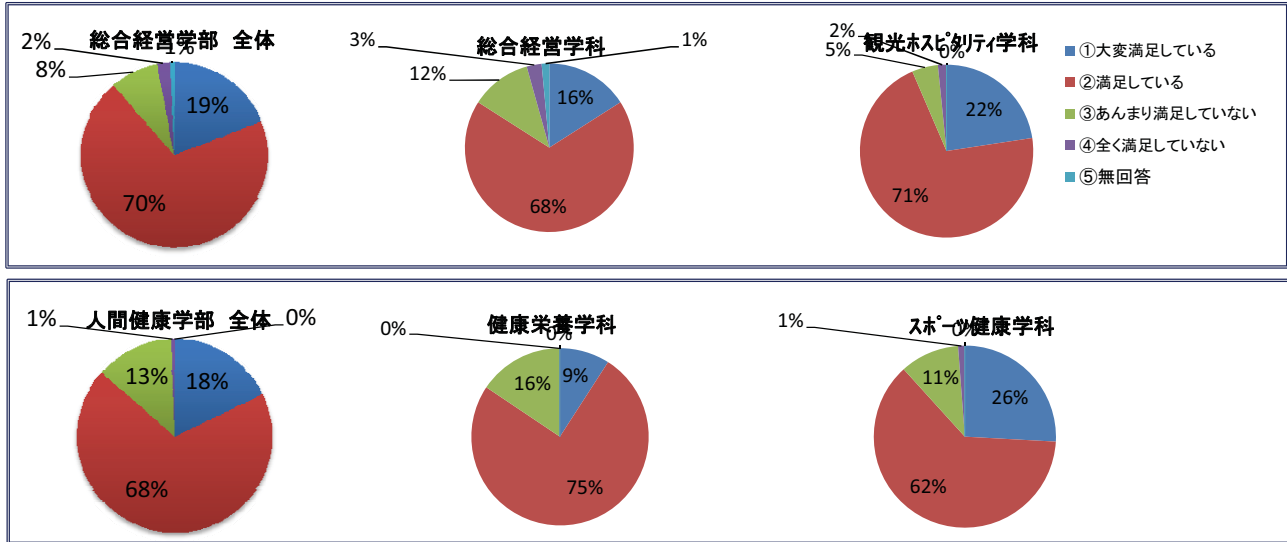
先生方がとても熱心に指導してくれてとても成長できた。
 満足しているが、学部の教育が何だったのかはわからない。
 多くの先生方が講義時間以外も親切に対応してくださって、よかったです。
 先生達が熱心に授業をしてくれるので、有難かったです。
 楽しかったから。勉強にもなった。
 学部を意識することはあまりないです。
 栄養士、管理栄養士としての基礎知識を学ぶため職場で有効になる。
 全ての物事において決まるのが急な気がしました。
 先生たちが熱心だったと思う。
 自分の勉強への意識が低いから。
 先生達が分かりやすく教えてくれる。わからないところを聞いても丁寧に教えてくれる。
 授業の充実、国家試験対策などあらゆる面でサポートしてもらえた。
 管理栄養士の資格を取得できたから大変満足となる。
 教える先生によって教え方にムラがあり、聞いていてつまらない授業もあった。
 難しかった。
 一部満足していますが、他大学と比較するともう少し栄養科らしい取組みがあってもいいのではないかと思います。
 先生方がとても楽しく授業をして下さって感謝しています。ただ、震災の関連で教科書が届かなかった科目について、
 国試の勉強において少し不便だと感じています。
 大学の講義だけでなく、学外でのアウトキャンパスなど様々なことを学ぶことができたため。

スポーツ健康学科

いろいろ学習できたから
 座学だけではなく、実践的なことも多くあるから
 先生が良い人だらけだ
 教授の方々の教え方が分かりやすく、とても楽しかったです。
 いい先生がとても多かったから
 自分が学びたいことを学べた。
 私は孤独な生活をしてきたけど、部活動があつてよかった。
 4年生になってからもっと知識を活かせる場がほしかった。
 思っていたよりも実技が少なかったから
 先生がとても良かった
 学ぶ内容が自分に合っていた。
 あまりにも早く授業が終わってしまう課目もあるので時間いっぱいをお願いしたい。
 年間の授業スケジュールで前期の時は内容一緒なのに後期から授業編成が変わらないで欲しい。
 素晴らしい先生方で充実した学生生活でした
 教職に関する教科書をもっと充実させて欲しい(卒業単位にはならないですか?)
 栄養科の科目をもっと開放して欲しい。(栄養科の先生に無理と言われました)
 最強の先生がそろっている
 不満に思ったことが無い為
 学んだことを生かすことができた
 勉強が難しい
 就職等で親身になって協力してもらった
 もともと好きで入学したため
 ためになる授業が1・2年次にほぼない
 自身が学びたいことが学べました。

質問3. あなたは自分が所属した学科の教育に満足していますか。

| | 総合経営学部 | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | | |
|--------------|--------|----|----|-----------|----|----|--------|---|----|--------|----|----|----|-----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | 合計 | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | |
| ①大変満足している | 9 | 2 | 11 | 7 | 7 | 14 | 25 | 0 | 7 | 7 | 16 | 6 | 22 | 29 |
| ②満足している | 33 | 14 | 47 | 23 | 21 | 44 | 91 | 2 | 56 | 58 | 38 | 15 | 53 | 111 |
| ③あんまり満足していない | 7 | 1 | 8 | 3 | 0 | 3 | 11 | 1 | 11 | 12 | 6 | 3 | 9 | 21 |
| ④全く満足していない | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| ⑤無回答 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |



【理由等】

総合経営学科

学びたい授業が多い。
 可もなく不可もない程度。
 学びたい勉強ができた。
 自分に合った授業を履修し、その授業において自分の中に残ったものが多かった。そして知識を活かし資格の取得などもできた。
 理論的は「経営学」は学べたが、どうやって実際に活かすかなど実践的な学びがしなかった。
 高校までの授業形態とさほど変わらなかった。先生によってバラつきがありすぎる。つまらない先生の講義はほんとに眠くなる程つまらなかった。
 経営関係以外の講義も多く見聞を広められた。
 とても良かった。
 普通だから。
 社会へ出てでも使える知識を学べた。
 自らを高めるために必要な科目が多くありました。
 単位を取ることが大変だったが、いい勉強になった。
 様々な講義があり、知識を深められた。
 もう少し違う学科の授業をとってみたいかった。
 親切な教員がいたから。
 学びたいことを学べたので。
 就職活動の際、学んだ知識を活かして会話を広げることができたため。
 授業レベルがあまりに低いため
 経営について、また経済やマーケティングなどを良い教授から学べたと感じるから。
 親身な先生方がいる。
 より深くマーケティングや経済の状況について学ぶことが出来たので満足しています。
 経済について深く学ぶことができた。
 将来に役立つ事を学ぶことが出来たのか今になって疑問に思ったので。
 なにも利点がない。
 経営学が学べた。
 ほど良い先生。
 資格の勉強をすることができ、検定に合格したりしたから。
 資格をとれるような授業がある。分かりやすい。
 興味がある授業が多かった。
 もう少し深い知識を学べると良いと思った。時事的な物が学べると良い。
 良い先生が多い。
 専門的な事が学べました。
 環境がとても良いから。
 講義もとても分かりやすく教えてくれたし、就職のことなども親身になって聞いてくれたので、とても満足しています。

観光ホスピタリティ学科

専門的な授業を座学ばかりでなく、実践的に学ぶ機会が多いため。
楽しかったから。
アウトキャンパスが多くとても良い体験ができました。
アウトキャンパスが多く、とても楽しかった。そして、地域のことを学ぶ、自分の地域を見直すきっかけにもなった。
先生方が分かりやすく教えてくれているので。
主に福祉科目を履修していたが、多くの先生方にお世話になり、とても良い先生方と出会えたと感じる。
観光や福祉が学べて良かった。
一分野に特化したものと発達したものが学べた。
観光についてだけでなく、様々な方面の勉強をすることが出来たから。
語学系の講義は人数調整があまりうまく出来てないと感じた。受講時期によって講義の内容が異なり、公平さに欠けていたと思う。(中国語など)
もう少し語学系の講義を増やしてくれると嬉しい。
体験を交えたものも多くあったので知識、経験共に充実したものを得られました。
同じ学科の人はやさしくて、観光についての勉強も非常に充実していて、今まで知らなかったことを知ることができましたので良かったです。
学びたいと思っていたこと以上のことを学ぶことができ、満足しています。教室での授業だけでなく、アウトキャンパスなどで外に出る機会も多く楽しみました。
グループワークなどが楽しかったから。
専門的な授業が多く興味ある分野について学べた。
観光に関すること、その他の教育に関して良い学びができたと感じています。
知らないことを多く学べました。
いろんな先生のお話など授業やゼミの中で聞く中で、興味を持つことが出来たから。
今のままで問題は特にないと思います。もう少し分野に特化したような講義があっても良いかもしれません。
観光とひとくちにいってもいろいろなジャンルの勉強ができたので楽しかったから。
地域に密着した講義もあり、いろいろなことを学ぶことができました。
観光の先生には大変お世話になりました。
おもてなし、礼儀作法などが学べた。
ゼミ以外の先生でも親身になって将来のことなど話を聞いてもらうことができたから。
自分で興味のあるものを探していけた。
他の科のことがわからないのでむずかしい。
面倒を良く見てくれる素敵な先生方ばかりで満足している。
自分の興味のある分野について幅広く学べてよかった。
特定分野を掘り下げ、学ぶことができたから。
現場で働いている方のお話などを聞く機会があって、その場の現状を知ることができたので。
資格対策がたすかった。
国内旅行業務などの資格もとれるから。
観光について学べたから。
特に不便はなかった。
観光を勉強することで相手が求めている物やこと、相手に喜んでもらうにはどうすればいいかを学べたのでこれから仕事をしていくときにとても役立つので満足しています。
地域密着型の大学なので地域の人と仲良くなって活動がしやすかった。
この学科のおかげで人と接することが好きになった。
先生達はすごくまじめにやってくれた。
観光について学びたくて入ったのでとても満足した。
ビジネスマナーも含めてよかった。
内容がとてもよかったです。
まちづくりが学べるから。
観光学についてまなべた。

健康栄養学科

良き先生にめぐまれていたと思う。
様々な活動を通して栄養学について学べたから。
多くの先生方が講義時間以外も親切に対応してくださって、よかったです。
質問等もしっかり答えてくれてとても勉強になりました。
専門的な講義の充実と実習内容が良かった。
熱心な先生方がいたから。
授業がわかりにくい。
先生方によって一生懸命指導して下さる方と全くやらない方がおり、かなり差を感じた。
地域の方々と交流出来る機会が多いため。
先生との距離が近く、色々とゼミ担を含め相談出来る先生方が多くいてよかった。
国試対策などをしてくれたため。
もともと栄養について学びたかったわけではなかったから。
栄養や資格のためにたくさんの勉強を身につけることが出来たと思うから。
一時期、学校に来れなくなった時もありましたが、学校に来れるようになってから、他の生徒と変わらぬ対応をしていただき、とても居心地が良かったです。
管理栄養士の資格を取得できたから、大変満足となる。
ゼミ活動がとても良かった。自分の好きな分野を見つけることができ、熱心に取り組めた。
教える先生によって教え方にムラがあり、聞いていてつまらない授業もあった。
こんなに学科として教育はされていないです。
一部満足していますが、他大学と比較するともう少し栄養科らしい取組みがあってもいいのではないかと思います。
実験や実習が充実していることや資格取得のサポート体制が整っているため。

スポーツ健康学科

スポ科の教員は接しやすい
 いろいろ学習できたから
 素晴らしい先生方ばかりで恵まれた環境で勉強することができました。
 資格取得のために入ったのだが、1つの科目を落とし、受験することができなかった。
 その資格取得をするために入学する人が多いので、補講等の支援を行った方が良いのではないかとと思う。
 自己責任でもあるが、もっと理解させるためには必要なのでは...？
 実技科目が少なかった(教職)
 座学だけではなく、実践的なことも多くあるから
 もうちょっと、ビジネス的なことを学びたかった
 一番学びが充実していた
 カリキュラム変更
 先生方との距離が近く、相談等もしやすかった。
 地域密着型で学べたことが1番大きい。
 スポーツを通して様々な人と会えたから
 スポーツについて様々な観点から学べました。
 スポーツの勉強を行うことができたので、よかった。
 自分が学びたいことを学べた。
 身体に対して考えを深め、掘り下げられたなど、貴重な時間であった。
 楽しいことがあった。
 実技がいっぱいあり、やった事のないスポーツもできたがもっとマイナーなスポーツもやってみたかった。
 教員、講師等が充実している
 思っていたよりも実技が少なかったから
 先生がとても良かった
 興味深い内容であった。
 専門的な知識を身につけることができた
 1・2年時の実技を増やしていけたらいいと思う。
 私たちの代は2年時まで再試制度があったが中止になった。だが栄養科は再試があるので再試があるのかないのかハッキリとして欲しかった。
 素晴らしい先生方で充実した学生生活でした
 教職に関する教科をもっと充実させて欲しい(卒業単位にはならないですか？)
 栄養科の科目をもっと開放して欲しい。(栄養科の先生に無理と言われました)
 最強の先生がそろっている
 不満に思ったことが無く、単位取得できなかった授業も自分の責任であるので教育に対して思うことはない。
 学びたいことが学べた
 私生活や態度についても指導してもらえとは思わなかった
 もっと実技があればさらによかった。
 先生方が親身になって色々なことを教えてくださった。
 教授の皆さんがとても良い人ばかりのため
 ためになる授業が1・2年次にほぼない
 自身が学びたいことが学べました。

質問4. あなたが松本大学に入学した動機は何ですか。(いくつでも)

| | 総合経営学部 | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | 合計 | 順位 | |
|-------------------------------------|--------|----|----|-----------|----|----|--------|---|----|--------|----|----|----|----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | | |
| ⑧ 自宅から通学できる | 18 | 16 | 34 | 12 | 19 | 31 | 65 | 0 | 29 | 29 | 22 | 6 | 28 | 57 | 1 |
| ② 『地域に貢献する人づくり』という教育目的に魅力を感じた | 9 | 3 | 12 | 9 | 13 | 22 | 34 | 2 | 22 | 24 | 10 | 5 | 15 | 39 | 2 |
| ⑨ 親、先生などから勧められた | 7 | 2 | 9 | 6 | 6 | 12 | 21 | 1 | 25 | 26 | 17 | 9 | 26 | 52 | 2 |
| ⑪ その他 | 2 | 1 | 3 | 8 | 3 | 11 | 14 | 1 | 21 | 22 | 15 | 10 | 25 | 47 | 3 |
| ③ アウトキャンパススタディ・サポーターシステム等の新しい教育方法に着 | 1 | 0 | 1 | 7 | 5 | 12 | 13 | 0 | 32 | 32 | 4 | 2 | 6 | 38 | 4 |
| ⑩ まだ会社に出たくない | 5 | 5 | 10 | 12 | 3 | 15 | 25 | 0 | 8 | 8 | 12 | 0 | 12 | 20 | 5 |
| ⑦ 学生と教職員の距離が近い | 6 | 2 | 8 | 6 | 10 | 16 | 24 | 0 | 1 | 1 | 7 | 6 | 13 | 14 | 6 |
| ⑤ 良い先生がいる | 7 | 2 | 9 | 6 | 5 | 11 | 20 | 0 | 2 | 2 | 10 | 3 | 13 | 15 | 7 |
| ① 『オーダーメイド教育』という理念に共感した | 5 | 0 | 5 | 3 | 4 | 7 | 12 | 0 | 2 | 2 | 2 | 1 | 3 | 5 | 8 |
| ④ コンピュータなど施設・設備が充実している | 3 | 2 | 5 | 1 | 1 | 2 | 7 | 0 | 4 | 4 | 3 | 2 | 5 | 9 | 9 |
| ⑥ 友達が入学する | 4 | 0 | 4 | 3 | 1 | 4 | 8 | 0 | 1 | 1 | 3 | 0 | 3 | 4 | 10 |
| ⑫ 無回答 | 3 | 0 | 3 | 0 | 1 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 11 |

【その他】

総合経営学科

志望校に合格できず、しかたなく入学した。
親から県外はだめだといわれたから。

観光ホスピタリティ学科

資格取得のため
いい指導者がいたから

健康栄養学科

管理栄養士の資格を取りたかったから。
家から通えるから。
県内にあったので。
管理栄養士を受けることが出来るから。
管理栄養士の資格を取りたかったから。
県内唯一の管理栄養士養成学科があったため。
第二希望で自宅から通学できる松本大学を受験した。
先輩が入学していた。
資格が取れるから。
資格
栄養科があったから
栄養学を学びたかったため。
資格が取得できるから。
県内に栄養を学べるのがこころしかったから。
県内で管理栄養士の資格を取りたかったから。
近場だったから。
オープンキャンパスの雰囲気良かったから。
長野県唯一の管理栄養士養成施設だから。
管理栄養士免許が取れる。栄養教諭免許がとれる。
実家が近い管理栄養士養成施設が松大だったから。
実家から近い(県内であるため)
管理栄養士の国試受験資格が卒業とともにもらえるため。

スポーツ健康学科

取りたい資格があった
滑り止め
スポーツ健康学科の学びの内容、健康づくりとしてのスポーツについて勉強できたから
部活
駐車場が狭い、何でお金をとるのか
オープンキャンパスに参加して、講義が面白かった。施設がきれい。
保健体育の教員免許が取れるから
スポーツについて学びたかった
スポーツの勉強がしたかった
教員免許取得の為
部活で呼ばれたから
県内、スポ科がある
人の体について勉強したかった。
部活の関係で。
兄弟がいた
高校の先生との関わり、部活
やりたいことがなかったから
スポーツしかやってこなく、勉強しなくても入れそうだったから
目標があったため
資格がいくつもとれるから
部活動を続けたいと思った。スポーツに関連する学科がよかった。
免許を取るため

質問5. あなたが松本大学に入学した目的はなんですか。(いくつでも)

| | 総合経営学部 | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | 合計 | 順位 | |
|----------------|--------|---|----|-----------|----|----|--------|---|----|--------|----|----|----|-----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | | |
| ④資格を取りたい | 11 | 9 | 20 | 5 | 14 | 19 | 39 | 3 | 68 | 71 | 28 | 18 | 46 | 117 | 1 |
| ①専門的学識を身につけたい | 20 | 6 | 26 | 7 | 12 | 19 | 45 | 2 | 35 | 37 | 40 | 13 | 53 | 90 | 2 |
| ②教養を身につけたい | 14 | 8 | 22 | 7 | 12 | 19 | 41 | 0 | 4 | 4 | 9 | 2 | 11 | 15 | 3 |
| ⑩自立できる社会人になりたい | 9 | 3 | 12 | 8 | 7 | 15 | 27 | 1 | 13 | 14 | 10 | 2 | 12 | 26 | 4 |
| ⑤良い就職がしたい | 16 | 3 | 19 | 9 | 7 | 16 | 35 | 0 | 3 | 3 | 9 | 3 | 12 | 15 | 5 |
| ⑪自分を見つけたい | 7 | 2 | 9 | 4 | 14 | 18 | 27 | 0 | 6 | 6 | 11 | 5 | 16 | 22 | 6 |
| ⑦部活動を行いたい | 7 | 2 | 9 | 11 | 1 | 12 | 21 | 0 | 2 | 2 | 13 | 7 | 20 | 22 | 7 |
| ⑧親元から離れて生活したい | 2 | 0 | 2 | 3 | 2 | 5 | 7 | 1 | 8 | 9 | 12 | 4 | 16 | 25 | 8 |
| ⑥友人をつくりたい | 5 | 2 | 7 | 10 | 5 | 15 | 22 | 0 | 1 | 1 | 5 | 0 | 5 | 6 | 9 |
| ⑫その他 | 4 | 2 | 6 | 3 | 2 | 5 | 11 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 4 | 4 | 10 |
| ⑨アルバイトをしてみたい | 5 | 0 | 5 | 2 | 2 | 4 | 9 | 0 | 2 | 2 | 3 | 0 | 3 | 5 | 11 |
| ⑬無回答 | 3 | 0 | 3 | 2 | 1 | 3 | 6 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 12 |
| ⑬海外研修を経験したい | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 13 |

【その他】

総合経営学科

高卒がいやだった。
家から近い

観光ホスピタリティ学科

社会貢献活動をしたかった

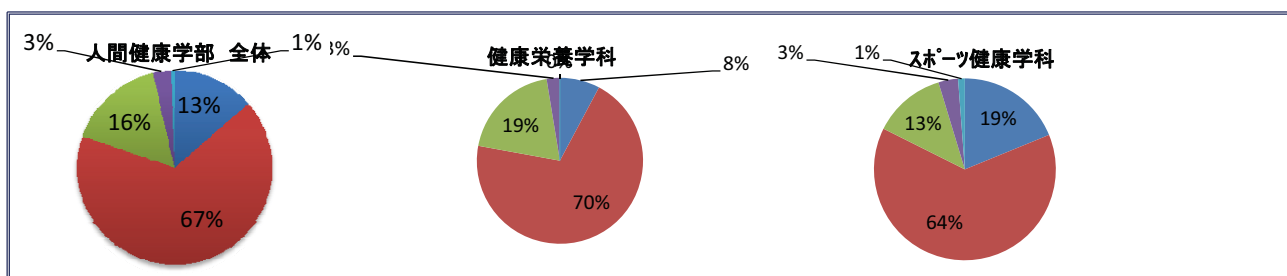
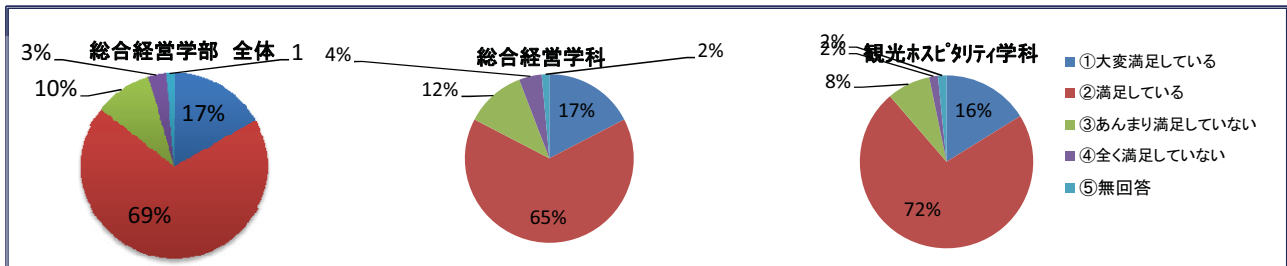
健康栄養学科

スポーツ健康学科

受かったのが、ここだけでした
有名になること
実家から通える

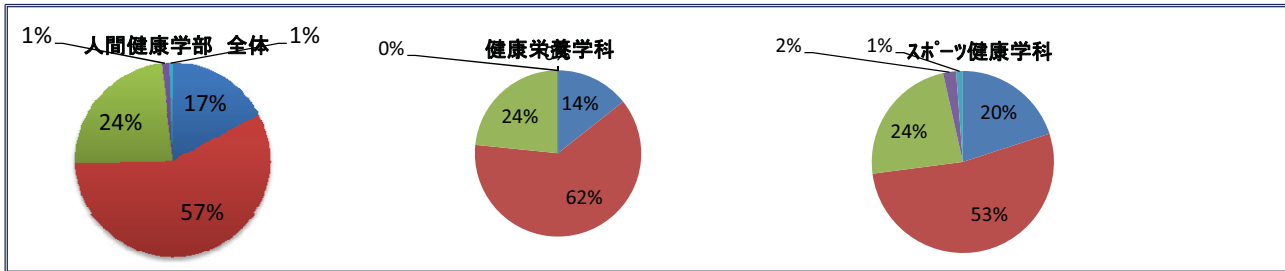
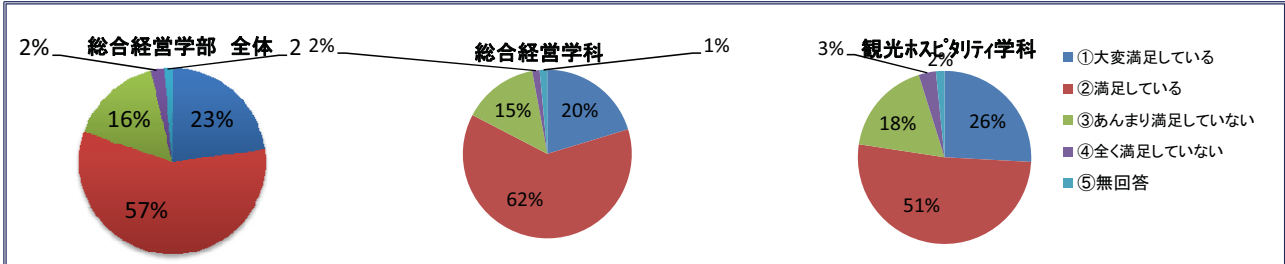
質問6. あなたは松本大学の4年間の勉学に満足していますか。

| | 総合経営学部 | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | 合計 | |
|--------------|--------|----|----|-----------|----|----|--------|---|----|--------|----|----|----|-----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | |
| ①大変満足している | 10 | 2 | 12 | 4 | 6 | 10 | 22 | 0 | 6 | 6 | 12 | 4 | 16 | 22 |
| ②満足している | 32 | 13 | 45 | 24 | 21 | 45 | 90 | 2 | 52 | 54 | 36 | 18 | 54 | 108 |
| ③あんまり満足していない | 5 | 3 | 8 | 4 | 1 | 5 | 13 | 1 | 14 | 15 | 9 | 2 | 11 | 26 |
| ④全く満足していない | 3 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 | 4 | 0 | 2 | 2 | 3 | 0 | 3 | 5 |
| ⑤無回答 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |



質問7. この4年間のあなた自身の生活に満足していますか。

| | 総合経営学部 | | | | | | 合計 | 人間健康学部 | | | | | | 合計 |
|--------------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|--------|----|----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 12 | 2 | 14 | 8 | 8 | 16 | 30 | 0 | 11 | 11 | 12 | 5 | 17 | 28 |
| ②満足している | 28 | 15 | 43 | 17 | 15 | 32 | 75 | 2 | 46 | 48 | 32 | 13 | 45 | 93 |
| ③あんまり満足していない | 9 | 1 | 10 | 6 | 5 | 11 | 21 | 1 | 17 | 18 | 14 | 6 | 20 | 38 |
| ④全く満足していない | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 |
| ⑤無回答 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |



質問8. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったこと、感じたことなど

総合経営学科

授業中うるさい人がいる。出席している人と受講票だけだしている人の差をつけてほしい。
 学生が子供っぽい。高校の延長が目立った。
 全般を通して良かった。
 授業全般としては、様々な授業があったが全て自分のためになったと思う。
 うるさい時がある。大学生になってそういう事を注意されるのはどうかと思う。
 どれも良い授業だった。
 授業が聞きやすい環境でした。
 レベルの高い授業は良かった。それ以外は…。
 ○○先生の授業は最悪だった。○○先生の担当する授業は、ニラパスの内容とぜんぜん違っていた。
 毎回授業に参加できた。
 あまり積極的に授業を受けていなかった。
 わかりにくい授業などあり大変だった。
 教えるのが上手な講師と下手な講師がいるという点です。初回の講義のガイダンスにしていたのは良かったのですが、一回目は様子見ということで本質に踏み込まないのが気になりました。あれでは講義の良さが伝わってきません。
 分からないことは講義終了後に聞きに行くなど、気軽に質問できる雰囲気よかったです。
 ムダな話をする先生が多い点が悪かったこと。
 もう少しアウトキャンパスがあったらよかった。
 真剣に学ぶ人とそうでない人がおり、真剣に学ぶ人にとってはあまり良い環境でないときが多々あった。
 授業レベルをもっと上げて欲しかった。
 私語をする学生や途中退席する学生があまりにも多いと感じた。他の大学の様子は知らないがこの様子は異常だと思う。
 履修した講義をひとつもおとさずに受けることが出来た。
 今まで浅はかな知識しかもっていなかったのですが、より深く追求できたと思います。
 専門的知識を次々に覚えることが新鮮でした。
 生徒達に理解しやすく説明してくれたことが良かった。
 社会人になっていくためのことを色々学べた。たまに適当にされるときがある。
 自分自身の努力不足で理解度が低い授業がありました。
 出席確認のやり方を統一してほしい。
 遅刻が多くて単位をあきらめる事があったので、そこは悪かった。
 楽しかった。
 分かりやすかったと思います。
 単位のため、テストのためだけの授業だと感じた。卒業してもあまり身にならないと思う。
 学科によって特色がちがいで、自分の学科はグループワークが少なかったので、もう少し取り入れられても良かったように思う。
 授業を通して、先生と話をしたりしているりと知識を身につけることが出来た。
 無事に卒業できそうなので、わかりやすい講義をして下さった先生方には感謝しています。
 黒板にめっちゃ字を書く先生がいて、ノートをとることに疲れてしまった。しかし、皆教え方に工夫されていて、とても良い授業だったと思う。
 授業がこれで終わってしまうと思うと悲しい。
 良かったことは4年間講義を受け、これから社会に立つための事を色々聞けたことと、就職活動を行い、社会のことを知れたことはとても良かったと感じています。

観光ホスピタリティ学科

良かったこと: 選択した授業が、とても興味深いものであり、懸命に理解しようとする事ができた。
 悪かったこと: 私語の気になる授業が多かった。
 つまらなかつた授業でも、振り返ると、懐かしく楽しかった。出席確認があまりかも。
 楽しかったです。
 アウトキャンパスなど工夫のある授業が印象的でとても楽しかったです。
 授業がとても楽しかった！先生たちの話がおもしろかった！
 語学の授業は特に楽しかった。
 自分は単位が足りなくて一年留年という形になってしまったが、自分の生活を正し、ちゃんと学校に来て講義を履修できたのは、多くの先生方に声をかけて頂きいつも励ましていただいた部分がとても大きい。
 高校まで"先生"という存在は嫌いな存在であったが、松本大学の先生方はとても距離が近く、同じ目線に立って指導してくださったので、すごく嬉しかった。
 あまり単位を取らずに苦労した覚えが…(苦笑)
 教室の温度。
 履修する生徒が少ないからか、通年で語学の授業が前期のみで閉講してしまったのが残念だった。
 必修に福祉や経済など自分では選択しなかったであろうものがあったので新しい分野に取り組む良いきっかけになったと思います。
 先生たちはていねいに勉強を教えてください、授業内容を分かりやすくするための工夫をしている講義もありましたので良かったです。
 悪かった点として、編入生の単位習得がギリギリで、学びたい科目を単位かせぎのために取れなかったりするので残念です。
 県外から来る学生にはわかりづらい内容があった。
 松本大学の授業に来てても将来、活用できると思わない。しせつが充実してて広くていいと思う。
 話をしたことがない人も会話をする事ができたところがよかったです。
 ○○先生によしかられたが今となっては良い思い出。
 教員と学生との距離が近くて学びやすかった。
 先生の教え方などは良かったのですが、生徒の方がうるさい人が多くて残念でした。
 話を聞くだけの授業ではなく、社会活動など地域に出て学ぶことが多く実際に地域の方々とは関わったことでコミュニケーション力が身に付いてきたことが良かった。講義は面白いと思える内容のものが多く良かったと思います。
 とりたい講義がかぶっているものが多いと感じた年もあったのでもし可能であれば時間割についてももう少し考えてほしいです。
 学科の面では、もう少しコミュニケーションをとったり観光地について学べるような講義が欲しいです。
 夜遅い時間の授業をうけているとクーラーやエアコンが切られてしまうのでその辺をもう少し考えてほしいです。
 講義の種類も多く、選べる楽しさもあり進んで勉強することができました。
 観光学科の全ての先生に感謝しています。今いる私は先生達がいたからです。4年間辞めずに通えたのも○○先生を始めとするまわりの大人のお陰です。
 辛いこともありましたがすてきなものと就職へ向けていけるのも数々の先生方のお陰です。
 図書館司書の資格を取る授業がいつも遅い時間にあつて帰りが少し困った。アウトキャンパスも多くあり様々な経験ができた。
 全体的に興味深い内容の授業が多く良かった。アウトキャンパスなどの独自の教育方法が魅力的だと思う。
 観光や福祉のことをアウトキャンパスなどの実習も含め学べたことはとても良かった。ただ、○○先生の授業はどの講義でも同じ内容(パワーポイント)で話をしているので、学びが深まり難かった。
 内容も楽しく学べるものが多く、集中することができた。
 90分の講義が苦痛にならない授業が多かった。
 アウトキャンパスなどで実際に現場をみることで自分自身で体感することができたので良かった。
 アウトキャンパスなどで現場を見ることが非常に良かった。
 高校時代の自分と大幅に変わることができ、良い先生に会えて良かった。
 全体的に良い授業を受けさせてもらったという実感があります。
 事例を取り上げ想像しやすいく講義内容が良かった。講義中ウルサイ人がいっぱいいた。
 教員によって授業環境が変わる。良い面もあれば悪い面もある。
 ○○先生の講義にて、教員の遅刻や他力本願な出席のとり方は不快。
 法律を教えるのであればもっとしっかりするべきであり、スライドがとても見にくい。前3列に座っても見えない。
 もっと真面目に受講しておけばよかった。
 アウトキャンパスが多く、楽しみながら学ぶことができて良かった。
 席が自由だと後ろがうるさいことが多く出入りも多いので困る。

良い先生が多かった。
 キャリアの講義はしようがないかもしれないが、事務的なイメージが付いた。言葉はすごくキレイにつかい
 うるさい人はいつもうるさくて、ひどいときがあった。
 ステキなゼミの先生に会えました。
 良い授業ばかりでした。
 アウトキャンパスがよかった。悪かったことはないです。

健康栄養学科

テストが終わったら、その学習についてそれ以降復習出来ないことが悪かったと思う。
 マイクの調子がいつも悪すぎる。使えないパソコンがありすぎる。
 国試対策が不十分。
 実験等は機械が充実していたので、色々学ぶことが出来てよかった。
 実験や実習を通して様々な経験が出来た。
 先生方がフレンドリーで小さな疑問もすぐに質問して解決できた。
 ほとんどの講義が良い環境のなかで行われていたと思います。
 4年間に資格取得のための講義がみっちり組み込まれていたため、勉学に励めたが、休暇が少ないことが少し残念だった。
 栄養以外のことを学べてよかったです。教養科目が充実していたと思います。
 国家資格なので、難しいのは当たり前ですが、先生によっては早口すぎて分からなかったり、教科書を読むだけだったり..
 自宅でする勉強も大切ですが、もう少し分かりやすい授業が良かった。テストの範囲ももう少し早めだったら良かったのにと何回も思う時があった。
 社会に出たら色々な人がいるけれど、先生方は表情も喋り方も声もどこか威圧的で、とても話しかけづらかった。(全員ではありませんが..)
 再試験があったので、良かったと思いました。
 4年間を通して、始めは学問などたくさん覚えることがあり、大変でしたが、そこから新しい自分探しにも繋がり良かったです。これから自立して社会人になります。これまで学んだことが自分の力になると感じています。
 全てにおいて決め事が急。実習科目は他との兼ね合いも気にしながら行わないと提出だけに追われて、何のためにやっているのかが分からなくなってしまふと思いました。分からない事があって聞いてもなぜ分からないのかと嫌味っぽく言う先生がいて、とても気分が悪かったです。
 理解度に差があるのは仕方ない事なので、今後は後輩達が気分を害することがないように気をつけて欲しいです。
 より実践的な内容を学ぶことができてよかった。
 就職してみなきゃ良かったのか、悪かったのかは分からない。
 実際に地域の人と交流できた。
 実習が多く、体験できる事が多くてよかった。
 難しいこともあったけど教員の人がたくさん工夫をして授業をしてくれていたため、良かったと思う。
 基礎から学ぶ事ができてよかった。
 実習が多く実践的な知識・技術を身につけられたのではないと思う。
 3年生のときは授業数が多く大変であった。
 栄養科は勉強が大変だったが、その分多くのやりがいや充実感を感じられた。
 もっと勉強をまじめにすればよかった。
 積極的に授業に参加すれば先生たちもそれに応えてくれてより高いレベルの内容を学ぶことができた。
 先生方は親身になって下さる方が多かったのよかったです。
 先生方との距離が近かったため、分からない事があればすぐに質問することができるという事がとても学んでいく上で良かったです。
 栄養学という新しい分野の勉強ができて本当によかったです。グループワークも多く、色々な人と関わることが出来たと思います。
 他学科との授業の時だけ私語が多く、集中して授業を受けることができなかった。
 学外実習の情報欲が激しかったです。

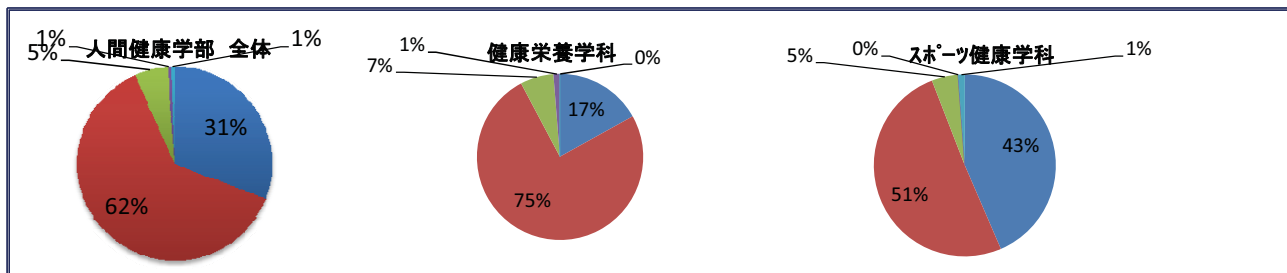
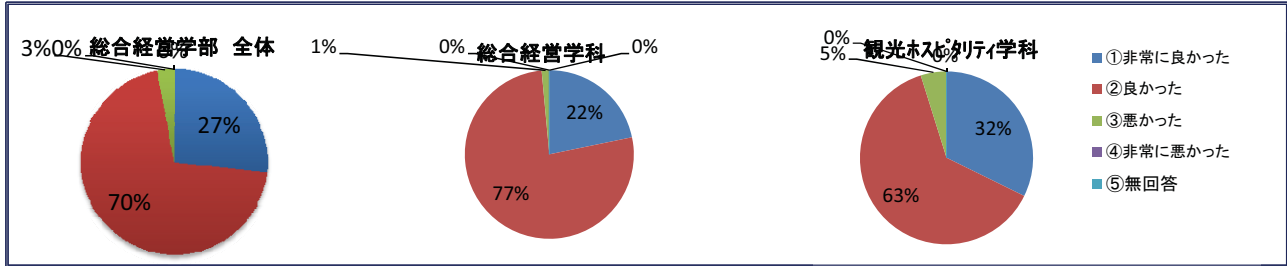
スポーツ健康学科

楽しく学ぶことができた
 入学してからどんどんカリキュラムが変わっていき、勉強する環境が整っていきよかったですと思う。
 資格に関わる授業で、自己責任なのはわかるが、授業としてもっと対応した方がよいと思いました。
 授業の内容も、堅苦しいだけのものではなく、たのしく学べたため、勉強をしてたのしかつたし、自然に内容が頭にのこるものだった
 授業を出席していない人も出席になることがある。
 実技が出来たこと。ほどよく。
 入学前と自分のやりたい内容の授業がズレているときもあったけれど全体を通しては入学してよかったと思う。
 先生によって親身になってくれる先生とそうでない先生がおり、一方的な授業もあって疑問を感じたこともあった。
 先生との距離が近く、授業のことで分からない点があった時に聞きやすかった。
 テスト時に、試験監督が1人しかおらず、教卓で本を読んでいたりとそこから動かないときがあり、カンニングをしている生徒がちらほらいました。
 そこへんの強化をもう少し考えたほうがよいと思いました。
 ○○先生の授業でスポ科に対しての対応が良くなかった。授業に出ているのに教科書を持ってないから欠席はありえない
 実習があったり、座学だけではいけないところが良かった。
 とても楽しい授業だった
 ちよつとうるさい子がいることが気になりました。
 良い先生ばかりでした。
 もっと勉強すればよかった。
 やはり、部活動に入ったときに家族思いで作る感じで満足しています。先輩は姉、兄で後輩は弟、妹扱いするようにしています。良かった点はそれです。
 悪い点は...周りの人間見て気づかない人がいる。
 講師の方々の教え方にバラつきがあり、分かりやすい人もいれば、理解できない人もいた。学科の先生方は個人個人でも説明してくれたのでわかりやすかった。
 質の高い教員、講師に囲まれ楽しかったが、自分の学ぶ姿勢次第であつても何倍も楽しめた気がする
 先生全員が私の名前を覚えてくれているため、授業中や普段の生活で先生との親近感が常にあった。
 日常生活に役に立つ実技が少ない
 もっと1年のときからまじめに授業に取り組んでいけば、良かった
 少人数の授業は集中できたが、大人数になると気が散ってしまった。
 授業内で前の方の席に座っても全然何をしゃべっているのかわからず、広い教室で行っているにも関わらず、マイクを使わず、ポソポソと講義を進める先生がいた...
 授業によって受講票なのか、カード読み取りなのか、名前を呼ぶのか、など統一性が無かったので一律あわせて欲しかった。
 授業によって出席の取り方が違い、困惑したこともあった
 教職をやめてしまてできるならもう一度やりたかった
 先生によって、やり方も評価の仕方も違うから、色々な勉強の方法が必要。前年と全く同じテスト内容は、どうかと思った。
 4年間授業で、専門的な知識が身につく良かった。
 自分を含め、生徒の授業態度がほめられたものではない。(相談、携帯の使用等)
 遅刻・代理出席の取り締まりを強化したほうがよいと思う。
 勉強には大変なものもあったが、学んだことは社会で生かせることが多かった。役に立てていきたい。
 ちゃんと勉強すればよかった
 今まで学べなかったことを大学に入学して学べたと思います。
 教員ごと教え方が違い学びやすい授業、わかりにくい授業がはっきりしていた。
 実技が少なかった。これを必修にするのかという講義があった。
 部活動を4年間続けられたことが良かった。熱心に教えて下さる先生方の授業はおもしろかった。
 ただ板書して説明しての先生もいたので、授業に惹かれるものがなかった。
 分かって当然なのは教員側であるので生徒も分かっているという考えはなくてほしい。
 教員の都合で板書やパワーポイントのどちらかであった。生徒主体に。

質問9. 本学の教職員はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか。該当する番号を選んで、その理由も書いて下さい。

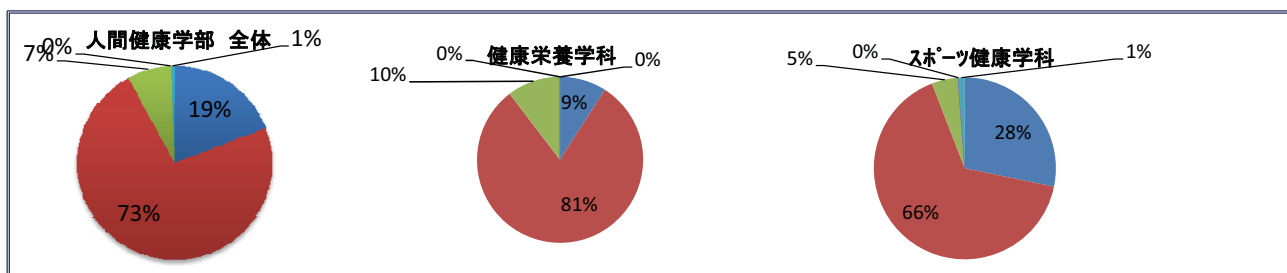
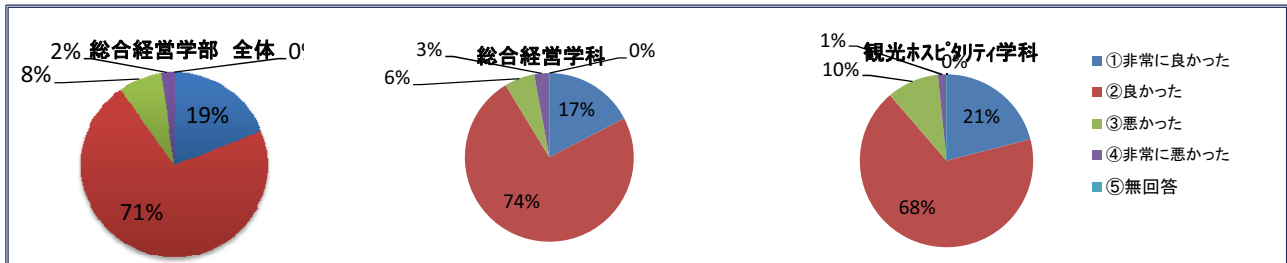
■教員

| | 総合経営学部 | | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | |
|----------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|--------|----|----|-----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 合計 | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | 合計 |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①非常に良かった | 12 | 3 | 15 | 8 | 12 | 20 | 35 | 0 | 13 | 13 | 22 | 15 | 37 | 50 |
| ②良かった | 38 | 15 | 53 | 22 | 17 | 39 | 92 | 2 | 56 | 58 | 35 | 8 | 43 | 101 |
| ③悪かった | 1 | 0 | 1 | 3 | 0 | 3 | 4 | 0 | 5 | 5 | 3 | 1 | 4 | 9 |
| ④非常に悪かった | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ⑤無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |



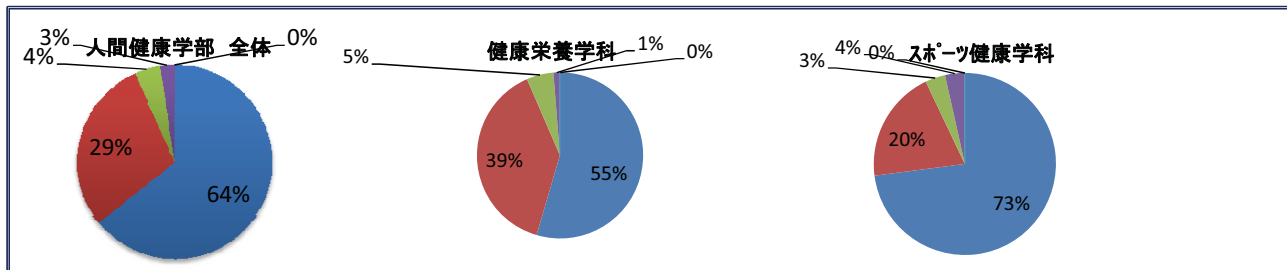
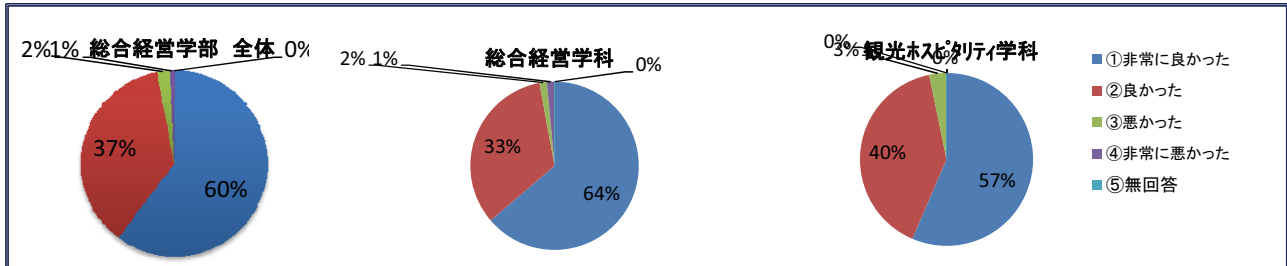
■職員

| | 総合経営学部 | | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | |
|----------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|--------|----|----|-----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 合計 | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | 合計 |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①非常に良かった | 10 | 2 | 12 | 6 | 7 | 13 | 25 | 0 | 7 | 7 | 15 | 9 | 24 | 31 |
| ②良かった | 37 | 14 | 51 | 22 | 20 | 42 | 93 | 2 | 60 | 62 | 43 | 13 | 56 | 118 |
| ③悪かった | 3 | 1 | 4 | 4 | 2 | 6 | 10 | 1 | 7 | 8 | 3 | 1 | 4 | 12 |
| ④非常に悪かった | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 |



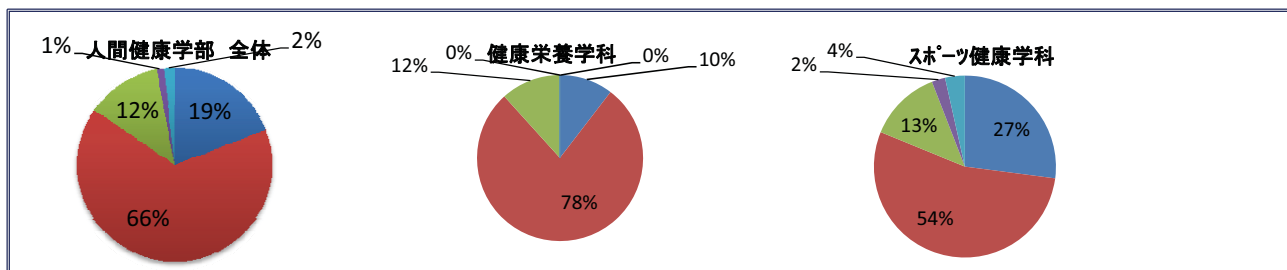
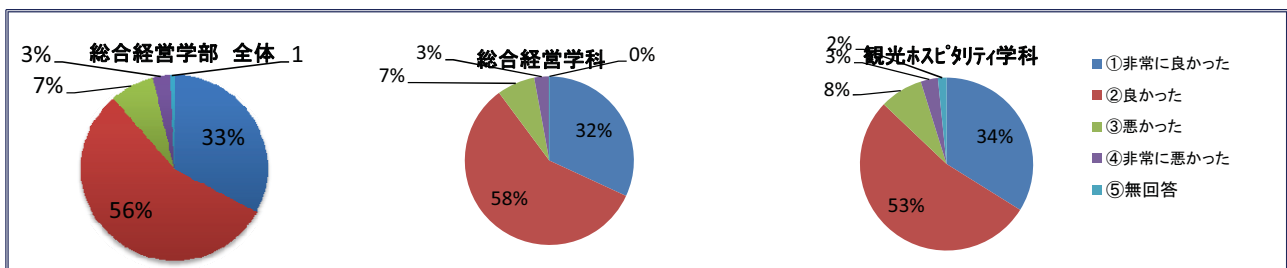
■ゼミ担当者

| | 総合経営学部 | | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | | | |
|----------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|------|----|----|--------|----|-----|--|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | | 合計 | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | | 合計 |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | | |
| ①非常に良かった | 33 | 11 | 44 | 19 | 16 | 35 | 79 | 1 | 41 | 42 | 43 | 19 | 62 | 104 | | |
| ②良かった | 16 | 7 | 23 | 13 | 12 | 25 | 48 | 1 | 29 | 30 | 14 | 3 | 17 | 47 | | |
| ③悪かった | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 7 | | |
| ④非常に悪かった | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 3 | 0 | 3 | 4 | | |
| ⑤無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |



■キャリアカウンセラー

| | 総合経営学部 | | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | | | |
|----------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|------|----|----|--------|----|-----|--|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | | 合計 | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | | 合計 |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | | |
| ①非常に良かった | 17 | 5 | 22 | 11 | 10 | 21 | 43 | 0 | 8 | 8 | 16 | 7 | 23 | 31 | | |
| ②良かった | 27 | 13 | 40 | 19 | 14 | 33 | 73 | 3 | 57 | 60 | 34 | 12 | 46 | 106 | | |
| ③悪かった | 5 | 0 | 5 | 2 | 3 | 5 | 10 | 0 | 9 | 9 | 7 | 4 | 11 | 20 | | |
| ④非常に悪かった | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | | |
| ⑤無回答 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 3 | 3 | | |



【理由等】

総合経営学科

将来の人生に関することなども学べることが出来たからです。
 ゼミ担当の先生には本当にお世話になったし、成長できた。
 親切な方はとても親切で大変よかったです。
 ゼミの中で自分を見つけることや自分を変えることができた。
 授業だけでなく就職においても様々なアドバイスをもらったため。
 ゼミの先生が努力に見合うだけの事をしてくれた。
 みなさんととても良い人でした。
 細かく親切だったから。
 キャリアの人には話しをよく聞いてもらい非常に良かったです。
 就活においてアドバイスをいただき無事に就職できたから。部活動では鍵の貸し出しに応じてくれたり、大会では後援会を通して援助していただきました。
 ゼミ担当の先生は様々なことに相談にのってもらえてよかったです。
 ゼミの先生には大変お世話になりとても感謝しています。キャリアの方々にも本当にお世話になりました。
 就職活動の時も全力でサポートしてくださいました。
 そんなにアドバイスをもらっていない。
 成績を良く伸ばしてくれたと思います。

時事問題など全く無知の私でも教えてくれたこと。
 悪い教員もいれば、話が分かり易い教員もいてピンキリだった。しかし、職員は総じてヒドイ。学祭の時だけ思い知らされたことか。
 ゼミの先生には非常にお世話になった。
 キャリアカウンセラーのアドバイス等はまったく役に立たなかった。
 最近の事なのではっきり思い出されるのが、就職活動の際にゼミの教授やキャリアセンターの職員の方には非常に助けていただいたので
 良いアドバイザーだと感じた。
 ゼミでは非常に楽しい時間を過ごすことが出来た。
 親身になってとても丁寧に優しく対応してくれて本当に嬉しかったです。これから社会人になって心支えとして時には訪問してお世話になりたいです。
 相談に乗ってくれて良かった。
 話をしっかり聞いてくれた。相談も乗ってくれた。
 色々学べた。
 不安なことを聞いたら、自分の経験談を話してくれて参考になりました。
 ゼミ？って感じでした。
 いろいろ相談できた。
 可もなく不可もなく、普通でした。
 話を真剣に聞いてくださる方が多く、大変助かりました。
 親身になってくれる先生が多かった。ゼミの先生には本当にお世話になりました。キャリアセンターの人が、内定が決まった時に
 自分のことのように喜んでくれてうれしかった。
 親身になって相談のってくれた。
 全てにおいて先生達は協力してくれたし、就活の助けになることが何度もあって救われたと感じる。
 ゼミの先生とキャリアセンターの方々は就職活動でとてもお世話になりました。学生課の方も学祭の時や何か困った時にとても親切にしてくれたので良かった。

観光ホスピタリティ学科

困ったことがあると親身に相談に乗ってくれたため
 話が面白かった。教員と同じく、身近に感じた。最高に楽しいゼミです。自分を見直すことができた。
 キャリアカウンセラーに関しては最悪でした。カウンセリングになっていませんでした。
 とてもみなさん素敵でした。
 就職活動では親身になってくれた。ゼミの先生にはたくさんの事を学んだ。
 特にゼミの先生には非常にお世話になり、感謝しています。
 職員クソすぎ！金にルーズすぎる。学生を馬鹿にしているようにしか思えない。早くバイト代出せよ！2ヶ月も遅れるな！
 キャリアカウンセラーは悪くありませんでしたが、役に立ったといわれればそうでもありませんでした。ゼミ担当の教員の方が良いアドバイザーでした。
 研究室に行けば、気軽に合える環境が良かった。キャリアセンターには行きづらかった。
 ゼミ担当の先生のおかげで色々な体験をすることが出来、就職をする際にも視野が広がった。
 特に就活時にはゼミ担当の先生、キャリアカウンセラーの方にお話をきいていただいたり、アドバイスをいただいたりとても助かりました。
 ちゃんと私たちのことを気にかけていたり、色々アドバイスももらったので良かったです。
 教職員のみならずはとも親身になって相談のっていただき本当に感謝しています。特にゼミの先生には大変お世話になりました。
 キャリアカウンセリングは人によりますが、松本大学や私たちのことを知らないので都合に合わせた就活の仕方を言われたり、合わないところもありました。
 いろいろなことを相談しやすい環境を作ってくれて頼りになる先生ばかりでした。
 キャリアセンターの人たちは就活に非常に協力してくれた。
 4年生の後期ゼミは選択制ですよね？就活に専念したく(自分は2つのことはできないので)取りたくなかったんですが、取らないと留年と言われました。
 ゼミの先生の理由もあり、全部ゼミ先が悪いわけではないですが、どうなのかなと思った。
 就活の事をいろいろ相談したり自分の事に一生懸命になってくれたから。
 私生活に関する事でも熱心に話を聞いてアドバイスを頂けた。
 国家資格等の様々な資格を取得、就活にも良い影響を与えてくれた。
 とても親身になって接して頂いて有難かったです。
 就職のことなど悩んでいることを親身になって相談のってくれた。
 皆さん話しかけやすい方が多かったのていいと思います。特にキャリアカウンセラーの方は何度も言葉の1つ1つに救われました。
 生徒と先生の距離が近くてよかったから。
 ゼミ担当の〇〇先生はなんでも話せて頼りになりました。〇〇先生がいたからこそここまで続けてこれたと思っています。〇〇ゼミでよかったです。
 〇〇先生がいたから卒業することができました、〇〇先生、〇〇先生、〇〇先生、〇〇先生、〇〇先生、〇〇先生、特にこの先生方々は
 本当に尊敬する人(恩師)だと思っています。
 就職活動で困っているときに、いつも心身に相談のってくれて助かった。
 個別対応してくれるのが良かったので話しやすかった。
 相談等も親身になって聞いてくれ、生活しやすかった。
 就活などの様々な場面で親身になって接してくれた。
 自分の成長のアドバイスを頂き、ステップにつながったと思う。
 1人1人の事業等を考えて接してもらえた。分かりやすく教えてもらいました疑問にたいして分かるまで教えてくれた。
 単位が少なく卒業や就活ができそうもない私を救ってくれました。
 全体的に学内の方々には優しく良い人が多くてよかった。キャリアカウンセラーの方は外部だったびで深く話が出来なかった。
 〇〇さん優しい。とても親しみを持って接してくれるので話しやすかった。
 学生一人一人のことを見ていてくれるので、安心して学生生活をおくれた。
 相談すれば一緒に考えてくれた。
 ゼミ担当の先生とは講義以外の時間にも交流があり、色々話をしたりお世話になった。親身になってくれた。
 ゼミや講義での教員は話しが良く出来たので良かったが、就職のみでの関わりでは理解がえられなかった。
 4年間いろいろとお世話になった。
 距離が近いっていうのがみりよくてよかった。
 みな良い人たちでした。
 良いアドバイスをもらったから。
 やさしくおしえてくれた。

健康栄養学科

ゼミ担当の先生には就職活動の時に沢山相談のってもらって助かりました。
 ゼミ担当の先生がとても親身になってくれた。
 キャリアカウンセリングは不要だった。
 勉強は大変だったけどゼミは本当に楽しかった。相談相手になってくれた。
 授業・ゼミがとても楽しく充実していたから。職員・キャリアカウンセラーの方々とはあまり関わった事はなかったが、対応は良かった。
 親切に対応してくれました。いつも学生のことを考えてくれて相談にも沢山のってくれました。
 カウンセラーの先生や〇〇先生にはとてもお世話になりました。
 人による(その時の)
 どんな相談にも真剣になって聞いてくれた。
 色々な先生がいらっしゃって話を聞いてくれる先生がいてよかったです。
 ゼミの先生やキャリアの人には就職活動のとき相談できて良かったと思いました。
 ゼミ担当者や職員の方々には相談相手としてとても助かりました。
 人によって差が非常に大きかったです。親身になってくださる方もいれば、口を開けば嫌味しか言わないような方もいました。
 親身になって相談に乗ってくれました。常に気をかけてくださった。
 就職活動中に新しい情報をすぐに連絡してくれたり、アドバイス(面接や履歴書)がとても適切だったため。
 カウンセラーと話すことで余計にストレスがたまった年があったので、必要な人がカウンセリングの対応をすればいいと思う。
 人それぞれがあるため、先生たちもそれぞれ好きや嫌いがあった。
 どの教員も熱心に対応してもらえたと思います。職員は、2回程嫌な思いをしましたが、ほとんど良い方でした。
 ゼミの先生には本当に良くしていただいて、感謝しています。
 ゼミ担当の先生は様々な事に気をかけてくれた。優しく接してくれた。キャリアの人は就職について気をとめてくれて、様々なアドバイスをくれた。

教職員との距離が近かったので、話しやすかった。
 先生方とは勉強面以外でも様々な話ができ、またキャリアの方とは就活面であらゆる助言やサポートをして頂いた。事務の方は全てではないが、対応がちょっと・・と思う面が気になった。
 友人には相談できないことを話すことができたと思う。
 何かと問題がある学生だったのにいつもいねいにわかりやすくアドバイスしていただきました。
 良い人は良い、相談しにくい(したくない)方もいた。
 嫌な顔をせずに相談にのってくれたから。
 ゼミ担当の先生には進路のことなどもお世話になったので。
 相談したら答えて下さったので。
 先生方は時間があればいつでも相談・話ののってくれました。論文・就活サークルと忙しく大変で苦しいことが多々ありましたが、そういった先生方のおかげで乗り越えることが出来ました。
 たくさん相談にのっていただけました。

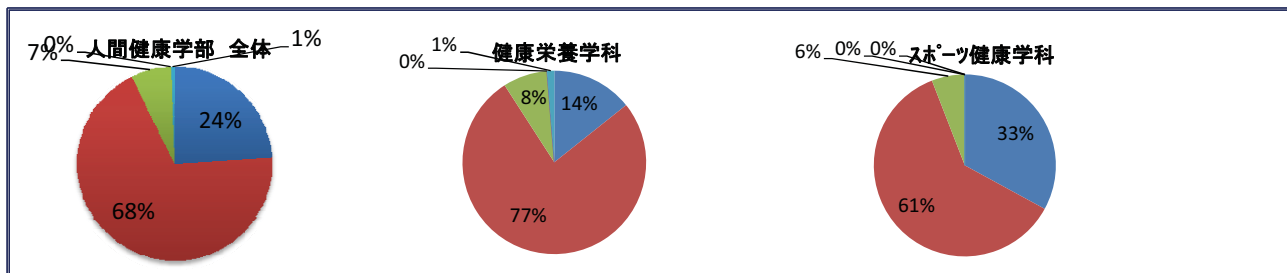
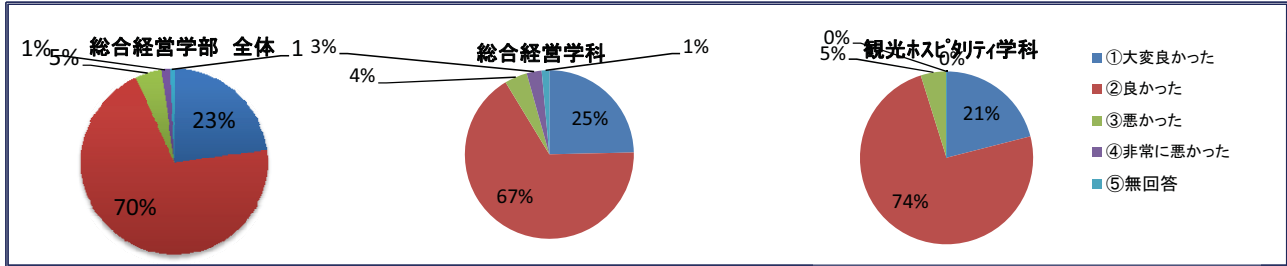
スポーツ健康学科

熱心に指導して下さいました
 個人に対して、良くしてくれる人ばかりで、多くのアドバイスを頂いたから
 親身になって正しいアドバイスをしてくれる。
 キャリアカウンセラーのすべての方が悪かったわけではないが、職員の一人在スポーツとは関係がない職種を受けようとしたときに冷たい反応されて気分悪かった。
 部活動をしていたこともあったが、みなさん気さくで話しやすかったから。
 教員と生徒の距離がとても近く、この大学に入って良かったと思える理由の多くを占めるものでした。
 職員の方々は分からない事を丁寧に教えて下さった。ゼミは思っていたのと違い、あまり自由がなかった。
 バイトも休めといわれ、自分の日々の生活も満足に出来なかった。
 スポーツの先生方は、とても熱心で、生徒との距離も近くとても良かった。
 学部が違うからかもしれないが、違う学科への差別というか、そういうものを何回か感じたことがある(スポーツの先生ではない)
 ○○先生には、とても感謝しています。
 皆さん良きアドバイザーでした！
 キャリアを利用していない
 沢山のことを学びました。
 お世話になった。
 全然分かっていない。分かっているのは学習したことですね。
 みなさん、何事にもサポートをもらい助かった。
 教員としてふさわしくないサポートだと感じたから
 キャリアカウンセラーは年に1回会うか会わないかだったため、あまり印象に残っていないため色々、教えてくれたから
 皆良くしてくれた。
 学生1人1人の気持ちなど考えてくれない対応であったように思う。(キャリア)
 良いアドバイスをもらえた
 親身に話を聞き入れてくれる方があまりいなかった
 皆さん気さくで話しやすく、いろんなことを話せたから
 自分の意見も聞きつつ、適切なアドバイスをくれる。多くの人が自分のために、親身になってくれる。
 学生課の方々にはたいへんお世話になりました。いろいろな面で支えられました。キャリアの職員さんも親身になってくれてよかったです。
 教員からキャリアまで、先生との距離が近くて良かった。
 公私に渡りよくしていただいた。何かの形で恩返しをしたい。
 卒業論文や進路のことで非常にお世話になった。
 就職、卒業など多くのことで相談に乗ってもらったりアドバイスをもらったりした。
 ゼミの先生には本当にお世話になりました。
 教員、職員のみなさんは良い人ばかりであった。困った時にもやさしく対応してくれるところが良かった。
 親身になってくれた
 人によって対応の態度が違う

質問10. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただいています。皆さんにとって事務職員の対応はどうでしたか。

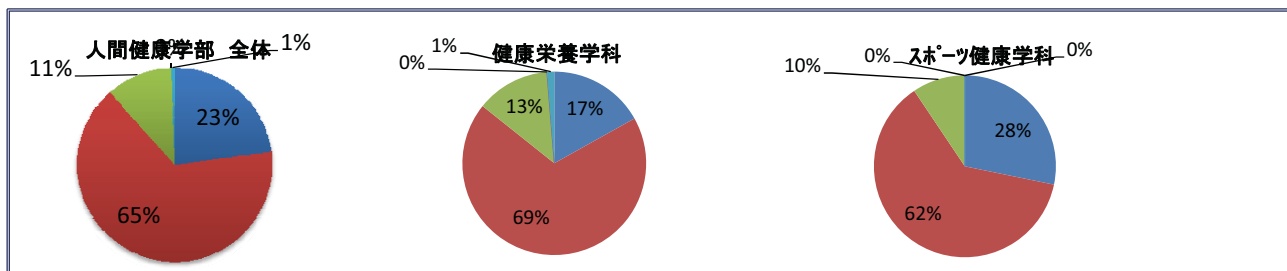
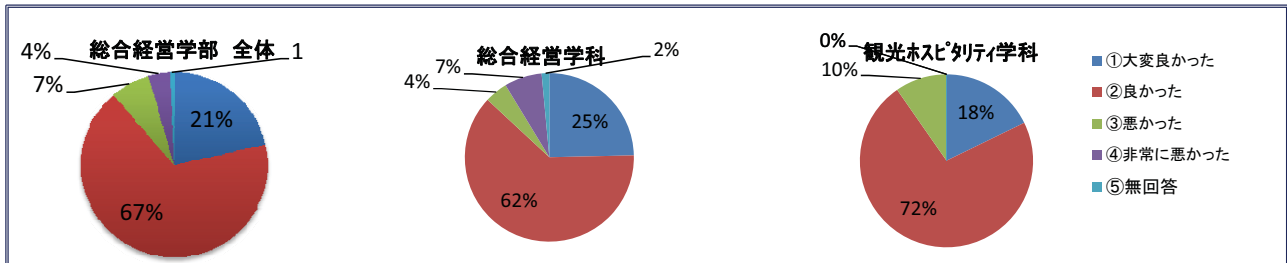
■サポートの程度

| | 総合経営学部 | | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | |
|----------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|--------|----|----|-----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 合計 | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | 合計 |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変良かった | 13 | 4 | 17 | 5 | 8 | 13 | 30 | 0 | 11 | 11 | 17 | 11 | 28 | 39 |
| ②良かった | 32 | 14 | 46 | 26 | 20 | 46 | 92 | 1 | 58 | 59 | 40 | 12 | 52 | 111 |
| ③悪かった | 3 | 0 | 3 | 2 | 1 | 3 | 6 | 2 | 4 | 6 | 4 | 1 | 5 | 11 |
| ④非常に悪かった | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤無回答 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |



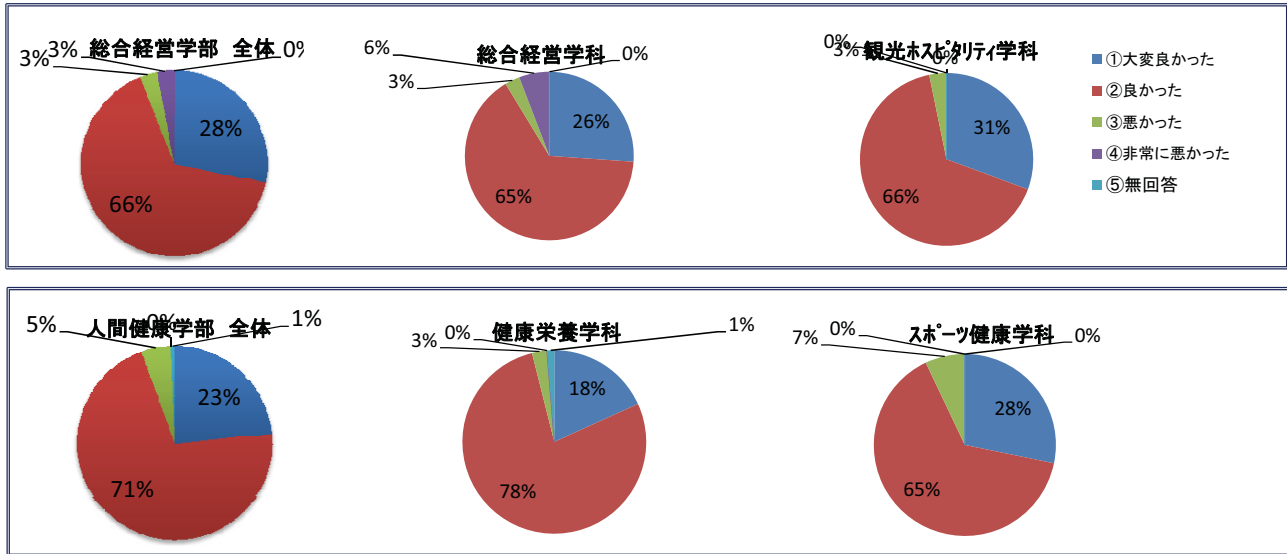
■対応の仕方

| | 総合経営学部 | | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | |
|----------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|--------|----|----|-----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 合計 | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | 合計 |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変良かった | 14 | 3 | 17 | 4 | 7 | 11 | 28 | 0 | 13 | 13 | 16 | 8 | 24 | 37 |
| ②良かった | 31 | 12 | 43 | 27 | 18 | 45 | 88 | 2 | 51 | 53 | 37 | 16 | 53 | 106 |
| ③悪かった | 3 | 0 | 3 | 2 | 4 | 6 | 9 | 1 | 9 | 10 | 8 | 0 | 8 | 18 |
| ④非常に悪かった | 3 | 2 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤無回答 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |



■言葉遣い

| | 総合経営学部 | | | | | | 人間健康学部 | | | | | |
|----------|--------|----|----|-----------|----|----|--------|----|----|--------|----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| ①大変良かった | 15 | 3 | 18 | 11 | 8 | 19 | 0 | 14 | 14 | 14 | 10 | 24 |
| ②良かった | 32 | 13 | 45 | 21 | 20 | 41 | 2 | 58 | 60 | 41 | 14 | 55 |
| ③悪かった | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 6 | 0 | 6 |
| ④非常に悪かった | 3 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | | | | | | | | | | | | |



【事務職員に改善してほしい点、要望】

総合経営学科

学生のお昼時間は連絡がとれるようにしてほしい。
 いろいろある。
 一部不快な対応をする職員がいる。
 学生だからといってナメた態度とるのはやめて欲しい。
 高圧的な態度や接し方、上から目線など悪い点しか見当たらない(キャリアセンターを除く)
 古紙回収として様々な部署に関わりました。
 まず否定からすることをやめてほしい。いつもバカにしているような態度なので話に行きたくなくなる。
 駐車場の料金を無料にして欲しい。
 学生課の職員が学生と話す時、基本的にならなものであまり気分は良くなかったのが覚えています。
 人によって態度を変えるのは改善してほしい(女子にニヤニヤして男子には無愛想な男性教員は気分がわるい)
 たまに塩な対応であったため改善してほしいと思いました。
 キャリアセンターの〇〇さんが人の名前を間違えるというこちらのことを考えているのか分からないことをしてしまったので嫌な気分になりました。
 駐車場何とかしてほしい。
 もう少し柔軟な対応をしてほしいです。
 学生に上から目線なのが少し気になった。

観光ホスピタリティ学科

これからも頑張ってください。
 子供相手に大変だと思いますが、もう少し優しくお願いします。
 学生課と教務課の違いが、入学当初はあまり分からなかったのが、分かりやすくしてほしい。
 学生課の態度が学生を見下しているようで気分が悪かった。
 全体的に不満はありませんが、課によって対応の差があり言葉が足りないことで不満に思うことがあったので改善してほしいです。
 教室変更や休校がでた場合、事前になんの連絡もなく時間になってもこなくてこまることが何回かあるので改善してほしいです。
 〇〇さんは気さくだったので良きアドバイザーであり、安心して卒業単位を目指すことができました。ありがとうございました。
 学生課の方々の情報共有を細めにして下さい。あと、部の予算の引き渡しを早めにして下さい。
 キャリアセンターに何度か相談に行ったことがあるが、相談しても「良かった」と思えることがほとんどなく、ゼミや学科の先生に将来のことを相談したほうが自分のためになったと感じています。
 学生課の〇〇さんがいやだ。
 頭ごなしに怒らないでほしい。
 生徒に対して威圧的な職員の方がいたの話しかけずらかった。
 学生の立場に立つのか？学校が回りやすい学校を目指すのか？(職員指導)ははっきりしてほしい。

健康栄養学科

もう少し笑顔を努力した方が良い。人によって差がありすぎてたまに怖いと思った。
 顔が無表情すぎる人がいて話しにくい。
 対応があまり親切でなかった。
 キャリアセンターがとても行きづらかったです。
 対応は人によって差があった。
 困ったときに対応について相談しに行っても決まりきった返答しかなく、あまり相談に行く意味がないと感じた(主にキャリアセンターと学生課)
 学生課がしまるのが早すぎです。せめて5限(18:20)以降も20分は開けておいてほしいです。
 特にありません。顔を覚えてもらえると書類を出した時ににげなく最近の調子は？と会話をしてくださり、そういった心遣いとても嬉しかったです。

スポーツ健康学科

学校の評価がすべてなどだと感じるような関わりがあった。少し悲しかった。

キャリアセンターに行ってもかたくりしい雰囲気だった。

就職をサポートしてくれるのはとてもありがたいことだが、「就職できればどこでもいい」みたいな態度だったのは残念だった。

大変お世話になりました。どの課の方も、親身にそして丁寧に対応してくれました。

学生課:トレ室の利用法など、融通が利かないところがあって、不便だった。

キャリアセンター:就職サポートはありがたいが、ただ就職できればいいと思っているのか、以前に、「スポーツとか運動にこだわってたら就職できない」

と言われた時はとてもショックだった。こういうことをやりたい!と思ってこの大学に来たのに、夢を応援されていない気がした。

キャリアカウンセリング(個別)を行ったときにも、夢ややりたいことを語ったら、「厳しいからもっと妥協して、違うことにも目を向けて。」

と言われたこともあって、複雑な気持ちだった。

駐車を変なところにしてすみません

対応が良くないと周囲からも聞こえていた。人によってだが、威圧感がある。

相手の悩みを気づいてほしいですね。

分からない事を質問した場合などでも「あなたが聞いていなかったのが悪い」という高圧的な対応をされたため、気軽に立ち寄ることができなくなった。

就職活動中のキャリアセンターの事務職員の方。この大学には4つの学科があります。

就職が決まれば何でもいいという対応が感じられたが、その学科に合った職業やその人に合った職のアドバイスなどがもっともらえたらいいと思います。

就職率を上げるより、質を高めていけるサポートが、就職率向上になると思います。

キャリアセンターの就職支援活動を盛んに行って欲しかった。2年時から。

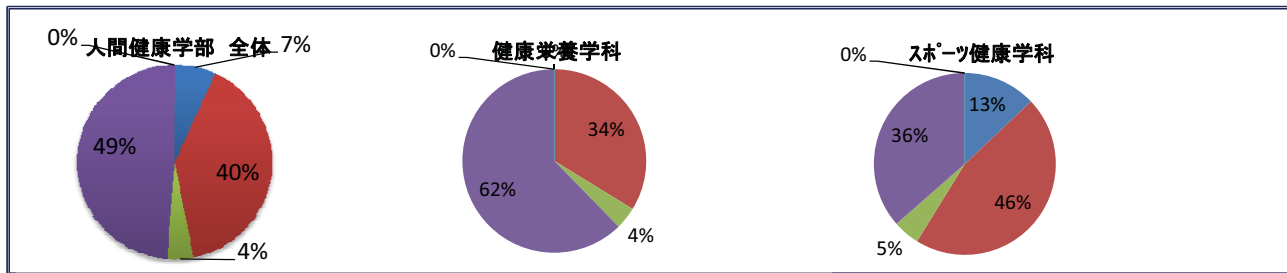
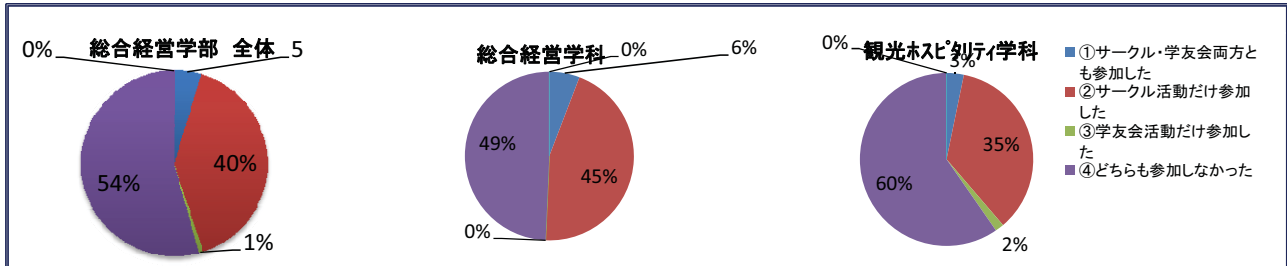
やろうとしていること(企画とか)を否定から入らないで欲しいと思った。

もう少し愛想よくして欲しい

いろいろな決まり事(パソコンの貸出など)があると思うが、みなさん統一して欲しい。

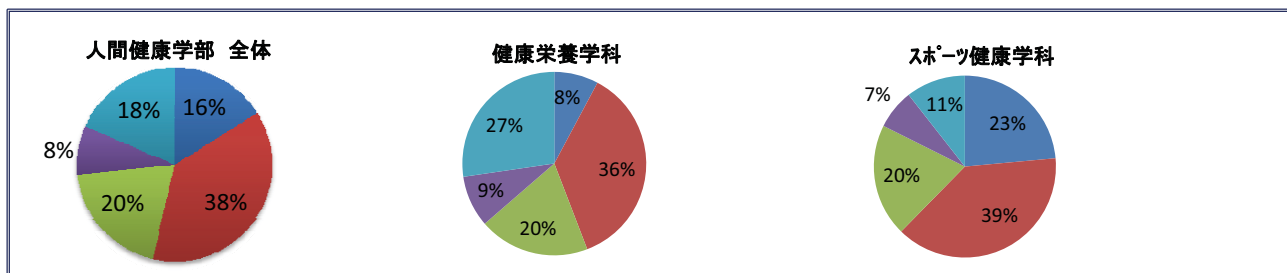
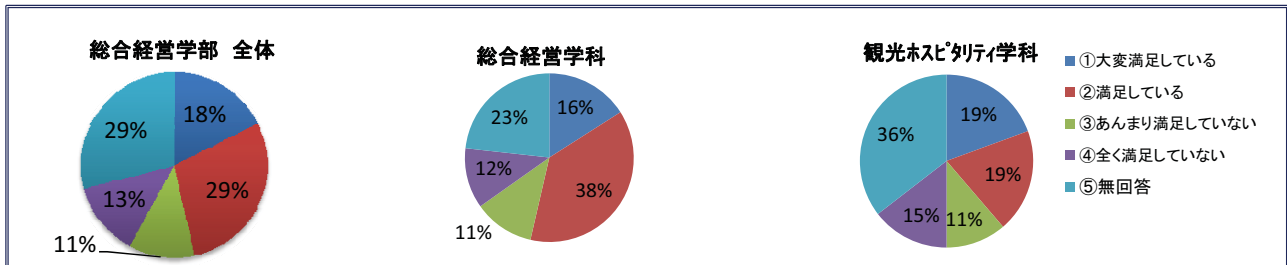
質問11. あなたにとってサークル活動や学友会活動はどうでしたか。

| | 総合経営学部 | | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | |
|-------------------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|--------|----|----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 合計 | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | 合計 |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①サークル・学友会両方とも参加した | 4 | 0 | 4 | 2 | 0 | 2 | 6 | 0 | 0 | 0 | 7 | 4 | 11 | 11 |
| ②サークル活動だけ参加した | 19 | 12 | 31 | 12 | 10 | 22 | 53 | 2 | 24 | 26 | 28 | 11 | 39 | 65 |
| ③学友会活動だけ参加した | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 3 | 1 | 3 | 4 | 7 |
| ④どちらも参加しなかった | 28 | 6 | 34 | 18 | 19 | 37 | 71 | 1 | 47 | 48 | 25 | 6 | 31 | 79 |
| ⑤無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |



質問12. あなたはサークル活動は学友会活動に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など。

| | 総合経営学部 | | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | |
|--------------|--------|---|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|--------|----|----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 合計 | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | 合計 |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 9 | 2 | 11 | 10 | 2 | 12 | 23 | 1 | 5 | 6 | 16 | 4 | 20 | 26 |
| ②満足している | 18 | 8 | 26 | 4 | 8 | 12 | 38 | 1 | 27 | 28 | 23 | 10 | 33 | 61 |
| ③あんまり満足していない | 4 | 4 | 8 | 4 | 3 | 7 | 15 | 0 | 15 | 15 | 9 | 8 | 17 | 32 |
| ④全く満足していない | 7 | 1 | 8 | 5 | 4 | 9 | 17 | 0 | 7 | 7 | 6 | 0 | 6 | 13 |
| ⑤無回答 | 13 | 3 | 16 | 10 | 12 | 22 | 38 | 1 | 20 | 21 | 7 | 2 | 9 | 30 |



【理由等】

総合経営学科

学友会は初めての人がはいるづらい雰囲気がある。
 所属していない。
 やっていないため。
 教員からの積極的な関わりがなく、どう運営してくべきか考えるのに必死だった。
 参加していないから分からない。
 友人が出来、交友の幅が広がった。
 参加していないから。
 とても良かった。
 自由だったから。
 満足しているがもっとサークル活動をやりたかった。サークル活動で体育館の利用がもっとできるようにしてほしかった。
 練習場所、出演依頼などあり楽しかった。
 所属していなかった為。
 活動していない。
 活動していません。
 入っていない。
 サークル活動をしていなければ、就活で自分の強みを言えなかった。
 よき先輩方に恵まれ、有意義な一時を過ごしました。
 サークルは最高でした。
 充実してました。
 満足した結果が得られなかったことが不満。
 特に参加していないため何もいえません。
 協力して活動する事ができた。
 活動が少ない。
 1年の時に体育祭のやつで学友会に参加したが、グダグダで20歳を越えている人の会議とは思えなかった。
 ほとんど参加していないので、特に何も思っていない。
 大切な友人と出会い、自分の技術も向上したのでとても満足しています。
 サークル活動にあまり積極的に参加できなかった。
 部活でメンバー達と沢山知り合えたし、その後も楽しかった。
 参加していない。
 大学に入って、今までやったことがないサークルに入ろうと思い、テコンド一部に入れたので良かった。学友会活動も学際的に貢献するようなことを行ってみたくて思っていたので良かった。

観光ホスピタリティ学科

民度が低い。
 参加をしませんでした。
 個人的なものではあったが、自分自身の成長にとっても役立つので。
 友人をたくさん作れたので良かったです。
 サークルや学友会の活動には部活動がいそがしく参加していない。
 参加できなかったから。
 部活を優先しててそういった活動ができなかったから。
 熱心に協議に取り組み、自分なりに結果も残せた。
 4年間賑やかでとても楽しかったです。
 サークル活動や学友会活動などあまり参加してなかった。
 最初のうちは全体的に活動していたが、それからは活動がなかったため。
 参加していない。
 最初は学生課や先輩と色々あったが、後半は技術も身につけ友人達と楽しくすごせた。
 サークルに入ったことでよい友人と出会うことができた。
 サークルや学友会に参加していないため。
 まだできることがあった。不完全である。
 良い先輩や先生がいたので練習しやすかった。結果も残せたので良かった。
 自分もマツナビの人を見て入ろうと考えるようになりました。
 部活動をしていて結果を残して大学に貢献することができなかった。
 入ってない。
 ハンドボール部を立ち上げインカレ出場まで成長しました。
 大学最後のクラブ活動たのしかったです。
 参加していません。
 部活をがんばることができた。

健康栄養学科

充実して練習が出来たと思います。あともう少し練習日を確保したかった。
 新しい友人が出来た。
 参加していない。
 入っていないのでわからない。
 学業とバイトで忙しく十分なサークル活動が出来なかった。
 参加していない。
 ほとんどやらなかったから。
 趣味の友人が出来た。
 勉強の方が忙しくサークル活動に中々参加できなかった。(ユレー部員だった)
 加わる機会がありませんでした。
 楽しみながら活動できました。
 様々な活動があり、自分に合ったものを選ぶことができたため。
 今年から体育大会が始まり、そのような行事を増やして欲しかった。
 参加していない。
 人間関係など大変なことはあったけど、楽しくサークル活動が出来た。
 サークル活動もあまり参加出来なかったけど、サークルについてはたくさん知ることができ、先輩や先輩、学年を超えて仲良くすることができた。
 自主性を尊重していただけた。
 自分の成長につながったと感じるから。
 サークル活動や学友会活動に参加していなかったため
 活動に参加していない
 勉強と共に頑張れた。大学でしか体験出来ない大会に出られたことがとても良い思い出。
 参加していないのでわかりません。
 茶道部・弓道部と活動し、弓道部はほとんど活動できませんでしたが、茶道部はそれなりに出来たので。
 週2〜3回の活動で勉強との両立大変でしたが、その中でもしっかり結果が出ることが出来たので、満足、充実していたと思います。

スポーツ健康学科

充実していた

ダンス部の部費や部室がなくなったなど。他の人がダンス部のスニーカーをぬすむ事件とかもあった。

途中退部したため。

学友活動は過酷でした

サークル活動は、他のサークルとの関係などもあり、なかなか練習日を確保することができなかった。

大学側からたくさん支援していただいていたので。

サークルは学校から支援していただき、とても助かりました。学友会活動はなかなか日程が合わず、参加できなかったのが残念でした。

何をしていたのか良く分からないので

部活動がんばりました。

参加していないので分からない

興味がない。

皆で楽しめていたから

楽しかったから

楽しかった

サークルの対応に温度差がある。

バドミントン部4年になって楽しめた。

出ていないので、何ともいえないが、充実していると思う。

関与していない

高校の頃よりも強くなれたから

やってない

様々な活動をしているのを見てきたため。

多くの仲間に恵まれた

部活動はとても楽しかった。インカレなど大きな大会で選手1人しか行かないから支援金が少なくとても大変な思いをしました。

インカレ出場で開催地が遠い地での援助があると良いと思います。

あまり活動しなかったため

学友会活動は、企画・運営の方法を簡単ではあるが、経験することができて良かった。

入っていない

仲間、思い出ができた。

参加していないから

部室が欲しかった。

ただ活動するだけでなく、会計など社会に出てから経験することを学べた。

充実したサークル活動を行えた。

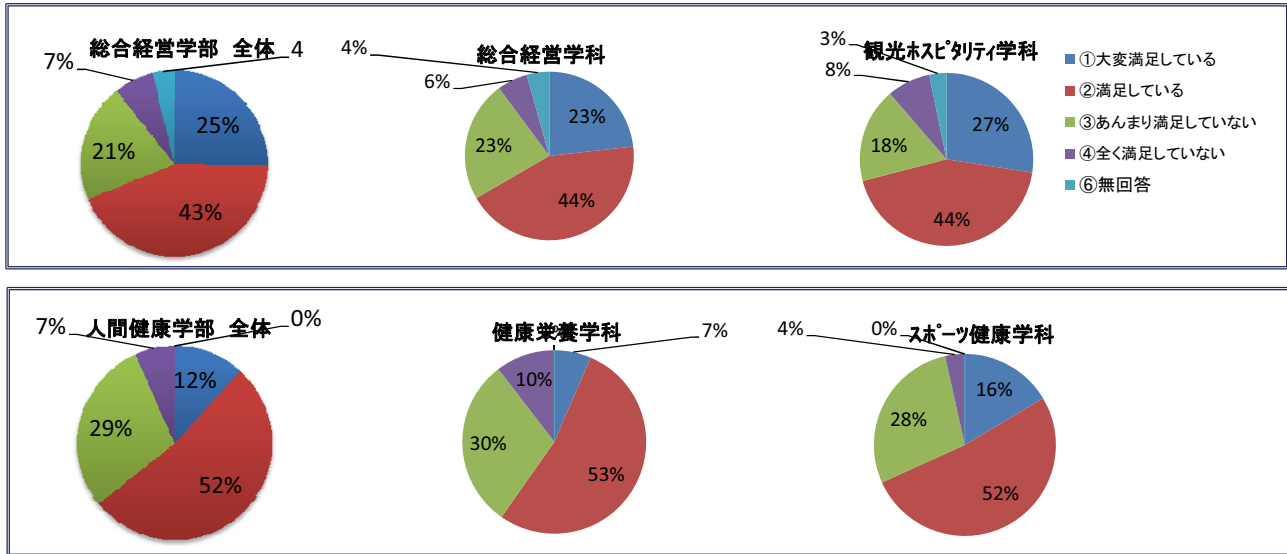
サークルを途中で辞めてしまった

体育館が狭すぎる。21時までしか使えないのは残念。

参加していない

質問13. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、体育館、教室、グラウンド、駐車場等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など。

| | 総合経営学部 | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | |
|--------------|--------|---|----|-----------|----|----|--------|----|----|--------|----|----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | 合計 |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 13 | 3 | 16 | 8 | 9 | 17 | 0 | 5 | 5 | 10 | 4 | 14 | 19 |
| ②満足している | 21 | 9 | 30 | 14 | 13 | 27 | 3 | 38 | 41 | 31 | 13 | 44 | 85 |
| ③あんまり満足していない | 11 | 5 | 16 | 8 | 3 | 11 | 0 | 23 | 23 | 17 | 7 | 24 | 47 |
| ④全く満足していない | 3 | 1 | 4 | 1 | 4 | 5 | 0 | 8 | 8 | 3 | 0 | 3 | 11 |
| ⑥無回答 | 3 | 0 | 3 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |



【理由等】

総合経営学科

駐車場代が高い。トレーニングルームが使用しにくい。
 体育館のかり方が面倒。
 駐車場が高い。
 使いやすく広々としているから。
 きれいだし充実している。強いて言えば、汚れや壊れをすぐ直してほしい。
 自分に必要なものは揃っていたから。
 とても良かった。
 グラウンドが使えなさすぎる。施設費が高い。
 便利だったから。
 設備が充実していてよかった。
 レポート作成ではコンピュータ室にはとてもお世話になりました。
 設備はキレイで使い易かったです。駐車料金が良かったです。
 駐車場がひどすぎ。ゲートがあかない、ほそはガタガタ等。1回200円が高い。都心でも無料な所があるのに…。駐車場以外はOKでした。
 駐車場が高すぎ。足元を見すぎ。学生をなめている。
 設備が充実していてよかったと思います。古いPCがあったのが少し残念です。
 駐車場の契約手続きのやり方が変わったこと。
 駐車場が広いのは便利だったから。
 駐車場のトラブルが多くて困る。
 パソコンがおそい。
 冬は暖かいが夏はあまり涼しくない。
 駐車場が有料なのが疑問でした。都会の大学なら土地代が高いから有料でもいいと思うけど、田舎の大学が駐車場代を取らないでほしいです。
 教室やコンピューター教室については満足する設備だと思う。ただ駐車場の賞金が比較的高めの設定だと思った。
 大変良かったです。
 少し空いた時間に使うことができて気軽に使えた。
 パソコンをよく利用していたため。
 施設をしっかりしてましたので
 教室がキレイ。トレーニングルームの設備が良い。
 パソコンの起動までの時間が短ければよかったです。
 トイレに設置されているジェットタオルはなぜ使用禁止になっているのかわからない。高い施設費を払っているはずですが。
 きれい。
 きれいで使いやすい。
 駐車場が少ない。駐車場代がかかる。
 駐車場の利用マナーがあまり良くない人がいる。
 駐車場がたくさんあいているのに満車になって駐車できないことがよくあるので困ったから。
 524教室は机がななめなのがよく落ちるので、何か対策がほしいです。
 冷房の使用時間の制限がいやだった。
 レポートを書く際などに使用してとても役に立った。
 駐車場料金はいらぬ。なんで有料なのかわからない。学生の車のマナーが悪い。
 コンピューター室などはとても良かったです。
 教室なども毎回使う時、きれいにされていたので、とても良かった。

観光ホスピタリティ学科

各施設の使用許可をもらうのが大変。駐車場代が高すぎる。それと、スペース外にとめている車が大変迷惑。
普通に良かったです。
もっと自由に、体育館やグラウンドを使いたかった。
駐車場は第1駐車場に問題が多くあった。
混雑時にまだ駐車スペースがあるにも関わらず「満車」表示、駐車スペース以外の駐車料金が安い。校舎から駐車場までの屋根が欲しい。
設備はともかく、数は整っていた。
駐車場の値段が高い。30分ぐらいで終わる用事の際に200円は高い。
パソコン室の自由使用はとても役立ちました。
トレーナー室や体育館を自由に使うための手段が面倒だった。
図書館でDVDを観る事が出来るのは空き時間の際助かった。
設備もよく、コンピューター教室は特に使いました。レポート提出時等多く焼役立ちました。
とても充実しています。
駐車場のお金が高いと思う。
いろいろと利用させてもらえてよかった。
きたなかった。
きれいで使いやすかったから。
夏の教室が暑かった。
施設が全体的に新しくとても満足でした、トイレにウォッシュレットがあればなお良かったです。
きれいに掃除されていて毎日安心して講義をうけることができました。
強いていうなら、211教室にもフォトショップ入れてください。
コンピューターを多く利用しました。充実していた良かったです。
原付のミラーが折られた。
それぞれ集中できる環境だった。
設備がとても良い。
どの施設も使いやすいような空気があふれていたから。
駐車場の空きスペースがあるのに、満車なのはどうかしてほしい。駐車スペースではない所に駐車している車もどうにかしてほしい。
とてもきれいで使いやすかった。
駐車場料金が安い。
駐車場の料金は高いと思う。PC等はとても満足している。
駐車場料金200円は高いと思いました。駐車場のゲートでのトラブル・故障により満車なのに中に入れる等、200円もお金をとるならもっとしっかりメンテしてほしい。
高校生のときに競技場ができるからと言われて入学を決めたのに、競技場ができたのがとても遅かった。
駐車場の停めるのにバーが開かなかつたりがあった。
競技場ができてより練習に取り組むことができた。
あんまり使っていない。
Wi-Fi接続のためにいちいちパスワードを入力するのが面倒だった。
体育館をもっと使えば良かった(部活の時)
駐車場の代金が高すぎた！
良い設備ばかりでした。
使いやすかった。
駐車場を無料にしてほしい。

健康栄養学科

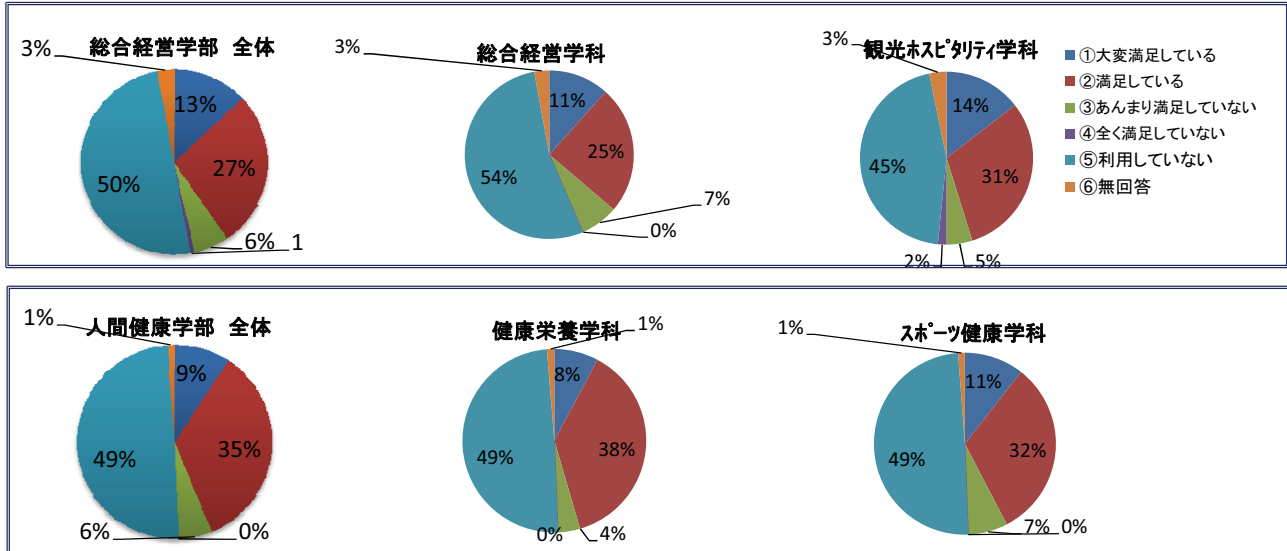
キレイで使いやすかった。
パソコンの起動が遅く、故障しているものが多い。
駐車場の料金が安い。使えないPCが多すぎる。
6号館のパソコン、印刷機が調子悪く困った。
駐車場代を払わず、近くのアパート等に停める学生が多く、とても迷惑なため、駐車場代を安くして、そういう人がいないようにしてほしいです。
駐車場が高い。
コンピューターの起動がとても遅く、電源をつけても使えないことがあった。
いつも6号館3階のパソコンが壊れていた。21時になると学校から追い出されてしまうため、テスト勉強が満足に出来なかった。
とてもきれいで良い。駐車場料金をもう少し安くしてほしい。
パソコンの印刷機がずっとこわれたままだった。
パソコンがどこでも使用できる環境でよかった。
パソコンが何回か使えないことがあったから。
最新を求める前に故障のパソコンや動作の重いパソコンをどうにかすべきでは？パソコン教室だけが充実していても。
駐車場の違法駐車？(指定の場所にとめてない)は迷惑していたので、対策をして欲しい。
コンピューターが故障していることが多く、不便でした。
パソコンが壊れすぎている。(特に2階、3階、6号館)起動が遅すぎる。
駐車場は満車なのにあってたりする。
駐車場をもっと広くしてください。
駐車場の料金が安いと感じるため。
駐車場の料金が安いと感じたため。
駐車場が満車でないのに満車の表示が出て入れないのは改善してほしい。
コンピューターの機能が悪かった。
駐車場が満車でないのに満車になる事が多い。
6号館のパソコンが使えない事が多い。
勉強しているのにうるさいことが多々あったので。コンピューターが使えないものが多い。
駐車場はほぼ毎日利用した。あとは授業で使ったくらい。
体育館を空き時間に使わせてもらえなかった。誰もつかっていないのにもったいないと思った。
PCの不具合が多いため。
パソコン等が古い。壊れているものが多い。
コンピューターがあまり良くない。
学内(6号館)にPCがあり、学生が使えるというわりに使用できるPCが少ない。トイレにあるエアタオルは何のためにあるのか。
ずっと節電のために止めてあるがノロウィルス・インフルエンザの流行防止よりも大切なことか？
6号館のパソコンが使用できないことがあって困った。
駐車場料金が安い。
6号館のパソコンの不具合が多い。
駐車場の使用料金が安い。
教室のブラインドがいつまでもなおらなかつたり(634教室)、パソコンが使用不可の所がいくつかあったりしたので。
資格取得やレポート作成など日々の勉学に打ち込むことができた。

スポーツ健康学科

設備が整っている
 パソコンが少ない。こわれているのが多すぎる
 運動をしたいときに、自主的にできる場所があった
 駐車料金が高い。
 できれば、3・4階部分も全号館つなげてほしかった。
 駐車場の無料開放希望
 トイレがきれいでした。
 駐車場の料金が高い
 第1駐車場によく、駐車するところではないところに車が止まっていたとても迷惑だった。
 どこもきれいで使いやすい環境だったから。ただ卒論の時期になると6号館のパソコンやプリンターのところが、あるゼミに占領されて使いづらかったです。
 6号館のパソコンに不具合が起こりやすかった。
 駐車場はもっと安くしてほしい。高い代金を払っても停められないことも多々あった。
 6号館のパソコンが少ない。駐車料金が高い。駐車場でマナーが悪い人がいる。
 6号館のパソコンの起動が遅い。
 駐車場の1回200円は高い
 充分すぎる設備だと思う
 駐車場代が高い
 きれいだった。
 利用しやすかった。助かった。
 いろいろやれてよかったから。
 一つ、駐車場を開放してほしい
 難しいと思うが、やはりパソコンが重い(接続が遅い)
 駐車場に空きがあるのに入れない
 トレーナー室は大変良い
 困らなかったため
 使える時間帯が長かったため。
 駐車場があいているのに満車になったり、駐車スペースでないところに車が止まっており、迷惑であった
 グラウンドの完成が遅かった。グラウンドが完成しても、砲丸しか投げられない
 駐車場代が高すぎると思う
 駐車場の駐車代を支払うのがありえない。他大学は駐車代を集めていないものもある。
 食堂・売店が小さい
 新しいということもあるが、施設そのものが新しいので、使いやすかった。第1体育館のトレ室は許可は必要ないの？
 施設はいいと思うけど、駐車場の料金がもう少しどうにかならないかなと思います
 駐車代の意味？トレーニングルーム使いやすいとは思えない(陸部独占など)。グラウンド→みんなが使いやすい場ではない
 ただひとつだけの不満、貸出PCがXPな点
 パソコンの立ち上がりが遅い時が多い。
 気にしていないため、判断できない
 プールがあると、ケガをした選手のリハビリになったり、運動指導の勉強になる。
 駐車場での止め方について枠外に止めている車が大変迷惑している。グラウンドが全部土であるのも変えて欲しい。
 あまり利用しなかった
 グラウンドってほどオープンじゃない。部の人間以外使ってはいけない感がある。
 武道場や水泳場などの設備があるといい。
 いちいち鍵を借りるのが大変
 トレーナー室小さい。駐車券が高い。

質問14. あなたは各サポートセンター(基礎教育センター、国際交流センター、地域づくり工房等)に満足しましたか、満足しませんでしたか。その理由や要望など。

| | 総合経営学部 | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | |
|--------------|--------|---|----|-----------|----|----|--------|----|----|--------|----|----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | 合計 |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 7 | 1 | 8 | 5 | 4 | 9 | 0 | 6 | 6 | 6 | 3 | 9 | 15 |
| ②満足している | 11 | 6 | 17 | 7 | 12 | 19 | 2 | 27 | 29 | 21 | 6 | 27 | 56 |
| ③あんまり満足していない | 3 | 2 | 5 | 1 | 2 | 3 | 0 | 3 | 3 | 5 | 1 | 6 | 9 |
| ④全く満足していない | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤利用していない | 28 | 9 | 37 | 19 | 9 | 28 | 1 | 37 | 38 | 28 | 14 | 42 | 80 |
| ⑥無回答 | 2 | 0 | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 |



【理由等】

総合経営学科

基礎教育センターの方には大変お世話になりました。とても良かった。必要なかったから。参加する機会がありませんでした。SPIなど一般知識を手厚くサポートしてくれたから。あまり利用したことがない。支えになってくれました。基礎学習ができた。あまり行く用事がなかった。基礎教育センターの人はとても親切でわかりやすかった。あまり良く分かりません。基礎教育センターを初めはよく利用していましたが、閉まってしまう時間が早すぎ、飲み物を飲んではいけないという理由から使わなくなりました。

観光ホスピタリティ学科

SPIに自信がついた。基礎教育センターの先生方には、親身に教えていただきお世話になりました。地域づくり工房ゆめで活動していたお陰で、人間的に成長できたと思う。考房ゆめは、参加しているボランティア活動の関係でお世話になったが、新会員の募集等の際に非常に助かった。気になる活動とかあって、予定があえば参加しました。地域考房しか利用がないけれど、利用した時には良いサポートをしてくださった。活動が打ち切られてなんだかモヤモヤした形で終わってしまいました。就活支援センターでは担当の方が親身になって相談などを聞いてもらったので。行くきっかけがなかった。地域の活動に色々参加できた。なかなか利用する機会がなかった。利用してない。考房ゆめに参加した。高校ではできない体験ができた。利用していません。そんなに利用しなかった。活用していません。

健康栄養学科

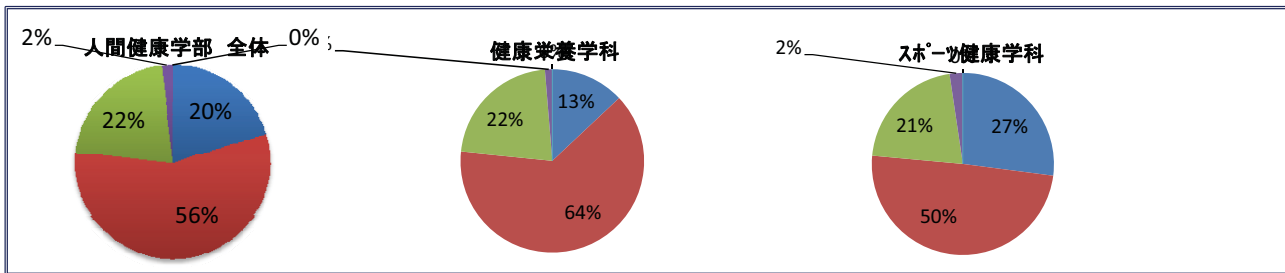
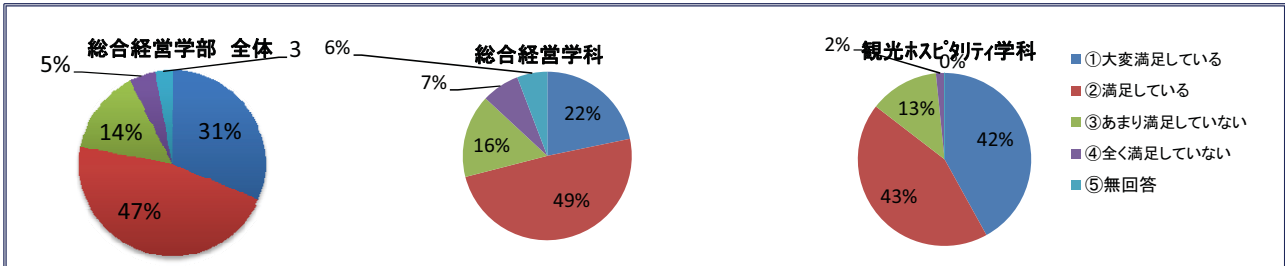
1~2年で大変お世話になりました。地域づくり工房ゆめの活動が充実していました。学外に出て様々な経験ができるため。地域づくり工房ゆめでは自分たちのやりたいことをやらせてもらえたため。場所が短大よりなので、栄養科からだ行きにくい。行きにくい。場所と先生？がよくわからない。使用しにくい雰囲気であった。ゆめの活動は参加してよかったと思っているため。就職試験対策の時に基礎教育センターにお世話になりました。ありがとうございました。わからない問題を丁寧に教えていただきました。(基礎教育センター)

スポーツ健康学科

スキルアップにつながった
あまり利用する機会がありませんでした。
基礎教育センターの先生ありがとうございます
勉強を教えてもらった。
あまり行っていないので・・・。
使う機会がなかった
あまり印象に残っていない
利用したことがない
自分が利用することはなかったが、様々な活動をしているのを知っているため。
地域の方々と、とても深く関わられた
基礎学力を高めることができた
何をしているのか、分からない。(クラス・ゼミの時間の10分間テストのみです)

質問15. あなたは食堂(フォレストホール、カフェテリア)、購買部に満足しましたか、満足しませんでしたか。その理由や要望など

| | 総合経営学部 | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | | |
|-------------|--------|----|----|-----------|----|----|--------|------|----|----|--------|----|----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 合計 | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | 合計 |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 11 | 4 | 15 | 17 | 9 | 26 | 41 | 0 | 10 | 10 | 16 | 7 | 23 | 33 |
| ②満足している | 23 | 11 | 34 | 15 | 12 | 27 | 61 | 3 | 46 | 49 | 30 | 12 | 42 | 91 |
| ③あまり満足していない | 8 | 3 | 11 | 1 | 7 | 8 | 19 | 0 | 17 | 17 | 14 | 4 | 18 | 35 |
| ④全く満足していない | 5 | 0 | 5 | 0 | 1 | 1 | 6 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 |
| ⑤無回答 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |



【理由等】

総合経営学科

席が少ない。客の回転率がわるい。
 利用頻度は高くなかったが様々なものが揃っているし料理も美味しかった。
 品揃えはいいが高い。
 途中でメニューが大幅に変わり満足できなくなった。
 とても良かった。
 みんないい人。
 きれいで安かったから。
 それなりのものが買えた。7号館の購買店や食堂の営業時間をのばしてほしい。
 毎日利用させてもらいました。
 せまい。
 高いし、まずい。コンビニの方が100倍マシ。
 昼時は混雑しすぎて良くなかったです。
 特に困ることもなかったのです。
 少し狭い気がするから。
 食堂はちょっと狭いと思う。
 営業時間が短すぎる。
 利用していない。
 食堂は短大の方は広くていいが、大学の方はせますぎて行っても座れないことが多かった。食堂のデザインを重視しすぎだと感じた。
 料金が低いような気がするため。
 7号館の生協が14時で閉めると不便。
 高い。カロリーが高いです。
 おいしかった。
 美味でした。
 品揃えが良い。
 値段が安くて助かりました。
 高い。
 もう少し席があるとよかった。
 いつも混んでいる。文学部の方が短大よりもせまい??
 お昼ときは混んでしまって、すわるどころがなく利用できないことが多いから。購買のお弁当もすぐなくなって何も無いことがあるから。それ以外は満足です。
 よく使った。安いのが良かった。
 食事も美味しいし、値段も安かったので良いと思う。
 ちょっと高いものが多いです。高いものしか残っていきなくなったら、がまんしたりしましたが、安いものをふやしてほしかったです。
 フォレストホールは安くお手軽な物ばかりだったので、良かった。

観光ホスピタリティ学科

いつも授業の合間に利用させていただいていた。お昼は購買のお弁当がなくなるのが残念だった。

おいしかった。

普通に良かったです。

いすやテーブルを増やして欲しい。学食の時間を長くして欲しい。

狭すぎるので、どうにかしてほしい。

料金が安い、メニューが少ない(パリエーションに楽しさがない)、ホールの座席の少なさ、狭さ。

購買部の職員の接客態度は学生相手だからと手を抜いているような印象で不快であった。

便利でした。

食堂はあまり利用しなかった。

学食が少し高いような・・・。

購買部はお世話になりました。

人が良く、学生たちに職員たちが大変やさしかった。

特に理由なく、良かった。

品数が豊富で値段も安いと思ったから。

おばちゃんとても仲良くなった。購買に行く楽しみが出来た。

購買部の販売スペースはもう少し広くても良いのではと思った。

面白い商品等も入っていて満足しました。

フォレストホールなど利用したいと思った時、混んでいて利用出来なかつたり、食べたいものがなかつたりしたことが残念だったなと思った。

時間帯によって対応が異なることが気になりました。

お昼ごはんでも利用させてもらいました。品ぞろえも多く楽しかったです。

お弁当の種類を増やして(変えて)も良いと思います。

同じようなものばかりだったから。

リーズナブルでおいしい。学生のことを考えてくれている。

食堂が混むことだけが嫌だった。

質や値段が最適で良かったです。

とてもきれいだし、使いやすかったです。

料金が安い。

上原さんがいる食堂がとても活気がある。

弁当などはスーパーで買った方が安いと思うのでそこだけは少し満足していませんが、それ以外はとても良いと思います。

しゅるいが多くて良かった。

基本的に満足しているが、もう少し値段が安いと嬉しい。

すくたすかった。

購買はもう少し広くしてほしい。

もっと広ければ良かったですが、満足しています。

利用しやすかったです。

おしかったです。

みんないい人でした。

健康栄養学科

食堂が狭くて座れないことが多かった。

カフェテリアが狭いように感じる。

色々なものがそろえてあって便利だった。

必要なものはだいたいそろっていた。

購買はいろいろな物がそろっていて楽しかったです。

目に見えて頑張っていたと思う。ただ来た人をジロジロみるのは不躰。

おいしかった。メニューをもっと増やしてほしいのと米類がほしい。

強いて言えばカフェテリアの方がフォレストホールよりメニューが充実しており、少しうらやましかった。

使いやすかったです。

混んで座れなかつたりする。

購買の弁当をもっと増やしてください。

品揃えがよく、欲しいものがすぐに手に入ったため。

セールなどがあってよかった。

3学年の頃に学食が変わったのが嫌だった。

フォレストホールは席数が少ない。大学の方も人数が増えているので、もっと増設すべきだと思う。席がない為に昼食をとれないのは改善して欲しいと思う。

生協が狭い。食堂の時間をもう少しのばしてほしい。

食堂が狭すぎます。お弁当に工夫がほしいです。

接客態度があまり良くないと思った。(購買部)品揃えが悪い。

休み時間に時間をつぶすことができた。

もう少し商品を多く、広くしてほしい。

品が少ない。

もう少しメニューがあってもよかった。

テスト期間中にお弁当がすぐ売り切れていた。発注が難しいと思いますが、もう少し数量を確保してほしい。キャンペーンなどが充実していた。

座席がもう少し多ければと思う。

食べたいと思うものが少ない。特に弁当・学食は安く、バランス良く食べることが難しいため、ほとんど利用しなかった。利用できる時間も短い。朝・夕方も利用出来るようになるとうい。売り物がよくなるとい。そもそも利用しないが・・・。

昼食を用意出来ないときに助かったから。

メニューを増やしてほしい(お弁当)

フォレストホールがもう少し広ければもっと利用する学生が増えると思う。

学生の人数に対して、フォレストホールの席数が少なくせまいと思う。このことが理由であり使わなかった。

安くおいしかったので。

もう少し種類があるといいです。

食堂がせますぎてなかなか利用できませんでした。

大学の食堂が狭くて、利用できなかった。座席が少なすぎる。

安くおいしかった。

スポーツ健康学科

もう少し値段を下げてほしい

おいしかったです！！けど生活応援メニューがなくなってしまったことは少し残念...

閉まる時間が早すぎる 食べ物がなくなるのが早く、後からいくと米がない！！

安くて、品ぞろえが良いから

安くておいしかった。

食料品をもう少し安くしてほしいです。

売り切れが早い(上の食堂)

時間ギリギリにいくと何もなかったり、対応が雑な気がした。

おいしかったから。

便利だから。安いし買いやすい。

今年度のフォレストホールの学食は良くなかった。閉店15分前とか20分前くらいに行くと、ご飯売り切れとか、おかずも全然なかったりとか。

なくなるの予想して準備するのが営業する上で当たり前ではないのか。閉店する少し前に行くと、明らかに嫌な顔をされて、気分が悪い。

多くの人がそう思っています。サービス精神というか、基本がなっていないと思います。

自分自身もアルバイトを行っているので、そういうところをよくみます。改めたほうが良いと思います。

フォレストの対応がよくない。ご飯がなくなるのが早い。閉店するのが早すぎる。

学生に対する思いやりがない。フォレストの方が良くない。自分たちがいいように働きすぎだと思う。

お世話になったので

おいしかったです。

おいしかった。

珍しいものがあれば食べたり飲んだりします。

せまくて人がいっぱいいる

1人暮らしには助かる施設だった。

生協のおばちゃん達が1人暮らしの私に対して母親のように接してくれた

立ち読みできて

おいしかったから。

いつもお世話になっています

生協の割引でいろいろと、経済的な面で楽になったため

ご飯がなくなるのが早い。なにもしない人がある。盛り方が雑。ソースかけすぎ。狭い。(フォレスト)

狭く、昼食時に行くとき混み合っているため。

品揃えが豊富

フォレストホールの場所が狭い。

規模・店内が小さい

購買で、入荷して欲しいものを伝えると、仕入れてくれる。

ご飯(お米)の炊き方がやわらかいのが、ちょっと難点

値が普通。大学内ならもう少し安く。

安くていっぱい食べれる。満足。

もう少し愛想よくして欲しい。嫌々仕事をしているように見える。

価格と内容が伴っていないように感じた。

生協がせまい

生協1階の女性の皆さんはとても素晴らしいと思う。

あまり利用しなかった

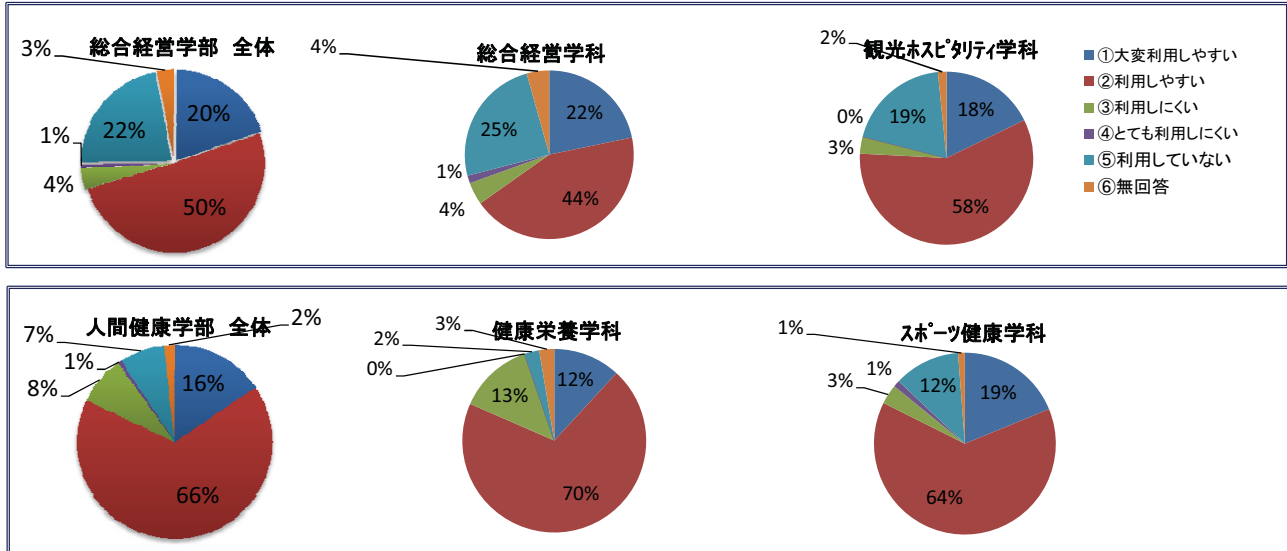
もう少し種類を増やして欲しい。

基本的に満足だが、フォレストは値段が高すぎ

学生に合わせてリーズナブルでした。

質問16. あなたは図書館についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

| | 総合経営学部 | | | | | | 合計 | 人間健康学部 | | | | | | 合計 |
|------------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|--------|----|----|-----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変利用しやすい | 11 | 4 | 15 | 7 | 4 | 11 | 26 | 0 | 9 | 9 | 11 | 5 | 16 | 25 |
| ②利用しやすい | 20 | 10 | 30 | 16 | 20 | 36 | 66 | 3 | 50 | 53 | 37 | 17 | 54 | 107 |
| ③利用しにくい | 2 | 1 | 3 | 1 | 1 | 2 | 5 | 0 | 10 | 10 | 2 | 1 | 3 | 13 |
| ④とても利用しにくい | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| ⑤利用していない | 14 | 3 | 17 | 9 | 3 | 12 | 29 | 0 | 2 | 2 | 9 | 1 | 10 | 12 |
| ⑥無回答 | 3 | 0 | 3 | 0 | 1 | 1 | 4 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 | 1 | 3 |



【理由等】

総合経営学科

かりるときや返すときの使い方が楽。
 借りやすかった。
 あの空気感は好き。ただ、しゃべれるスペースが欲しい。
 司書の方に聞けば手続きも説明していただけたので簡単に利用できた。
 とても良かった。
 静かで量が豊富だったから。
 映画が見れたりテスト勉強にはもってこいの環境でした。
 利用したかったです。
 一階の図書館に直接行く方法がないのが不便でした。
 パソコンが使えるのが便利。
 一人で本を読んだり、勉強するスペースがあり映画などもみることができたので。
 うるさい時が多かった。
 静か。
 静かなので落ち着きます。
 静かでキレイ。
 バリエーションが多くて楽しめました。
 静かで利用しやすかったです。
 大変静かに勉強ができて、すごく良かったです。
 たまにマナーを守らない人もいましたが、よく利用させてもらいました。ありがとうございました。
 座れるところもたくさんあるし、お昼も食べれて、DVDも見れるので、とても良いと思った。

観光ホスピタリティ学科

利用はしやすいが、昼食時であっても、飲食は普通だめだと思う。
 本を探すのが分かりにくい。パソコンが少ない。
 専門書が多くてよかったです。もう少し文庫や小説が多いとよかったです。
 DVDのリモコンが、利用していない席と連動していて不便だった。
 職員の方の大きな話し声がたまに気になった。
 一度本の場所が変わった時は困りましたが、4年間大変多く使わせていただきました。
 ほしい本が大体あって助かっています。
 静かだから。
 個人スペースが勉強の際によく利用させてもらいました。
 静かに勉強できて良かったです。飲み物ぐらいは許しても良いかと思えます
 学部別に多い利用者コーナーを作ってみては。
 集中できる環境だった。
 静かで集中しやすい。
 テストの日などには席を多く増やしてほしいです。
 個別スペースをもっと増やしてほしい。
 スペースをもう少し増やしてほしい。
 席も多く、ゆっくりすることができてとても良い。
 沢山の本が読めて良かった。
 人数が少ないので使いやすかった。
 あまり使わなかったが、静かでよかった。
 本は読んでいないが、勉強する良いスペースだった。
 少し遠い感じがした！！
 静かでよかった。

健康栄養学科

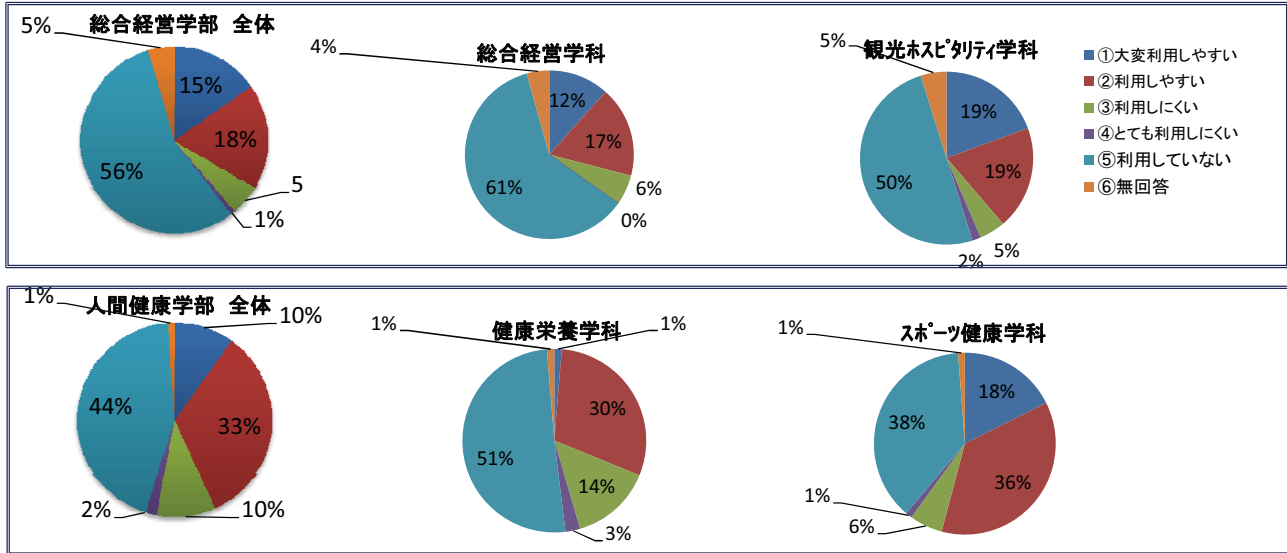
静かで落ち着ける。
 場所が遠い。
 20:30まで開いて便利だった。
 個別のスペースが多くあり、良かった。
 静かに勉強できるから。
 少し遠いけど、返すのはポストに入れれば良いから良い。
 とても勉強しやすいものだった。
 途中からふたつきの飲み物OKになって良かったです。温度も快適でした。
 静かに利用できたので、良かったと思いました。
 パソコン等を使えば、どこに本があるか探しやすい。
 自分では高く買えない教科書、資料があるため。
 静かな環境で勉強できたため。
 利用しやすいが席とりが多くて、お昼ごろに行くと席がないことがあった。
 広いし、視聴覚室もあるところが良いと思う。
 少しうるさいのが気になりました。
 場所が遠い。
 場所が遠いから。
 個人机に電気の球が切れかかっていることがややあった。
 今年度からフタ付きの飲料持ち込みが出来たのがよかった。
 テスト前など集中したい時に利用していましたが、ときどき話し声がかかっていて、気が散りました。
 利用できる時間が短い。週末使用できないなど不便。24時間が理想だが、せめて8:00～22:00くらいまでは使用できてほしい。
 テスト前になると座る席が少なく利用ににくい。
 テスト期間中がうるさくなってしまうのが残念だった。
 DVDもあるし、本もいっぱいあり勉強においても集中しやすい。
 個人机が多く、使いやすかったです。
 お昼の時間帯で昼食をとるスペースをもっと増やして欲しかった。

スポーツ健康学科

落ちつく
 個々の机もあって勉強しやすい
 本がたくさんあり、DVDも見れる。
 Wi-Fi 3階通りやすくしてほしい
 とても静かで良かったが、資料を探しづらかったし、聞きづらかった
 DVDが見れたり、いろんな利用の仕方ができたから。
 静かで、気持ちの良い空間であった！
 冬になると1階がとても寒い
 本の返却が遅れてすみません
 広く、整理され、適温でした
 分かりやすい配置でした。
 DVDがおもしろかった。
 いろいろな本を読めるから。
 もっと席を増やしてほしい
 行く機会がない
 DVDがあったりなど良かったから
 本を探すのが少し難しい。検索が難しい
 テスト期間中話しているグループがいて、とても腹が立ったが、それ以外とても良かった。
 幅広い分野の本があるため。
 本が多い
 パソコンの台数を増やして欲しい
 あまり行ってないが利用しやすかった
 勉強スペースが多くあるので助かる。本がどこにあるのか、探しにくいときがある。
 遠かったから、あまり行かなかった
 静かで勉強にはちょうど良い。
 本を多くしてほしい。医療・スポーツに関しては、最新のものをそろえてほしい。
 DVD最高
 印刷の際に用紙を買うが、前の人のやつが詰まって自分のが無駄になった場合でも再度お金を払うのはおかしい。

質問17. あなたは健康安全センターについてどのように感じましたか。その理由や要望など。

| | 総合経営学部 | | | | | | 合計 | 人間健康学部 | | | | | | 合計 |
|------------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|--------|---|----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変利用しやすい | 6 | 2 | 8 | 9 | 3 | 12 | 20 | 0 | 1 | 1 | 6 | 9 | 15 | 16 |
| ②利用しやすい | 10 | 2 | 12 | 5 | 7 | 12 | 24 | 2 | 21 | 23 | 22 | 9 | 31 | 54 |
| ③利用しにくい | 2 | 2 | 4 | 0 | 3 | 3 | 7 | 0 | 11 | 11 | 4 | 1 | 5 | 16 |
| ④とても利用しにくい | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 3 |
| ⑤利用していない | 30 | 12 | 42 | 18 | 13 | 31 | 73 | 1 | 38 | 39 | 28 | 4 | 32 | 71 |
| ⑥無回答 | 3 | 0 | 3 | 1 | 2 | 3 | 6 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 |



【理由等】

総合経営学科

普通によかった。
 とても良かった。
 先生がすごくいい人。
 必要なかった。
 インフルエンザにかかった時に適切な指示をしてくれた。
 病気、ケガをしていないため。
 カウンセラーが都合悪い事が多く、なかなかマッチしなかった。
 使ったことがない。
 居心地が良かったです。
 ケガをしなかったため。
 行く用事がなかった。
 小さな傷で行ったら(ばんそうこうをもらいに)ことわられてしまった。せめて消毒くらいして下さい。
 ノロウイルスにかかったときは大変お世話になりました。ありがとうございました。
 あまり分かりません。
 先生の感じが悪かった。メンタルが弱っていた時、めんどくさそうに対応された時があった。
 健康診断の時など分かりやすく自分の体がこうなっていますなど教えてくれたので、とても良かった。

観光ホスピタリティ学科

野球部がいることが多く感じたため入りづらかった。
 利用しませんでした。
 ほとんど利用していない。
 あまり行く機会がなかった。
 不在の時が多かったので、いざという時困ったことがありました。
 相談等によってくれるので良かったです。
 とても優しく対応していただき感謝しています。
 色々と助けて頂いて嬉しかったです。
 担当者優しいです。
 ケガをしたときに色々なアドバイスをしてくれたし、話しやすい方だった。
 利用しない生活が一番なので、そのままの位置付けが良いと思う。
 やさしかった。

健康栄養学科

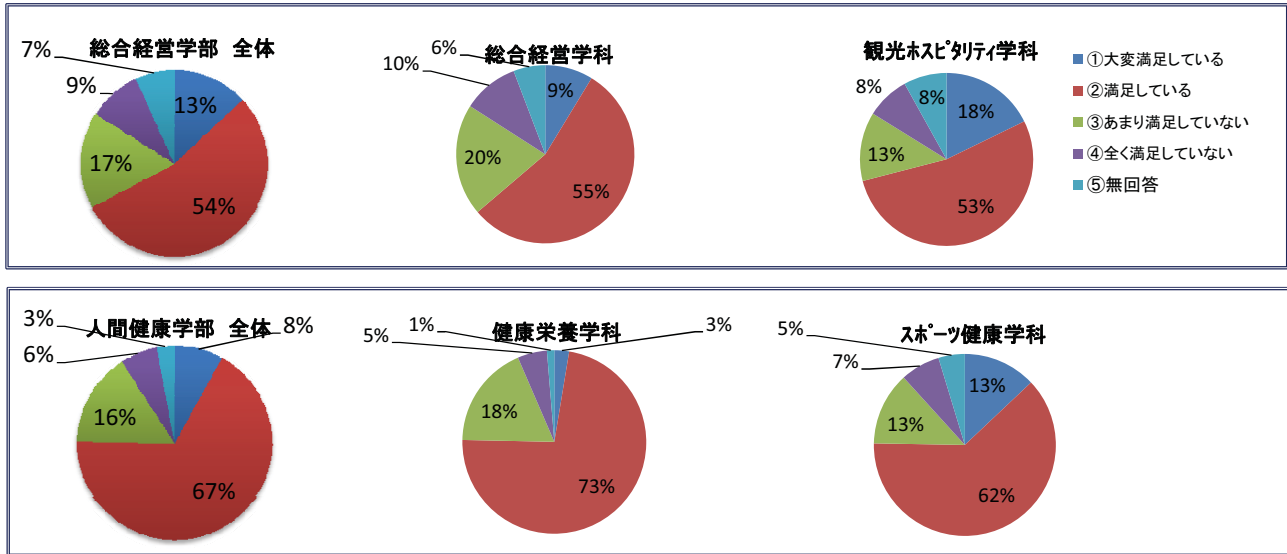
場所が遠い。
 体調が悪いときに相談へ行ったら、親切に対応してくれた。
 持病についてはとてもサポートしていただき、有難うございます。
 具合が悪いときには入りにくい。
 健康だった。
 元気だったから。
 行きにくい。ここへ行くよりも学部の先生の所へ行きたいと思う。
 あまり利用していませんが、健康安全センターがあるということだけで安心出来た。
 先生がいなかったり、対応が冷たかった。
 具合が悪かったり、何かあった時に行っても人がいない。
 場所が少し遠く感じました。

スポーツ健康学科

やさしくていいねい
野球部がいることが多くて入りづらい
先生の雰囲気がいいから
雰囲気がよく行きやすかった。
大変お世話になりました。
〇〇先生すばらしい！
話しやすい
いつも親身にいろいろ対応してくれたから。
行きやすかったです。
具合が悪い際に、すぐ対応してもらった。薬もあって、急な時に助かった。
手当てが迅速でした。
満足してるかな・・・。
野球部がたむろしていた
怪我してない
先生に気軽に相談できた。
親身になって相談を聞いてくれたように思う。
入りやすい
自分が学んだことも出てきたから
いろんな相談ができて、体調のことも詳しく教えてくれる。顔を覚えてくれて、いつも声をかけてくれる。
入りにくい。
大変お世話になりました。

質問18. あなたは本学の行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、花火大会)についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

| | 総合経営学部 | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | 合計 |
|-------------|--------|----|----|-----------|----|----|--------|----|----|--------|----|----|-----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 4 | 2 | 6 | 7 | 4 | 11 | 0 | 2 | 2 | 7 | 4 | 11 | 13 |
| ②満足している | 27 | 11 | 38 | 17 | 16 | 33 | 2 | 54 | 56 | 36 | 17 | 53 | 109 |
| ③あまり満足していない | 10 | 4 | 14 | 3 | 5 | 8 | 0 | 14 | 14 | 9 | 2 | 11 | 25 |
| ④全く満足していない | 6 | 1 | 7 | 4 | 1 | 5 | 1 | 3 | 4 | 6 | 0 | 6 | 10 |
| ⑤無回答 | 4 | 0 | 4 | 2 | 3 | 5 | 0 | 1 | 1 | 3 | 1 | 4 | 5 |



【理由等】

総合経営学科

色んな人と交流ができた。
 学生らしくともいい行事でした。
 あまり参加してないため。
 ほとんど参加していないが参加したときは楽しめた。
 運営者側にいたが、反省点がたくさんあってまだまだ改善できることがある。
 あまり参加していない。
 あまり参加してないから。
 とても良かった。
 毎年びみよー
 参加自由なのでよかった。
 しっかり盛り上げてくれたから。
 参加人数が少ないと感じました。
 楽しかった。
 参加したことがないので分からない。
 そんなに出ていないので。
 参加しなかったのが多いです、総合経営学科らしいイベントも欲しかったところ。
 大学祭は楽しかった。
 楽しかった。
 あまり参加しなかったです。
 楽しかった。
 あまり参加しなかったが楽しかったと思う。
 交流が深められる。
 大学祭では他人と話すきっかけになりました。
 楽しめた。
 皆でもりあがって作り上げられて良かったと思う。
 高校生レベルであまり楽しくなかった。
 たのしかったから。
 身内だけで楽しんでみたいみたいで参加しにくい。
 学生が一丸となっていてとても良かった。
 参加していない。
 学祭はまあまあ楽しかったです。仕事ばかりであまり楽しめなかった思い出です。あと資格試験とかぶって参加出来なかった事が多かったです。
 主に学祭は運営する側が多かったが、イベントはアーティストなどは毎回豊富でとても良かったと感じた。

観光ホスピタリティ学科

もう少し参加できたらよかったですと思います。
 大学祭はとても楽しかった。
 普通に良かったです。
 体育大会、花火大会はもっとやってほしい。
 2年からだんだんつまらなくなっていた。
 楽しかったです。
 年々楽しめました。
 大学祭が楽しかった。
 根本的にももしろくない。
 参加できなかったの。
 体育大会は他の学部の生徒と関わる事が出来、良い思い出。
 大学祭がとても楽しかったです。
 学祭、楽しくできました。
 学祭以外は映像があった方がイメージしやすいと思う。
 多くの人と関わることができる。
 大学祭楽しかった。
 生徒一人一人が楽しく盛り上げようという雰囲気があって良かった。
 学祭でお酒が飲めないのはいやだった。信大はOKなのに・・・。
 とても楽しかった。
 あまり盛り上がらなかった。
 あまり参加できませんでしたが、大学祭はゼミのみんなで頑張って活動できて楽しかった。
 他の学部とも色々関わられた。
 校友会がやりたいことをやっているだけ？に感じた。
 司会がぐたくたすることが多い印象であった。
 交流ができて良かった！！
 楽しかったです。
 参加していない。
 楽しかったです。

健康栄養学科

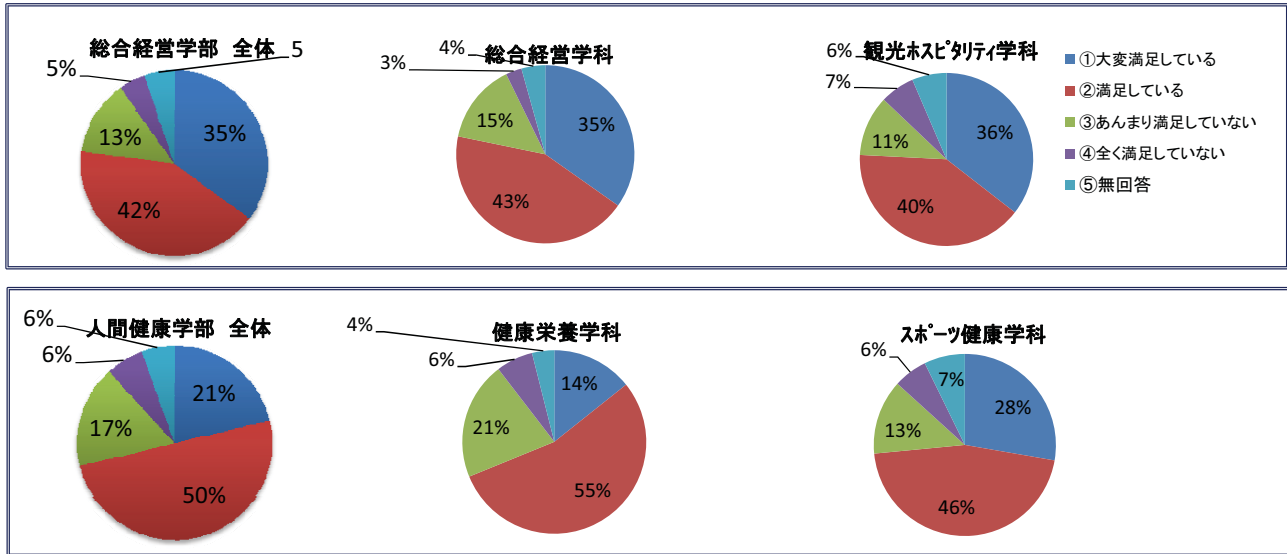
良い思い出が出来ました。体育大会も早く企画してくれたら良かったです。国試などで忙しい時期なので。
 あまり参加していないが色々な企画をしてくれてよかった。
 交流も大事だが、学校の設備(パソコン)を直す方に資金を使ってほしい。
 少ししか参加していないけれど楽しかった。
 あまり参加しなかったから。
 学科によって、参加出来る行事の差が激しい(少し)
 大学祭は良い環境でした。
 花火大会がよかった。
 花火が豪華でよかった。
 大学祭は楽しかった！！
 特にH25年度は新しい企画がたくさんあり、充実していた。
 ほとんど参加していない。
 知らない人と仲良くなれるチャンスだと思う。
 あまり参加していない。
 参加をしていない行事が多い。

スポーツ健康学科

楽しかった
 交流のいい機会になっている
 楽しいけど過酷
 学科内や学年内の交流ができるような企画をしてほしい。
 毎年いろんな工夫をして行ってくれているから。
 思い出に残るものになりました。
 学科の同学年だけの体育大会がやりたかったです。
 参加していない
 楽しめたので
 参加していない
 楽しかったです。
 楽しめてよかったです。
 色々な企画があり楽しかった。
 参加したいとあまり思えなかった。
 ゼミによっては、ほぼ強制参加の行事もあるので、そういう行事が苦手な人への対処を考えてほしい！！
 参加あまりしていない
 楽しかったから
 1年のとき、新入生歓迎会で、学部学科によって、会や景品が違ったのは、不満だった。
 楽しかったため。
 楽しいイベントが多かった
 できれば体育大会を増やして欲しかった
 新しいことを始めようとする取り組みが良かった。
 人が集まりすぎて困るだろうけど、いないよりはマシなので、もう少し行事の工夫とか「行きたい！」と思わせるプロモーションをかけたほうが良いと思う。
 学祭のアーティストも4年間興味が無い人ばかりだった。(芸人・歌手だけでなく、パフォーマーとかでも良いと思うんだなー。曲を知らなくても盛り上がるてきな。)
 イベントがいまいち盛り上がらない(他大学と比較して)
 楽しいだけでなく、学べることもあった。
 参加・不参加が曖昧
 興味がわかない。
 参加できなかったため
 あまり参加していなかった
 花火いらなく、無駄遣い多すぎない？そんなに使うなら学費安くして。ほとんどの学生が思っています。
 もっと盛大にできるだろうと思う。
 学部の体育大会が少ない。商短のほうが多い。

質問19. あなたは卒業後の進路に満足していますか。満足していませんか。

| | 総合経営学部 | | | | | | 人間健康学部 | | | | | | 合計 |
|--------------|--------|---|----|-----------|----|----|--------|----|----|--------|----|----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 17 | 7 | 24 | 17 | 5 | 22 | 0 | 11 | 11 | 16 | 7 | 23 | 34 |
| ②満足している | 21 | 9 | 30 | 9 | 16 | 25 | 2 | 40 | 42 | 28 | 10 | 38 | 80 |
| ③あんまり満足していない | 8 | 2 | 10 | 2 | 5 | 7 | 1 | 15 | 16 | 8 | 3 | 11 | 27 |
| ④全く満足していない | 2 | 0 | 2 | 3 | 1 | 4 | 0 | 5 | 5 | 4 | 1 | 5 | 10 |
| ⑤無回答 | 3 | 0 | 3 | 2 | 2 | 4 | 0 | 3 | 3 | 5 | 1 | 6 | 9 |



【理由等】

総合経営学科

人とコミュニケーションのとれる仕事であるから。
 就職できたので満足です。
 自分がやりたいと考えられる進路を見つけることができた。
 自分のやりかたの仕事ができそうだから。
 希望通りの就職先に内定をもらえた。
 就職難の中、決まったから。
 決まっていないから。
 とても良かった。
 自分の責任。
 自分で決めたことだから。
 キャリアセンターにサポートもしていただきました。親とも相談して納得の上だったから。
 進路はまだ決まってませんが。
 自分が希望していた職種で働くことができた。営業や小売り、サービスなどの文系職ではなく期待も不安もある。
 まだ決まっていない。
 キャリアセンターの方のおかげです。
 すべて希望通りとはいかなかったが、良い就職が出来たと思う。
 キャリアセンターの方のおかげです。サポートもあり自分では良い企業に入れたと思うから。
 自己分析の不足でした。
 決まったから。
 決まってない。
 思うように行かなかった。
 すべて思いとおり。
 自分で決めたことなので。
 志望していた企業だから。
 自分なりに努力し、道を選べたので、満足しています。がんばります。
 てれから失敗することが何度かあったら、また学校でアドバイスをもらいます。
 希望通りの仕事に就けました。
 4年間アルバイトでお世話になったところで就職が決まったので、とても良かった。今まで分かってきたことをフルに活かせる仕事だと思うので、頑張りたい。
 自分の目指した職種に就職できたから。
 迷っている。

観光ホスピタリティ学科

まだ未決定であるため
 まだなんとも。
 充実しています。
 頑張ります。
 不安です。
 頑張って充実させたいです。
 まだ決まっています。
 目標をはっきりとしているので。
 なかなか就職が決まらない中でやっと内定がもらえたから。4月から働くことが楽しみだから。
 まだ決まってないから。
 持病の為なので、仕方ないと思っています。
 いい就職先に入ることができました。
 自分の希望がかなったから。
 就活中です。
 本命にしていたところに行けたため。
 希望していた所に近い所に就職できたため。
 就職先が決まったので。
 就職先がまだ決まっていないので。
 社員の人が優しい人が多いので満足しています。
 自分がんばれる会社につけた。
 ゼミ先生のおかげで自分の目標に向かえると思う。
 希望職種ではなかったが、大学の学びが活かせると思う。
 決まっています。
 自分を高められると思うから。

健康栄養学科

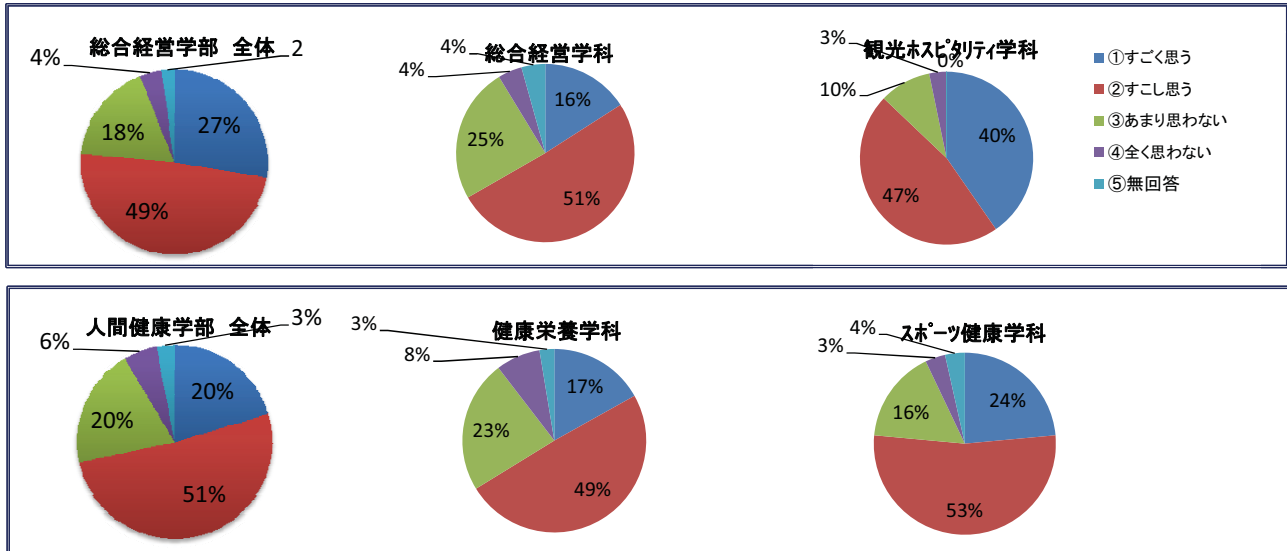
希望する職種につけてうれしい。
 決まっていないから。
 自分で選んだので。
 まだ決まっていないので。
 専門職として働けるので学んできたことを活かしていきたい。
 これから満足します。
 希望の所に内定を頂けたため。
 希望する場所にいけなかったため。
 まだ決まっていない。
 入りたいと思っていたところだったから。
 自分の能力、大学のわりには・・・という印象。
 自分のやりたい仕事に就けたから。
 大学院に行けるから。
 自分で行きたい道がまだ決まっていないので。
 最後の最後までサポートしていただき、本当に嬉しく思っています。

スポーツ健康学科

自分なりに目標を見つけることができた
 大学で得た資格を生かせる仕事ができるから
 まだ分かりませんが、満足できるようがんばっていきます。
 もう1回やり直したい もっと社会に出てのことを考えて大学生活を送ればよかった
 絶対行きたかったところではないから。
 直接指導へ携わる職ではないものの、自分の休日を利用して、大学で学んだことを活かせる場所を見出すことができたため。
 キャリアセンターはあまり活用しませんでした。やりたいこと、目標を持っていることに就けて、これからは楽しみだし、がんばりたいです。
 まだわかりません
 休みが少なそうだから
 がんばります。
 第一希望だったので嬉しい。
 満足しているが自分の行きたいところへは行けなかった。
 教員、講師等が充実している
 自分次第だが、まだ決まっていないので。
 大きい所に就職できた
 思っていたことと違ったから
 目標、夢が達成できたため
 希望した職に就けたため。
 希望がみえるので。
 公務員志望だったため
 実家に帰りたくない。不本意。企業は満足。
 自分の思っている採用試験にしっかり受かりたかった。
 自分の決めた進路なので満足している。
 やりたいことだから。
 まだ決まっています。

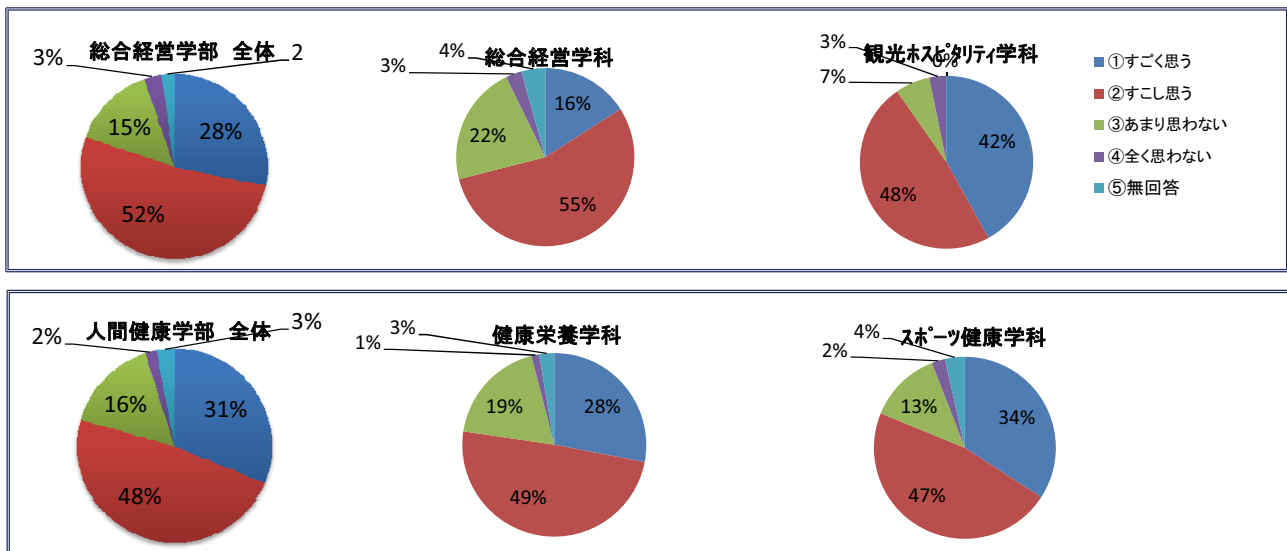
質問20. あなたは「松本大学」を誇りに思えますか。

| | 総合経営学部 | | | | | | 合計 | 人間健康学部 | | | | | | 合計 |
|----------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|--------|----|----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①すごく思う | 10 | 1 | 11 | 9 | 16 | 25 | 36 | 0 | 13 | 13 | 13 | 7 | 20 | 33 |
| ②すこし思う | 23 | 12 | 35 | 17 | 12 | 29 | 64 | 1 | 37 | 38 | 31 | 14 | 45 | 83 |
| ③あまり思わない | 13 | 4 | 17 | 5 | 1 | 6 | 23 | 1 | 17 | 18 | 13 | 1 | 14 | 32 |
| ④全く思わない | 3 | 0 | 3 | 2 | 0 | 2 | 5 | 1 | 5 | 6 | 3 | 0 | 3 | 9 |
| ⑤無回答 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 2 | 2 | 1 | 2 | 3 | 5 |



質問21. あなたは「所属学部・学科」を誇りに思えますか。

| | 総合経営学部 | | | | | | 合計 | 人間健康学部 | | | | | | 合計 |
|----------|--------|----|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|--------|----|----|----|
| | 総合経営 | | | 観光ホスピタリティ | | | | 健康栄養 | | | スポーツ健康 | | | |
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①すごく思う | 10 | 1 | 11 | 10 | 16 | 26 | 37 | 0 | 21 | 21 | 18 | 11 | 29 | 50 |
| ②すこし思う | 24 | 14 | 38 | 18 | 12 | 30 | 68 | 2 | 35 | 37 | 29 | 11 | 40 | 77 |
| ③あまり思わない | 13 | 2 | 15 | 3 | 1 | 4 | 19 | 0 | 14 | 14 | 11 | 0 | 11 | 25 |
| ④全く思わない | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 4 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 3 |
| ⑤無回答 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 2 | 2 | 1 | 2 | 3 | 5 |



質問22. 松本大学松商短期大学部をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

【意見・提案】

総合経営学科

帝王学があったらよかった。プリペイド、ロッカー返却がもっとはやくできると良い。松netを家からでもつかえたら就職で便利。
 ゼミ室のパソコン、プリンターが普通につかえるようにしてほしい。駐車場で遊んでいる人への注意、事故などのために防犯カメラがあったら安心。
 もっとカウンセラー資格の講義の充実化をしてほしい。また、資格対策のものも充実して欲しいと思う。
 もう少し駐車料金を下げるべき。
 駐車場の利用料が高いので安くしたらいいと思う。
 5号館から6号館への通路で2階にも簡単な屋根があつて欲しい。
 今のままでいいと思う。
 駐車場の無料化。
 出欠席の評価を厳しくするべきだと思います。
 誰でも入れる大学とイメージを払拭させる。
 通学が大変だったので、寮を増やして欲しい。キャンパスを色々な場所にしてほしい。
 このままの方向性で良いと思う。もっと教員の充実を図ればさらに学業が楽しくなると思う。
 総経でも外に出て講義をした方がよい。
 学生の質がよくない。キセルなどの話を聞くと残念でならない。
 英語のクラス分けでTOEICを活用していくべき。
 規定のGPAの数値に達しない学生は退学勧告を出すべき。
 卒アル代を取ることにびっくりしました。しかも、12000円は学生課のアマチュアカメラマンにしては高いと思います。
 コンセントを使用して「盗電」は意味が分からない。〇〇大学、〇〇大学もそんなことはないらしい。
 もう少し評価の制度を変えてもらいたいです。食堂の健康面を考えてのメニュー作り。
 テニスコート側の部室を新しくしてほしい。
 職活、事故、病気で欠席を何とかしてほしい。
 駐車場の無料化
 駐車場(特に第一)通路にとめている人がいるのを何とかしてほしい。
 お金を払って入学しているのでコピー用紙にお金をとるのはやめてほしい。
 大学の友人がたくさんできて4年間楽しかった。しかし、もっと専門的に学べると思ったのでその点は残念だった。
 各専門知識のさわるだけならば高校の商業科とあまり変わらないので、大学のレベルの授業をしてほしいと思った。
 電車の時間との関係をもっと改善してほしい。
 現代社会をもっとふやすと良い。就活のための知識をもっと深めると良い。
 4年間楽しかったです。ありがとうございました。
 フラネタリウム、星空を楽しむための授業などがあると嬉しいと感じた。変えてほしい所、制度などは特にありません。

観光ホスピタリティ学科

ゼミは自分たちのように強制加入のほうが良いと思う。大学祭が寂しくなりそう。日常生活でも大学にあまり出席なくなる人もできそう。
 トイレの手を乾かすやつ。そろそろ使えるようにしてほしいのでは？
 イベントをもっと増やして欲しい！ありがとうございました！
 生協・フォレストを広く！
 職員がクソすぎ。もっと教育をすべき。
 もっと他学部との交流があれば良いと思う。
 仮眠室が欲しいです。
 短大の講義も単位にして欲しい。
 より海外での研修がしやすくなるよう、助成金の制度があればより良いと思う。
 もっと幅広い分野を勉強できるように時間を調整してほしい。
 もっと公務員を目指す人向けの授業を増やして欲しい。
 自分の地元では全々名前が知られていなかったのもっと知名度が上がるといいと思う。
 出来たら冬場限定でも良いので室内に喫煙所を設けてほしい。
 屋内で昼食や軽食等の飲食できながら過ごせる場所をあと1~2ヶ所増やしてみてもいい。特に秋~冬では外が寒いので
 屋内で食べる人が多いと感じています。
 遠くから通学する人のための寮を作ると良いかと思えます。
 もっと他の学科との交流があればいいなと思います。(授業の中で)
 大学の課によって差がある対応を改善してほしい。地域貢献を主にしているので大学側も学生に寄り添ってほしい。
 4年生で授業をあまり受けない人の学費がもう少し安くなれば良いと思った。
 〇〇先生の天文の話。
 他学部と共同活動、授業はどうでしょうか。(部活も)
 公務員試験の講義は、もっと早くやってほしい。
 軽音部の練習環境をもっと考えてほしい。
 アウトキャンパスを行う授業が増えれば生徒たちも意欲的に取り組めるのではないかと思います。
 授業をもっと安く。
 室内喫煙所がほしいです。
 著名人を招待して特別講義を開けば良いと思う。
 松本大学生の良いところであいさつというのが多く上げられていたと思います。キャンペーンとかあいさつ週間などを使ってはどうかと思いました。
 講義をもっと生徒参加型になると良いのではないかと思います。
 学生が利用者なのにクレームがあつたとしても対応がざつだし、申し立てるところが直接なので不満の状態です卒業するのが
 一般的ではないでしょうか？第三者の窓口を作り、学生に教える必要性を感じます。
 ここで具体的に書いてもそれに関連した学生が特定されるのでプライバシーが保護されているとは思えません。
 駐車場を1日200円現金でも使用できるようにしてほしい。
 ゼミは2年生からに戻した方が良いのではと思う。
 ゆうちょのATMがあると便利では？電子マネーの使用可。
 第二体育館を広く。
 部活動をより盛んに！！スポーツ大として北信越で1位に！！
 福祉の学科(30名程度)があつてもいいと思う。
 近隣大学ともっと連携を。
 偏差値を上げる。
 駐車場をもっと安くしてほしい。
 駐車料金を低くしてほしい。

健康栄養学科

喫煙所とATMを6号館にも欲しい。
 自分たちの努力の問題ですが、もう少し偏差値や評判があがればもっと誇りに思えると思う。
 6号館の廊下のPCが使えないものが多かった。またプリンターも上手く印刷できないことがあった。
 6号館1階で貸し出しているPCがインターネットにつながらない
 ものが多かったの、なおしてもらいたかった。
 車の駐車料金を安くした方が良いと思った。
 栄養はもう少し国試対策をしてほしい。
 アンケートだけでなく、日常で気付いて変えられないなら到底無理ではないでしょうか。
 パソコンなどの備品をしっかりとってほしい。
 管理栄養士国家試験のためにもっと取り組んで欲しい。
 生協や食堂、駐車場をもう少し広くしてほしい。利用しにくかった。
 生協を広くしてほしい。
 色々なところでお金をとるのはやめてほしいです。学生にはとてもきついです。(教科書や模試代は良いですが)
 お金が高い。自動ドアがあるのか不明。
 早く3階や2階のパソコンを新しくした方が良いと思う。
 パソコンを新しくした方が良い。パソコンからの印刷の際の用紙を年度でリセットするのではなく、4年間繰り越しにしてほしかった。
 学生の入学時の偏差値が低いので、今より高くなることを祈ります。はずかしくて知り合いに大学名をいえません。オリエンテーション等職員の方への連絡の段取りが悪すぎると感じる事が多々ありました。学生の目線で考えたほうが良いと思います。多くの人に地域貢献以外にもよいイメージを持たれる大学になるといいですね(多くの人は県内でもこのことは知らないと思います)
 管理栄養士の合格率がアップすると良い。
 大学の周りにお店(スーパー、ドラッグストア等)があったら便利。
 テストの成績発表が遅い。オリエンテーションが遅い。
 ③ 栄養学科は、4年になると就職+卒論+国試と少し大変なので、卒論に対して少し緩和してほしいです。

スポーツ健康学科

部活動の寮の設備をもっと良くすれば住みやすく安全に過ごせると思う。
 駐車場のお金を安くしてほしいです。
 もっと野心を持って勉強できる環境を変なところにお金をかけないでほしい
 体育館を増やしてほしい。
 実技指導を増やしてほしい
 就職支援ガイダンス等を教わっていたときと、実際に就職活動が始まったときに職員の方が代わってしまうと、相談などにも行きづらくなってしまっていた。
 貸出用パソコンの返却が遅れたときの代金を何に使っているのか気になった。
 教職だけを取っている人が、単位をたくさん取らなければいけないので大変そうだったと思った。
 学科でのイベントがもっとあったらもっと楽しいし、交流が増えると思う。
 学部と学科を増やす
 講義中にうるさい奴には、真剣に怒っていいと思う。
 今まで通りでいいと思います。
 私の口から言えません。でも、このままでいいと思います。
 大学内に一人暮らし用のスーパーのようなものを設置する。
 最初だけではなく、いつでも授業を取り消せるようにしてほしい。
 生協を広くする。
 駐車場の管理
 スポーツマッサージの授業があったらいい。駐車代を集めるのをやめて欲しい。フォレストの食事席が足りない。
 駐車場がまだ車が入るのに、満車と出る時がある。図書館で個人的に本の購入ができれば、便利かも！！
 学生主体と言いながらも、職員が介入しすぎていると思う。特に学友会関係
 替え玉出席への対策を考えて欲しい。
 今のままでいい。
 メソフィアを活用する先生、しない先生がいるが、使用するならするで全先生統一してもらいたい。
 大事な成績を載せるぐらい重要なら徹底するべきだ。
 駐車場のセキュリティーのあまさ(カード)
 全学部学費を統一してほしい
 駐車場の料金が、少し高いと感じました。フォレストのメニューを変えて欲しい。
 もう少し学費を安くしてもらえると良いと思う
 駐車場を無料にしてください。
 再試は行うべき。2000円は高い

質問23. 所属学部・学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

【意見・提案】

総合経営学科

昼休みがもう少しあったらクラブも校友会もやりやすい。学生が自由に集まれる場所がもう少しあったら良い。字がうまくなる授業。もっとカウンセラー資格の講義の充実化をしてほしい。また、資格対策のものも充実して欲しいと思う。

今のままでいいと思う。

総経の再試。

基礎学力を上げる努力が必要。

とにかく講義を受講する態度をあらためるべき。大学側からの働きかけには限度があると思うが、ぜひやってもらいたい。

アウトキャンパスを増やす。

総合経営学部 総合経営学科で良かったです。お世話になりました。

かなり個人的ですが、〇〇先生からひどい事を言われて謝ってもらうこともなく、勉強に集中出来ない時がありました。

あと一歩、感じ方によってセクハラと思えるような事もされるので、もう少し、気を遣ってもらいたかったです。

テストが100%で出席点が全くない講義があるが、テスト100%はさすがに厳しいので、出席点も含め、テスト100%ではなく、もっと低くして欲しいと感じた。

観光ホスピタリティ学科

アウトキャンパスをもっと増やして、感性をより豊かに！先生の一方的な授業を少なく！

インターシップの紹介など、各業界のイメージをできるような工夫がほしい。

観光や旅行について学んできましたが、実際に旅行に出かける学生は少ないと感じます。もっと諸侯に出かけやすいサポートや制度があればと思いました。

もっと公務員を目指す人向けの授業を増やして欲しい。

観光ホスピタリティ学科だったが、経営についてももう少し学びたかった。

もっと外に出る授業や、もっと地域の人と交流ができるようになれば良いと思います。

もっとマナーについて学びたいと思いました。

とても良い環境だった。

専門的な資格を取得してからの就活は、周りの学生に比べると不安になるのでそこらへんのバックアップの強化をしてほしい。

アウトキャンパスをもっと増やせば良いと思う。

学生が利用者なのにクレームがあったとしても対応がざつだし、申し立てるところが直接なので不満の状態です卒業するのが一般的ではないでしょうか？第三者の窓口を作り、学生に教える必要性を感じます。

ここで具体的に書いてもそれに関連した学生が特定されるのでプライバシーが保護されているとは思えません。

観光学科でも簿記を受講しやすいようにしてほしい。

観光の学びをもっと増やすべきだと思う。

アウトキャンパスを豊富にほしい。

健康栄養学科

国試対策の授業を早くからやってほしい。

栄養士の職場で実際に使える実践的な授業がもっとあるといいと思う。

「あいさつしろ」というのなら、万人にあいさつを返すべきです。

もう少し病欠してしまう人に優しく対応してほしい。

栄養学科だけの勉強スペースがほしかったです。学校のパソコンに栄養君を入れてほしかったです。

人数が多すぎて、実習のとき辛い。

スポーツ学科と栄養の授業をわけてほしい。

集団調理を含め、調理実習を増やしてほしい。進路は多様であるが栄養士としての基本である「調理」は最低限必要だと思います。

県立短大にも同じ学部が出来るということで学力が下がるのだらうと思います。地域貢献の中で栄養士・管理栄養士の新しい就職先、職業フィールドを開拓されると良いのではと感じています。既にされていると思いますが、もっと他大学を参考にされるのもよいのではないのでしょうか。国試対策なども含めて。

大学を良くするためのアンケートなら事前配布するなどの方法があるのではないですか？とても15分では書ききれないと思いますよ。ほとんどの人は時間内に書けるとなると感じています。学生の考えを知るだけなら別にいいと思いますが。

管理栄養士の合格率がアップするような授業。

3年時のカリキュラムがつかかったので、カリキュラムをもう少し考えてほしい。

国家試験対策を全教科1年生の後期くらいからしてほしい。(テストを国試の過去問からだす。授業で扱う。課題として出すなど)

3年時の講義がつまっていたので、バランスよく組みなおしてほしい。(せめて同じ日に実習2つ入れるのはやめてほしい)

管理栄養士必修(フードスペシャリスト必修)と教職課程必修の教科が被ることがたくさんあり、4年生の後期になってもとれなくなってしまうことがあります。

各種、資格必修どうしが被ることがないように組んでほしかったです。

スポーツ健康学科

スポ科の先生方は、みんな良い先生ばかりでした

夏休みや冬休みを利用して、運動指導の最先端であるアメリカ等への短期留学制度をつくらカッコイイと思います。(希望学生+先生)

指導士に偏った授業ではなく、スポーツビジネスを視野に入れ、ビジネスと指導士を混ぜ合わせた授業が、今後必要だと思う。

指導士だけじゃ、やっていけないから。

教職をとっている人たちに対して、施設とかをもっと増やしてあげたいなと思う。 授業も実技を増やしてほしい

もっと実技を増やしてほしい

もう少し実技が多ければ良いと思う。

レクレーションに関しては、十分な実習を行わせていただいたと感じているが、健康指導に対しての実習がもう少しあれば感じました。

もっと実技系の授業があったらいいと思う

今まで通りでいいと思います。

このままで。

上限単位を増やしてほしいと思いました。

進路にとっても役立った。

ゼミ対抗の行事があったらおもしろい。

より現場で役立てる実践練習の時間が多かったら嬉しいかなと思う。

1・2年時のスポーツ健康学科は座学が多い。トレーナーや教員といった免許を取得できるのだから、1・2年時から実技をもっと増やして欲しい。

他のゼミ活動に、連れて行ってもらえたら、良い経験になると思う。(既にやっていたらすみません)

学部内で交流できる授業。各々の特色を生かしてやるとか

今のままでいい。

施設がたくさんあるのに、使う授業が少ないと思った。

人生の先輩でもある先生方とマンツーマンでお話ができる機会。ゼミを2年次からにして欲しい。3・4年では短い。

実技の授業を増やして欲しい。

再試がないのはおかし

もっと実技を入れて欲しい。

質問1. 所属について

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| 卒業予定者数 | 16 | 89 | 105 | 17 | 81 | 98 | 203 |
| 回収数 | 12 | 64 | 76 | 12 | 76 | 88 | 164 |
| 回収率 | 75.0% | 71.9% | 72.4% | 70.6% | 93.8% | 89.8% | 80.8% |

質問2. あなたが松本大学松商短期大学部に入学した動機は何ですか。(いくつでも)

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 | 順位 |
|-----------------------|-----|----|----|--------|----|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | |
| ③就職が良い | 4 | 30 | 34 | 6 | 41 | 47 | 81 | 1 |
| ④フィールド・ユニット制度に魅力を感じた | 5 | 29 | 34 | 7 | 38 | 45 | 79 | 2 |
| ⑩自宅から通学できる | 4 | 35 | 39 | 3 | 31 | 34 | 73 | 3 |
| ⑪親、先生などから勧められた | 2 | 15 | 17 | 6 | 11 | 17 | 34 | 4 |
| ②コンピュータなど施設・設備が充実している | 2 | 8 | 10 | 2 | 16 | 18 | 28 | 5 |
| ⑫まだ会社に出たくない | 4 | 17 | 21 | 0 | 6 | 6 | 27 | 6 |
| ⑨学生と教職員の距離が近い | 1 | 7 | 8 | 1 | 5 | 6 | 14 | 7 |
| ⑥良い先生がいる | 2 | 7 | 9 | 0 | 4 | 4 | 13 | 8 |
| ⑧先輩・知人がいる | 1 | 2 | 3 | 0 | 8 | 8 | 11 | 9 |
| ①伝統ある学校で校風が良かった | 3 | 0 | 3 | 3 | 3 | 6 | 9 | 10 |
| ⑤編入学ができる | 0 | 5 | 5 | 0 | 3 | 3 | 8 | 11 |
| ⑦友達が入学する | 0 | 2 | 2 | 0 | 4 | 4 | 6 | 12 |
| ⑬その他 | 1 | 0 | 1 | 2 | 3 | 5 | 6 | 12 |

【その他】

商学科

学費免除(特待)があったから。

経営情報学科

ダンス部でダンスをやりたいかった。
 特に行きたいと思うところがなかった。
 運命を感じた。
 地元で就職したかったから。
 資格がたくさんとれるから。

質問3. あなたが松本大学松商短期大学部に入学した目的は何ですか。(いくつでも)

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 | 順位 |
|----------------|-----|----|----|--------|----|----|-----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | |
| ④資格を取りたい | 7 | 57 | 64 | 9 | 68 | 77 | 141 | 1 |
| ⑤良い就職がしたい | 4 | 21 | 25 | 4 | 26 | 30 | 55 | 2 |
| ①専門的学識を身につけたい | 3 | 18 | 21 | 9 | 20 | 29 | 50 | 3 |
| ②教養を身につけたい | 2 | 13 | 15 | 2 | 14 | 16 | 31 | 4 |
| ⑦自分をみつけたい | 4 | 8 | 12 | 3 | 5 | 8 | 20 | 5 |
| ⑪自立できる社会人になりたい | 0 | 6 | 6 | 3 | 10 | 13 | 19 | 6 |
| ⑥友人をつくりたい | 2 | 5 | 7 | 2 | 4 | 6 | 13 | 7 |
| ⑧部活動を行いたい | 4 | 2 | 6 | 2 | 5 | 7 | 13 | 7 |
| ⑨親元から離れて生活したい | 1 | 2 | 3 | 0 | 3 | 3 | 6 | 8 |
| ⑩アルバイトをしてみたい | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 3 | 5 | 9 |
| ⑫その他 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 10 |
| ⑬海外研修を経験したい | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 |

【その他】

商学科

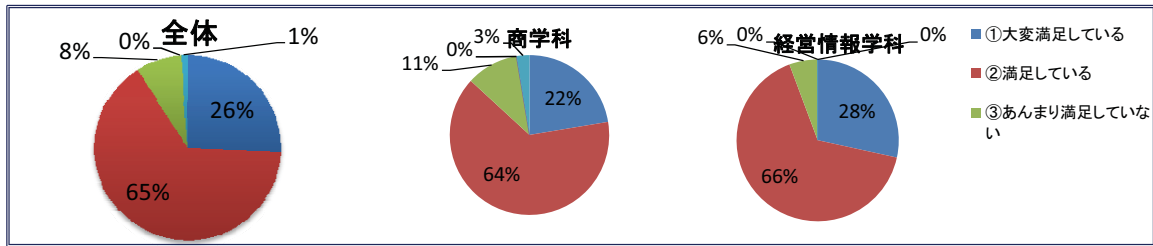
社会にでたくない。

経営情報学科

短大卒になるため

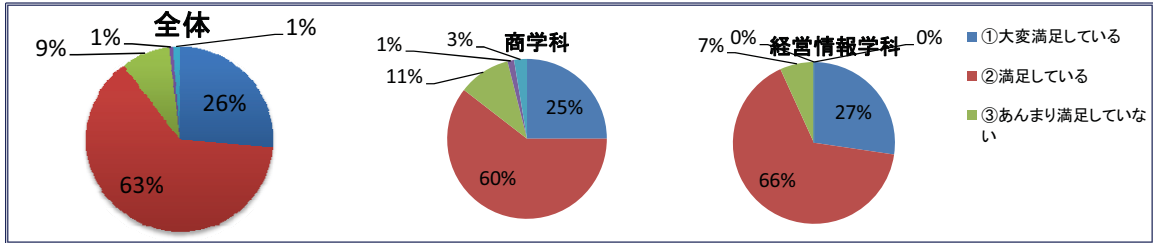
質問4. あなたは松本大学松商短期大学の2年間の勉学に満足していますか。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|--------|----|----|-----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 2 | 15 | 17 | 2 | 23 | 25 | 42 |
| ②満足している | 7 | 42 | 49 | 8 | 50 | 58 | 107 |
| ③あんまり満足していない | 2 | 6 | 8 | 2 | 3 | 5 | 13 |
| ④全く満足していない | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤無回答 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |



質問5. この2年間のあなた自身の生活に満足していますか。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|--------|----|----|-----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 3 | 16 | 19 | 2 | 22 | 24 | 43 |
| ②満足している | 6 | 40 | 46 | 10 | 48 | 58 | 104 |
| ③あんまり満足していない | 2 | 6 | 8 | 0 | 6 | 6 | 14 |
| ④全く満足していない | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ⑤無回答 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |



質問6. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったこと
商学科

1年生の時は資格を取るために勉強できたし、そういった授業も多かったと思います。2年生になったら少しそういう授業も減ってきた為、あまり勉強しなくなった気がします。

他ではあまり学べないようなことを学ことが出来て良かった。

わかりやすく、専門的なことも学べてすごく充実していたよかったです。

資格がたくさんとれて良かった。

レポートなど大変だったが役に立ったと思います。いろんな授業があってよかったです。

先生がフレンドリーで親しみやすかったです。

資格をとれてよかったです。

エレベーターや2号館へのロッカーの設置はとてもよかったです。

冷暖房が効かない時集中できなかった。

授業内容が充実していたよかったです。

実務的な内容が多く、とても満足です。

ずーと私語をしている方がいてとても気がちっていました。小声で話していても耳について集中できない事が多かったように思います。

資格が取れたこと。

資格をたくさん取得できて良かったが、もっと頑張れたかも！

iPad私も使いたかったです。

難しい科目もあったが、楽しんで学ぶことができた。

授業中うるさい人がいる。机の上でマナーのバイブ鳴らすのはやめてほしかったです。

良かったところ:夜20:00までパソコン室が使える！悪かったところ:プリンターの調子が悪いときが多かった。

どの教科も、どの先生も楽しくておもしろかったです。短大で勉強できてよかったです！

スライドの授業が分かりやすかったです。

毎回勉強になる講義ばかりで本当によかったです。先生達もとてもわかりやすく説明してくれて親切な対応で本当によかったです。

学生達の私語が気になるものもあったので残念でした。

経営情報学科

たくさん資格が取れた。

多くのフィールドや多くの授業があったことで自分が何に興味があって何をやりたいのか気がついた。

レポートは力がついて良かった。大変だなあとすることもあったけど今はとても満足しています。

ちゃんと就職もでき、友達もできたし楽しかったです。

スライドの授業がわかりやすかったです。

教室の前のほうが寒いときがあります。空調を改善してほしい。

どの授業も楽しく分かりやすかったです。

私語がうるさい人が多かった。

プロジェクターをだいたいの授業でつかってていたのでとても環境良かったです。

分からないところは徹底的に教えてくれたりしたので助かりました。

勉強、読書、食事などができる場所以外にくつろげる場がほしい。図書館のDVDのラインナップが中途半端トランスフォーマーとかおいてほしい。

先生によって授業スタイルが様々で面白かったです。

先生方が分かりやすく説明してくれて良かったです。

自分の好きな授業ができるので楽しかった。

高校で学んだことを短大に入りより深く学ぶことができたのでよかったです。

資格をたくさん取得することができた。

私語禁止の徹底をしてほしかった。

自分の興味を持った分野に手を出しやすくてよかったです。ただとりたい授業の時間がかさなって一方がとれなかったことが少しくやしい。

私語が多くなる授業があった。

パソコンやボキなど専門的な事が学べたのがよかったです。

授業をうける態度が悪すぎる。

私語など静かな授業環境を作ってくれるところが多かったです。

高校までの勉強とは違う色々なことが学べたので良かったです。

生協が短大側から遠い。短大側の生協も終了がはやすぎる。

自分たちのスピードに合わせて授業を行ってくれたのでとてもやりやすかったです。

良かったこと:先生が親身、文句が反映されて改善されること

悪かったこと:授業態度の悪い人が多い。暑い、寒い、眩しい。

事務系の資格をたくさんとれて良かった。

いろんな教科の授業が学べてよかったです。2年のキャリアクリエイトはあまり授業がよくなかったです。

たくさん学べるのは良かったが、2年のときは1年のときに比べやりたいと思える講義が少なくなって暇だったので2年のときも1年のときのような講義をもっと増やしてほしい。

すごい雪だったとき、学校の駐車場の整備ができていなくて講義に遅れたときまで遅刻にされたのはどうかと思ったのでそういう場合の配慮はしてほしい。

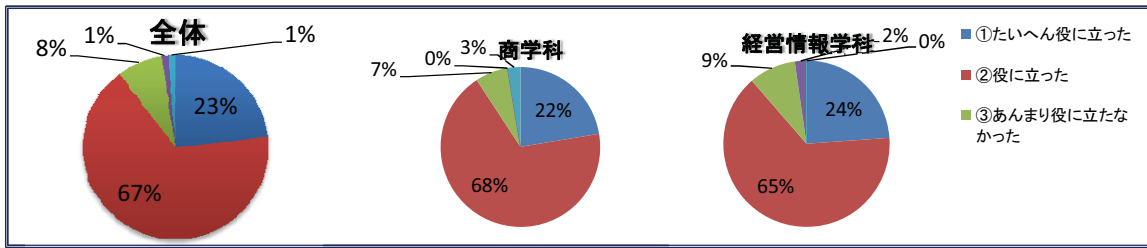
専門用語を使う際に、前回に出た用語であれば振り返りをせずに、講義であたり前のように言っている先生がいたがわかりにくい講義でした。必修の先生ではありません。本来なら振り返りをしなくてもあたり前なのかもしれませんが、しない先生がいると目立ちます。

ためになること多くて楽しかったです。

聞きやすくなる授業ばかりで良かった。

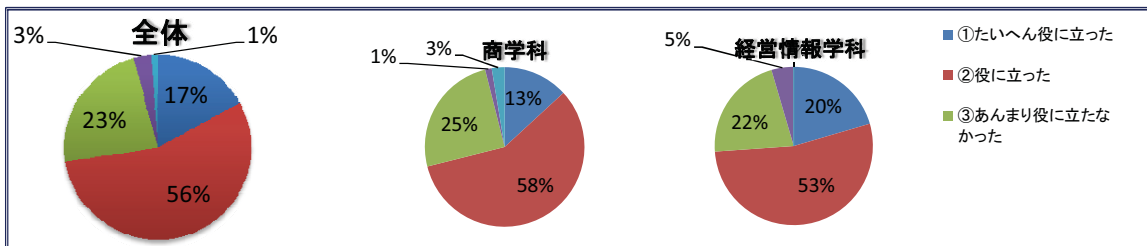
質問7. 選択必修科目での出席レポートは、学生としてのあなたの能力を伸ばす役に立ちましたか。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|---------------|-----|----|----|--------|----|----|-----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①たいへん役に立った | 3 | 14 | 17 | 3 | 18 | 21 | 38 |
| ②役に立った | 8 | 44 | 52 | 6 | 51 | 57 | 109 |
| ③あんまり役に立たなかった | 0 | 5 | 5 | 2 | 6 | 8 | 13 |
| ④全く役に立たなかった | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| ⑤無回答 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |



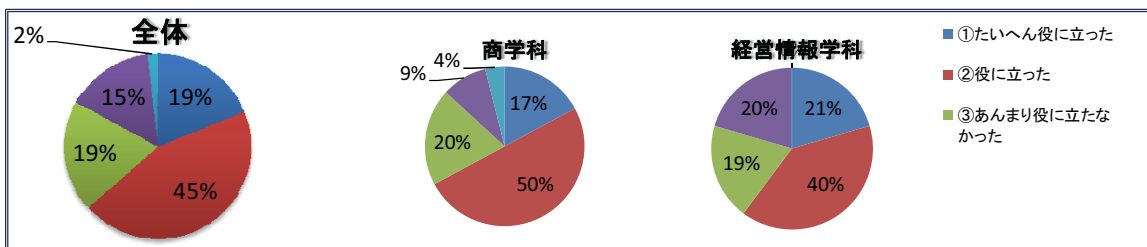
質問8. 1年次前期の「基礎ゼミナール」で学んだ、ノートのとり方、レポートの書き方等の初年次教育は、短大のその他の授業を学ぶときに役に立ちましたか。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|---------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①たいへん役に立った | 2 | 8 | 10 | 4 | 14 | 18 | 28 |
| ②役に立った | 8 | 36 | 44 | 6 | 41 | 47 | 91 |
| ③あんまり役に立たなかった | 0 | 19 | 19 | 1 | 18 | 19 | 38 |
| ④全く役に立たなかった | 1 | 0 | 1 | 1 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤無回答 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |



質問9. 携帯メモ帳「EYE」は学生生活の中で役に立ちましたか。

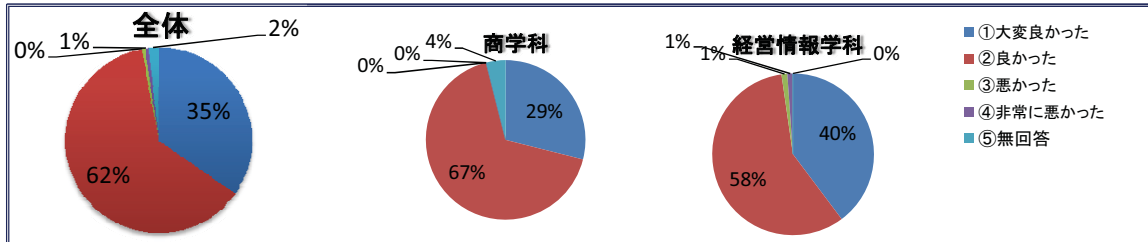
| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|---------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①たいへん役に立った | 1 | 12 | 13 | 2 | 16 | 18 | 31 |
| ②役に立った | 7 | 31 | 38 | 5 | 30 | 35 | 73 |
| ③あんまり役に立たなかった | 1 | 14 | 15 | 1 | 16 | 17 | 32 |
| ④全く役に立たなかった | 2 | 5 | 7 | 4 | 14 | 18 | 25 |
| ⑤無回答 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 |



質問10. 本学の教職員はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか。該当する番号を選んで、その理由も書いて下さい。

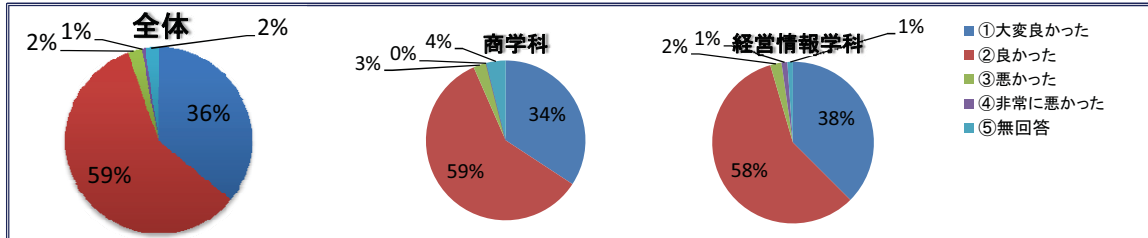
■教員

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|----------|-----|----|----|---|--------|----|-----|----|
| | 男 | 女 | | | 男 | 女 | | |
| ①大変良かった | 4 | 18 | 22 | 6 | 29 | 35 | 57 | |
| ②良かった | 7 | 44 | 51 | 6 | 45 | 51 | 102 | |
| ③悪かった | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | |
| ④非常に悪かった | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | |
| ⑤無回答 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 | |



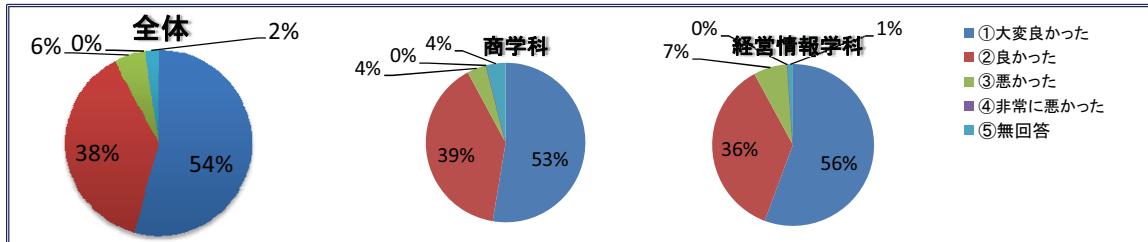
■職員

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|----------|-----|----|----|---|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | | | 男 | 女 | | |
| ①大変良かった | 6 | 20 | 26 | 4 | 29 | 33 | 59 | |
| ②良かった | 5 | 40 | 45 | 7 | 44 | 51 | 96 | |
| ③悪かった | 0 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 4 | |
| ④非常に悪かった | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | |
| ⑤無回答 | 1 | 2 | 3 | 0 | 1 | 1 | 4 | |



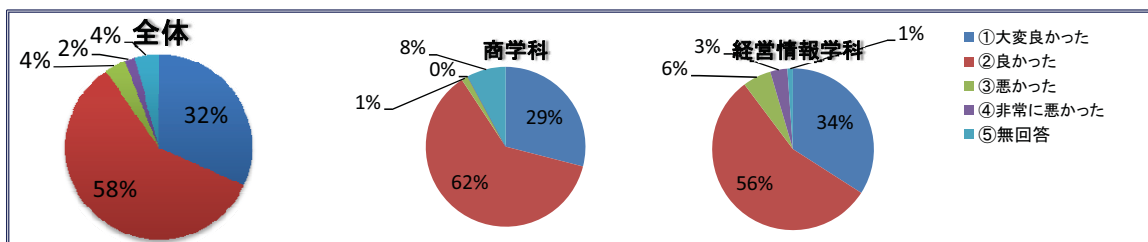
■ゼミ担当者

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|----------|-----|----|----|---|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | | | 男 | 女 | | |
| ①大変良かった | 7 | 33 | 40 | 7 | 42 | 49 | 89 | |
| ②良かった | 3 | 27 | 30 | 4 | 28 | 32 | 62 | |
| ③悪かった | 1 | 2 | 3 | 1 | 5 | 6 | 9 | |
| ④非常に悪かった | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| ⑤無回答 | 1 | 2 | 3 | 0 | 1 | 1 | 4 | |



■キャリアカウンセラー

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|----------|-----|----|----|---|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | | | 男 | 女 | | |
| ①大変良かった | 6 | 16 | 22 | 4 | 26 | 30 | 52 | |
| ②良かった | 4 | 43 | 47 | 7 | 42 | 49 | 96 | |
| ③悪かった | 1 | 0 | 1 | 1 | 4 | 5 | 6 | |
| ④非常に悪かった | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 3 | |
| ⑤無回答 | 1 | 5 | 6 | 0 | 1 | 1 | 7 | |



【理由等】

商学科

就職等についてはとても親身になってくれました。その他の学生生活等はあまり相談などはしませんでした。
 講義やレポートでわからないことがあって聞きに行った時にやっていることがあるにも関わらずすぐに対応してくれた。
 丁寧にアドバイスしてくれたり、相談に乗ってくれて助かる場面が多かった。
 分かりづらい説明の仕方でもきちんと聞いてくれてきせつなアドバイスをしてくれた。
 ゼミの先生がとても親しみやすく話しやすかった。
 キャリアセンターの先生には面接等でたくさんお世話になりました。
 親身になって相談にのってくれた。
 就職活動で悩んだときも一緒に考えてくれたのが良かったです。
 就活のとき、相談にのってくれてありがたかった。
 ゼミの担当が否かにかかわらず、本当に力になって頂いたと感じています。
 ゼミの先生は、就活のサポートをしてくれた。とても頼りになりました。
 生徒のことをしっかり考えてくれていた。
 親身になって話しをきいてくれた。
 色々とお助けいただきました。ありがとうございました。
 雰囲気もよくて、いろんなアドバイスしてくれて助かりました(ハート)ありがとうございました。
 とても親身になって話を聞いてくれたので話しやすかったです。
 いつも優しく接してくれた。
 ゼミの先生をはじめ、みなさんの対応が本当に親切でとても良かったです。心身になって話しを聞いてくれて嬉しかったことばかりでした。

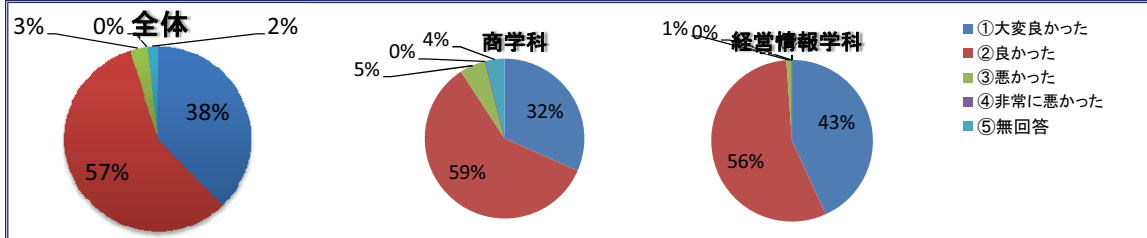
経営情報学科

学生との距離が近く、困ったときも普段もいつも話しを聞いてくれてあたたかかった。
 親身になって相談にのってくれた。
 ゼミ担の先生が何でも相談に乗ってくれたから。
 いろんなアドバイスをもらったから。
 皆さん、とてもよくしてくれて安心できていました。
 親身になってサポートしてくれました。
 ゼミ担には就活のときにアドバイスをたくさんもらったから。
 親身になってくれる。
 困ったときは助けてくれて助かりました。とても良いわけでもなくとても悪いわけでもなく普通によかった。
 授業でうるさい人を注意しない先生とする先生がいた。しっかり注意してもらいたい。
 学生課がよかったです。
 分からないことなどをていねいに教えてくれた。
 良くしてもらったから。
 親しみやすい人が多く話しやすかったです。
 就職活動に関して、たくさんアドバイス、サポートしてくれたので助かりました。
 みなさん熱心に学生と向き合ってくれたと思います。
 特に問題もなく、学生に親身になってくれた。
 その教職員の方もとても親身になって相談等に応じて頂きました。感謝です。
 就活のときにとっても親身になってくれた。
 親身になって答えてくれる。
 キャリアカウンセラーはあまりいいアドバイスにならなかった。ゼミ担は就職から卒論までよくしてくれました。よかったです。
 就活のことや授業のことまでよく相談にのってくれた。
 親身でした。
 どの先生方も本当に親身に話を聞いて下さいました。
 就活のサポートをしっかりしてくれました。
 自分の立場で考えてくれた。

質問11. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただいています。皆さんにとって事務職員の対応はどうでしたか。

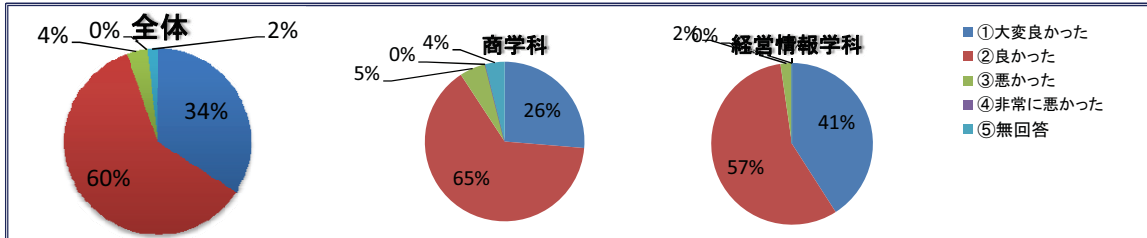
■サポートの程度

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 計 | 合計 |
|----------|-----|----|--|----|--------|----|--|----|----|
| | 男 | 女 | | | 男 | 女 | | | |
| ①大変良かった | 4 | 20 | | 24 | 6 | 32 | | 38 | 62 |
| ②良かった | 6 | 39 | | 45 | 6 | 43 | | 49 | 94 |
| ③悪かった | 1 | 3 | | 4 | 0 | 1 | | 1 | 5 |
| ④非常に悪かった | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 |
| ⑤無回答 | 1 | 2 | | 3 | 0 | 0 | | 0 | 3 |



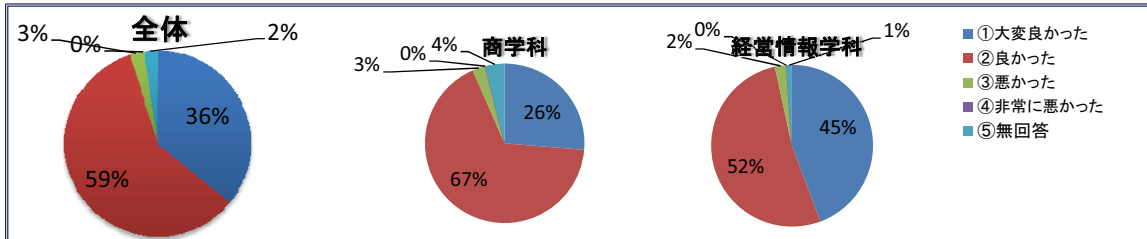
■対応の仕方

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 計 | 合計 |
|----------|-----|----|--|----|--------|----|--|----|----|
| | 男 | 女 | | | 男 | 女 | | | |
| ①大変良かった | 4 | 16 | | 20 | 6 | 30 | | 36 | 56 |
| ②良かった | 6 | 43 | | 49 | 6 | 44 | | 50 | 99 |
| ③悪かった | 1 | 3 | | 4 | 0 | 2 | | 2 | 6 |
| ④非常に悪かった | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 |
| ⑤無回答 | 1 | 2 | | 3 | 0 | 0 | | 0 | 3 |



■言葉遣い

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 計 | 合計 |
|----------|-----|----|--|----|--------|----|--|----|----|
| | 男 | 女 | | | 男 | 女 | | | |
| ①大変良かった | 2 | 18 | | 20 | 6 | 33 | | 39 | 59 |
| ②良かった | 8 | 43 | | 51 | 4 | 42 | | 46 | 97 |
| ③悪かった | 1 | 1 | | 2 | 1 | 1 | | 2 | 4 |
| ④非常に悪かった | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 |
| ⑤無回答 | 1 | 2 | | 3 | 1 | 0 | | 1 | 4 |



【事務職員に改善してほしい点、要望】

商学科

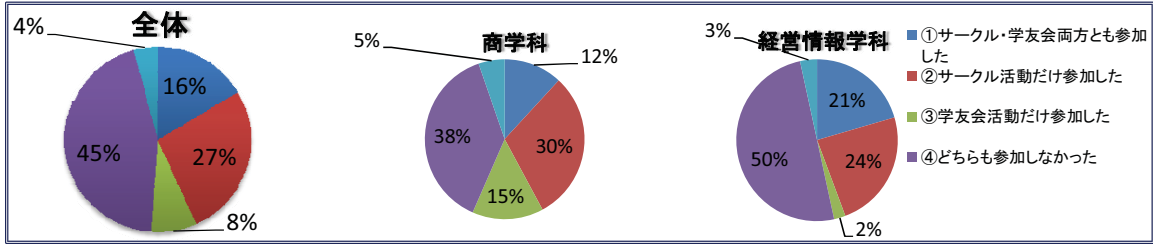
現状で良いです。
 全体的には良いと思う。でも、教務課とキャリアセンターに行くのが怖くて行きづらかった。なんか雰囲気怖い。
 冷たい態度、めんどくさそうな態度をとられるうえに案内がまちがっていることが多々あった。
 大丈夫です。
 キャリアセンターが大好き！
 職就されるのは大変だと思いますがこちらの意見ももう少し聞いてほしい。
 人によって言うことが違うので気をつけてほしい。
 元気な対応してほしい。
 たまにめんどくさそうな人がいてイヤでした。

経営情報学科

スノーボードの抽選。どうやって決めたんですか？
 キャリアセンターの方はそれぞれ言うことがちがったので少しそこが嫌でした。
 大人の事情も分かりますがもっと学生の身になってほしいです。
 特にありません。今まで通りでいいと思います。
 事務職員の方に分からないときとかは聞きづらいときがありました。
 どんなことにも優しく丁寧に対応してくれました。とても親しみやすかったです。

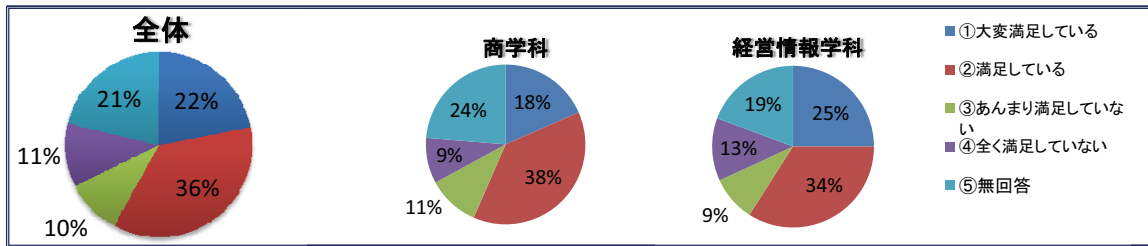
質問12. あなたにとってサークル活動や学友会活動はどうでしたか。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|-------------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①サークル・学友会両方とも参加した | 2 | 7 | 9 | 4 | 14 | 18 | 27 |
| ②サークル活動だけ参加した | 7 | 16 | 23 | 1 | 20 | 21 | 44 |
| ③学友会活動だけ参加した | 0 | 11 | 11 | 0 | 2 | 2 | 13 |
| ④どちらも参加しなかった | 2 | 27 | 29 | 7 | 37 | 44 | 73 |
| ⑤無回答 | 1 | 3 | 4 | 0 | 3 | 3 | 7 |



質問13. あなたはサークル活動や学友会活動に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 5 | 9 | 14 | 3 | 19 | 22 | 36 |
| ②満足している | 4 | 25 | 29 | 4 | 26 | 30 | 59 |
| ③あんまり満足していない | 0 | 8 | 8 | 0 | 8 | 8 | 16 |
| ④全く満足していない | 2 | 5 | 7 | 2 | 9 | 11 | 18 |
| ⑤無回答 | 1 | 17 | 18 | 3 | 14 | 17 | 35 |



【理由等】

商学科

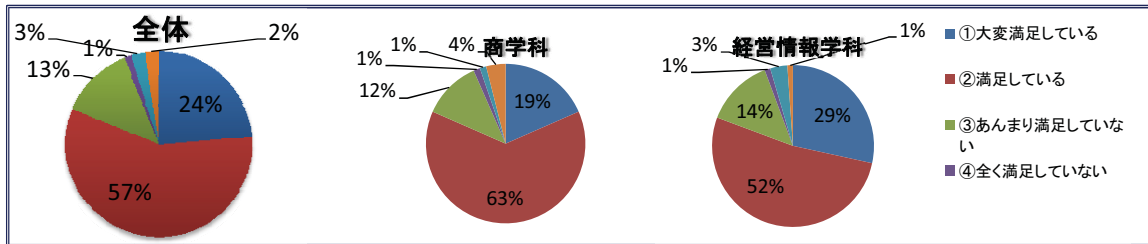
あまり参加しなかったの・・・
 学友会を通して学部の人たちとも関わることができた。
 役員として活動に携われて良かった。
 色々な人たちと交流できた。
 楽しくできたから。
 学友会の会議と就活が重なり、なかなか参加できず残念です。
 大変はことも多かったのですが楽しかったの。
 バイトや自動車教習で2年のときあまり出れなかった。
 充実したサークル活動でした。
 いつも楽しかった。
 いい仲間に出会えた。
 とても満足している。マツナビがあったことが私にとって一番の大学の思い出になりました。

経営情報学科

仲間も場所もいい環境だった。
 サークルに入りませんでした。
 人脈を増え貴重な経験もできた。非常に成長を感じた。
 徐々に駐車場が直されていったのでよかった。
 やってない。
 活動に参加していません。
 充実した学生生活を送ることができた。
 学友会をやってみて大変だったけど周りの人のサポートがあり最後までできたから
 大学の方との交流があり毎日充実していました。
 参加していない。
 参加しなかった。
 サークルがなかったら今の自分になれなかったから。
 大学の人とも交流ができ仲良くできてよかったです。サークル内でも役職を持ったので充実できてよかったです。
 参加してないんです。
 マツナビの活動をしてきて色々な体験ができたし本当に良い仲間と会うことができたのでよかったと思います。
 新たな有事もできたし、活動をしているととても楽しかった。課題もあつたりしたのでめりはりがあってよかった。
 活動していない。
 サークル、学友会を通して短大だけでなく大学の人とも関わることができいろいろ学ぶことができたため
 年齢や学部の垣根を越えて色々な人と交流することができました。
 サークルは学祭の時は大変だったけど先生やサークルの仲間たちとできてよかったです。学友会は地域と関わってよかったです。
 サークル活動楽しくできたのでよかった。

質問14. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、体育館、教室、グラウンド、駐車場等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 5 | 9 | 14 | 2 | 23 | 25 | 39 |
| ②満足している | 5 | 43 | 48 | 6 | 40 | 46 | 94 |
| ③あんまり満足していない | 1 | 8 | 9 | 3 | 9 | 12 | 21 |
| ④全く満足していない | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| ⑤利用していない | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 3 | 4 |
| ⑥無回答 | 1 | 2 | 3 | 1 | 0 | 1 | 4 |



【理由等】

商学科

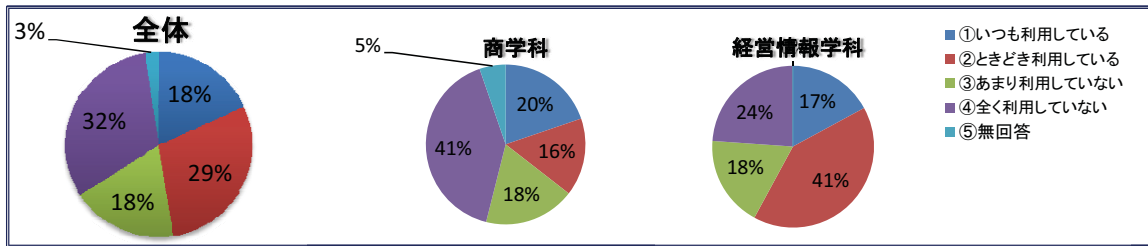
暖房もちゃんとあって、コンピュータ教室は十分な台数とプリンターがあったので助かりました。
 2号館2階に導入された3Dプリンターはいらなかったように感じる。それよりも今あるパソコンを新しくして欲しかった。また、新しくつけたエレベーターもいらなかった。暖房はありがたかった。
 そこまで施設を使えなかった。駐車場代が高い。
 レポートなどに取り組みたいときにコンヒ
 駐車場の駐車スペースでないととめる人にきびしく対応してほしい。
 第2駐車場がコンクリートになってよかった。
 教室によってはとても寒く、手がかじかんで文字が書けない事もありました。
 駐車券が高すぎます、とても。
 ちゅうしゃ場料金がたかい。
 トレ室がとても良かった。
 332のコンピューターが新しくなっうれしかった。
 お金とるのはどうかと思う。
 パソコンがたまたに使えなくて不便だった。
 232教室の前列の席にすわっていると1時間たっても暖かくなりません。
 駐車場の料金が安い。
 空調が悪い教室があったので。
 新しい。
 短大側に駐車場が欲しかった。駐車料金を無料にして欲しかった。
 満車じゃないのに満車になる。

経営情報学科

1番嬉しかったのは、短大にある無料で印刷できること。
 教室の設備は良かったのですが、駐車場スペース以外にとめてある車がひんばんにあり邪魔でした。
 駐車場の本来とめるべきではないスペースに車が多くとまっている。出にくいと思うことがあった。
 冬にずっと232とか暖房ついてなくて毎回寒すぎでした。
 きれいだし、使いやすくて良かった。
 駐車場を無料にしてほしい。
 駐車場の穴がしっかりと直されていて利用しやすくなった。
 短大側から駐車場が遠い。空いているのに満車になっていた。
 駐車場が空いているのに満車になっている。
 施設が充実している。
 パソコンのOSがちゃんと新しくったり画面も大きくて良いパソコンが使ってラッキーでした。
 4大生のマナーの悪さが目に付いた。
 どの教室も設備が整っていて良かった。
 短大側にも駐車場をつかってほしい。
 駐車場の穴もふさがって楽になった。
 パソコンは良かったけど駐車場が穴だらけ。
 家がないようなソフトがたくさんあり色々使えてよかったです。パソコン室のイスが壊れていたりするのもあったのでそこは直してほしいです。
 駐車場もちゃんと白線の巾だけに停めるように徹底してほしいです。
 いつもパソコンが使えたのでよかったです。
 パソコンが新しくなったところはいいけど古いところがある。キーボードが汚い。
 PCは勉強によく使ったから。
 PCのスペックが上がったのはとても有難かったです。
 駐車場の料金が高すぎて車を止められませんでした。
 駐車場が短大生には少し遠いのが残念だが他は良かったと思う。
 すぐ満車にするのをやめて欲しい。空いているのに…
 第一駐車場がすぐ満車になる。

質問15. あなたは7号館1階の学生コモンルームを利用しましたか。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|-------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①いつも利用している | 1 | 14 | 15 | 2 | 13 | 15 | 30 |
| ②ときどき利用している | 2 | 10 | 12 | 2 | 34 | 36 | 48 |
| ③あまり利用していない | 1 | 13 | 14 | 3 | 13 | 16 | 30 |
| ④全く利用していない | 7 | 24 | 31 | 5 | 16 | 21 | 52 |
| ⑤無回答 | 1 | 3 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 |



【理由等】

商学科

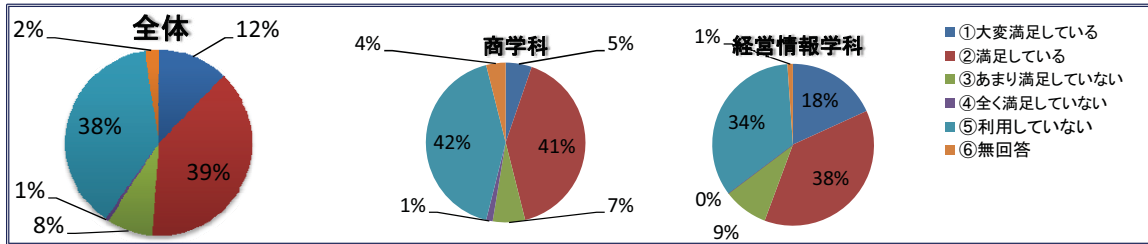
机と椅子がたくさんあるのでそこでお昼など食べていました。
 1, 2, 3号館で講義が多くそこで用が足りた。
 ちょっとした時に使った。
 どこそれ。
 コモンルームってどこですか。
 最高でした!!!
 人が多い。
 7号館に行くことが少ないから!
 あまり利用してませんが、にぎやかでいいと思います。
 知らなかった。
 知らない。
 自由に使える空間があってとてもよかったです。

経営情報学科

1年生のときはよくそこで留学生と交流しました。
 お昼にときどき利用した。
 何があるか知らない。
 エアコンがいつもついているので暇つぶしによかったです。
 人が多すぎて利用しづらい。
 人と話すときに便利。ろうかよりはあたたかい。
 人がいっぱいいるから。
 人が多く雑然としていたのでなかなか使えなかったです。
 昼食を食べたり電車を少し待つ時間など。
 どこか分からないです。
 お昼時には人がたくさんいるため
 あまり行くときがなくて使ってません。
 授業をやる教室に近いので利用しやすかった。
 過ごしやすい。

質問16. あなたは各サポートセンター(基礎教育センター、国際交流センター、地域づくり考房等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|-------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 1 | 3 | 4 | 3 | 13 | 16 | 20 |
| ②満足している | 4 | 27 | 31 | 4 | 29 | 33 | 64 |
| ③あまり満足していない | 1 | 4 | 5 | 0 | 8 | 8 | 13 |
| ④全く満足していない | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ⑤利用していない | 4 | 28 | 32 | 4 | 26 | 30 | 62 |
| ⑥無回答 | 1 | 2 | 3 | 1 | 0 | 1 | 4 |



【理由等】

商学科

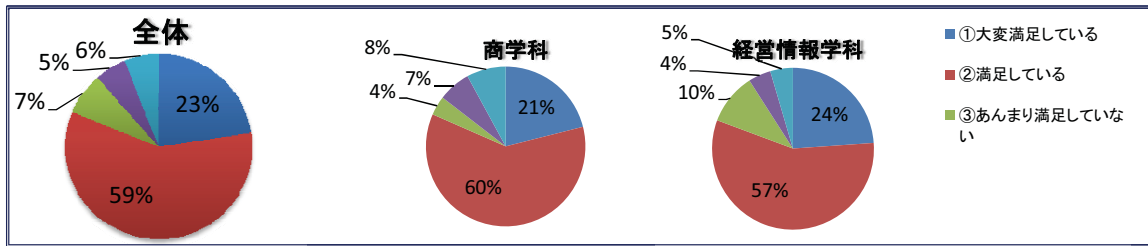
基礎教育は、就活に大変役立ちました。
 漢検のときお世話になりました。
 役に立った。

経営情報学科

みんないい人でした。
 対応がとても親切だった。
 基礎教育センターの人が親切でした。
 あまり使わなかった。
 あまり活用していませんが不満はないです。
 行かなかったから。
 行きづらい。なと思ったり、国際交流センターはいつやっているのかも知りませんでした。
 検定についても話をきいてもらったのでよかったです。
 あまり使わなかった。
 数回しか利用しなかったのですが、アポなしで親切に対応して頂きました。感謝です。
 関わりがないので利用していません。
 悩みの本質を見抜いてアドバイスをしてくれた。(基礎教育センター)
 親切だった。

質問17. あなたはフォレストホール・ラウンジに満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 1 | 15 | 16 | 1 | 20 | 21 | 37 |
| ②満足している | 8 | 38 | 46 | 8 | 42 | 50 | 96 |
| ③あんまり満足していない | 1 | 2 | 3 | 2 | 7 | 9 | 12 |
| ④全く満足していない | 0 | 5 | 5 | 0 | 4 | 4 | 9 |
| ⑤無回答 | 1 | 5 | 6 | 1 | 3 | 4 | 10 |



【理由等】

商学科

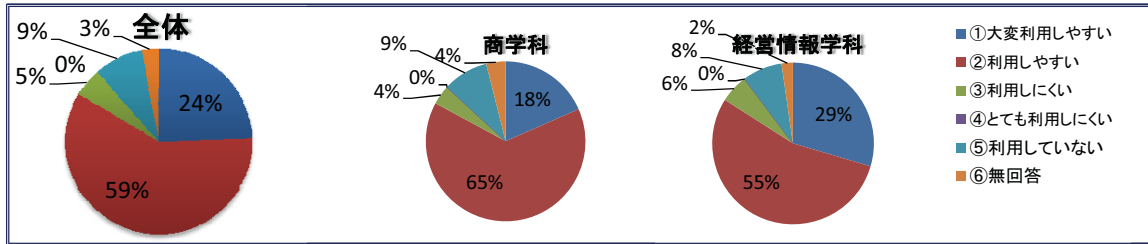
充実していた。
 あまり利用していないのでよくわかりません。
 座れない時もあった。
 いつもキレイで清潔。
 冷暖房がしっかり。
 うまい！
 フォレストやラウンジで働いているおばちゃん達が本当に親切でよかったです。

経営情報学科

よくお世話になりました。
 少し場所が遠い。
 色々な食事があったので
 学食がおいしかった。
 広くて良い場所でした。
 あまり活用していませんが不満はないです。
 すごくおいしかった。
 行ってないです。
 利用していません。
 使っていない。
 あんまり使用していない。
 短大から遠いので利用する機会が殆どなかったです。
 学食が安いと嬉しいです。
 学部の人が多くて利用しにくかった。
 過ごしやすかった。

質問18. あなたは図書館についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|------------|-----|----|----|---|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | | | 男 | 女 | | |
| ①大変利用しやすい | 3 | 11 | 14 | 5 | 21 | 26 | 40 | |
| ②利用しやすい | 5 | 44 | 49 | 5 | 43 | 48 | 97 | |
| ③利用しにくい | 2 | 1 | 3 | 1 | 4 | 5 | 8 | |
| ④とても利用しにくい | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| ⑤利用していない | 1 | 6 | 7 | 1 | 6 | 7 | 14 | |
| ⑥無回答 | 1 | 2 | 3 | 0 | 2 | 2 | 5 | |



【理由等】

商学科

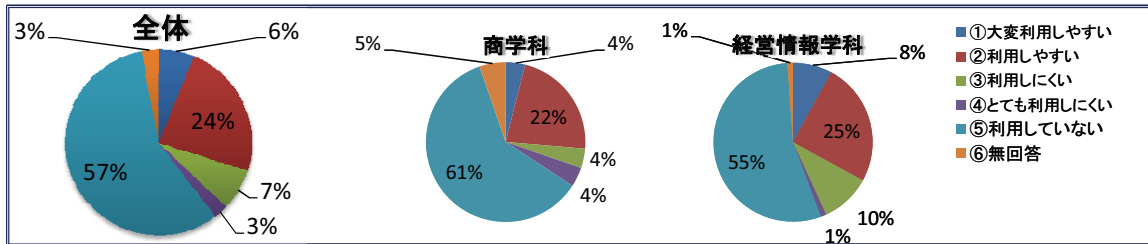
机がたくさんあって、パソコンもあるので
 温度調整がよかった。
 静かで大変利用しやすかったです。
 授業の空き時間によく利用しました。DVDが見れるのがいいです。
 DVDみれてよい。
 とても落ち着く雰囲気、大好きな場所です。
 静かで良い。
 プリンターがカラーのがあると便利だと思います。
 雑誌が豊富にそろっていてよかったです。
 飲食可の机を増やしてほしい。
 せまい。
 パソコンが旧型で使いにくい。

経営情報学科

静かで利用しやすい
 一人用勉強机があってよかった。
 DVDを観て楽しかったです。
 テスト期間中は人が多く集中しにくい。
 司書の方に話しかけづらい時があった。
 ちょっとでもしゃべると注意されるので多少の私語はOKにしてもらいたい。
 しかしテスト前、テスト期間中は少しにぎやか。
 静かで利用しやすかった。
 専門書があっていいなと思いましたが、普通の読み物が少ないなと思いました。
 雑誌も借りられれば何かと便利だと思います。
 とても居心地の良い図書館でした。
 蔵書はよかったですもっと増やしてほしい。
 あんまり使用していない。
 エアコンが適度に利いていて快適でした。
 静かでおちつける場所です。

質問19. あなたは健康安全センターについてどのように感じましたか。その理由や要望など。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変利用しやすい | 1 | 2 | 3 | 1 | 6 | 7 | 10 |
| ②利用しやすい | 3 | 14 | 17 | 3 | 19 | 22 | 39 |
| ③利用しにくい | 0 | 3 | 3 | 1 | 8 | 9 | 12 |
| ④とても利用しにくい | 0 | 3 | 3 | 0 | 1 | 1 | 4 |
| ⑤利用していない | 7 | 39 | 46 | 7 | 41 | 48 | 94 |
| ⑥無回答 | 1 | 3 | 4 | 0 | 1 | 1 | 5 |



【理由等】

商学科

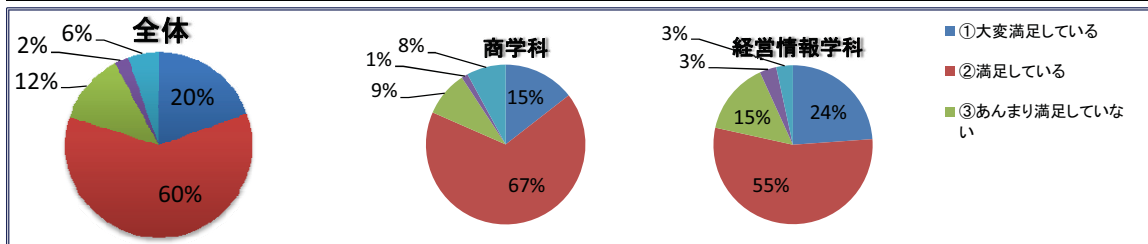
少し場所が奥まわって分かりづらいが親切に対応してくれて嬉しかった。
友人の話をきいて、とても利用しずらそうだったと思った。
何それ。
行く理由が無かった。
先生が優しい。
行くことがない。

経営情報学科

先生がやだかった。
対応が優しくて親切だった。
先生が怖かった。
行っていいところなのか分からなかった。
部屋の配置。
部活のケガで利用したから。
優しく対応してもらえたので。
健康だったから。でも奥にあるので行きづらいと思う。
とくに困っていることがなかったため。
2年間健康でした。

質問20. あなたは本学の行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、焼イモ会、クリスマス会等)についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 2 | 9 | 11 | 5 | 16 | 21 | 32 |
| ②満足している | 8 | 43 | 51 | 5 | 43 | 48 | 99 |
| ③あんまり満足していない | 1 | 6 | 7 | 2 | 11 | 13 | 20 |
| ④全く満足していない | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 3 | 4 |
| ⑤無回答 | 1 | 5 | 6 | 0 | 3 | 3 | 9 |



【理由等】

商学科

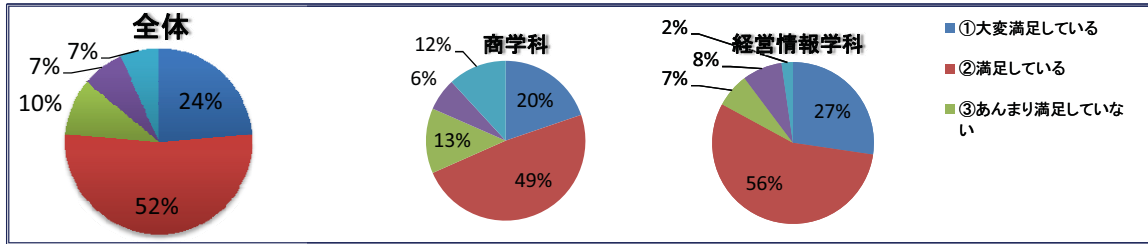
みんなが楽しくできたのでよかった。
大学祭ではいい思い出ができました。
たのしかった！
大学祭は良かったです。
体育大会はやっぱりゼミメインの方が盛り上がる！！
季節ごとのイベントを行っていて、いいと思います。
あんまり参加していない。
とても楽しかった。
ライブ楽しかった。
楽しいイベントばかりでとてもよかったです。

経営情報学科

焼き芋大会がよかったです。
大学祭はゼミの人と協力して楽しく出来た。
新歓のときアロマディフューザーもらえてうれしかったです。
2年間の中の数少ないイベントなのでなくさないでほしいです。
ほとんど参加していない。
部活の発表ができたから。
情報の統一と周知をもう少ししていればもっと楽しめたと思います。
大縄は飛ばない人もいると思うのでなくともいいと思う。
ぼっちにはツライ。
あんまりイベント好きではないから。
どれもとても楽しかったから。
楽しめました。
大学祭は楽しかったです。
学生生活をしているという実感が持ててよかったです。

質問21. あなたは卒業後の進路に満足していますか。満足していませんか。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 2 | 13 | 15 | 1 | 23 | 24 | 39 |
| ②満足している | 6 | 31 | 37 | 6 | 43 | 49 | 86 |
| ③あんまり満足していない | 2 | 8 | 10 | 3 | 3 | 6 | 16 |
| ④全く満足していない | 1 | 4 | 5 | 2 | 5 | 7 | 12 |
| ⑤無回答 | 1 | 8 | 9 | 0 | 2 | 2 | 11 |



【理由等】

商学科

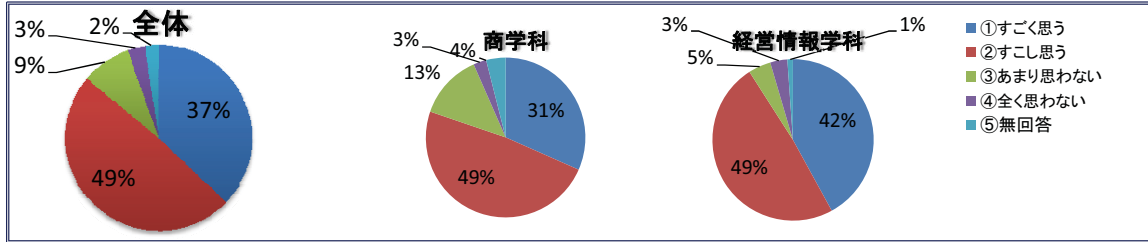
まだ決まっています。
 自分が希望していた職種に就けたため。
 事務職に就けたので。
 頑張る。
 希望通りの就職先だったため。
 地元企業なので。
 自分に合った就職先だと思うから。
 和菓子好きなので販売の職につけてよかった！
 いろんな知識を吸収してから就職できるので自信がもてます。
 やりたいことをやれる。
 まだわからない。
 安定した企業に入れたから。

経営情報学科

まだ入社していないのでなんともいえませんがこれからがんばっていききたいと思います。
 内定がもらえてよかった。しかし、希望していた事務職につけなかったことが少し心残りです。
 進路決まってよかった。
 行きたい会社に行けた。
 まだ決まってねえからだよ(笑)
 自分の行きたかったところへ行けたので良かった。
 地元でも有力な企業さんに内定をいただけたから
 何とか自分の希望するところに就けたから。
 まだ決まってない。
 もっと好きな分野がよかった。
 希望の勤務地であるため。
 まだ上に行けると思ったからです。
 決まっています。

質問22. あなたは「松本大学松商短期大学部」を誇りに思えますか。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|----------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①すごく思う | 6 | 18 | 24 | 5 | 32 | 37 | 61 |
| ②すこし思う | 2 | 35 | 37 | 6 | 37 | 43 | 80 |
| ③あまり思わない | 3 | 7 | 10 | 1 | 3 | 4 | 14 |
| ④全く思わない | 0 | 2 | 2 | 0 | 3 | 3 | 5 |
| ⑤無回答 | 1 | 2 | 3 | 0 | 1 | 1 | 4 |



質問23. 松本大学松商短期大学部をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

【意見・提案】

商学科

基礎学力がつく授業をもっとふやしてほしいです。
 ユニット制度はいらなと思います。
 駐車場無料化。もっと早くアンケートを取ってほしかった(1年のおわりとかに)
 1年生のときの方が授業たくさんあって楽しかったです。ケド2年生の・・・とくに後期はあんまり面白くなく難しそうなのでもう少し面白みがあるといいと思う。
 食堂を広く、大勢の学生が使えるようにしてください。
 ユニット制度をもっと分かりやすくしたほうがいい。
 大学の校内と比べて短大の方は夏は暑く冬は寒いような気がします・・・そこをなんとかしてほしいです。

経営情報学科

2年生になってから簿記の講義があまりなかったのでもう少し勉強したかったです。
 1年と比べて2年で履修できる科目が少なかった。同じ授業料を払っているのに損した気分でした。
 駐車料金が高い。
 教室内の温度調整をもっと適した温度にしてほしい。
 一部の先生(得にゼミ担)ですが、「時間を守れ」というわりに先生自体よく授業に遅れてきて全く説得力がなかった。
 生徒に言う前にまず自分が時間を守るべきだと思います。
 必修を同じ日にまとめてほしい。4限じゃなくて2, 3限がいい。
 駐車場を無料にするべきです。いちいちカードを入れてゲートを通っていると渋滞の原因にもなります。
 駐車場を無料にしていきたいです。
 学生科、教務科、キャリアセンターなどがもっと使いやすい環境になれば良いと思う。
 授業中がうるさいです。
 エレベーターの位置をどうにかしてほしい。
 4大とは別のくりにした方が上手いくと思う。
 短大側にも駐車場をつくらしてほしい。
 しゃべることを中心とした英語の授業。
 変わる気がしないのでいいです。
 駐車場の利用のルールをしっかりと確立してほしい。
 夏、短大側の教室が教員が来るまで暑い。エアコンのカギをやめて欲しい。カギをつけるなら全教室(大学も)にして欲しい。
 人文学などの授業があつたらよかった。
 空き時間に勉強等できるスペースを増やして欲しい。
 静けさを保つ講義。
 1年の基礎ゼミは今のゼミの時間にあてたかった。
 一年の時の基礎ゼミはただでさえ初めてのことでよくわかってない精神状態の中友人と引き離されるとは想像もしていなかった。
 正直最初から今のゼミで勉強したかった。
 フォレストのほうで割引券がほしいです。
 2号館のほうにもエレベーターがほしいです。
 卒アルをもっと安くしてほしい。
 ゼミ選びについて、全ゼミ同じような人数にすることが良くないと思います。私はゼミ選びは授業は出席していたのですが第3希望のゼミになりました。確かに希望ではありませんでしたが性格的に先生と合わずゼミの人達とも他の人達とくらべたらなじみず。学びたかったゼミとは学ぶことが違うことはもちろん、雰囲気も見ている限り真逆で、ゼミの時間は苦痛でした。確かに私の努力が足りなかったかもしれませんが、でも、どのゼミも5人いればゼミが成立する。20人までは受け入れるって形にすれば私のような思いをする人は減ると思います。人気のゼミの先生には負担だとは思いますが。けどもう少し変えてください。お願いします。
 駐車場を無料にしていきたい。

質問24. 所属学部・学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

【意見・提案】

商学科

私語のない授業。
 2年間お世話になりました。ありがとうございます。

経営情報学科

経営情報学科と商学科の違いがよく分かりません。
 今のままで良いと思う。
 ペア作乐的なのやめて下さい。死にます。学籍番号とかでどうにかして下さい。
 学科の特色があまりないので就活の時に説明しづらかった。
 駐車場を思い切って無料にしましょう。
 アウトキャンパスをかねた授業をやしてほしいです。
 メイクがあつかった授業をしてみたかったです。

IV. 松本大学松商短期大学部 在学者アンケート調査結果（平成 25 年度）

【2013年度 短大在学者アンケート】

質問1. 所属について

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| 卒業予定者数 | 13 | 105 | 118 | 18 | 94 | 112 | 230 |
| 回収数 | 12 | 95 | 107 | 18 | 86 | 104 | 211 |
| 回収率 | 92% | 90% | 90% | 100% | 91% | 91% | 92% |

質問2. あなたが松本大学松商短期大学部に入学した動機は何ですか。(いくつでも)

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 | 順位 |
|----------------------------|-----|----|----|--------|----|----|-----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | | |
| ②資格をたくさん取得することができる | 11 | 74 | 85 | 10 | 68 | 78 | 163 | 1 |
| ⑭自宅から通学できる | 2 | 66 | 68 | 7 | 33 | 40 | 108 | 2 |
| ⑦就職が良い | 6 | 46 | 52 | 9 | 46 | 55 | 107 | 3 |
| ③フィールド・ユニット制度に魅力を感じた | 6 | 43 | 49 | 3 | 35 | 38 | 87 | 4 |
| ④将来の目標を見つけたと思った | 4 | 31 | 35 | 8 | 27 | 35 | 70 | 5 |
| ①専門的学識を身につけたい | 6 | 22 | 28 | 5 | 22 | 27 | 55 | 6 |
| ⑬親・先生などから勧められた | 0 | 25 | 25 | 3 | 19 | 22 | 47 | 7 |
| ⑧まだ社会に出たくない | 3 | 21 | 24 | 3 | 17 | 20 | 44 | 8 |
| ⑰キャンパス見学会に来て楽しそうだった | 1 | 18 | 19 | 2 | 21 | 23 | 42 | 9 |
| ⑯パンフレット・大学案内・ホームページを見て魅力に感 | 0 | 13 | 13 | 0 | 11 | 11 | 24 | 10 |
| ⑨学生と教職員の距離が近い | 2 | 5 | 7 | 1 | 10 | 11 | 18 | 11 |
| ⑩良い先生がいる | 2 | 3 | 5 | 2 | 10 | 12 | 17 | 12 |
| ⑮コンピュータなど施設・設備が充実している | 0 | 4 | 4 | 1 | 10 | 11 | 15 | 13 |
| ⑫友達が入学する | 0 | 3 | 3 | 2 | 4 | 6 | 9 | 14 |
| ⑥編入学ができる | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 3 | 4 | 15 |
| ⑪先輩・知人がいる | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 3 | 4 | 15 |
| ⑱その他 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 3 | 4 | 15 |
| ⑤伝統ある学校で校風が良かった | 2 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 3 | 16 |

【その他】

商学科

医療事務の勉強が出来る
専門知識が身についたし資格をたくさん取れた。

経営情報学科

近いから
サークル活動に興味を持って

質問3. あなたが受講した授業の中で良かったこと、悪かったこと、感じたこと

商学科

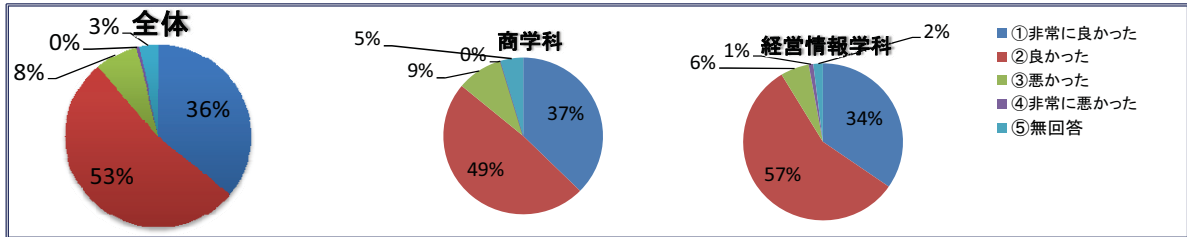
理解していないのに先生が理解して進んでしまう
授業アンケートをとっても反映してくれない
先生が親身になって教えてくれた。
教育が寒い時期があった。
マーケティング授業がとても勉強になった。
先生方の講義に熱意を感じました。答えられるように勉強したいと思いました。
検定にたくさん挑戦できてありがたかったです。
パソコンの授業が前期で必修であったため、パソコンについて何も知らずに入ってきて、今では身につくことが出来ました。
知識が増えた
先生の進め方が早かった
好きな授業を受けられるので良い
今まで知らなかったことが沢山知れた。
いろいろな知識が増えました。
マーケティングや経営の授業が難しそうだったけど、分かりやすく教えてくれたので良かった。
コミュニケーション学は人とのコミュニケーションの仕方を学ぶことができて、とても良かった
簿記などは良いが、教科書がなくてもプリントがたくさんある教科が大変だった
授業は楽しかった
パソコンの起動、反応が遅い
簿記、エクセルは難しかったが学んでよかったと思いました
色々な分野について深く学ぶことが出来たので良かった。
授業中の私語がうるさいときがあったので残念だった
楽しい授業が多く、受講していて苦にならなかった
90分授業とレポートは慣れるまで辛かった
先生が熱心に講義をしてくれてすごく嬉しかった
授業でスライドを使うときにそのスピードが速かったのが悪かった
基本的に授業も専門的なことを勉強できる
マーケティングの基礎を学ぶことが出来てよかった
様々な分野の授業があり、視野が広がったのがとても良かったです
検定試験に向けた授業内容はとても役立ちました。

経営情報学科

とりたての授業が重なってしまっていて、選ぶのに困ったので、それはよくないと思う。
 授業環境がよかった
 授業がわかりやすい
 先生方皆さん真剣にわかり易く教えて頂き嬉しかった
 簿記中級の分かりづらさが。。。初級に行きたいくらい
 授業がわかり易く工夫されていた。将来に役立つ内容があった。
 エクセル、ワード
 スライドを使った授業が多く、わかりやすかった
 人数の少ない授業では、教員に質問をすることができ集中して取り組むことができた
 どの講義も先生は熱心だと感じ、やりがいもあった
 自分で選択した授業なので、楽しい授業が多かったです。
 スライドが見づらかったり、テキスト使わないで今どこをやっているの？という授業がありました。
 マーケティングの講義が先生の経験、価値観などを添えてやってくれるので、とても楽しくかつ知識が身についたと思う
 自分の意見をまとめる時間が多くあって、いいと思った
 メモ力がついたこと
 絵本の世界は最高
 パソコン関係の授業が多いところが良かった
 マーケティング授業がよかった
 パワーポイントのスライドで解説したり、時にはビデオを見たりすることでより理解が深まった
 就職に役立つことがたくさん学べた
 暑いときと寒いときの差が大きいときがあった
 ネイルも1万円はいたったけど楽しかった。
 ネイルの授業もやり方がわかった良かったです
 簿記の授業は楽しかった
 体育楽しい
 コンピューターソフトについての知識がたくさん身についた良かった。(エクセル・ワード・文書デザイン)
 ベビーシッターはとても勉強になった
 マーケティングの授業が楽しかった
 パソコンを利用した授業はとっても楽しかったです。資格取得できるし、たくさん取れていい機会だった。
 悪かったことは特になし。
 様々な授業を学んで面白い。専門学校に行かなくて良かったと思います。
 先生が面白いし就職に関しても万節練習やサポートをしてもらって本当に良かった。
 法学概論の授業があいまいになってしまったので、残念です。せつかくお金を払っているならもっとちゃんとして欲しかったです。
 ちゃんと質問ができるような形になっていて良かった。
 様々な分野を学ぶことができ視野が広がった。
 集中講義は3.4時間目で人の都合も考えてもらいたい。
 生活に役立つことが学べて良かった。
 授業によっては受講票に希望をかけたのでそれを先生が改善してくれたこと
 どの授業もプロジェクターを使ったりわかり易くなるように工夫してくれたのでありがたかった。
 スライドやパワーポイントを使った授業が初めてで、正直最初は慣れませんでした、すぐ見やすくして環境が整っていて授業が受けやすかった。
 専門の先生が教えてくれたので良かった。
 EXCELパソコンが出来るようになった。
 どの授業も多くのことを学ぶことが出来た。
 私語が目立つと思います。
 自分の学びたいことが選んで受講できるので良かった。また自分に向いている向いていないがわかることが出来た。
 授業の評価の仕方に納得がいけない部分がある。(試験)
 いい加減などがある。私たちに言うことが先生の行動に伴っていないことがある(常に)
 マーケティング、心理学が特に楽しかった。
 先生たちがわかり易く工夫して授業を楽しくやってくれたことが嬉しかった。
 書道、茶道、ネイルアート等そういう授業があるのは嬉しい
 レポートが大変だったけどマーケティングの授業が楽しかった。
 ネイル・マーケティング授業が楽しい。
 図書館の司書の授業は大変だけど、勉強になる。
 心理学がとっても面白かった
 先生方がとても親切でした。わかり易く教えてくれた
 医療事務の講義を受けて資格が取れた。マーケティングが楽しかった。
 自分のペースで進められる
 空調であったりマイクを使って講義を行っていたので、快適でした。大人数の講義になると騒がしくなるところがよくなかった。
 ゲームプログラミング楽しかった
 ゲームプログラミングがすごく面白い
 色々よかった
 簿記の資格をどんどん取得できる
 高校では学べないことが多く 楽しかった
 就職活動に役立つことが多い
 レポート提出のある授業では授業の復習とかできてよかったと思う。
 就職や今後も活かしていける知識を身につけられることが出来たことがよかったと思います。
 授業によっては私語がうるさくて、集中が削られるときがあった。
 難しい、簡単な差があるように思います。
 ある授業ではとてももうさい授業があるので、話している人は集中して欲しいと思いました。
 教科書を使用しない授業が多く、プリントを沢山配布されてまとまりが悪い。
 教科書を購入しても全く使わない授業もあるので必要な場合のみ購入するようにして欲しい。
 図書館司書の授業でもう少し早く始めるか終了を早くしたほうがいい

質問4. ゼミナール担当者はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|----------|-----|----|----|--------|----|----|-----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①非常に良かった | 5 | 35 | 40 | 7 | 29 | 36 | 76 |
| ②良かった | 6 | 46 | 52 | 8 | 51 | 59 | 111 |
| ③悪かった | 0 | 10 | 10 | 2 | 4 | 6 | 16 |
| ④非常に悪かった | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| ⑤無回答 | 1 | 4 | 5 | 1 | 1 | 2 | 7 |



【理由等】

商学科

こまめに連絡くれる
 頼れない
 現実をしっかり言ってくれる
 いつも相談に乗ってくれた助かった。
 体調を崩してなかなかついてこれない就活を理解してくれました。
 親身になって話してくれた
 もっと就活に協力的になって欲しいと思うけど、アドバイスはきちんとくれたので良い
 色々相談に乗ってくれた
 親身になって相談に乗ってくれたから
 色々相談に乗ってくれた
 先生との距離を近く感じた
 事務的な対応ではなかった
 色々アドバイスしてもらえた
 就活の相談に乗ってくれたり、色々な情報を教えてくれてとても役に立っている
 部活や就活の事で相談に乗ってもらえた
 先生がいつも笑顔だった
 ウェルカムな感じがとても良かった
 相談や雑談もしてくれて、とても楽しかったから(お菓子をご馳走様でした)
 気安く話やすかった
 あまり頼りにならない感じ
 あまり協力的ではなかった
 就活についてとてもサポートしてくれたから
 就活とても心強い
 相談したいと思えなかった。
 他のゼミの先生に相談していた
 あまり相談には行かなかったけど、就職カード作成の時にももらったアドバイスはとても参考になった
 色々な情報を提供してもらったし、新しい道も示してくれていたと思うから
 色々アドバイスをもらうことが出来た
 就活の事以外も色々貴重な話をさせていただいてよかったです
 友達みたい
 「お前はやらなきゃできないやつだ」というアドバイスを頂いた
 一人一人にあったアドバイスをくれる
 相談したいことや悩み事がある話をしに行くと、ちゃんとした確かなアドバイスをくれたりして本当に助かった
 なんでもない話にも付き合ってくれてとても良い先生だったと思います
 求職カードの内容などが細かくチェックしてくれました

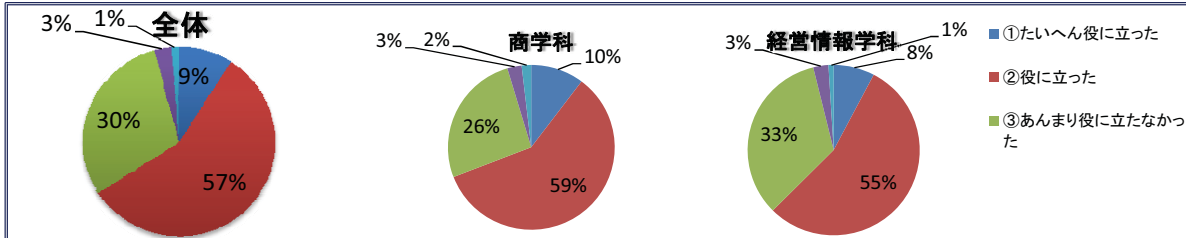
経営情報学科

親身になってアドバイスしてくれた
 自分から相談に行けば就職の相談にのってもらえるから
 進路の相談にのってくれる
 根拠のあることいろんな話をしてくれた
 もらったことありません
 優しくアドバイスしてくれた
 あまり相談する機会はなかったけどサポートしてくれた。
 よく相談にのってくれた
 どのように勉強を進めていけばいいかのアドバイスをもらった
 ゼミ自体はもちろん個別の相談にも親身になって聞いてくれてとてもありがたかった
 相談にのってくれる優しい先生でした
 話を親身に聞いてくれる
 必要事項とかちゃんと連絡くれたし、前日にメールとかも回してくれたのでよかったです
 進路のことでも親身になってくれるいろいろアドバイスしてくれたり、他の先生に相談してくれたりとても感謝している
 先生は常に生徒のことを考えてくれます。短大は自由で怒ってくれる人がいません。
 ゼミの先生だけは間違ったことを指摘してくれる先生がいてよかったです。
 熱心に話を聴いてくれる
 良い先生
 ゼミ内の空気が良かった
 親しみやすかった
 就職活動に向けて親身になって相談にのってくれてアドバイスをくれた
 個別相談を設けてくれて助かりました
 先輩たちの学生生活とかの話をもっといろいろ教えてくれる
 研修室に行けば色々話しを聞いてもらえた
 就職活動の相談にもなってくれてとても助かった
 先生がいないので就職のアドバイスをしてもらえず判断できません。居てくれたときは支えになってくれました。
 先生は気さくでしっかりした先生なのでこのゼミで本当に良かったと思います。
 就職のことにに関してしっかり話を聞いてくれた。
 自分の性格には合わいがまま良かった。
 経験談
 資格
 求職カードの記入の時にしっかり対応してくれたので
 今後の日程などを詳しく教えてくれたりしたので良かった。

相談にのってくれた
 優しい
 話を親身に聞いてくれる
 話はあんまり聞いてくれないけど、多分ちゃんと教えてくれてる(笑い)
 怒らなかった。話やすかった。
 楽しいゼミだしアドバイスもくれたので良かった。
 社会的面をしっかり知っている先生なので、社会的な点をしっかり客観視できて良かった。
 就職についてのことなどを相談したときなどいいアドバイスをもらえた。
 あまり相談に行くことはなかったが、良い先生だと思いました。
 悩みなどを聞いてくれた。
 相談等、親身に話してくれた。
 全てがサイコー
 もう少しアドバイスして欲しい。もっと関わっていただきたい。
 相談することがあまりなかった。可でもなく不可でもない。
 求職カードの直しなどに丁寧にしてもらえた。
 言えばやってくれるけど、あまり親身になってくれなかった。でも先生のキャラは好きだった(ハート)
 厳しいけど生徒のことを思っているのが伝わる。そして普段は優しい。
 就職のこととかしっかり見てくれる。
 優しい。1人1人ちゃんと教えてくれる
 言うことなしです。本当に感謝しています。
 就職の合同説明会のときにどういふことを行って聞けばいいのかや、求職カードを書くときの文章を考えて頂きました。
 常に話を聞いてくれる
 色々話してくれた
 楽しくやってくれました
 何もかもが完璧だった
 話しやすい
 楽しいフレンドリーに親身になってくれる
 いろいろな相談にのってくれた
 楽しい時間を過ごせた
 お話とかしっかり聞いてくれる
 面接の仕方など就職のこと知っていましたから
 あまり就職活動とるさくなくゆるい雰囲気が、追い詰められる感じがなくて良かった。

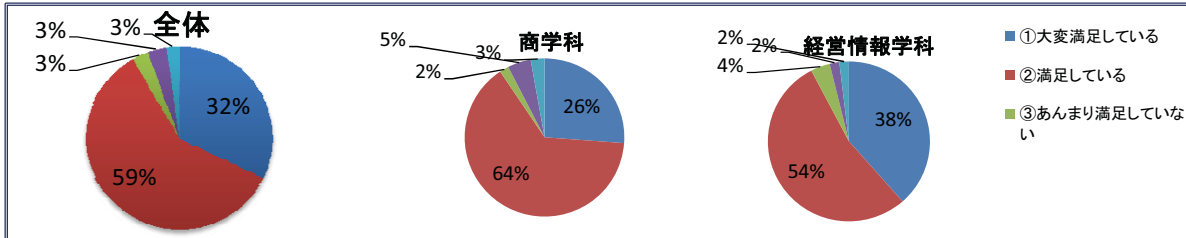
質問5. 今年度の「基礎ゼミナール」(4月～7月)の中で行われた初年時教育(ノートの取り方、テキストの読み方、要約の仕方、図書館の利用、レポートの作成など)の内容は、その後の授業で役に立ちましたか。

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|---------------|-----|----|----|----|--------|----|-----|----|
| | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | |
| ①たいへん役に立った | 2 | 9 | 11 | 1 | 7 | 8 | 19 | |
| ②役に立った | 8 | 55 | 63 | 11 | 46 | 57 | 120 | |
| ③あんまり役に立たなかった | 0 | 28 | 28 | 4 | 31 | 35 | 63 | |
| ④全く役に立たなかった | 2 | 1 | 3 | 2 | 1 | 3 | 6 | |
| ⑤無回答 | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 3 | |



質問6. 大学のさまざまな部署において、事務職員は皆さんのサポートをさせていただいてますが、皆さんにとって事務職員の対応はどうだったでしょうか

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|---|--------|----|-----|----|
| | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 4 | 24 | 28 | 7 | 33 | 40 | 68 | |
| ②満足している | 7 | 62 | 69 | 8 | 48 | 56 | 125 | |
| ③あんまり満足していない | 1 | 1 | 2 | 0 | 4 | 4 | 6 | |
| ④全く満足していない | 0 | 5 | 5 | 2 | 0 | 2 | 7 | |
| ⑤無回答 | 0 | 3 | 3 | 1 | 1 | 2 | 5 | |



【理由等】

商学科

- 優しかった
- 説明等分かりやすかった
- 丁寧に対応してくれる
- フレンドリーで接しやすかった。
- どんなちいさな質問でも丁寧に教えてもらえました。
- 分からないことなど優しく対応してくれた
- 丁寧な対応でよい
- そうじを丁寧にしてくれるから
- 利用しなかった
- 関わりがなかった
- 学生たちにも気遣っているのがわかった
- 困ったことに笑顔で快く相談に乗ってくれるのがとても嬉しかった
- ただ、キャリアセンターは少し怖い(入りづらい)
- 落し物の対応がとてもよかったです
- 相談できる
- 親しみのある感じでとても良かった
- とても丁寧に対応してもらった
- 話しやすく対応が丁寧でした
- 利用機会はあまり多くなかったけれど、利用したときは親切に対応してもらった。
- 丁寧に教えてくれてよかったです
- 適切な指示をしてくれる
- 笑顔を大切に優しく対応してくれた人がいたから
- 何か分からないことがあってもちゃんと答えてくれます。

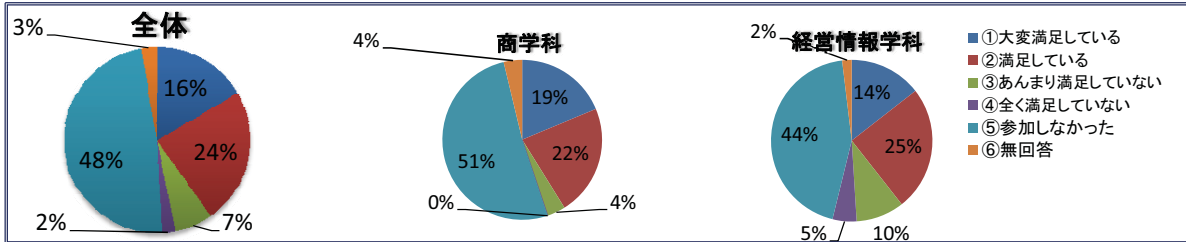
経営情報学科

- 丁寧に教えてくれた
- 対応がよくない人もいる
- わからない事など教えてくれる
- わからない事をやさしく教えてくれたり、とても対応が良かった
- フレンドリーでよかった
- 優しい
- 学生駐車場のバーが上がらないトラブルが数回あった
- 学生課にまとまりがないように感じた。
- 対応する時人によって返答が違うのが良くなかったと思います。しっかり方針を1つにしてください。
- ちゃんとサポートしてくれる人もいるけど、偏りがある。もう少し連絡とか早くまわして欲しい
- 皆さんいい人ばかり 驚くほど親切
- 優しくいい人が多い
- すばらしい
- 様々な面でお世話になったが、いつもにこやかに対応してくれたよかった
- 対応してくれるし優しいけど、たまに「ここじゃない」とかほかのところまでやってみたいと言われる
- 仲良くしてくれる事務の先生がいてよかった
- 困ったときに助けてもらいました
- 親切に対応してください良かった
- すぐに対応してくれるので良いと思う
- 企業に電話してくれてアポを取って下さって本当に嬉しかった。
- とても優しい先生が多いが、たまに食い違ったことをいうので迷うことがある。
- 優しく対応してくれた。

どんなことでも対応してくれる。
 利用したことがないのでわからない。
 いちいち対応がひどい
 いつも優しい
 教務課(ハート)
 いつも丁寧な対応をしてくださったのでありがたかったです。
 しっかりその人のことを考えてくれる。
 優しく対応してくれた。
 親切だった
 いつも快く対応してくれた
 あまりかかわることがなかったと思うが、不自由なく学校生活を送れたので満足です。
 対応が親切でわかりやすい
 優しいことが多い。
 困ったときや、資格や授業のことで聞くとすぐに対応してもらえた
 以前、廊下で泣いちゃったことがあってそれを隠して歩いていたら、事務の方が声をかけてくれてすごく嬉しかった。
 本当にありがとうございました。(ハート)
 本当に大変だったので、大変満足はしていない。
 キャリアセンターが入りにくかった
 いつも親切に対応してくれてありがとうございました。
 困ったときに行くと優しく接してもらえた。
 ときばき話してくれた
 学生課の人が優しい
 とてもよかった
 学生課の人たちとか、分かんないこととかちゃんと対応してくれるので嬉しい。
 とても丁寧で良かったです。
 皆さん丁寧で対応してくれた
 対応がとても丁寧でした

質問7. あなたにとってサークル活動はどうでしたか。その理由や要望など

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|---|--------|----|-----|----|
| | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 4 | 16 | 20 | 3 | 12 | 15 | 35 | |
| ②満足している | 3 | 21 | 24 | 4 | 22 | 26 | 50 | |
| ③あんまり満足していない | 1 | 3 | 4 | 2 | 8 | 10 | 14 | |
| ④全く満足していない | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 5 | 5 | |
| ⑤参加しなかった | 4 | 51 | 55 | 7 | 39 | 46 | 101 | |
| ⑥無回答 | 0 | 4 | 4 | 0 | 2 | 2 | 6 | |



【理由等】

商学科

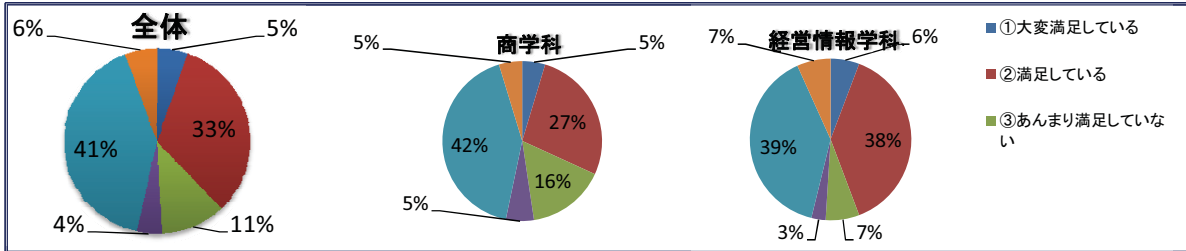
活動の予定などはっきりしなかった
 そんなに行っていないが、先輩たちがやさしい
 入りたいものがなかった
 興味があるサークルがなかったから
 マツナビに参加しているが雰囲気良かった
 マツナビの活動が充実していた
 普段話さない学部の人とも話すことができ楽しかった
 部活に参加した覚えがない
 楽しかった
 ひとがいなくて活動できない
 あまり参加できなかったが、とても満足でした。
 大学部の人たちとも活動できたのが良かった
 発表の場をいただけて新しい挑戦も引き受けてくれたから
 サークルをもっとやりたい
 もっとつかいたい
 仲間が大好き
 楽しく充実してできているから

経営情報学科

入りたいものがなかった
 強制ではないので、行きたいときにいける感じが良かった
 楽しい。やりたいことができる 文化祭が豪華
 やりたいものがあつたから
 大学と短大が合同という点で仲間との出会いや共有しながら楽しめた
 自宅が遠い、授業の関係で参加できない
 部員とも問題なく、楽しく活動できているので満足している
 部活は楽しいが、予算が自由におりづ、自由な活動ができないときがある
 仲間が増えるきっかけにもなったし、大学のことも交流できた。大会費とかもう少し負担してくれたら嬉しいです。
 何とか完成して当日を迎えられて良かった
 バスケサークルの活動は満足しています
 軽音は週2回しかない上に1バンド火曜 木曜のどちらかで1時間も練習時間がないのですごく不満
 同好会に入りましたが全く活動がなかったのが残念でした
 やってない。
 大会のお金もユニホーム、ボール、すべて学校のお金でまかなうことができ studentなので金銭面的にとっても嬉しかったです。
 大会にも出れて練習も楽しくできたから。
 自分のやりたいことができ、共通の趣味を持った友人も沢山できた。
 楽しい。
 私には向かなかった。
 お金、大会の場所
 面倒だった
 まともなサークルがないから
 バイト優先だから
 まとまりがない
 大学の人も合同なのでむこうの授業が終わる時間まで待たないといけないけど、時間にズレが生じた。
 新しく学ぶことが出来た。
 予定(部活の練習など)決まるのが遅かった 体育館の使用日
 自由に活動させてもらえました。
 良いサークルがない。
 参加がまちまちで連絡が上手く伝わってない
 精神的につらい時もあった。でもそれを乗り越えられることができ、いいメンバーに巡り合えた。
 友達が面白かった
 楽しいです
 楽しい
 美術部の部室が遠い
 楽しい
 マツナビに所属してるのですが、様々なことを学ぶことが出来るし、様々な人と交流することが出来ます。
 家が遠いため

質問8. あなたにとって学生会活動はどうでしたか。その理由や要望など。

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 0 | 5 | 5 | 1 | 5 | 6 | 11 |
| ②満足している | 5 | 24 | 29 | 2 | 38 | 40 | 69 |
| ③あんまり満足していない | 4 | 13 | 17 | 1 | 6 | 7 | 24 |
| ④全く満足していない | 0 | 6 | 6 | 0 | 3 | 3 | 9 |
| ⑤参加しなかった | 2 | 43 | 45 | 12 | 29 | 41 | 86 |
| ⑥無回答 | 1 | 4 | 5 | 2 | 5 | 7 | 12 |



【理由等】

商学科

- 指示があまりよく分からなかった部分があった。
- 局長がしっかりしていなかったりして、どうしたらいいのかわからない時があった。
- 体育大会が面白かった
- 学園祭も充実していた
- あまり活動しなかった
- 全部参加できた
- 一生懸命に取り組めた
- やりがいがあった
- 活動はあまりなかった
- もう少しやりがいがあった
- 手伝えてよかった
- ほどほどに忙しかった
- したかった
- 仕組みも含めてなぜ
- 少しでも活動に協力できた
- 来年度は役員として頑張りたい

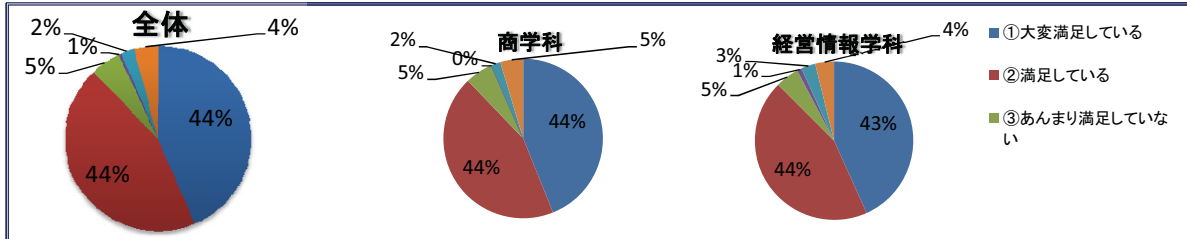
経営情報学科

- わからない
- 入学したときにたくさんイベントを行ってくれた楽しかった
- 自宅が遠いため
- たくさん活動していて、行事とかイベントも多くて楽しめた。
- 学祭局で集まったのに局長とか来てなくて、寒い中ずっと早朝から待たされた。
- 大学と短大に差がある
- バイトがあり土日参加できないため
- 文化祭などのイベント企画を実行してくれたから。
- たまにある、焼き芋大会やお月見会、ハロウィンなどとても面白く充実していた。
- 皆が楽しくできるように考えてくれた。
- 存在価値なし
- 忙しいけどたのしい、やりがいがある
- たまにしか参加しなかったけど、体育大会などで写真をとったりして少しでも活動できたので、まあまあ良かった。
- 非日常があると楽しいと思う。
- 一部の人が活動を知らなかったり、PRが少ない
- イベントが良かったです。
- もうすこしスムーズに進めば楽しくなる。
- なんかひどい
- 分からない
- 自分の役割がよく分かんなくて、中心の人だけでやっていた感じ
- もっと仕事があるのかなと思っていたら、意外にやることなくてびっくりした。
- 焼き芋が美味しかったです
- 体育大会も先輩と仲良くなれて良かった。
- 連絡があいまいで、文化祭等の仕事が良く分からなかった。

質問9. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、7号館コモンルーム、体育館、教室、グラウンド、駐車場等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由もご記入ください

■コンピュータ教室

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 4 | 43 | 47 | 7 | 38 | 45 | 92 |
| ②満足している | 5 | 42 | 47 | 7 | 39 | 46 | 93 |
| ③あんまり満足していない | 2 | 4 | 6 | 2 | 3 | 5 | 11 |
| ④全く満足していない | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| ⑤利用していない | 0 | 2 | 2 | 2 | 1 | 3 | 5 |
| ⑥無回答 | 1 | 4 | 5 | 0 | 4 | 4 | 9 |



【理由等】

商学科

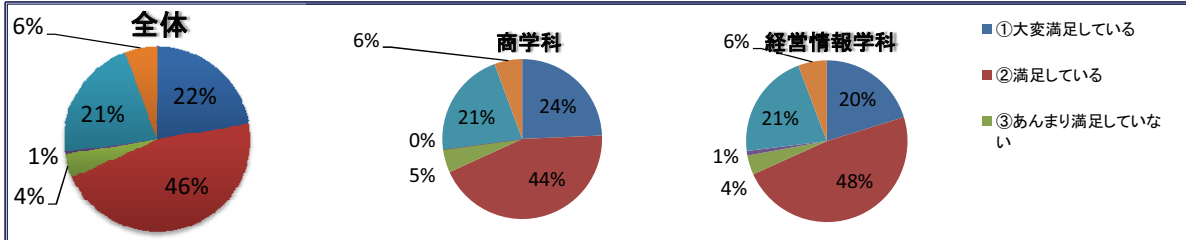
レポート等やる時に役立った
 たまに壊れる
 先生の画面もあって良い
 いつでも使える
 使いやすい
 たくさんパソコンあって良かった
 2台あって分かりやすかった
 よく動かなくなるから
 起動、反応が遅い
 講義でよく使った
 空き時間をつぶせる
 使いやすかった
 使いやすい でも重機が重い

経営情報学科

故障のパソコンがたくさんある
 たくさんあるし、さくさく
 使いやすい
 起動が早い
 たまに不備がある
 部屋数が多いし静か
 設備がしっかり整っている
 よく利用していました
 新機種があるから
 静か
 楽でいい
 使いやすかった。
 古い、低スペ
 調子の悪いパソコンもあるけど、プライバシーが守られているので。
 312が古い
 322の対応が早い
 自由にいつでも使えていい
 広い、人がいなくて好き
 よいパソコンが沢山あった
 良く動いてました
 調子よく動いた
 新しいから
 とても良いがプリンターがたまに使えない
 パソコン重い
 中の様子が見えないから入りづらい
 PC沢山あっていい
 キーボードが打ちづらいのがある

■7号館コンソーム

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 1 | 25 | 26 | 2 | 19 | 21 | 47 | |
| ②満足している | 5 | 42 | 47 | 4 | 46 | 50 | 97 | |
| ③あんまり満足していない | 3 | 2 | 5 | 0 | 4 | 4 | 9 | |
| ④全く満足していない | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | |
| ⑤利用していない | 2 | 21 | 23 | 12 | 10 | 22 | 45 | |
| ⑥無回答 | 1 | 5 | 6 | 0 | 6 | 6 | 12 | |



【理由等】

商学科

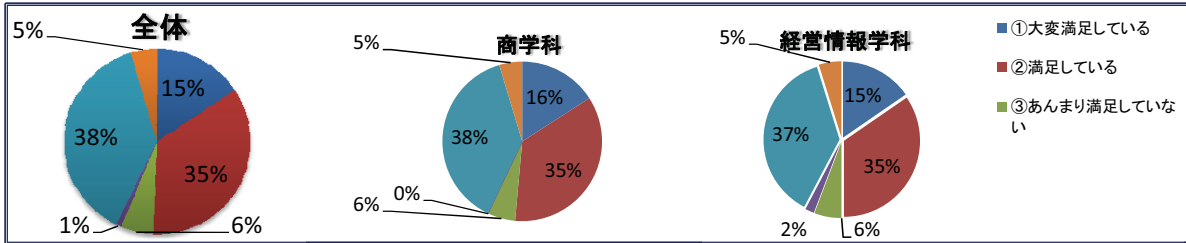
- 広い
- いつも快適
- 買うことが出来る
- 使いやすかった
- 広くてよかった
- 気軽に行ける
- 快適
- とても利用しやすかった
- 混んでいるときがあった
- 沢山席があるから
- あまりいいかない
- 使いやすかった
- いつもきれいだから

経営情報学科

- 広い
- 居心地がいい
- 明るい
- コンピューターのスペックが悪い
- 席が少ない
- 友達と話したりできる
- 空き時間等にも利用できるから
- お昼とかに使っています
- いすが汚い
- 人が多すぎて座れない時があった
- 使いやすい
- うるさい
- 知らない
- 混んでいるときは居心地が悪いけど、まあいいと思う。
- よく利用した
- ご飯時に勉強している人がいる
- あまり使用していない
- 広い
- しやすい
- 居心地がいい
- 遠いから
- 分かりやすく空間が広い
- 暖かい

■体育館

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 2 | 15 | 17 | 3 | 13 | 16 | 33 |
| ②満足している | 7 | 31 | 38 | 8 | 28 | 36 | 74 |
| ③あんまり満足していない | 2 | 4 | 6 | 4 | 2 | 6 | 12 |
| ④全く満足していない | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| ⑤利用していない | 0 | 41 | 41 | 2 | 37 | 39 | 80 |
| ⑥無回答 | 1 | 4 | 5 | 0 | 5 | 5 | 10 |



【理由等】

商学科

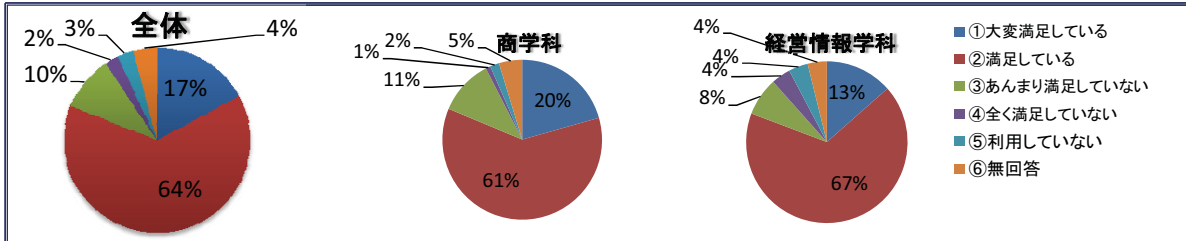
- きれいな
- 寒い
- 広がった
- 快適だった
- 使いやすい
- 利用回数が少ないので、なんとも
- 授業やサークルでお世話になっている
- 使用していない
- 最近埃がたまっている

経営情報学科

- わからないけどいい
- サークルで活用させてもらっている
- 行く機会がない
- 広くてきれい
- 第二体育館にバスケットボールがない
- 運動しない
- 使いやすい
- 狭い
- よく利用した
- 使用できるときまいち道具がわからない
- きれいな
- 運動しない
- ちょうどいい広さ
- 講義で使ってよかった
- 空き時間も使いたい
- きれいで良いですね
- 使ってません

■教室

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|----|--------|----|-----|----|
| | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 2 | 20 | 22 | 2 | 12 | 14 | 36 | |
| ②満足している | 6 | 59 | 65 | 12 | 58 | 70 | 135 | |
| ③あんまり満足していない | 3 | 9 | 12 | 0 | 8 | 8 | 20 | |
| ④全く満足していない | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 | 4 | 5 | |
| ⑤利用していない | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 4 | 6 | |
| ⑥無回答 | 1 | 4 | 5 | 0 | 4 | 4 | 9 | |



【理由等】

商学科

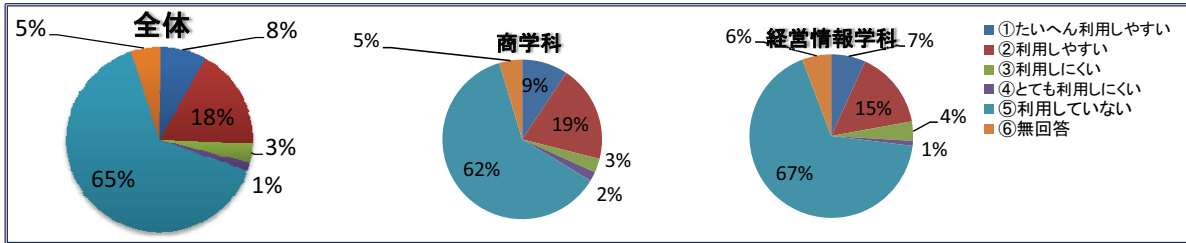
- あったかい
- 今の時期は寒い
- 上のほうが暖かい
- もうすこし暖かいの希望
- あたたかい
- 冷暖房がしっかりしていた
- 快適だった
- 暖かい
- 暖房が弱い
- 広いから
- 暖房がききにくい
- 授業、うけやすい
- 冬になると寒かった
- いつもきれい。
- たまに机の下にごみがあったりする。

経営情報学科

- 少し寒すぎるときがある
- 階段教室は下が寒い
- 広い
- 寒い
- きれいだと思います
- 広いお昼にも便利
- 暖房のききにむらがある
- エアコンの設定
- ちょっと寒いときもある
- 温度差がありすぎ
- 少し全体だと狭い
- きれい
- 狭くなく広くなく
- 椅子が硬い
- 古い
- 温度がちょうどいい
- 温度調節がある
- 使用しやすいと思う。机が少し使いづらい
- きれい
- 暖かった
- 寒い
- それぞれの教室が使いやすい
- 綺麗だから
- いいと思います
- 広くて使いやすい
- きれいでいい
- 足元が寒い
- とてもきれいです

■グラウンド

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 計 | 合計 |
|--------------|-----|----|--|----|--------|----|--|----|-----|
| | 男 | 女 | | | 男 | 女 | | | |
| ①大変満足している | 2 | 8 | | 10 | 1 | 6 | | 7 | 17 |
| ②満足している | 3 | 18 | | 21 | 2 | 14 | | 16 | 37 |
| ③あんまり満足していない | 1 | 2 | | 3 | 2 | 2 | | 4 | 7 |
| ④全く満足していない | 2 | 0 | | 2 | 0 | 1 | | 1 | 3 |
| ⑤利用していない | 3 | 63 | | 66 | 13 | 57 | | 70 | 136 |
| ⑥無回答 | 1 | 4 | | 5 | 0 | 6 | | 6 | 11 |



【理由等】

商学科

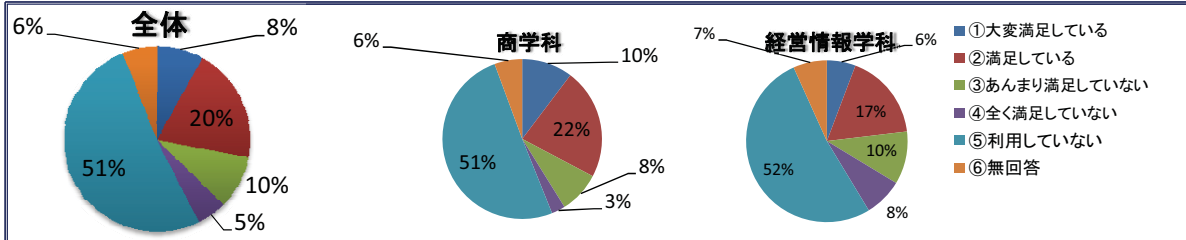
- 使う機会がなかった
- 使う機会がなかった
- きれいだった
- 芝がよかった
- 大学の使いすぎ
- 使うことが出来なかった

経営情報学科

- 前のほうの席が寒すぎる
- 行く機会がない
- 運動しない
- 機会がない
- あまり使用しない(授業で)
- きれい広い
- 利用する 때가なかった
- 遠い
- 使ってません
- 広い

■駐車場

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|----|--------|----|----|-----|
| | 男 | 女 | | | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 0 | 11 | 11 | 11 | 1 | 5 | 6 | 17 |
| ②満足している | 3 | 21 | 24 | 24 | 2 | 16 | 18 | 42 |
| ③あんまり満足していない | 1 | 8 | 9 | 9 | 1 | 10 | 11 | 20 |
| ④全く満足していない | 0 | 3 | 3 | 3 | 2 | 6 | 8 | 11 |
| ⑤利用していない | 7 | 47 | 54 | 54 | 11 | 43 | 54 | 108 |
| ⑥無回答 | 1 | 5 | 6 | 6 | 1 | 6 | 7 | 13 |



【理由等】

商学科

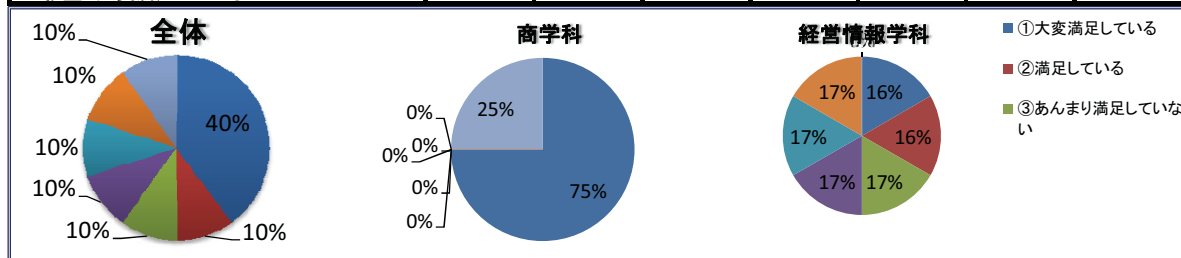
- 無料化希望
- 遠い
- もう少し近くしてほしい
- 遠い
- 広くて使いやすかった
- 広くてよかった
- パーに閉鎖が上手くいかなかったとき困った
- 当て逃げが多いと聞くので指定にして欲しい
- つかってない
- 使ってない
- 車通学ではないから
- 車通学ではないから
- まだ空いているのに満車になっている

経営情報学科

- 満車じゃないのに入れないときがある
- 遠い
- 商短大側にほしい
- 短大側にも欲しい
- 1台分のスペースがひろくていい
- 教室から遠い
- 駐車券を入れる機械がたまに壊れている
- 遠すぎる
- 満車になることが多い、すいているのに...
- たまに壊れる
- 商短から遠い
- 車ない
- マナーの悪いやつが多い
- 空いているのに満車になっている
- 短大から距離がある
- 車がない
- 電車通学
- 遠いすぐに満車になる
- 遠い
- 使ってません

■その他[施設名]

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|-----------------|-----|---|---|--------|---|---|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| 図書館 大変満足している | 0 | 3 | 3 | 0 | 1 | 1 | 4 |
| 図書館 利用していない | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| テニスコート 大変満足している | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| ラウンジ 大変満足して | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| 部室棟 あんまり満足していない | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| ATM 満足している | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 221教室 大変満足している | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |



【理由等】

商学科

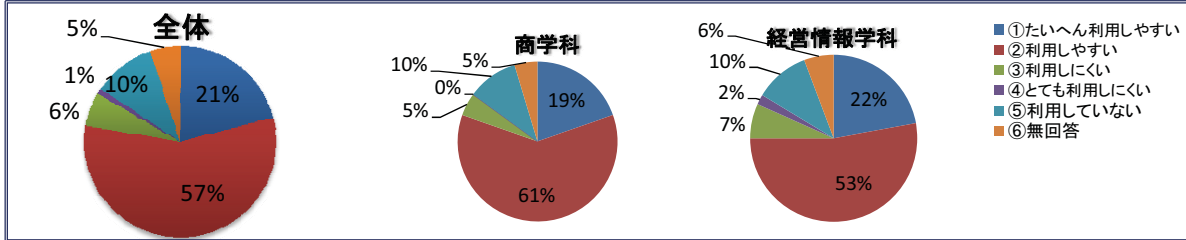
図書館 大変満足している
 221教室 パソコンも良いし、コピー機もあり満足

経営情報学科

ATM 満足していて、利用時間にメンテしないで。
 図書館 勉強しやすい
 図書館 くつろげるから
 ラウンジ すてき
 部室棟 冬場寒い

質問10. あなたは図書館についてどのように感じましたか。その理由や要望、お気づきの点など

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|-------------|-----|----|----|--------|----|----|-----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①たいへん利用しやすい | 1 | 20 | 21 | 7 | 16 | 23 | 44 |
| ②利用しやすい | 6 | 59 | 65 | 8 | 47 | 55 | 120 |
| ③利用しにくい | 2 | 3 | 5 | 1 | 6 | 7 | 12 |
| ④とても利用しにくい | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| ⑤利用していない | 2 | 9 | 11 | 1 | 10 | 11 | 22 |
| ⑥無回答 | 1 | 4 | 5 | 0 | 6 | 6 | 11 |



【理由等】

商学科

DVDの機種多くてよかった
 DVDなど見れて空き時間等充実した。
 静かで勉強しやすい
 おちつく
 本が借りやすくDVDなども見れて良かった
 大学の生徒も一緒なのでテスト期間中とか座るとこがなかった
 お昼を食べる場所がない
 DVDがみれるのはいい
 一人でもいられるから
 たくさん本などがそろっていた
 行きやすかった
 山田悠介や湊かなえなどの本が分かりやすいところにあって良かった。
 暖かくて居心地が良い
 DVDなど新しいものが入っていてうれしい
 個人机を利用しやすいのが良かった
 雰囲気もよく入りやすい
 一人で勉強できるスペースもあって集中できるから
 どこに何があるの分かりやすかった
 DVDを見るところが素敵
 環境がよい
 一人での勉強スペースが使いやすかった
 パソコンの反応が遅くて困ったことがあった。

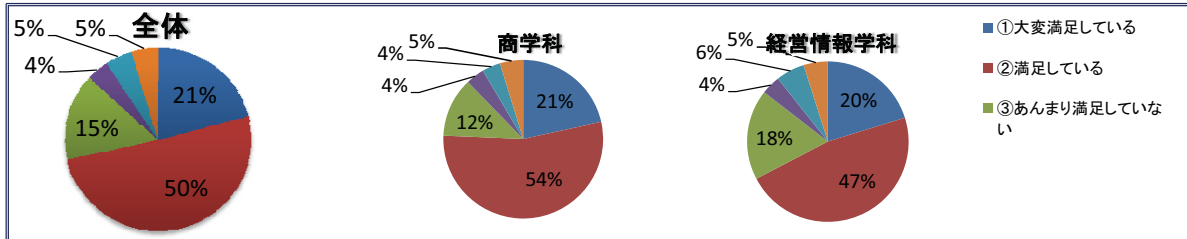
経営情報学科

本の貸し出し手続きをするカウンターがどちらなのか非常にわかりにくい。統一して欲しい
 1人で勉強したいときも友達といたいときも落ち着く空間
 すごく便利で集中しやすかった
 行きたいときにいける
 勉強するスペースがたくさんあるし、DVDも見れるとしても快適
 本を借りる以外にも様々な利用方法があり、静かでとても利用しやすかった
 もう少し娯楽っぽい文庫もそろえて欲しい
 飲食してはいけない、ペットボトルは持ち込み可なのに、職員がいちゃもんつけてきたから。
 書籍がたくさんあるし、静かで勉強しやすい。文庫本とかもう少し多くして欲しい
 DVD最高
 勉強機の距離が近いので入りにくいときがある
 一人の時間を大事にできる
 小説の種類がもっとふえるといい
 静かで利用しやすかった
 ビデオも見れるし本も多くていい
 勉強もDVDを見やすい
 静かだから。
 使い方が良くわからない
 勉強機があるといい
 席数をもっと増やしたほうがいいと思った。
 本が沢山あり魅力的だった
 集中しやすい環境でした
 空いた時間なども利用しやすい。DVDとかありがたかった。
 個人的に仕切りがある机がある。
 夏は涼しく冬は暖かく快適である。リクエストをしおても入れてもらえないことがある。
 テスト期間はいっぱいであまり座るところがなかったりするが、静かで利用しやすい、空き時間には良く行った。
 2階の勉強できるスペースが使いやすい(ハート)本を探しやすい。
 本のリクエストできないんですか？
 落ち着くPCもあっていい
 テスト期間中 座ることが出来なかった。
 DVD最高が見れるので空き時間をつぶせるのがとてもいい
 空いた時間なども利用しやすい。DVDと見れるのが嬉しい。
 自習や読書などしやすい環境だった。DVDも充実していた。
 とてもいい。特に漫画がある。ジャンプも読みたい。ヤンジャン、ヤンマもできれば・・・
 マンガ面白い
 本が沢山あり魅力的だった
 勉強するときとかよく利用した。
 とても利用しやすくDVD鑑賞できるので嬉しい。
 お昼を食べるスペースをもっと増やして欲しい
 静かで落ち着いているのでいい
 勉強したくても机が埋まっていたり使えないことが多い

質問11. あなたは大学の行事(体育大会、大学祭、焼イモ会)についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

■体育大会

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|--------|----|----|-----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 2 | 21 | 23 | 2 | 19 | 21 | 44 |
| ②満足している | 6 | 52 | 58 | 4 | 45 | 49 | 107 |
| ③あんまり満足していない | 1 | 12 | 13 | 4 | 15 | 19 | 32 |
| ④全く満足していない | 1 | 3 | 4 | 4 | 0 | 4 | 8 |
| ⑤参加しなかった | 2 | 2 | 4 | 3 | 3 | 6 | 10 |
| ⑥無回答 | 0 | 5 | 5 | 1 | 4 | 5 | 10 |



【理由等】

商学科

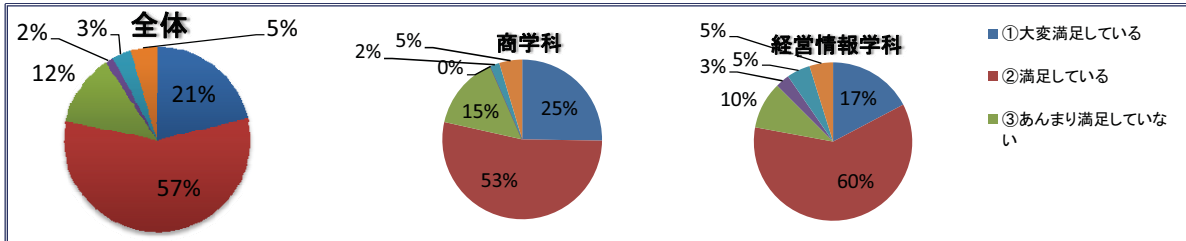
- 球技が楽しかった
- 秋の大会が楽しかった
- 楽しかった
- ゼミで協力して楽しめた
- 楽しかった
- 楽しくなかった
- 暇なときが多い
- たくさん応援できた
- 競技が楽しかった
- 楽しかった
- 楽しく運動できた
- 全体だらだらしている
- 運動できない人のことも考えて欲しい
- アナウンスがごちゃごちゃしていた
- ゼミの人と仲良くなれた
- 春はあまり楽しくなかった
- 自分で参加するより、観戦するほうが楽しかった
- リフレッシュできた
- 楽しかったけれど、マシュマロがとらうまになった
- 体をしっかり動かせた
- もっと増やして
- 協力して出来た
- 出てない
- 春も秋も楽しかった
- 競技や企画がとても楽しかった

経営情報学科

- 短大だけ強制参加だから
- 2回もあって満足している
- 楽しくできた
- 時間と組み合わせが良くなかった
- 平等な感じがない
- 種目とか人数考えて欲しい
- 秋の大会がつまらなかった
- 縄跳びが苦痛 少人数ゼミだと盛り上がりにかける
- 縄跳びがいやだ
- 敗者復活戦とかやって欲しかった
- とても良かった
- ゼミ対抗が面白い
- 色々な競技ができて良かった
- ゼミで協力できた
- 暇な時間ができる
- 1回で試合が終わって暇だった。
- 女子どもがウザイ・自分勝手
- いらない
- 暇だった
- 楽しい
- 春も秋もたいな内容にして欲しい。スポーツをやって欲しい
- ゼミ同士絆が深まる良い機会だった。
- ずっと見ているだけで、何しにきたのかと思った。
- もっと楽しい競技をやりたい
- 楽しかった
- 非日常があること
- もっと工夫してやりたい
- 進捗がたがた
- 楽しかった。でももっとスムーズさが欲しい
- 楽しい。種目が多かった
- 面白かった
- ルール、競技
- ルール、競技が。。。
- ちゃんと練習したかった
- 朝早い。仲良くなる良い機会
- 春の大会は楽しかったです
- 先輩と仲良くなれた
- 客引きが大変だったが、やりがいがあった感じ
- 楽しく盛り上がれた

■大学祭

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|---|--------|----|-----|----|
| | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 3 | 24 | 27 | 1 | 17 | 18 | 45 | |
| ②満足している | 5 | 52 | 57 | 7 | 56 | 63 | 120 | |
| ③あんまり満足していない | 3 | 13 | 16 | 4 | 6 | 10 | 26 | |
| ④全く満足していない | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 | 3 | |
| ⑤参加しなかった | 1 | 1 | 2 | 2 | 3 | 5 | 7 | |
| ⑥無回答 | 0 | 5 | 5 | 1 | 4 | 5 | 10 | |



【理由等】

商学科

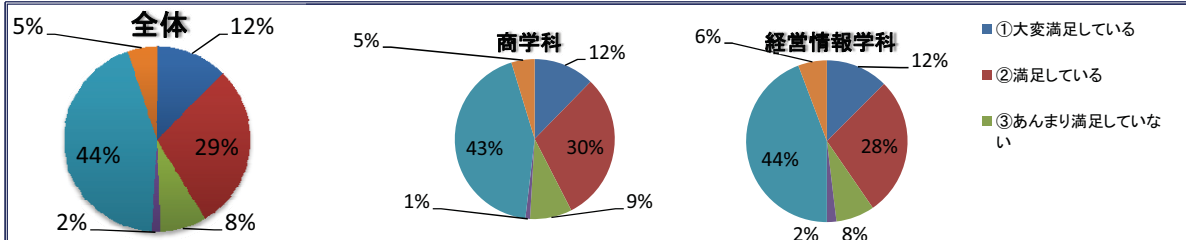
- 何がどこでやっているか分かりづらかった
- 楽しかった
- 雨だったけど盛り上がられた
- 楽しかった
- 屋台、前夜祭、後夜祭良かった
- いっぱい売れた
- たくさん模擬店があった
- 盛り上がった
- とても楽しかった
- 校舎内をもっと充実して欲しかった
- 静かな休憩場所がほしい
- 分かりやすくしてほしい
- 楽しかった
- ベッキーが良かった
- いろいろなお店があって楽しかった
- 交流を深められたと思うから
- なかなか盛り上がった
- 大学がメイン
- 美味しかった
- 役員だけでやればよい
- 楽しめた
- 企画がとても良かった

経営情報学科

- 短大だけ強制参加だから
- ゼミの中が深まった
- 楽しかった
- 天気悪かったです
- もう少し皆が参加できるものも欲しい
- みんなで協力できてよかった
- 楽しめた
- 面白かった、盛り上がった。
- 初めてですごく楽しかった。
- 雨が降る時期にやるなんて・・・
- 売り物は楽しかった。
- 人が全く来ないで片付けでちゃっかり混ざって最初からいたと言う人がいたから
- 勉強しろ
- 楽しかった
- あわてて食べれなかった
- 盛り上がって楽しい
- とても楽しかった
- ゼミのお店が楽しかった
- 違う学部の人と交流できた。
- 寒かった。企画が面白くなかった
- 何かと楽しかった
- 大学がメインになっている
- 参加してない
- リフレッシュになって良い
- 暇な時間が多かった
- 楽しくなかった。
- 忙しかった
- イベント情報があまりよく分からなかったけど、楽しかった。
- それぞれの模擬店が美味しかった
- 利益が出たのでよかった
- よかった
- 面白かった
- コスプレが楽しかった
- なんかちがう
- ベッキーライブの時間をもう少しずらして欲しかった
- 焼き芋美味しかったです
- 忙しかったけど、色々回ってみた

■焼イモ大会

| | 商学科 | | | 計 | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|----|----|----|--------|----|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 1 | 12 | 13 | 1 | 12 | 13 | 26 | |
| ②満足している | 4 | 28 | 32 | 0 | 29 | 29 | 61 | |
| ③あんまり満足していない | 3 | 6 | 9 | 4 | 4 | 8 | 17 | |
| ④全く満足していない | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 3 | |
| ⑤参加しなかった | 3 | 43 | 46 | 10 | 36 | 46 | 92 | |
| ⑥無回答 | 0 | 5 | 5 | 1 | 5 | 6 | 11 | |



【理由等】

商学科

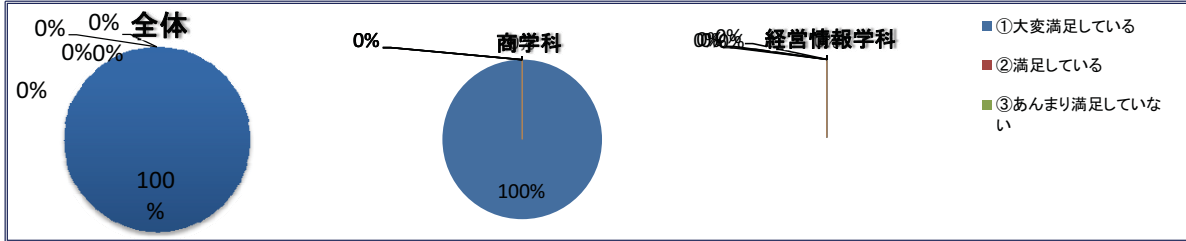
火の通ってないものがあった
 美味しかった
 芋が美味しかった
 焼き芋美味しかった。配ってくれる姿が素敵だった。
 行きたいと思わなかった
 時間が遅かった
 美味しかった
 焼き芋美味しかった。
 芋は美味しかったけど、外で待つのが寒かった
 美味しかった
 寒かったけど美味しかった
 美味しかったから
 芋をもらいに行くときに匂いが付いていやだった

経営情報学科

楽しかった
 美味しかった
 楽しかった
 美味しかった
 学校いなかった
 芋がおいしかった
 美味しく食べれた
 あったの知らない
 煙で喘息がでる。
 おそい
 芋がねばねばしているものがあった
 なんか、盛り上がりかけた
 もっと大勢でできればいい
 美味しかった
 とくに行こうと思わなかった。
 服に煙の匂いがつくのがいやだった。
 待っている間 寒くて長かった。でも美味しかった
 寒い中並ぶのがいやだった
 美味しかった
 人が多くて食べられなかった
 もっと食べたい
 時間が・・・
 授業があってもらえない人もいたよ
 もらいに行ったときは終わっていた残念・・・
 美味しかった
 忘れた

■その他の意見として [花火大会]

| | 商学科 | | | 経営情報学科 | | | 合計 |
|--------------|-----|---|---|--------|---|---|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| ①大変満足している | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ②満足している | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ③あんまり満足していない | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ④全く満足していない | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤利用していない | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑥無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |



【理由等】

商学科

経営情報学科

質問12. 松本大学松商短期大学部をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

【意見・提案】

商学科

ipadをもらったが利用する時があまりなくて必要なかった。
 美容系を増やす
 購買を短大にも作って欲しい
 美術やりたい
 コンピューターで動画政策もやってみたい
 就活の時に説明会で休むことなどがあることがあると思うが、その時に公欠にしてほしい
 合同説明会があるときに限って授業を入れてくれるのは本当にやめてほしい
 自動販売機のパンの自販がすくない。短大側がない
 このアンケートは前期、後期の2回に分けてやってもいいと思う
 連絡が遅かったりして、休講なのがきてから分かる事があった
 短大だけのフェスティバルを開く
 大学との交流を深める催しを企画する
 授業中寒かったので改善して欲しい

経営情報学科

バスケットボールの授業を作してほしい
 教室変更等の急な連絡が遅い
 生協の商品をもっと増やしてほしい
 もっと学びたいと思う講義があれば良いのに
 冬は前の席が寒すぎる。後期の授業の座席指定とかは、後ろめに指定してほしい
 駐車場が短大側になくて、遠いので短大側にも作ってほしい。
 1号館の階段教室の上下の温度差が大きすぎるので何とかならないかと思う。
 昼休みが短くてご飯が食べられないときがある。
 1駐車場が満車かどうか、道路からわかりやすくなればいい
 短大側の生協の営業時間を大学側と同じにしてほしい
 規模や商品も少ないのももっと欲しい。
 後期は簿記とアロマが一緒の時間で取れなかったで、前期でやったものは後期も続けられるようにしてほしい。
 駐車場代一回200円は高い
 2.3階にも自販機が欲しいポットも。
 2年時にもネイルアロマやりたい
 ロッカー増やして欲しい 商短側
 プリペードカードの残額が4000円から2000円になったことかあったので、そういうことがないようにして欲しい
 廊下が寒いので空調システムを整えて欲しい
 売店の時間(コモンルーム)をもう少し長くして欲しい
 DVD増やして欲しい
 2階にある2号館トイレ横のパソコン室にレンジをレンジをつけて欲しい。ご飯に使う生徒も多いので
 お弁当を食べる場所を増やして欲しい
 無料で使えるコピー機とかほしい
 テスト前は図書館が混むのもっと大きくして欲しい
 保育の授業があるといい
 授業の出席確認をもっとちゃんとやるべき。
 2こま連続の簿記とかは、5限だけしか出ない人も、(4限はいなくて)受講票もっているし不公平すぎる
 大学に比べて短大は寒い
 第一駐車場が時々壊れてしまい入れないことがあるので直してほしい。
 お弁当を楽しく食べる場所が欲しいです。
 Wi-fiをもう少し広い範囲にして欲しい。
 定期代を一齐に買うとかして割引にして欲しい。
 全て変えるべき
 トップ10じゃなくてトップ20にして欲しい。もしくは学科ごとのトップ10とか。
 昼食をとるスペースが持ってあって欲しかった。7号館のところが席埋まると困る。
 単位とるのをもっと優しくして欲しい。
 第一駐車場が空きがあるのに満車が点滅していて入れないのが本当に困っています。今日は三分の1くらい空きがあったけど満車でした。
 駐車場でスペース以外に駐車している車がいる邪魔なので何とか対策をして欲しいと思っています。
 1日だけでも利用できる駐車場が欲しい。
 韓国語などの授業もあつたらいいなあと思います。
 テスト返して欲しい
 授業の休講のお知らせなどがメールが少し遅い気がする。前日にもらえると嬉しい。
 大学と合同授業。もっとボランティアや学友会の活動で何をやっているのかわかりやすく知らせて欲しい。
 料理の授業が欲しい
 料理教室
 短大生と大学生の交流が少なすぎる。せっかく大学が併設しているのに非常にもったいない。
 動画作成 編集の授業が欲しかった。
 就職活動での欠席を公欠にしてほしい(就職活動がしにくい)
 駐車場が満車ではないのに満車で表示されている
 娯楽施設が欲しい
 3Dぶりんと一設置はよ
 駐車場を短大近くにほしい
 他の学校と交流できる(授業内で)なにかあるといい。
 ipadを使用していたとき学校ではインターネットにいちいち接続してからしなきゃいけないのがちょっと面倒だった
 色彩の授業がとても楽しかったので2年生にもあつたらいいと思います。
 就職活動で授業を休むときは公欠にして欲しい
 図書館の個別になっている机をもっと増やして欲しい

